



ドイツ語 星の王子様

2017/01/17 ~

2019/03/22

ANTOINE DE SAINT-EXUPÉRY



Le Petit Prince

avec les dessins de l'auteur



nrf

GALLIMARD





参考文献等

参考文献等

ドイツ語テキストはインターネットからダウンロードした。

<https://www.odaha.com/antoine-de-saint-exupery/maly-princ/der-kleine-prinz>

フランス語原書 Le Petit Prince 1969 年 8 月 25 日 ガリマール社 出版番号 : 14453

対訳 フランス語で読もう「星の王子様」

2007 年 6 月 12 日 2 版発行著者 サンテグジュペリ、小島 俊明、(有)第三書房

翻訳期間 2017/01/17～2019/03/22

注意：この文書は構文解析を用いて、外国語の文章を日本語に翻訳する方法を示して、外国語学習者の文法理解を多少なりとも支援するために作成した参考資料です。

翻訳は辞書に載っている単語や熟語などの意味と構文解析に基づいて、文章の意味を日本語に訳したものであり、文学作品の文章として翻訳している訳ではありません。

三浦 高志 Takashi Miura



文の構成要素と構文解析の書式

文の構成要素と構文解析の書式

文法書によると、日・伊・西・仏・独・英などの言語では異なる文法用語が使用されているが、この文書では英語の文法用語を基本として、独自解釈も交えて構文解析を行う。

「文」は「主語」、「動詞」、「目的語」、「補語」、「副詞」及び「形容詞」で構成される。また「接続詞」や「関係代名詞」などは「文」と「文」を接続してより複雑な文を構成するために使用される。

文の構成要素と単語の品詞についておおまかに説明する。

「名詞」は事物の名称・状態・性質・存在などの概念を表す単語である。

「形容詞」は事物の性質・状態、人間の感覚・感情などを表す語で「名詞」を修飾する。

「副詞」は事物の状態・性質・程度や時刻・場所などを表し、「動詞」を修飾したり、他の「副詞」や「形容詞」を修飾する。

「句」は2つ以上の単語が集まって「名詞」、「形容詞」、「副詞」あるいは「動詞」の役目をするもの。それぞれ「名詞句」、「形容詞句」...などと表す。例えば、
「名詞句」は「形容詞+名詞」、「名詞+名詞」などによって作られ、
「形容詞句」は「副詞+形容詞」、「前置詞+名詞」などによって作られ、
「副詞句」は「副詞+副詞」、「前置詞+名詞」などによって作られ、
「動詞句」は「動詞+前置詞」、「動詞+副詞」、「助動詞+動詞」によって作られる。

「節」は2つ以上の単語が集まって「主語」と「動詞」を含む文を構成して、全体の中で「名詞」、「形容詞」または「副詞」の役割をする。従属節と呼ばれる。それぞれ「名詞節」、「形容詞節」および「副詞節」と表す。

2つの節が対等に結合される場合は等位節と呼ぶ。(英語で **and** や **but** で結合)

「主語」は「動詞」の動作・作用の主体を表す「名詞・句・節」または「代名詞・句」。

「動詞」は事物の動作・作用・状態・存在などを表す。

「直接目的語」は動詞の表す動作の対象となる人・物を表す「名詞・句・節」。

「間接目的語」は動詞の表す動作によって動作主または「直接目的語」が移動または状態変化する場所または動作の目的・結果を表す「名詞・句・節」または「副詞・句・節」。

注意：英語の文法書では、「間接目的語」は「直接目的語」と共に用いられることになっているが、この文書では「間接目的語」が単独で用いられる場合がある。すなわち、

「主語」「動詞」「直接目的語」と「主語」「動詞」「間接目的語」の構文がある。

「補語」は「主語」または「目的語」の性質・状態を表す「名詞」「形容詞」「副詞」。

文の構成要素と構文解析の書式

名詞・性と数

「名詞」は人または事物の名称を表す語であり、文中で「主語」、「直接目的語」、「間接目的語」または「補語」として用いられる。時には、他の「名詞」を修飾する「形容詞」として利用されたり、「時」や「場所」に関する「副詞」として利用されることがある。

「名詞」が「動詞」のように利用されて「前進！」のような命令文が作られることもある。

さらに、「名詞」として辞書に載っている単語だけでなく、「動詞」や「形容詞」または「副詞」が「名詞」的に利用されることもあるので、「名詞」の出現頻度は高い。

「代名詞」は「名詞」の代わりをする語である。代名詞を利用することで、文中に同じ単語が何度も現れるのを防いで、文を明確化することができる。

「名詞句」や「名詞節」も文中で「名詞」と同様の機能として使われる。

「名詞」は数えられる名詞「可算名詞」と数えられない名詞「不可算名詞」に分けられ、可算名詞は「普通名詞」と「集合名詞」に、不可算名詞は「固有名詞」、「物質名詞」と「抽象名詞」に分けられる。

「普通名詞」は「本」、「猫」、「机」など同じ種類の個体を多数持っているものに与えられる名称で、単数か複数かという区別を必要とする。単数の場合は「不定冠詞」か「定冠詞」を付けるのが原則である。

「集合名詞」は「委員会」、「家族」、「警察」のように人・動物・物などの集合体を指す名詞である。

「固有名詞」は「富士山」、「パリ」、「ニュートン」などのように、人・場所・事物などに固有の名称である。本来一つしかないものなので不定冠詞をつけたり、複数形にすることは原則としてない。定冠詞を付ける場合と付けない場合がある。

「物質名詞」は「空気」、「水」、「ワイン」のように物質を表す名称で、一定の形を持たず、また特別な容器を用いない限り、個々には独立して存在しない。不可算名詞なので、不定冠詞は付かないし、複数形にもならない。

「抽象名詞」は「親切」、「愛」、「悲しみ」、「真理」のように、具体的な形を持たない抽象的な概念を示す名称である。抽象名詞も数えられないから、不定冠詞は付かないし、複数形にもならない。

イタリア語・スペイン語・フランス語・ドイツ語などでは、「名詞」に付属する冠詞・形容詞は名詞と性・数の一致が必要となり、「名詞」に関係する「動詞」は名詞と数の一致が必要になる。

文の構成要素と構文解析の書式

「直接目的語」と「間接目的語」

「僕は君にこの本をあげる」という文は、「主語：僕（は）」、「間接目的語：君に」、「直接目的語：この本（を）」、「動詞：あげる」という構成要素から作られている。そして、「動詞：あげる」の動作において動作の主体が操作・加工する対象となるものが「直接目的語：この本（を）」である。「間接目的語：君に」は「直接目的語」（または「主語」）の移動先（**抽象的な概念の場所も含む**）を表しており、動作の主体が操作・加工する対象ではない。

「直接目的語」は動作の主体が操作・加工する対象を示すと考えると、「人」や「物」を表す「名詞」類が使用されることが分かる。

「間接目的語」は「直接目的語」または「話者自身」の移動先を示す場所であると考え、場所を表す「人」や「物」または「場所を表す空間」を表す「名詞」類または「副詞」類が使用されることが分かる。**参考：「私は両親に従う。」の「両親」は「両親の希望・意見などの抽象的な概念の場所」を表す「間接目的語」である。「間接目的語」が名詞・代名詞ならこれを「主語」として受動文を作れるが、副詞類なら受動文を作れない。**

注意：一般の文法書では、「自動詞+前置詞+名詞」の「名詞」を前置詞の「目的語」と説明しているが、この文書では「前置詞+名詞」または「前置詞+副詞」を「間接目的語」と解釈して構文解析を進める。この方が文章を理解しやすいと判断したからである。

この方法によると、「私は**学校へ**行く」は自動詞の「行く」と前置詞が付いた「学校へ」が使われており、「学校へ」が「間接目的語」と構文解析されることになる。

しかし、一般の文法書の解説とは異なるので、学校の試験などでは間違いとされる恐れがあることを注意する必要がある。しかし、フランス語の文法はこの解釈に近い。

まとめ：「直接目的語」は「名詞」類が使われる。「～を」

「間接目的語」は「名詞・副詞」類が使われる。「～の所へ、～のために、～にとって」

形容詞

「名詞」、「代名詞」を修飾・限定するものを「形容詞」という。「形容詞」は事物の性質・状態、人間の感覚・感情などを表す語で「名詞」を修飾する。

「形容詞」類の例示：

代名詞：「**私の**本」、「**この**本」、「**数冊の**本」、「**どんな**本」の下線を付けた語句。

冠詞：「**一冊の**本」、「**その**本」の下線を付けた語句。

分詞：「**眠っている**赤ん坊」、「**失われた**時間」の下線を付けた語句。

名詞：「空軍」、「石橋」のように「名詞」＋「名詞」の語句。

形容詞句：「**籠の中の**鳥」の下線を付けた語句（前置詞で導かれる）。

形容詞節：「これは**パリで買った**指輪です」の下線を付けた語句（関係代名詞で導かれる）。

まとめ：「形容詞節」を含む「形容詞」類は「名詞」類の前後に使用される。

文の構成要素と構文解析の書式

不定冠詞

「形容詞」類の一つである。様々な意味に使われる。

1. どれでもよい、不定の人や物の一つを指す。
2. ある具体的な一つの物（人）を指す。
3. 一つの～という意味をはっきり示す。
4. ～につきの意味を示す。
5. 或る～の意味で用いる。

話の中で初めて述べる「名詞」には不定冠詞を付けて内容を説明して、二度目以降では定冠詞を付けて使う。

定冠詞

「形容詞」類の一つである。加算名詞・不加算名詞を問わず、全ての名詞の前に付けることができ、その名詞が何らかの意味で特定されたものであることを示す。

1. 先に出た「不定冠詞+名詞」を指す場合。
2. すでに述べられた事柄に関連して特定される場合。
3. 周囲の状況からそれと分かる場合。
4. ただ一つしかないものを指す場合。
5. 最上級や唯一的な意味で限定された名詞に付ける。
6. 修飾語句によって限定される場合。
7. 楽器を代表的に指す場合

副詞

「副詞」は事物の状態・性質・程度や時刻・場所などを表し、「動詞」を修飾したり、他の「副詞」や「形容詞」を修飾する。しかし、名詞・代名詞、句や節または文全体を修飾・限定することもある。

まとめ：「副詞」類は修飾する語句の近くに置かれるので、「文頭」、「主語」の前後、「動詞」の前後、「補語」の前後、「文末」のように、文中いたる所に使われる。

比較

「形容詞」や「副詞」は性質・様態・数量などの程度を表すが、他の物との間の程度の違いを比較・表現する場合は語形を変えてそれを示す。この語形変化を比較といい、原級、比較級、最上級の語形と慣用句がある。

文の構成要素と構文解析の書式

補語

「補語」は文中で「主語」や「目的語」の性質・状態・動作を補足説明する語句である。

「彼は親切だ」、「私は学生だ」など「主語+動詞+補語」の形式で表される文では、下線部分の事を「補語」といって、「補語」は「主語」の性質・状態を補足説明している。

また、「私は彼が親切だと分かった」のように「主語+動詞+目的語+補語」の形式で表される文では、下線部分の事を「補語」というが、こちらは「主語」ではなく「目的語」（二重下線部分）を補足説明している。「補語」は主に「名詞」類または「形容詞」類が使われる。

しかし「彼はパリ出身だ」、「この本はカルロスのものだ」、「このテーブルは木製だ」などの文を「～である」を表す「動詞」を使って表現すると、下線部分は「副詞句」となる。この「副詞句」も「主語」の性質・状態を補足説明しているので「補語」である。

参考：「私は彼が全力を尽くすことを期待している。」は「主語」「不完全他動詞」「目的語」「補語」の構文によって「補語」が「目的語」の動作を補足説明している。

「補語」が必要な「動詞」は「～である」、「～になる」、「～とを感じる」、「～と思われる」などの意味の「動詞」である。

まとめ：「補語」は「動詞・名詞・形容詞・副詞」が使用され性質・状態・動作を補足する。

動詞

「動詞」は人や様々な事物の動きや状態を述べる語である。

「主語」は「動詞」の動きを実行する主体である。

「動詞」の種類について：

完全自動詞：「主語」が「動詞」の動作を実行する。

不完全自動詞：「動詞」と「補語」によって「主語」の性質・状態を補足説明する。

完全他動詞：「主語」が「直接目的語」に対して「動詞」の動作を実行する。

間接他動詞：「動詞」と「間接目的語」で「主語」の移動先を示す。（フランス語文法）

授与動詞：「主語」が「間接目的語」に対して「直接目的語」を与える。

不完全他動詞：「目的語」の性質・状態を「補語」によって「動詞」で表現したり、「補語」で示される動作を「目的語」に対して「動詞」で表現する。

助動詞

「助動詞」は「動詞」と結びついて可能「～する事が出来る」、推量「～するかもしれない」、義務「～しなければならない」など、話し手の判断や心理を表す表現を追加する「法助動詞」とそれ自身は特に意味を持たず現在分詞・過去分詞と結びついて進行形・受動態・完了形などの時制・態を形成する助動詞がある。

文の構成要素と構文解析の書式

疑問詞

「誰」、「何」、「どこ（場所）」、「いつ（時）」、「どちら（選択）」など文を形成する要素の一部分を話し相手に質問する時に、質問の種類を知らせるための語を「疑問詞」という。

「疑問詞」は文の中で、「主語」、「目的語」、「補語」または「副詞」類として機能するが、どの場合でも文頭におかれて、最初に質問の種類を明らかにする役目を果たす。

「疑問代名詞」、「疑問形容詞」および「疑問副詞」の3種類がある。

接続詞

「接続詞」は文中の語・句・節を接続する。

「等位接続詞」は文法上の働きが対等の関係にある語・句・節を結び付ける。

「従属接続詞」主節の一部として、全体で一つの名詞または副詞の働きをする節を導く接続詞を従属接続詞と呼ぶ。

「従属接続詞」+「節」→「従属節」となり、「従属節」が「名詞節」または「副詞節」として働くことになる。

まとめ：「語・句・節」+「等位接続詞」+「語・句・節」の形式で使用される。

「主語」+「動詞」+「従属接続詞」+「節」の形式で使用される。

関係詞

文中の「主語」、「目的語」または「補語」に対して説明を加える場合に、それを「先行詞」として、説明に適切な「関係詞」に続いて説明の「節」を置くことで、説明の行き届いた文を作ることができる。「先行詞」は「節」の中で「主語」、「目的語」または「補語」として機能する。

まとめ：「関係代名詞」は「名詞」類を修飾する「形容詞節」を導く。

「関係副詞」は「時」や「場所」を修飾する「副詞節」を導く。

前置詞

「名詞」・「代名詞」の前に置いて、それらと共に全体として一つの品詞の働きをする語。前置詞と結びついた語句の品詞によって、「形容詞句」または「副詞句」として機能する。

「形容詞句」は「名詞」と結びついて「名詞句」を構成して、文中で「主語」、「目的語」または「補語」として機能する。

「副詞句」は文全体や「動詞」・「形容詞」を修飾したり、「間接目的語」として機能する。

文の構成要素と構文解析の書式

構文解析の書式

構文解析は文を構成要素ごとに区切りを付けて、「主語」、「動詞」、「目的語」、「補語」、「副詞」および「形容詞節」に分類して、文がどのように構成されているかを分かり易く示すことが目的である。

しかし「形容詞節」は「主語」、「目的語」などと一体化されて、「主語」または「目的語」として分類することが多い。（「形容詞節」は名詞句の一部になる）

「目的語」は必要に応じて「間接目的語」と「直接目的語」を明示する。

本文書では、日本語の文を最初に示してから、次の行に外国語の文を示す。そして、外国語の文の後ろまたは次の行に文全体の構成要素を示す。さらに、その次の行からは、各構成要素の語句ごとにその読み、語句の品詞（「動詞」の場合はその活用も表記）、日本語の意味、構成要素名を1行から3行程度のスペースを使用して表示する。

複数の語が集まって「主語」、「動詞」、「目的語」または「補語」が作られる場合には、それぞれの単語の読み、品詞、意味を表示する場合がある。この場合には、次の書式に従って表示する。

「語句」「読み」「品詞の記号」「意味」（「構成要素名」）

「品詞の記号」

名詞：男性名詞 n.m、女性名詞 n.f

代名詞：pron、pron.fのように性別を追加することがある。

形容詞：男性形容詞 adj.m 女性形容詞 adj.f

複数：pl.（名詞、代名詞と形容詞の品詞記号の前または後ろに置く）

副詞：adv、「構成要素名：修飾する語句」の形式で説明を加える。

動詞：接続法・1人称単数現在なら接・1単現のように表記、自動詞 v.i、他動詞 v.t

動詞句：否定詞+動詞、助動詞+動詞、助動詞+過去分詞、動詞+不定詞など複数の動詞関連語句は、動詞としての機能と自動詞／他動詞の区別などを示す

注意：動詞の未来、過去または完了形の場合、<「原形」の形式で示すときは原形の意味を表示するが、「原形」を示さない場合は未来、過去または完了形の意味を表示する。

接続詞：conj. 接続詞は単語そのものを表示する

前置詞：prep

複数の単語によって名詞句などが作られる場合には、複数の単語の品詞を表示してから、→「複数単語の語句」、品詞記号、意味、構成要素名の形式で表示する。

数字は読みのスペルをカッコ内に表記した。

構成要素には「主語」、「動詞」、「目的語」、「補語」、「副詞」、「形容詞」のように下線を追加した。「補語」、「副詞」および「形容詞」は同じ下線である。また、「間接目的語」と「直接目的語」も同じ下線である。「動詞句」は「動詞」と同じ下線である。

文の構成要素と構文解析の書式

構文解析の例

2 週間の間、風邪のために喉が痛い。

Ich habe an den Schnupfen über zwei Wochen Halsschmerzen.

「主語」「動詞」「副詞句」「目的語」

habe ハーベ 1 単現 < haben v.t (痛みなどが) ある

「動詞」

an den Schnupfen アン・デーン・シュヌプフ フェン adv. 風邪によって

über zwei Wochen ユーハー・ツヴァイ・アイ・ウー・オッヘン adv. 2 週間

→ an den Schnupfen über zwei Wochen 風のため 2 週間

「副詞句 : habe」

Halsschmerzen ハルスシュメルツェン n.m pl. 4 格 喉の痛み

「目的語」

今日はイタリア語とスペイン語で日記を書くために参考書を 2 冊買った。

Heute habe ich 2. (zwei) Nachschlagebücher gekauft, damit ich in Italienische und in Spanische ein Tagebuch führe.

「副詞」「動詞句」「主語」「目的語」「動詞句」

, damit 「主語」「副詞句」「目的語」「動詞」

Heute ホテ adv. 今日、現代では

「副詞」

habe ... gekauft ハーベ ... ゲカウフト 1 単現・完了形 買った

「動詞句」

ich イヒ pron 私は

「主語」

2 Nachschlagebücher ツヴァイ・ナーハシュラーゲ・ビュヘー n.n pl. 4 格 2 冊の参考書

「目的語」

damit ダミット conj. (定動詞は後置) ~するために

in Italienische und in Spanische イン・イタリエーニッシェ・ウント・イン・シュパーニッシェ

adv. イタリア語とスペイン語で

「副詞句 : führe」

ein Tagebuch アイン・ターゲブーフ n.n 4 格 日記を

「目的語」

führe フューレ 1 単現 < führen フューレン v.t (日記に) 記録する

「動詞」

山栗が 430g とナスが 2 本採れた。

Ich sammelte 430 (vierhundert dreissig) Gramm der wilden Kastanien und erntete 2 (zwei) Eierpflanzen.

「主語」「動詞」「目的語」und「動詞」「目的語」

sammelte サメルテ 1 単過 < sammeln v.t 収集する

「動詞」

430 g der wilden Kastanien フィーアフンダート・トライスイヒ・グラム・デア・ウァイルデーン・カスタンエン

n.f 山栗を 200g

「目的語」

und ウント conj. それから

erntete エルンテテ 1 単過 < ernten v.t 収穫する

「動詞」

2 Eierpflanzen ツヴァイ・アイアープ フランツェン n.f pl. 4 格 茄子を 2 個

「目的語」

文の構成要素と構文解析の書式—終わり

目次

目次

.....	0
参考文献等.....	2
文の構成要素と構文解析の書式.....	3
名詞・性と数.....	4
「直接目的語」と「間接目的語」.....	5
形容詞.....	5
不定冠詞.....	6
定冠詞.....	6
副詞.....	6
比較.....	6
補語.....	7
動詞.....	7
助動詞.....	7
疑問詞.....	8
接続詞.....	8
関係詞.....	8
前置詞.....	8
構文解析の書式.....	9
文の構成要素と構文解析の書式－終わり.....	10
目次.....	11
FÜR LÉON WERTH.....	14
フランス語原文では.....	15
3 格の語尾に-e が付くことがある.....	17
I.....	19
男性・中性名詞の単数 3 格の語尾に-e が付くことがある.....	21
男性弱変化名詞： 2, 3, 4 格で -n か -en が付く.....	23
zu 不定句 :	28
II.....	32
III.....	53
高笑い :	57
フランス語の原文では、.....	57
IV.....	67
wieviel :	75

目次

V	90
副詞的 2 格 2 格の名詞を副詞として使用する	105
VI	113
名詞 4 格 「直接目的語」や「副詞」として	114
VII	120
たたみ掛ける :	130
sollen+不定詞 : 抗議的反問	135
VIII	143
フランス語の原文では おしゃれだった	148
生まれた : gebären の使い方	150
命令法 : 目の前の二人称に対する命令形	154
再帰代名詞の配置 :	159
IX	163
フランス語の原文では 掃除でなく、煤払い	164
X	177
知覚動詞の完了時制 :	184
問いたです :	199
接続法 :	209
XI	211
etitel の名詞化 : 格変化の例	212
XII	219
XIII	224
XIV	248
または : A または B	251
惜別 せきべつ : 別れを惜しむこと	266
XV	268
XVI	290
zu 不定詞 まとめ :	292
führen フェレン : v.t (+動作名詞で機能動詞として)	297
XVII	297
一人当たりの面積は :	300
フランス語の原文では : 次の文が続いていた	301
XVIII	314
XIX	317
XX	323
通じる : (道が)	324

目次

XXI	330
フランス語の原文では :	362
XXII	369
転轍手 (てんてつしゅ)、転轍機 :	369
XXIII	376
XXIV	379
注意 :	391
XXV	399
骨折り甲斐がない :	400
フランス語の原文では :	410
フランス語の原文では :	414
XXVI	421
フランス語の原文では :	442
フランス語の原文では木の葉ではなく一本の樹	466
XXVII	467
Nacht の副詞的用法 → 男性名詞 2 格として扱う	470
終わり	482

FÜR LÉON WERTH

FÜR LÉON WERTH

Ich bitte die Kinder um Verzeihung, dass ich dieses Buch einem Erwachsenen widme. Ich habe eine ernstliche Entschuldigung dafür: Dieser Erwachsene ist der beste Freund, den ich in der Welt habe. Ich habe noch eine Entschuldigung: Dieser Erwachsene kann alles verstehen, sogar die Bücher für Kinder. Ich habe eine dritte Entschuldigung: Dieser Erwachsene wohnt in Frankreich, wo er hungert und friert. Er braucht sehr notwendig einen Trost. Wenn alle diese Entschuldigungen nicht ausreichen, so will ich dieses Buch dem Kinde widmen, das dieser Erwachsene einst war. Alle großen Leute sind einmal Kinder gewesen (aber wenige erinnern sich daran). Ich verbessere also meine Widmung:

FÜR LÉON WERTH

als er noch ein Junge war

レオン・ヴェルトに

私がこの本をある大人の人に献呈することについて、子供たちに赦してもらいたい。それに関して、私には真面目な言い訳がある：この大人の方は私がこの世で持っている最良の友である。私にはさらにもう一つの言い訳がある：この大人の方はすべてを理解する事ができる、子供向けの本でさえも。私には 3 番目の言い訳がある：この大人の方はフランスに住んでいて、飢えと寒さに苦しんでいる。その人はどうしても慰めを必要としている。もしこれらすべての言い訳でも充分でなければ、この大人の方がかつて子供だった頃のその子供に、私はこの本を献呈することにしよう。すべての大人はかつては子供だった（しかしそれを覚えている人はほとんどいない）だから私の献辞を次のように訂正する。

まだ少年だった時の

レオン・ヴェルトに

FÜR LÉON WERTH

レオン・ヴェルトに

FÜR LÉON WERTH

「副詞句」

FÜR フュア prep 〜に

「副詞句」

LÉON WERTH レオン・ヴェルト n.m レオン・ヴェルト

「目的語」

私がこの本をある大人の人に献呈することについて、子供たちに赦してもらいたい。

Ich bitte die Kinder um Verzeihung, dass ich dieses Buch einem Erwachsenen widme.

「主語」「動詞」「直接目的語」「間接目的語」「副詞節」

Ich イッヒ pron 私は

「主語」

bitte ビッテ 1 単現(bitten)v.t(j-4 um et-4 人-4 に何-4 を) 求める

「動詞」

die Kinder デー・キンダー pl.n.n 子供たちに

「直接目的語」

um Verzeihung, ウム・フェアツァイhung adv. 赦しを

「間接目的語」

dass ダス conj. (原因) 〜なので

「副詞節」

ich イッヒ pron 私は

「主語」

dieses Buch デーゼス・ブーフ n.n4 格 この本を

「直接目的語」

einem Erwachsenen アイネ・エアヴァクセネ n.m3 格 ある大人の人に

「間接目的語」

widme. ウイトメ 1 単現(widmen)v.t 献呈している

「動詞」

フランス語原文では

この本をある大人の人に捧げたことで、私は子供たちに許してもらいたい。

Je demande pardon aux enfants d'avoir dédié ce livre à une grande personne.

と「完了形」で書かれていますが、ドイツ語では「現在形」でも完了の意味が表せます。

ドイツ語の現在形は、近接過去、現在、現在進行形、近接未来なども表せます。

それに関して、私には真面目な言い訳がある：この大人の人には私がこの世で持っている最良の友である。

Ich habe eine ernstliche Entschuldigung dafür: Dieser Erwachsene ist der beste Freund, den ich in der Welt habe.

「主語」「動詞」「目的語」「副詞」：「主語」「動詞」「補語」

Ich イッヒ pron 私は

「主語」

habe ハーベ 1 単現(haben)v.t ある

「動詞」

eine ernstliche Entschuldigung アイネ・エンストリヒェ・エントシュルディグUNG

n.f 真面目な言い訳

「目的語」

ernstlich エンストリヒ adj. 真面目な Entschuldigung エントシュルディグUNG n.f 言い訳

dafür: ダフュア adv. それに関して

「副詞」

Dieser Erwachsene デーザー・エアヴァクセネ n.m この大人の人は

「主語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i 〜である

「動詞」

der beste Freund, デア・ベステ・フロイント n.m 最良の友

「補語」

フランス語原文では

FÜR LÉON WERTH

den デン pron (目的語) ～する 「形容詞節」

ich イッヒ pron 私が 「主語」

in der Welt イン・デア・ヴェルト adv. この世で 「副詞句」

habe. ハーベ 1 単現(haben)v.t 持っている 「動詞」

私にはさらにもう一つの言い訳がある：この大人の人はずべてを理解する事ができる、子供向けの本でさえも。

Ich habe noch eine Entschuldigung: Dieser Erwachsene kann alles verstehen, sogar die Bücher für Kinder.

「主語」「動詞」「副詞」「目的語」：「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」「副詞句」

Ich イッヒ pron 私は 「主語」

habe ハーベ 1 単現(heben)v.t ある 「動詞」

noch ノッホ adv. さらに 「副詞」

eine Entschuldigung: アイン・ェントシュルデ'イグング n.f 言い訳 「目的語」

Dieser Erwachsene デ'イーザー・エアヴァクセネ n.m この大人の人は 「主語」

kann ...verstehen, カン...フェアシュテ-エン 3 単現・可能(können+不定詞)

v.t 理解できる 「動詞句」

alles アレス pron すべてを 「目的語」

sogar ソガール adv. ～でさえも 「副詞句」

die Bücher デ'イー・ビュヒャー pl.n.n 本 「目的語」

für Kinder. フュア・キンダー adj. 子供たちのための 「形容詞句」

私には 3 番目の言い訳がある：この大人の人はフランスに住んでいて、飢えと寒さに苦しんでいる。

Ich habe eine dritte Entschuldigung: Dieser Erwachsene wohnt in Frankreich, wo er hungert und friert.

「主語」「動詞」「目的語」：「主語」「動詞」「副詞句」, 「副詞節」

Ich イッヒ pron 私は 「主語」

habe ハーベ 1 単現(heben)v.t ある 「動詞」

eine dritte Entschuldigung: アイン・ドリッテ・ェントシュルデ'イグング n.f 3 番目の言い訳 「目的語」

Dieser Erwachsene デ'イーザー・エアヴァクセネ n.m この大人の人は 「主語」

wohnt ヴォント 3 単現(wohnen)v.i 住んでいる 「動詞」

in Frankreich, イン・フランクライヒ adv. フランスに 「副詞句」

wo ヴォー adv. そこで～する 「副詞節」

er エア pron 彼は 「主語」

hungert フンガート 3 単現(hungern)v.i 飢えている 「動詞」

und ウント conj. そして

FÜR LÉON WERTH

friert. フリーエト 3 単現(frieren)v.i 寒さに凍えている

「動詞」

その人はどうしても慰めを必要としている。

Er braucht sehr notwendig einen Trost.

「主語」「動詞」「副詞句」「目的語」

Er エア pron 彼は

「主語」

braucht ブラウヒト 3 単現(brauchen)v.t 必要としている

「動詞」

sehr notwendig ゼーア・ノトヴンデニヒ adv. どうしても

「副詞句」

einen Trost. アイン・トロスト n.m 慰めを

「目的語」

もしこれらすべての言い訳でも充分でなければ、この大人の人がかつて子供だった頃のその子供に、私はこの本を献呈することにしよう。

Wenn alle diese Entschuldigungen nicht ausreichen, so will ich dieses Buch dem Kinde widmen, das dieser Erwachsene einst war.

「副詞節」, 「副詞」「動詞句」「主語」「直接目的語」「間接目的語」「動詞句」「形容詞節」

Wenn ウェン conj. もし～ならば

「副詞節」

alle diese Entschuldigungen アレ・ディエーゼ・ェントシュルディグンゲン

pl.n.f これらすべての言い訳が

「主語」

nicht ausreichen, ニヒト・アウス・ライエン 3 複現・否定 v.i 十分ではない

「動詞句」

so ソー adv. それならば

「副詞」

will ...widmen, ヴィル...ヴィトメン 1 単未・意志(wollen+不定詞)

v.t 献呈することにしよう

「動詞句」

ich イヒ pron 私は

「主語」

dieses Buch ディエーゼス・ブーフ n.n この本を

「直接目的語」

dem Kinde デーム・キンデ n.n3 格 子供に

「間接目的語」

通常は、dem Kind が使われる。

das ダス pron (補語) ～する

「形容詞節」

dieser Erwachsene ディエーザー・エアヴァクセネ

n.m この大人の人が

「主語」

einst アインスト adv. かつて

「副詞」

war. ヴァール 3 単過(sein)v.i ～だった

「動詞」

3 格の語尾に-e が付くことがある

一部の男性名詞と中性名詞の 3 格には語尾に-e がつくことがあります (古風な言い方)。

FÜR LÉON WERTH

すべての大人はかつては子供だった（しかしそれを覚えている人はほとんどいない）

Alle großen Leute sind einmal Kinder gewesen (aber wenige erinnern sich daran).

「主語」「動詞句」「副詞」「補語」「動詞句」(aber「主語」「動詞句」「間接目的語」)

Alle großen Leute アレ・グロースン・ロイテ pl.n. すべての大人は 「主語」

sind ...gewesen シント...ゲウェゼン 3 複現・状態完了(sein)v.i 〜だった 「動詞句」

einmal アインマル adv. かつては 「副詞」

Kinder キンダー pl.n.n 子供 「補語」

(aber アーバー conj. しかし

wenige ヴェニゲ adj., pl.n.n1 格 ほとんどの人は〜ない 「主語」

erinnern sich エアィン・ズィヒ 3 複現(sich erinnern)v.pr 覚えている 「動詞句」

daran). ダラン adv. それについて 「間接目的語」

だから私の献辞を次のように訂正する。

Ich verbessere also meine Widmung: 「主語」「動詞」「副詞」「目的語」

Ich イヒ pron 私は 「主語」

verbessere フェアベッセル 1 単現(verbessern)v.t 訂正する 「動詞」

also アルゾー adv. 次のように 「副詞」

meine Widmung: マイネ・ウィットムング n.f4 格 私の献辞を 「目的語」

まだ少年だった時のレオン・ヴェルトに

FÜR LÉON WERTH als er noch ein Junge war 「副詞句」

FÜR LÉON WERTH フーア・レオン・ヴェルト adv. レオン・ヴェルトに 「副詞句」

als アルス conj. 〜した時の 「形容詞節」

er エア pron 彼が 「主語」

noch ノッホ adv. まだ 「副詞」

ein Junge アイン・ユンゲ n.m 少年 「補語」

war ヴァール 3 単過(sein)v.i 〜だった 「動詞」

I

I

僕が 6 歳だった時、「体験された話」という原始林についての本の中で、素晴らしい挿絵を 1 度見たことがある。それは 1 匹の野獣を飲み込んでいる大蛇を表していた。

Als ich sechs Jahre alt war, sah ich einmal in einem Buch über den Urwald, das »Erlebte Geschichten« hieß, ein prächtiges Bild. Es stellte eine Riesenschlange dar, wie sie ein Wildtier verschlang.

「副詞節」, 「動詞」「主語」「副詞句」「目的語」 「主語」「動詞句」「目的語」	
Als アルス conj. ～する時	「副詞節」
ich イヒ pron 僕が	「主語」
sechs Jahre alt セックス・ヤーレ・アルト pl.n.n 6 歳	「補語」
war, ヴァール 1 単過(sein)v.i ～だった	「動詞」
sah サー 1 単過(sehen)v.t 見た	「動詞」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
einmal アインマル adv. 1 度 (経験を表す)	「副詞」
in einem Buch イン・アイネム・ブーフ adv. ある本の中で	「副詞句」
über den Urwald, ユーバー・デーン・ウルヴァルト adj. 原始林についての	「形容詞句」
das ダス pron (主語) ～する	「形容詞節」
»Erlebte エアレープテ 過去分詞・受動(erleben)	
adj.pl.f1 格 体験された	「形容詞」
Geschichten« ゲシヒテン pl.n.f1 格 話	「補語」
hieß, ヒース 3 単過(heißen)v.i ～という名前であった	「動詞」
ein prächtiges Bild. アイン・プレチケス・ビルト n.n4 格 すばらしい挿絵を	「目的語」
Es エス pron それは	「主語」
stellte ...dar, シュテルテ...ダー 3 単過(dar stellen)v.t 表していた	「動詞句」
eine Riesenschlange アイン・リーゼンシュランゲ n.f 大蛇を	「目的語」
wie ヴィー conj. ～のようでな	「形容詞節」
sie ジー pron その蛇が	「主語」
ein Wildtier アイン・ヴィルト・ティーア n.n 野獣を	「目的語」
verschlang. フェアシュランゲ 3 単過(verschlingen)v.t 飲み込んだ	「動詞」

I



その本には、このように書かれていた:「ボア大蛇は獲物をかみ砕かずに、丸ごと飲み込む。
それで、彼らはもう身動きできなくなり、消化するために 6 か月間眠り続ける」

In dem Buche hieß es: »Die Boas verschlingen ihre Beute als Ganzes, ohne sie zu zerbeißen. Daraufhin können sie sich nicht mehr rühren und schlafen sechs Monate, um zu verdauen.«

「副詞句」「動詞句」:《「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」

「副詞」「動詞句」「主語」「動詞句」und「動詞」「副詞句」》

In dem Buche イン・デーム・ブーヘ adv. その本の中では

「副詞句」

hieß ヒース 3 単過・非人称(heißen)v.i(es heißt) ～と書かれていた

「動詞句」

es: エス pron 非人称

»Die Boas ティー・ホース pl.n.f ボア大蛇は

「主語」

verschlingen フェアシュリシゲン 3 複現 v.t 飲み込む

「動詞」

ihre Beute イレ・ボイテ n.f 獲物を

「目的語」

als Ganzes, アルス・ガンツェス adv. 丸ごと

「副詞句」

ohne オーネ conj. ～しないで

「副詞句」

sie ジー pron 獲物を

「目的語」

zu zerbeißen. ツー・ツェアハイェン 不定詞 v.t 細かくかみ砕く

「動詞句」

Daraufhin ダラウフヒン adv. そのようなわけで、それで

「副詞」

können ...sich nicht mehr rühren ケネン...ズィッヒ・ニヒト・メア・リュレン

3 複現・可能・否定(sich rühren+ nicht mehr)v.pr もう身動き出来なくなる「動詞句」

sie ジー pron.pl (Die Boas の代用) 彼らは

「主語」

und ウント conj. そして

schlafen シュラーフェン 3 複現 v.i 眠り続ける

「動詞」

sechs Monate, ゼックス・モナテ pl.n.m 6 か月間

「副詞句」

um +zu 不定詞 ウム adv. (目的・原因) ～するために

「副詞句」

zu verdauen. ツー・フェアダウエン 不定詞 v.t 消化する

「動詞句」

I

男性・中性名詞の単数 3 格の語尾に-e が付くことがある

男性・中性単数名詞など 2 格に-es が付く名詞では、3 格の語尾に-e が付くことがある。

1 格	2 格	3 格	4 格
das Buch 本	des Buches 本の	dem Buch(e) 本に	das Buch 本を
der Mann 男	des Mannes 男の	dem Mann(e) 男に	den Mann 男を
das Haus 家	des Hauses 家の	dem Haus(e) 家に	das Haus 家を
der Tag 日	des Tages 日の	dem Tag(e) 日に	den Tag 日を

それで僕は、ジャングルの冒険について色々とじっくり考えて、色鉛筆を使って、僕の初めてのデッサンを完成した。僕のデッサン第 1 号、それはこのようなもの：

Ich habe damals viel über die Abenteuer des Dschungels nachgedacht, und ich vollendete mit einem Farbstift meine erste Zeichnung. Meine Zeichnung Nr. 1. So sah sie aus:

「主語」「動詞句」「副詞」「間接目的語」 und 「主語」「動詞」「副詞句」「目的語」

「主語」, 「副詞」「動詞句」「主語」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

habe ...nachgedacht, ハーベ ...ナーハ・ゲ・ダハト 1 単現・完了形(nach | denken)

v.i(über et-4 何-4 について) じっくり考えた

「動詞句」

damals ダーマルス adv. その時、それで

「副詞」

viel über die Abenteuer フィール・ユーバー・デー・アーベントイヤー

adv. 冒険について色々と

「間接目的語」

des Dschungels デス・ジュンゲルス adj. ジャングルの

「形容詞句」

und ウント conj. そして

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

vollendete フォル・エンデテ 1 単過(vollenden)v.t 完成した、仕上げた

「動詞」

mit einem Farbstift ミット・アイネム・ファーブ・シュティフト adv. (道具) 色鉛筆で

「副詞句」

meine erste Zeichnung. マイネ・エーステ・ツァイhung n.f 僕の初めてのデッサンを

「目的語」

Meine Zeichnung Nr. 1. マイネ・ツァイhung・ヌーメ・アインス n.f 僕のデッサン第 1 号

「主語」

So ヴー adv. そのように、このように

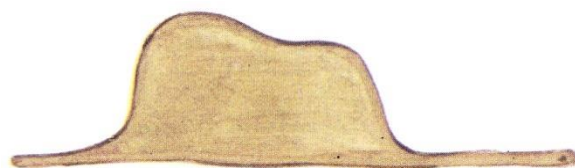
「副詞」

sah ...aus: サー...アウス 3 単過(aus | sehen)v.i 見えた

「動詞句」

sie ジー pron それは

「主語」



男性・中性名詞の単数 3 格の語尾に-e が付くことがある

I

僕は自分の傑作を大人に見せて、僕のデッサンが彼らを怖がらせないかどうかを尋ねた。

Ich habe den großen Leuten mein Meisterwerk gezeigt und sie gefragt, ob ihnen meine Zeichnung nicht Angst mache.

「主語」「動詞句」「間接目的語」「直接目的語」
und 「間接目的語」「動詞句」「直接目的語」

Ich イッヒ pron 僕は 「主語」
habe ...gezeigt ハーベ ...ゲツァイクト 1 単現・完了形(zeigen)v.t 見せた 「動詞句」
den großen Leuten デン・グロースン・ロイテン pl.n3 格 大人の人たちに 「間接目的語」
mein Meisterwerk マイン・マイスター・ウェアク n.n 僕の傑作を 「直接目的語」
und ウント conj. そして
sie ジー pron 彼らに 「間接目的語」
gefragt, ゲフラークト 1 単現・完了形(fragen)v.t 尋ねた 「動詞句」
ob オップ conj. へかどうかということ 「直接目的語」
ihnen イーネン pron 彼らに 「間接目的語」
meine Zeichnung マイン・ツァイトゥング n.f 僕のデッサンが 「主語」
nicht Angst ニヒト・アングスト n.f 何も恐れをへない 「目的語」
mache. マヘ 接・3 単現(machen)v.t 与えるだろう 「動詞」

彼らは答えた：「どうして、帽子を怖がるんだ？」

Sie haben geantwortet: »Warum sollen wir vor einem Hute Angst haben?«

「主語」「動詞句」：《「副詞」「動詞句」「主語」「副詞句」「目的語」「動詞句」》

Sie ジー pron.pl 彼らは 「主語」
haben geantwortet: ハーベーン・ゲアントヴァーアテット 3 複現・完了形(antworten)v.i 答えた 「動詞句」
»Warum ヴァルム adv. どうして 「副詞」
sollen ...haben?« ソレン...ハーベーン 1 複現・義務(sollen+不定詞)
v.t 持たなければならない 「動詞句」
wir ヴィーア pron 我々が 「主語」
vor einem Hute フォーア・アイネム・フーテ adv. 帽子に対して 「副詞句」
Angst アングスト n.f 恐れを 「目的語」

しかし僕のデッサンは、帽子を表していたのではない。

Meine Zeichnung stellte aber keinen Hut dar.

「主語」「動詞句」 aber 「目的語」「動詞句」
Meine Zeichnung マイン・ツァイトゥング n.f 僕のデッサンは 「主語」
stellte ...dar. シュテルテ...ダー 3 単過(dar|stellen)v.t 表していた 「動詞句」
aber アーバー conj. しかし
keinen Hut ケイネン・フット n.m 帽子へではない 「目的語」

I

それは、1頭の象を消化している大蛇を表していたのだ。

Sie stellte eine Riesenschlange dar, die einen Elefanten verdaut.

「主語」「動詞句」「目的語」

Sie シー pron.f (そのデッサン) それは

「主語」

stellte ...dar, シュテルテ...ダール 3 単過(dar|stellen)v.t 表していた

「動詞句」

eine Riesenschlange アイン・リーゼンシュランゲ n.f4 格 大蛇を

「目的語」

die デー pron (その大蛇が) それが～する

「形容詞節」

einen Elefanten アイン・エレファンテン n.m 1 頭の象を

「目的語」

verdaut. フェアダウト 3 単現(verdauen)v.t 消化している

「動詞」

男性弱変化名詞： 2, 3, 4 格で -n か -en が付く

2, 3, 4 格で語尾に -n か -en が付く男性単数名詞。

e で終わる男性名詞や、-ist, -ent など終わる語末にアクセントのある男性名詞。

1格	2格	3格	4格
der Elefant 象は	des Elefanten 象の	dem Elefanten 象に	den Elefanten 象を
der Mensch 人間は	des Menschen 人間の	dem Menschen 人間に	den Menschen 人間を
der Junge 少年は	des Jungen 少年の	dem Jungen 少年に	den Jungen 少年を
der Herr 紳士は; ~氏は	des Herrn 紳士の	dem Herrn 紳士に	den Herrn 紳士を
der Name 名前は	des Namens 名前の	dem Namen 名前に	den Namen 名前を
das Herz 心は	des Herzens 心の	dem Herzen 心に	das Herz 心を

注意：Name と Herz は格変化が不規則な名詞の例

それで僕は、大人の人たちに分かりやすくするために、ボア大蛇の内側を描いた。

Ich habe dann das Innere der Boa gezeichnet, um es den großen Leuten deutlich zu machen.

「主語」「動詞句」「副詞」「目的語」「動詞句」, 「副詞句」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

habe ...gezeichnet, ハーベ...ゲツァイゼネット 1 単現・完了形(zeichnen)v.t デッサンした「動詞句」

dann ダン adv. それで

「副詞」

das Innere der Boa ダス・インレ・デア・ボア n.n4 格 ボア大蛇の内部を

「目的語」

um ...zu machen. ウム...ツァ・マヘン conj. ～するために

「副詞句」

es エス pron それを

「直接目的語」

男性弱変化名詞： 2, 3, 4 格で -n か -en が付く

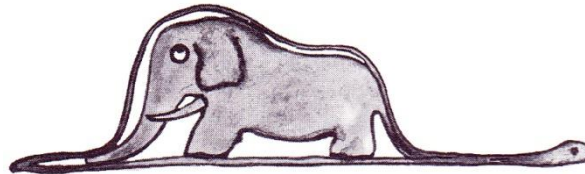
I

den großen Leuten デン・グロゼン・ロイテン pl.n3 格 大人の人たちに 「間接目的語」
 deutlich トイトリッヒ adj. 分かりやすい 「補語」

彼らはいつも説明を必要とする。ここに僕のデッサン第2号がある。

Sie brauchen ja immer Erklärungen. Hier meine Zeichnung Nr. 2:

「主語」「動詞」「副詞句」「目的語」 | 「副詞」「主語」
 Sie ジー pron.pl 彼らは 「主語」
 brauchen ブラウヘン 3 複現 v.t 必要とする 「動詞」
 ja immer ヤー・イマー adv. いつも 「副詞句」
 Erklärungen. エアクレールンゲン pl.n.f 説明を 「目的語」
 Hier ヒア adv. ここに～ある 「副詞」
 meine Zeichnung Nr. 2: マイネ・ツァイhung・ヌメ・ツヴァイ n.f 僕のデッサン第2号 「主語」



大人の人たちは、僕に、中に見える大蛇でも見えないものでもそれらのデッサンをやめて、
 地理学と歴史と算数そして文法にもっと興味をもつようにと助言した。

Die großen Leute haben mir geraten, mit den Zeichnungen von offenen oder geschlossenen Riesenschlangen aufzuhören und mich mehr für Geographie, Geschichte, Rechnen und Grammatik zu interessieren.

「主語」「動詞句」「間接目的語」「直接目的語」
 Die großen Leute デー・グロゼン・ロイテ pl.n 大人の人たちは 「主語」
 haben ...geraten, ハーベン...ゲラテン 3 複現・完了形(raten)v.t 忠告した、助言した 「動詞句」
 mir ミア pron 僕に 「間接目的語」
 n. ～ということ 「直接目的語」
 mit den Zeichnungen ミット・デン・ツァイhungen
 adv. それらのデッサンを 「間接目的語」
 von offenen フォン・オフエネン adj. 中が開いている 「形容詞句」
 oder オーダー conj. または
 geschlossenen ゲシュロッセネン adj. 閉じた 「形容詞」
 Riesenschlangen リーゼン・シュレンゲン n.f 大蛇 「目的語」
 aufzuhören アウフ・ツァー・ヘレン zu 不定詞 v.i やめる 「動詞」
 und ウント conj. そして

I

mich ...zu interessieren. ミッヒ...ツ-インテレシーレン 不定詞(sich-4 interessieren)

v.pr(für et-4 ~に) 興味を持つ

「動詞句」

mehr メア adv. もっと

「副詞」

für Geographie, Geschichte, Rechnen und Grammatik

フューア・ゲオグラフィー・ゲシヒテ・レヒネン・ウント・グラマティク

adv. 地理学、歴史、算数そして文法に

「間接目的語」

それで、僕は絵描きという素晴らしい職業を、6歳の時にもう諦めることになった。

So kam es, dass ich eine großartige Laufbahn, die eines Malers nämlich, bereits im Alter von sechs Jahren aufgab.

So 「動詞」「主語」

So ヴー conj. それで

kam カム 3 単過(kommen)v.h ~という結果になった

「動詞」

es, エス pron 非人称主語

dass ダス conj. ~であること、~すること

「主語」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

eine großartige Laufbahn, アイネ・グロースアーティゲ・ラウフバーン

n.f4 格 素晴らしい職業を

「目的語」

die eines Malers nämlich, デーイー・アイネス・マーラー・ネームリッヒ

n.f (同格) 絵描きの職業を

「目的語」

bereits ベライツ adv. すでに、もう

「副詞」

im Alter von sechs Jahren イム・アルター・フォン・ゼックス・ヤーレン adv. 6歳の時に

「副詞句」

aufgab. アウフ・ガーフ 1 単過(auf|geben)v.t あきらめた

「動詞句」

僕のデッサン第1号と第2号の失敗によって、僕は絵を描く気力を失ってしまった。

Der Misserfolg meiner Zeichnungen Nr. 1 und Nr. 2 hatte mir den Mut genommen.

「主語」「動詞句」「間接目的語」「直接目的語」

Der Misserfolg デア・ミスエアフォルク n.m 失敗が

「主語」

meiner Zeichnungen Nr. 1 und Nr. 2 マイナー・ツァイトンゲン・ヌメ・アインス・ウント・ヌメ・ツヴァイ

pl.n.f2 格 僕のデッサン第1号と第2号の

「形容詞句」

hatte ...genommen. ハッテ...ゲノメン 3 単過・完了形(nehmen)v.t 奪った

「動詞句」

mir ミア pron 僕の

「間接目的語」

den Mut デン・ムート n.m4 格 気力を

「直接目的語」

この「主語」を原因として翻訳する

I

大人の人たちは自分だけでは何も分からないから、いつもいつも、彼らに説明しなければならないのは、子供たちにとってはくたびれてしまう。

Die großen Leute verstehen nie etwas von selbst, und für die Kinder ist es zu anstrengend, ihnen immer und immer wieder erklären zu müssen.

「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」 und 「副詞句」「動詞」「補語」「主語」
 Die großen Leute デー・グロセン・ロイテ pl.n 大人の人は 「主語」
 verstehen フェアシュテーン 3 複現 v.t 分かる 「動詞」
 nie etwas ニー・エトヴァス pron 何も～ない 「目的語」
 von selbst, フォン・ゼルフスト adv. 自分自身では、一人では 「副詞句」
 und ウント conj. そして
 für die Kinder フュア・デー・キンダー adv. 子供たちにとって 「副詞句」
 ist イスト 3 単現(sein)v.i ～である 「動詞」
 es エス pron 仮の主語 (真の主語は ihnen 以降)
 zu anstrengend, ツー・アンシュレンゲント adj. あまりに骨の折れる、くたびれる 「補語」
 zu+形容詞・副詞 「あまりに～すぎる」強調
 ihnen イネン pron (zu 不定句) 彼らに～することは 「主語」
 immer und immer イマー・ウント・イマー adv. いつもいつも 「副詞句」
 wieder ヴァーダー adv. 再び、またもや 「副詞」
 erklären zu müssen. エアクレレン・ツェ・ミュッセン 不定詞(müssen+不定詞)
 v.t 説明しなければならない 「動詞句」

それで僕は別の仕事を探さなくてはならなかったので、飛行機の操縦方法を覚えた。

Ich war also gezwungen, einen anderen Beruf zu wählen, und lernte fliegen.

「主語」「動詞」「副詞」「補語」 und 「動詞句」
 Ich イヒ pron 僕は 「主語」
 war ヴァール 1 単過(sein)v.i ～だった 「動詞」
 also アルゾー adv. それで、だから 「副詞」
 gezwungen, ゲツワンゲン adj.(zu et-3 何-3 をするように) 強いられた 「補語」
 n. (zu 不定句) ～することを 「目的語」
 einen anderen Beruf アイネン・アンデレン・ベールフ n.m4 格 別の仕事を 「目的語」
 zu wählen, ツェ・ヴァーレン 不定詞 v.t 探す 「動詞句」
 und ウント conj. そして
 lernte fliegen. レルンテ・フリーゲン 1 単過・学習(lernen+不定詞)
 v.t 飛行機の操縦方法を覚えた 「動詞句」

I

僕は世界中を飛び回った。その時、地理学は僕にとって本当に良い仕事をしてくれた。

Ich bin überall in der Welt herumgeflogen, und die Geographie hat mir dabei wirklich gute Dienste geleistet. 「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」

und 「主語」「動詞句」「間接目的語」「副詞」「直接目的語」「動詞句」

Ich イッヒ pron 僕は 「主語」

bin ...herumgeflogen, ビン...ヘルム・ゲ・フローゲン 1 単現・完了形(herum | fliegen)

v.i 飛び回った 「動詞句」

überall ユーバー・アル adv. 至る所を 「副詞句」

in der Welt イン・デア・ヴェルト adv. 世界の 「副詞句」

und ウント conj. そして

die Geographie デー・ゲオグラフィー n.f 地理学は 「主語」

hat ...geleistet. ハット...ゲライステット 3 単現・完了形(leisten)v.t 成し遂げた 「動詞句」

mir ミー pron 私にとって 「間接目的語」

dabei ダバイ adv. その時に 「副詞」

wirklich ヴェルクlich adj. 本当の 「形容詞」

gute Dienste グー・テ・ディーンステ pl.n.m4 格 良い仕事を 「直接目的語」

僕は一目でアリゾナと中国を見分けることができた。

Ich konnte auf den ersten Blick China von Arizona unterscheiden.

「主語」「動詞句」「副詞句」「目的語」「副詞句」「動詞句」

Ich イッヒ pron 僕は 「主語」

konnte ...unterscheiden. コンテ...ウンターシャイテン 1 単過・可能(können+不定詞)

v.t 識別できた、見分けられた 「動詞句」

auf den ersten Blick アウフ・テン・エアステン・ブリック adv. 一目で 「副詞句」

China シーナ n.n4 格 中国を 「目的語」

von Arizona フォン・アリツォナ adv. アリゾナから、アリゾナと 「副詞句」

地理学は、僕が夜間に操縦していて方角が分からなくなった時などは、とても役に立つ。

Das ist sehr praktisch, wenn man sich in der Nacht verirrt hat.

「主語」「動詞」「補語」「副詞節」

Das ダス pron これは (地理学は) 「主語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である 「動詞」

sehr praktisch, セー・ア・プ・ラクティッシュ adj. とても便利な 「補語」

wenn ヴェン conj. ~する時には 「副詞節」

man マン pron 人が、僕が 「主語」

sich ...verirrt hat. スィッヒ...フェアイルト・ハット 3 単現・完了形(sich verirren)

I

v.pr 道に迷った 「動詞句」
 in der Nacht イン・デア・ナハト adv. 夜に 「副詞句」

このようにして僕は人生の流れの中で、沢山の真面目な人たちとお付き合いをした。

So habe ich im Laufe meines Lebens mit einer Menge ernsthafter Leute zu tun gehabt.

「副詞」「動詞句」「主語」「副詞句」「目的語」「動詞句」

So ザー adv. このようにして 「副詞」

habe ... gehabt. ハーベ...ゲハプト 1 単現・完了形(haben)v.t 持った 「動詞句」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

im Laufe イム・ラウフェ adv. 流れの中で 「副詞句」

meines Lebens マイネス・レーベンス n.n2 格 僕の人生の 「形容詞句」

mit ミット prep 〜と (一緒に) 「副詞句」

einer Menge アイー・メンゲ adj.pl 多数の 「形容詞句」

ernsthafter エアンストハフター adj.pl 真面目な 「形容詞」

Leute ロイテ pl.n 人々 「目的語」

zu tun ツー・トゥン 不定詞 n. すべきこと、お付き合い 「目的語」

僕は沢山の大人の人と交際して、ごく近いところから彼らを見つめる機会を得た。

Ich bin viel mit Erwachsenen umgegangen und habe Gelegenheit gehabt, sie ganz aus der Nähe zu betrachten.

「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」 und 「動詞句」「目的語」「動詞句」「形容詞句」

Ich イヒ pron 僕は 「主語」

bin ...umgegangen ビン...ウム・ゲ・ガンゲン 1 単現・完了形(um | gehen)

v.i(mit と) 交際した、付き合った 「動詞句」

viel mit Erwachsenen フィール・ミット・エアヴァクセネン adv. たくさんの大人たちと 「間接目的語」

und ウント conj. そして

habe ...gehabt, ハーベ...ゲハプト 1 単現・完了形(haben)v.t 持った 「動詞句」

Gelegenheit ゲレーゲンハイト n.f 機会、チャンス 「目的語」

sie ジー pron (zu 不定句) 彼らを〜するという 「形容詞句」

ganz aus der Nähe ガンツ・アウス・デア・ネー

adv. ごく近いところから 「副詞句」

zu betrachten. ツー・ベトラヘン 不定詞 v.t 眺める 「動詞句」

zu 不定句 :

zu+不定詞の前に目的語や副詞をそなえたもので、「不定詞で最後を締めくくられた一種の長い名詞」のようなもので、「主語」や「目的語」として用いられます。

Deutsch zu lernen [,] ist nicht schwer. ドイツ語を学ぶことは、難しく無い。

I

Er sagt mir zu, am nächsten Tag zu kommen. 彼は次の日に来ると僕に約束した。

また、上の文のように「形容詞句」として名詞を修飾する場合や、前置詞+zu 不定句によって「副詞句」が作られることもあります。

Er hatte keinen Mut, ihr die Wahrheit zu sagen.

彼は彼女に本当のことを言う勇気がなかった。

Sie kauft eine Kassette, um Deutsch zu lernen.

彼女はドイツ語を学ぶために、カセットを買う。

Er kam herein, ohne anzuklopfen. 彼はノックしないで、入ってきた。

Die Sache wurde, anstatt besser zu werden, immer schlimmer.

事態は良くなるどころか、ますます悪くなった。

そのことが、僕の大人に対する意見を良く変えることはあまりなかった。

Das hat meiner Meinung über sie nicht besonders gut getan.

「主語」「動詞句」「間接目的語」「補語」

Das ダス pron そのことが

「主語」

hat ...getan. ハット...ゲタン 3 単現・完了形(tun)v.t した

「動詞句」

meiner Meinung マイナー・マイヌング n.f3 格 僕の意見について

「間接目的語」

über sie ユーバー・ジー adj. 彼らに関する

「形容詞句」

nicht besonders gut ニヒト・ベゾントー・グート adj. (否定で) あまり良く～ない

「補語」

少しは聡明そうと思われる人に出会うと、僕はいつも持ち歩いていたデッサン第 1 号を使ってその人を試した。

Wenn ich jemanden traf, der mir ein bisschen heller vorkam, versuchte ich es mit meiner Zeichnung Nr. 1, die ich gut aufbewahrt habe. 「副詞節」, 「動詞」「主語」「目的語」

Wenn ウェン conj. ～する時

「副詞節」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

jemanden イェーマンデーン pron4 格 誰かと

「目的語」

traf, トラフ 1 単過(treffen)v.t 出会う

「動詞」

der デア pron その人は～する

「形容詞節」

mir ミーア pron 僕にとって

「間接目的語」

ein bisschen heller アイン・ビッシェン・ヘラー

n.m1 格 少しは聡明そうな人

「補語」

vorkam, フォアカム 3 単過(vor|kommen)

v.i. ～のように思われる

「動詞」

versuchte フェアズテ 1 単過(versuchen)v.t 試した

「動詞」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

I

es エス pron	その人を	「目的語」
mit meiner Zeichnung Nr. 1,	ミット・マイナー・ツァイトヌング・ヌメ・アインス	
adv.	僕のデッサン第1号を使って	「副詞句」
die デー pron	(目的語) ~する	「形容詞節」
ich イヒ pron	僕は	「主語」
gut グート adv.	しっかり、きちんと	「副詞」
aufbewahrt habe.	アフバヴァート・ハーベ 1 単現・完了形(aufbewahren)	
v.t	保存していた	「動詞句」

僕は、その人が本当に理解力があるかどうかを知りたいと思ったのだ。

<u>Ich wollte sehen, ob er wirklich etwas los hatte.</u>	「主語」「動詞句」「目的語」
Ich イヒ pron 僕は	「主語」
wollte sehen, ヲルテ・ゼーエン 1 単過・願望(wollen+不定詞)v.t 知りたいと思った	「動詞句」
ob オッフ conj. 〜かどうかということ	「目的語」
er エア pron その人が	「主語」
wirklich ヲイルクリヒ adv. 本当に	「副詞」
etwas エトヴァス pron 何かしらのことを	「目的語」
los hatte. ロース・ハッテ 3 単過・時制の一致(los haben)	
v.t 心得がある、理解する	「動詞句」

しかし僕はいつも次のような答えをもらった：「それは帽子だよ」

Aber <u>jedesmal</u> <u>bekam</u> <u>ich</u> zur Antwort: » <u>Das</u> <u>ist</u> <u>ein</u> <u>Hut</u> .«	Aber 「副詞」「動詞」「主語」「目的語」: 《「主語」「動詞」「補語」》
Aber アーバー conj. しかし	
jedesmal イェテース・マル adv. いつも、毎回	「副詞」
bekam ベカム 1 単過(bekommen)v.t もらった	「動詞」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
zur Antwort: ツア・アントヴァート n.f 答えを	「目的語」
»Das ダス pron それは	「主語」
ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である	「動詞」
ein Hut.« アイン・フット n.m 帽子	「補語」

I

それで僕は、そのような人には、ボア大蛇についても、原始林についても、星についても話をしなかった。

Dann redete ich mit ihm weder über Boas, noch über Urwälder, noch über die Sterne.

「副詞」「動詞」「主語」「副詞句」「間接目的語」

Dann ダン adv. それで

「副詞」

redete レデーテ 1 単過(reden)v.i 話した

「動詞」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

mit ihm ミット・イム adv. 彼と、彼に

「副詞句」

weder ウェダー conj.(weder A noch B) A でも B でもないこと

「間接目的語」

über Boas, ユバー・ホアズ adv. ボア大蛇について

「副詞句」

noch über Urwälder, ノッホ・ユバー・ウアウエルダー

adv. 原始林についてでもない

「副詞句」

noch über die Sterne. ノッホ・ユバー・デー・イー・シュテアネ

adv. 星についてでもない

「副詞句」

僕はその人の考え方に合わせた。

Ich stellte mich auf seinen Standpunkt.

「主語」「動詞句」「副詞句」

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

stellte mich シュテルテ・ミヒ 1 単過(sich stellen)v.pr (場所に) 立った、身を置いた

「動詞句」

auf seinen Standpunkt. アウフ・ザイネン・シュタントプンクト adv. 彼の見解に

「副詞句」

僕はその人には、ブリッジやゴルフや政治やネクタイなどについて話をした。

Ich sprach mit ihm über Bridge, Golf, Politik und Krawatten.

「主語」「動詞」「副詞句」「間接目的語」

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

sprach シュプラハ 1 単過(sprechen)v.i 話した

「動詞」

mit ihm ミット・イム adv. 彼と一緒に

「副詞句」

über ユバー prep ~について

「間接目的語」

Bridge, ブリッチュ n.n (トランプ) ブリッジ

「目的語」

Golf, ゴルフ n.n (スポーツ) ゴルフ

「目的語」

Politik ポリチック n.f 政治

「目的語」

und ウント conj. そして

Krawatten. クラヴァッテン pl.n.f ネクタイ

「目的語」

II

するとその大人の人は、かくも分別のある男に出会ったと思って非常に満足するのだった。

Und der große Mensch war äußerst befriedigt, einen so vernünftigen Mann getroffen zu haben.

Und 「主語」「動詞」「補語」「副詞句」

Und ウント conj. そうすると

der große Mensch デア・グロセ・メンシュ n.m1 格 その大人の人は

「主語」

war ヲアール 3 単過(sein)v.i ~だった

「動詞」

äußerst befriedigt, オイサースト・ベフリーデイクト adj. 非常に満足した

「補語」

äußerst オイサースト adv. 非常に、極度に befriedigt ベフリーデイクト 過去分詞 adj. 満足した
adv. (zu 不定詞句・完了形：理由) ~したと

「副詞句」

einen so vernünftigen Mann アイネン・ゾー・フェアニュンフチゲン・マン

n.m4 格 それほど分別のある男に

「目的語」

getroffen zu haben. ゲトロッフェン・ツウ・ハベン 不定詞・完了形(treffen)

v.t 出会った

「動詞句」

II

だから僕は、6 年前にサハラ砂漠で故障にあうまでは、本心で話せる相手がいないまま孤独に過ごしていた。

Ich blieb also allein, ohne jemanden, mit dem ich wirklich hätte sprechen können, bis ich vor sechs Jahren einmal eine Panne in der Wüste Sahara hatte.

「主語」「動詞」「副詞」「補語」「副詞句」, 「副詞節」

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

blieb ブリープ 1 単過(bleiben)v.i ~のままだった

「動詞」

also アルゾー adv. だから、したがって

「副詞」

allein, アライン adj. 一人の、孤独な

「補語」

ohne jemanden, オーネ・イエマンテン adv. 誰もおらずに

「副詞句」

mit dem ミット・デーム adv. その人と

「間接目的語」

ich イヒ pron 僕が

「主語」

wirklich ヲイルクリヒ adv. 本当に

「副詞」

hätte sprechen können, ハッテ・シュプ レヒエン・ケネ 接 II・1 単現・完了形・可能

(können+不定詞)v.i 話せたかもしれない

「動詞句」

bis ビス conj. ~するまで

「副詞節」

ich イヒ pron 僕が

「主語」

vor sechs Jahren フォア・ゼックス・ヤレン adv. 6 年前に

「副詞句」

einmal アインマル adv. 1 度

「副詞」

eine Panne アイネ・パネ n.f4 格 故障を

「目的語」

II

in der Wüste Sahara イン・デア・ウエステ・ザハラ adv. サハラ砂漠で

「副詞句」

hatte. ハッテ 1 単過(haben)v.t あった

「動詞」

僕のエンジンの中で何かが壊れたのだった。

Etwas an meinem Motor war kaputtgegangen.

「主語」「動詞句」

Etwas エトワース pron 何かが

「主語」

an meinem Motor アン・メイネム・モートル adj. 僕のエンジンの

「形容詞句」

an アン prep (行為の対象) 〜において

war kaputtgegangen. ヴァール・カプット・ゲ・ガンゲン 3 単過・完了形(kaputt|gehen)

v.i 壊れた

「動詞句」

そして自分のそばには整備士も乗客たちもいなかったの、僕はたった一人で難しい修理に取り掛かった。それは僕にとっては生死に関わる問題だった。

Und da ich weder einen Mechaniker noch Passagiere bei mir hatte, machte ich mich ganz allein an die schwierige Reparatur. Es war für mich eine Frage auf Leben und Tod.

Und 「副詞」「主語」「目的語」「副詞句」「動詞」,

「動詞句」「主語」「動詞句」「副詞句」「間接目的語」 | 「主語」「動詞」「副詞句」「補語」

Und ウント conj. そして

da ダー adv. そこには

「副詞」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

weder einen Mechaniker noch Passagiere ヴェーダー・アイネン・メハニカー・ノッホ・パッサジール

weder A noch B A でもなく B でもない Mechaniker メハニカー n.m -s/- 機械工

Passagier パッサジール n.m -s/-e (飛行機などの) 乗客、旅客

pl.n 一人の整備士も乗客たちも〜ない

「目的語」

bei mir バイ・ミー adv. 自分のそばに

「副詞句」

hatte, ハッテ 1 単過(haben)v.t (否定文で) いなかった

「動詞」

machte ...mich マハテ...ミヒ 1 単過(sich machen)v.pr(an 〜に) 取りかかった

「動詞句」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

ganz allein ガンツ・アライン adv. たった一人で

「副詞句」

an die schwierige Reparatur. アン・デア・シュヴィーリゲ・レパラトゥール

adv.(an+4 格: 仕事への着手) 難しい修理に

「間接目的語」

schwierig シュヴィーリヒ adj. むずかしい Reparatur レパラトゥール n.f 修理

Es エス pron それは

「主語」

war ヴァール 3 単過(sein)v.i 〜だった

「動詞」

für mich フュール・ミヒ adv. 僕にとって

「副詞句」

eine Frage アイン・フラーゲ n.f1 格 問題

「補語」

II

auf Leben und Tod. アウフ・レーベン・ウント・トート adj. 生死に関わる、生死の 「形容詞句」

僕は辛うじて 8 日分の飲み水を携帯していた。

Ich hatte für kaum acht Tage Trinkwasser mit. 「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」

Ich イッヒ pron 僕は 「主語」

hatte ...mit. ハッテ...ミット 1 単過(mit|haben)v.t 携帯していた、手元にあった 「動詞句」

für kaum acht Tage フェア・カウム・アハ・ターゲ adj. 辛うじて 8 日分の 「形容詞句」

Trinkwasser トリンクワッサー n.n 飲み水を 「目的語」

だから、1 日目の晩には、人が住むあらゆる地域から 1000 マイル離れた砂の上で寝た。

Am ersten Abend bin ich also im Sande eingeschlafen, tausend Meilen von jeder bewohnten Gegend entfernt.

「副詞句」, 「動詞句」「主語」「副詞句」「動詞句」, 「形容詞句」

Am ersten Abend アム・エーステン・アーベント adv.(an dem+3 格) 1 日目の晩には 「副詞句」

bin ...eingeschlafen, ビン...イン・ゲ・シュラーフェン 1 単現・完了形(ein|schlafen)

v.i 寝ついた、寝た 「動詞句」

ich イッヒ pron 僕は 「主語」

also アルゾー adv. だから 「副詞句」

im Sande イム・サンデ adv. 砂の上で 「副詞句」

tausend Meilen タウゼント・マイルン adv. 1000 マイル 「副詞句」

von フォン prep へから 「副詞句」

jeder bewohnten Gegend イェダー・ベウ・ォンテン・ゲーゲント

n.f 人が住むあらゆる地域 「目的語」

bewohnt ベウ・ォント 過去分詞(bewohnen)adj. 住んだ

entfernt. エントフェアント adj. 離れた (Sande を修飾) 「形容詞句」

僕は、海洋の真ん中でいかだに乗って難破している人よりもっと孤立していた。

Ich war viel verlassener als ein Schiffbrüchiger auf einem Floß mitten im Ozean.

「主語」「動詞」「補語」

Ich イッヒ pron 僕は 「主語」

war ヴァール 1 単過(sein)v.i へだった 「動詞」

viel verlassener フィール・フェアラセナー adj. (比較級) もっと孤独な 「補語」

als アルス conj. (比較級+als) へよりも 「副詞句」

ein Schiffbrüchiger イン・シフブリヒガー

n.m1 格(schiffbrüchig adj.) 難破者 「目的語」

auf einem Floß アウフ・アイネム・フロース adj. いかだに乗った 「形容詞句」

II

mitten im Ozean. ミッテン・イム・オーツェアン

adv. 海洋の真ん中で

「副詞句」

だから君たちは、夜明けに奇妙な小さな声が僕を目覚めさせた時の僕の驚きを、想像できるだろう。

Ihr könnt euch daher meine Überraschung vorstellen, als bei Tagesanbruch eine seltsame kleine Stimme mich weckte: 「主語」「動詞句」「副詞」「目的語」「副詞節」

Ihr イー pron 君たちは

「主語」

könnt euch ...vorstellen, ケント・オイ化...フォーアシュテルン 2 複現・可能・推測(sich vor | stellen)

v.pr 想像できるだろう

「動詞句」

daher ダーヘー adv. だから

「副詞」

meine Überraschung マイネ・ユーバーラッシュンク n.f (予期せぬことによる) 驚きを

「目的語」

als アルス conj. ～した時

「副詞節」

bei Tagesanbruch バイ・ターゲスアンブールフ adv. (同時) 夜明けに

「副詞句」

eine seltsame kleine Stimme アイン・セルトザーム・クライン・シュティメ

n.f1 格 奇妙な小さな声が

「主語」

seltsam セルトザーム adj. 奇妙な klein クライン adj. 小さい Stimme シュティメ n.f 声

mich ミヒ pron 僕を

「目的語」

weckte: ウェクテ 3 単過(wecken)v.t 目覚めさせた

「動詞」

「どうか... 僕に羊を描いて！」

»Bitte... zeichne mir ein Schaf!« 《「嘆願」... 「動詞」「間接目的語」「直接目的語」》

»Bitte... ビッテ adv. どうか

「嘆願」

zeichne ツァイネ 命・2 単現(zeichnen)v.t 描いて

「動詞」

mir ミー pron 僕に

「間接目的語」

ein Schaf!« アイン・シャーフ n.n 羊を

「直接目的語」

「なんだって？」

»Wie bitte?«

「問いかけ」

»Wie ウィー adv. 何？

「問いかけ」

bitte?« ビッテ adv. どうかって

「問いかけ」

「僕に羊を描いて...」

»Zeichne mir ein Schaf...«

《「動詞」「間接目的語」「直接目的語」》

»Zeichne ツァイネ 命・2 単現(zeichnen)v.t 描いて

「動詞」

mir ミー pron 僕に

「間接目的語」

II

ein Schaf...« アイ・シャーフ n.n 羊を

「直接目的語」

僕は、まるで稲妻が体を突き抜けたみたいに立ち上がった。

Ich bin auf die Füße gesprungen, als wäre der Blitz in mich gefahren.

「主語」「動詞句」「副詞句」, 「副詞節」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

bin ...gesprungen, ビン...ゲシュプ ルンゲン 1 単現・完了形(springen)

v.i 飛び上がった

「動詞句」

auf die Füße アウフ・デー・フューセ adv. 両足の上に

「副詞句」

→ 立ち上がった

als アルス conj. あたかも～であるかのように

「副詞節」

wäre ...gefahren. ヴェーレ...ゲファーレン 接 II・3 単現・完了形・推測(fahren)

v.i さっと通り抜けた

「動詞句」

der Blitz デア・ブリッツ n.m 稲妻が

「主語」

in mich イン・ミッヒ adv. 僕の体の中を

「副詞句」

僕は自分の目をこすって、周りをしっかりと確認した。

Ich habe mir die Augen gerieben und genau hingeschaut.

「主語」「動詞句」「間接目的語」「直接目的語」「動詞句」und 「副詞」「動詞句」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

habe ...gerieben ハーベ...ゲリーベン 1 単現・完了形(reiben)v.t こすった

「動詞句」

mir ミーア pron 自分の

「間接目的語」

die Augen デー・アウゲン pl.n.n 目を

「直接目的語」

und ウント conj. そして

genau ゲナウ adv. くわしく

「副詞」

hingeschaut. ヒン・ゲシャウト 1 単現・完了形(hin|schauen)v.i まわりを見た

「動詞句」

そこに非常に変わった 1 人の少年が、真剣に僕を見つめているのが見えた。

Da sah ich ein kleines, höchst ungewöhnliches Männchen, das mich ernsthaft betrachtete.

「副詞」「動詞」「主語」「目的語」「形容詞節」

Da ダー adv. そこに

「副詞」

sah サー 1 単過(sehen)v.t 見えた

「動詞」

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

ein kleines, イン・クライネス n.n4 格(klein) 1 人の少年が

「目的語」

höchst ungewöhnliches Männchen, ヘーヒスト・ウンゲウーエンリッヒエス・メンヒェン

n.n4 格 (同格) 非常に変わった少年が

「目的語」

II

höchst ヘヒスト adv. 非常に ungewöhnlich ウンゲ^ウェンリッヒ adj. 普通でない

Männchen マンヒェン n.n 少年

das ダス pron (主語) その少年が～する 「形容詞節」

mich ミッヒ pron 僕を 「目的語」

ernsthaft エアンストハフト adv. 真剣に 「副詞」

betrachtete. ベトラハテ 3 単過(betrachten)v.t じっと見ていた 「動詞」

これが後になって僕が描いた、一番うまくできた彼の肖像画だ。

Hier das beste Porträt, das ich später von ihm zuwege brachte.

「副詞」「主語」, 「形容詞節」

Hier ヒア adv., v.i ここにあるのが～である 「副詞」

das beste Porträt, ダス・ベステ・ポルトレー n.n1 格 最上の肖像画 「主語」

das ダス pron (目的語) ～をする 「形容詞節」

ich イッヒ pron 僕が 「主語」

später シュペーター adv. 後になって 「副詞」

von ihm フォン・イム adj. 彼の 「形容詞句: Porträt」

zuwege brachte. ツウエ^ウェ^ウ・ブラハテ 1 単過(et-4 zuwege bringen)

v.t 成し遂げた 「動詞句」

しかし確かに、この絵は本人ほど魅力的ではない。

Aber das Bild ist bestimmt nicht so bezaubernd wie das Modell.

Aber 「主語」「動詞」「副詞」「補語」

Aber アーバー conj. しかし

das Bild ダス・ビルト n.n その絵は 「主語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i ～である 「動詞」

bestimmt ベストムト adv. 確かに 「副詞」

nicht so bezaubernd ニヒト・ゾー・ベツァウバーント adj. あまり魅力的ではない 「補語」

bezaubernd ベツァウバーント 現在分詞(bezaubern)adj. 魅力的な、魅了する

wie das Modell. ウィー・ダス・モデル adv. モデルほど、本人ほど 「副詞句」

それに関しては、僕は何も出来ない。

Ich kann nichts dafür.

「主語」「動詞」「目的語」「副詞」

Ich イッヒ pron 僕は 「主語」

kann カン 1 単現・本動詞(können)v.t 出来る 「動詞」

nichts ニヒツ pron 何も～ない 「目的語」

dafür. ダフューア adv. それに関して 「副詞」

II

僕は 6 歳の時に大人の人から絵かきというキャリアの外に投げ出されてしまったので、中
の见えない大蛇と中の見える大蛇以外は、絵の描き方を何も学んでいなかった。

Ich war im Alter von sechs Jahren von den großen Leuten aus meiner Malerlaufbahn
geworfen worden und hatte nichts zu zeichnen gelernt als geschlossene und offene
Riesenschlangen.

「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」und「動詞句」「目的語」「動詞句」「副詞句」
Ich イッヒ pron 僕は 「主語」
war ...geworfen worden ヲァール...ゲウオルフェン・ウオアテン 1 単過・完了形・受動(werfen)
v.t(aus 〜の外に) 投げ出された 「動詞句」
im Alter von sechs Jahren イム・アルター・フォン・セックス・ヤレン adv. 6 歳の時に 「副詞句」
von den großen Leuten フォン・デーン・グロースン・ロイテン adv. 大人の人から 「副詞句」
aus meiner Malerlaufbahn アウス・マイナー・マーラー・ラウフバーン
adv. 絵かきというキャリアの外に 「副詞句」
Maler マーラー n.m 絵かき Laufbahn ラウフバーン n.f キャリア、(仕事の) 経歴
und ウント conj. そして
hatte ...zu zeichnen gelernt ハッテ...ツァー・ツァイネン・ゲレアント 1 単過・完了形 (lernen)
v.t(zu 不定詞: 方法) 絵の描き方を学んだ 「動詞句」
nichts ニヒツ pron. 何も〜ない 「目的語」
als geschlossene und offene Riesenschlangen. アルス・ゲシュロッセネ・ウント・オフエネ・リーゼンシュランゲン
adv. 中の見えない大蛇と中の見える大蛇以外は 「副詞句」

そこで僕は、驚きで見開いた目で、その出現者を見つめた。

Ich schaute mir die Erscheinung also mit großen, staunenden Augen an.

「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」「動詞句」
Ich イッヒ pron 僕は 「主語」
schaute mir ...an. シュウテ・ミーア...アン 1 単過(sich-3 an | schauen)
v.pr 見つめた 「動詞句」
die Erscheinung デー・イー・エアシャイング n.f その出現者を 「目的語」
also アルゾー adv. そこで 「副詞句」
mit großen, staunenden Augen ミット・グロースン・シュタウネンデーン・アウゲン
adv. 驚きで見開いた目で 「副詞句」
staunend シュタウネント 現在分詞(staunen)adj. 驚いた

II

人が住む地域から 1000 マイルも離れたところ、僕がいたことを忘れないで欲しい。

Vergesst nicht, dass ich mich tausend Meilen abseits jeder bewohnten Gegend befand.

「動詞句」「目的語」

Vergesst nicht, フェアゲスト・ニヒト 命・2 複現・否定(vergessen)v.t 忘れないで下さい「動詞句」

dass ダス conj. ～ということ「目的語」

ich イヒ pron 僕は「主語」

mich ...befand. ミヒ...ベファント 1 単過(sich-4 befinden)v.pr ～にいた「動詞句」

tausend Meilen タゼント・マイルン adv. 1000 マイルのところに「副詞句」

abseits アップザイツ prep ～から離れた「副詞句」

jeder bewohnten Gegend イェダー・ベウオンテン・ゲーゲント

n.f 人が住むあらゆる地域「目的語」

僕にはその男の子は、道に迷っているようには見えなかったし、疲れ切っているようにも、死ぬほど空腹な様子にも、死ぬほど喉が渴いているようにも、死ぬほど恐れているようにも見えなかった。

Auch schien mir mein kleines Männchen nicht verirrt, auch nicht halbtot vor Müdigkeit.

Hunger, Durst oder Angst. 「副詞」「動詞」「間接目的語」「主語」「補語」, 「補語」

Auch アウフ adv. ～もまた「副詞」

schien シン 3 単過(scheinen)v.i ～であるように見えた「動詞」

mir ミー pron 僕には「間接目的語」

mein kleines Männchen マイン・クライネス・メンヒェン n.n1 格 その男の子は「主語」

nicht verirrt, ニヒト・フェアイルト 過去分詞・否定(verirren)adj. 道に迷った～ない「補語」

auch nicht アウフ・ニヒト adv. ～でもない「副詞句」

halbtot ハルプ・トート adj. 今にも死にそうな「補語」

halb ハルプ adj. 半分の tot トート adj. 死んだ

vor フォア prep (原因) ～のあまり「副詞句」

Müdigkeit, ミューディヒカイト n.f 疲労「目的語」

Hunger, フンガー n.m 空腹「目的語」

Durst トゥアルスト n.m 喉の渴き「目的語」

oder オーダー conj. あるいは

Angst. アングスト n.f 恐れ「目的語」

II

その少年は、人の住むあらゆる地域から 1000 マイル離れた砂漠の真ん中で途方に暮れている少年という印象を全く与えなかった。

Es machte durchaus nicht den Eindruck eines mitten in der Wüste verlorenen Kindes, tausend Meilen von jeder bewohnten Gegend. 「主語」「動詞」「副詞句」「目的語」

Es エス pron その少年は 「主語」

machte マテ 3 単過(machen)v.t (否定文で) 与えなかった 「動詞」

durchaus nicht ツルヒアウス・ニヒト adv. まったく～ない 「副詞句」

den Eindruck デン・アインツルック n.m4 格 印象を 「目的語」

eines アインス pron2 格 そのの 「形容詞句」

mitten in der Wüste ミッテン・インデア・ヒュステ

adv. 砂漠の真ん中で 「副詞句」

verlorenen Kindes, フェアローレン・キンデス

n.n2 格 途方に暮れた子供の 「形容詞句」

tausend Meilen タウゼント・マイル adv. 1000 マイルの 「副詞句」

von jeder bewohnten Gegend. フォン・イエダール・ベリョーントエン・ゲーゲント

adv. 人の住むあらゆる地域から 「副詞句」

やっと話せるようになり、僕は彼に言った：

Als ich endlich sprechen konnte, sagte ich zu ihm:

「副詞節」, 「動詞」「主語」「間接目的語」

Als アルス conj. ～した時 「副詞節」

ich イヒ pron 僕が 「主語」

endlich エントリッヒ adv. ようやく、やっと 「副詞」

sprechen konnte, シュプレヒエン・コンテ 1 単過・可能(können+不定詞)

v.i 話せた、話せるようになった 「動詞句」

sagte サークテ 1 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

zu ihm: ツー・イム adv. 彼に 「間接目的語」

「だけど... こんなところでいったい君は何をしているの？」

»Aber... was machst denn du da?« Aber 「目的語」「動詞」「副詞」「主語」「副詞」

»Aber... アーバー conj. だけど

was ヴァス pron 何を 「目的語」

machst マハスト 2 単現(machen)v.t している 「動詞」

denn デン adv. いったい 「副詞」

du トゥー pron 君は 「主語」

II

da?« ダー adv. そこで、ここで

「副詞」

すると少年はとても重大なことのよう、全く物静かに繰り返した。

Da wiederholte es ganz sanft, wie eine sehr ernsthafte Sache:

「副詞」「動詞」「主語」「副詞句」

Da ダー adv. そこで、すると

「副詞」

wiederholte ヴィーダーホルテ 3 単過(wiederholen)v.t 繰り返した

「動詞」

es エス pron 少年は

「主語」

ganz sanft, ガンツ・ザンフト adv. 全く物静かに

「副詞句」

wie ヴィー conj. どのように

「副詞句」

eine sehr ernsthafte Sache: アイン・ゼーア・エアンシュトハフテ・ザッハ

n.fl 格 とても重大なこと

「目的語」

「どうか... 僕に羊を描いて！」

»Bitte... zeichne mir ein Schaf...«

《「依頼」...「動詞」「間接目的語」「直接目的語」》

»Bitte... ビッテ adv. どうか

「依頼」

zeichne ツァイネ 命・2 単現(zeichnen)v.t 描いてちょうだい

「動詞」

mir ミーア pron 僕に

「間接目的語」

ein Schaf...« アイン・シャーフ n.n 羊を

「直接目的語」

神秘があまりにも印象深い時には、人はあえて抵抗しないものだ。

Wenn das Geheimnis zu eindrucksvoll ist, wagt man nicht zu widerstehen.

「副詞節」, 「動詞句」「主語」

Wenn ウェン conj. すると、～する時には

「副詞節」

das Geheimnis ダス・ゲハイムニス n.n 神秘、謎

「主語」

zu eindrucksvoll ツー・アイントウルクスフォル adj. あまりにも印象深い

「補語」

ist, イスト 3 単現(sein)v.i ～である

「動詞」

wagt ...nicht zu widerstehen. ヴァークト...ニヒト・ツー・ヴァイダーシュテェン 3 単現・意図・否定

(wagen zu+不定詞)v.i あえて抵抗はしない

「動詞句」

man マン pron 人は

「主語」

II

僕には本当に馬鹿らしく見えたのだが、あらゆる人の住居から 1000 マイル離れ、しかも死の危機に瀕しながら、僕はポケットから紙を 1 枚と万年筆を取り出した。

So absurd es mir erschien - tausend Meilen von jeder menschlichen Behausung und in Todesgefahr -, ich zog aus meiner Tasche ein Blatt Papier und eine Füllfeder.

「補語」「主語」「間接目的語」「動詞」, 「副詞句」, 「主語」「動詞」「副詞句」「目的語」
 So absurd ソー・アブシュルト adj. それほど馬鹿らしい 「補語」
 es エス pron それは 「主語」
 mir ミー pron 僕にとっては 「間接目的語」
 erschien エアーン 3 単過(erscheinen)v.i 見えた 「動詞」
 - tausend Meilen タゼント・マイル pl.n.f 1000 マイルのところで 「副詞句」
 von jeder menschlichen Behausung フォン・イエダー・メンシュリッヒェン・ヘ・ハウズング
 adv. あらゆる人の住居から 「副詞句」
 und ウント conj. そして
 in Todesgefahr -, イン・トテスゲファール adv. 死の危機に瀕して 「副詞句」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 zog ツォク 1 単過(ziehen)v.t 取り出した 「動詞」
 aus meiner Tasche アウス・マイナー・タッシェ adv. ぼくのポケットから 「副詞句」
 ein Blatt Papier アイン・ブラット・パピアー n.n 紙を 1 枚 「目的語」
 und ウント conj. そして
 eine Füllfeder. アインェ・フュルフェーダー n.m 万年筆を 「目的語」

しかしそれから、僕は地理と歴史と算数と文法を特に勉強したことを思い出したので、不機嫌そうにその坊やに絵は描けないと言った。その坊やは答えた：

Dann aber erinnerte ich mich, dass ich vor allem Geographie, Geschichte, Rechnen und Grammatik studiert hatte, und mismutig sagte ich zu dem Männchen, dass ich nicht zeichnen könne. Es antwortete: 「副詞句」「動詞句」「主語」「目的語」 und

「副詞」「動詞」「主語」「間接目的語」「直接目的語」
 Dann aber ダン・アーバー adv. しかしそれから 「副詞句」
 erinnerte ...mich, エアエアテ...ミヒ 1 単過(sich-4 erinnern)v.pr 思い出した 「動詞句」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 dass ダス conj. ～ということを 「目的語」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 vor allem フォア・アルム adv. 何よりもまず、特に 「副詞句」
 Geographie, ゲオグラフィー n.f 地理学を 「目的語」
 Geschichte, ゲシヒテ n.f 歴史学を 「目的語」
 Rechnen レヒネン n.n (学校での) 算数を 「目的語」

II

und ウント conj. そして

Grammatik グラマティク n.f 文法を

「目的語」

studiert hatte, スツディート・ハッテ 1 単過・完了形(studieren)v.t 勉強した

「動詞句」

und ウント conj. そして

missmutig ミスムーティヒ adv. 不機嫌そうに

「副詞」

sagte サークテ 1 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

zu dem Männchen, ツー・デーム・メンヒェン adv. その坊やに

「間接目的語」

dass ダス conj. ～ということ

「直接目的語」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

nicht zeichnen könne. ニヒト・ツァイヒネン・ケンネ 接・1 単現・可能・否定(können+不定詞)

v.t 描くことはできない (話者の考え)

「動詞句」

Es エス pron 坊やは

「主語」

antwortete: アントワァテテ 3 単過(antworten)v.i 答えた

「動詞」

「なんでもないよ。僕に羊を描いて」

»Das macht nichts. Zeichne mir ein Schaf.«

《「主語」「動詞」「目的語」 | 「動詞」「間接目的語」「直接目的語」》

»Das ダス pron それは

「主語」

macht マハ 3 単現(machen)v.t する

「動詞」

nichts. ニヒツ pron 何も～ない

「目的語」

Zeichne ツァイヒネ 命・2 単現(zeichnen)v.t 描いて！

「動詞」

mir ミーア pron 僕に

「間接目的語」

ein Schaf. アイン・シャーフ n.n 羊を

「直接目的語」

僕は羊を描いたことが一度もなかったもので、描くことが出来るたった 2 つの絵のうちの 1 つを彼に描いてあげた。

Da ich nie ein Schaf gezeichnet hatte, machte ich ihm eine von den einzigen zwei Zeichnungen, die ich zuwege brachte.

「副詞節」, 「動詞」「主語」「間接目的語」「直接目的語」「副詞句」

Da ダー conj. ～なので

「副詞節」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

nie ニー adv. 一度も～ない

「副詞」

ein Schaf アイン・シャーフ n.n 羊を

「目的語」

gezeichnet hatte, ゲ・ツァイヘネット・ハッテ 1 単過・完了形(zeichnen)v.t 描いた

「動詞句」

machte マハテ 1 単過(machen)v.t (絵を) 描いた

「動詞」

II

ich イヒ pron 僕は	「主語」
ihm イム pron 彼に	「間接目的語」
eine アイン pron 1つを	「直接目的語」
von フォン adv. ～から	「副詞句」
den einzigen zwei Zeichnungen, デン・アインツィゲン・ツヴァイ・ツァイトゥンゲン	
pl.n.f3 格 2つだけの絵	「目的語」
die デー pron.pl (目的語) ～する	「形容詞節」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
zuwege brachte. ツヴェーゲ・ブラハテ 1 単過(zuwege bringen)	
v.t 成し遂げた	「動詞句」
描くことができた	

中の見えない大蛇の絵を。そしてその坊やが言ったことを聞いて、僕は唖然とした。

Die von der geschlossenen Riesenschlange. Und ich war höchst verblüfft, als ich das Männchen sagen hörte: 「目的語」 | Und 「主語」「動詞」「補語」「副詞節」

Die デー pron.f4 格 それを (Zeichnung の代用) 「目的語」

von フォン prep ～の、～から 「副詞句」

der geschlossenen Riesenschlange. デア・ゲシュロッセネ・リーゼンシュランゲン

n.f3 格 中の見えない大蛇 「目的語」

geschlossenen ゲシュロッセネ adj.3 格 非公開の Riesenschlange リーゼンシュランゲン pl.3 格 大蛇

Und ウント conj. そして

ich イヒ pron 僕は 「主語」

war ヲアール (sein)v.i ～だった 「動詞」

höchst verblüfft, ヘルスト・フェアブリュフト adj. まったく唖然とした 「補語」

höchst ヘルスト adv. 非常に verblüfft フェアブリュフト 過去分詞(verblüffen)adj. 唖然とした

als アルス conj. ～した時、～して 「副詞節」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

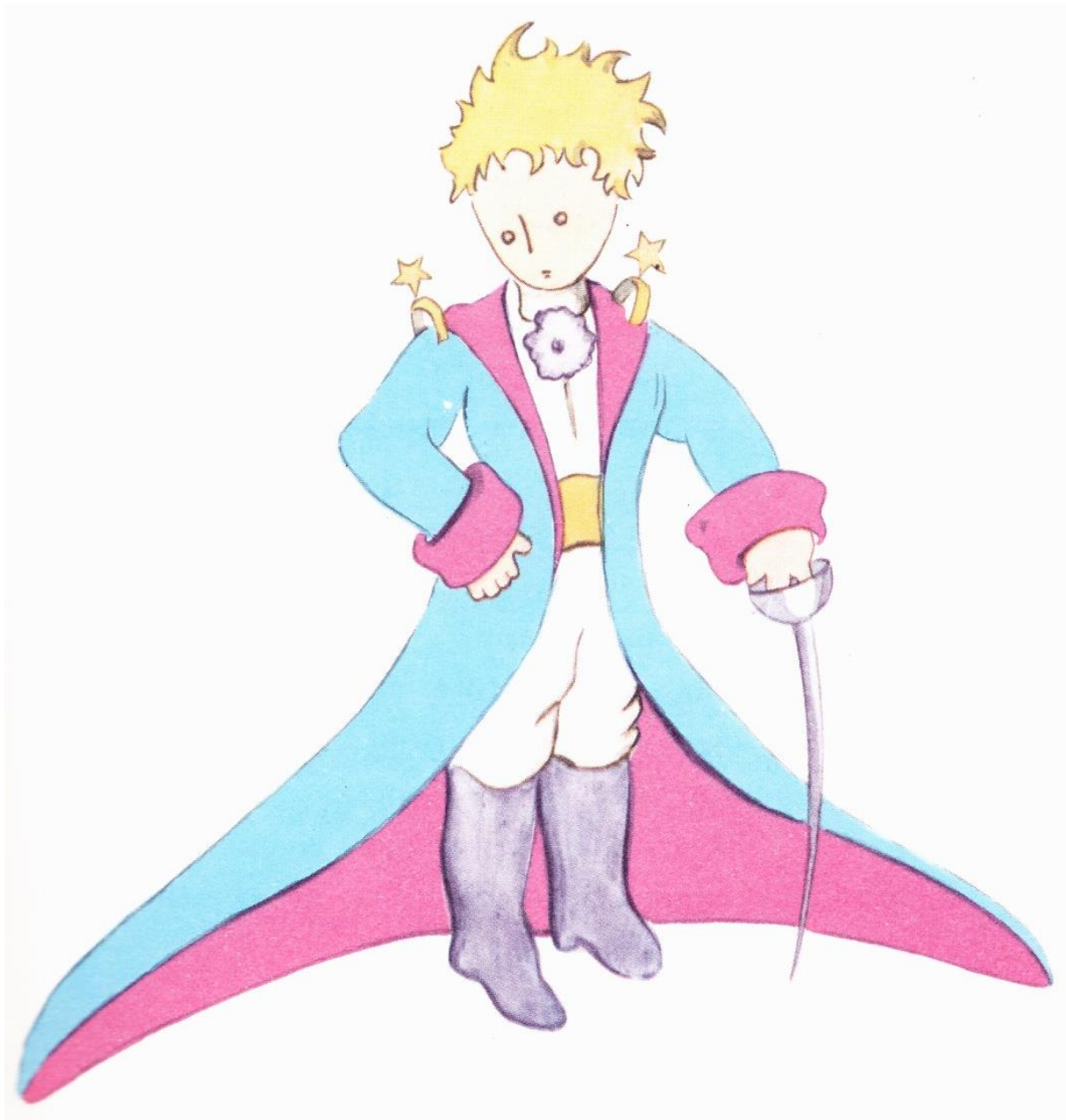
das Männchen ダス・メンヒェン n.n その坊やが 「目的語」

sagen ザーゲン 不定詞・Männchen の動作 v.i 言う 「補語」

hörte: ハーテ 1 単過・知覚動詞(hören)

v.t(j-4+不定詞 人-4 が～するのを) 聞いた 「動詞」

II



「違う、違う！大蛇に飲み込まれた象なんて欲しくないよ」

»Nein, nein! Ich will keinen Elefanten in einer Riesenschlange.

《「応答」 | 「主語」「動詞」「目的語」》

»Nein, nein! ナイン・ナイン adv. 違う、違う！

「応答」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

will ヱイル 1 単現(wollen)v.t 望む

「動詞」

keinen Elefanten カイン・エレファンテン n.m4 格 象を～ない

「目的語」

Elefant は男性弱変化名詞で 2,3,4 格の語尾に-en が付く

II

in einer Riesenschlange. イン・アイナー・リーゼンシュラング

adj. 大蛇に飲み込まれた、大蛇の中にいる

「形容詞句」

「大蛇はとても危険だし、象は広い場所が必要だよ」

Eine Riesenschlange ist sehr gefährlich und ein Elefant braucht viel Platz.

《「主語」「動詞」「補語」 und 「主語」「動詞」「目的語」》

Eine Riesenschlange アイン・リーゼンシュラング n.f 大蛇は

「主語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である

「動詞」

sehr gefährlich セーア・ゲフェアリッヒ adj. とても危険な

「補語」

und ウント conj. そして

ein Elefant アイン・エレファント n.m 象は

「主語」

braucht ブラウト 3 単現(brauchen)v.t 必要とする、使う

「動詞」

viel Platz. フィール・プ ラツ n.m 沢山の場所を

「目的語」

「僕のところは、とても狭いんだ。僕は羊が必要なんだよ。僕に羊を描いて」

Bei mir zu Hause ist wenig Platz. Ich brauche ein Schaf. Zeichne mir ein Schaf.«

《「副詞句」「動詞」「主語」 | 「主語」「動詞」「目的語」

「動詞」「間接目的語」「直接目的語」》

Bei mir zu Hause バイ・ミー・ツー・ハウゼ adv. 僕のところは

「副詞句」

ist イスト 3 単現(sein)v.i (存在) ~がある

「動詞」

wenig Platz. ウェニッヒ・プ ラツ n.m ほんのわずかの場所が

「主語」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

brauche ブラウハ 1 単現(brauchen)v.t 必要である

「動詞」

ein Schaf. アイン・シャーフ n.n 羊が

「目的語」

Zeichne ツァイネ 命・2 単現(zeichnen)v.t 描いてちょうだい

「動詞」

mir ミーア pron 僕に

「間接目的語」

ein Schaf.« アイン・シャーフ n.n 羊を

「直接目的語」

そこで僕は描いた。

Also habe ich gezeichnet.

「副詞」「動詞句」「主語」「動詞句」

Also アルゾ adv. そこで

「副詞」

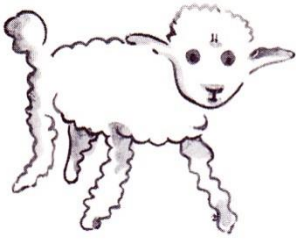
habe ...gezeichnet. ハーベ ...ゲ・ツァイネット 1 単現・完了形(zeichnen)v.i 描いた

「動詞句」

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

II



その坊やは注意深く眺めてから、こう言った：

Das Männchen schaute aufmerksam zu, dann sagte es:

「主語」「動詞句」「副詞」「動詞句」, 「副詞」「動詞」「主語」

Das Männchen ダス・マンヘン n.n その坊やは 「主語」
 schaute ...zu, シャウテ...ツ 3 単過(zu | schauen)v.i じっと眺めた 「動詞句」
 aufmerksam アウフマク・ザーム adv. 注意深く 「副詞」
 dann ダン adv. それから 「副詞」
 sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 es: エス pron 彼は 「主語」

「違う！これはすでにひどい病気にかかっている。別のを描いて」

»Nein! Das ist schon sehr krank. Mach ein anderes.«

《「応答」 | 「主語」「動詞」「補語」 | 「動詞」「目的語」》

»Nein! ナイン adv. 違う！ 「応答」
 Das ダス pron これは 「主語」
 ist イスト 3 単現(sein)v.i ～である 「動詞」
 schon sehr krank. ショーン・ゼーア・クランク adj. すでにひどい病気の 「補語」
 Mach マハ 命・2 単現(machen)v.t 描いて 「動詞」
 ein anderes.« アイン・アンデレス n.n(ein anderes Schaf の略)4 格 別のを 「目的語」

僕は描いた。

Ich zeichnete.

「主語」「動詞」

Ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 zeichnete. ツァイケテ 1 単過(zeichnen)v.i 描いた 「動詞」



II

僕の友達は親しそうにまた思いやり深そうに微笑んだ。

Mein Freund lächelte artig und mit Nachsicht:

「主語」「動詞」「副詞句」

Mein Freund マイン・フロイント n.m 僕の友達は

「主語」

lächelte レヒェルテ 3 単過(lächeln)v.i 微笑んだ

「動詞」

artig アルティヒ adv. 礼儀正しく、親しそうに

「副詞」

und ウント conj. そして

mit Nachsicht: ミット・ナーハズィヒト adv. 思いやり深く

「副詞句」

「よく見て... これは羊じゃなくて、雄羊だよ。角があるじゃないか...」

»Du siehst wohl... das ist kein Schaf, das ist ein Widder. Es hat Hörner...«

《「主語」「動詞」「副詞」...「主語」「動詞」「補語」,「主語」「動詞」「補語」

「主語」「動詞」「目的語」》

»Du トゥ pron 君は

「主語」

siehst ジースト 2 単現・依頼(sehen)v.t 見てちょうだい

「動詞」

wohl... ヴォール adv. しっかり、よく

「副詞」

das ダス pron これは

「主語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である

「動詞」

kein Schaf, カイン・シャーフ n.n 羊〜ない

「補語」

das ダス pron これは

「主語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である

「動詞」

ein Widder. アイン・ヴィダー n.m 雄羊

「補語」

Es エス pron それは

「主語」

hat ハット 3 単現(haben)v.t ある

「動詞」

Hörner...« ハアー pl.n.n 角

「目的語」

そこで僕はもう一度スケッチを描いた。だがそれは前作と同様に拒絶された。

Ich machte also meine Zeichnung noch einmal. Aber sie wurde ebenso abgelehnt wie die vorigen:

「主語」「動詞」「副詞」「目的語」「副詞句」

Aber 「主語」「動詞句」「副詞」「動詞句」「副詞句」

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

machte マハテ 1 単過(machen)v.t (絵を) 描いた

「動詞」

also アルゾー adv. そこで

「副詞」

meine Zeichnung ツァイヒヌング n.f スケッチを

「目的語」

noch einmal. ノッホ・アインマル adv. もう一度

「副詞句」

Aber アーバー conj. しかし

sie ジー pron.f その絵は

「主語」

II

wurde ...abgelehnt ウルテ...アップ・ゲ・レント 3 単過・受動(ab | lehnen)

v.t 拒絶された

「動詞句」

ebenso エーベンゾー adv. 同じように

「副詞」

wie die vorigen: ヴィー・ディー・フォーリゲン adv. (比較) 前作と

「副詞句」

die vorigen ディー・フォーリゲン pl.n1 格 前の絵 (形容詞の名詞化)



「それはもう年寄りだよ。僕は長生きする羊が欲しいんだ」

»Das ist schon zu alt. Ich will ein Schaf, das lange lebt.«

《「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞」「目的語」》

»Das ダス pron これは

「主語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である

「動詞」

schon zu alt. ショーン・ツー・アルト adj. もう年を取りすぎている

「補語」

Ich イヒ pron 私は

「主語」

will ヴィル 1 単現(wollen)v.t 欲しい、望む

「動詞」

ein Schaf, アイン・シャフ n.n 羊を

「目的語」

das ダス pron (主語) ~する

「形容詞節」

lange ランゲ adv. 長く

「副詞」

lebt.« レフト 3 単現(leben)v.i 生きる

「動詞」

僕は、エンジンを整備するために急いでいたので、我慢ができなくなって、こんなスケッチをいいかげんに描きながって、それを渡しながらかんやうに言った。

Mir ging die Geduld aus, es war höchste Zeit, meinen Motor auszubauen, so kritzelte ich diese Zeichnung da zusammen und knurrte dazu:

「間接目的語」「動詞句」「主語」, 「動詞」「補語」「副詞句」,

「副詞」「動詞句」「主語」「目的語」「副詞」「動詞句」 und 「動詞」「副詞」

Mir ミーア pron 僕にとって

「間接目的語」

ging ...aus, キング...アウス 3 単過(aus | gehen)v.i 尽きた

「動詞句」

die Geduld ディー・ゲトウルト n.f 忍耐が

「主語」

es エス pron (時間)

war ヴァール 3 単過(sein)v.i ~だった

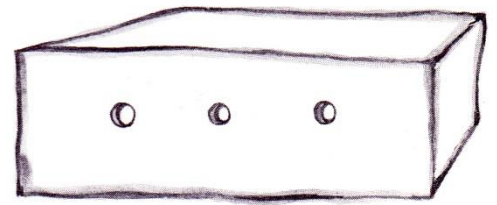
「動詞」

höchste Zeit, ヘヒステ・ツァイト n.fl 格 1 刻を争う時間

「補語」

II

meinen Motor	マイネン・モートル	n.m4 格	僕のエンジンを	「目的語」
auszubauen,	アウス・ツァー・バウエン	zu 不定詞・目的	v.t 整備するのに	「副詞句」
so	ゾー	adv.	それで	「副詞」
kritzelte ...zusammen	クリツェルテ...ツァーメン	1 単過(zusammen kritzeln)		
v.t	いいかげんに描きなぐった			「動詞句」
ich	イヒ	pron	僕は	「主語」
diese Zeichnung	デーゼ・ツァイトゥング	n.f	このスケッチを	「目的語」
da	ダー	adv.	そこに	「副詞」
und	ウント	conj.	そして	
knurrte	クヌルテ	1 単過(knurren)v.i	うなるように言った	「動詞」
dazu:	ダーツァー	adv.	その絵に加えて	「副詞」



「これは箱だよ。君が欲しがっているヒツジは、その中にいるよ」

»Das ist die Kiste. Das Schaf, das du willst, steckt da drin.«

《「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞」「副詞句」》

»Das	ダス	pron	これは	「主語」
ist	イスト	3 単現(sein)v.i	〜である	「動詞」
die Kiste.	デー・キステ	n.f	箱	「補語」
Das Schaf,	ダス・シャフ	pron	ヒツジは	「主語」
das	ダス	pron	(目的語) 〜する	「形容詞節」
du	トゥ	pron	君が	「主語」
willst,	ウィルスト	2 単現(wollen)v.t	欲しい	「動詞」
steckt	シュテクト	3 単現(stecken)v.i	いる	「動詞」
da drin.	ダー・ドリッ	adv.	その中に	「副詞句」

それから僕は、僕の幼い批評家の顔がぱっと輝くのを見てとても驚いた。

Und ich war höchst überrascht, als ich das Gesicht meines jungen Kritikers aufleuchten sah:

「主語」「動詞」「補語」「副詞節」

Und ウント | conj. | そして | || ich | イヒ | pron | 僕は | 「主語」 |
| war | ヴァール | 1 単過(sein)v.i | 〜だった | 「動詞」 |
| höchst überrascht, | ヘーヒスト・ユーバーラシュト | adj. | とても驚いた | 「補語」 |

II

als アルス conj. ～するとき、～して	「副詞節」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
das Gesicht ダス・ゲズィヒト n.n その顔を	「目的語」
meines jungen Kritikers メィネス・ユンゲン・クリチカース	
n.m2 格 僕の若い批評家の	「形容詞句」
aufleuchten アウフ・ロイテシ 不定詞 v.i ぱつと輝く	「補語」
sah: ザー 1 単過・知覚(sehen)v.t (人+不定詞) (人が～するのを) 見た	「動詞」

「僕が欲しいと思っていたのは、まったくこんなのだよ。このヒツジはたくさん草を食べると思うかい？」

»Das ist ganz so, wie ich es mir gewünscht habe. Meinst du, dass dieses Schaf viel Gras braucht?«	《「主語」「動詞」「補語」 「動詞」「主語」「目的語」》
»Das ダス pron それは	「主語」
ist イスト 3 単現(sein)v.i ～である	「動詞」
ganz so, ガンツ・ゾー adj. まったくその様な	「補語」
wie ヱィー conj. ～のように	「副詞節」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
es エス pron それを	「目的語」
mir ミーア pron 自分のために	「間接目的語」
gewünscht habe. ゲ'ヴァンシュト・ハーベ 1 単現・完了形(wünschen)	
v.t 欲しいと思っていた	「動詞句」
Meinst マィンスト 2 単現・疑問文(meinen)v.t 思うかい？	「動詞」
du, ドゥ pron 君は	「主語」
dass ダス conj. ～ということを	「目的語」
dieses Schaf ティーゼ'ス・シャーフ n.n1 格 このヒツジは	「主語」
viel Gras フィール・グラス n.n たくさんの草を	「目的語」
braucht?« ブラウフト 3 単現(brauchen)v.t 食べる	「動詞」

「どうして？」

»Warum?«	「応答」
»Warum?« ヲ'アルム adv. どうして？	「応答」

II

「だって僕のところは全く狭いから...」

»Weil bei mir zu Hause alles ganz klein ist...« 《Weil 「副詞句」「主語」「補語」「動詞」》

»Weil ウェイル conj. ~なので、だって~

bei mir zu Hause ベイ・ミー・ツウ・ハウゼ adv. 僕のところは 「副詞句」

alles アレス pron. すべてが 「主語」

ganz klein ガンツ・クライン adj. まったく小さい 「補語」

ist...« イスト 3 単現(sein)v.i. ~である 「動詞」

「それはきっと大丈夫だよ。僕は君にまったく小さいヒツジをあげたのだから」

»Es wird bestimmt ausreichen. Ich habe dir ein ganz kleines Schaf geschenkt.«

《「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」

「主語」「動詞句」「間接目的語」「直接目的語」「動詞句」》

»Es エス pron. それは 「主語」

wird ...ausreichen. ウィルト...アウスライエン 3 単現・推量(werden+不定詞)

v.i. 十分だと思う 「動詞句」

bestimmt ベシュティムト adv. きっと 「副詞」

Ich イヒ pron. 僕は 「主語」

habe ...geschenkt.« ハーベ...ゲシェンクト 1 単現・完了形(schenken)v.t. あげた 「動詞句」

dir ディアー pron. 君に 「間接目的語」

ein ganz kleines Schaf アイン・ガンツ・クラインス・シャーフ n.n. まったく小さいヒツジを 「直接目的語」

彼はスケッチの上に頭を傾けた。

Er neigte den Kopf über die Zeichnung: 「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」

Er エア pron. 彼は 「主語」

neigte ナイクテ 3 単過(neigen)v.t. 傾けた 「動詞」

den Kopf デン・コプフ n.m. 頭を 「目的語」

über die Zeichnung: ユーバー・ディー・ツァイヌング adv. スケッチの上に 「副詞句」

「それほど小さくはないな... だけど、ちょっと見て！寝てしまったよ...」

»Nicht so klein wie... Aber sieh nur! Es ist eingeschlafen...«

《「補語」 | Aber 「動詞句」 | 「主語」「動詞句」》

»Nicht so klein ニヒト・ゾー・クライン adj. そんなに小さくない 「補語」

wie... ヴィー adv. (君が言う) それほど 「副詞」

Aber アーバー conj. しかし

sieh nur! シー・ヌー 命・2 単現(sehen+nur)v.t. ちょっと見て！ 「動詞句」

III

Es エス pron それは (羊が) 「主語」
 ist eingeschlafen...« イスト・アイン・ゲシュラーフェン 3 単現・完了形(ein | schlafen)
 v.i 眠り込んだ 「動詞句」

このようにして、僕はその王子様と知り合いになった。

So machte ich die Bekanntschaft des kleinen Prinzen. 「副詞」「動詞」「主語」「目的語」
 So ザー adv. そんな風にして 「副詞」
 machte マハテ 1 単過(machen)v.t 作った 「動詞」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 die Bekanntschaft テー・ベカントシャフト n.f 面識、交友 「目的語」
 des kleinen Prinzen. デス・クライン・プリンツェン n.m2 格 その王子様との 「形容詞句」
 j-2 Bekanntschaft machen 「人・2 と知り合いになる」
 Prinz は男性弱変化名詞なので、2, 3, 4 格で -n か -en が付く

III

王子様がどこから来たのかを理解するためには、長い時間が必要だった。

Ich brauchte lange Zeit, um zu verstehen, woher er kam.
 「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」
 Ich イヒ pron 僕は 「主語」
 brauchte ブラウヒテ 1 単過(brauchen)v.t ～を必要とした 「動詞」
 lange Zeit, ランゲ・ツァイト n.f4 格 長い時間 「目的語」
 um zu verstehen, ウム・ツー・フェアシュテエン adv. ～について理解するために 「副詞句」
 woher ヴォェア adv. どこから～するかということ 「目的語」
 er エア pron 彼が 「主語」
 kam. カム 3 単過(kommen)v.i 来た 「動詞」

僕にはたくさんの質問をする王子様は、僕の質問は決して聞こうとしないように見えた。

Der kleine Prinz, der viele Fragen am mich richtete, schien die meinen nie zu hören.
 「主語」「動詞」「補語」
 Der kleine Prinz, テア・クライン・プリンツ n.m1 格 王子様は 「主語」
 der テア pron (主語) ～する 「形容詞節」
 viele Fragen フィーレ・フラーゲン pl.n.f4 格 沢山の質問を 「直接目的語」
 am mich アム・ミヒ adv. 僕に 「間接目的語」
 richtete, リヒテテ 3 単過(richten)v.t (質問) した 「動詞」
 eine Frage an j-4 richten 「人・4 に質問する」

III

schien シン 3 単過(scheinen)v.i(+zu 不定詞) (～である) ように見えた 「動詞」

die meinen+zu 不定詞 デー・マイネ

pron.pl4 格 (Fragen が省略されている) 僕の質問を～する 「補語」

nie zu hören. ニー・ツェ・ハーレン 不定詞・否定 v.t 決して聞こうとしない 「動詞句」

たまたま小耳にはさんだ彼の言葉が、彼の秘密を少しずつ僕に明らかにしてくれた。

Zufällig aufgefangene Worte haben mir nach und nach sein Geheimnis enthüllt.

「主語」「動詞句」「間接目的語」「副詞句」「直接目的語」

Zufällig ツーフェーリッヒ adv. 偶然、たまたま 「副詞」

aufgefangene アウフゲ・ファンゲネ adj. 小耳にはさんだ 「形容詞」

Worte ウォアテ pl.n.n(Wort) 言葉は 「主語」

haben ...enthüllt. ハーベン...ェントヒュルト 3 複現・完了形(enthüllt)

v.t(j-3 et-4 人-3 に何-4 を) 表した 「動詞句」

mir ミーア pron 僕に 「間接目的語」

nach und nach ナーハ・ウント・ナーハ adv. 次第に、ゆっくり 「副詞句」

sein Geheimnis ザイン・ゲ・ハイムニス n.n 彼の秘密を 「直接目的語」

それから、彼が初めて僕の飛行機を見て、尋ねた (僕は決して飛行機は描かない、僕には複雑すぎるものだから) :

So fragte er, als er zum erstenmal mein Flugzeug sah (ich werde mein Flugzeug nicht zeichnen, das ist eine viel zu komplizierte Sache für mich):

「副詞」「動詞」「主語」, 「副詞節」

(「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」, 「主語」「動詞」「補語」)

So ソー adv. そうして、それから 「副詞」

fragte フラーケ 3 単過(fragen)v.t 尋ねた 「動詞」

er, エア pron 彼は 「主語」

als アルス conj. ～するとき 「副詞節」

er エア pron 彼が 「主語」

zum erstenmal ツーム・エアステンマル adv. 初めて 「副詞句」

zum ersten Mal の短縮形

mein Flugzeug マイン・フルークツォイク n.n 僕の飛行機を 「目的語」

sah サー 3 単過(sehen)v.t 見た 「動詞」

(ich イッヒ pron 僕は 「主語」

werde ...nicht zeichnen, ウェアデ ...ニヒト・ツァヒネ 1 単現・意志・否定(werden+不定詞)

v.t 決して描かない 「動詞句」

mein Flugzeug マイン・フルークツォイク n.n 僕の飛行機を 「目的語」

III

das ダス pron それは 「主語」
 ist イスト 3 単現(sein)v.i 〜である 「動詞」
 eine viel zu komplizierte Sache アイン・フィール・ツー・コンプ リツィーアテ・ザ ッハ
 n.f 複雑すぎる物 「補語」
 für mich): フーア・ミッヒ adv. 僕にとって 「副詞句」

「その物は、いったい何なの？」

»Was ist das für ein Ding da?« 《「補語」「動詞」「主語」「補語」「主語」》
 »Was ...für ein Ding ヲアス...フーア・アイン・テ ィング pron 何のための物 「補語」
 ist イスト 3 単現(sein)v.i 〜である 「動詞」
 das ダス pron それは 「主語」
 da?« ダー adv. そこにある 「副詞」

「これは物じゃないよ。これは飛ぶんだよ。これは飛行機だよ」

»Das ist kein Ding. Das fliegt. Das ist ein Flugzeug.«
 《「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞」 | 「主語」「動詞」「補語」》
 »Das ダス pron それは 「主語」
 ist イスト 3 単現(sein)v.i 〜である 「動詞」
 kein Ding. カイン・テ ィング n.n 物で〜ない 「補語」
 Das ダス pron それは 「主語」
 fliegt. フリークト 3 単現(fliegen)v.i 飛ぶ 「動詞」
 Das ダス pron それは 「主語」
 ist イスト 3 単現(sein)v.i 〜である 「動詞」
 ein Flugzeug.« アイン・フルクツォイク n.n 飛行機 「補語」

そして僕は空を飛ぶんだと、彼に伝える事が出来て誇らしかった。すると、彼は叫んだ。

Und ich war stolz, ihm sagen zu können, dass ich fliege. Da rief er:
 Und 「主語」「動詞」「補語」「副詞句」 | 「副詞」「動詞」「主語」
 Und ウント conj. そして
 ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 war ヲアール 1 単過(sein)v.i 〜だった 「動詞」
 stolz, シュトルツ adj. 誇らしげな 「補語」
 ihm イム pron (理由) 彼に〜して 「副詞句」
 sagen zu können, サーゲン・ツー・ケネ 不定詞・可能 v.t 言うことが出来る 「動詞句」
 dass ダス conj. 〜ということを 「目的語」
 ich イッヒ pron 僕は 「主語」

III

fliege. フリーゲ 1 単現(fliegen)v.i 飛ぶ

「動詞」

Da ダー adv. すると

「副詞」

rief リーフ 3 単過(rufen)v.i 叫んだ

「動詞」

er: エア pron 彼は

「主語」



「なんだって？君は空から落ちてきたの？」

»Wie! Du bist vom Himmel gefallen?«

《「感嘆」 | 「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」》

»Wie! ヴァー adv. なんだって！

「感嘆」

Du ドゥ pron 君は

「主語」

bist ...gefallen?« ビスト...ゲファレン 2 単現・完了形(fallen)v.i 落ちてきた

「動詞句」

vom Himmel フォム・ヒメル adv. 空から

「副詞句」

「そうだよ」と、僕は謙虚に言った。

»Ja«, sagte ich bescheiden.

《「応答」》, 「動詞」「主語」「副詞」

»Ja«, ヤー adv. はい、そうです

「応答」

sagte サークテ 1 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

III

ich イヒ pron 僕は 「主語」
 bescheiden. ベシヤイェン adv. 控えめに、謙虚に 「副詞」

「ああ、それは本当におかしいな」

»Ah! Das ist ja lustig...« 《「感嘆」 | 「主語」「動詞」「補語」》
 »Ah! アー int. ああ 「感嘆」
 Das ダス pron それは 「主語」
 ist イスト 3 単現(sein)v.i 〜である 「動詞」
 ja ヤー adv. まさか、本当に 「副詞」
 lustig...« ルステヒ adj. おかしな 「補語」

それから王子様はどこか勝ち誇ったように高笑いしたので、僕はひどくイライラした。

Und der kleine Prinz bekam einen ganz tollen Lachanfall, der mich ordentlich ärgerte.

Und 「主語」「動詞」「目的語」, 「主語」「目的語」「副詞」「動詞」

Und ウント conj. そして

der kleine Prinz テア・クライネ・プリンツ n.m 王子様は 「主語」
 bekam ベカム 3 単過(bekommen)v.t (感情を) 持つに至った 「動詞」
 einen ganz tollen Lachanfall, アイン・ガント・トレン・ラフ・アンファル n.m4 格 高笑いを 「目的語」
 toll トル adj. 羽目を外した Lache ラヘ n.f 笑い声 Anfall アンファル n.m 激発
 der テア pron.m それが 「主語」
 mich ミヒ pron 僕を 「目的語」
 ordentlich オアデントリヒ adv. 十分に、ひどく 「副詞」
 ärgerte. エアゲルテ 3 単過(ärgern)v.t 怒らせた、苛立たせた 「動詞」

高笑い :

高笑いとは、大声で笑うことである。しかしながら純粋に「楽しい・面白い」といった感情を表すものと言うよりは、嘲笑ったり、勝ち誇ったり、少し歪んだ感情を含んだ笑いであることが多い。

フランス語の原文では、

Et le petit prince eut **un très joli éclat de rire** qui m'irrita beaucoup.のように、「可愛らしくけらけら笑った」と単純な印象を述べているが、このドイツ語版では王子様の心の中を探って「勝ち誇ったように高笑いをした」と表現しているのが、国民性の相違なのか？

III

僕の事故が真剣に受け止められるように、僕はそれについては大事にしたかった。けれども、彼は話し続けた。

Ich lege Wert darauf, dass meine Unfälle ernst genommen werden. Er aber fuhr fort:

「主語」「動詞」「目的語」「副詞」「副詞節」 | 「主語」aber「動詞句」

Ich イッヒ pron 僕は「主語」

lege レーゲ 1 単現(legen)v.t 横たえる、置く「動詞」

Wert ウェーアト n.m 重要性を、意味を「目的語」

darauf, ダラウフ adv. それについての「副詞」

dass ダス conj. ～するために「副詞節」

meine Unfälle マイネ・ウンフェレ pl.n.m 僕の事故が「主語」

ernst エンスト adv. 真面目に、真剣に「副詞」

genommen werden. ゲノメン・ウェアデン 3 複現・受動(nehmen)

v.t 受け取られる「動詞句」

Er エア pron 彼は「主語」

aber アーバー conj. しかし

fuhr fort: フェア・フォアト 3 単過(fort|fahren)v.i 続行した「動詞句」

「つまり君も空から来たんだ！ いったいどの惑星から来たの？」

»Also auch du kommst vom Himmel! Von welchem Planeten bist du denn?«

《「副詞」「主語」「動詞」「副詞句」 | 「副詞句」「動詞」「主語」「副詞」》

»Also アルゾー adv. つまり「副詞」

auch du アウフ・ドゥー pron 君も「主語」

kommst コムスト 2 単現(kommen)v.i 来た「動詞」

vom Himmel! フォム・ヒメル adv. 空から「副詞句」

Von welchem Planeten フォン・ヴェルヘルム・プラネーテン adv. どの惑星から「副詞句」

bist ビスト 2 単現(sein)v.i 来た「動詞」

du ドゥ pron 君は「主語」

denn?« デン adv. いったい「副詞」

すると王子様がここにいる謎を解く光が僕に差し込んできたので、僕はあわてて尋ねた：

Da ging mir ein Licht auf über das Geheimnis seiner Anwesenheit und ich fragte

hastig: 「副詞」「動詞」「間接目的語」「主語」und「主語」「動詞」「副詞」

Da ダー adv. そこで、そこに「副詞」

ging ギング 3 単過(gehen)v.i 達した「動詞」

mir ミーア pron 僕に「間接目的語」

ein Licht アイン・リヒト n.n 光が「主語」

III

auf über das Geheimnis アウフ・ユーバー・ダス・ゲハイムニス adj. 謎についての 「形容詞句」

seiner Anwesenheit サイナー・アンヴェゼンハイト

n.f2 格 彼がその場にいることの

「形容詞句」

und ウント conj. そして

ich イヒ pron 僕は

「主語」

fragte フラーゲ 1 単過(fragen)v.t 尋ねた

「動詞」

hastig: ハステヒ adv. 急いで、あわてて

「副詞」

「それじゃあ、君は他の惑星から来たの？」

»Du kommst also von einem anderen Planeten?«

《「主語」「動詞」「副詞句」》

»Du トゥ pron 君は

「主語」

kommst コムスト 2 単現(kommen)v.i 来た

「動詞」

also アルゾー adv. じゃあ

「副詞」

von einem anderen Planeten?« フォン・エイネム・アンデレン・プラネーテン

adv. 他の惑星から

「副詞句」

しかし彼は答えなかった。彼は僕の飛行機を見ながら、ただ静かに首を振った。

Aber er antwortete nicht. Er schüttelte nur sanft den Kopf, indem er mein Flugzeug musterte: Aber 「主語」「動詞句」 | 「主語」「動詞句」「副詞句」「目的語」「副詞節」

Aber アーバー conj. しかし

er エア pron 彼は

「主語」

antwortete nicht. アントヴェ・オアテ・ニヒト 3 単過・否定(antworten)v.i 答えなかった

「動詞句」

Er エア pron 彼は

「主語」

schüttelte シュッテルテ 3 単過(schütteln)v.t (激しく) 振った

「動詞」

nur sanft ノーア・ザンフト adv. ただ静かに

「副詞句」

den Kopf, デン・コフ n.m4 格 頭を、首を

「目的語」

indem インデーム conj. ～しながら

「副詞節」

er エア pron 彼は

「主語」

mein Flugzeug マイン・フルークツォイク n.n4 格 僕の飛行機を

「目的語」

musterte: ムステルテ 3 単過(mustern)v.t じろじろ見た

「動詞」

「だがしかし、これを使っても、それ程遠くからここに来ることは出来ないな...」

»Freilich, auf dem Ding da kannst nicht allzu weit herkommen...«

《「副詞句」「動詞句」「副詞句」「動詞句」》

»Freilich, フライヒ adv. ただしかし、もちろん

「副詞」

auf dem Ding アウフ・デーム・ディンク adv. (手段) この物によって

「副詞句」

III

da ダー adv. それでは 「副詞」

kannst nicht ...herkommen...« カスト・ニト...ヘアコメン 2 単現・可能・否定(herkommen)

v.i こちらへ来ることは出来ない 「動詞句」

allzu weit アルツァー・ヴァイト adv. (否定文で) それ程遠くから 「副詞句」

そう言って、彼は夢想到に耽り、それは長く続いた。

Und er versank in eine Träumerei, die lange dauerte.

Und 「主語」「動詞」「間接目的語」, 「主語」「副詞」「動詞」

Und ウント conj. そして

er エア pron 彼は 「主語」

versank フェアザンク 3 単過(versinken)v.i(in に) 耽った 「動詞」

in eine Träumerei, イン・アイネム・トロイメライ adv. 夢想到に 「間接目的語」

die デー pron.f (主語) それは 「主語」

lange ランゲ adv. 長く 「副詞」

dauerte. ダウエアテ 3 単過(dauern)v.i 続いた 「動詞」

それから彼は僕の描いた羊をポケットから取り出し、彼の宝物の鑑賞に浸った。

Dann nahm er mein Schaf aus der Tasche und vertiefte sich in den Anblick seines Schatzes. 「副詞」「動詞」「主語」「目的語」「副詞句」 und 「動詞句」「間接目的語」

Dann ダン adv. それから 「副詞」

nahm ナム 3 単過(nehmen)v.t 取り出した 「動詞」

er エア pron 彼は 「主語」

mein Schaf マイン・シャーフ n.n 僕の羊を 「目的語」

aus der Tasche アウス・デア・タッシェ adv. ポケットから 「副詞句」

und ウント conj. そして

vertiefte sich フェアチーフェ・ズィヒ 3 単過(sich vertiefen)v.pr(in et-4 に) 没頭した 「動詞句」

in den Anblick イン・デン・アンブリック adv. 眺めることに、鑑賞に 「間接目的語」

seines Schatzes. サイネス・シャッツェス adj. 彼の宝物の 「形容詞句」

「他の惑星」という彼の発言が、どれほど僕の好奇心を駆り立てたか、君たちは想像できるだろう。だから僕はもっとよく知ろうと思った。

Ihr könnt euch vorstellen, wie stark diese Andeutung über die »anderen Planeten« mich beunruhigen musste. Ich bemühte mich also, mehr zu erfahren:

「主語」「動詞句」「目的語」 | 「主語」「動詞句」「副詞」「目的語」

Ihr イア pron.pl. 君たちは 「主語」

könnt euch vorstellen, ケント・オイ・フォーアシュテルン 2 複現・可能(sich-3 vor|stellen)

III

v.pr	想像できる	「動詞句」
wie stark	ヴィー・シュターク adv. どれほど強く～するかということ	「目的語」
diese Andeutung	デーゼ・アント・イトゥング n.f この発言が	「主語」
über die »anderen Planeten«	ユーバー・デー・アンデレン・プラネーテン	
adj.	「他の惑星」についての	「形容詞句」
mich	ミッヒ pron 僕を	「目的語」
beunruhigen musste.	ベ・ウンルーイゲン・ムステ 3 単過・必然(müssen+不定詞)	
v.t	悩ませたに違いない	「動詞句」
Ich	イッヒ pron 僕は	「主語」
bemühte mich	ベ・ミュテ・ミッヒ 1 単過(sich-4 bemühen)v.pr 努力した	「動詞句」
also,	アルゾー adv. それで	「副詞」
mehr zu erfahren:	メア・ツー・エアファーレン 不定詞 v.i もっとと良く知ることを	「目的語」
mehr	メア adv. もっと	
erfahren	エアファーレン v.t (聞いて) 知る	

「坊や、どこから来たの？君のところって、どこなの？僕の羊をどこに連れていくつもりなの？」

»Woher kommst du, mein kleines Kerlchen? Wo bist du denn zu Hause? Wohin willst du mein Schaf mitnehmen?«

《「副詞」「動詞」「主語」「呼びかけ」 | 「副詞」「動詞」「主語」「副詞句」
「副詞」「動詞句」「主語」「目的語」「動詞句」》

»Woher	ウー・ヘーア adv. どこから	「副詞」
kommst	コムスト 2 単現(kommen)v.i 来た	「動詞」
du,	ドゥ pron 君は	「主語」
mein kleines Kerlchen?	マイン・クライネス・ケアルヒェン n.m 坊や	「呼びかけ」
Wo	ウー adv. どこ	「副詞」
bist	ビスト 2 単現(sein)v.i (存在) ～にある	「動詞」
du	ドゥ pron 君は	「主語」
denn	デーン adv. それでは	「副詞」
zu Hause?	ツー・ハウゼ adv. 君のところは	「副詞句」
Wohin	ウー・ヒン adv. どこに	「副詞」
willst ...mitnehmen?«	ウィルスト...ミットネーメン 2 単現・意志(wollen+不定詞)	
v.t	連れていくつもりである	「動詞句」
du	ドゥ pron 君は	「主語」
mein Schaf	マイン・シャーフ n.n 僕の羊を	「目的語」

III

彼は黙って考え込んでから、答えた：

Er antwortete nach einem nachdenklichen Schweigen: 「主語」「動詞」「副詞句」

Er エア pron 彼は 「主語」

antwortete アントワ^ァアテテ 3 単過(antworten)v.i 答えた 「動詞」

nach ナハ adv. ～の後で 「副詞句」

einem nachdenklichen Schweigen: アイネム・ナハデンクリッヒエン・シュウ^ァアイゲン

n.n 考え込んだ沈黙 「目的語」

nachdenklichen ナハデンクリッヒ adj. 考え込んでいる Schweigen シュウ^ァアイゲン n.n 沈黙

「君が僕にくれたその箱は、夜の間、羊の家として使えるのがいいんだよ」

»Die Kiste, die du mir da geschenkt hast, hat das Gute, dass sie ihm nachts als Haus dienen kann.« 「主語」「動詞」「目的語」「形容詞節」

»Die Kiste, ディー・キステ n.f この箱は 「主語」

die ディー pron.f (目的語) ～する 「形容詞節」

du トゥ pron 君が 「主語」

mir ミー pron 僕に 「間接目的語」

da ダー adv. そこに 「副詞」

geschenkt hast, ゲシェント・ハスト 2 単現・完了形(schenken)

v.t くれた 「動詞句」

hat ハット 3 単現(haben)v.t を持つ、(状況) ～である 「動詞」

das Gute, ダス・グーテ n.n 長所、利点 「目的語」

dass ダス conj. ～という 「形容詞節」

sie ジー pron.f それは 「主語」

ihm イム pron.m 羊にとって 「間接目的語」

nachts ナツ adv. 夜に 「副詞」

als Haus アルス・ハウス adv. 家として 「副詞」

dienen kann.« ディーネン・カン 3 単現・可能(können+不定詞)

v.i 利用できる 「動詞句」

「その通りだよ。それにもし君がいい子なら、昼の間中ずっと羊をつないでおくためにロ
ープもあげるよ。それに杭もね。」

»Gewiß. Und wenn du brav bist, gebe ich dir auch einen Strick, um es tagsüber
anzubinden. Und einen Pflock dazu.«

《「応答」 | Und 「副詞節」, 「動詞」「主語」「間接目的語」「直接目的語」「副詞句」

Und 「目的語」「副詞」》

»Gewiß. ゲウイß adj. 確かな、その通り 「応答」

III

Und ウント conj. そして

wenn ヲン conj. (条件) もしも～ならば

「副詞節」

du トゥー pron 君が

「主語」

brav ブラフ adj. 行儀がいい、いい子

「補語」

bist, ビスト 2 単現(sein)v.i ～である

「動詞」

gebe ゲーベ 1 単現(geben)v.t あげる

「動詞」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

dir ディア pron 君に

「間接目的語」

auch einen Strick, アウフ・アイネン・シュトリック n.m ロープも

「直接目的語」

um +zu 不定詞 ウム adv. ～するために

「副詞句」

es エス pron 羊を

「目的語」

tagsüber タクスユーバー adv. 昼の間中ずっと

「副詞」

anzubinden. アン・ツー・ビンデン zu 不定詞(an | binden)

v.t (ひもなどで) くくりつける

「動詞句」

Und ウント conj. そして

einen Pflock アイネン・プフロック n.m4 格 杭を

「目的語」

dazu.« タツァー adv. それに加えて

「副詞」

この提案が、王子様の気持ちを傷つけたように見えた。

Dieser Vorschlag schien den kleinen Prinzen zu kränken:

「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」

Dieser Vorschlag ディーザー・フォーアシュラーク n.m この提案が

「主語」

schien ...zu kränken シーン...ツァー・クレンケン 3 単過・様態(scheinen+zu 不定詞)

v.t 気持ちを傷つけたように見えた

「動詞句」

den kleinen Prinzen: デン・クライネン・プリンツェン n.m 王子様を

「目的語」

「羊をつないでおくたって？おかしい考えだね！」

»Anbinden? Was für eine komische Idee!«

《「感嘆」 | 「補語」》

»Anbinden? アン・ビンデン 不定詞・疑問文 v.t つないでおくたって？

「感嘆」

Was für eine komische ヲアス・フュアー・アイン・コーミッシェ

adj.fl 格 なんておかしい

「形容詞句」

Idee!« イデー n.f 考え

「補語」

III



Le petit prince sur l'astéroïde B 612.

III

「だけど、君が羊をつないでおかなければ、羊はどこかに逃げて行ってしまうよ...」

»Aber wenn du es nicht anbindest, wird es doch weglaufen...«

《Aber 「副詞節」, 「動詞句」 「主語」 「副詞」 「動詞

句」》

»Aber アーバー conj. しかし

wenn ウェン conj. ～すると

「副詞節」

du トゥー pron 君が

「主語」

es エス pron 羊を

「目的語」

nicht anbindest, ニヒト・アン・ビンデスト 2 単現・否定(an|binden)

v.t つながない

「動詞句」

wird ...weglaufen...« ウィルト...ウェークラウフェン 3 単未・推測(werden+不定詞)

v.i 逃げてしまうだろう

「動詞句」

es エス pron 羊は

「主語」

doch ドッハ adv. その時は、そうしたら

「副詞」

すると僕の友達は、また高らかに笑った。

Da brach meine Freund in ein neuerliches Gelächter aus:

「副詞」 「動詞句」 「主語」 「間接目的語」 「動詞句」

Da ダー adv. すると

「副詞」

brach ...aus: ブラハ...アウス 3 単過(aus|brechen)v.i(in) 感情を爆発させた

「動詞句」

meine Freund マイネ・フロイント n.m 僕の友達

「主語」

in ein neuerliches Gelächter イン・アイナー・ノイアーリッヒェス・ゲレヒター

adv. 再び大笑いを

「間接目的語」

「しかしそれなら、羊はどこへ行けばいいというのだ？」

»Aber wo soll es denn hinlaufen?« 《Aber 「副詞」 「動詞句」 「主語」 「副詞句」 「動詞句」》

»Aber アーバー conj. しかし

wo ウォー adv. どこに

「副詞」

soll ...hinlaufen?« ソル...ヒン・ラウフェン 3 単現・話者の意志・疑問文(sollen+不定詞)

v.i 行けばよいのだろうか

「動詞句」

es エス pron 羊は

「主語」

denn デン adv. それなら

「副詞」

III

「どこにでも、まっすぐに前に進めばいい...」

»Irgendwohin. Geradeaus...«

「副詞」 | 「副詞」

»Irgendwohin. イルゲントウーヒン adv. どこへでも

「副詞」

Geradeaus...« ゲラーデアウス adv. まっすぐに

「副詞」

すると王子さまはまじめな顔つきで答えた。

Da versetzte der kleine Prinz ernsthaft:

「副詞」「動詞」「主語」「副詞句」

Da ダー adv. すると

「副詞」

versetzte フェアゼッツテ 3 単過(versetzen)v.t 答えた

「動詞」

der kleine Prinz テア・クライン・プリンツ n.m 王子さまは

「主語」

ernsthaft: エアnst・ハフト adv. まじめな顔つきで

「副詞句」

「なんでもないよ、僕のところはすごく狭いんだから！」

»Das macht nichts aus, es ist so klein bei mir zu Hause!«

《「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」, 「主語」「動詞」「補語」》

»Das ダス pron それは

「主語」

macht ...aus, マハト...アウス 3 単現(aus | machen)v.t 構成する、作る

「動詞句」

nichts ニヒツ pron 何も～ない

「目的語」

es エス pron それは

「主語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i ～である

「動詞」

so klein ソー・クライン adj. とても小さい

「補語」

bei mir zu Hause!« バイ・ミー・ツウ・ハウゼン adv. 僕のところは

「副詞句」

そして、恐らく少し憂鬱そうに付け加えた。

Und, vielleicht ein bisschen schwermütig, fügte er hinzu:

Und 「副詞句」, 「動詞句」「主語」「動詞句」

Und, ウント conj. そして

vielleicht フライヒト adv. ひょっとしたら、もしかすると

「副詞」

ein bisschen schwermütig, アイン・ビスヒェン・シュヴーエーミューティヒ adv. 少し憂鬱そうに

「副詞」

fügte ...hinzu: フュークテ...ヒンツウ 3 単過(hinzu | fügen)v.t 付け加えた

「動詞句」

er エア pron 彼は

「主語」

「真っすぐといったって、そんなに遠くへ行けるものではない...」

»Geradeaus kann man nicht sehr weit gehn...«

《「副詞」「動詞句」「主語」「副詞句」「動詞句」》

»Geradeaus ゲラーデアウス adv. (譲歩) 真っすぐといったって

「副詞」

IV

kann ...gehn...« カン...ゲン 3 単現・可能(können+不定詞)v.i(gehen) 行ける 「動詞句」
 man マン pron 人は 「主語」
 nicht sehr weit ニヒト・セーア・ヴァイト adv. そんなに遠くへ～ない 「副詞句」

IV

僕は、2 番目のとても重要なことを知った：つまり、王子様の出身の惑星は 1 件の家よりも
 かろうじて大きい程度だということだ！

Ich hatte eine zweite sehr wichtige Sache erfahren: der Planet seiner Herkunft war
kaum größer als ein Haus!

「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」：「主語」「動詞」「補語」

Ich イヒ pron 僕は 「主語」
 hatte ...erfahren: ハッテ...エアファレン 1 単過・完了形(erfahren)v.t (聞いて) 知った 「動詞句」
 eine zweite アインエ・ツヴァイト adj.f4 格 2 番目の 「形容詞句」
 sehr wichtige Sache セーア・ヴィヒチゲ・ザッハ n.f4 格 とても重要なことを 「目的語」
 der Planet デア・プラネート n.m 惑星は 「主語」
 seiner Herkunft サイナ・ヘアクンフト n.f2 格 彼の出身の 「形容詞句」
 war ヴァール 3 単過・時制の一致(sein)v.i ～である 「動詞」
 kaum größer カム・グロサー adj. (比較級) かろうじて大きい 「補語」
 als ein Haus! アルス・アイン・ハウス adv. (比較) 1 件の家よりも 「副詞句」



このことは、僕をそれ程驚かせはしなかった。

Das erschien mir gar nicht verwunderlich. 「主語」「動詞」「間接目的語」「補語」
 Das ダス pron このことは 「主語」
 erschien エーシオン 3 単過(erscheinen)v.i ～のように見えた 「動詞」
 mir ミー pron 僕には 「間接目的語」

IV

gar nicht verwunderlich. ガール・ニヒト・フェアヴァンダーリヒ adv. それほど驚くべきな～でない「補語」

人が名前を付けた、地球や木星や火星や金星などの大きな惑星の他に、まだ何百もの星があ
って、時には小さすぎて望遠鏡で見るのも困難な星があるということを僕は知っていた。

Ich wusste ja, dass es außer den großen Planeten wie der Erde, dem Jupiter, dem Mars, der Venus, denen man Namen gegeben hat, noch Hunderte von anderen gibt, die manchmal so klein sind, dass man Mühe hat, sie im Fernrohr zu sehen.

「主語」「動詞」「副詞」「目的語」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

wusste ヴステ 1 単過(wissen)v.t 知っていた

「動詞」

ja, ヤー adv. そのうえ、それどころか

「副詞」

dass ダス conj. ～ということを

「目的語」

es エス pron それは（非人称主語）

außer アウサー prep ～の他に

「副詞句」

den großen Planeten デン・グロセ・プラネーテン

pl.n.m4 格 大きな惑星

「目的語」

wie ヴィー adj. ～のような

「形容詞句」

der Erde, デア・エアデ n.f3 格 地球

「目的語」

dem Jupiter, デーム・ジュピター n.m3 格 木星

「目的語」

dem Mars, デーム・マルス n.m3 格 火星

「目的語」

der Venus, デア・ヴェーヌス n.f3 格 金星

「目的語」

denen テーネ pron3 格 それらに～する

「形容詞節」

man マン pron 人は

「主語」

Namen ナーメン pl.n.m 名前を

「目的語」

gegeben hat, ゲゲーベン・ハット 3 単現・完了形(geben)

v.t 与えた、つけた

「動詞句」

noch ノッホ adv. まだ

「副詞」

Hunderte フンダーテ pron 何百の星が

「主語」

von anderen フォン・アンデレン adj.pl 他の

「形容詞句」

gibt, ギーフト 3 単現(geben)v.t 存在する

「動詞」

die デー pron.pl それらは

「主語」

manchmal マンヒマル adv. 時には

「副詞」

so klein ソー・クライン adj. とても小さい

「補語」

sind, シント 3 複現(sein)v.i ～である

「動詞」

dass ダス conj. それで～である

「副詞節」

so ～, dass ... 「あまり～なので... する」

IV

man マン pron 人は	「主語」
Mühe ミューエ n.f 苦労を	「目的語」
hat, ハット 3 単現(haben)v.t ある	「動詞」
zu 不定句 adj. (同格) ～することの	「形容詞句」
sie シー pron.pl (性別なしで) それらを	「目的語」
im Fernrohr イム・フェアヌローア	
adv. (手段) 望遠鏡で	「副詞句」
zu sehen. ツー・ゼーエン 不定詞 v.t 見る	「動詞」

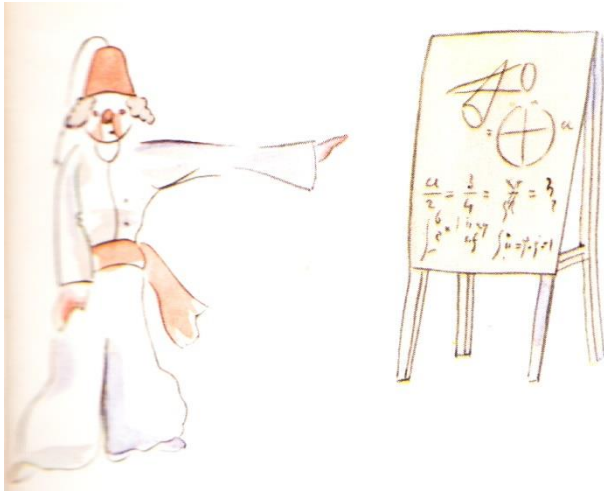
天文学者がそれらの中の 1 つを発見すると、彼はそれに名前の代わりに番号を付ける。彼は、例えば、それを「小惑星 3251 番」と名付ける。

Wenn ein Astronom einen von ihnen entdeckt, gibt er ihm statt des Namens eine Nummer. Er nennt ihn zum Beispiel: Asteroid Nr. 3251.

「副詞節」, 「動詞」「主語」「間接目的語」「副詞句」「直接目的語」
「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」「補語」

Wenn ウェン conj. ～するとき	「副詞節」
ein Astronom アイン・アストロノム n.m 天文学者が	「主語」
einen von ihnen アイネン・フォン・イーネン pron それらの中の 1 つを	「目的語」
entdeckt, エントデックト 3 単現(entdecken)v.t 発見する	「動詞」
gibt キープト 3 単現(geben)v.t 与える	「動詞」
er エア pron 彼は	「主語」
ihm イム pron それに	「間接目的語」
statt des Namens シュタット・デアム・ナメンス adv. 名前の代わりに	「副詞句」
eine Nummer. アイネ・ヌマー n.f4 格 番号を	「直接目的語」
Er エア pron 彼は	「主語」
nennt ネット 3 単現(nennen)v.t ～と呼ぶ、名づける	「動詞」
ihn イン pron4 格 それを	「目的語」
zum Beispiel: ツーム・ハ イシュピール adv. 例えば	「副詞句」
Asteroid アステロイト n.m 小惑星	「補語」
Nr. 3251. ヌメ・トライタウゼント・ツヴァイフンタート・アイン・ウント・フュンフツィヒ n.f 3251 番	「形容詞句」

IV



僕には、王子様が住んでいた惑星は小惑星 B612 であると信ずるに足るまじめな理由がある。

Ich habe ernsthafte Gründe zu glauben, dass der Planet, von dem der kleine Prinz kam, der Asteroid B 612 ist.

「主語」「動詞」「目的語」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

habe ハーベ 1 単現(haben)v.t. ～がある

「動詞」

ernsthafte Gründe エアンシュトハフテ・グリュンデ pl.n.m4 格 まじめな理由が

「目的語」

ernsthafte エアンシュトハフテ adj.pl.(ernsthaft) まじめな、真剣な、本気の

zu glauben, ツー・グラウベン 不定詞 adj. 信じるべき

「形容詞句」

dass ダス conj. ～ということ

「目的語」

der Planet, デア・プラネート n.m その惑星は

「主語」

von dem フォン・デーム adv. そこから～する 「形容詞節」

der kleine Prinz デア・クライネ・プリンツ

n.m 王子様が

「主語」

kam, カム 3 単過(kommen)v.i 来た 「動詞」

der Asteroid B 612 デア・アステロイト・ベー・セクスフンダート・ツウ・エルフ

n.m 小惑星 B612

「補語」

ist. イスト 3 単現(sein)v.i ～である

「動詞」

この惑星は、1909 年にトルコの天文学者により、1 度しか望遠鏡で観測されていない。

Dieser Planet ist nur ein einziges Mal im Jahre 1909 von einem türkischen Astronomen im Fernrohr gesehen worden.

「主語」「動詞句」「副詞句」

Dieser Planet ディーザー・プラネート n.m この惑星は

「主語」

ist ...gesehen worden. イスト...ゲゼーエン・ウォアテン 3 単現・完了形・受動(werden+過去分詞)

v.t 発見された

「動詞句」

IV

nur ein einziges Mal ヌーア・アイン・アインツイゲス・マル adv. たった 1 度だけしかない 「副詞句」
 im Jahre 1909 イム・ヤーレ・ノインツェーン・フンダー・ト・ノイン adv. 1909 年に 「副詞句」
 von einem türkischen Astronomen フォン・アイネム・チュルクシェン・アストロノームン
 adv. トルコの天文学者によって 「副詞句」
 im Fernrohr イム・フェアヌローア adv. 望遠鏡で 「副詞句」

当時、彼は国際天文学会でその発見について素晴らしい講演を行った。

Er hatte damals beim internationalen Astronomenkongress einen großen Vortrag über seine Entdeckung gehalten. 「主語」「動詞句」「副詞句」「目的語」「動詞句」

Er エア pron 彼は 「主語」
 hatte ...gehalten. ハッテ...ゲハルテン 3 単過・完了形(halten)v.t (動作名詞と) 行った 「動詞句」
 damals ダーマルス adv. 当時 「副詞」
 beim バイム prep(bei dem) ~のところで 「副詞句」
 internationalen Astronomenkongress インターナショナル・アストロノーム・コンGRESS
 n.m 国際天文学会 「目的語」
 einen großen Vortrag アイネン・グロゼン・フォーアトラーク n.m 素晴らしい講演を 「目的語」
 über seine Entdeckung ユーバー・ザ・イネ・エントデックング adv. 彼の発見について 「副詞句」

しかし誰も彼のいうことを信用しなかった。もっと正確に言うと、それは彼のスーツがあまりにも質素なものだったためである。大人というのはそのようなものだ。

Aber niemand hatte ihm geglaubt, und zwar ganz einfach seines Anzuges wegen. Die großen Leute sind so.

Aber 「主語」「動詞句」「間接目的語」「副詞句」 | 「主語」「動詞」「補語」

Aber アーバー conj. しかし
 niemand ニーマント pron 誰も～ない 「主語」
 hatte ...geglaubt, ハッテ...ゲグラウト 3 単現・完了形(glauben)
 v.i (否定文で) 信用しなかった 「動詞句」
 ihm イム pron3 格 彼の言うことを 「間接目的語」
 und zwar ウント・ツヴァール adv. もっと正確に言うと 「副詞句」
 ganz einfach ガンツ・アインファッハ adj. まったく質素な 「形容詞句」
 seines Anzuges サ・イネス・アンツェグス n.m2 格 スーツの 「形容詞句」
 wegen. ヴェーゲン prep (2 格) ~のために 「副詞句」
 Die großen Leute デー・イー・グロゼン・ロイテ pl.n. 大人というものは 「主語」
 sind ジント 3 複現(sein)v.i ~である 「動詞」
 so. ザー adv. そのような 「補語」

IV

小惑星 B612 の評判にとって幸運なことに、トルコの独裁者が、違反者は死刑という条件で、国民に、今後はヨーロッパ風の衣服を着なければならないと命令した。

Zum Glück für den Ruf des Planeten B 612 befahl ein türkischer Diktator seinem Volk bei Todesstrafe, nur noch europäische Kleider zu tragen.

「副詞句」「動詞」「主語」「間接目的語」「副詞句」「直接目的語」

Zum Glück ツム・グリュック adv. 幸運なことに 「副詞句」

für den Ruf フュー・デン・ルフ adv. 評判にとって 「副詞句」

des Planeten B 612 デス・プラーネテン・ベー・セクスファンダート・ツァェルフ

n.m2 格 小惑星 B612 の 「形容詞句」

befahl ベファール 3 単過(befehlen)v.t 命令した 「動詞」

ein türkischer Diktator アイン・チュルクシャー・ディクタートーア n.m トルコの独裁者が 「主語」

seinem Volk サイネム・フォルク n.n3 格 国民に 「間接目的語」

bei Todesstrafe, バイトーデスシュトラフェ adv. 違反者は死刑という条件で 「副詞句」

zu 不定詞 n. する～ということを 「直接目的語」

nur noch ヌア・ノッホ adv. もはや～しかない 「副詞句」

europäische Kleider オイロペーイシュ・クライダー

pl.n.n ヨーロッパ風の衣服を 「目的語」

zu tragen. ツー・トラーゲン 不定詞 v.t 身に着ける、着る 「動詞句」

その天文学者は、大変上品なスーツを着て 1920 年に、もう一度講演を行いました。すると今回は、聴衆は彼の言うことが正しいと認めました。

Der Astronom wiederholte seinen Vortrag im Jahre 1920 in einem sehr eleganten Anzug.

Und diesmal gaben sie ihm alle recht.

「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」 | Und 「副詞」「動詞」「主語」「間接目的語」「補語」

Der Astronom デア・アストロノム n.m その天文学者は 「主語」

wiederholte ヴァイダーホルテ 3 単過(wiederholen)v.t もう一度行った 「動詞」

seinen Vortrag サイネン・フォルトラク n.m4 格 講演を 「目的語」

im Jahre 1920 イム・ヤーレ・ノインツェーン・ツヴァンツヒ adv. 1920 年に 「副詞句」

in einem sehr eleganten Anzug. イン・アイネム・セーア・エレガントエン・アンツーク

adv. 大変上品なスーツを着て 「副詞句」

Und ウント conj. すると

diesmal ディース・マル adv. 今回は 「副詞」

gaben ガーベン 3 複過(geben)v.t (正しいと) 認めた 「動詞」

sie ジー pron.pl 人々は、聴衆は 「主語」

ihm イム pron 彼に、彼の言うことを 「間接目的語」

alle recht. アル・レヒト adj. まったく正しい 「補語」

IV

j-3 recht geben 「人-3 の言い分を正しいと認める」

僕は、君たちに小惑星 B612 に関するこのような些細なことを語り、それどころかその番号まで打ち明けているけれど、それは大人の人たちの為なんだ。

Wenn ich euch dieses nebensächliche Drum und Dran über den Planeten B.612 erzähle und euch sogar seine Nummer anvertraue, so geschieht das der großen Leute wegen.

「副詞節」, 「副詞」 「動詞」 「主語」 「副詞句」

Wenn ウェン conj. ~であるが

「副詞節」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

euch オヒ pron 君たちに

「間接目的語」

dieses nebensächliche Drum und Dran デーゼス・ネーベンゼヒリッシェ・トルム・ウント・ドラン

n.n4 格 このような些細なことを

「直接目的語」

über den Planeten B 612 ユーバー・デーン・プラネーテン・ベー・ゼ・クスターター・ツウ・エルフ

adj. 小惑星 B612 に関する

「形容詞句」

erzähle エアツェーレ 1 単現(erzählen)v.t 語っている

「動詞」

und ウント conj. そして

euch オヒ pron 君たちに

「間接目的語」

sogar ソガール adv. それどころか

「副詞」

seine Nummer サイネ・ヌマー n.f4 格 その番号を

「直接目的語」

anvertraue, アンフェアトラウエ 1 単現(an|vertrauen)v.t 打ち明けている

「動詞句」

so ソー adv. そんなふうに

「副詞」

geschieht ゲシト 3 単現(geschehen)v.i 生ずる、なされる

「動詞」

das ダス pron それは

「主語」

der großen Leute wegen. デア・グロセン・ロイテ・ウェーゲン adv. 大人のために

「副詞句」

大人の人々は数字が大好きだ。

Die großen Leute haben eine Vorliebe für Zahlen.

「主語」 「動詞」 「目的語」

Die großen Leute デー・グロセン・ロイテ pl.n 大人の人々

「主語」

haben ハーベン 3 複現 v.t ある

「動詞」

eine Vorliebe アイン・フォアリーベ n.f 特別な好みを

「目的語」

für Zahlen. フュア・ツァーレン adv. 数字に対して

「副詞句」

君たちが彼らに新しい友達の話をすると、彼らは肝心なことを聞かない。

Wenn ihr ihnen von einem neuen Freund erzählt, befragen sie euch nie über das Wesentliche.

「副詞節」, 「動詞」 「主語」 「間接目的語」 「副詞」 「間接目的語」

Wenn ウェン conj. ~する時

「副詞節」

IV

ihr	イーア	pron.1 格	君たちが	「主語」
ihnen	イーネン	pron.pl3 格	彼らに	「間接目的語」
von einem neuen Freund	フォン・アイネン・ノイエン・フロイント			
adv.	新しい友達について			「副詞句」
erzählt,	エアツェールト	2 複現(erzählen)v.t	物語る、語って聞かせる	「動詞」
befragen	ベフラーゲン	3 複現 v.t	聞く	「動詞」
sie	ジー	pron.pl	彼らは	「主語」
euch	オイヒ	pron	君たちに	「間接目的語」
nie	ニー	adv.	決して～ない	「副詞」
über das Wesentliche.	ユーバー・ダス・ウァーゼントリッヒヒ	adv.	本質的なことについて	「間接目的語」
das Wesentliche	ダス・ウァーゼントリッヒヒ	n.n4 格	(形容詞の名詞化)	



彼らはこんな風に君たちに尋ねることはない：「その人はどんな声をしているの？」

Sie fragen euch nie: Wie ist der Klang seiner Stimme?

				「主語」「動詞」「間接目的語」「副詞」：《「副詞」「動詞」「主語」》
Sie	ジー	pron.pl	彼らは	「主語」
fragen	フラーゲン	3 複現 v.t	尋ねる	「動詞」
euch	オイヒ	pron	君たちに	「間接目的語」
nie:	ニー	adv.	決して～ない	「副詞」
Wie	ワイ	adv.	どのような	「副詞」
ist	イスト	3 単現(sein)v.i	～である	「動詞」
der Klang	デア・クランク	n.m	響きは	「主語」
seiner Stimme?	ザイアー・シュティメ	n.f2 格	その人の声の	「形容詞句」

IV

「その子は、どんな遊びが一番好きなの？ 蝶々を収集しているの？」

Welche Spiele liebt er am meisten? Sammelt er Schmetterlinge?

《「目的語」「動詞」「主語」「副詞句」 | 「動詞」「主語」「目的語」》

Welche Spiele ヲェルヒェ・シュピレ pl.n.n4 格 どんな遊びを 「目的語」
 liebt リーフト 3 単現(lieben)v.t 好む、愛好する 「動詞」
 er エア pron 友達は 「主語」
 am meisten? アム・マイステン adv. 一番 「副詞句」
 Sammelt サムルト 3 単現(sammeln)v.t (疑問文で) 集めているの? 「動詞」
 er エア pron 友達は 「主語」
 Schmetterlinge? シュメッターリンゲ pl.n.m 蝶々 「目的語」

大人たちは君たちにこんな風に言う：「その子は何歳なの？ 兄弟は何人？ 体重はどれ位？ その子のお父さんの収入はどれ位？」

Sie fragen euch: Wie alt ist er? Wieviele Brüder hat er? Wieviel wiegt er? Wieviel verdient sein Vater?

「主語」「動詞」「間接目的語」：《「補語」「動詞」「主語」 |

「目的語」「動詞」「主語」 | 「副詞」「動詞」「主語」 | 「副詞」「動詞」「主語」》

Sie ジー pron.pl 彼らは 「主語」
 fragen フラーゲン 3 複現 v.t 訊く、尋ねる 「動詞」
 euch: オヒ pron.pl 君たちに 「間接目的語」
 Wie alt ヲイー・アルト adj. 何歳の 「補語」
 ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である 「動詞」
 er? エア pron その子は 「主語」
 Wieviele Brüder ヲイーフィーレ・ブリューダー pl.n.m4 格 何人の兄弟を 「目的語」
 wieviel :

wieviele は how many (何人、何個の) wieviel は how much (どれほどの量の)

hat ハット 3 単現(haben)v.t いる 「動詞」
 er? エア pron その子は 「主語」
 Wieviel ヲイーフィール adv. どれくらい 「副詞」
 wiegt ヲイクト 3 単現(wiegen)v.i (〜の) 重さがある 「動詞」
 er? エア pron その子は 「主語」
 Wieviel ヲイーフィール adv. どれくらい 「副詞」
 verdient フェアディント 3 単現(verdienen)v.t 稼いでいる、(収入を) 得ている 「動詞」
 sein Vater? サイン・ファーター n.m その子のお父さんは 「主語」

IV

その後でようやく、彼らはその子を知っていると思う。もし君たちが、彼らに次のように言うならば：

Dann erst glauben sie, ihn zu kennen. Wenn ihr zu den großen Leute sagt:

「副詞句」「動詞」「主語」「目的語」 | 「副詞節」:

Dann	ダン	adv.	そうした後で	「副詞」
erst	エアスト	adv.	ようやく、やっと、初めて	「副詞」
glauben	グラッベン	3 複現 v.t	(〜だと) 思う	「動詞」
sie,	ジー	pron.pl	彼らは	「主語」
zu	不定詞	n.	〜するというのを	「目的語」
ihn	イン	pron	その子のを	「目的語」
zu kennen.	ツ・ケン	不定詞 v.t	知っている	「動詞句」
Wenn	ヴェン	conj.	もし〜するならば	「副詞節」
ihr	イア	pron.pl	君たちが	「主語」
zu den großen Leute	ツ・デン・グロ・セン・ロイテ	adv.	大人たちに	「間接目的語」
sagt:	ザ・クト	2 複現(sagen)v.t	言う	「動詞」

「窓にジェラニウムがあつて、屋根にはハトがいる、赤いレンガでできたとても美しい家を見たよ」と言っても、大人たちはその家を想像することが出来ない。

Ich habe ein sehr schönes Haus mit roten Ziegeln gesehen, mit Geranien vor den Fenstern und Tauben auf dem Dach... dann sind sie nicht imstande, sich dieses Haus vorzustellen. 《「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」》, 「副詞」「動詞」「主語」「補語」

Ich	イヒ	pron	僕は	「主語」
habe ...gesehen,	ハーベ ...ゲゼーエン	1 単現・完了形(sehen)v.t	見た	「動詞句」
ein sehr schönes Haus	アイン・ゼーア・シェーネ・ハウス	n.n4 格	とても美しい家を	「目的語」
mit roten Ziegeln	ミット・ローテン・ツイゲルン			
	adj. (材料)		赤色の煉瓦でできた	「形容詞句」
mit Geranien	ミット・ゲラーニエン			
	adv. (様態)		ジェラニウムがある	「副詞句」
vor den Fenstern	フォア・デン・フェンスター	adv.	窓に	「副詞句」
und	ウント	conj.	そして	
Tauben	タウベン	pl.n.f	鳩が	「主語」
auf dem Dach...	アウフ・デーム・ダッハ	adv.	屋根の上に	「副詞句」
dann	ダン	adv.	そのあと、そうすると	「副詞」
sind	ジント	3 複現(sein)v.i	〜である	「動詞」
sie	ジー	pron.pl	彼らは	「主語」
nicht imstande,	ニヒト・イムシュタンデ	adj.(zu 不定詞句)	〜する能力がない	「補語」

IV

zu 不定詞 n. ～すること

「目的語」

sich ...vorzustellen. ズィツヒ...フォア・ツ-・シュテルン 不定詞(sich vor|stellen)

v.pr ～を想像する

「動詞句」

dieses Haus ディーゼス・ハウス n.n4 格 この家を

「目的語」

彼らには、このように言わなければならない：「10 万フランの家を見たよ」すると彼らはすぐに大声をあげる：「ああ、なんて素晴らしいんだ」

Man muß ihnen sagen: Ich habe ein Haus gesehen, das hunderttausend Franken wert ist. Dann schreien sie gleich: Ach wie schön!

「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」：《「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」》

「副詞」「動詞」「主語」「副詞」：《「感嘆」》

Man マン pron 人は

「主語」

muß ...sagen: ムス...ザーゲン 3 単現・必要(müssen+不定詞)

v.t 言わなければならない

「動詞句」

ihnen イーネン pron 彼らに

「間接目的語」

Ich イツヒ pron 僕は

「主語」

habe ...gesehen, ハーベ...ゲゼーエン 1 単現・完了形(sehen)v.t 見た

「動詞句」

ein Haus アイン・ハウス n.n4 格 家を

「目的語」

das ダス pron (主語) ～する

「形容詞節」

hunderttausend Franken wert フンダートタウゼント・フランケン・ヴァーアト

adj. 10 万フランの価値がある

「補語」

ist. イスト 3 単現(sein)v.i ～である

「動詞」

Dann ダン adv. そうすると

「副詞」

schreien シュライエン 3 複現 v.i 大声を出す

「動詞」

sie ジー pron 彼らは

「主語」

gleich: グライヒ adv. すぐに

「副詞」

Ach アッハ int. ああ

「感嘆」

wie schön! ヴァー・シェン adv. なんて素晴らしいんだ！

「感嘆」

それで、君たちが彼らに次のように言ったとしたら：

So auch, wenn ihr ihnen sagt:

「副詞句」

So ソー adv. それだから

「副詞」

auch, アウフ adv. さらに

「副詞」

wenn ヴェン conj. もしも～ならば

「副詞節」

ihr イア pron 君たちが

「主語」

ihnen イーネン pron 彼らに

「間接目的語」

IV

sagt: サークト 2 複現(sagen)v.t 言う

「動詞」

「王子様が本当にいたという証拠は、彼は素敵だったとか、彼が笑ったとか、彼は羊を欲しがったというようなことだ」と、

Der Beweis dafür, dass es den kleinen Prinzen wirklich gegeben hat, besteht darin, dass er entzückend war, dass er lachte und dass er ein Schaf haben wollte;

《「主語」「動詞」「副詞句」》

Der Beweis デア・ベヴァイス n.m 証拠は

「主語」

dafür, ダフューア adj. ～に関する

「形容詞句」

dass ダス conj. ～ということ

「目的語」

es エス pron 非人称

den kleinen Prinzen デン・クライネン・フリンツェン

n.m4 格 王子様が

「主語」

wirklich ヴェルクlich adv. 本当に

「副詞」

gegeben hat, ゲゲーベン・ハット 3 単現・完了形(geben)

v.h いた

「動詞句」

es gibt j-4 「人-4 がいる」

besteht ベシュテート 3 単現(bestehen)v.i 存在する

「動詞」

darin, ダリン adv. ～の中に

「副詞句」

dass ダス conj. ～ということ

「目的語」

er エア pron 彼は

「主語」

entzückend エントツュッケント adj. すてきな

「補語」

war, ヴァール 3 単過(sein)v.i ～だった

「動詞」

dass ダス conj. ～ということ

「目的語」

er エア pron 彼は

「主語」

lachte ラハテ 3 単過(lachen)v.i 笑った

「動詞」

und ウント conj. そして

dass ダス conj. ～ということ

「目的語」

er エア pron 彼は

「主語」

ein Schaf アイン・シャーフ n.n4 格 羊を

「目的語」

haben wollte; ハーベン・ヴォルテ 3 単過・願望(wollen+不定詞)

v.t 欲しがった

「動詞句」

IV

「だから、もし人が羊を欲しがったら、それでその人が生きている証拠になる」と言ったとしたら、彼らは肩をすくめて、君たちを子ども扱いするだろう。

denn wenn man sich ein Schaf wünscht, ist es doch ein Beweis dafür, dass man lebt, - dann werden sie die Achseln zucken und euch als Kinder behandeln.

《「副詞」「副詞節」, 「動詞」「主語」「副詞」「補語」》,

「副詞」「動詞句」「主語」「目的語」「動詞句」 und 「目的語」「補語」「動詞句」

denn デン adv. だから 「副詞」

wenn ウェン conj. もし〜すると 「副詞節」

man マン pron 人が 「主語」

sich ...wünscht, シッヒ...グンシュト 3 単現(sich-3 wünschen)

v.pr 〜が欲しいと願う 「動詞句」

ein Schaf イン・シャーフ n.n4 格 羊を 「目的語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i 〜である 「動詞」

es エス pron それは 「主語」

doch ドッホ adv. それで 「副詞」

ein Beweis イン・ベウァイス n.m1 格 証拠 「補語」

dafür, ダフーア adv. 〜に関する 「副詞句」

dass ダス conj. 〜ということ 「目的語」

man マン pron その人が 「主語」

lebt, - レプト 3 単現(leben)v.i 生きている 「動詞」

dann ダン adv. そうすると 「副詞」

werden ...zucken ウェアデン...ツッケン 3 複未・推測(werden+不定詞)

v.t ぴくりと動かすだろう、すくめるだろう 「動詞句」

sie ジー pron 彼らは 「主語」

die Achseln ディー・アクセルン pln.f 肩を 「目的語」

und ウント conj. そして

euch オヒ pron 君たちを 「目的語」

als Kinder アルス・キンダー adv. 子供として 「補語」

behandeln. ベハデルン 3 複未・推測(werden+不定詞)v.t 取り扱うだろう 「動詞句」

しかしながら、君たちが次のように言うとき：「彼の出身の惑星は、小惑星 B612 だよ」、そうすると彼らは納得して、君たちを質問から解放してくれるだろう。

Aber wenn ihr ihnen sagt: der Planet, von dem er kam, ist der Planet B.612, dann werden sie überzeugt sein und euch mit ihren Fragen in Ruhe lassen.

Aber 「副詞節」: 《「主語」「動詞」「補語」》,

「副詞」「動詞句」「主語」「補語」「動詞句」 und 「目的語」「補語」「動詞句」

IV

Aber	アーバー	conj.	しかしながら	
wenn	ヴェン	conj.	もし〜すると	「副詞節」
ihr	イーア	pron	君たちが	「主語」
ihnen	イーネン	pron	彼らに	「間接目的語」
sagt	ザート	2 複現(sagen)v.t	言う	「動詞」
der Planet,	デア・プ ラネト	n.m	その惑星は	「主語」
von dem er kam,	フォン・デーム・エア・カム			
	adj.		彼の出身の、そこから彼がやってきた	「形容詞句」
ist	イスト	3 単現(sein)v.i	〜である	「動詞」
der Planet B 612,	デア・プ ラネト・ヘー・セックス・フンダート・ツウ・エルフ	n.m	小惑星 B612	「補語」
dann	ダン	adv.	そうすると	「副詞」
werden ...sein	ヴェアテン...ザイン	3 複末・推測(werden+不定詞)v.i	〜になるだろう	「動詞句」
sie	ジー	pron	彼らは	「主語」
überzeugt	ユーバーツォイクト	adj.	確信した、納得した	「補語」
und	ウント	conj.	そして	
euch	オイヒ	pron	君たちを	「目的語」
mit ihren Fragen	ミット・イーレン・フラーゲン	adv.	彼らの質問から	「副詞句」
in Ruhe	イン・ルーエ	adv.	静かに	「補語」
lassen.	ラッセン	3 複末・推測(werden+不定詞)v.t	〜のままにさせておくだろう	「動詞句」

大人というのは、そういうものだ。そのことで彼らに腹を立ててはいけけない。子供たちは、大人に対して寛容な気持ちを持たなければならない。

So sind sie. Man darf ihnen das auch nicht übelnehmen. Kinder müssen mit großen Leuten viel Nachsicht haben.

「補語」「動詞」「主語」 | 「主語」「動詞句」「間接目的語」「直接目的語」「動詞句」

「主語」「動詞句」「副詞句」「目的語」「動詞句」

So	ゾー	adv.	そのような	「補語」
sind	シント	3 複現(sein)v.i	〜である	「動詞」
sie.	ジー	pron.pl	大人というのは	「主語」
Man	マン	pron	人は	「主語」
darf ...nicht übelnehmen.	ダルフ...ニヒト・ユーベルニエメン	3 単現・禁止(dürfen+nicht+不定詞)		
	v.t		腹を立ててはならない	「動詞句」
ihnen	イーネン	pron	彼らに対して	「間接目的語」
das auch	ダス・アウフ	pron	そのことも	「直接目的語」
Kinder	キンダー	pl.n.n	子供たちは	「主語」
müssen ...haben.	ミュッセン...ハーベン	3 複現・必要(müssen+不定詞)		

IV

v.t 持たなければならない	「動詞句」
mit großen Leuten ミット・グロースン・ロイテン adv. 大人に対して	「副詞句」
viel Nachsicht フィール・ナハジヒト n.f 大いなる寛容を	「目的語」

もちろん、人生が何であるかを知っている僕らは、つまらない数字を馬鹿にしている。

Wir freilich, die wir wissen, was das Leben eigentlich ist, wir machen uns nur lustig über die albernen Zahlen. 「主語」, 「主語」 「動詞句」 「補語」 「間接目的語」

Wir ウィーア pron 僕らは	「主語」
freilich, フライヒ adv. もちろん	「副詞」
die wir デー・ウィーア pron 私たちが〜する	「形容詞節」
wissen, ウィッセン 1 複現 v.t 知っている	「動詞」
was ウァス pron 何	「補語」
das Leben ダス・レーベン n.n 人生は	「主語」
eigentlich アイゲンツリヒ adv. 実際は	「副詞」
ist, イスト 3 単現(sein)v.i 〜である	「動詞」
wir ウィーア pron 私たちは	「主語」
machen uns マヘン・ウンス 1 複現(sich-4 machen)v.pr 〜に向かっている	「動詞句」
nur lustig ヌーア・ルスティヒ adj. ただ面白い	「補語」
über die albernen Zahlen. ユーバー・デー・アルバーネン・ツァーレン	
adv. つまらない数字を	「間接目的語」
albern アルバーン adj. 愚かな、つまらない Zahl ツァール n.f -/-en 数字	
sich-4 über j-4 lustig machen 「何-4 を笑いものにする」	

僕はこの話を童話のように始めたかったのだが。出来ることなら、僕はこんな風に始めたかった。

Viel lieber hätte ich diese Geschichte begonnen wie ein Märchen. Am liebsten hätte ich so angefangen: 「副詞句」 「動詞句」 「主語」 「目的語」 「動詞句」 「副詞句」

	「副詞句」 「動詞句」 「主語」 「副詞」 「動詞句」
Viel lieber フィール・リーバー adv. 〜のほうがずっとよい	「副詞句」
hätte ...begannten ヘッテ...ヘゴネ 接 II・1 単現・完了形(beginnen)	
v.t もし始めていたら	「動詞句」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
diese Geschichte デーゼ・ゲシヒテ n.f この話を	「目的語」
wie ein Märchen. ウィー・イン・マアヘン adv. 童話のように	「副詞句」
Am liebsten アム・リープ・ステン adv. 出来ることなら、最も好ましいのは	「副詞句」
hätte ...angefangen: ヘッテ...アン・ゲ・ファンゲン 接 II・1 単現・完了形(an fangen)	

IV

v.i 始めたかったのだが	「動詞句」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
so ゾー adv. こんなふうに	「副詞」

「昔々、王子様がいました。彼は、自分よりもわずかに大きい惑星に住んでいて、友達を欲しがっていました...」

Es war einmal ein kleiner Prinz, der wohnte auf einem Planeten, der kaum größer war als er selbst, und er brauchte einen Freund...

《「動詞句」「主語」, 「主語」「動詞」「副詞句」 und 「主語」「動詞」「目的語」》

Es war einmal エス・ヴァール・アインマル 3 単過(es sein+ einmal)v.i 昔々〜がいた	「動詞句」
ein kleiner Prinz, アイン・クライナー・プリンツ n.m 王子様が	「主語」
der デア pron 彼は	「主語」
wohnte ウォンテ 3 単過(wohnen)v.i 住んでいた	「動詞」
auf einem Planeten, アウフ・アイנם・プラーネテン adv. ある惑星に	「副詞句」
einem Planeten アイנם・プラーネテン n.m3 格 ある惑星	
Planet は 2, 3, 4 格に -n か -en が付く男性弱変化名詞である	
der デア pron その惑星は「形容詞節」	「主語」
kaum größer カム・グレーサー adj. かなり大きい	「補語」
war ヴァール 3 単過(sein)v.i 〜だった	「動詞」
als er selbst, アルス・エア・ゼルフスト adv. 彼自身よりも	「副詞句」
und ウント conj. そして	
er エア pron 彼は	「主語」
brauchte ブラウフテ 3 単過(brauchen)v.t 必要としていた	「動詞」
einen Freund... アイン・フロイント n.m 友達を	「目的語」

人生をよく知っている人たちにとっては、このほうがはるかに信頼性があるように思われたかもしれない。

Für die, die das Leben richtig verstehen, würde das viel glaubwürdiger klingen.

Für フュア prep (4 格と) 〜にとっては	「副詞句」, 「動詞句」「主語」「補語」
die, デー pron.pl4 格 人たち	「副詞句」
die デー pron.pl.1 格 その人たちは	「目的語」
das Leben ダス・レーベン n.n4 格 人生を	「形容詞節」
richtig リヒティヒ adv. よく、非常に	「目的語」
verstehen, フェアシュテェン 3 複現 v.t 分かっている	「副詞」
würde ...klingen. ヴェルテ...クリンゲン 接 II・3 単現・推測(werden+不定詞)	「動詞」

IV

v.i ~のように思われるかもしれない 「動詞句」
 das ダス pron それが 「主語」
 viel glaubwürdiger フィール・グラウプ・ウエルデヒ adj. はるかに信頼性のある 「補語」

なぜなら僕は、人にはこの本を軽々しく読んで欲しくなかったから。

Denn ich möchte nicht, dass man mein Buch leicht nimmt.

Denn 「主語」「動詞句」「目的語」

Denn デン conj. なぜならば
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 möchte nicht, メテ・ニヒ 接 II・1 単現・否定(mögen)
 (本動詞省略) ~したくなかった、~を望まなかった 「動詞句」
 dass ダス conj. ~ということ 「目的語」
 man マン pron 人が 「主語」
 mein Buch マイン・ブーフ n.n 僕の本を 「目的語」
 leicht ライト adv. 軽々しく 「副詞」
 nimmt. ニムト 3 単現(nehmen)v.t 読む、手に取る 「動詞」

僕はこのような思い出を語ると、とても悲しく感じる。

Ich empfinde so viel Kummer beim Erzählen dieser Erinnerungen.

「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」

Ich イヒ pron 僕は 「主語」
 empfinde エンプ・フィンテ 1 単現(empfinden)v.t 感じる 「動詞」
 so viel Kummer ソー・フィール・クマー n.m とても心痛を 「目的語」
 beim Erzählen バイム・エアツェレン adv. 物語をする時に 「副詞句」
 dieser Erinnerungen. デーサー・エアネルンゲン
 pl.n.f2 格 これらの思い出の 「形容詞句」

僕の友達が羊と一緒に立ち去ってから、もう 6 年になる。

Es ist nun schon sechs Jahre her, dass mein Freund mit seinem Schaf davongegangen ist.

「動詞」「補語」「主語」

Es エス pron 仮の主語 (真の主語は dass 以降)
 ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である 「動詞」
 nun schon sechs Jahre her, ヌン・ショーン・ゼクス・ヤーレ・ハー
 pl.n.n 今ではあれからも 6 年 「補語」
 dass ダス conj. ~ということ 「主語」
 mein Freund マイン・フロイント n.m 僕の友達が 「主語」

IV

mit seinem Schaf ミット・ザイネム・シャーフ adv. 羊と一緒に 「副詞句」

davongegangen ist. ダフオン・ゲ・ガンゲン・イスト 3 単現・完了形(davon | gehen)

v.i 立ち去った 「動詞句」

僕はここに彼のことを書こうとしているが、それは彼を忘れないことに繋がるからだ。

Wenn ich hier versuche, ihn zu beschreiben, so tue ich das, um ihn nicht zu vergessen.

「副詞節」, 「動詞」 「主語」 「目的語」

Wenn ウェン conj. 〜であるが 「副詞節」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

hier ヒア adv. ここに 「副詞」

versuche, フェアズーヘ 1 単現(versuchen)v.t 試みている 「動詞」

ihn zu beschreiben, イン・ツァー・ベシュライベン zu 不定句

n. 彼のことを記述することを 「目的語」

soゾー conj. それなら、そうすると、そうであるから

tue トゥエ 1 単現(tun)v.t する 「動詞」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

das, ダス pron それを 「目的語」

um ihn nicht zu vergessen. ウム・イン・ニヒト・ツァー・フェアゲッセン zu 不定句

n. 彼のことを忘れないこと 「目的語」

誰もが友達を持ったことがある訳ではない。

Nicht jeder hat einen Freund gehabt. 「主語」 「動詞句」 「目的語」 「動詞句」

Nicht jeder ニヒト・イエーダール pron 誰もが〜ない 「主語」

hat ...gehabt. ハット...ゲハプト 3 単現・完了形・経験(haben)

v.t (否定文で) 持ったことがあるわけではない 「動詞句」

einen Freund アイン・フロイント n.m4 格 友達を 「目的語」

それに僕自身も、数字にしか興味を持たない大人たちみたいになってしまうかもしれない。

だから結局、絵具箱と鉛筆も買ったんだ。

Und ich könnte wie die großen Leute werden, die sich nur für Ziffern interessieren, deshalb habe ich mir schließlich auch einen Farbenkasten und Zeichenstifte gekauft.

Und 「主語」 「動詞句」 「補語」 「動詞句」 「形容詞節」

「副詞」 「動詞句」 「主語」 「間接目的語」 「副詞」 「動詞句」

Und ウント conj. そして

ich イヒ pron 僕は 「主語」

könnte ...werden, ケンテ...ウァアデレン 接 II・1 単現・推量(können+不定詞)

IV

v.i	～になるかもしれない	「動詞句」
wie die großen Leute	ヴィー・グロースン・ロイテ adv. 大人たちのように	「補語」
die	デー pron.pl	「形容詞節」
sich ...interessieren,	スィットヒ...インテレスィレン 3 複現(sich-4 für et-4 interessieren)	
v.pr	何-4 に興味を持つ	「動詞句」
nur für Ziffern	ヌーア・フューア・ツィッファーン adv. 数字だけに	「間接目的語」
deshalb	デスhalb° adv. それだから	「副詞」
habe ...gekauft.	ハーベ° ...ゲカフト 1 単現・完了形(kaufen)v.t 買った	「動詞句」
ich	イヒ pron 僕は	「主語」
mir	ミーア pron 自分のために	「間接目的語」
schließlich	シュールスリヒ adv. 結局	「副詞」
auch einen Farbenkasten und Zeichenstifte	アウフ・アイネン・ファルベン・カステン・ウント・ツァイヘン・シュティフテ	
pl.n.m	絵具箱と鉛筆も	「目的語」
Farbe	ファルベ° n.f-/n 絵具 Kasten カステン n.m 箱 Zeichenstift ツァイヘン・シュティフト n.m-[e]s/-e 鉛筆	

僕は 6 歳の時に中が見えない大蛇と中が見える大蛇を描いて以来、他には何も描いたことが無いのだけれど、この年になってまたスケッチに手を出すのは大変なことなんだ。

Es ist schwer, sich in meinem Alter noch einmal mit dem Zeichnen einzulassen, wenn man seit seinem sechsten Lebensjahre nie andere Versuche gemacht hat als die mit einer geschlossenen und offenen Klapperschlange. 「動詞」「補語」「主語」「副詞節」

Es エス pron 仮の主語（真の主語は sich 以降）

ist イスト 3 単現(sein)v.i ～である 「動詞」

schwer, シュウヴェア° adj. 困難な、苦勞の多い 「補語」

sich ...einzulassen, スィットヒ...アイン・ツーン・ラッセン zu 不定句(sich einlassen)

v.pr ～とかかわりあう、に手を出すことは 「主語」

in meinem Alter イン・メイネム・アルター adv. 僕の年齢で 「副詞句」

noch einmal ノッホ・アインマル adv. もう一度、また 「副詞句」

mit dem Zeichnen ミット・デーム・ツァイヘン adv. スケッチに 「間接目的語」

wenn ウェン conj. (対比) ～であるが 「副詞節」

man マン pron 僕は 「主語」

seit サイト prep ～以来 「副詞句」

seinem sechsten Lebensjahre サイネム・ゼクステン・レーベンスヤール

n.n 6 歳の時 「目的語」

nie andere Versuche ニー・アンデレ・フェアズーヘ n.m 別のデッサン～もない 「目的語」

gemacht hat ゲマハト・ハット 3 単現・完了形(machen)v.t (絵を) 描いた 「動詞句」

als die アルス adv. ～するものよりも 「副詞句」

IV

mit einer geschlossenenen und offenen ミット・アイナー・ゲシュロッセネン・ウント・オフエネン

adj. 中の見えないのと中が見える

「形容詞句」

Klapperschlange. クラパーシュランゲ n.f. ガラガラヘビ、大蛇

「目的語」

もちろん、僕は出来るだけ本物そっくりに肖像画を描こうと思う。

Ich werde selbstverständlich versuchen, die Bilder so wirklichkeitsgetreu wie möglich zu machen.

「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」「目的語」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

werde ...versuchen, ヴェアデ ...フェアズヘン 1 単未・意志(werden+不定詞)

v.t 試みようと思う

「動詞句」

selbstverständlich ゼルプ・ストフェアシュェントリヒ adv. もちろん、当然

「副詞」

zu 不定句 n. ～ということを

「目的語」

die Bilder デーイー・ビルダー pl.n.n 肖像画を

「目的語」

so wirklichkeitsgetreu wie möglich ソー・ウィルクリヒカイツゲトロイ・ウィー・メークリヒ

adv. できる限りそっくりに

「副詞句」

so+形容詞・副詞+wie + (名詞・形容詞・副詞)「～と同じくらい...」

wirklichkeitsgetreu ウィルクリヒカイツゲトロイ adj. 現実に忠実な

möglich メークリヒ adj. 可能な、現実の

zu machen. ツー・マヘン 不定詞 v.t 描く

「動詞句」

しかし、それがうまくいくかどうかについては、まったく自信がある訳ではない。

Aber ich bin nicht ganz sicher, ob es mir gelingen wird.

Aber 「主語」「動詞」「補語」「副詞節」

Aber アーバー conj. しかし

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

bin ビン 1 単現(sein)v.i ～である

「動詞」

nicht ganz sicher, ニヒト・ガンツ・スィヒヤー

adj. (部分否定) 全く自信に満ちている訳ではない

「補語」

ob オップ conj. ～かどうか

「副詞節」

es エス pron それが

「主語」

mir ミーア pron 僕にとって

「間接目的語」

gelingen wird. ゲリングェン・ウィルト 3 単未・推量(werden+不定詞)

v.i うまくできるだろう

「動詞句」

IV

ある絵はうまく描けていても、別の絵はもはや全く似ていない。

Die eine Zeichnung geht, die andere ist schon nicht mehr ähnlich.

「主語」「動詞」, 「主語」「動詞」「補語」

Die eine Zeichnung デー・アイネ・ツァイトゥング n.f ある絵は

「主語」

geht, ゲート 3 単現(gehen)v.i うまくいつている

「動詞」

die andere デー・アンデレ n.f 別の絵は

「主語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i ～である

「動詞」

schon nicht mehr ähnlich. ショーン・ニヒト・メア・エンリヒ adj. もはや全く似ていない

「補語」

時には、大きさを間違えることがある。

Ich irre mich auch mitunter in den Maßen.

「主語」「動詞句」「副詞句」

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

irre mich イレ・ミヒ 1 単現(sich-4 irren)v.pr 間違える

「動詞句」

auch mitunter アウフ・ミットウンター adv. 時々、時たま

「副詞句」

in イン prep (分野: 3 格と) ～に関して

「副詞句」

den Maßen. デン・マーセン pl.n.n3 格 寸法

「目的語」

王子さまは、こちらでは大きすぎるし、あちらでは小さすぎる。

Da ist der kleine Prinz zu groß und da ist er zu klein.

「副詞」「動詞」「主語」「補語」 und 「副詞」「動詞」「主語」「補語」

Da ダー adv. こちらでは

「副詞」

ist イスト 3 単現(sein)v.i ～である

「動詞」

der kleine Prinz デア・クライン・プリンツ n.m 王子さまは

「主語」

zu groß ツー・グロース adj. 大きすぎる

「補語」

und ウント conj. そして

da ダー adv. あちらでは

「副詞」

ist イスト 3 単現(sein)v.i ～である

「動詞」

er エ pron 王子さまは

「主語」

zu klein. ツー・クライン adj. 小さすぎる

「補語」

彼の服の色もまた、僕にとっては、心配の種だ。

Auch die Farbe seiner Kleider macht mir Kummer.

「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」

Auch アウフ adv. ～もまた

「副詞」

die Farbe デー・ファーベ n.f 色は

「主語」

seiner Kleider ザイネー・クライダー pl.n.n2 格 彼の衣服の

「形容詞句」

IV

macht マハト 3 単現(machen)v.t	もたらす、つくる	「動詞」
mir ミー pron	僕に	「間接目的語」
Kummer. クマー n.m4 格	心配事を	「直接目的語」

それで僕は、あれやこれやと試してみて、辛うじてこんな風に描いている。

Dann probiere ich hin und her, so gut es eben geht.

	「副詞」「動詞」「主語」「副詞句」, 「補語」「主語」「副詞」「動詞」
Dann ダン adv. それで	「副詞」
probiere プロビエ 1 単現(probieren)v.t 試しにやっている	「動詞」
ich イッヒ pron 僕は	「主語」
hin und her, ヒン・ウント・ヘー adv. あれやこれやと、ああだこうだと	「副詞句」
so gut ザー・グート adj. そのような具合に	「補語」
es エス pron それは	「主語」
eben エベン adv. かろうじて、なんとか	「副詞」
geht. ゲート 3 単現(gehen) (事柄が) 進行している	「動詞」

僕はおそらくもっと大切な細部でも間違えるかもしれない。しかし、そのことは大目に見てもらいたい。

Ich werde mich vermutlich auch bei wichtigeren Einzelheiten irren. Aber das muss man doch schon nachsehen.

<u>doch schon nachsehen.</u>	「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」
Aber 「目的語」「動詞句」「主語」「副詞句」「動詞句」	
Ich イッヒ pron 僕は	「主語」
werde mich ...irren. ウェアデ・ミッヒ...イレ 1 単未・推量(sich-4 irren)	
v.pr 間違えるかもしれない	「動詞句」
vermutlich フェアムトリッヒ adv. おそらく、多分	「副詞」
auch アウフ adv. ～でも	「副詞」
bei wichtigeren Einzelheiten バイ・ウー・ィチケレン・アインツェルハイト	
adv. もっと大切な細部で	「副詞句」
wichtigeren ウー・ィチケレン adj.pl.3 格(wichtig→wichtiger+en) (比較級) もっと大切な	
Einzelheit アインツェルハイト n.f -/-en 細部	
Aber アーバー conj. しかし	
das ダス pron そのことを	「目的語」
muss ...nachsehen. ムス...ナーハ・ゼーエン 3 単現・必要(müssen+不定詞)	
v.t 大目に見なければならない	「動詞句」
man マン pron 人は	「主語」
doch schon ドッホ・ショーン adv. それでもきっと	「副詞句」

IV

僕の友達は、1度も説明してくれなかった。

Mein Freund hat mir nie Erklärungen gegeben.

「主語」「動詞句」「間接目的語」「副詞」「直接目的語」

Mein Freund マイン・フロイント n.m 僕の友達は

「主語」

hat ...gegeben. ハット...ゲゲーベン 3 単現・完了形(gehaben)

v.t (否定文で) 言わなかった

「動詞句」

mir ミー pron 僕に

「間接目的語」

nie ニー adv. 一度も～ない

「副詞」

Erklärungen エアクレールンゲン pl.n.f4 格 説明を

「直接目的語」

彼はおそらく、僕が彼と同じような人間だと思っていたのだろう。

Er glaubte wahrscheinlich, ich sei wie er.

「主語」「動詞」「副詞」「目的語」

Er エア pron 彼は

「主語」

glaubte ブラウプテ 3 単過(glauben)v.t 思っていた

「動詞」

wahrscheinlich, ヲァールシャインリヒ adv. おそらく、たぶん

「副詞」

n. ～ということ

「目的語」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

sei ザイ 接・1 単現・推測(sein)v.i ～なのだろう

「動詞」

wie er. ヲィー・エア adv. 彼のような人間

「補語」

しかし僕は、残念ながら、木箱の中の羊を見透かすような能力はない。

Aber ich bin leider nicht imstande, durch die Kistenbretter hindurch Schafe zu sehen.

Aber 「主語」「動詞」「副詞句」「補語」

Aber アーバー conj. しかし

ich イヒ pron 僕は

「主語」

bin ビン 1 単現(sein)v.i ～である

「動詞」

leider ライダー adv. 残念ながら

「副詞句」

nicht imstande, ニヒト・イムシュタンデ adj.(+zu 不定句) ～する能力がない

「補語」

imstand(e) sein zu 不定句 「～することができる、～する能力がある」

adv. ～するような

「副詞句」

durch die Kistenbretter ドゥルヒ・ディー・ブレター adv. 木箱を通して

「副詞句」

Kiste キステ n.f -/n 箱 Brett ブレット n.n -[e]s/-er 板

hindurch ヒントゥルヒ adv. ～を貫いて

「副詞」

Schafe シャーフェ pl.n.n 羊を

「目的語」

zu sehen. ツー・ゼーエン 不定詞 v.t 見る

「動詞句」

V

しかしもしかすると、僕はもうすでに大人たちみたいになっているのかも知れない。

Ich gleiche doch wohl schon eher den großen Leuten.

「主語」「動詞」「副詞」「間接目的語」

Ich イッヒ pron 私は

「主語」

gleich グライヒ 1 単現(gleichen)v.i 似ている、同じである

「動詞」

doch ドッホ conj. しかし

wohl ヴォール adv. もしかすると

「副詞」

schon ショーン adv. もう、すでに

「副詞」

eher エアー adv. むしろ

「副詞」

den großen Leuten. デン・グロース・ロイテン pl.n.3 格 大人たちに

「間接目的語」

僕はきっと時間の流れの中で年を取ったに違いない。

Ich musste ja im Laufe der Zeit älter werden. 「主語」「動詞句」「副詞句」「補語」「動詞句」

Ich イッヒ pron 私は

「主語」

musste ...werden. ムステ...グェアデッ 1 単過・確信(müssen+不定詞)

v.i ~になったにちがいない

「動詞句」

ja ヤー adv. きっと~だろう

「副詞」

im Laufe der Zeit イム・ラウフェ・デア・ツァイト adv. 時間の流れの中で

「副詞句」

Lauf ラウフ n.m 流れ der Zeit デア・ツァイト n.f2 格 時間の

älter エルター adj. 年配の

「補語」

V

日ごとに、僕は、王子様の惑星について、旅立ちについて、そして旅行についての何か新しいことを知っていった。

Jeden Tag erfuhr ich etwas Neues über den Planeten, über die Abreise und über die Fahrt.

「副詞句」「動詞」「主語」「目的語」

Jeden Tag イェーデッ・ターク n.m4 格 毎日、日ごとに

「副詞句」

erfuhr エアフォー 1 単過(erfahren)v.t (聞いて) 知った

「動詞」

ich イッヒ pron 私は

「主語」

etwas Neues エトワース・ノイエス pron.n4 格 何か新しいことを

「目的語」

über den Planeten, ユーバー・デッ・プラーネテン adj. 王子様の惑星に関する 「形容詞句」

über die Abreise ユーバー・デア・アッブライゼ adj. 旅立ちに関する 「形容詞句」

「形容詞句」

und ウント conj. そして

über die Fahrt. ユーバー・デア・ファート

V

adj. (乗り物による) 旅行に関する

「形容詞句」

僕があれこれと考えを巡らせた結果、実にゆっくりと、それが姿を現してきた。

Das ergab sich ganz sachte im Laufe meiner Überlegungen.

「主語」「動詞句」「副詞句」

Das ダス pron そのことが

「主語」

ergab sich エアガープ・ズィット 3 単過(sich-4 ergeben)v.pr もたらした、生まれた 「動詞句」

ganz sachte ガンツ・ザハテ adv. じつにゆっくりと

「副詞句」

im Laufe イム・ラウフェ adv. 流れの中で

「副詞句」

meiner Überlegungen. マイナ-ユーバーレーゲンゲン pl.n.f2 格 僕の考察の 「形容詞句」

Überlegung ユーバーレーゲンク n.f -/-en 熟慮、考察

このようにして、3 日目に、僕はバオバブの悲劇を知った。

So lernte ich am dritten Tage die Tragödie der Affenbrotbäume kennen.

「副詞」「動詞句」「主語」「副詞句」「目的語」「動詞句」

So ソー adv. そのように

「副詞」

lernte ...kennen. レンテ...ケネ 1 単過(kennen|lernen)v.t 知るに至った 「動詞句」

ich イット pron 僕は

「主語」

am dritten Tage アム・ドリッテン・ターゲ adv. 3 日目に

「副詞句」

die Tragödie テーイー・トラゲー・テーエ n.f4 格 悲劇を

「目的語」

der Affenbrotbäume テア・アッフェンブーロトボイメ pl.n.m2 格 バオバブの 「形容詞句」

これもまた結局は羊のおかげだった。というのは、王子さまは、何か深刻な疑念に悩んでいるかのように、突然僕に尋ねたのだった。

Auch dies verdanke ich schließlich dem Schaf, denn unvermittelt fragte mich der kleine Prinz, als wäre er von einem schweren Zweifel geplagt:

「副詞句」「動詞」「主語」「副詞」「間接目的語」「副詞節」

Auch dies アウフ・ディース adv. これもまた

「副詞句」

verdanke フェアダנק 1 単現(verdanken)v.t (et-3) 何-3 のおかげである 「動詞」

ich イット pron 僕は

「主語」

schließlich シュリースリヒ adv. 結局は

「副詞」

dem Schaf, テーム・シャーフ n.n3 格 羊の

「間接目的語」

denn テン conj. というのは、なぜならば

「副詞節」

unvermittelt ウンフェアミッテルト adv. 突然

「副詞」

fragte フラクテ 3 単過(fragen)v.t(j-4) 尋ねた

「動詞」

mich ミット pron4 格 僕に

「目的語」

V

der kleine Prinz, デア・クライネ・プリンツ n.m	王子様が	「主語」
als+接続法 アルス conj.	あたかも～するかのよう	「副詞節」
wäre ...geplagt: ヲェレ...ゲプラークト 接 II・3 単現・状態受動・推量(plagen)		
v.t	悩んでいるだろう、困っている	「動詞句」
er エア pron	王子さまは	「主語」
von einem schweren Zweifel フォン・アイネム・シュウエーレン・ツウアイフェル		
adv.	深刻な疑念に	「間接目的語」

「でも、羊が低木を食べるというのは、本当なんでしょう？」

»Es <u>stimmt doch, dass Schafe Stauden fressen?</u> «	《「動詞」「副詞」「主語」》
»Es エス pron 仮の主語（真の主語は dass 以降）	
stimmt シュティムト 3 単現(stimmen)v.i 本当である	「動詞」
doch, ドッホ adv. それでも	「副詞」
dass ダス conj. ～ということは	「主語」
Schafe シャーフェ pl.n.n 羊が	「主語」
Stauden シュタウデン pl.n.f 低木を	「目的語」
fressen?« フレセン 3 複現 v.t（動物が） 食う	「動詞」

「ああ、本当だよ」

»Ja, das stimmt.«	《「応答」「主語」「動詞」》
»Ja, ヤー adv. ああ	「応答」
das ダス pron それは	「主語」
stimmt.« シュティムト 3 単現(stimmen)v.i 本当である	「動詞」

「ああ、それでほっとしたよ！」

» <u>Ach, da bin ich froh!</u> «	《「感嘆」「副詞」「動詞」「主語」「補語」》
»Ach, アッハ int. ああ	「感嘆」
da ダー adv. それで、それなら	「副詞」
bin ビン 1 単現(sein)v.i ～である	「動詞」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
froh!« フロー adj. うれしい、ほっとした	「補語」

V

羊が低木を食べることが、どうしてそれほど重要なのか、僕は分からなかった。

Ich verstand nicht, warum es so wichtig war, dass Schafe Stauden fressen.

「主語」「動詞句」「目的語」

Ich イッヒ pron 私は

「主語」

verstand nicht, フェアシュタント・ニヒト 1 単過・否定(verstehen)v.t 分からなかった

「動詞句」

warum ヲアルム conj. どうして～かということを

「目的語」

es エス pron 仮の主語（真の主語は dass Schafe 以降）

so wichtig ザー・ウヰヒチヒ adj. それほど重要な

「補語」

war, ヲアール 3 単過・時制の一致(sein)v.i ～である

「動詞」

dass ダス conj. ～ということが

「主語」

Schafe シャーフェ pl.n.n 羊が

「主語」

Stauden シュタウデテン pl.n.f 低木を

「目的語」

fressen. フレセン 3 複現 v.t 食べる

「動詞」

しかし王子さまは続けて言った。

Aber der kleine Prinz fügte hinzu:

Aber 「主語」「動詞句」

Aber アーバー conj. しかし

der kleine Prinz テア・クライン・プリンツ n.m 王子さまは

「主語」

fügte hinzu: フェークテ・ヒンツァー 3 単過(hinzu | fügen)v.t 付け加えて言った

「動詞句」

「しかし、そうすると羊はバオバブも食べるんだね？」

»Dann fressen sie doch auch Affenbrotbäume?«

《「副詞」「動詞」「主語」「副詞」「目的語」》

»Dann ダン adv. そうすると

「副詞」

fressen フレセン 3 複現 v.t 食べる

「動詞」

sie シー pron.pl 彼らは

「主語」

doch ドッホ adv. しかし

「副詞」

auch Affenbrotbäume?« アウフ・アッフェンブロートホイメ pl.n.m4 格 バオバブも

「目的語」

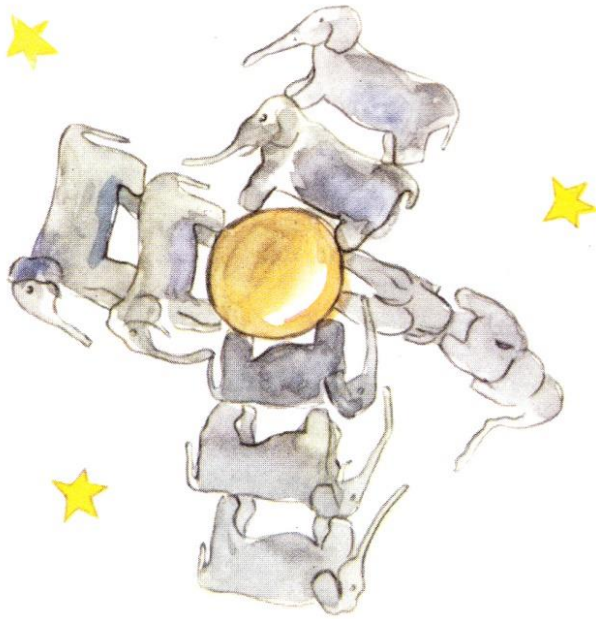
V

しかし僕は王子様に、バオバブは低木ではなくて教会ほどの高さの木であることを説明し、さらに王子様が象の群れ全体を連れて行ったとしても、その群れはたった1本のバオバブさえも食べつくせないだろう、と詳しく説明してあげた。

Ich erklärte dem kleinen Prinzen ausführlich, dass Affenbrotbäume doch keine.. Stauden sind, sondern kirchturmhohe Bäume, und selbst wenn er eine ganze Herde.. Elefanten mitnähme, würde diese Herde nicht mit einem einzigen Affenbrotbaum.. fertig werden.

Ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 erklärte エアクレールテ 1 単過(erkennen)v.t 説明した 「動詞」
 dem kleinen Prinzen テーム・クライネン・プリンツェン n.m3 格 王子様に 「間接目的語」
 ausführlich, アウスフューアリヒ adv. 詳しく 「副詞」
 dass ダス conj. ～ということ を 「直接目的語」
 Affenbrotbäume アッフェンブロートホーイメ pl.n.m1 格 バオバブは 「主語」
 doch ドツッホ conj. しかし
 keine Stauden ケイネ・シュタウデレン pl.n.f 低木～でない 「補語」
 sind, シント 3 複現(sein)v.i ～である 「動詞」
 sondern ゾンダーン adv. ～ではなくて 「副詞」
 kirchturmhohe Bäume, キルヒトゥルム・ホーエ・ホーイメ
 pl.n.m 教会ほどの高さの木 「補語」
 und ウント conj. そして
 selbst wenn ゼルプスト・ヴェン conj. ～するとしても 「副詞節」
 er エア pron 王子様が 「主語」
 eine ganze Herde Elefanten アイネ・ガーンツェ・ヘーアデ・エレファンテン
 n.f 象の群れ全体を 「目的語」
 mitnähme, ミット・ネーメ 接 II・3 単現・假定(mit|nehmen)
 v.t 連れていくとする 「動詞句」
 würde ...werden. ヴェルデ...ヴェアデレン 接 II・3 単現・推量(werden+不定詞)
 v.i ～にならないだろう 「動詞句」
 diese Herde デーゼ・エアデ n.f その群れは 「主語」
 nicht mit einem einzigen Affenbrotbaum ニヒト・ミット・アイネム・アインツィゲン・アッフェンブロートハウム
 adv. たった1本のバオバブに対しても 「間接目的語」
 fertig フェアティヒ adj. 片づけた 「補語」

V



象の群れを使うという思い付きは、彼を笑わせた。

Der Einfall mit den Elefanten brachte ihn zum Lachen.

Der Einfall デア・インファル n.m (突然の) 思い付きは
mit ミット prep (3 格と) (条件) ~を使うという
den Elefanten デン・エレファンテン pl.n.m3 格 象の群れを
brachte ブラハテ 3 単過(bringen)v.t ~へと至らせた
ihn イーン pron.4 格 彼を
zum Lachen. ツム・ラッヘン adv. 笑うことに

「主語」「動詞」「目的語」「補語」

「主語」

「形容詞句」

「目的語」

「動詞」

「目的語」

「補語」

「象の群れは、重ねないといけないだろうな...」

»Man müsste sie übereinanderstellen...«

《「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」》

»Man マン pron 人は

「主語」

müsste ...übereinanderstellen...« ミュステ...ユーバー・アインダー・シュテルン 接 II・3 単現・推量

(müssen+不定詞)v.t 重ねて置かなければならないかもしれない

「動詞句」

sie ジー pron.pl 象の群れを

「目的語」

しかしその後、彼は賢明にも次のように言った：

Aber dann bemerkte er klugerweise:

「副詞句」「動詞」「主語」「副詞」

Aber dann アーバー・ダン adv. しかしその後で

「副詞句」

bemerkte ベマクテ 3 単過(bemerken)v.t 述べた、言った

「動詞」

er エア pron 彼は

「主語」

V

klugerweise: クルーガーヴァイゼ adv. 賢明にも

「副詞」

「バオバブが大きくなる前は、最初は小さいんでしょう？」

»Bevor die Affenbrotbäume groß werden, fangen sie ja erst damit an, klein zu sein.«

《「副詞節」, 「動詞句」「主語」「副詞句」「動詞句」》

»Bevor ベフォー conj. ～する前は

「副詞節」

die Affenbrotbäume デー・アッフェンブロートボーム pl.n.m.1 格 バオバブが

「主語」

groß グロス adj. 大きい

「補語」

werden, ヴェアデシ 3 複現 v.i. ～になる

「動詞」

fangen ...an, ファンゲン...アン 3 複現(an|fangen)v.i(mit et-3 によって) 始まる

「動詞句」

sie シー pron.pl 彼らは

「主語」

ja erst damit ヤー・エースト・ダミット adv. やはり最初は～から

「副詞句」

klein zu sein. クライン・ツゥ・ザイン n. 小さい状態である

「目的語」

「そのとおり。だけど、どうして君は羊が小さなバオバブを食べることを望むの？」

»Das ist schon richtig. Aber warum willst du, dass deine Schafe die kleinen Affenbrotbäume fressen?«

《「主語」「動詞」「補語」 | Aber 「副詞」「動詞」「主語」「目的語」》

»Das ダス pron それは

「主語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i. ～である

「動詞」

schon richtig. ショーン・リヒヒ adj. 確かにそのとおり

「補語」

Aber アーバー conj. しかし

warum ヴァルム adv. どうして

「副詞」

willst ヴァイルスト 2 単現(wollen)v.t. ～を望む

「動詞」

du, ドゥー pron 君は

「主語」

dass ダス conj. ～ということ

「目的語」

deine Schafe ダイネ・シャフェ pl.n.n.1 格 君の羊が

「主語」

die kleinen Affenbrotbäume デー・クライン・アッフェンブロートボーム

pl.n.m.4 格 小さなバオバブを

「目的語」

fressen? フレシ 3 複現 v.t. 食う、食べる

「動詞」

彼は答えた：「なんだって？僕らはもう分かっているはずだ。そこでは、あたかも全く明白な事であるということ」

Er antwortete: »Schon gut! Wir werden ja sehen!« als ob es sich da um das klarste Ding der Welt handelte.

「主語」「動詞」: 《「感嘆」「主語」「動詞句」「目的語」》

Er エア pron 彼は

「主語」

V

antwortete: アントゥェアテ	3 単過(antworten)v.i	答えた	「動詞」
»Schon gut! ショーン・グート	adj. (反語的に)	なんだって?、分かってないなあ!	「感嘆」
Wir ウーア	pron	僕たちは	「主語」
werden ja sehen! ウェアゼン・ヤー・ゼーエン	1 複現・推量・確認(werden+不定詞+ja)		
v.t	もう分かっているはずだ		「動詞句」
« als ob アルス・オッフ	conj.	あたかも〜ということ	「目的語」
es sich ...handelte. エス・ジッヒ...ハントェルテ	3 単過(sich-4 handeln)		
v.pr(um et-4)	〜が問題であった		「動詞句」
es handelt sich-4 um et-4	「何-4 が問題である」		
da ダー	adv.	そこでは	「副詞」
um ウム	prep (4 格と)	〜に関して	「間接目的語」
das klarste Ding ダス・クラールステ・ディンク			
n.n4 格	最も明白なこと		「目的語」
der Welt テア・ヴェルト	n.f2 格	この世の	「形容詞句」

それでその問題を解明するために、自分の理解力を総動員しなければなりませんでした。

Und <u>ich</u> <u>musste</u> <u>meinen ganzen Verstand</u> <u>aufbieten</u> , <u>um der Sache auf den Grund zu kommen</u> .	Und 「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」
Und ウント conj. それで	
ich イヒ pron 僕は	「主語」
musste ...aufbieten, ムステ...アフビエーテン 1 単過・必要(müssen+不定詞 auf bieten)	
v.t (知恵・力を) 動員しなければならなかった	「動詞句」
meinen ganzen Verstand メイネン・ガンツェン・フェアシュタント n.m4 格 全理解力を	「目的語」
um ...zu kommen. ウム...ツゥー・コメン adv. (目的) 〜に達するために	「副詞句」
der Sache テア・ザッハ n.f3 格 その問題の	「間接目的語」
auf den Grund アフ・デン・グルント adv. 底にまで	「直接目的語」
et-3 auf den Grund kommen 「何-3 の原因を究める」	

実際、王子様の惑星には、あらゆる惑星と同じように、よい草を悪い草がありました。

<u>In der Tat gab es auf dem Planeten des kleinen Prinzen wie auf allen Planeten gute...</u>	
<u>Gewächse und schlechte Gewächse.</u>	「副詞句」「動詞句」「副詞句」「目的語」
In der Tat イン・デア・タート adv. 事実、本当に	「副詞句」
gab es ガーブ・エス 3 単過・非人称(es geben et-4)v.h 〜が存在した	「動詞句」
auf dem Planeten アウフ・デーム・プラネーテン adv. 惑星には	「副詞句」
des kleinen Prinzen テス・クライネン・プリンツェン adj. 王子様の	「形容詞句」

V

wie auf allen Planeten ヴァー・アウフ・アルン・プラーネーテン adv. あらゆる惑星と同じように「副詞句」

gute Gewächse グーテ・ゲヴェクセ pl.n.n 良い草 「目的語」

und ウント conj. そして

schlechte Gewächse. シュレヒテ・ゲヴェクセ pl.n.n 悪い草 「目的語」

従って、良い草の良い種と悪い草の悪い種とがあった。

Infolgedessen auch gute Samenkörner von guten Gewächsen und schlechte

Samenkörner von schlechten Gewächsen. 「副詞句」「主語」

Infolgedessen インフォルゲデッセン adv. 従って 「副詞」

auch アウフ adv. ～もまた 「副詞」

gute Samenkörner グーテ・ザーメンケルナー pl.n.n1 格 よい種が 「主語」

von guten Gewächsen フォン・グーテン・ゲヴェクセン adj. よい草からの 「形容詞句」

und ウント conj. そして

schlechte Samenkörner シュレヒテ・ザーメンケルナー pl.n.n1 格 悪い種が 「主語」

von schlechten Gewächsen. フォン・シュレヒテン・ゲヴェクセン adj. 悪い草からの 「形容詞句」

しかし種というものは目に見えない。

Aber die Samen sind unsichtbar. Aber 「主語」「動詞」「補語」

Aberアーバー conj. しかし

die Samen デー・ザーメン pl.n.m1 格 種というものは 「主語」

sind シント 3 複現(sein)v.i ～である 「動詞」

unsichtbar. ウンジヒトバー adj. 目に見えない 「補語」

種のうちの1つが、目覚めようと思いつくまで、種は地中で謎に包まれて眠っている。

Sie schlafen geheimnisvoll in der Erde, bis es einem von ihnen einfällt, aufzuwachen.

「主語」「動詞」「副詞句」

Sie ジー pron.pl それらは 「主語」

schlafen シュラーフェン 3 複現 v.i 眠っている 「動詞」

geheimnisvoll ケハムニスフォル adv. 神秘的に、謎に包まれて 「副詞」

in der Erde, イン・デア・エアデ adv. 地中で 「副詞句」

bis ビス conj. ～するまで 「副詞節」

es エス pron 非人称

einem von ihnen アイネ・フォン・イーレン pron 種のうちの1つが 「主語」

einfällt, アイン・フェルト 3 単現(ein | fallen)

v.i (+zu 不定詞) ～しようと思いつく 「動詞句」

V

aufzuwachen. アウフ・ツァー・ヴァヘン zu 不定詞 v.i 目覚める

「動詞句」

それから伸びをする。そして最初はおずおずと魅力的な小さな枝を太陽に向かって伸ばす、まったく無邪気な小枝を。

Dann streckt er sich und treibt zuerst schüchtern einen entzückenden kleinen Sproß zur Sonne, einen ganz harmlosen.

「副詞」「動詞句」「主語」 und 「動詞」「副詞句」「目的語」「副詞句」, 「目的語」

Dann ダン adv. それから

「副詞」

streckt ...sich シュトレクト...ズィッヒ 3 単現(sich-4 streken)v.pr 伸びをする

「動詞句」

er エア pron それは

「主語」

und ウント conj. そして

treibt トライプト 3 単現(treiben)v.t (植物) 芽を伸ばす、蕾をつける

「動詞」

zuerst ツェアースト adv. まず第一に

「副詞」

schüchtern シュヒターン adv. おずおずと

「副詞」

einen entzückenden アイネン・エントツェッケンデッセン adj. 魅力的な

「形容詞句」

kleinen Sproß クライネン・シュプ° ロース n.m 小さな枝を

「目的語」

zur Sonne, ツァー・ゾネ adv, 太陽に向かって

「副詞句」

einen ganz harmlosen. アイネン・ガンツ・ハームローゼン pron.m まったく無邪気な小枝を「目的語」



V

もしも赤カブやバラの新芽ならば、それが伸びるのを放っておいても構わない。

Wenn es sich um einen Radieschen- oder Rosentrieb handelt, kann man ihn wachsen lassen, wie er will. 「副詞節」, 「動詞句」 「主語」 「目的語」 「動詞句」 「副詞節」

Wenn ウェン conj. もしも～ならば、～の場合は 「副詞節」

es エス pron. それが 「主語」

sich ...handelt, スィヒ...ハントェルト 3 単現(es handelt sich-4 um et-4)

v.pr (何-4 の) ことである 「動詞句」

um einen Radieschen- oder Rosentrieb ウム・アイネン・ラデーシェン・オーダー・ローゼントリープ

adv. 赤カブやバラの新芽のこと 「間接目的語」

Radieschen ラデーシェン n.n ハツカダイコン、赤カブ (形が蕪に似ているから)

Rosentrieb ローゼントリープ → Rosen ローゼン n.f2 格 バラの trieb トリープ n.m 新芽、若枝

kann ...wachsen lassen, カン...ヴァクセン・ラッセン 3 単現・可能・放任(können+lassenn+不定詞)

v.t 伸びるままにさせて構わない 「動詞句」

man マン pron. 人は 「主語」

ihn イン pron. それを 「目的語」

wie ヴィー conj. ～のように 「副詞節」

er エア pron. それが 「主語」

will. ヴィル 3 単現(wollen)v.t 望む 「動詞」

しかし有害な植物ならば、そのことに気付くやいなや即座に引き抜かなくてはならない。

Aber wenn es sich um eine schädliche Pflanze handelt, muss man die Pflanze beizeiten herausreißen, sobald man erkannt hat, was für eine es ist.

Aber 「副詞節」, 「動詞句」 「主語」 「目的語」 「副詞」 「動詞句」, 「副詞節」

Aber アーバー conj. しかし

wenn ウェン conj. もしも～ならば、～の場合は 「副詞節」

es エス pron. それが 「主語」

sich ...handelt, スィヒ...ハントェルト 3 単現(es handelt sich-4 um et-4)

v.pr (何-4 の) ことである 「動詞句」

um eine schädliche Pflanze ウム・アイネ・シェートリッヒエ・プ フランツェ

adv. 有害な植物のこと 「間接目的語」

muss ...herausreißen, ムス...ヘラウスライゼン 3 単現・必要(müssen+不定詞)

v.t 引き抜かなければならない 「動詞句」

man マン pron. 人は 「主語」

die Pflanze デーイー・プ フランツェ n.f その植物を 「目的語」

beizeiten バイツァイテン adv. 時機を逃がさず、すぐに 「副詞」

V

sobald ソバルト conj. ～すると同時に	「副詞節」
man マン pron 人が	「主語」
erkannt hat, エカント・ハット 3 単現・完了形(erkennen)v.t 気付いた	「動詞句」
was für eine ヲァス・フュア・アイ	
pron (補語) どのようなもの～ということ	「目的語」
es エス pron それが	「主語」
ist. イスト 3 単現(sein)v.i ～である	「動詞」

王子様の惑星には恐ろしい種があった... それはバオバブの種だ。

Auf dem Planeten des kleinen Prinzen gab es fürchterliche Samen... und das waren die Samen der Affenbrotbäume. 「副詞句」「動詞句」「主語」und「主語」「動詞」「補語」

Auf dem Planeten des kleinen Prinzen アウフ・テーム・プ ラネテン・デス・クライネン・プリンツェン

adv. 王子様の惑星には	「副詞句」
gab es ガーブ・エス 3 単過・非人称(es gehen)v.i(et-4 何-4 が)あった	「動詞句」
fürchterliche Samen... フルヒターリッヒェ・ザーメン pl.n.m1 格 恐ろしい種が	「主語」
und ウント conj. そして	
das ダス pron (性・数に関わらない、定動詞はその内容に従う) それは	「主語」
waren ヲァレン 3 複過(sein)v.i ～だった	「動詞」
die Samen der Affenbrotbäume. デー・イー・ザーメン・デア・アッフェンブ ロートボイメ	
pl.n.m1 格 バオバブの種	「補語」

その惑星の大地はその種でいっぱいになっていた。

Der Boden des Planeten war voll davon. 「主語」「動詞」「補語」

Der Boden des Planeten デア・ボデーテン・デス・プ ラネテン n.m その惑星の大地は	「主語」
war ヲァール 3 単過(sein)v.i ～である	「動詞」
voll davon. フォル・ダフォン adj. その種でいっぱいの	「補語」

取り掛かるのが遅すぎると、1本のバオバブを厄介払いすることも不可能になる。

Aber einen Affenbrodbaum kann man, wenn man ihn zu spät angeht, nie mehr loswerden. Aber「目的語」「動詞句」「主語」,「副詞句」,「動詞句」

Aber アーバー conj. しかし	
einen Affenbrodbaum アイネン・アッフェンブ ロートバウム n.m4 格 1本のバオバブを	「目的語」
kann ... nie mehr loswerden. カン... ニー・メア・ロース・ヲェアデ 3 単現・可能・否定	
(können+不定詞)v.t もう決して厄介払いできない	「動詞句」
man, マン pron 人は	「主語」
wenn ヲェン conj. ～すると	「副詞節」

V

man マン pron 人が	「主語」
ihn イン pron.m4 格 それを	「目的語」
zu spät ツー・シュペート adv. あまり遅すぎて	「副詞句」
angeht, アン・ゲート 3 単現(an gehen)v.t 取り掛かる	「動詞句」

バオバブはその惑星全体にはびこってしまう。

<u>Er bemächtigt sich des ganzen Planeten.</u>	「主語」「動詞句」「目的語」
Er エア pron バオバブは	「主語」
bemächtigt sich ベメチクト・ズィヒ 3 単現(sich bemächtigen)v.pr(et-2 を) 占領する	「動詞句」
des ganzen Planeten. デス・ガンツェン・プラネテン n.m2 格 惑星全体を	「目的語」

バオバブは、根で惑星を貫き通す。

<u>Er durchdringt ihn mit seinen Wurzeln.</u>	「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」
Er エア pron バオバブは	「主語」
durchdringt ドゥルヒトリンクト 3 単現(durchdringen)v.t(et-4 を) 突き抜ける	「動詞」
durch dringen ドルルヒ・ドリッゲン v.i 突き抜ける、(mit et-3 を) 通す	
ihn イン pron.m4 格 惑星を	「目的語」
mit seinen Wurzeln. ミット・ザイネン・ウァツェルン adv. (手段) (植物の) 根によって	「副詞句」

そしてその惑星が小さすぎて、バオバブが多すぎる時には、惑星を破裂させてしまう。

<u>Und wenn der Planet zu klein ist und die Affenbrotbäume zu zahlreich werden, sprengen sie ihn.</u>	Und 「副詞節」, 「動詞」「主語」「目的語」
Und ウント conj. そして	
wenn ウェン conj. ～するとき	「副詞節」
der Planet デア・プラネート n.m その惑星が	「主語」
zu klein ツークライン adj. 小さすぎる	「補語」
ist イスト 3 単現(sein)v.i ～である	「動詞」
und ウント conj. そして	
die Affenbrotbäume テー・アッフェンブロートホーイメ pl.n.m バオバブが	「主語」
zu zahlreich ツー・ツァールライヒ adj. 数が多すぎる	「補語」
werden, ウェアデテン 3 複過(sein)v.i ～だった	「動詞」
sprengen シュプレッゲン 3 複現 v.t 破裂させる	「動詞」
sie ジー pron.pl バオバブは	「主語」
ihn. イン pron.m 惑星を	「目的語」

V

「それは規律の問題なんだよ」と、僕に王子さまは後になってから言った。

»Es ist eine Frage der Disziplin«, sagte mir später der kleine Prinz.

《「主語」「動詞」「補語」》, 「動詞」「間接目的語」「副詞」「主語」

»Es エス pron それは 「主語」
 ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である 「動詞」
 eine Frage アイン・フラーゲ n.f1 格 問題 「補語」
 der Disziplin, デア・ディズプリーン n.f2 格 規律の、戒律の 「形容詞句」
 sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 mir ミーア pron 僕に 「間接目的語」
 später シュペーター adv. (比較級) 後になって 「副詞」
 der kleine Prinz. デア・クライネ・プリンツ n.m 王子様が 「主語」

「自分の朝の身支度を終えたら、同じくらい入念に惑星の身支度もしなければいけない」

»Wenn man seine Morgentoilette beendet hat, muss man sich ebenso sorgfältig an die Toilette des Planeten machen.

《「副詞節」, 「動詞句」「主語」「動詞句」「副詞句」「間接目的語」「動詞句」》

»Wenn ヲェン conj. ~したら 「副詞節」
 man マン pron 人は 「主語」
 seine Morgentoilette サイネ・モアゲントアレッテ n.f4 格 自分の朝の身支度を 「目的語」
 beendet hat, ベエンデット・ハット 3 単現・完了形(beenden)v.t 終えた 「動詞句」
 muss ...sich...machen. ムス...ズィヒ...マヘン 3 単現・必要(müssen+不定詞 sich machen)
 v.pr ~に取りかからなければならない 「動詞句」
 man マン pron 人は 「主語」
 ebenso エーベンゾー adv. 同じように 「副詞」
 sorgfältig ゾアクフェルティヒ adv. 入念に 「副詞」
 an die Toilette アン・ディー・トアレッテ adv. 身支度に 「間接目的語」
 des Planeten デス・プラネーテン n.m2 格 惑星の 「形容詞句」

「小さい内はバラの若芽によく似ているバオバブの芽が、見分けられるようになったらすぐに引き抜くことをしっかりやり遂げなければならない。」

Man muss sich regelmäßig dazu zwingen, die Sprößlinge der Affenbrotbäume auszureißen, sobald man sie von den Rosensträuchern unterscheiden kann, denen sie in der Jugend sehr ähnlich sehen. 《「主語」「動詞句」「副詞句」「目的語」「副詞節」》

Man マン pron 人は 「主語」
 muss sich ...zwingen, ムス・ズッヒ ...ツァインゲン 3 単現・必要(sich zwingen)

V

v.t しっかりやり遂げなければならない	「動詞句」
regelmäßig レーゲルメーシヒ adv. いつも	「副詞」
dazu ダツァー adv. そのために、それに関して	「副詞」
zu 不定句 ～することを	「目的語」
die Sprößlinge ティー・シュプレスリンゲ pl.n.m4 格 子供を	「目的語」
der Affenbrotbäume テア・アッフエンブロートボーム	
pl.n.m2 格 バオバブの	「形容詞句」
auszureißen, アウス・ツァー・ライゼン zu 不定詞(aus reißen)v.t 引き抜く	「動詞句」
sobald ソバルト conj. ～するやいなや	「副詞節」
man マン pron 人は	「主語」
sie シー pron それらを	「目的語」
von den Rosensträuchern フォン・デーン・ローゼン・シュトラウヒェルン	
adv. バラの低木から	「副詞句」
unterscheiden kann, ウンターシャイデーン・カン 3 単現・可能(können+不定詞)	
v.t 見分けられる	「動詞句」
denen デーネン pron (それらに) バラの若芽に	「間接目的語」
sie シー pron.pl バオバブの子供が	「主語」
in der Jugend イン・デア・ユークェント adv. 小さいときは	「副詞句」
sehr ähnlich ゼーア・エンリッヒ adj. とてもよく似た	「補語」
sehen. ゼーエン 3 複現 v.i ～に見える	「動詞」

「それは実にうんざりするけれども簡単な仕事だよ。」

<u>Das ist eine zwar langweilige, aber leichte Arbeit.</u> «	《「主語」「動詞」「補語」》
Das ダス pron それは	「主語」
ist イスト 3 単現(sein)v.i ～である	「動詞」
eine zwar langweilige, アイネ・ツヴァール・ラングヴァイリゲ	
adj.f.1 格 実にうんざりする	「形容詞句」
zwar ツヴァール adv. たしかに～だが langweilig ラングヴァイリヒ adj. うんざりさせる	
aber アーバー conj. しかし	
leichte ライト adj.f.(leicht)1 格 簡単な	「形容詞」
Arbeit.« アルバイト n.f.1 格 仕事	「補語」

V

そしてある日のこと、王子さまは、僕のところの子供たちの頭に正しく入るように、美しい絵を仕上げることに努力すべきだと僕に勧めた。

Und eines Tages riet er mir, ich solle mich bemühen, eine schöne Zeichnung zustande zu bringen, damit es den Kindern bei mir daheim auch richtig in den Kopf gehe.

Und 「副詞句」, 「動詞」 「主語」 「間接目的語」 「直接目的語」

Und ウント conj. そして

eines Tages アイネス・ターゲス **n.m2 格** ある日のこと 「副詞句」

riet リート 3 単過(raten)v.i 助言した、勧めた 「動詞」

er エア pron 彼は 「主語」

mir, ミア pron 僕に 「間接目的語」

n. ～ということを 「直接目的語」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

solle mich bemühen, ソレ・ミヒ・ベ・ミューエン 接・1 単現・推測・義務(sollen+sich bemühen)

v.pr 努力すべきだろう 「動詞句」

zu 不定句 n. ～することを 「目的語」

eine schöne Zeichnung アイネ・シェーネ・ツァイトゥング

n.f4 格 美しい絵を 「目的語」

zustande zu bringen, ツ・シュタンデ・ツ・ブリンゲン zu 不定詞

v.t 実現する 「動詞句」

et-4 zustande bringen 「何-4 を実現させる」

damit ダミット conj. ～するために 「副詞節」

es エス pron それが 「主語」

den Kindern デン・キンダーン pl.n.n3 格 子供たちに 「間接目的語」

bei mir daheim バイ・ミア・ダ・ハイム

adj. 僕のところの 「形容詞句」

auch richtig アウフ・リヒヒ adv. 正しく 「副詞句」

in den Kopf イン・テン・コッフ adv. 頭に 「副詞句」

gehe. ゲーエ 接・3 単現・推測(gehen)v.i 入っていくだろう 「動詞」

副詞的 2 格 2 格の名詞を副詞として使用する

Eines Tages n.m2 格 ある日のこと、eines Morgens アイネス・モアゲンス n.m2 格 ある朝に

eines Abends アイネス・アーベンツ n.m2 格 ある晩に、eines Nachts アイネス・ナハツ n.f2 格 ある夜に

(Nacht は 2 格に s が付かないけれども Eines Tages などに合わせるために付けている)、さらには meines Erachtens マイネス・エラヒテンス n.n2 格 私の考えでは

副詞的 2 格 2 格の名詞を副詞として使用する

V

「彼らがいつか旅行をする時に」と、彼は言った。「それが彼らの役に立つかもしれないよ」

»Wenn sie eines Tages auf die Reise gehen«, sagte er, »kann es ihnen zugute kommen.

《「副詞節」》, 「動詞」 「主語」, 《「動詞句」 「主語」 「間接目的語」 「動詞句」》

»Wenn ^{ヴェン} conj. ～するときに 「副詞節」

sie ^{ジー} pron 彼らが 「主語」

eines Tages ^{アイネス・ターゲス} adv. いつの日か 「副詞句」

auf die Reise ^{アウフ・デー・ライゼ} adv. 旅行に 「副詞句」

gehen«, ^{ゲーエン} 3 複現 v.i 行く 「動詞」

sagte ^{サークテ} 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」

er, » ^{エア} pron 彼は 「主語」

kann...zugute kommen. ^{カン...ツークーテ・コメン} 3 単現・可能性(können+不定詞

zugute | kommen)

v.i 役に立つかもしれない 「動詞句」

es ^{エス} pron それは 「主語」

ihnen ^{イーネン} pron 彼らにとって 「間接目的語」

「時として、仕事を後回しにすることが、差し障りがないことも確かにある。」

Zuweilen macht es ja wohl nichts aus, wenn man seine Arbeit auf später verschiebt.

《「副詞」 「動詞句」 「副詞」 「目的語」 「主語」》

Zuweilen ^{ツグァイレン} adv. 時として、時々 「副詞」

macht ... aus, ^{マハト...アウス} 3 単現(aus | machen)

v.t (否定文で) (+nichts) 差し障りがない 「動詞句」

es ^{エス} pron 仮の主語 (真の主語は wenn 以降)

ja ^{ヤー} adv. たしかに 「副詞」

wohl nichts ^{ヴォール・ニヒツ} pron たぶん何も 「目的語」

wenn ^{ヴェン} conj. ～の場合は 「主語」

man ^{マン} pron 人が 「主語」

seine Arbeit ^{ザイネ・アルハイト} n.f4 格 自分の仕事を 「目的語」

auf später ^{アウフ・シュペーター} adv. 後に 「副詞句」

verschiebt. ^{フェアシューフト} 3 単現(verschieben)v.t 延期する 「動詞」

V



「しかしバオバブの場合には、そんなことをすると大惨事に見舞われる。」

Aber wenn es sich um Affenbrotbäume handelt, führt das stets zur Katastrophe.

《Aber 「副詞節」, 「動詞」 「主語」 「副詞」 「間接目的語」》

Aber アーバー conj. しかし

V

wenn ヲン conj. ~の場合には	「副詞節」
es エス pron それ	「主語」
sich ...handelt, シッヒ...ハント 3 単現(es handelt sich-4 um et-4)	
v.pr (何-4 の) ことである	「動詞句」
um Affenbrodbäume ウム・アッフェンブ ロートボイム adv. バオバブの	「間接目的語」
führt フェアト 3 単現(führen)v.t 導く	「動詞」
das ダス pron それは	「主語」
stets シテツ adv. 常に、いつも	「副詞」
zur Katastrophe. ツーア・カタストローフェ adv. 大惨事に	「間接目的語」

「僕は、怠け者が住んでいた惑星を知っている。」

Ich habe einen Planeten gekannt, den ein Faulpelz bewohnte.

	《「主語」「動詞句」「目的語」》
Ich イッヒ pron 私は	「主語」
habe ...gekant, ハーベ...ゲカント 1 単現・完了形(kennen)v.t 知っている	「動詞句」
einen Planeten アイン・プラネーテン n.m4 格 ある惑星を	「目的語」
den デン pron.4 格(Planeten の代用) そこに~する	「形容詞節」
ein Faulpelz アイン・ファールペルツ n.m1 格 怠け者が	「主語」
bewohnte. ベウウォンテ 3 単過(bewohnen)v.t 住んでいた	「動詞」

「彼は 3 本の低木を放っておいた...」

Er hatte drei Sträucher übersehen...

	《「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」》
Er エア pron 彼は	「主語」
hatte ...übersehen...« ハッテ...ユーハーゼーエン 3 単現・完了形(übersehen)	
v.t 見落としていた、無視していた	「動詞句」
drei Sträucher ドライ・シュトロイチャー pl.n.m 3 本の低木を	「目的語」

そこで僕は、王子様の指示に従って、その惑星の絵を描いた。

Und so habe ich denn diesen Planeten nach den Angaben des kleinen Prinzen gezeichnet.

	「副詞句」, 「動詞句」「主語」「副詞」「目的語」「副詞句」「動詞句」
Und so ウント・ゾー adv. それで	「副詞句」
habe... gezeichnet. ハーベ...ゲツァイゼント 1 単現・完了形(zeichnen)v.t 素描した	「動詞句」
ich イッヒ pron 私は	「主語」
denn デン adv. そこで	「副詞」
diesen Planeten デーイーゼン・プラネーテン n.m.4 格 その惑星を	「目的語」
nach den Angaben ナーハ・デーン・アンガバーエン adv. 指示に従って	「副詞句」

V

des kleinen Prinzen テス・クライン・プリンツェン n.m.2 格 王子様の

「形容詞句」

僕は、道德家の口調はあまり使いたくない。

Ich nehme nicht gerne den Tonfall eines Moralisten an.

「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」

Ich イッ pron 僕は

「主語」

nehme nicht gerne ...an. ネメ・ニヒ・ゲアネ...アン 1 単現・否定(an | nehmen+ nicht gerne)

v.t. ~を使うのはあまり好きではない

「動詞句」

nicht gerne ニヒ・ゲアネ adv. あまり喜んで~ない、あまり好きでない

den Tonfall テン・トンファル n.m.4 格 口調を

「目的語」

eines Moralisten アインス・モリステン n.m.2 格 道德家の

「形容詞句」

しかしバオバブの危険性はほとんど知られていないし、小惑星で道に迷う人の危険はとても大きいので、今回1度だけ、僕の慎重な態度を封印することにする。

Aber die Gefährlichkeit der Affenbrotbäume ist so wenig bekannt, und die Gefahren, die jedem drohen, der sich auf einen Asteroiden verirrt, sind so beträchtlich, dass ich für dieses eine Mal aus meiner Zurückhaltung heraustrete.

Aber 「主語」「動詞」「補語」 und 「主語」「動詞」「補語」

dass 「主語」「副詞句」「動詞句」

Aber アーバー conj. しかし

die Gefährlichkeit デーイー・ゲフェアリッヒカイト n.f.1 格 危険性は

「主語」

der Affenbrotbäume デア・アッフエンブ・ロートボーム adj.pl バオバブの

「形容詞句」

ist イスト 3 単現(sein)v.i. ~である

「動詞」

so wenig bekannt, ソー・ヴェニヒ・ベカント adj. ほとんど知られていない

「補語」

und ウント conj. そして

die Gefahren, デーイー・ゲファレン pl.n.f 危険は

「主語」

die デーイー pron.pl (主語) ~する

「形容詞節」

jedem イェーデム pron それぞれにとって

「間接目的語」

drohen, ドローエン 3 複現 v.i. 脅威である

「動詞」

der デア pron (主語) ~する

「形容詞節」

sich ...verirrt, スィッヒ...フェアリルト 3 単現(sich-4 verirren)

v.pr 道に迷う

「動詞句」

auf einen Asteroiden アウフ・アイネン・アステロイデン

adv. 小惑星で

「副詞句」

sind シント 3 複現(sein)v.i. ~である

「動詞」

so beträchtlich, ソー・ベトヒトリヒ adj. かなり激しい

「補語」

V

dass ダス conj. だから～する

ich イヒ pron 僕は

「主語」

für dieses eine Mal フェア・デーゼス・アイネ・マル adv. この1度に関り

「副詞句」

aus meiner Zurückhaltung アウス・マイナー・ツリュックハルトゥング

adv. 控えめな態度から外れて

「副詞句」

heraustrete. ヘラウストレーテ 1 単現(heraus|treten)v.i 出ていく

「動詞句」

僕はこう言いたい：「子供たちよ、バオバブに注意しなさい！」

Ich sage: Kinder, Achtung! Die Affenbrotbäume!

「主語」「動詞」：《「呼びかけ」「命令」「目的語」》

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

sage: サーゲ 1 単現・意思(sagen)v.t 言いたい

「動詞」

Kinder, キンダー pl.n.n 子供たちよ

「呼びかけ」

Achtung! アハツング n.f (命令) 注意しなさい！

「命令」

Die Affenbrotbäume! デーイー・アッフェンブーロートボイメ pl.n バオバブを

「目的語」

僕の友人のために、ずっと前から、僕と同様に彼らも気が付いていない危険に晒されていることを注意させるために、僕はこれほど熱心にこのスケッチを描いたのだ。

Um meine Freunde auf eine Gefahr aufmerksam zu machen, die - unerkannt - ihnen - wie mir seit langem droht, habe ich so viel an dieser Zeichnung gearbeitet.

「副詞句」, 「動詞句」「主語」「副詞句」「間接目的語」

Um meine Freunde ウム・マイネ・フロインデ adv. (目的) 僕の友人たちのために

「副詞句」

auf eine Gefahr アウフ・アイネ・ゲファール adv. 危険について

「副詞句」

aufmerksam アウフメアクザーム adj. 注意深い

「補語」

zu machen, ツ・マヘン zu 不定詞 v.t ～させる

「動詞句」

die - unerkannt - ihnen デーイー・ウンエアカント・イーネン

pron.f (die は Gefahr の代用) 彼らにまだ知られていない危険が「形容詞節：Gefahr」

wie mir ウーイー・ミーア adv. 僕と同様に

「副詞句」

seit langem サイト・ランゲーム adv. ずっと前から

「副詞句」

droht, ドロート 3 単現(drohen)v.i 脅す

「動詞」

habe ...gearbeitet. ハーベ...ゲアルハイト 1 単現・完了形(arbeiten)

v.i 働いてきた

「動詞句」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

so viel ソー・フィール adv. そんなにたくさん

「副詞句」

an dieser Zeichnung アン・デーイーザー・ツァイトズング adv. (対象) このスケッチに「間接目的語」

V

そのために僕が与える教訓は、その苦勞に値するものだ。

<u>Die Lehre, die ich damit gebe, ist gewiss der Mühe wert.</u>	「主語」「動詞」「補語」
Die Lehre, デー・レーレ n.f 教訓は	「主語」
die デー pron (目的語) ～する	「形容詞節」
ich イヒ pron 僕が	「主語」
damit ダミット adv. そのために	「副詞」
gebe, ゲーベ 1 単現(geben)v.t 与える	「動詞」
ist イスト 3 単現(sein)v.i ～である	「動詞」
gewiss ゲワイス adv. 確かに	「副詞」
der Mühe デア・ミュエ pron.3 格 苦勞に	「副詞句」
wert. ウェート adj. 値する	「補語」

もしかすると、君たちは疑問に思うかもしれない：どうしてこの本には、バオバブの絵と同じくらい見事なデッサンが他にはないのだろうか？

Ihr werdet euch vielleicht fragen: Warum enthält dieses Buch nicht noch andere, ebenso großartige Zeichnungen wie die Zeichnung von den Affenbrotbäumen?

	「主語」「動詞句」「副詞」「動詞句」：「副詞」「動詞」「主語」「目的語」
Ihr イー pron.pl.1 格 君たちは	「主語」
werdet euch ...fragen: ウェアデット・オイ...フラーゲン 2 複現・推量(werden+不定詞 sich-4 fragen)	
v.pr 疑問に思うかもしれない	「動詞句」
vielleicht フライヒト adv. もしかすると	「副詞」
Warum ウアルム adv. どうして	「副詞」
enthält エントヘルト 3 単現(enthalten)v.t 含んでいる	「動詞」
dieses Buch デーゼス・ブーフ n.n.1 格 この本は	「主語」
nicht noch andere, ニヒト・ノホ・アンデレ	
pron.f.4 格 (否定: Zeichnung の代用) 他の絵が～ない	「目的語」
ebenso großartige Zeichnungen エーベンゾー・グー・ロースアルティゲ・ツァイヒヌンゲン	
pl.n.f 同じくらい見事なデッサンが	「目的語」
wie ウー conj. ～のように	「形容詞句」
die Zeichnung デー・ツァイヒヌング n.f 絵	「目的語」
von den Affenbrotbäumen? フォン・デン・アッフェンブロートホイメン	
adj. バオバブの	「形容詞句」

V

その答えはとても単純だよ。僕は確かに、思い切って試してみたけど失敗に終わったんだ。

Die Antwort ist sehr einfach: Ich habe wohl den Versuch gewagt, aber es ist mir nicht gelungen.

「主語」「動詞」「補語」:

「主語」「動詞句」「副詞」「目的語」 aber 「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」

Die Antwort デー・イー・アントゥェ わト n.f その答えは 「主語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である 「動詞」

sehr einfach: セー・ア・インファッハ adj. とても単純な 「補語」

Ich イッヒ pron 私は 「主語」

habe ...gewagt, ハーベ...ゲウァークト 1 単現・完了形(wagen)

v.t 思い切ってやってみた 「動詞句」

wohl ウォール adv. 確かに 「副詞」

den Versuch デン・フェアズーフ n.m 試みを 「目的語」

aber アーバー conj. しかし

es エス pron 試みは 「主語」

ist ...nicht gelungen. イスト...ニヒト・ゲルゲン 3 単現・完了形・否定(gelingen)

v.i(j-3 にとって) うまくいかなかった、失敗した 「動詞句」

mir ミーア pron 私にとって 「間接目的語」

僕がああバオバブをデッサンしたときは、緊急性を要するという感情から、気が高ぶっていたんだよ。

Als ich die Affenbrotbäume zeichnete, war ich vom Gefühl der Dringlichkeit beseelt.

「副詞節」, 「動詞句」「主語」「副詞句」「動詞句」

Als アルス conj. ~したとき 「副詞節」

ich イッヒ pron 私が 「主語」

die Affenbrotbäume デー・イー・アッフェンブロートボイメ pl.n.m.4 格 バオバブを 「目的語」

zeichnete, ツァイヒテ 1 単過(zeichnen)v.t デッサンした 「動詞」

war ...beseelt. ヴァール...ベセェルト 1 単過・状態受動(beseelen)

v.t 生気を吹き込まれていた 「動詞句」

ich イッヒ pron 私は 「主語」

vom Gefühl der Dringlichkeit フォム・ゲフル・デア・ドリングリヒカイト

adv. (原因) 緊急性を要するという感情によって 「副詞句」

Gefühl ゲフル n.n 感覚、感情 der Dringlichkeit デア・ドリングリヒカイト n.f.2 格 緊急性の

VI

VI



ああ、王子様、このようにゆっくりと、僕は君の少し憂鬱な人生を理解するようになった。

Ach, kleiner Prinz, so nach und nach habe ich dein kleines schwermütiges Leben verstanden. 「間投」「呼びかけ」「副詞句」, 「動詞句」「主語」「目的語」「動詞句」

Ach, アッハ int. ああ 「間投」

kleiner Prinz, クライナー・プリンツ n.m 王子様 「呼びかけ」

so ソー adv. このように 「副詞」

nach und nach ナーハ・ウント・ナーハ adv. 次第に、ゆっくりと 「副詞句」

habe ...verstanden. ハーベ ...フェアシュタンデן 1 単現・完了形(verstehen)

v.t 理解するようになった 「動詞句」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

dein kleines schwermütiges Leben ダイン・クライネス・シュヴァーアミュיתיゲス・レーベン

n.n.4 格 君の少し憂鬱な人生を 「目的語」

長い間、心休まる日の入りの他には何も、君の気晴らしにはならなかったんだね。

Lange Zeit hast du, um dich zu zerstreuen, nichts anderes gehabt als die Lieblichkeit der Sonnenuntergänge.

「副詞句」, 「動詞句」「主語」「副詞句」「目的語」「動詞句」「副詞句」

Lange Zeit ランゲ・ツァイト n.f.4 格 長い間 「副詞句」

VI

hast ...gehabt	ハスト...ゲハプト	2 単現・完了形(haben)v.t	持っていた	「動詞句」
du,	ドゥー	pron	君は	「主語」
um dich zu zerstreuen,	ウム・ディッヒ・ツァー・ツェアシュトロイェン	zu	不定句	
adv.	自分の気を紛らすために			「副詞句」
nichts anderes	ニヒツ・アンデレス	pron	他に何も～ない	「目的語」
als	アルス	conj.	～よりも	「副詞句」
die Lieblichkeit	デー・リープ・リヒカイト	n.f	愛らしさ	「目的語」
lieblich	リープ・リヒ	adj.	愛らしい	
-keit			は女性名詞を作る接尾辞	
der Sonnenuntergänge.	デア・ゾネンウンターゲンゲ			
pl.n.m.2 格	日の入りの			「形容詞句」

名詞 4 格 「直接目的語」や「副詞」として

4 格は他動詞の目的語になります。形容詞や前置詞の目的語にもなります。

また 4 格には副詞としての用法もあります（副詞的 4 格）。

Jeden Tag spiele ich eine Stunde Tennis. 毎日私は 1 時間テニスをします。

4 日目の朝、君が僕に次のように言ったときに、僕はそのことを知った。

Das erfuhr ich am Morgen des vierten Tages, als du mir sagtest:

				「目的語」「動詞」「主語」「副詞句」
Das	ダス	pron	そのことを	「目的語」
erfuhr	エアフア	1 単過(erfahren)v.t	知った	「動詞」
ich	イッヒ	pron	僕は	「主語」
am Morgen	アム・モアゲン	adv.	朝に	「副詞句」
des vierten Tages,	デス・フィーアテン・ターゲス	n.m.2 格	4 日目の	「形容詞句」
als	アルス	conj.	～するときに	「副詞節」
du	ドゥー	pron	君が	「主語」
mir	ミーア	pron	僕に	「間接目的語」
sagtest:	ザークテスト	2 単過(sagen)v.t	言った	「動詞」

「僕は日の入りが大好きなんだ。日の入りを見に行こうよ...」

»Ich liebe Sonnenuntergänge sehr. Komm, lass uns einen Sonnenuntergang

anschauen...« 《「主語」「動詞」「目的語」「副詞」 | 「動詞句」「目的語」「動詞句」》

»Ich	イッヒ	pron	僕は	「主語」
liebe	リーベ	1 単現(lieben)v.t	好きである	「動詞」
Sonnenuntergänge	ゾネンウンターゲンゲ	pl.n.m	日の入り	「目的語」
sehr.	ゼーア	adv.	とても	「副詞」
Komm,	コム	命・2 単現(kommen)v.i	行こう	「動詞」

名詞 4 格 「直接目的語」や「副詞」として

VI

lass uns ...anschauen...« ラス・ウンス...アンシャウエン 命・2 単現・勧誘(lass uns+不定詞)

v.t. ～を見よう

「動詞句」

einen Sonnenuntergang アイネン・ゾネンウンターガンク n.m.4 格 日の入りを

「目的語」

「それなら、まだ待たなければ...」

»Da muss man noch warten...«

《「副詞」「動詞句」「主語」「副詞」「動詞句」》

»Da ダー adv. それなら

「副詞」

muss ...warten...« ムス...ヴァルテン 3 単現・必要(müssen+不定詞)

v.i. 待たなくてはならない

「動詞句」

man マン pron 僕たちは

「主語」

noch ノッホ adv. まだ

「副詞」

「いったい何を待つのか？」

»Worauf denn warten?«

《「目的語」「動詞」》

»Worauf denn ヴォラウフ・デーン pron. いったい何を

「目的語」

denn デーン adv. いったい

warten?« ヴァルテン 1 複現 v.i. 待つ

「動詞」

「太陽が沈むまで待つのか？」

»Warten, bis die Sonne untergeht.«

《「動詞」「副詞節」》

»Warten, ヴァルテン 1 複現 v.i. 待つ

「動詞」

bis ビス conj. ～するまで

「副詞節」

die Sonne デーイー・ゾネ n.f. 太陽が

「主語」

untergeht.« ウンター・ゲート 3 単現(unter|gehen)v.i. 沈む

「動詞句」

君は、最初はとても驚いた顔つきをしていたけど、それから自分自身のことを嘲笑った。

Du hast zuerst ein sehr erstauntes Gesicht gemacht und dann über dich selber gelacht.

「主語」「動詞句」「副詞句」「目的語」 und 「副詞」「間接目的語」「動詞句」

Du ドゥ pron 君は

「主語」

hast ...gemacht ハスト...ゲマハト 2 単現・完了形(machen)v.t. (動作名詞と) ～した 「動詞句」

zuerst ツェアースト adv. 初めのうちは

「副詞句」

ein sehr erstauntes Gesicht アイン・セーア・エアシュタウンテス・ゲジヒト

n.n.4 格 とても驚いた顔つきを

「目的語」

und ウント conj. そして

dann ダン adv. それから

「副詞」

über dich selber ユーバー・ディッヒ・ゼルバー adv. 自分自身のことを

「間接目的語」

VI

gelacht. ゲラフト 2 単現・完了形(lachen)v.i(hast は省略) 嘲笑った 「動詞句」

それから君は、僕にこう言ったんだ：

Und du hast zu mir gesagt: Und 「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」

Und ウント conj. そして

du トゥ pron 君は 「主語」

hast ...gesagt: ハスト...ゲザークト 2 単現・完了形(sagen)v.t 言った 「動詞句」

zu mir ツー・ミーア adv. 僕に 「間接目的語」

「僕は相変わらず自分の星にいたいと思ひ込んでいるんだ！」

»Ich bilde mir immer ein, ich sei zu Hause!«

《「主語」「動詞句」「副詞」「動詞句」「目的語」》

»Ich イヒ pron 僕は 「主語」

bilde mir ...ein, ビルデ・ミー...アイン 1 単現(sich-3 ein | bilden)v.pr 思ひ込んでいる 「動詞句」

immer イマー adv. いまだに 「副詞」

ich イヒ pron 自分が～するという事を 「目的語」

sei ザイ 接・1 単現・推測(sein)v.i ～にいるのだろう 「動詞」

zu Hause!« ツー・ハウゼ adv. 自分の星に 「副詞句」

なるほど。アメリカ合衆国が正午の時、誰もが知っているように、フランスでは日が沈む。

In der Tat. Wenn es in den Vereinigten Staaten Mittag ist, geht die Sonne, wie jedermann weiß, in Frankreich unter.

「副詞句」 | 「副詞節」, 「動詞句」「主語」「副詞節」「副詞句」「動詞句」

In der Tat. イン・デア・タート adv. 確かに、実際、なるほど 「副詞句」

Wenn ウェン conj. ～の時に 「副詞節」

es エス pron 時間が 「主語」

in den Vereinigten Staaten イン・デーン・フェアアイニヒテン・シュターテン
adv. アメリカ合衆国で 「副詞句」

Mittag ミッターク n.m 正午 「補語」

ist, イスト 3 単現(sein)v.i ～である 「動詞」

geht ...unter. ゲート...ウンター 3 単現(unter | gehen)v.i (太陽が) 沈む 「動詞句」

die Sonne, デー・ゾネ n.f 太陽が 「主語」

wie ヴァイ conj. ～のように 「副詞節」

jedermann イェーダーマン pron 誰でもが 「主語」

weiß, ヴァイス 3 単現(wissen)v.t 知っている 「動詞」

VI

in Frankreich イン・フランクライ adv. フランスでは

「副詞句」

そこで日の入りを見るためには、1分以内にフランスに移動できなければならないだろう。

Um dort einem Sonnenuntergang beizuwohnen, müsste man in einer Minute nach..
Frankreich fliegen können.

「副詞句」, 「動詞句」 「主語」 「副詞句」 「間接目的語」 「動詞句」

Um +zu 不定句 ウム adv. ～するためには

「副詞句」

dort ドアト adv. そこで

「副詞」

einem Sonnenuntergang アイネム・ゾネウンターガンク n.m.3 格 日の入り 「間接目的語」

beizuwohnen, バイ・ツァー・ウーネン zu 不定詞(bei | wohnen)

v.i 立ち会う、居合わせる

「動詞」

müsste ...fliegen können. ムステ...フリーゲン・ケネ 接 II・3 単現・推量(können+不定詞)

v.i 高速に移動できなければならないだろう

「動詞句」

fliegen フリーゲン v.i 飛ぶような速さで動く

man マン pron 人は

「主語」

in einer Minute イン・アイナー・ミヌーテ adv. 1分以内に

「副詞句」

nach Frankreich ナーハ・フランクライ adv. フランスに

「間接目的語」

不幸にも、フランスは遠すぎる。

Unglücklicherweise ist Frankreich viel zu weit weg. 「副詞句」 「動詞」 「主語」 「副詞句」

Unglücklicherweise ウングレックリヒャーウァイゼ adv. 不幸にも

「副詞句」

ist イスト 3 単現(sein)v.i (存在) ～にある

「動詞」

Frankreich フランクライ n.n フランスは

「主語」

viel zu weit weg. フィール・ズー・グァイト・ウェク adv. とても離れたところに

「副詞句」

しかし、君の小さい星の上だったら、ほんの数歩だけ椅子を動かせば十分だったんだ。

Aber auf deinem so kleinen Planeten genügte es, den Sessel um einige Schritte
weiterzurücken.

Aber 「副詞句」, 「動詞」 「主語」

Aber アーバー conj. しかし

auf アウフ prep (3 格と) (場所) ～ (の上) では

「副詞句」

deinem so kleinen Planeten ダイネム・ゾー・クライネン・プラネーテン

n.m.3 格 君のとても小さい星

「目的語」

genügte ゲニュークテ 3 単過(genügen)v.i 十分だった

「動詞」

es, エス pron 仮の主語 (真の主語は den Sessel 以降)

n. ～ということが

「主語」

VI

den Sessel デン・ゼッセル n.m 椅子を

「目的語」

um ウム prep (4 格と) (数量的な差異) 〜だけ

「副詞句」

einige Schritte アインゲ・シュリッテ pl.n.m.4 格(Schritt) 数歩

「目的語」

einige アインゲ **pron** (格変化は **dieser** と同様) いくらかの、二・三の

weiterzurücken. ヴァイター・ツールュッケン zu 不定詞(weiter|rücken)

v.t 前に動かす

「動詞句」

指示代名詞 einige アインゲ いくらかの	男性名詞・単数 2格に[e]s	女性名詞・単数 名詞は無変化	中性名詞・単数 2格に[e]s	複数名詞・性別なし 3格にn
1 格 は(が)	einiger	einige	einiges	einige
2 格 の	einiges	einiger	einiges	einiger
3 格 に	einigem	einiger	einigem	einigen
4 格 を	einigen	einige	einiges	einige

それで君は、見たいと思うたびに夕暮れを眺めたんだね。「ある日、僕は日が沈むのを 43 回も見たよ！」

Und du erlebstest die Dämmerung, so oft du es wünschtest... »An einem Tag habe ich die Sonne dreiundvierzigmal untergehen sehn!«

Und 「主語」 「動詞」 「目的語」 「副詞節」

《「副詞句」 「動詞句」 「主語」 「目的語」 「補語」 「動詞句」》

Und ウント conj. そして

du トゥ pron 君は

「主語」

erlebstest エアレープテスト 2 単過(erleben)v.t 体験した、味わった

「動詞」

die Dämmerung, デーイー・デメルング n.f 夕暮れを

「目的語」

so oft ソー・オフト conj.(sooft) 〜するたびに

「副詞節」

du トゥー pron 君は

「主語」

es エス pron それを

「目的語」

wünschtest... ブンシュテスト 2 単過(wünschen)v.t 望んだ

「動詞」

»An einem Tag アン・アイネム・ターク adv. ある日には

「副詞句」

habe ...sehn!« ハーベ...ゼーン 1 単現・完了形・知覚(sehen)v.t(SVO+不定詞 untergehen)

v.t (O が〜するのを) 見た

「動詞句」

habe...sehen がよくつかわれるが、habe...gesehen はあまり使われない。

Ich habe ihn laufen sehen. 私は彼が走っているのが見えた。

sehn は sehen の短縮形

ich イヒ pron 僕は

「主語」

die Sonne デーイー・ゾネ n.f 太陽が

「目的語」

VI

dreiundvierzigmal トライ・ウント・フィアツヒ・マル adv. 43 回

「副詞」

untergehn ウンター・ゲーエン 不定詞 v.i (太陽が) 沈む

「補語」

それから少しして、君は付け加えたね：

Und ein wenig später fügtest du hinzu:

Und 「副詞句」「動詞句」「主語」「動詞句」

Und ウント conj. そして

ein wenig später アイン・ウーニツヒ・シュペーター adv. 少し後で

「副詞句」

wenig ウーニツヒ adj. ほんの少し später シュペーター adv. 後で

fügtest ...hinzu: フュークテスト...ヒンツァー 2 単過(hinzu|fügen)v.t 付け加えた

「動詞句」

du トゥ pron 君は

「主語」

「ねえ、分るでしょう？本当に悲しい時には、日の入りが好きになるって...」

»Du weißt doch, wenn man recht traurig ist, liebt man die Sonnenuntergänge...«

《「主語」「動詞」「副詞」, 「副詞節」, 「動詞」「主語」「目的語」》

»Du トゥ pron 君は

「主語」

weiß ウァイスト 2 単現(wissen)v.t 知っている

「動詞」

doch, トッホ adv. (肯定の返事を期待して) もちろん〜だろうね

「副詞」

wenn ウェン conj. ~するときは

「副詞節」

man マン pron 人が

「主語」

recht traurig レヒト・トラウリヒ adj. 本当に悲しい

「補語」

ist, イスト 3 単現(sein)v.i ~である

「動詞」

liebt リーブト 3 単現(lieben)v.t 好む

「動詞」

man マン pron 人は

「主語」

die Sonnenuntergänge...« デーイー・ゾネンウンターゲング pl.n.m 日の入りを

「目的語」

「そうすると、43 回も日の入りを見た日は、よっぽど悲しかったんだね？」

»Am Tage mit den dreiundvierzigmal warst du also besonders traurig?«

《「副詞句」, 「動詞」「主語」「副詞」「補語」》

»Am Tage アム・ターゲ adv. その日は

「副詞句」

mit den dreiundvierzigmal ミット・デーン・トライ・ウント・フィアツヒ・マル

adj. 43 回も日の入りを見た

「形容詞句」

warst ウァールスト 2 単過(sein)v.i ~ だった

「動詞」

du トゥ pron 君は

「主語」

also アルゾー adv. そうすると、したがって

「副詞」

besonders traurig?« ベゾンダース・トラウリヒ adj. とりわけ悲しい

「補語」

besonders ベゾンダース adv. 特に、とりわけ、はっきりと

VII

しかし、王子さまは答えなかった。

Aber der kleine Prinz antwortete nicht.

Aber 「主語」「動詞句」

Aber アーバー conj. しかし

der kleine Prinz デア・クライン・プリンツ n.m 王子さまは

「主語」

antwortete nicht. アントヴェアテ・ニヒト 3 単過・否定(antworten)v.i 答えなかった

「動詞句」

VII

5 日目に、王子様の人生の秘密を打ち明ける手助けをしたのは、またあの羊だった。

Am fünften Tag war es wieder das Schaf, das ein Lebensgeheimnis des kleinen Prinzen
enthüllen half.

「副詞句」, 「動詞」「補語」「主語」

Am fünften Tag アム・フュンフテン・ターク adv. 5 日目に

「副詞句」

war ヴァール 3 単過(sein)v.i ~ だった

「動詞」

es エス pron 仮の主語 (真の主語は das ein Lebensgeheimnis 以降)

wieder das Schaf, ヴィーダー・ダス・シャーフ n.n またあの羊

「補語」

das ダス pron (主語) ~ ということは

「主語」

ein Lebensgeheimnis アイン・レーベンズ・ゲハイムニス n.n 人生の秘密を

「目的語」

Lebens レーベンズ n.n2 格 人生の Geheimnis ゲハイムニス n.n 秘密

des kleinen Prinzen デス・クライン・プリンツェン adj. 王子様の

「形容詞句」

enthüllen half. エントヒュレン・ハルフ 3 単過・支援(helfen+不定詞)

v.t 打ち明ける手助けをした

「動詞句」

彼は前触れもなく僕に尋ねた。まるで長い沈黙の末に答えが得られたかのようなだった。

Er fragte mich unvermittelt, ohne Umschweife, als pflückte er die Frucht eines in
langem Schweigen gereiften Problems:

「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」

Er エア pron 彼は

「主語」

fragte フラーケ 3 単過(fragen)v.t 尋ねた

「動詞」

mich ミヒ pron 僕に

「目的語」

unvermittelt, ウンフェアミッテルト adv. 突然、前触れもなく

「副詞」

ohne Umschweife, オーネ・ウムシュヴァイフェ adv. 直接的に、あけすけに

「副詞句」

als アルス conj. あたかも~のように

「副詞節」

pflückte プフリュケ 3 単過(pflücken)v.t 摘み取った

「動詞」

er エア pron 彼は

「主語」

die Frucht ディー・フルフト n.f 果実を、成果を

「目的語」

eines in langem Schweigen gereiften Problems:

VII

アイネス・イン・ランゲム・シュヴァイゲン・ゲライフテン・プロブレムス

n.n.2 格 長い沈黙の結果として熟した問題の 「形容詞句」

in langem Schweigen イン・ランゲム・シュヴァイゲン adj. (経過) 長い沈黙の

gereiften ゲライフテン過去分詞 adj. 熟した Problems プロブレムス n.n.2 格 問題の

「もしも羊が低木を食べるのなら、もちろん花も食べるんでしょう？」

»Wenn ein Schaf Sträucher frisst, so frisst es doch auch die Blumen?«

《「副詞節」, 「副詞」 「動詞」 「主語」 「副詞」 「目的語」》

»Wenn ヲン conj. (条件) もしも～ならば 「副詞節」

ein Schaf アイン・シャーフ n.n.1 格 羊が 「主語」

Sträucher シュトロヒエ pl.n.m.4 格 (Strauch) 低木を 「目的語」

frisst, フリスト 3 単現(fressen)v.t (動物が) 食べる 「動詞」

so ザー adv. そのように 「副詞」

frisst フリスト 3 単現(fressen)v.t (動物が) 食べる 「動詞」

es エス pron それは 「主語」

doch ドツッ adv. (肯定の返事を期待して) もちろん～だろうね 「副詞」

auch die Blumen?« アウフ・デー・フルメン pl.n.f(Blume) 花も 「目的語」

「口の前に来るもの何でも食べる」

»Ein Schaf frisst alles, was ihm vors Maul kommt.«

《「主語」 「動詞」 「目的語」》

»Ein Schaf アイン・シャーフ n.n 羊は 「主語」

frisst フリスト 3 単現(fressen)v.t (動物が) 食べる 「動詞」

alles, アレス pron なんでも 「目的語」

was ヲアス pron (主語) ～する 「形容詞節」

ihm vors Maul イム・フォアス・マウル adv. 彼の口の前に 「副詞句」

ihm イム pron 彼の vors フォアス adv.(vor das) ～の前に Maul マウル n.n (動物の) 口

kommt.« コムト 3 単現(kommen)v.i 来る 「動詞」

「とげのある花でも？」

»Auch die Blumen, die Dornen haben?«

《「目的語」》

»Auch die Blumen, アウフ・デー・フルメン pl.n.f.4 格 花も? 「目的語」

die デー pron.pl (主語) ～する 「形容詞節」

Dornen ドアネン pl.n.m とげを 「目的語」

haben?« ハーベン 3 複現 v.t 持っている 「動詞」

VII

「そうだよ。とげのある花でも」

»Ja. Auch die Blumen, die Dornen haben.« 《「応答」 | 「目的語」》
 »Ja. ヤー adv. (肯定の返事) そうだよ 「応答」
 Auch die Blumen, アウフ・デー・ブルメン pl.n.f.4 格 花も 「目的語」
 die Dornen haben.« デー・トアネン・ハーベン adj. とげのある 「形容詞節」

「それじゃあ、何のためにとげはあるの？」

»Wozu haben sie dann die Dornen?« 《「副詞」「動詞」「主語」「副詞」「目的語」》
 »Wozu ヴォツウ adv. 何のために 「副詞」
 haben ハーベン 3 複現 v.t 持っている、ある 「動詞」
 sie ジー pron.pl 彼らは 「主語」
 dann ダン adv. それならば 「副詞」
 die Dornen?« デー・トアネン pl.n.m.4 格 とげを 「目的語」

僕はそれを知らなかった。

Ich wusste es nicht. 「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」
 Ich イヒ pron 僕は 「主語」
 wusste ...nicht. ウステ...ニヒト 1 単過・否定(wissen)v.t 知らなかった 「動詞句」
 es エス pron それを 「目的語」

僕は、強く締めすぎた、僕のエンジンのボルトを外す仕事で忙しかったのだ。

Ich war gerade mit dem Versuch beschäftigt, einen zu streng angezogenen Bolzen meines Motors abzuschrauben. 「主語」「動詞」「副詞句」「補語」
 Ich イヒ pron 僕は 「主語」
 war ヴァール 1 単過(sein)v.i ~ だった 「動詞」
 gerade ゲラーテ adv. まさに 「副詞」
 mit dem Versuch ミット・デーム・フェアスーフ adv. 試みで 「副詞句」
 beschäftigt, ベシェフト adj. 忙しい 「補語」
 n. (同格) ~するという 「形容詞句」
 einen アイネン art.4 格 ~を 「目的語」
 zu streng angezogenen ツー・シュトレング・アンゲツォーゲネン
 adj. 余りにも強く締まった 「形容詞句」
 zu ツー adv. あまりに~すぎる streng シュトレング adj. きつい
 angezogen アンゲツォーゲン過去分詞・受動(an | ziehen)adj. 絞められた
 Bolzen ボルツェン n.m ボルト 「目的語」
 meines Motors マイネス・モートアス

VII

adj. 僕のエンジンの 「形容詞句」

abzuschrauben. アップ・ツー・シュラウベン zu 不定詞(ab|schrauben)

v.t ねじって外す

「動詞句」

故障が深刻だと分かってきたので、僕はとても心配だった。そして飲み水が終わりに近づいていたので、僕は最悪の事態を覚悟した。

Ich war in großer Sorge, da mir meine Panne sehr bedenklich zu erscheinen begann, und ich machte mich aufs Schlimmste gefasst, weil das Trinkwasser zur Neige ging.

「主語」「動詞」「補語」「副詞節」 und 「主語」「動詞句」「補語」「副詞節」

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

war ヲアル 1 単過(sein)v.i ~ だった

「動詞」

in großer Sorge, イン・グロサー・ゾアゲ adv. (状態) 大変心配な

「補語」

da ダー conj. ~なので

「副詞節」

mir ミー pron 僕にとって

「間接目的語」

meine Panne マイネ・パンネ n.f 故障が

「主語」

sehr bedenklich セーア・ベテンクリヒ adj. 深刻な

「補語」

zu erscheinen begann, ツー・エアシャイネン・ベガン 3 単過・開始(beginnen zu+不定詞)

v.i ~のように思われてきた

「動詞句」

und ウント conj. そして

ich イヒ pron 僕は

「主語」

machte mich マハテ・ミヒ 1 単過(sich machen)v.pr ~に向かった

「動詞句」

aufs Schlimmste gefasst, アウフス・シュリムステ・ゲファスト adv. 最悪の事態を覚悟した

「補語」

auf et-4 gefasst ~を覚悟している schlimm 悪い → Schlimmste 最悪の事態

weil ヲァイル conj. ~なので

「副詞節」

das Trinkwasser ダス・トリנקワッサー n.n 飲み水が

「主語」

zur Neige ツーア・ナイゲ adv. 終わりに

「副詞句」

ging. キング 3 単過(gehen)v.i 進んでいた、近づいていた

「動詞」

「とげは何のためにあるの？」

»Was für einen Zweck haben die Dornen?«

《「目的語」「主語」「動詞句」》

»Was für einen Zweck ヲアス・フューア・アイネン・ツウエック n.m どのような目的を

「目的語」

haben ハーベン 3 複現 v.t 持っている、ある

「動詞」

die Dornen?«デー・イー・トアネン pl.n.m.1 格 とげは

「主語」

VII

王子さまは、一度質問をすると決してそれを諦めなかった。

Der kleine Prinz verzichtete niemals auf eine Frage, wenn er sie einmal gestellt hatte.

「主語」「動詞句」「間接目的語」「副詞節」

Der kleine Prinz デア・クライネ・プリンツ n.m 王子さまは

「主語」

verzichtete niemals フェアズ・イヒテテ・ニマルス 3 単過・否定(verzichten)

v.i(auf et-4 を) 決して諦めなかった

「動詞句」

niemals ニマルス adv. 決して～ない

auf eine Frage, アウフ・アイネ・フラゲ adv. 質問を

「間接目的語」

wenn ウェン conj. ～すると

「副詞節」

er エア pron 彼が

「主語」

sie シー pron.f(Frage の代用) 質問を

「目的語」

einmal インマル adv. 一度

「副詞」

gestellt hatte. ゲシュテルト・ハッテ 3 単過・完了形(stellen)v.t (名詞を) した

「動詞句」

j-3 eine Frage stellen 「人-3に質問する」

僕はボルトのことで完全に手一杯だったので、思い付きで答えた。

Ich war völlig mit meinem Bolzen beschäftigt und antwortete aufs Geratewohl:

「主語」「動詞」「補語」 und 「動詞」「副詞句」

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

war ウァール 1 単過(sein)v.i ～ だった

「動詞」

völlig フェリヒ adv. 完全に

「副詞」

mit meinem Bolzen ミット・マイネン・ボルツェン adv. ボルトのことで

「副詞句」

beschäftigt ベシェーフティクト adj. 忙しい、手一杯の

「補語」

und ウント conj. そして、それで

antwortete アントヴァテ 1 単過(antworten)v.i 答えた

「動詞」

aufs Geratewohl: アウフス・ゲラテウオル adv. あてずっぽうに、思い付きで

「副詞句」

「とげには、何の目的もないよ！花は自分たちの意地悪でとげを伸ばしているんだ」

»Die Dornen, die haben gar keinen Zweck, die Blumen lassen sie aus seiner Bosheit wachsen!«

《「主語」「動詞」「目的語」, 「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」「補語」》

»Die Dornen, デー・トアネン pl.n.m(Dorn) とげは

「主語」

die デー pron それは

「主語」

haben ハーベン 3 複現 v.t ある

「動詞」

gar keinen Zweck, ガール・カイン・ツァエック n.m 全く何の目的も～ない

「目的語」

die Blumen デー・ブルーメン pl.n.f 花は

「主語」

lassen ラッセン 3 複現・使役 v.t ～させている

「動詞」

VII

sie ジー pron.pl それらを 「目的語」
 aus seiner Bosheit アウス・ザイアー・ボースハイト adv. 彼らの意地悪から 「副詞句」
 wachsen!« ヲアクション 不定詞 v.i 伸びる 「補語」

「えー！」

»Oh!« 《「感嘆」》
 »Oh!« オー int. えー 「感嘆」

彼は沈黙したが、その後、少し怒った調子で僕に言葉を投げつけた。

Er schwieg. Aber dann warf er mir in einer Art Verärgerung zu:

「主語」「動詞」 | Aber 「副詞」「動詞句」「主語」「間接目的語」「副詞句」「動詞句」
 Er エア pron 彼は 「主語」
 schwieg. シュヴァイク 3 単過(schweigen)v.i 沈黙した 「動詞」
 Aber アーバー conj. しかし
 dann ダン adv. それから、そのあと 「副詞」
 warf ...zu: ヲアルフ...ツー 3 単過(zu | werfen)v.t(j-3 et-4 人-3 に何-4 を) 投げつけた 「動詞句」
 er エア pron 彼は 「主語」
 mir ミーア pron 僕に 「間接目的語」
 in einer Art Verärgerung イン・アイナー・アールト・フェアエルゲルンク adv. 少し怒った調子で 「副詞句」

「君の言うことは信用できないよ！花はか弱いんだ。花は無邪気なんだ」

»Das glaube ich dir nicht! Die Blumen sind schwach. Sie sind arglos.

《「副詞」「動詞句」「主語」「間接目的語」「動詞句」
 「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞」「補語」》

»Das ダス pron そんなこと 「副詞」
 glaube ...nicht! グラウベ...ニヒト 1 単現・否定(glauben)v.i 信用できない 「動詞句」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 dir ディア pron 君を 「間接目的語」
 Die Blumen ディー・ブルメン pl.n.f 花は 「主語」
 sind シント 3 複現(sein)v.i 〜である 「動詞」
 schwach. シュヴァッハ adj. か弱い 「補語」
 Sie ジー pron.pl 花は 「主語」
 sind シント 3 複現(sein)v.i 〜である 「動詞」
 arglos. アルクロス adj. 無邪気 「補語」

VII

「花は、自分ができる限り、身を守っているんだ」

Sie schützen sich, wie sie können.

《「主語」「動詞句」「副詞節」》

Sie ジー pron.pl 花は

「主語」

schützen sich, シュッツェン・ズィヒ 3 複現(sich schützen)v.pr 身を守っている

「動詞句」

wie ヱー conj. ～するように

「副詞節」

sie ジー pron.pl 花が

「主語」

können. ケン 3 複現 v.t できる

「動詞」

「花たちは、とげがあれば自分たちは恐ろしい存在なのだと思います...」

Sie bilden sich ein, dass sie mit Hilfe der Dornen gefährlich wären...

《「主語」「動詞句」「目的語」》

Sie ジー pron.pl 花は

「主語」

bilden sich ein, ビルデン・ズィヒ・アイン 3 複現(sich ein|bilden)v.pr 思い込んでいる

「動詞句」

dass ダス conj. ～ということを

「目的語」

sie ジー pron.pl 自分たちは

「主語」

mit Hilfe der Dornen ミット・ヒルフェ・デア・ドアーネン adv. とげの助けによって

「副詞句」

gefährlich ケフェーアリヒ adj. 危険な、恐ろしい

「補語」

wären...« ヲーレン 接 II・3 複現・推測(sein)v.i ～であるだろう

「動詞」

僕は何も答えず、その瞬間に心の中で思った：《このボルトがいつまでも言うことを聞かないのなら、ハンマーで叩いて外さなければならないだろうな。》

Ich antwortete nichts und sagte mir im selben Augenblick: Wenn dieser Bolzen noch lange bockt, werde ich ihn mit einem Hammerschlag heraushauen müssen.

「主語」「動詞」「目的語」 und 「動詞句」「副詞句」:

「副詞節」, 「動詞句」「主語」「目的語」「副詞句」「動詞句」

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

antwortete アントヴァアテ 1 単過(antworten)v.t(et-4 ～と) 答えた

「動詞」

nichts ニヒツ pron 何も～ない

「目的語」

und ウント conj. そして

sagte mir サーケ・ミーア 1 単過(sich-3 sagen)v.pr 心に思い描いた

「動詞句」

im selben Augenblick: イム・ゼルベン・アウゲンブリック adv. その瞬間に

「副詞句」

selbゼルプ pron 同じ Augenblick アウゲンブリック n.m 瞬間

Wenn ヲエン conj. もしも～ならば

「副詞節」

dieser Bolzen デーザー・ホルツェン n.m このボルトが

「主語」

noch lange ノッホ・ランゲ adv. まだ、いつまでも

「副詞句」

bockt, ボックト 3 単現(bocken)v.i 言うことを聞かない

「動詞」

VII

werde ...heraushauen müssen. ウェアデ...ヘハウス・ハウエン・ムッセン 1 単未・推量・必要

(müssen+不定詞)v.t 叩いて外さなければならないだろう 「動詞句」

heraus- ヘハウス 分離前つづり「～して外す」hauen ハウエン v.t 打つ、たたく

ich イヒ pron 僕は 「主語」

ihn イン pron.m (Bolzen の代用) それを 「目的語」

mit einem Hammerschlag ミット・アイネム・ハマ・シュラク adv. (手段) ハンマーの打撃で 「副詞句」

王子さまは、また僕の深い考えの邪魔をした。

Der kleine Prinz störte meine Überlegungen von neuem:

「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」

Der kleine Prinz デア・クライネ・プリンツ n.m 王子さまは 「主語」

störte シュテアテ 3 単過(stören)v.t 邪魔した 「動詞」

meine Überlegungen メイネ・ユーバー・レーゲンゲン pl.n.f 僕の熟慮を 「目的語」

von neuem: フォン・ノイェム adv.(von Neuem も可) また、改めて 「副詞句」

「それで君は思っているのか？花というものが...」

»Und du glaubst, dass die Blumen...« 《Und 「主語」「動詞」「目的語」》

»Und ウント conj. それで

du トゥー pron 君は 「主語」

glaubst, グラウプスト 2 単現(glauben)v.t 思っている 「動詞」

dass ダス conj. ～ということを 「目的語」

die Blumen...« デー・ブルーメン pl.n.f 花というものは... 「主語」

「いや違う、違うよ！何も思っちゃいないよ。適当なことを言っただけだよ」

»Aber nein! Aber nein! Ich glaube nichts! Ich habe irgend etwas dahergeredet.

《「応答」 | 「主語」「動詞」「目的語」 | 「主語」「動詞句」「目的語」》

»Aber nein! Aber nein! アーバー・ナイン・アーバー・ナイン adv. いや違う、違う！ 「応答」

Ich イヒ pron 僕は 「主語」

glaube グラウヘ 1 単現(glauben)v.t 思っている 「動詞」

nichts! ニヒツ pron 何も～ない 「目的語」

Ich イヒ pron 僕は 「主語」

habe ...dahergeredet. ハーヘ...ダヘアゲレーテット 1 単現・完了形(daher | reden)

v.t (よく考えずに) べらべら喋った 「動詞句」

irgend etwas イルゲント・エトワース pron 何かそんなことを 「目的語」

irgend イルゲント adv. (etwas, jemand などの前に置かれ不定の意味を強める) 何か

irgend so etwas 何かそんなこと

VII

「見てわかるように、僕はもっと重要なことに取り掛かっているんだよ！」

Wie du siehst, beschäftige ich mich mit wichtigeren Dingen!«

《「副詞節」, 「動詞句」「主語」「動詞句」「間接目的語」》

Wie ウィー conj. ーのように

「副詞節」

du トゥー pron 君が

「主語」

siehst, シースト 2 単現(sehen)v.t 見える

「動詞」

beschäftige ...mich ベシェフチゲ ...ミヒ 1 単現(sich-4 beschäftigen)

v.pr(mit et-3 何-3 に) 取り掛かっている

「動詞句」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

mit wichtigeren Dingen!« ミット・ウヒチゲレン・テインゲン adv. もっと重要なことに「間接目的語」

wichtigeren ウヒチゲレン adj.pl.n.比較級・3 格(wichtig) もっと重要な

彼は呆然として僕をじっと見つめた。

Er schaute mich verdutzt an.

「主語」「動詞句」「目的語」「副詞」「動詞句」

Er エア pron 彼は

「主語」

schaute ...an. シャウテ...アン 3 単過(an|schauen)v.t じっと見つめた

「動詞句」

mich ミヒ pron 僕を

「目的語」

verdutzt フェアトゥット adv. 呆然として

「副詞」



「もっと重要なことだって！」

»Mit wichtigeren Dingen!«

《「応答」》

»Mit wichtigeren Dingen!«ミット・ウヒチゲレン・テインゲン

adv. もっと重要なことだって！

「応答」

王子さまは僕を見ていた。その時僕は、片手にハンマーを持ち機械油で汚れた手をして、王子様には全く醜く見えたに違いない物体の上にかがみこんでいた。

Er sah mich an, wie ich mich mit dem Hammer in der Hand und vom Schmieröl verschmutzten Händen über einen Gegenstand beugte, der ihm ausgesprochen hässlich erscheinen musste.

「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」, 「副詞節」

Er エア pron 彼は

「主語」

sah ...an, サー...アン 3 単過(an|sehen)v.t 見つめた

「動詞句」

mich ミヒ pron 僕（飛行士）を

「目的語」

wie ウィー conj. (同時) その時～する

「副詞節」

VII

ich	イヒ	pron	僕は	「主語」
mich ...beugte,	ミヒ・ボイクテ	1 単過(sich-4 beugen)		
v.pr	身をかがめていた			「動詞句」
mit dem Hammer in der Hand	ミット・デーム・ハマー・イン・デア・ハント			
adv.	片手にハンマーをもって			「副詞句」
und	ウント	conj.	そして	
(mit) vom Schmieröl	フォーム・シュミアール	adv.	(原因) 機械油によって	「副詞句」
verschmutzten	フェアシュムツェン	過去分詞(verschmutzen)	adj.	汚れた「形容詞」
Händen	ヘンデ	pl.n.f.3 格	手をして	「目的語」
über einen Gegenstand	ユーバー・アイネン・ゲーゲンシュタント	adv.	物体の上に	「副詞句」
der	デア	pron	(Gegenstand の代用) それは～する	「形容詞節」
ihm	イム	pron.3 格	彼 (王子様) にとって	「間接目的語」
ausgesprochen hässlich	アウスゲシュプ ロッヘン・ヘスリヒ			
adj.	まったく醜い			「補語」
ausgesprochen	アウスゲシュプ ロッヘン	adv.	非常に	
hässlich	ヘスリヒ	adj.	醜い	
erscheinen musste.	エアシャイネン・ムステ	3 単過・推測(müssen+不定詞)		
v.i	～に見えたに違いない			「動詞句」

「君はまったく大人の人たちみたいなしゃべり方をするね！」

»Du sprichst ja wie die großen Leute!«	《「主語」「動詞」「副詞句」》
»Du トゥー pron 君は	「主語」
sprichst シュプ [°] リヒスト 2 単現(sprechen)v.i 話す	「動詞」
ja ヤー adv. 本当に	「副詞」
wie ワイ conj. どのように	「副詞句」
die großen Leute!« デー [°] グロ [°] セン [°] ロイテ pl.n 大人の人たち	「目的語」

その言葉を聞いて、僕は恥ずかしくなった。しかし彼は容赦なくたたみ掛けて言った。

Das beschämte mich. Er aber fügte unbarmherzig hinzu:

	「主語」「動詞」「目的語」	aber	「主語」「動詞句」「副詞」		
Das	ダス	pron	その言葉は	「主語」	
beschämte	ベシムテ	3 単過(beschämen)	v.t	恥じ入らせた、恐縮させた	「動詞」
mich.	ミヒ	pron	僕を		「目的語」
Er	エア	pron	彼は		「主語」
aber	アーバー	conj.	しかし		
fügte ...hinzu:	フュクテ...ヒンツウ	3 単過(hinzu fügen)	v.t	付け足した	「動詞句」
unbarmherzig	ウンバルムヘアツヒ	adv.	容赦なく、厳しく		「副詞」

VII

たたみ掛ける：

- 相手に余裕を与えないように、立て続けに行う。「たたみ掛けて質問する」
- たたもうとする。たたみ始める。「洗濯物をたたみ掛けてやる」

「君はなにもかもごちゃ混ぜにしている、君はすべてを混乱させている」

»Du verwechselst alles, du bringst alles durcheinander!«

《「主語」「動詞」「目的語」, 「主語」「動詞」「目的語」「補語」》

»Du トゥ pron 君は 「主語」

verwechselst フェアヴェェセルスト 2 単現(verwechseln)

v.t 混同している、思い違いしている 「動詞」

alles, アレス pron すべてを、なにもかも 「目的語」

du トゥ pron 君は 「主語」

bringst ブリンクスト 2 単現(bringen)v.t ~へと至らしめている 「動詞」

alles アレス pron すべてを 「目的語」

durcheinander!« トゥルヒアインダー adv. 混乱している状態に 「補語」

彼は本当にすごく怒っていた。彼は金色の髪を風になびかせていた。

Er war wirklich sehr aufgebracht. Er schüttelte sein goldenes Haar im Wind.

「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」

Er エア pron 彼は 「主語」

war ヲアール 3 単過(sein)v.i ~ だった 「動詞」

wirklich ヲイルクリヒ adv. 本当に 「副詞」

sehr aufgebracht. セーア・アフゲブラハト adj. とてもいきり立った 「補語」

Er エア pron 彼は 「主語」

schüttelte シューテルテ 3 単過(schütteln)v.t 揺さぶっていた 「動詞」

sein goldenes Haar サイン・ゴルデネス・ハール n.n.4 格 金髪を 「目的語」

im Wind. イム・ヴァイント adv. 風で、風の中に 「副詞句」

「僕は、深紅色さんが住んでいる惑星を知っているよ。その人は、花の香りをかいだことが一度もないし、どんな星も眺めたことがないんだ」

»Ich kenne einen Planeten, auf dem ein puterroter Herr haust. Er hat nie den Duft einer Blume geatmet. Er hat nie einen Stern angeschaut.

《「主語」「動詞」「目的語」 | 「主語」「動詞句」「目的語」 | 「主語」「動詞句」「目的語」》

»Ich イヒ pron 僕は 「主語」

kenne ケネ 1 単現(kennen)v.t 知っている 「動詞」

einen Planeten, アイネン・プラーネテン n.m.4 格 惑星を 「目的語」

たたみ掛ける：

VII

auf dem	アウフ・デーム	adv. その上に～する	「形容詞節」
ein puterroter Herr	アイン・プーテローター・ヘア	n.m.1 格 深紅色さんが「主語」	
puterrot	プーテロート	adj. 真っ赤な → ein puterroter n.m.1 格 真っ赤な人	
Herr	ヘア	n.m (敬称) ～さん → 深紅色さん	
haust.	ハウスト	3 単現(hausen)v.i (劣悪な状態で) 住んでいる 「動詞」	
Er	エア	pron その人は 「主語」	
hat nie ...geatmet.	ハット・ニー...ゲアトメット	3 単現・完了形・否定(atmen)	
v.t	(花の香りを) 嗅いだことが一度もなかった、吸い込む、呼吸する	「動詞句」	
den Duft	デーン・ドゥフト	n.m.4 格 香りを 「目的語」	
einer Blume	アウアー・ブルーメ	n.f.2 格 花の 「形容詞句」	
Er	エア	pron 彼は 「主語」	
hat nie ...angeschaut.	ハット・ニー...アンゲシャウト	3 単現・完了形・否定(an schauen)	
v.t	一度も眺めたことがない	「動詞句」	
einen Stern	エイン・シュテアン	n.m (否定文で) どんな星も～ない 「目的語」	

彼は誰も愛したことがない。足し算以外は何もやったことがない。そして一日中、君のように繰り返している：「俺はまじめな男だ！俺はまじめな男だ！」と。そしてあれは傲慢で膨れ上がっている。だけどあれは人間じゃあないよ、キノコだよ！

Er hat nie jemanden geliebt. Er hat nie etwas anderes als Additionen gemacht. Und den ganzen Tag wiederholt er wie du: Ich bin ein ernsthafter Mann! Ich bin ein ernsthafter Mann! Und das macht ihn ganz geschwollen vor Hochmut. Aber das ist kein Mensch, das ist ein Schwamm.«

「主語」「動詞句」「目的語」 | 「主語」「動詞句」「目的語」

Und 「副詞句」「動詞」「主語」「副詞句」:

«「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞」「補語」»

Und 「主語」「動詞」「目的語」「補語」

Aber 「主語」「動詞」「補語」, 「主語」「動詞」「補語」

Er	エア	pron 彼は 「主語」	
hat nie ...geliebt.	ハット・ニー...ゲリープト	3 単現・完了形・否定(lieben)	
v.t	一度も愛したことがない	「動詞句」	
jemanden	イエーマンデーン	pron.4 格 (否定文で) 誰も～ない 「目的語」	
Er	エア	pron 彼は 「主語」	
hat nie ...gemacht.	ハット・ニー...ゲマハト	3 単現・完了形・否定(machen)	
v.t	～したことが一度もない	「動詞句」	
etwas anderes als Additionen	エトワ・アス・アンデレス・アルス・アデ	イツイネン	
pron	(否定文で) 足し算以外は何も～ない	「目的語」	
Und	ウント	conj. そして	

VII

den ganzen Tag	デン・ガンツェン・ターク	n.m.4 格	1 日中	「副詞句」
wiederholt	ヴィーダーホルト	3 単現(wiederholen)v.t	繰り返している	「動詞」
er	エア	pron	彼は	「主語」
wie du:	ヴィー・ドゥー	adv.	君のように	「副詞句」
Ich	イッヒ	pron	俺は	「主語」
bin	ビン	1 単現(sein)v.i	～である	「動詞」
ein ernsthafter Mann!	アイン・エアンシュトハフター・マン	n.m.1 格	まじめな男	「補語」
Ich bin ein ernsthafter Mann!	イッヒ・ビン・アイン・エアンシュトハフター・マン			
俺はまじめな男だ！				
Und	ウント	conj.	そして	
das	ダス	pron	あれは	「主語」
macht	マハト	3 単現(machen)v.t	(様態を表す語句と) ～にしている	「動詞」
ihn	イン	pron.4 格	彼を、自分自身を	「目的語」
ganz geschwollen	ガンス・ゲシュヴェレン	adj.	膨らんだ	「補語」
vor Hochmut.	フォア・ホフムート	adv.	傲慢で	「副詞句」
Aber	アーバー	conj.	だけど	
das	ダス	pron	あれは	「主語」
ist	イスト	3 単現(sein)v.i	～である	「動詞」
kein Mensch,	ケイン・メンシュ	n.m	(否定文で) 人間～でない	「補語」
das	ダス	pron	あれは	「主語」
ist	イスト	3 単現(sein)v.i	～である	「動詞」
ein Schwamm.	アイン・シュヴァム	n.m.1 格	キノコ、スポンジ、海綿	「補語」

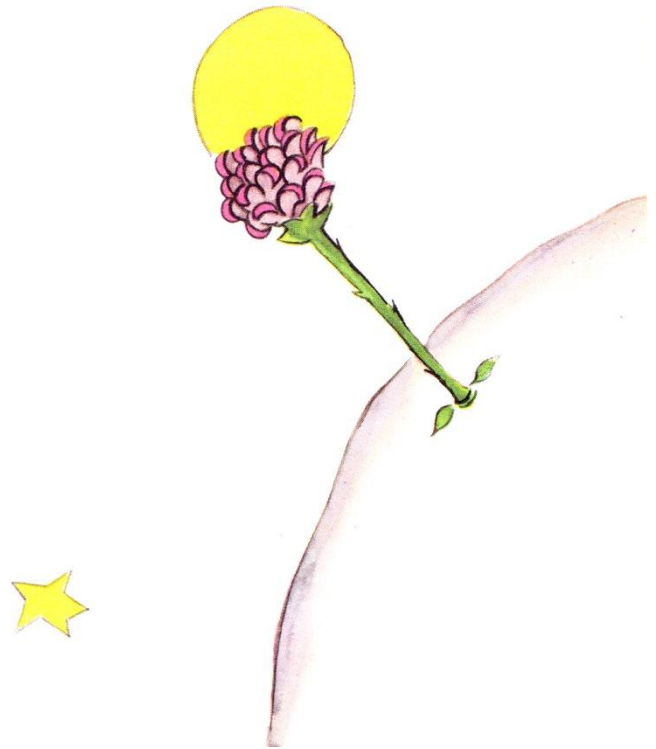
「なに？」

» <u>Ein was?</u> «	《「確認」》
»Ein was?«	「確認」

「キノコだよ！」

» <u>Ein Schwamm!</u> «	《「応答」》
»Ein Schwamm!«	「応答」

VII



王子さまは、今では怒りで真っ青になっていた。

Der kleine Prinz war jetzt ganz blass vor Zorn.

Der kleine Prinz デア・クライ・プリンツ n.m 王子さまは

war ヲァール 3 単過(sein)v.i ~ だった

jetzt イェツト adv. 今では

ganz blass ガンツ・ブラッス adj. 全部真っ青の

vor Zorn. フォア・ツォーン adv. (原因) 怒りで

「主語」「動詞」「副詞」「補語」

「主語」

「動詞」

「副詞」

「補語」

「副詞句」

「今や何百万年も前から、花はとげを作っている」

»Es sind nun Millionen Jahre, dass die Blumen Dornen hervorbringen.

《「動詞」「補語」「副詞節」》

»Es エス pron 時間

sind シント 3 複現(sein)v.i ~である

「動詞」

nun ヌーン adv. 今では

「副詞」

Millionen Jahre, ミリオーネン・ヤレ pl.n.n 何百万年

「補語」

dass ダス conj. ~して以来

「副詞節」

die Blumen ディー・ブルーメン pl.n.f 花が

「主語」

Dornen トアネン pl.n.m とげを

「目的語」

hervorbringen. 3 複現 v.t 産み出す、つける

「動詞」

VII

「羊はそれでも、何百万年も前から花を食べている」

Es sind Millionen Jahre, dass die Schafe trotzdem die Blumen fressen.

《「動詞」「補語」「副詞節」》

Es エス pron 時間

sind シント 3 複現(sein)v.i 〜である

「動詞」

Millionen Jahre, ミリオン・ヤーレ pl.n.n 何百万年

「補語」

dass ダス conj. 〜して以来

「副詞節」

die Schafe デー・シャーフェ pl.n.n 羊が

「主語」

trotzdem トロツデーム adv. それにもかかわらず

「副詞」

die Blumen デー・ブルーメン pl.n.f 花を

「目的語」

fressen. フレッシェン 3 複現 v.t (動物が) 食っている

「動詞」

それならば、花が何の役にも立たないとげを作るために、自らにあれほどの苦勞を与えていることを、どうしてだろうと人が知りたいと思うことを、君は重要でないと言うのか？

Und du findest es unwichtig, wenn man wissen möchte, warum sie sich so viel Mühe geben, Dornen hervorzubringen, die zu nichts Zweck haben?

Und 「主語」「動詞」「目的語」「補語」「副詞節」

Und ウント conj. それに対して、それなのに

du トゥ pron 君は

「主語」

findest フィンデスト 2 単現(finden)v.t みなす

「動詞」

es エス pron それを

「目的語」

unwichtig, ウンウィヒティク adj. 重要ではない、瑣末な

「補語」

wenn ウェン conj. 〜するときに、〜するならば

「副詞節」

man マン pron 人が

「主語」

wissen möchte, ヴィッセン・メヒテ 3 単現・願望(möchte+不定詞)

v.t 知りたいと思う

「動詞句」

warum ヴァルム adv. どうして〜だろうということを

「目的語」

sie シー pron.pl 花が

「主語」

sich シィツヒ pron 自らに

「間接目的語」

so viel Mühe ソー・フィール・ミュエ n.f あれほど多くの苦勞を

「直接目的語」

geben, ゲーベン 3 複現 v.t 与えている

「動詞」

zu 不定句 adv. 〜するために

「副詞句」

Dornen トアネン pl.n.m とげを

「目的語」

hervorzubringen, ヘアフォア・ツァー・ブリンゲン zu 不定詞(hervor | bringen)

v.t 作り出す

「動詞句」

VII

die デー pron.pl (主語) ～する 「形容詞節」

zu nichts ツー・ニヒツ

adv. 何に対しても～ない 「副詞句」

Zweck ツヴェック n.m 使い道 「目的語」

haben? ハーベン 3 複現

v.t (否定文で) ～がない 「動詞」

羊と花との戦争なんて重要ではないと言うの？

Dieser Kampf der Schafe mit den Blumen soll unwichtig sein?

「主語」「動詞句」「補語」

Dieser Kampf デーザー・カンフ n.m この戦争は

「主語」

der Schafe デア・シャーフェ pl.n.n.2 格 羊の

「形容詞句」

mit den Blumen ミット・デン・ブルメン adv. 花との

「副詞句」

soll ...sein? ソル 3 単現・抗議的反問(sollen+不定詞)

v.i ～であると言うのか？

「動詞句」

unwichtig ウンウィヒヒ adj. 重要ではない、瑣末な

「補語」

sollen+不定詞 : 抗議的反問

Was soll man denn da antworten? いったいなんと答えたらいいというのか？

Warum soll er es getan haben? なぜ彼がそれをしたと言うんだい？

Wie soll man da nicht lachen? これが笑わずにいられようか？

太った深紅色さんの足し算よりもまじめじゃあないと言うの？

Weniger ernsthaft als die Additionen eines dicken, roten Mannes?

「補語」

Weniger ウェニガー adv. より少なく

「副詞」

ernsthaft エンストハフト adj. まじめな

「補語」

als アルス adv. ～よりも

「副詞句」

die Additionen デー・アディツィオーネン pl.n.f 足し算

「目的語」

eines dicken, roten アイネス・ディッケン・ローテン

n.m.2 格 太った赤い色の

「形容詞句」

Mannes? マネス n.m.2 格 人の

「形容詞句」

VII

そして僕の星以外にはどこにもない、この世にたった一つの花を僕が知っていて、小さな羊が、自分が何をしているかわからないままに、ある朝このようにたった一噛みでこの花を消滅させてしまうかもしれないときに、それが重要ではないと君は言うのか？

Und wenn ich eine Blume kenne, die es in der ganzen Welt nur ein einziges Mal gibt, nirgends anders als auf meinem kleinen Planeten, und wenn ein kleines Schaf, ohne zu wissen, was es tut, diese Blume eines Morgens so mit einem einzigen Biss auslöschen kann, - das soll nicht wichtig sein?!«

Und 「副詞節」, 「副詞句」, 「主語」 「動詞句」 「補語」

Und ウント conj. そして

wenn ヲン conj. ～するとき

「副詞節」

ich イヒ pron 僕が

「主語」

eine Blume アイネ・ブルーメ n.f ある花を

「目的語」

kenne, ケネ 1 単現(kennen)v.t 知っている

「動詞」

die ディー pron (同格: Blume) ～である

「形容詞節」

es エス pron 非人称

in der ganzen Welt イン・デア・ガンツェン・ヴェルト

adv. この世の中で

「副詞句」

nur ein einziges Mal ヌーア・アイン・アインツィゲス・マル

adv. たった一つしか～ない

「副詞句」

gibt, ギーフト 3 単現(geben)v.t (否定文で) 存在しない 「動詞」

es gibt et・4 ～がある

nirgends ニルゲンツ adv. どこにも～ない

「副詞」

anders als アンダース・アルス adv. ～とは異なる

「副詞句」

auf meinem kleinen Planeten, アウフ・マイネム・クライン・プラネーテン

adv. 僕の星の上

「副詞句」

und ウント conj. そして

wenn ヲン conj. ～するとき

「副詞節」

ein kleines Schaf, アイン・クライネス・シャーフ n.n.1 格 小さな羊が

「主語」

ohne zu wissen, オーネ・ツウ・ヴィッセン adv. 気づかずに

「副詞句」

was ヲアス conj. ～をするかということを

「目的語」

es エス pron 羊が

「主語」

tut, トゥート 3 単現(tun)v.t している

「動詞」

diese Blume ディーゼ・ブルーメ n.f.4 格 この花を

「目的語」

eines Morgens アイネス・モアゲンス adv. ある朝

「副詞句」

so ザー adv. このように

「副詞」

mit einem einzigen Biss ミット・アイネム・アインツィゲン・ビス adv. たった一噛みで 「副詞句」

VII

auslöschen kann, アウスレッシェン・カン 3 単現・可能性(können+不定詞)

v.t 消してしまうかもしれない

「動詞句」

- das ダス pron それ

「主語」

soll ...sein?!« ソル...ザイン 3 単現・抗議的反問(sollen+不定詞)

v.i 〜であると言うのか?

「動詞句」

nicht wichtig ニヒト・ワイティヒ adj. 重要でない

「補語」

彼は興奮のあまり顔を赤らめ、話を続けた。

Er wurde rot vor Erregung und fuhr fort:

「主語」「動詞」「補語」 und 「動詞句」

Er エア pron 彼は

「主語」

wurde ウルテ 3 単過(werden)v.i 〜になった

「動詞」

rot ロート adj. 赤い

「補語」

vor Erregung フォア・エアレーグング adv. 興奮のあまり

「副詞句」

und ウント conj. そして

fuhr fort: フーア・フォルト 3 単過(fort|fahren)v.i (話を) 続けた

「動詞句」

fort|fahren は「(乗り物で) 立ち去る」という意味もある

「誰かが、何百万、何千万の星の中でたった一つしかない花を愛しているとしたら、どこにあるかわからない、その星たちを眺めるだけで充分幸福になれる」

»Wenn einer eine Blume liebt, die es nur ein einziges Mal gibt auf allen Millionen und Millionen Sternen, dann genügt es ihm völlig, dass er zu ihnen hinaufschaut, um glücklich zu sein.

《「副詞節」,dann 「動詞」「間接目的語」「補語」「主語」》

»Wenn ウェン conj. (条件) 〜する時

「副詞節」

einer アイアー pron 誰かが

「主語」

eine Blume アイネ・ブルーメ n.f ある花を

「目的語」

liebt, リープト 3 単現(lieben)v.t 愛する

「動詞」

die デー pron (同格: Blume) 〜である

「形容詞節」

es エス pron 非人称

nur ein einziges Mal ノーア・アイン・アインツィゲス・マル

adv. たった一つしか〜ない

「副詞句」

gibt キープト 3 単現(geben)v.t (否定文で) 存在しない「動詞」

auf allen Millionen und Millionen Sternen, アウフ・アレン・ミリオネン・ウント・ミリオネン・シュテアレン

adv. 何百万、何千万の星の中で

「副詞句」

dann ダン conj. その時に、そうすれば

genügt ゲニュークト 3 単現(genügen)v.i 十分である

「動詞」

es エス pron (主語) それは (dass 節)

VII

ihm イム pron 彼にとって	「間接目的語」
völlig, フェリッヒ adj. 完全な	「補語」
dass ダス conj. ～ということは	「主語」
er エア pron 彼が	「主語」
zu ihnen ツー・イーネン adv. (Sternen の代用) その星たちを	「間接目的語」
hinaufschaut, ヒナウフシャウト 3 単現(hinauf schauen)	
v.i (方向を) 眺める	「動詞句」
um glücklich zu sein. ウム・グリュックリヒ・ツァイン	
adv. (目的: um+zu 不定詞) 幸福になるために	「副詞句: völlig」

彼は心に思い描いた:『あの空の上のどこかに僕の花があるんだ...』だけど、羊がその花を食べてしまったら、彼にとっては、あらゆる星が突然消えてしまうようなものだ。

Er sagt sich: Meine Blume ist da oben, irgendwo... Wenn aber das Schaf die Blume frisst, so ist es für ihn, als wären plötzlich alle Sterne ausgelöscht!

	「主語」「動詞句」:「主語」「動詞」「副詞句」
	「副詞節」,「副詞」「動詞」「主語」「副詞句」「補語」
Er エア pron 彼は	「主語」
sagt sich: ザークト・ズイッヒ 3 単現(sich-4 sagen)v.pr 心に思い描く	「動詞句」
Meine Blume マイン・ブルーメ n.f.1 格 僕の花が	「主語」
ist イスト 3 単現(sein)v.i ～にある	「動詞」
da oben, irgendwo... ダー・オーベン・イルゲンツォー adv. あの空の上のどこかに	「副詞句」
Wenn ヴェン conj. (仮定) ～すると	「副詞節」
aber アーバー conj. しかし	
das Schaf ダス・シャーフ n.n.1 格 羊が	「主語」
die Blume ディー・ブルーメ n.f.4 格 その花を	「目的語」
frisst, フリスト 3 単現(fressen)v.t (動物が) 食べる	「動詞」
soゾー conj., adv. そうすると	「副詞」
ist イスト 3 単現(sein)v.i ～である	「動詞」
es エス pron それは	「主語」
für ihn, フュア・イン adv. 彼にとって	「副詞句」
als アルス conj. まるで～のような	「補語」
wären ...ausgelöscht! ヴァーレン...アウスゲレシト 接 II・3 複過・状態受動(aus löschen)	
v.t 消された、消えた	「動詞句」
plötzlich プレツツリヒ adv. 突然	「副詞」
alle Sterne アル・シュテルネ pl.n.m あらゆる星が	「主語」

VII

「それでも、それが重要ではないと言うのか？」

Und das soll nicht wichtig sein?«

《Und 「主語」「動詞句」「補語」「動詞句」》

Und ウント conj. そして、それでも

das ダス pron それ

「主語」

soll nicht ...sein?« ソル・ニヒト...ザイン 3 単現・否定・抗議的反問(sollen+不定詞)

v.i ~でないと言うのか?

「動詞句」

wichtig ヲヒテヒ adj. 重要な

「補語」

彼はもう何も言えなくなって、突然すすり泣いた。

Er konnte nichts mehr sagen. Er brach plötzlich in Schluchzen aus.

「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」 | 「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」

Er エア pron 彼は

「主語」

konnte ...sagen. コンテ...サーゲン 3 単過・可能(können+不定詞)

v.t (否定文で) 言うことができなかった

「動詞句」

nichts mehr ニヒツ・メア pron もう何も～ない

「目的語」

Er エア pron 彼は

「主語」

brach ...aus. ブラハ...アウス 3 単過(aus | brechen)

v.i (突然感情を爆発させる) (in) ～した

「動詞句」

plötzlich プレツツヒ adv. 突然

「副詞」

in Schluchzen イン・シュルフツェン adv. (状態に) すすり泣く

「副詞句」

気が付くと、日が暮れていた。僕は工具を脇に置いた。

Die Nacht war hereingebrochen. Ich hatte mein Werkzeug weggelegt.

「主語」「動詞句」 | 「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」

Die Nacht ディー・ナハト n.f 夜が

「主語」

war hereingebrochen. ヲアール・ヘライン・ゲ・ブローヘン 3 単過・完了形(herein | brechen)

v.i 突然始まっていた

「動詞句」

急に、夜になっていた → 気が付くと、夜になっていた

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

hatte ...weggelegt. ハッテ...ヴェーク・ゲ・レークト 1 単過・完了形(weg | legen)v.t 脇へ置いた「動詞句」

mein Werkzeug マイン・ヴェアクツォイク n.n 工具を

「目的語」

ハンマーも、ボルトも、のどの渇きや死も、すべてが僕にとってはどうでもよかった。

Mein Hammer, mein Bolzen, der Durst und der Tod, alles war mir gleichgültig.

「主語」「動詞」「間接目的語」「補語」

Mein Hammer, マイン・ハマー n.m ハンマー、金づち

「主語」

VII

mein Bolzen, マイン・ボルツェン n.m	ボルト	「主語」
der Durst デア・ドゥルスト n.m	喉の渇き	「主語」
und ウント conj.	そして	
der Tod, デア・トート n.m	死	「主語」
alles アレス pron	すべてのことが	「主語」
war ヴァール 3 単過(sein)v.i	～ だった	「動詞」
mir ミーア pron	僕にとっては	「間接目的語」
gleichgültig. グライヒギュルティヒ adj.	つまらない、どうでもよい	「補語」

一つの星の上で、惑星の上で、僕の星ここ地球の上で、一人の王子様を慰める必要があった。
僕は彼を両腕で抱いた。

Es galt auf einem Stern, einem Planeten, auf dem meinigen, hier auf der Erde, einen kleinen Prinzen zu trösten! Ich nahm ihn in die Arme.

「動詞句」「副詞句」「主語」 | 「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」

Es galt ガルト 3 単過・非人称(es gelten et-4)v.h	～が必要だった	「動詞句」
auf einem Stern, アウフ・アイネム・シュテルン adv.	一つの星の上で	「副詞句」
einem Planeten, アイネム・プラネーテン adv.	惑星の上で	「副詞句」
auf dem meinigen, アウフ・デーム・マイニゲン adv.	僕の星の上で	「副詞句」
hier auf der Erde, ヒーア・アウフ・デア・エアデ adv.	ここ地球の上で	「副詞句」
einen kleinen Prinzen アイネン・クライネン・プリンツ n.m	一人の王子様を～することが	「主語」
zu trösten! ツー・トレステン 不定詞.v.t	慰める	「動詞句」
zu 不定詞句が「主語」である		

Jetzt gilt es, die Wahrheit zu sagen. いま必要なのは真実を話すことだ。

Ich イット pron	僕は	「主語」
nahm ナム 1 単過(nehmen)v.t	つかんだ	「動詞」
ihn イン pron	彼を	「目的語」
in die Arme. イン・デイー・アルメ adv.	両腕で	「副詞句」

僕は彼を揺り動かして、ささやくように言った：「君が愛している花は、大丈夫だよ。僕が君の羊に口輪を描いてあげるから」

Ich wiegte ihn. Ich flüsterte ihm zu: »Die Blume, die du liebst, ist nicht in Gefahr... Ich werde ihm einen Maulkorb zeichnen, deinem Schaf...

「主語」「動詞」「目的語」

「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」：《「主語」「動詞」「補語」

「主語」「動詞句」「間接目的語」「直接目的語」「動詞句」, 「間接目的語」》

Ich イット pron	僕は	「主語」
--------------	----	------

VII

wiegte ヲィクテ 1 単過(wiegen)v.t 揺り動かした	「動詞」
ihn. イン pron.4 格 彼を	「目的語」
Ich イッヒ pron 僕は	「主語」
flüsterte ...zu: フリュステアテ...ツー 1 単過(zu flüstern)v.t ささやいた	「動詞句」
ihm イム pron.3 格 彼に	「間接目的語」
»Die Blume, ディー・ブルーメ n.f.1 格 花は	「主語」
die du liebst, ディー・トゥ・リープスト adj. 君が愛している	「形容詞節」
ist nicht イスト・ニヒト 3 単現・否定(sein)v.i 〜でない	「動詞句」
in Gefahr... イン・ゲファール adv. 危険な状態に	「補語」
Ich イッヒ pron 僕は	「主語」
werde ...zeichnen, ヲェアデ...ツァイレネン 1 単未・意思(werden+不定詞)	
v.t 描いてあげる	「動詞句」
ihm イム pron.3 格 彼に	「間接目的語」
einen Maulkorb アイネン・マウルコープ n.m 口輪を	「直接目的語」
deinem Schaf... ダイネム・シャーフ pron.3 格 君の羊に	「間接目的語」

「君の花のためにフェンスを描いてあげるよ。僕は…」僕はもうそれ以上なんて言ったら
よいか分からなかった。

Ich werde dir einen Zaun für deine Blume zeichnen... Ich...« Ich wusste nicht, was ich noch sagen sollte.

《「主語」「動詞句」「間接目的語」「直接目的語」「副詞句」 | 「主語」
「主語」「動詞句」「目的語」

Ich イッヒ pron 僕は	「主語」
werde ...zeichnen... ヲェアデ...ツァイレネン 1 単未・意思(werden+不定詞)	
v.t 描いてあげる	「動詞句」
dir ディア pron.3 格 君に	「間接目的語」
einen Zaun アイネン・ツァウン n.m.4 格 フェンスを、柵を	「直接目的語」
für deine Blume フェア・ダイネ・ブルーメ adv. 君の花のために	「副詞句」
Ich...« イッヒ pron 僕は...	「主語」
Ich イッヒ pron 僕は	「主語」
wusste nicht, ヲステ・ニヒト 1 単過・否定(wissen)v.t 分からなかった	「動詞句」
was ヲアス conj. 〜をするかということが	「目的語」
ich イッヒ pron 僕は	「主語」
noch ノッホ adv. さらに	「副詞」
sagen sollte. サーゲン・ゾルテ 1 単過・義務(sollen+不定詞)	
v.t 言うべきだった	「動詞句」

VII

僕は自分がとても不器用に思われた。

Ich kam mir sehr ungeschickt vor. 「主語」「動詞句」「間接目的語」「補語」「動詞句」

Ich イッ pron 僕は 「主語」

kam ...vor. カム...フォア 1 単過(vor|kommen)

v.i(j-3+様態) どのように思われた 「動詞句」

mir ミー pron.3 格 自分が 「間接目的語」

sehr ungeschickt セーア・ウンゲシクト adj. とても不器用な 「補語」

どうすれば僕の気持ちに彼に届くのか、そして、どこで彼と心を通じ合えるのかということが、僕は分からなかった。

Ich wusste nicht, wie ich zu ihm gelangte, wo ich ihn erreichen konnte.

「主語」「動詞句」「目的語」, 「目的語」

Ich イッ pron 僕は 「主語」

wusste nicht, ウステ・ニクト 1 単過・否定(wissen)v.t 分からなかった 「動詞句」

wie ヱー adv. どうやって～することが 「目的語」

ich イッ pron 僕は 「主語」

zu ihm ツー・イム adv. 彼に 「副詞句」

gelangte, ゲランクテ 1 単過・仮定法過去(gelangen)v.i 届くだろう 「動詞」

wo ヱー adv. どこで～することが 「目的語」

ich イッ pron 僕は 「主語」

ihn イン pron.4 格 彼と 「目的語」

erreichen konnte. エアライエン・コンテ 1 単過・仮定法過去(können+不定詞)

v.t(j-4 と) 連絡がとれるだろう 「動詞句」

それほど神秘的なのだ、涙の国というのは！

Es ist so geheimnisvoll, das Land der Tränen. 「動詞」「補語」「主語」

Es エス pron 仮の主語 (真の主語は das Land 以降)

ist イスト 3 単現(sein)v.i ～である 「動詞」

so geheimnisvoll, ソー・ゲ・ハイムニスフォル adj. それほど神秘的な 「補語」

das Land ダス・ラント n.n.1 格 国は 「主語」

der Tränen. デア・トレネン pl.n.f.2 格 涙の 「形容詞句」

VIII

VIII

やがて僕は、その花の事をもっとよく知るようになった。

Bald sollte ich jene Blume besser kennenlernen.

「副詞」「動詞句」「主語」「目的語」「副詞」「動詞句」

Bald バルト adv. やがて

「副詞」

sollte ...kennenlernen. ソルテ...ケネレアネ 1 単過・運命(sollen+不定詞)

v.t. ~の事を知るようになった

「動詞句」

kennen | lernen ケネレアネ v.t. (et-4 の事を) 知るに至る、(j-4 と) 知り合いになる

ich イヒ pron. 私は

「主語」

jene Blume イェネ・ブルーメ n.f.4 格 その花を

「目的語」

besser ベッサー adj. (gut の比較級) より良く

「副詞」

王子様の惑星には、以前から、花びらが一重のとても美しい花があった；それはまるで重要ではないし、誰の迷惑にもならなかった。

Es hatte auf dem Planeten des kleinen Prinzen immer schön Blumen gegeben, sehr einfache, aus einem einzigen Kranz von Blütenblättern geformt; sie spielten keine große Rolle und störten niemanden.

「動詞句」「副詞句」「主語」「動詞句」「形容詞句」；

「主語」「動詞」「目的語」und「動詞」「目的語」

Es hatte ...gegeben, エス・ハッテ...ゲゲーベン 3 単過・完了形・非人称(es geben et-4 何-4 が)

v.h. 存在した、あった

「動詞句」

auf dem Planeten des kleinen Prinzen アウフ・デーム・プラーネテン・テス・クライネン・プリンツェン

adv. 王子様の惑星には

「副詞句」

immer schon イマー adv. 以前から、いつも

「副詞」

immer イマー adv. いつも schon ショーン adv. もう、

Blumen ブルメン pl.n.f.4 格 花が

「主語」

sehr einfache, セーア・アインファヘ adj.pl.4 格 とても美しい

「形容詞句」

aus einem einzigen Kranz アウス・アイネム・アインチゲン・クランツ

adv. 1 連なりだけで

「副詞句」

von Blütenblättern フォン・ブルーテンブラーテン adv. 花びらについて

「副詞句」

geformt; ゲフォアムト adj. 形作られた

「形容詞」

sie ジー pron.pl. それらは

「主語」

spielten シュピールテン 3 複過・時制の一致(spielen)v.t. 役を演じる

「動詞」

keine große Rolle カイネ・グロセ・ロレ n.f. 重要な役を~ない

「目的語」

und ウント conj. そして

störten シュテアーテン 3 複過・時制の一致(stören)v.t. 邪魔をしない

「動詞」

VIII

niemanden. ニーマンデーン pron.4 格 誰も～ない

「目的語」

その花たちは、ある朝、草の間から急に現れて、夕方には消えてしまうのだ。

Sie leuchteten eines Morgens im Grase auf und erloschen am Abend.

「主語」「動詞句」「副詞句」 und 「動詞」「副詞句」

Sie ジー pron.pl その花は

「主語」

leuchteten ...auf ロヒテテン...アウフ 3 複過・時制の一致(auf|leuchten)v.i 急に現れる「動詞句」

auf|leuchten アウフ・ロヒテテン v.i ぱつと光る

eines Morgens アイネス・モアゲンス n.m.3 格 ある朝に

「副詞句」

im Grase イム・グラセ adv. 草の間から

「副詞句」

男性・中性単数名詞など 2 格に-es が付く名詞では、**3 格の語尾に-e** が付くことがある。

und ウント conj. そして

erloschen エアロッシェン 3 複過・時制の一致(erlöschen)v.i 消える

「動詞」

am Abend. アム・アーベント adv. 夕方には

「副詞句」

しかしその花は、ある日どこから来たか分からない 1 つの種から根をはりました。それで王子さまは、ほかの芽とはあまり似ていないこの新芽をととても詳しく見張っていました。

Aber jene eine hatte eines Tages Wurzel geschlagen, aus einem Samen, weiß Gott woher, und der kleine Prinz hatte diesen Sproß, der den andern Sprößlingen nicht glich, sehr genau überwacht.

Aber 「主語」「動詞句」「副詞句」「目的語」「動詞句」「副詞句」

und 「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」

Aber アーバー conj. しかし

jene eine イェーネ pron その一つの花は

「主語」

hatte ...geschlagen, ハッテ...ゲシュラーゲン 3 単過・完了形(schlagen)v.t (根を) はった「動詞句」

eines Tages アイネス・ターゲス adv. ある日

「副詞句」

Wurzel ウルツェル n.f (植物の) 根

「目的語」

aus einem Samen, アウス・アイネム・ザーメン adv. 1 つの種から

「副詞句」

weiß Gott woher, ヴェアイス・ゴット・ヴァーヘア adj. どこから来たか分からない「形容詞句」

und ウント conj. そして

der kleine Prinz デア・クライネ・プリンツ n.m 王子さまは

「主語」

hatte ...überwacht. ハッテ...ユーバーハハト 3 単過・完了形(überwachen)

v.t 見張っていた

「動詞句」

diesen Sproß, デーイーゼン・シュプ ロース n.m この新芽を

「目的語」

der デア pron.m それは

「主語」

den andern Sprößlingen デン・アンダーン・シュプ ロスリンゲン

pl.n.m.3 格 他の芽に

「間接目的語」

VIII

nicht gleich, ニヒト・グレイ 3 単過・否定(gleichen)v.i あまり似ていない 「動詞句」

sehr genau ゼーア・ゲナウ adv. とても詳しく 「副詞句」

それはバオバブの新種なのかもしれない。

Das konnte eine neue Art Affenbrotbaum sein. 「主語」「動詞句」「補語」「動詞句」

Das ダス pron それは 「主語」

konnte ...sein. コンテ...ザイン 3 単過・可能性(können+不定詞)

v.i 〜であるかもしれない 「動詞句」

eine neue Art Affenbrotbaum アイネ・ノイ・アールト・アッフェンブロートバウム n.f バオバブの新種 「補語」



しかしその低木は成長を中断して、つぼみを付け始めた。

Aber der Strauch hörte bald auf zu wachsen und begann, eine Blüte anzusetzen.

Aber 「主語」「動詞句」「副詞」「動詞句」「目的語」 und 「動詞」「目的語」

Aber アーバー conj. しかし

der Strauch デア・シュトラウフ n.m その低木は 「主語」

hörte ...auf ホアテ...アウフ 3 単過(auf|hören)v.t (zu 不定句を目的語にして) 中止した「動詞句」

bald バルト adv. すぐに 「副詞」

zu wachsen ツー・ヴァクセン zu 不定詞 n. 成長することを 「目的語」

und ウント conj. そして

begann, ベガッ 3 単過(beginnen)v.t (zu 不定句と) 〜し始めた 「動詞」

zu 不定句 n. 〜することを 「目的語」

eine Blüte アイネ・ブルーテ n.f (特に樹木の) 花を 「目的語」

anzusetzen. アン・ツェー・ゼッツェン zu 不定詞 v.t (木がつぼみを) つける 「動詞句」

VIII

巨大な蕾が成長するのを見ていた王子さまは、そこから奇跡が現れるに違いないと十分に感じ取っていた。ところが、その花は緑の小部屋の中で美しくなる準備が終わらなかった。

Der kleine Prinz, der der Entwicklung einer riesigen Knospe beiwohnte, fühlte wohl, es müsse eine wunderbare Erscheinung aus ihr hervorgehn, aber die Blume wurde nicht fertig damit, sich in ihrer grünen Kammer auf ihre Schönheit vorzubereiten.

「主語」「動詞」「副詞」, 「動詞句」「主語」「副詞句」「動詞句」

aber 「主語」「動詞句」「補語」「副詞句」

Der kleine Prinz, デア・クライン・プリンツ n.m 王子さまは 「主語」

der デア pron (主語) ～する 「形容詞節」

der Entwicklung デア・エントウィクルング n.m.3 格 成長に 「間接目的語」

einer riesigen Knospe アイナー・リーゼン・クノスヘ

n.f.2 格 巨大なつぼみの 「形容詞句」

beiwohnte, バイ・ウオーンテ 3 単過(bei | wohnen)

v.i 立ち会った、目撃した 「動詞句」

fühlte フュールテ 3 単過(fühlen)v.t 感じていた 「動詞」

wohl, ヴォール adv. しっかりと、十分に 「副詞」

es エス pron 非人称

müsse ...hervorgehn, ミュッセ...フエアフォアゲーエン 接・3 単現・推量(müssen+不定詞 hervorgehen)

v.i 現れるに違いない 「動詞句」

eine wunderbare Erscheinung アイネ・ウンダーバーレ・エアシャインungk

n.f.1 格 奇跡的な出来事が 「主語」

aus ihr アウス・イーア adv. そこから 「副詞句」

aber アーバー conj. しかし

die Blume ディー・ブルーメ n.f.1 格 その花は 「主語」

wurde nicht ウルデ・ニヒト 3 単過・否定(werden)v.i ～にならなかった 「動詞句」

fertig フェアティヒ adj. 完成した 「補語」

damit, ダミット conj. ～するために 「副詞句」

sich ...vorbereiten. スィッヒ...フォア・ツァー・ベライトン zu 不定句(sich vorbereiten)

v.pr(auf の) 準備をする 「動詞句」

in ihrer grünen Kammer イン・イーラー・グリュネン・カマー

adv. 緑の小部屋の中で 「副詞句」

auf ihre Schönheit アウフ・イレ・シェンハイト adv. 自分の美しさを 「間接目的語」

VIII

花は念入りに色彩を選び、ゆっくりと服を着付けて、花びらを一枚一枚整えていた。

Sie wählte ihre Farben mit Sorgfalt, sie zog sich langsam an, sie ordnete ihre Blütenblätter eins nach dem andern.

「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」,

「主語」「動詞句」「副詞」, 「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」

Sie ジー pron 彼女は 「主語」
 wählte ヴェールテ 3 単過(wählen)v.t 選んでいた 「動詞」
 ihre Farben イーレ・ファーベン pl.n.f.4 格 色彩を 「目的語」
 mit Sorgfalt, ミット・ゾアクファルト adv. 念入りに 「副詞句」
 sie ジー pron 彼女は 「主語」
 zog sich ...an, ゾーク・ズィヒ...アン 3 単過(sich-4 an | ziehen)v.pr 服を着た 「動詞句」
 langsam ラングザーム adv. ゆっくりと 「副詞」
 sie ジー pron 彼女は 「主語」
 ordnete オルトネ 3 単過(ordnen)v.t 整えた、整理した 「動詞」
 ihre Blütenblätter イーレ・ブルーテンブラター pl.n.n.4 格 花びらを 「目的語」
 eins nach dem andern. アインス・ナーハ・デーム・アンデルン adv. 次々に、一枚一枚 「副詞句」

その花は、ヒナゲシの花のようにしわくちやの姿を現したくなかったのだ。

Sie wollte nicht wie die Mohnblüten ganz zerknittert herauskommen.

「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」

Sie ジー pron 彼女は 「主語」
 wollte nicht ...herauskommen. ヴォルテ・ニヒト...ヘラウス・コメン 3 単過・願望・否定
 (wollen+不定詞)v.i 現れたくなかった 「動詞句」
 wie ヱー conj. どのように 「副詞句」
 die Mohnblüten デーイー・モン・ブルーテン pl.n.f.1 格 ヒナゲシの花 「目的語」
 ganz zerknittert ガンツ・ツェアクニッター adj. まったくしわくちやの 「形容詞句」

彼女は、美しさで一杯の礼服に包まれる前に姿を現したくなかった。

Sie wollte nicht früher erscheinen als im vollen Ornat ihrer Schönheit.

「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」「副詞句」

Sie ジー pron.f 彼女は 「主語」
 wollte nicht ...erscheinen ヴォルテ・ニヒト...エアシャイネン 3 単過・願望・否定(wollen+不定詞)
 v.i 現れたくなかった 「動詞句」
 früher フリュアー adv. (früh の比較級) (als よりも) 前に 「副詞句」
 als アルス conj. (比較級と) ~よりも 「副詞句」
 im vollen Ornat イム・フォレン・オルナート adv. ~が一杯の礼服に包まれて 「副詞句」

VIII

ihrer Schönheit. イラー・シェンハイト n.f.2 格 彼女の美しさの 「形容詞句」

そうなのだ！彼女は人にいいところを見せたかったのだ。

Nun ja! sie wollte gefallen. 「感嘆」, 「主語」 「動詞句」

Nun ja! ヌン・ヤー adv. そうなのだ 「感嘆」

sie ジー pron 彼女は 「主語」

wollte gefallen. ヲウテ・ゲ・ファレン 3 単過・願望(wollen+不定詞)

v.i (人に) 良い感じを与えたかった 「動詞句」

フランス語の原文では おしゃれだった

Eh! oui. Elle était **très coquette!**

そうなのだ！彼女は非常におしゃれだったのだ。

従って、彼女の神秘的なお化粧は何日も続いた。

Ihre geheimnisvolle Toilette hatte also Tage und Tage gedauert.

「主語」 「動詞句」 「副詞句」 「動詞句」

Ihre geheimnisvolle Toilette イーレ・ゲ・ハイムニスフォレ・トアレツテ

n.f.1 格 彼女の神秘的なお化粧は 「主語」

hatte ...gedauert. ハツテ...ゲ・ダウアト 3 単過・完了形(dauern)v.i (時間が) 続いた 「動詞句」

also Tage und Tage アルゾー・ターゲ・ウント・ターゲ adv. 従って何日も 「副詞句」

そしてある朝、ちょうど日の出の時間に、彼女は姿を現した。

Und dann, eines Morgens, gerade zur Stunde des Sonnenaufganges, hatte sie sich enthüllt. 「副詞句」, 「動詞句」 「主語」 「動詞句」

Und dann, ウント・ダン adv. そしてそれから 「副詞句」

eines Morgens, アイネス・モアゲンス n.m.2 格 ある朝に 「副詞句」

gerade zur Stunde ゲラーデ・ツア・シュトカンテ adv. ちょうど時間に 「副詞句」

des Sonnenaufganges, デス・ゾ・ネアフガングス adj. 日の出の 「形容詞句」

hatte ...sich enthüllt. ハツテ...スィツヒ・エントヒュルト 3 単過・完了形(sich-4 enthüllen)

v.pr 姿を現した 「動詞句」

sie ジー pron.f 彼女は 「主語」

それほど綿密にお化粧を続けていた彼女は、あくびをしながら言った。

Und die, die mit solcher Genauigkeit gearbeitet hatte, sagte gähmend:

Und 「主語」 「動詞」 「副詞」

Und ウント conj. そして

die, ディー pron 彼女は 「主語」

フランス語の原文では おしゃれだった

VIII

die デー pron (主語) ～する	「形容詞節」
mit solcher Genauigkeit ミット・ゾルヒヤー・ゲナウイカイ	
adv. それほどの綿密さで	「副詞句」
gearbeitet hatte, ゲアルハ イット・ハッテ 3 単過・完了形(arbeiten)	
v.i お化粧していた	「動詞句」
sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
gähnend: ゲーネント 現在分詞(gähnen)adv. あくびをしながら	「副詞」

「ああ！やっと目が開いたわ... ごめんなさいね... まだ髪がぐしゃぐしゃだわ...」

»Ach! ich bin kaum aufgewacht... Ich bitte um Verzeihung... Ich bin noch ganz zerrauft...«	
《「感嘆」 「主語」「動詞句」 「主語」「動詞」「間接目的語」 「主語」「動詞」「補語」》	
»Ach! アッハ int. ああ	「感嘆」
ich イヒ pron 私は	「主語」
bin kaum aufgewacht... ビン・カウム・アウフゲマハト 1 単現・状態受動(auf machen+ kaum)	
v.t やっと目が開いた	「動詞句」
kaum カウム adv. かろうじて～する、やっと～する	
Ich イヒ pron 私は	「主語」
bitte ビッテ 1 単現(bitten)v.t(um et-4 何-4 を) 願う、求める	「動詞」
um Verzeihung... ウム・フェアツァイhung ^g adv. 赦しを	「間接目的語」
Ich イヒ pron 私は	「主語」
bin ビン 1 単現(sein)v.i ～である	「動詞」
noch ノッホ adv. まだ	「副詞」
ganz zerrauft...« ガンツ・ツェアラフト 過去分詞(zerrauen)adj. 髪がぐしゃぐしゃの	「補語」

その時、王子さまは感嘆の念を抑えることができなかった。

Da konnte der kleine Prinz seine Bewunderung nicht mehr verhalten:

	「副詞」「動詞句」「主語」「目的語」「動詞句」
Da ダー adv. その時	「副詞」
konnte ...nicht mehr verhalten: コンテ...ニヒト・メア・フェアハルテン 3 単過・可能・否定	
(können+不定詞+ nicht mehr)v.t もはや抑制できなかった	「動詞句」
der kleine Prinz デア・クライネ・プリンツ n.m 王子さまは	「主語」
seine Bewunderung サイネ・ベヴァンデルング n.f 感嘆の念を	「目的語」

「あなたはなんと美しいのだろう！」

»Wie schön Sie sind!«	《「補語」「主語」「動詞」》
»Wie schön ウィー・シェン adj. (感嘆) なんと美しい	「補語」

VIII

Sie ジー pron あなたは 「主語」
sind!« ジント 3 複現・敬称(sein)v.i ~である 「動詞」

「ね、そうでしょう？」と、花は静かに答えた。「それに、あたくしは、太陽と同時に生まれましたの」

»Nicht wahr?« antwortete sanft die Blume. »Und ich bin zugleich mit der Sonne geboren...«

《「応答」》, 「動詞」「副詞」「主語」, 《Und 「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」》

»Nicht wahr?« ニヒト・ヴァール adv. (念押し) そうでしょう? 「応答」

antwortete アントヴァアテ 3 単過(antworten)v.i 答えた 「動詞」

sanft サント adv. 物静かに、穏やかに 「副詞」

die Blume. デー・ブルメ n.f.1 格 花は 「主語」

»Und ウント conj. そして

ich イヒ pron 私は 「主語」

bin ...geboren...« ビン...ゲボレン 1 単現・状態受動(gebären)v.t 生まれた 「動詞句」

zugleich ツゲライヒ adv. 同時に 「副詞」

mit der Sonne ミット・デア・ゾネ adv. 太陽と 「副詞句」

生まれた : gebären の使い方

履歴書などでは、Ich wurde geboren. 私は生まれた。が用いられるが、日常会話などでは、Ich bin ... geboren. の形が用いられる。

王子さまは、彼女があまり慎み深くないことをしっかりと察知した。しかし感動するほど美しかった。

Der kleine Prinz erriet wohl, dass sie nicht allzu bescheiden war, aber sie war so rührend!

「主語」「動詞」「副詞」「目的語」

Der kleine Prinz デア・クライネ・プリンツ n.m 王子さまは 「主語」

erriet エリート 3 単過(erraten)v.t 察知した 「動詞」

wohl, ヴォール adv. しっかりと、十分に 「副詞」

dass ダス conj. ~ということを 「目的語」

sie ジー pron 彼女は 「主語」

nicht allzu bescheiden ニヒト・アルツ・ベシヤイデン

adj. (部分否定) あまり控え目でない 「補語」

war, ヴァール 3 単過・時制の一致(sein)v.i ~である 「動詞」

aber アーバー conj. しかし

sie ジー pron 彼女は 「主語」

war, ヴァール 3 単過・時制の一致(sein)v.i ~である 「動詞」

生まれた : gebären の使い方

VIII

so rührend! ザー・リュレント adj. 感動的な

「補語」



「朝食の時間だと思いますけど」と、やがて彼女は付け加えた。「わたくしのことを考える親切心がおありになって？」

»Ich glaube, es ist Zeit zum Frühstück«, hatte sie bald hinzugefügt, »hätten Sie die Güte, an mich zu denken?«

《「主語」「動詞」「目的語」》, 「動詞句」「主語」「副詞」「動詞句」,
《「動詞」「主語」「目的語」》

»Ich イヒ pron 私は

「主語」

glaube, グラウベ 1 単現(glauben)v.t ~と思う

「動詞」

n. ~ということ

「目的語」

es エス pron (非人称) 時間は

「主語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である

「動詞」

Zeit ツァイト n.f 時間

「補語」

zum Frühstück, ツーム・フリュシュチュッケン adj. 朝食の

「形容詞句」

hatte ...hinzugefügt, ハッテ...ヒンツァー・ゲ・フュクト 3 単過・完了形(hinzu | fügen)

v.t 付け加えた

「動詞句」

sie ジー pron 彼女は

「主語」

bald バルト adv. やがて

「副詞」

»hätten ヘッテン 接 II・3 複現・語調緩和・疑問文(haben)v.t ありませんか？

「動詞」

Sie ジー pron あなたは

「主語」

die Güte, デー・キューテ n.f 親切心

「目的語」

an mich zu denken? アン・ミット・ツァー・デンケン

adj. (同格) 私のことを考えるという

「形容詞句」

VIII

そしてすっかり動揺した王子さまは、新鮮な水の入った如雨露を取ってきて、花に水をかけたやった。

Und völlig verwirrt hatte der kleine Prinz eine Gießkanne mit frischem Wasser geholt und die Blume begossen.

Und 「副詞句」「動詞句」「主語」「目的語」「動詞句」 und 「目的語」「動詞句」

Und ウント conj. そして

völlig verwirrt フェリヒ・フェアウゐアト adv. すっかり動揺して 「副詞句」

völlig フェリヒ adv. 完全に verwirrt フェアウゐアト adj. 動揺した、混乱した

hatte ...geholt ハッテ...ゲホルト 3 単過・完了形(holen)v.t (物を) 行って取ってきた 「動詞句」

der kleine Prinz テア・クライネ・プリンツ n.m 王子さまは 「主語」

eine Gießkanne アイネ・ギースカンネ n.f 如雨露を 「目的語」

mit frischem Wasser ミット・フリシエム・ヴァッサー adj. 新鮮な水の入った 「形容詞句」

und ウント conj. そして

die Blume ディー・ブルーメ n.f 花に 「目的語」

begossen. ベゴセン 3 単過・完了形(begießen)v.t (水を) かけた 「動詞句」

そうして早くも、彼女はいくらか臆病な虚栄心によって彼を苦しめ始めた。

So hatte sie ihn sehr bald schon mit ihrer etwas scheuen Eitelkeit gequält.

「副詞」「動詞句」「主語」「目的語」「副詞句」「動詞句」

So ヴー adv. そうして 「副詞」

hatte ...gequält. ハッテ...ゲクワェルト 3 単過・完了形(quälen)

v.t (肉体的・精神的に) 苦しめた 「動詞句」

sie シー pron.f 彼女は 「主語」

ihn イン pron.m.4 格 彼を 「目的語」

sehr bald schon ゼーア・バルト・ショーン adv. 早くも 「副詞句」

mit ihrer etwas scheuen Eitelkeit ミット・イーラー・エトワース・シャウエン・アイテルカイト

adv. いくらか臆病な彼女の虚栄心によって 「副詞句」

etwas エトワース pron いくらか scheuen シャウエン adj.f.3 格 臆病な、内気な

Eitelkeit アイテルカイト n.f.3 格 虚栄心

例えばある日、彼女が自分の4本の棘について話していた時に、王子様に言った：

Eines Tages zum Beispiel, als sie von ihren vier Dornen sprach, hatte sie zum kleinen Prinzen gesagt: 「副詞句」, 「副詞節」, 「動詞句」「主語」「間接目的語」「動詞句」

Eines Tages アイネス・ターゲス n.m.2 格 (副詞的2格) ある日に 「副詞句」

zum Beispiel, ツム・ハイシュピール adv. 例えば 「副詞句」

VIII

als アルス conj. (過去のある時点で) ～したとき	「副詞節」
sie シー pron 彼女は	「主語」
von ihren vier Dornen フォン・イーレン・フィーア・トリアン	
adv. 自分の4本の棘について	「間接目的語」
sprach, シュプラーハ 3 単過(sprechen)v.i(von について) 話した	「動詞」
hatte ...gesagt: ハッテ...ゲザークト 3 単過・完了形(sagen)v.t 言った	「動詞句」
sie シー pron 彼女は	「主語」
zum kleinen Prinzen ツム・クライネン・プリンツェン adv. 王子様に	「間接目的語」

「虎たちが、かぎ爪を持ってやって来たって構わないわ！」

»Sie sollen nur kommen, die Tiger, mit ihren Krallen!«

《「主語」「動詞句」, 「主語」「副詞句」》

»Sie シー pron.pl 彼らが

「主語」

sollen nur kommen, ソレン・ヌーア・コメン 3 複現・挑発(sollen nur+不定詞)

v.i 来るならそうすれば良い

「動詞句」

die Tiger, ディー・チガー pl.n.m 虎が

「主語」

mit ihren Krallen!« ミット・イーレン・クラレン adv. 鉤爪を持って

「副詞句」

Krallen クラレン pl.n.f(Kralle) かぎ爪

「僕の惑星には虎はいませんよ」と、王子さまは反論した。「それに、虎は草を食べません」

»Es gibt keine Tiger auf meinem Planeten«, hatte der kleine Prinz eingewendet, »und die Tiger fressen auch kein Gras.«

《「動詞句」「主語」「副詞句」》, 「動詞句」「主語」「動詞句」,

《und 「主語」「動詞」「目的語」》

»Es gibt エス・ギブト 3 単現・非人称(geben)v.i ～はいる、ある

「動詞句」

keine Tiger カイネ・チガー n.m 虎は～ない

「主語」

auf meinem Planeten«, アウフ・マイネム・プラネーテン adv. 僕の惑星には

「副詞句」

hatte ...eingewendet, ハッテ...アイン・ゲ・ウエンテット 3 単過・完了形(ein | wenden)

v.t(et-4 何-4 に対して) 異論を唱えた

「動詞句」

ein | wenden アイン・グエンテン v.t 異論を唱える (過去分詞は eingewandt もある)

der kleine Prinz デア・クライネ・プリンツ n.m 王子さまは

「主語」

»und ウント conj. そして

die Tiger ディー・チガー pl.n.m 虎は

「主語」

fressen フレッセン 3 複現 v.t (動物が) 食う

「動詞」

auch kein Gras.« アウフ・カイン・グラーズ n.n.4 格 草も～ない

「目的語」

VIII

「私は、草ではありませんよ」と、花は静かに答えた。

»Ich bin kein Gras«, hatte die Blume sanft geantwortet.

《「主語」「動詞」「補語」》, 「動詞句」「主語」「動詞句」

»Ich イッヒ pron 私は 「主語」
 bin ビン 1 単現(sein)v.i 〜である 「動詞」
 kein Gras«, カイン・グラーズ n.n.1 格 草〜でない 「補語」
 hatte ...geantwortet. ハッテ...ゲアントゥェ オアテット 3 単過・完了形(antworten
 v.i 答えた 「動詞句」
 die Blume ディー・ブルーメ n.f.1 格 花は 「主語」
 sanft ザンフト adv. 静かに 「副詞」

「ごめんなさい」

»Verzeihen Sie mir...«

《「動詞」「主語」「間接目的語」》

»Verzeihen フェアツアイエン 命・3 複現・二人称敬称 v.t 許してください 「動詞」

Sie シー pron あなたは 「主語」

mir...« ミー pron.3 格 私を 「間接目的語」

命令法 : 目の前の二人称に対する命令形

du : 語幹+e (e は省略されることが多い)

ihr : 二人称複数現在形(君たち)が使用される

Sie : 三人称複数現在形(あなた、あなた方)が使用される、「主語」Sie を付ける

「私は、虎は怖くないけれど、すきま風が怖い。衝立はお持ちにならないのですか？」

»Ich fürchte mich nicht vor den Tigern, aber mir graut vor der Zugluft. Hätten Sie keinen Wandschirm?«

《「主語」「動詞句」「間接目的語」 aber 「間接目的語」「動詞」「間接目的語」
 「動詞」「主語」「目的語」》

»Ich イッヒ pron 私は 「主語」

fürchte mich nicht フュルヒテ・ミッヒ・ニヒト 1 単現・否定(sich-4 fürchten)

v.pr (vor et-3 何-3 を) 恐れない 「動詞句」

vor den Tigern, フォーア・テン・チゲルン adv. 虎を 「間接目的語」

den Tigern テン・チゲルン pl.n.m.3 格 虎を

aber アーバー conj. しかし

mir ミー pron 私にとって 「間接目的語」

graut グラウト 3 単現・非人称(es grauen j-3 vor et-3)v.h がこわい 「動詞」

vor der Zugluft. フォーア・デア・ツークルフト adv. すきま風が 「間接目的語」

der Zugluft デア・ツークルフト n.f.3 格 すきま風

命令法 : 目の前の二人称に対する命令形

VIII

Hätten ハッテン 接 II・3 複現・推測(haben)v.t 持っているだろうか？

「動詞」

Sie ジー pron あなたは

「主語」

keinen Wandschirm?« ケイネン・ヴァントシルム n.m 衝立を～なにもない

「目的語」



風が怖いだって？植物にしては、運が悪いな。この花はかなり気難しいな。

Grauen vor Zugluft?... Das sind schlechte Aussichten für eine Pflanze, hatte der kleine Prinz festgestellt. Diese Blume ist recht schwierig...

「動詞」「間接目的語」 | 「目的語」「動詞句」「主語」「動詞句」 | 「主語」「動詞」「補語」

Grauen グラウエン 3 複現・非人称 v.h (vor et-3 ～が) 怖い

「動詞」

vor Zugluft?... フォア・ツークルト adv. すきま風を

「間接目的語」

Das ダス pron それは～であるということ

「目的語」

sind シント 3 複現(sein)v.i ～である

「動詞」

schlechte Aussichten シュレヒテ・アウスジヒテン pl.n.f.1 格 運が悪い

「補語」

schlecht シュレヒト adj. 悪い Aussicht アウスジヒト n.f 見込み、チャンス

für フュア prep (4 格と) (関連) ～にしては、～にとっては 「副詞句」

eine Pflanze, アイン・プフランツェ n.f.4 格 植物

「目的語」

hatte ...festgestellt. ハッテ...フェスト・ゲ・シュテルト 3 単過・完了形(fest|stellen)

v.t 気づいた、認めた

「動詞句」

der kleine Prinz デア・クライネ・プリンツ n.m 王子さまは

「主語」

Diese Blume ディーゼ・ブルメ n.f この花は

「主語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i ～である

「動詞」

recht schwierig... レヒト・シュヴァーリヒ adj. かなり気難しい

「補語」

recht レヒト adv. 相当に、かなり schwierig シュヴァーリヒ adj. 難しい、気難しい

王子さまが心の中で思ったこと

VIII

「夕方になったら、わたくしにガラスの覆いをかけてくださる？あなたのところはとても寒いわ。居心地が悪いの。わたくしがやってきた、あちらは...」

»Am Abend werden Sie mich unter einen Glassturz stellen. Es ist sehr kalt bei Ihnen. Das ist schlecht eingerichtet. Da, wo ich herkomme...«

《「副詞句」, 「動詞句」「主語」「目的語」「副詞句」「動詞句」》

「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞」「補語」 | 「副詞句」

»Am Abend アム・アーベント adv. 夕方には 「副詞句」

werden ...stellen. ウェアデェン...シュテルン 3 複現・敬称・丁寧な依頼(werden+不定詞)

v.t 入れてくださいますか 「動詞句」

stellen シュテルン v.t 入れる、置く

Sie ジー pron あなたは 「主語」

mich ミヒ pron 私を 「目的語」

unter einen Glassturz ウンター・アイネン・ガラス・シュトルツ adv. ガラスの覆いの下に 「副詞句」

Es エス pron 非人称主語・気候

ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である 「動詞」

sehr kalt ゼーア・カルト adj. とても寒い 「補語」

bei Ihnen. バイ・イーネン adv. あなたのところは 「副詞句」

Das ダス pron それは 「主語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である 「動詞」

schlecht eingerichtet. シュレヒト・アイン・ゲ・リヒテット 過去分詞(ein | richten)

adj. 必要な設備が整っていない、居心地が悪い 「補語」

Da, ダー adv. そこは 「副詞句」

wo ヴォー adv. そこから~する 「形容詞節」

ich イヒ pron 私が 「主語」

herkomme...« ハー・コメ 1 単現(her | kommen)v.i こちらへ来た 「動詞句」

しかし彼女は話を中断した。彼女は、種子の形でこちらにやって来たのだった。

Aber sie hatte sich unterbrochen. Sie war in Form eines Samenkorns gekommen.

Aber 「主語」「動詞句」 | 「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」

Aber アーバー conj. しかし

sie ジー pron 彼女は 「主語」

hatte sich unterbrochen. ハッテ・ズ・イヒ・ウンターブーヘン 3 単過・完了形(sich unterbrechen)

v.pr (話を) 中断した 「動詞句」

Sie ジー pron 彼女は 「主語」

war ...gekommen. ヴァール...ゲ・コメン 3 単過・完了形(kommen)v.i やって来た 「動詞句」

VIII

in Form イン・フォルム adv. 形で

「副詞句」

eines Samenkorns アイネス・ザーメンコルネス n.n.2 格 種子の

「形容詞句」



彼女はほかの世界については何も知ることができなかったはずだ。

Sie hatte nichts von den anderen Welten wissen können. 「主語」「動詞句」「目的語」

Sie シー pron 彼女は

「主語」

hatte ...wissen können. ハッテ...ウ`イッセン・ケネン 3 単過・完了形・可能

(können+不定詞)v.i(von et-3 何-3 について) 知ることができた

「動詞句」

nichts ニヒツ pron 何も～ない

「目的語」

von den anderen Welten フォン・デ`ン・アンデ`レン・ウ`エルテン

adv. ほかの世界については

「副詞句」

den anderen Welten デン・アンデ`レン・ウ`エルテン pl.n.m.3 格 ほかの世界に

そんな単純な嘘を気づかれたことに恥じ入って、彼女は 2、3 回咳払いをして、王子様の方が間違っていることにした。

Beschämt, sich bei einer so einfältigen Lüge ertappen zu lassen, hatte sie zwei oder dreimal gehustet, um den kleinen Prinzen ins Unrecht zu setzen:

「副詞句」, 「動詞句」「主語」「副詞句」

Beschämt, ベ`シェムト 過去分詞・受動・原因 adv. 恥じ入ったので

「副詞句」

sich ...ertappen zu lassen, ス`イッヒ...エアタッペン・ツァー・ラッセン zu 不定句・使役

v.t 気づかれたことを

「目的語」

bei einer so einfältigen Lüge ベ`イ・アイター・ゾー・アインフェルチゲ`ン・リューク`

adv. そんな単純な嘘を

「間接目的語」

hatte ...gehustet, ハッテ...ゲ`フステット 3 単過・完了形(husten)v.i 咳払いをした

「動詞句」

sie シー pron 彼女は

「主語」

zwei- oder dreimal ツウ`アイ・オーダー・ト`ライマル adv. 2、3 回

「副詞句」

VIII

um ウム prep(+zu 不定詞) (結果) そして～した、(目的) ～するために 「副詞句」
 den kleinen Prinzen デン・クライネ・プリンツェン n.m.4 格 王子様を 「目的語」
 ins Unrecht インス・ウンレヒト adv. 間違った側に 「副詞句」
 zu setzen: ツー・ゼッツェン zu 不定詞 v.t 座らせる 「動詞句」

「衝立は... ?」

»Der Wandschirm...?« 「確認」
 »Der Wandschirm...?« デア・ヴァントシルム n.m 衝立は? 「確認」

「僕はそれを取りに行こうとしていたのに、あなたが話しかけてきたでしょう！」

»Ich wollte ihn gerade holen, aber Sie sprachen mit mir!«
 《「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」, aber 「主語」「動詞」「間接目的語」》
 »Ich イヒ pron 僕は 「主語」
 wollte ...holen, ヴォルテ...ホルン 1 単過・意思(wollen+不定詞)
 v.t 取ってこようとしていた 「動詞句」
 ihn イン pron.m それを 「目的語」
 gerade ゲラーテ adv. まさに、ちょうど 「副詞」
 aber アーバー conj. しかし
 Sie ジー pron.敬称 あなたが 「主語」
 sprachen シュプラヘン 3 複過(sprechen)v.i(mit に) 話しかけてきた 「動詞」
 mit mir!« ミット・ミーア adv. 僕に 「間接目的語」

するとふたたび彼女はわざと咳をして、王子様に良心の呵責を強いた。

Dann hatte sie sich neuerlich zu ihrem Husten gezwungen, um ihm trotzdem Gewissensbisse aufzunötigen.

「副詞」, 「動詞句」「主語」「動詞句」「副詞」「間接目的語」「動詞句」, 「副詞句」
 Dann ダン adv. すると 「副詞」
 hatte ... sich...gezwungen, ハッテ...ズィヒッ...ゲツァンゲン 3 単過・完了形(sich zwingen)
 v.pr(zu et-3 何-3 を) 自分で故意に～をした 「動詞句」
 sie ジー pron 彼女は 「主語」
 neuerlich ノイアーリヒ adv. またしても、再び 「副詞」
 zu ihrem Husten ツー・イイレム・フステン adv. 咳を 「間接目的語」
 um ウム prep(+zu 不定詞) (結果) そして～した、(目的) ～するために 「副詞句」
 ihm イム pron.3 格 彼に 「間接目的語」
 trotzdem トロツツデーム adv. それでも 「副詞」
 Gewissensbisse ゲヴィッセンズビッセ pl.n.m 良心の呵責を 「目的語」

VIII

aufzunötigen. アウフ・ツァー・ネチゲン zu 不定詞(auf|nötigen)v.t. ～を強いる 「動詞句」

再帰代名詞の配置 :

定動詞正置の時は、定動詞のすぐ後ろに置く。定動詞倒置・後置の時は、「主語」が名詞ならばそのすぐ前に、「主語」が代名詞ならばその直後に置く。完了の助動詞は **haben**。

完了時制では、この文のように動詞句が 3 つの部分に分離する。

それで王子さまは、淡い恋心による善意であったが、彼女を疑い始めた。彼女の重要ではない言葉をひどく真面目に受け止めたために、非常に不幸になってしまったのだ。

So hatte der kleine Prinz trotz des guten Willens seiner Liebe rasch an ihr zu zweifeln begonnen, ihre belanglosen Worte bitter ernst genommen und war sehr unglücklich geworden.

「副詞」「動詞句」「主語」「副詞句」「間接目的語」「動詞句」, 「副詞句」, 「動詞」「補語」

So ゾー adv. それで 「副詞」

hatte ...zu zweifeln begonnen, ハッテ...ツァー・ツヴァイフェルン・ベグン 3 単過・完了形・開始

(beginnen zu+不定詞)v.i(an j-3 を) 疑い始めた 「動詞句」

der kleine Prinz デア・クライン・プリンツ n.m 王子さまは 「主語」

trotz トロツ prep (2 格と) ～にもかかわらず 「副詞句」

des guten Willens デス・グーテン・ヴァイルンス n.m.2 格 善意、良い意思 「目的語」

seiner Liebe rasch ザー・イー・リーベ・ラッシュ

n.f.2 格 彼の素早い恋心の 「形容詞句」

an ihr アン・イーア adv. 彼女を 「間接目的語」

ihre belanglosen Worte イーレ・ベラングロゼン・ウァーテ

pl.n.n.4 格 彼女の重要ではない言葉を 「目的語」

belanglos ベラングロス adj. 重要でない Worte ウァーテ pl.n.n(Wort) 言葉

bitter ビッター adv. ひどく、大変 「副詞」

ernst エンスト adv. 真面目に 「副詞」

genommen ゲノムン 過去分詞(nehmen)v.t 受け取ったために 「副詞句」

und ウント conj. そして

war ...geworden. ワール...ゲウァーデテン 3 単過・完了形(werden)v.i ～になった 「動詞句」

sehr unglücklich ゼーア・ウングレックリヒ adj. 非常に不幸に 「補語」

VIII



「彼女の言うことを聞くべきではなかったんだ」と、ある日、王子様は僕に打ち明けた。

»Ich hätte nicht auf die hören sollen«, gestand er mir eines Tages.

《「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」》, 「動詞」「主語」「間接目的語」「副詞句」
 »Ich イヒ pron 僕は 「主語」
 hätte nicht ...hören sollen«, ヘッテ・ニヒト...ヘーレン・ゾレン 1 単過・義務・否定(sollen+不定詞 hören)
 v.i(auf j-4) (人の言うことを) 聞くべきではなかった 「動詞句」
 auf die アウフ・デー adv. 彼女の言うことを 「間接目的語」
 gestand ゲシュタント 3 単過(gestehen)v.t 告白した、打ち明けた 「動詞」
 er エア pron 彼は 「主語」
 mir ミーア pron 僕に 「間接目的語」
 eines Tages. アイネス・ターゲス n.m.2 格 ある日 「副詞句」

「人は花の言うことを聞いてはならない、人は花を見つめ、その香りをかいで欲しい」

»Man darf den Blumen nicht zuhören, man muss sie anschauen und einatmen.

《「主語」「動詞句」「間接目的語」, 「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」》
 »Man マン pron 人は 「主語」
 darf ...nicht zuhören, ダルフ...ニヒト・ツーヘレン 3 単現・禁止(dürfen+不定詞)
 v.i(et-3 何-3 を) (関心を持って) 聞いてはならない 「動詞句」
 den Blumen テン・ブルーメン pl.n.f.3 格 花の話を 「間接目的語」
 man マン pron 人は 「主語」
 muss ...anschauen und einatmen. ムス...アン・シャウエン・ウント・アイン・アートメン 3 単現・要請
 (müssen+不定詞)v.t 見つめて香り吸い込んでほしい 「動詞句」
 sie ジー pron 彼女を 「目的語」

VIII

「僕の花は、僕の惑星を良い香りで満たしてくれたけれど、僕はその香りを楽しむことができなかったんだ」

Die meine erfüllte den Planeten mit Duft, aber ich konnte seiner nicht froh werden.

《「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」, aber 「主語」「動詞句」「間接目的語」「補語」》

Die meine ディー・マイネ pron.f 僕の花は (Blume が省略されている) 「主語」

erfüllte エアフルテ 3 単過(erfüllen)v.t(et-4 mit et-3) 満たした 「動詞」

den Planeten デン・プラネテン pl.n.m.4 格 僕の惑星を 「目的語」

Planet プラネート n.m -en/-en (弱変化名詞) 惑星

mit Duft, ミット・ドゥフト adv. よい香りで 「副詞句」

aber アーバー conj. しかし

ich イヒ pron 僕は 「主語」

konnte ...werden. コンテ...ヴァアデソ 1 単過・可能(können+不定詞)

v.i ~になることができた 「動詞句」

seiner ザイアー pron 彼女の香りについて 「間接目的語」

nicht froh ニヒト・フロー adj. 楽しくない 「補語」

「僕をひどく苛つかせた鉤づめの話は、もしかしたら、僕の心を動かしたかもしれない。」

Diese Geschichte mit den Krallen, die mich so gereizt hat, hätte mich rühren sollen.«

《「主語」「動詞句」「目的語」》

Diese Geschichte ディーゼ・ゲシヒテ n.f この話は 「主語」

mit ミット prep (3 格と) (関連) ~に関しての 「形容詞句」

den Krallen, デン・クラレン pl.n.f.3 格 鉤づめの 「目的語」

die ディー pron(主語)~する 「形容詞節」

mich ミヒ pron.4 格 僕を 「目的語」

so ソー adv. とても 「副詞」

gereizt hat, ゲライツト・ハット 3 単現・完了形(reizen)v.t 苛立たせた 「動詞句」

hätte ...rühren sollen.« ハッテ...リュールン・ゾレン 接 II・3 単現・完了形・推量(sollen+不定詞)

v.t ~の心を動かしたかもしれない 「動詞句」

mich ミヒ pron 僕を 「目的語」

彼はさらに僕に打ち明けた。

Er vertraute mir noch an: 「主語」「動詞句」「間接目的語」「副詞」「動詞句」

Er エア pron 彼は 「主語」

vertraute ...an: フェアトラウテ...アン 3 単過(an|vertrauen)v.t(j-3 et-4) 打ち明けた 「動詞句」

mir ミア pron 僕に 「間接目的語」

VIII

noch ノッホ adv. さらに

「副詞」

「僕はあの時はまだそのことを理解できなかったんだ！僕は、彼女の言葉によってではなく彼女の行為によって彼女を判断するべきだったんだけど」

»Ich habe das damals nicht verstehen können! Ich hätte sie nach ihrem Tun und nicht nach ihren Worten beurteilen sollen.

《「主語」「動詞句」「目的語」「副詞」 | 「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」》

»Ich イッヒ pron 僕は 「主語」

habe ...nicht verstehen können! ハーベ ...ニヒト・フェアシュテーン・ケネン 1 単現・完了形・可能・否定

(können+不定詞)v.t 理解することが出来なかった 「動詞句」

das ダス pron そのことを 「目的語」

damals ダーマルス adv. あの時は 「副詞」

Ich イッヒ pron 僕は 「主語」

hätte ...beurteilen sollen. ヘッテ...ヘ・ウルタイレン・ゾレン 接 II・1 単現・完了形・推量

(sollen+不定詞)v.t 判断するべきだった（けれどもしなかった） 「動詞句」

sie ジー pron 彼女を 「目的語」

nach ihrem Tun ナーハ・イーレム・トゥーン adv. (判断の基準) 彼女の行為によって 「副詞句」

und ウント conj. そして

nicht nach ihren Worten ニヒト・ナーハ・イーレム・ワァアテン

adv. (判断の基準) 彼女の言葉によってではなく 「副詞句」

「彼女は僕のために良い香りを放ち、そして輝いてくれた。僕は決して逃げ出すべきではなかったのに！」

Sie duftete und glühte für mich. Ich hätte niemals fliehen sollen!

《「主語」「動詞句」「副詞句」 | 「主語」「動詞句」》

Sie ジー pron 彼女は 「主語」

duftete ドゥフテテ 3 単過(duften)v.i よい香りを出した 「動詞」

und ウント conj. そして

glühte グリュエテ 3 単過(glühen)v.i 光を放った、灼熱した 「動詞」

für mich. フュア・ミッヒ adv. 僕のために 「副詞句」

Ich イッヒ pron 僕は 「主語」

hätte niemals fliehen sollen! ヘッテ・ニーマルス・フリーエン・ゾレン 接 II・1 単現・完了形・推量・否定

(sollen+不定詞+ niemals)v.i 決して逃げ出すべきではなかったのに 「動詞句」

IX

「僕は、彼女の哀れな策略の裏にある彼女の愛を察知するべきだったのに。」

Ich hätte hinter all den armseligen Schlichen Ihre Zärtlichkeit erraten sollen.

《「主語」「動詞句」「副詞句」「目的語」「動詞句」》

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

hätte ...erraten sollen. ヘッテ...エアラーテン・ゾレン 接 II・1 単現・完了形・推量(sollen+不定詞)

v.t 察知するべきだった

「動詞句」

hinter all den armseligen Schlichen ヒンター・アル・テン・アームツェリヒェン・シュリヒェン

adv. 彼女の哀れな策略の裏にある

「副詞句」

Ihre Zärtlichkeit イーレ・ツェアールヒカイト n.f 彼女の愛を

「目的語」

花というものはそれほど矛盾している。だけど僕は若すぎて、彼女を愛せななかつた。

Die Blumen sind so widerspruchsvoll! Aber ich war zu jung, um sie lieben zu können.«

「主語」「動詞」「補語」 | Aber 「主語」「動詞」「補語」

Die Blumen ディー・ブルーメン pl.n.f 花というものは

「主語」

sind シント 3 複現(sein)v.i ~である

「動詞」

so widerspruchsvoll! ゾー・ウァーダー・シュプルフスフォル adj. それほど矛盾した

「補語」

Aber アーバー conj. しかし

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

war ヲアール 1 単過(sein)v.i ~ だった

「動詞」

zu jung, ツー・ユング adj. 若すぎた

「補語」

um ウム prep ~するために

「副詞句」

sie シー pron 彼女を

「目的語」

lieben zu können.« レーベン・ツウ・ケnnen 不定詞(können+不定詞)

v.t 愛することができる

「動詞句」

IX

僕は、王子さまは逃げ出すために野鳥の渡りを利用した、と思っている。

Ich glaube, dass er zu seiner Flucht einen Zug wilder Vögel benutzt hat.

「主語」「動詞」「目的語」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

glaube, グラウヘ 1 単現(glauben)v.t (〜と) 思う

「動詞」

dass ダス conj. ~ということ

「目的語」

er エア pron 彼は

「主語」

zu seiner Flucht ツー・ザイアー・フルフト

adv. (目的) 逃げ出すために、逃亡のために

「副詞句」

IX

einen Zug wilder Vögel アイネン・ツーク・ウィルダール・フェーゲル

n.m.4 格 野鳥の渡りを

「目的語」

einen Zug アイネン・ツーク n.m.4 格 (鳥の) 渡りを wilder Vögel ウィルダール・フェーゲル pl.2 格 野鳥の
benutzt hat. ベヌツト・ハット 3 単現・完了形(benutzen)v.t 利用した 「動詞句」

出発の朝、彼は自分の惑星をきちんと整えた。

Am Morgen seiner Abreise brachte er seinen Planeten schön in Ordnung.

「副詞句」, 「動詞」 「主語」 「目的語」 「補語」

Am Morgen アム・モアゲン adv. 朝に

「副詞句」

seiner Abreise ザイナール・アププライゼ n.f.2 格 出発の

「形容詞句」

brachte ブラハテ 3 単過(bringen)v.t (et-4+副詞) ~へと至らしめた

「動詞」

er エア pron 彼は

「主語」

seinen Planeten ザイネン・プラーネテン n.m.4 格 自分の惑星を

「目的語」

schön シェン adv. きちんと

「副詞」

in Ordnung. イン・オルトヌング adv. 整頓されている

「補語」

et-4 in Ordnung bringen 「何-4 を整理する、修理する」

彼は入念に自分の活火山の煤払いをした。

Sorgfältig fegte er seine tätigen Vulkane.

「副詞」 「動詞」 「主語」 「目的語」

Sorgfältig ザアクフェルティヒ adv. 入念に、注意深く

「副詞」

fegte フェークテ 3 単過(fegen)v.t 掃除した

「動詞」

er エア pron 彼は

「主語」

seine tätigen Vulkane. ザイネン・テチゲン・ウルカーネ pl.n.m.4 格 彼の活火山を

「目的語」

tätigen テチゲン adj.pl(tätig) 活動中の Vulkane ウルカーネ pl.n.m(Vulkan) 火山

フランス語の原文では 掃除でなく、煤払い

Il **ramona** soigneusement ses volcans en activité.

念入りに活火山の煤払いをした。

彼は活火山を 2 つ所有していた。それは朝食を作るのにとても便利だった。

Er besaß zwei tätigen Vulkane, das war sehr praktisch zum Frühstückkochen.

「主語」 「動詞」 「目的語」, 「主語」 「動詞」 「補語」

Er エア pron 彼は

「主語」

besaß ベザース 3 単過(besitzen)v.t 持っていた、所有していた

「動詞」

zwei tätigen Vulkane, ツヴァイ・テチゲン・ウルカーネ pl.n.m.4 格 活火山を 2 つ

「目的語」

das ダス pron (主語) (それは) ~する

「形容詞節」

das は性・数にかかわらずなく、人・物を紹介する。程度牛の数・人称は紹介される物に従

IX

う。ここでは、それぞれの活火山が～であると紹介するので、単数扱いである。

war ヲアル 3 単過(sein)v.i ～ だった

「動詞」

sehr praktisch セーア・プラクティシュ adj. とても便利な

「補語」

zum Frühstückkochen. ツーム・フリュシュチュック・コッヘン

adv. (目的) 朝食を料理するのに

「副詞句」

Frühstück フリュシュチュック n.n 朝食 kochen コッヘン v.t 料理する → Frühstückkochen

彼は休火山も 1 つ所有していた。

Er besaß auch einen erloschenen Vulkan.

「主語」「動詞」「目的語」

Er エア pron 彼は

「主語」

besaß ベザース 3 単過(besitzen)v.t 持っていた、所有していた

「動詞」

auch アウフ adv. ～も

「副詞」

einen erloschenen Vulkan. アイン・エアロシェネン・ウルカン n.m.4 格 休火山を 1 つ

「目的語」

しかし彼は自分に言い聞かせていた：「誰にも分ったものではない！」そして、彼は休火山も煤払いをした。

Da er sich aber sagte: Man kann nie wissen! fegte er auch den erloschenen Vulkan.

「副詞」「主語」 aber 「動詞句」：《「主語」「動詞句」》, 「動詞」「主語」「目的語」

Da ダー adv. そこで、そして

「副詞」

er エア pron 彼は

「主語」

sich ...sagte: スィットヒ...ザークテ 3 単過(sich sagen)v.pr 自分に言い聞かせていた

「動詞句」

aber アーバー conj. しかし

Man マン pron 人は

「主語」

kann nie wissen! カン・ニー・ウイッセン 3 単現・可能・否定(können+不定詞 wissen+nie)

v.t 決して分からない

「動詞句」

fegte フェークテ 3 単過(fegen)v.t 掃除した

「動詞」

er エア pron 彼は

「主語」

auch アウフ adv. ～も

「副詞」

den erloschenen Vulkan. デン・エアロシェネン・ウルカン n.m.4 格 休火山を

「目的語」

それらの火山が十分に煤払いされていれば、規則正しくゆっくり燃えて、爆発もしない。

Wenn sie gut gefegt werden, brennen die Vulkane sanft und regelmäßig, ohne Ausbrüche.

「副詞節」, 「動詞」「主語」「副詞句」

Wenn ゲン conj. ～するとき、もしも～ならば

「副詞節」

sie ジー pron.pl それらの火山が

「主語」

gut ゲート adv. 十分に、よく

「副詞」

IX

gefeht werden, ケフェクト・ウエアテン 3 複現・受動(fegen)

v.t 掃除されている

「動詞句」

brennen ブレン 3 複現 v.i 燃える

「動詞」

die Vulkane テー・ウルカーネ pl.n.m(Vulkan) 火山は

「主語」

sanft サント adv. 穏やかに

「副詞」

und ウント conj. そして

regelmäßig, レゲルメーシヒ adv. 規則正しく

「副詞」

ohne オーネ prep. ～なしに

「副詞句」

Ausbrüche. アウスブリュッヒエ pl.n.m(Ausbruch) 爆発

「目的語」

火山の爆発は、煙突の火事みたいなものだ。

Die Ausbrüche der Vulkane sind nichts weiter als Kaminbrände. 「主語」「動詞」「補語」

Die Ausbrüche テー・アウスブリュッヒエ pl.n.m 爆発は

「主語」

der Vulkane テー・ウルカーネ adj. 火山の

「形容詞句」

sind シント 3 複現(sein)v.i. ～である

「動詞」

nichts weiter als ニヒツ・ウァイター・アルス pron. ～以外の何でもない

「補語」

Kaminbrände. カシブレンテ pl.n.m 煙突の火事

「目的語」

Kamin カシ n.m 煙突 brände ブレンテ pl.n.m(Brand) 火事 → Kaminbrände

それは明白である：つまり地球上では、私たちは小さすぎて火山の煤払いができない。

Es ist klar: Wir auf unserer Erde sind viel zu klein, um unsere Vulkane zu kehren.

「主語」「動詞」「補語」：「主語」「副詞句」「動詞」「補語」「副詞句」

Es エス pron. それは

「主語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i. ～である

「動詞」

klar: クラール adj. 明白な

「補語」

Wir ウー pron. 私たちは

「主語」

auf unserer Erde アウフ・ウンゼラー・エアデ adv. 地球上では

「副詞句」

sind シント 1 複現(sein)v.i. ～である

「動詞」

viel zu klein, フィール・ツークライン adj. あまりに小さい、小さすぎる

「補語」

um +zu 不定詞 ウム adv. ～するためには

「副詞句」

unsere Vulkane ウンゼレ・ウルカーネ pl.n.m 地球の火山を

「目的語」

zu kehren. ツー・ケーレン zu 不定詞 v.t 掃除する

「動詞句」

viel+形容詞, um +zu 不定詞 「あまりに... なので、～できない」

IX



Il ramona soigneusement ses volcans en activité.

IX

だから火山は僕たちにたくさんの嫌がらせをするんだ。

Deshalb machen sie uns so viel Verdruss.

「副詞」「動詞」「主語」「間接目的語」「直接目的語」

Deshalb デスハルプ adv. それだから

「副詞」

machen マヘン 3 複現 v.t (j-3 et-4 人-3 に何-4 を) もたらす、与える

「動詞」

sie シー pron.pl 火山たちは

「主語」

uns ウンス pron 僕たちに

「間接目的語」

so viel Verdruss. ソー・フィール・フェアトルス n.m たくさんの不愉快な気持ちを

「直接目的語」

王子さまは少し憂鬱そうにバオバブの新芽を抜いたりもした。

Der kleine Prinz riss auch ein bißchen schwermütig die letzten Triebe des Affenbrodbaumes aus.

「主語」「動詞句」「副詞句」「目的語」「動詞句」

Der kleine Prinz デア・クライン・プリンツ n.m 王子さまは

「主語」

riss ...aus. リス...アウス 3 単過(aus|reißen)v.t 引き抜いた

「動詞句」

auch アウフ adv. ～も

「副詞」

ein bißchen schwermütig アイン・ヒッシェン・シュヴァエミューティヒ adv. 少し憂鬱そうに

「副詞句」

ein bißchen アイン・ヒッシェン adj. 少しの schwermütig シュヴァエミューティヒ adv. 憂鬱で

die letzten Triebe デー・イー・レツテン・トリーヘ pl.n.m 新芽を

「目的語」

des Affenbrodbaumes デス・アッフェンブーロートホイメス adj.pl バオバブの

「形容詞句」

彼は、もう二度と戻ってくることはないと思っていた。

Er glaubte nicht, dass er jemals zurückkehren müsse.

「主語」「動詞句」「目的語」

Er エア pron 彼は

「主語」

glaubte nicht, グラウプテ・ニヒト 3 単過・否定(gluaben)v.t 思わなかった

「動詞句」

主節を肯定文・従属節を否定文に変えて翻訳する

dass ダス conj. ～ということを

「目的語」

er エア pron 彼は

「主語」

jemals イェーマールス adv. いつか

「副詞」

zurückkehren müsse. ツリュックケーレン・ミュッセ 接・3 単過・推量(müssen+不定詞)

v.i 戻ってくるに違いない

「動詞句」

しかしこれらの慣れ親しんだ仕事が、彼には、その朝はとても甘美なものに思われた。

Aber alle diese vertrauten Arbeiten erschienen ihm an diesem Morgen ungemein süß.

Aber 「主語」「動詞」「間接目的語」「補語」

Aber アーバー conj. しかし

alle diese vertrauten Arbeiten アレ・デー・イーゼ・フェアトラウテン・アールハイテン

IX

pl.n.f これらの慣れ親しんだ仕事 「主語」
 erschienen エーシェン 3 複過(erscheinen)v.i(j-3 人にとって) ~のように思われた 「動詞」
 ihm イム pron 彼にとって 「間接目的語」
 an diesem Morgen アン・デューゼム・モアゲン adv. その朝は 「副詞句」
 ungemein süß. ウンゲマイン・ジュース adj. とても甘い 「補語」
 ungemein ウンゲマイン adv. きわめて süß ジュース adj. 甘い、甘美な、心地よい

そして彼が最後に花に水をかけてやり、ガラスの覆いを花にかぶせてやろうとしたとき、自分の中に泣き出したい衝動が沸き上がるのを感じた。

Und, als er die Blume zum letztenmal begoß und sich anschickte, sie unter den Schutz der Glasglocke zu stellen, entdeckte er in sich das Bedürfnis zu weinen.

Und 「副詞節」, 「動詞」 「副詞句」 「目的語」

Und, ウント conj. そして
 als アルス conj. ~したとき 「副詞節」
 er エア pron 彼が 「主語」
 die Blume デュー・ブルーメ n.f.4 格 花に 「目的語」
 zum letztenmal ツーム・レッツテンマル adv. 最後に 「副詞句」
 begoß ベゴース 3 単過(begießen)v.t(et-4 に) (水を) かけてやった 「動詞」
 und ウント conj. そして
 sich anschickte ...zu stellen, スィッヒ・アンシッケ...ツージェレン 3 単過・試行
 (sich an|schicken+zu 不定詞)v.t 入れようとした 「動詞句」
 , sie ジー pron 花を 「目的語」
 unter den Schutz ウンター・デーン・シュッツ adv. 防護装置の下に 「副詞句」
 der Glasglocke デア・グラースクロッケ adj. 釣り鐘型ガラス器の 「形容詞句」
 entdeckte エントデッケ 3 単過(entdecken)v.t 発見した 「動詞」
 er エア pron 彼は 「主語」
 in sich イン・スィッヒ adv. 自分自身の中に 「副詞句」
 das Bedürfnis ダス・ヘデュールフニス n.n 欲求を 「目的語」
 zu weinen. ツー・ヴァイネン adj. (同格) 泣きたいという 「形容詞句」

「さようなら」と、王子様は花に言った。

»Adieu«, sagte er zur Blume. 《「挨拶」》, 「動詞」 「主語」 「間接目的語」
 »Adieu«, アジュー int. さようなら 「挨拶」
 sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 er エア pron 彼は 「主語」
 zur Blume. ツー・ブルーメ adv. 花に 「間接目的語」

IX

しかし彼女は彼に答えなかった。

Aber sie antwortete ihm nicht.

Aber 「主語」「動詞句」「間接目的語」

Aber アーバー conj. しかし

sie シー pron 彼女は

「主語」

antwortete ...nicht. アントヴァアテテ...ニヒト 3 単過・否定(antworten)

v.i(j)-3 に) 答えなかった

「動詞句」

ihm イム pron.3 格 彼に

「間接目的語」

「さようなら」と、王子様はもう一度言った。

»Adieu«, wiederholte er.

《「挨拶」》, 「動詞」「主語」

»Adieu«, アジュー int. (フランス語 adieu または à dieu : 神に) さようなら

「挨拶」

wiederholte ヴィーダーホルテ 3 単過(wiederholen)v.t 繰り返した、もう一度言った 「動詞」

er. エア pron 彼は

「主語」

花は咳をしたが、風邪をひいたせいではなかった。

Die Blume hustete. Aber das kam nicht von der Erkältung.

「主語」「動詞」 | Aber 「主語」「動詞」「副詞句」

Die Blume デーイー・ブルーメ n.f 花は

「主語」

hustete. フステテ 3 単過(husten)v.i 咳をした

「動詞」

Aber アーバー conj. しかし

das ダス pron それは

「主語」

kam カム 3 単過(kommen)v.i 来た

「動詞」

nicht von der Erkältung. ニヒト・フォン・デア・エアルトクング adv. 風邪のせいではなく 「副詞句」

von... は原因を表し、nicht は von 以降を否定している

「わたしはバカだった」と、ついに彼女は彼に言った。「許してください。幸せになってね」

»Ich bin dumm gewesen«, sagte sie endlich zu ihm. »Ich bitte dich um Verzeihung. Versuche, glücklich zu sein.«

《「主語」「動詞句」「補語」》, 「動詞」「主語」「副詞」「間接目的語」,

《「主語」「動詞」「直接目的語」「間接目的語」 | 「動詞句」》

»Ich イヒ pron 私は

「主語」

bin ...gewesen«, ビン...ゲラエゼン 1 単現・完了形(sein)v.i 〜だった

「動詞句」

dumm トムム adj. ばかな

「補語」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

sie シー pron 彼女は

「主語」

IX

endlich エントリヒ adv. ついに	「副詞」
zu ihm. ツー・イム adv. 彼に	「間接目的語」
»Ich イッヒ pron 私	「主語」
bitte ビッテ 1 単現(bitten)v.t(j-4 um et-4) 願う	「動詞」
dich ディッヒ pron あなたに	「直接目的語」
um Verzeihung. ウム・フェアツァイhung ^グ adv. 赦しを	「間接目的語」
Versuche, フェアズ ^グ ーへ 命・2 単現(versuchen) v.t (+zu 不定句) 〜しようとしてください	「動詞句」
glücklich zu sein.« グリュックリヒ・ツー・ザイン zu 不定句 v.i 幸せになる	「動詞句」

非難する言葉が浴びせられなかったもので、彼は驚いた。

Es überraschte ihn, dass die Vorwürfe ausblieben.	「動詞」「目的語」「主語」
Es エス pron 仮の主語（真の主語は dass 以降）	
überraschte ユーバーラシュテ 3 単過(überraschen)v.t 驚かした	「動詞」
ihn, イーン pron 彼を	「目的語」
dass ダス conj. 〜ということは	「主語」
die Vorwürfe ディー・フォアヴュルフェ pl.n.m 非難が、叱責	「主語」
ausblieben. アウス・ブリーベン 3 複現(aus bleiben)v.i 起こらなかった	「動詞句」
「 <u>非難が起こらなかった事は彼を驚かした</u> 」→ 主語を副詞句・原因として翻訳する	

彼は、手にガラスの覆いを持ち、すっかり取り乱してそこに立っていた。彼にはこの無言の優しさが理解できなかった。

Er stand ganz fassungslos da, mit der Glasglocke in der Hand. Er verstand diese stille Sanftmut nicht.	「主語」「動詞」「副詞句」 「主語」「動詞句」「目的語」
Er エア pron 彼は	「主語」
stand シュタント 3 単過(stehen)v.i 立っていた	「動詞」
ganz fassungslos ガンス ^グ ・ファスングスロース adv. まったく取り乱して	「副詞句」
fassungslos ファスングスロース adv. 取り乱して	
da, ダー adv. そこに	「副詞」
mit der Glasglocke ミット・デア・ガラスグロッケ adv. (様態) ガラスの覆いをもって	「副詞句」
in der Hand. イン・デア・ハント adv. 手に	「副詞句」
Er エア pron 彼は	「主語」
verstand ...nicht. フェアシュタント...ニヒト 3 単過・否定(verstehen)v.t 理解しなかった	「動詞句」
diese stille Sanftmut ディーゼ ^グ ・シュティレ・ザンフトムート n.f この静かなやさしさを	「目的語」
stille シュティレ adj.f.4 格(still) 静かな Sanftmut ザンフトムート n.f 優しさ	

IX

「だけど、そう、私はあなたが好きよ」と、花が言った。

»Aber ja, ich liebe dich«, sagte die Blume.

《「感嘆」「主語」「動詞」「目的語」》, 「動詞」「主語」

»Aber ja, アバー・ヤー adv. だけど、そう

「感嘆」

ich イヒ pron 私は

「主語」

liebe リーベ 1 単現(lieben)v.t 好きだ

「動詞」

dich«, デイヒ pron あなたを

「目的語」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

die Blume. デー・ブルメ n.f 花が

「主語」

「あなたはそのことを何も知らなかったでしょ。それは私のせいだけど、もうそんなことはどうでもいいわ」

»Du hast nichts davon gewußt. Das ist meine Schuld. Es ist ganz unwichtig.

《「主語」「動詞句」「目的語」 | 「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞」「補語」》

»Du トゥー pron あなたは

「主語」

hast ...gewußt. ハスト...ゲウスト 2 単現・完了形(wissen)v.t 知らなかった

「動詞句」

nichts ニヒツ pron 何も～ない

「目的語」

davon ダフオン adv. それについて

「副詞」

Das ダス pron それは

「主語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i ～である

「動詞」

meine Schuld. マイネ・シュルト n.f 私の責任

「補語」

Es エス pron それは

「主語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i ～である

「動詞」

ganz unwichtig. ガンツ・ウンゲヒヒ adj. まったく重要ではない

「補語」

「だけどあなたも私と同じように馬鹿だったのよ。幸せになってね... このガラスの覆いを片付けてちょうだい。もうそんなものはいらないわ」

Aber du warst ebenso dumm wie ich. Versuche, glücklich zu sein... Laß diese Glasglocke liegen! Ich will sie nicht mehr...«

《Aber 「主語」「動詞」「補語」 | 「動詞句」

「動詞」「目的語」「補語」 | 「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」》

Aber アバー conj. しかし

du トゥー pron あなたは

「主語」

warst ヴァルスト 2 単過(sein)v.i ～だった

「動詞」

ebenso dumm エーベンゾー・トゥム adj. 同じように馬鹿な

「補語」

wie ich. ヴァー・イヒ adv. 私を同じように

「副詞句」

IX

Versuche, フェアズーヘ 命・2 単現(versuchen)

v.t (+zu 不定句) 〜しようとしてください 「動詞句」

glücklich zu sein... グリュックリヒ・ツォーザイン zu 不定句 v.i 幸せになる 「動詞句」

Laß ラース 命・2 単現・使役(lassen)v.t 〜させてちょうだい 「動詞」

diese Glasglocke デーゼ・ガラスグロッケ n.f このガラスの覆いを 「目的語」

liegen! リーゲン 不定詞・目的語の動作 v.i 横たわる、葬られている 「補語」

Ich イヒ pron 私は 「主語」

will ...nicht mehr...《 ヱイル...ニヒト・メア 1 単現・否定(wollen+nicht mehr)

v.t もう必要ない、もういらない 「動詞句」

sie シー pron (Glasglocke の代用) それを 「目的語」

「でも風が...」

»Aber der Wind...« 《Aber 「主語」》

»Aber アーバー conj. でも

der Wind...《デア・ヴァント n.m 風が 「主語」

「私はそれほどひどい風邪をひいているわけではないの、あの咳は... この涼しい夜のそよ風が私を元気にしてくれるでしょう。私は花だから」

»Ich bin nicht so stark erkältet, dass... Die frische Nachtluft wird mir gut tun. Ich bin eine Blume.«

《「主語」「動詞句」「補語」, 「主語」 | 「主語」「動詞句」「目的語」「補語」「動詞句」》

»Ich イヒ pron 私は 「主語」

bin nicht ビン・ニヒト 1 単現・否定(sein)v.i 〜でない 「動詞句」

so stark erkältet, ソー・シュタルク・エッケルテット adj. そんなにひどく風邪をひいた 「補語」

dass... ダス pron (この咳は) これは... 「主語」

Die frische Nachtluft デー・フリッシェ・ナフト n.f.1 格 この涼しい夜のそよ風が 「主語」

frische フリッシェ adj.f.1 格 涼しい、新鮮な Nacht ナフト n.f 夜 Luft ルフト n.f 空気、そよ風

wird ...tun. ヱイルト...トゥン 3 単未・推量(werden+不定詞 tun)

v.i (様態を示す語句と) 作用をするだろう 「動詞句」

mir ミーア pron 私にとって 「間接目的語」

gut ゲート adj. 好ましい、元気な 「補語」

Ich イヒ pron 私は 「主語」

bin ビン 3 単現(sein)v.i 〜である 「動詞」

eine Blume.《アイネ・ブルーメ n.f.1 格 花 「補語」

IX

「だけど、獣が...」

»Aber die Tiere...«

《Aber 「主語」》

»Aber アーバー conj. だけど

die Tiere...« ティー・チエレ pl.n.n.1 格 獣が

「主語」

「蝶と知り合いになりたいなら、2匹や3匹の毛虫は我慢しなくちゃならないわ」

»Ich muß wohl zwei oder drei Raupen aushalten, wenn ich die Schmetterlinge kennenlernen will.

《「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」, 「副詞節」》

»Ich イヒ pron 私は

「主語」

muß ...aushalten, ムス...アウスハルテン 1 単現・必要(müssen+不定詞 aus|halten)

v.t. ～を我慢しなければならない

「動詞句」

wohl zwei oder drei Raupen ウォール・ツヴァイ・オーダー・ドライ・ラウペン

pl.n.f.4 格 2匹や3匹の毛虫を

「目的語」

wohl ウォール adv. (数詞と) 約 Raupe ラウペ n.f 毛虫、イモムシ

wenn ウェン conj. (条件) もしも～ならば

「副詞節」

ich イヒ pron 私が

「主語」

die Schmetterlinge ティー・シュメッターリンゲ pl.n.m(Schmetterling) 蝶を

「目的語」

kennenlernen will. ケネンレルネン・ウィル 1 単現・願望(wollen+不定詞)

v.t. 知り合いになりたい

「動詞句」

その上、蝶ってとても美しいと思う。蝶のほかに誰が私を訪問してくれるというの？

»Auch das scheint sehr schön zu sein. Wer wird mich sonst besuchen?

《「副詞」「主語」「動詞句」「補語」「動詞句」

「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」「動詞句」》

Auch アウフ adv. その上

「副詞」

das ダス pron (Schmetterlinge 蝶 の代用) それは

「主語」

scheint ...zu sein. シャイント...ツウ・ザイン 3 単現・見かけ(scheinen...zu+不定詞 sein)

v.i. ～であるように思える

「動詞句」

sehr schön ゼーア・シェン adj. とても美しい

「補語」

Wer ウェア pron 誰が

「主語」

wird ...besuchen? ウィルト...ベズーヘン 3 単未・推量(werden+不定詞 besuchen)

v.t. 訪問するだろうか？

「動詞句」

mich ミヒ pron 私を

「目的語」

sonst ソンスト adv. そうでないと、そのほかに

「副詞」

IX

「あなたは遠く離れて行ってしまうのでしょうか？」

Du wirst ja weit weg sein.

《「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」》

Du トゥ pron あなたは

「主語」

wirst ...sein. ウィルスト...ザイン 2 単未・推量(werden+不定詞 sein)

v.i 行くのでしょうか？

「動詞句」

sein ザイン v.i ~にいる → 過去や未来時制では「行く」の意味になる

ja weit weg ヤー・ヴァイト・ヴェック adv. きっと遠く離れて

「副詞句」

ja ヤー adv. (確認) きっと、~でしょう？

「大きな獣が襲ってきても、私はそれほど恐れないわ。自分の爪があるから」

Was aber die großen Tiere angeht, so fürchte ich mich nicht. Ich habe meine Krallen.«

《「目的語」「副詞」「動詞句」「主語」 | 「主語」「動詞」「目的語」》

Was ヴァス conj. (先行詞なし) ~することを

「目的語」

aber アーバー conj. しかし

die großen Tiere ティー・グロゼン・チエレ pl.n.n(Tier) 大きな獣が

「主語」

angeht, アンゲート 3 単現(an|gehen)v.t 襲いかかる

「動詞句」

soゾー adv. そんなに

「副詞」

fürchte ...mich nicht. フュルヒテ...ミット・ニヒト 1 単現・否定(sich fürchten)v.pr 恐れない

「動詞句」

ich イヒ pron 私は

「主語」

Ich イヒ pron 私は

「主語」

habe ハーヴェ 1 単現(haben)v.t ある

「動詞」

meine Krallen.« マイネ・クラレン pl.n.f 自分の爪が

「目的語」

そして彼女は無邪気に自分の 4 本のとげを見せた。それからさらに付け加えた。

Und sie zeigt treuherzig ihre vier Dornen. Dann fügte sie noch hinzu:

Und 「主語」「動詞」「副詞」「目的語」 | 「副詞」「動詞句」「主語」「副詞」「動詞句」

Und ウント conj. そして

sie ジー pron 彼女は

「主語」

zeigt ツァイト 3 単現(zeigen)v.t 見せる

「動詞」

treuherzig トロイヘアツヒ adv. 無邪気に

「副詞」

ihre vier Dornen. イーレ・フィーア・トアネン pl.n.m(Dorn) 4 本のとげを

「目的語」

Dann ダン adv. それから

「副詞」

fügte ...hinzu: フュクテ...ヒンツウ 3 単過(hinzu|fügen)v.t 付け加えた

「動詞句」

sie ジー pron 彼女は

「主語」

noch ノッホ adv. さらに

「副詞」

IX

「そんなにぐずぐずしないで！いらいらするわ。あなたはもう旅立つことを決めたのでしょう？それなら、もう行ってしまいなさい！」

»Zieh es nicht so in die Länge, das ist ärgerlich. Du hast dich entschlossen zu reisen. So geh!«

《「動詞句」「目的語」「動詞句」「副詞句」, 「主語」「動詞」「補語」

「主語」「動詞句」 | 「副詞」「動詞」》

»Zieh ...nicht ツィー 命・2 単現・否定(ziehen)v.t 引っ張るな 「動詞句」

(zeihen ツァイエン v.t 咎める) の三人称単数過去形も zieh なので注意

es エス pron それを 「目的語」

so in die Länge, ソー・イン・デー・レンゲ adv. そんなに長く 「副詞句」

et-4 in die Länge ziehen 何-4 を長引かせる

das ダス pron それは 「主語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である 「動詞」

ärgerlich. エアガーリッヒ adj. いらいらする 「補語」

Du ドゥー pron あなたは 「主語」

hast dich entschlossen zu reisen. ハスト・ディヒ・エントシュロッセン・ツウ・ライゼン 2 単現・完了形・決断

(sich-4 entschließen zu+不定詞)v.pr 旅立つことに決めた 「動詞句」

So ソー adv. それなら 「副詞」

geh!« ゲー 命・2 単現(gehen)v.i 行きなさい！ 「動詞」

というのは、泣いているところを王子様に見られなくなかったから。それはかくも誇り高き花だった。

Denn sie wollte nicht, dass er sie weinen sähe. Es war eine so stolze Blume.

Denn 「主語」「動詞句」「目的語」 | 「主語」「動詞」「補語」

Denn デン conj. というのは~だから

sie ジー pron 彼女は 「主語」

wollte nicht, ヴォルテ・ニヒト 3 単過・否定(wollen)v.t 望まなかった 「動詞句」

dass ダス conj. 何ということ 「目的語」

er エア pron 王子様が 「主語」

sie ジー pron 彼女が 「目的語」

weinen ヴァイネン 不定詞・目的語の動作 v.i 泣く 「補語」

sähe. セーエ 接 II・3 単現・知覚動詞(sehen)v.t 見る 「動詞」

願望に導かれる節は接続法を用いる

「泣いているのを彼が見るのを望まなかった」→「泣いているのを見られなくなかった」

Es エス pron 彼女は、それは 「主語」

war ヴァール 3 単過(sein)v.i ~ だった 「動詞」

eine so stolze Blume. アイネ・ゾー・シュトルツェ・ブルメ n.f.1 格 それほど誇らしげな花 「補語」

X

X

王子さまは、小惑星 325, 326, 327, 328, 329 及び 330 の圏内に来ていた。それで彼は、仕事に就いて、教養を身に着けるためにそれらの小惑星を訪問し始めた。

Er befand sich in der Region der Asteroiden 325, 326, 327, 328, 329 und 330. Er begann also, sie zu besuchen, um sich zu beschäftigen und um sich zu bilden.

「主語」「動詞句」「副詞句」 | 「主語」「動詞句」「副詞」「目的語」「副詞句」

Er エア pron 王子さまは 「主語」

befand sich ベファント・スィヒ 3 単過(sich-4 befinden)v.pr (～の場所に) いた 「動詞句」

in der Region イン・デア・レギオン adv. 領域に 「副詞句」

der Asteroiden デア・アステロイデーン pl.n.m 小惑星の 「形容詞句」

325, 326, 327, 328, 329 und 330. ドライフンダート・フエンフントツヴァンツィヒ、ドライフンダート・セクスウントツヴァンツィヒ、ドライフンダート・スィーベンウントツヴァンツィヒ、ドライフンダート・アハトウントツヴァンツィヒ、ドライフンダート・ノインウントツヴァンツィヒ、ウント・ドライフンダート・ドライスイヒ

adj. 325, 326, 327, 328, 329 そして 330 の 「形容詞句」

Er エア pron 彼は 「主語」

begann ...zu besuchen, ベガーン...ツァー・ヘズーヘン 3 単過(beginnen+zu 不定詞)

v.t ～を訪問し始めた 「動詞句」

also, アルゾー adv. それで 「副詞」

sie シー pron.pl (三人称複数、性の区別なし) それらの小惑星を 「目的語」

um +zu 不定詞 ウム adv. (目的) ～するために 「副詞句」

sich zu beschäftigen スィヒ・ツァー・ヘシェフチゲン zu 不定詞(sich-4 beschäftigen)

v.pr 仕事に就く 「動詞句」

und ウント conj. そして

um sich zu bilden. ウム・スィヒ・ツァー・ビルデーン adv.(sich-4 bilden)

v.pr 教養を身に着けるために 「副詞句」

最初の小惑星には、1 人の王様が住んでいた。

Auf dem ersten wohnte ein König. 「副詞句」「動詞」「主語」

Auf dem アウフ・デーム adv. 小惑星の上には 「副詞句」

ersten エアステン adj.m(erst).3 格 最初の、1 番目の 「形容詞」

wohnte ウォンテ 3 単過(wohnen)v.i 住んでいた 「動詞」

ein König. アイン・ケーニヒ n.m 1 人の王様が 「主語」

X

その王様は、深紅の服とシロテンの毛皮を身に着けて、非常に簡素だが、堂々とした玉座に座っていた。

Der König thronte in Purpur und Hermelin auf einem sehr einfachen und dabei sehr königlichen Thron.

「主語」「動詞」「副詞句」

Der König デア・ケーニヒ n.m その王様は

「主語」

thronte スロンテ 3 単過(thronen)v.i (玉座に) 座っていた

「動詞」

in イン prep (着用) ～を身に着けて

「副詞句」

Purpur プルプル n.m 深紅の服

「目的語」

und ウント conj. そして

Hermelin ヘルメルン n.m シロテンの毛皮

「目的語」

auf アウフ prep ～の上に

「副詞句」

einem sehr einfachen アイנם・セーア・アインファッヘン

adj.m(einfach).3 格 非常に簡素な

「形容詞句」

und ウント conj. そして

dabei sehr königlichen ダバイ・セーア・ケーニクリヒェン

adj.m(königlich)3 格 それにもかかわらず堂々とした

「形容詞句」

dabei ダバイ adv. (相反) それにもかかわらず

Thron. トロン n.m.3 格 玉座に

「目的語」

「ああ！見ろ！家来がいる」と、王子様を見て、王様は叫んだ。

»Ah! Sieh da, ein Untertan«, rief der König, als er den kleinen Prinzen sah.

《「感嘆」「動詞句」「主語」》, 「動詞」「主語」, 「副詞節」

»Ah! アー int. ああ

「感嘆」

Sieh da, ジー・ダー 命・2 単現(sehen)v.t 見ろ！

「動詞句」

ein Untertan«, アイ・ウンテルタン n.m 家来だ

「主語」

rief リーフ 3 単過(rufen)v.i 叫んだ

「動詞」

der König, デア・ケーニヒ n.m 王様が

「主語」

als アルス conj. ～したとき

「副詞節」

er エア pron 彼が

「主語」

den kleinen Prinzen デン・クライネン・プリンツェン n.m 王子様を

「目的語」

sah. サー 3 単過(sehen)v.t 見た

「動詞」

それで王子さまは疑問に思った：彼はどうやって僕だと分かったのだろう、だって彼は僕に一度も会ったことがないのだから。

Und der kleine Prinz fragte sich: Wie kann er mich kennen, da er mich noch nie gesehen hat!

Und 「主語」「動詞句」: 「副詞」「動詞句」「主語」「目的語」「副詞節」

X

Und ウント conj. そして

der kleine Prinz デア・クライネ・プリンツ n.m 王子さまは 「主語」

fragte sich: フラクテ・ズィッヒ 3 単過(sich-4 fragen)v.pr 自問した、疑問に思った 「動詞句」

Wie ヱー adv. どうやって 「副詞」

kann ...kennen, カン...ケネ 3 単現・可能(können+不定詞)v.t ~だと分かる 「動詞句」

er エア pron 彼は 「主語」

mich ミッヒ pron 僕を 「目的語」

da ダー conj. ~なので 「副詞節」

er エア pron 彼は 「主語」

mich ミッヒ pron 僕を 「目的語」

noch nie gesehen hat! ノッホ・ニー・ゲゼーエン・ハット 3 単現・完了形・否定(sehen)

v.t 一度も会ったことがない 「動詞句」



X

王子さまは、王様たちにとって世界が極めて単純であるということを知らなかった：すなわち、すべての人間が家来なのだ。

Er wußte nicht, dass für die Könige die Welt etwas höchst Einfaches ist: Alle Menschen sind Untertanen.

Er エア pron 彼は 「主語」
 wußte nicht, ウステ・ニト 3 単過・否定(wissen)v.t 知らなかった 「動詞句」
 dass ダス conj. ～ということ 「目的語」
 für die Könige フュア・デー・ケーニヒ adv. (関連) 王様たちにとって 「副詞句」
 für フュア prep (4 格と) ～にとって die Könige デー・ケーニヒ pl.n.m.4 格 王様たち
 die Welt デー・ヴェルト n.f.1 格 世界は 「主語」
 etwas höchst Einfaches エトワース・ヘーヒスト・アインファヘス
 n.n.1 格 きわめて単純なもの 「補語」
 höchst ヘーヒスト adj. きわめて Einfaches アインファヘス n.n.1 格 単純なもの
 ist: イスト 3 単現(sein)v.i ～である 「動詞」
 Alle Menschen アレ・メンシェン pl.n.m すべての人間は 「主語」
 sind シント 3 複現(sein)v.i ～である 「動詞」
 Untertanen. ウンテルタネン pl.n.m 家来 「補語」

「お前がもっとよく見えるように、近う寄れ！」と、王様は言った。そして誰かに対してついに王様になれたので、大変誇らしげだった。

»Komm näher, dass ich dich besser sehe«, sagte der König und war ganz stolz, dass er endlich für jemanden König war.

《「動詞」「副詞」「副詞節」》, 「動詞」「主語」 und 「動詞」「補語」「副詞節」
 »Komm コム 命・2 単現(kommen)v.i 来なさい 「動詞」
 näher, ネアー adv. (比較級) もっと近くに 「副詞」
 dass ダス conj. (目的) ～するために 「副詞節」
 ich イヒ pron 私が 「主語」
 dich デイヒ pron お前を 「目的語」
 besser ベッサー adv. (比較級) もっと良く 「副詞」
 sehe«, セーエ 1 単現(sehen)v.t 見える 「動詞」
 sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 der König テア・ケーニヒ n.m 王様は 「主語」
 und ウント conj. そして
 war ヴァール 3 単過(sein)v.i ～ だった 「動詞」
 ganz stolz, ガンツ・シュトルツ adj. 大変誇らしげな 「補語」
 dass ダス conj. (原因) ～するので 「副詞節」

X

er エア pron 彼は	「主語」
endlich エントリツヒ adv. ついに	「副詞」
für jemanden フェア・イエーマンデーン adv. (目標) 誰かに対する	「形容詞句」
König ケーニツヒ n.m 王様	「補語」
war. ヲアール 3 単過(sein)v.i (状態に) ～ になった	「動詞」

王子さまは座る場所を探しましたが、その惑星全体が素晴らしいシロテンのコートで覆われていました。

Der kleine Prinz schaute sich nach einer Sitzgelegenheit um, aber der ganze Planet war bedeckt von dem herrlichen Hermelinmantel.

	「主語」「動詞句」「間接目的語」, aber 「主語」「動詞句」「副詞句」
Der kleine Prinz デア・クライネ・プリンツ n.m 王子さまは	「主語」
schaute sich ...um, シャウテ・ズィツヒ...ウム 3 単過(sich-4 um schauen)	
v.pr(nach et-3 を) 探した	「動詞句」
nach einer Sitzgelegenheit ナーハ・アイナー・ジッツ・ゲレーゲンハイト adv. 座る場所を	「間接目的語」
Sitzgelegenheit ジッツ・ゲレーゲンハイト n.f 椅子、座る場所	
aber アーバー conj. しかし	
der ganze Planet デア・ガントツェ・プラネート n.m.1 格 その惑星全体は	「主語」
war bedeckt ヲアール・ベデックト 3 単過・状態受動(bedecken)v.t 覆われていた	「動詞句」
von dem herrlichen Hermelinmantel. フォン・デー・ム・ヘアリヒェン・ヘアメリーン・マンテル	
adv. 素晴らしいシロテンのコートによって	「副詞句」
herrlich ヘアリヒ adj. すばらしい Hermelinmantel ヘアメリーン・マンテル n.m シロテンのコート	

それで彼は立ったままでした、そして疲れていたのも、あくびをしました。

Er blieb also stehen, und da er müde war, gähnte er.

	「主語」「動詞句」「副詞」「動詞句」, und 「副詞節」, 「動詞」「主語」
Er エア pron 彼は	「主語」
blieb ...stehen, ブリープ ...シュテーエン 3 単過・維持(bleiben+不定詞)v.i 立ったままでした	「動詞句」
also アルゾー adv. それで	「副詞」
und ウント conj. そして	
da ター conj. ～なので	「副詞節」
er エア pron 彼は	「主語」
müde ミューデ adj. 疲れた	「補語」
war, ヲアール 3 単過(sein)v.i ～ だった	「動詞」
gähnte ゲーント 3 単過(gähnen)v.i あくびをした	「動詞」

X

er. エア pron 彼は

「主語」

「国王の面前であくびをすることは、エチケットに反する」と、君主が言った。「君にあくびを禁じる」

» Es verstößt gegen die Etikette, in Gegenwart eines Königs zu gähnen«, sagte der Monarch. » Ich verbiete es dir.«

《「動詞」「副詞句」「主語」》, 「動詞」「主語」,

《「主語」「動詞」「直接目的語」「間接目的語」》

Es エス pron 仮の主語 (真の主語は in Gegenwart eines Königs zu gähnen)

verstößt フェアシュトスト 3 単現(verstoßen)v.i(gegen et-4 に) 違反している 「動詞」

gegen die Etikette, ゲーゲン・デー・エチケッテ adv. エチケットに 「副詞句」

zu 不定句 n. ～することは 「主語」

in Gegenwart eines Königs イン・ゲーゲンヴァート・アイネス・ケーニヒス

adv. 国王の面前で

「副詞句」

zu gähnen«, ツー・ゲーネン zu 不定詞 v.i あくびをする

「動詞句」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」

der Monarch. テア・モナーク n.m 君主は 「主語」

» Ich イヒ pron 私は 「主語」

verbiete フェアビエーテ 1 単現(verbieten)v.t 禁止する 「動詞」

es エス pron それを、あくびを 「直接目的語」

dir.« ディア pron 君に 「間接目的語」

「私はあくびを我慢できなかったのです」と、王子様はすっかり動揺して答えた。「私は長旅をして、眠っていないのです...」

»Ich kann es nicht unterdrücken«, antwortete der kleine Prinz ganz verwirrt. » Ich habe eine weite Reise gemacht und habe nicht geschlafen...«

《「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」》, 「動詞」「主語」「副詞句」,

《「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」 und 「動詞句」》

»Ich イヒ pron 私は 「主語」

kann ...nicht unterdrücken«, カン...ニヒト・ウンタードッルケン 1 単現・可能・否定(können+不定詞)

v.t 我慢できない

「動詞句」

es エス pron あくびを 「目的語」

antwortete アントヴァアテテ 3 単過(antworten)v.i 答えた 「動詞」

der kleine Prinz テア・クライン・プリンツ n.m 王子様が 「主語」

ganz verwirrt. » ガンツ・フェアウィルト adv. すっかり動揺して 「副詞句」

Ich イヒ pron 私は 「主語」

habe ...gemacht ハーベ...ゲマハト 1 単現・完了形(machen)v.t (行動を) した 「動詞句」

X

eine weite Reise アイネ・ヴァイト・ライゼ n.f 長旅を 「目的語」

und ウント conj. そして

habe nicht geschlafen...« ハーベ・ニヒト・ゲシュラーフェン 1 単現・完了形・否定(schlafen)

v.i 眠っていない 「動詞句」

「それならば」と、王様が言った。「君にあくびをするように命ずる。何年も前から、あくびをする人間をだれも見ることがない。あくびは、わしにとっては珍事じゃよ。さあ！もう一度あくびをなさい。これは命令じゃ」

»Dann«, sagte der König, »befehle ich dir zu gähnen. Ich habe seit Jahren niemanden gähnen sehen, das Gähnen ist für mich eine Seltenheit. Los! gähne noch einmal! Es ist ein Befehl.«

《「副詞」》, 「動詞」「主語」, 《「動詞」「主語」「目的語」「補語」

「主語」「動詞句」「副詞句」「目的語」「補語」「動詞句」,

「主語」「動詞」「間接目的語」「補語」

「催促」 | 「動詞」「副詞句」 | 「主語」「動詞」「補語」》

»Dann«, ダン adv. それならば 「副詞」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」

der König, デア・ケーニヒ n.m 王様が 「主語」

»befehle ベフェーレ 1 単現(befehlen)v.t(j-3 et-4) 命ずる 「動詞」

ich イヒ pron 私は 「主語」

dir ディア pron 君に 「目的語」

zu gähnen. ツー・ゲーネン zu 不定詞 v.i あくびをする 「補語」

この zu 不定詞は「直接目的語」であるが、目的語の動作を表す「補語」と考える

Ich イヒ pron 私は 「主語」

habe ... sehen, ハーベ...ゼーエン 1 単現・完了形・知覚動詞(sehen)v.t(j-4+不定詞)

v.t (人・4 が～するのを) 見た 「動詞句」

seit Jahren サイト・ヤーレン adv. 何年も前から 「副詞句」

seit サイト prep ～以来、～前から

niemanden ニーマンデーン pron.4 格 誰も～ない 「目的語」

gähnen ゲーネン 不定詞・目的語の動作 v.i あくびをする 「補語」

das Gähnen ダス・ゲーネン n.n.1 格 あくびは、あくびをすることは 「主語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i ～である 「動詞」

für mich フェア・ミヒ adv. 私にとって 「間接目的語」

eine Seltenheit. アイネ・ゼールテンハイト n.f 珍事 「補語」

Los! ロース adv. (促しを表して) 始めろ、さあ 「催促」

gähne ゲーネ 命・2 単現(gähnen)v.i あくびをなさい 「動詞」

noch einmal! ノッホ・アインマル adv. もう一度 「副詞句」

X

Es エス pron これは 「主語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である 「動詞」

ein Befehl.« アイン・ベフェール n.n.1 格 命令 「補語」

知覚動詞の完了時制 :

完了時制の文で、不定詞の後に置かれた知覚動詞は原型不定詞のままで使用する。

Ich habe ihn laufen sehen. 私は彼が走っているのが見えた。(laufen は「補語」)

「その命令では、僕はおじけづいてしまって、もうあくびなんてできませんよ...」と、王子さまは口ごもり、顔を赤らめた。

»Das ängstigt mich, ich kann nicht mehr...«, stammelte der kleine Prinz und errötete.

《「主語」「動詞」「目的語」, 「主語」「動詞句」, 「動詞」「主語」 und 「動詞」

»Das ダス pron その命令は 「主語」

ängstigt エングスティヒト 3 単現(ängstigen)v.t 怖がらせる 「動詞」

mich, ミヒ pron 僕を 「目的語」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

kann nicht mehr...«, カン・ニヒ・メー 1 単現・否定(können)v.i もうできない 「動詞句」

stammelte シュターメルテ 3 単過(stammeln)v.i 口ごもった 「動詞」

der kleine Prinz デア・クライン・プリンツ n.m 王子さまは 「主語」

und ウント conj. そして

errötete. エロイテ 3 単過(erröten)v.i 赤面した 「動詞」

「えへん、えへん」と、王様が答えた。「それでは、わしがさらに命令する。ある時は、あくびをし、そしてある時は...」

»Hm, hm!« antwortete der König. »Also dann... befehle ich dir, bald zu gähnen und bald...«

《「感嘆」》, 「動詞」「主語」, 《「副詞句」, 「動詞」「主語」「間接目的語」「直接目的語」》

»Hm, hm!« フム・フム int. えへん、えへん 「感嘆」

antwortete アントヴァアテテ 3 単過(antworten)v.i 答えた 「動詞」

der König. デア・ケーニヒ n.m 王様が 「主語」

»Also アルゾー adv. それでは 「副詞」

dann... ダン adv. さらに 「副詞」

befehle ベフェーレ 1 単現(befehlen)v.t 命令する 「動詞」

ich イヒ pron わしが 「主語」

dir, ディア pron 君に 「間接目的語」

zu 不定句 n. ~することを 「直接目的語」

bald バルト adv. (bald..., bald...) ある時は 「副詞」

X

zu gähnen ツー・ゲーネ zu 不定詞 v.i あくびをする 「動詞句」

und ウント conj. そして

bald...« バルト adv. ある時は... 「副詞」

彼はちょっとつぶやき、感情を害したように見えた。

Er murmelte ein bißchen und schien verärgert.

「主語」「動詞」「目的語」 und 「動詞」「補語」

Er エア pron 彼は 「主語」

murmelte ムルメルテ 3 単過(murmeln)v.t つぶやいた 「動詞」

ein bißchen アイン・ビッシェン pron ちょっと 「目的語」

und ウント conj. そして

schien シーン 3 単過(scheinen)v.i (～であるように) 見えた 「動詞」

verärgert. フェアールゲート 過去分詞(verärgern)adj. 感情を害した、怒った 「補語」

なぜなら王様は、人々が彼の威厳に敬意を払うことを最も大事にしていたから。彼はどんな不服従も許さなかった。彼は絶対君主だった。しかしとても思いやりがあったので、分別のある命令を与えていた。

Denn der König hielt in hohem Maße darauf, dass man seine Autorität respektiere. Er duldete keinen Ungehorsam. Er war ein absoluter Monarch. Aber da er sehr gütig war, gab er vernünftige Befehle. 「副詞節」 | 「主語」「動詞」「目的語」

「主語」「動詞」「補語」 | Aber 「副詞節」, 「動詞」「主語」「目的語」

Denn デン conj. なぜならば～だから 「副詞節」

der König デア・ケーニヒ n.m 王様は 「主語」

hielt ヒールト 3 単過(halten)v.i(auf et-4) 大事にしていた、尊重していた 「動詞」

in hohem Maße イン・ホーム・マーセ adv. 最も、最高に 「副詞句」

hohem ホーム adj.n.3 格(hoch) 高い Maße マーセ pl.n.n.3 格 程度

darauf, ダーラフ adv. そのことを 「間接目的語」

dass ダス conj. (同格) ～ということを 「間接目的語」

man マン pron 人は 「主語」

seine Autorität サイネ・アウトリテート n.f 彼の威厳を 「目的語」

respektiere. レスペクチエレ 接・3 単現(respektieren)

v.t 敬意を払うべきである 「動詞」

Er エア pron 彼は 「主語」

duldete ドゥルデテ 3 単過(dulden)v.t 許した 「動詞」

keinen Ungehorsam. カイネン・ウンゲホーザーム n.m どんな不服従も～ない 「目的語」

Er エア pron 彼は 「主語」

X

war ヲァール 3 単過(sein)v.i ~ だった	「動詞」
ein absoluter Monarch. アイン・アプゾルテア・モナヒ n.m.1 格 絶対君主	「補語」
absoluter アプゾルテア adj.m.1 格(absolut) 絶対の Monarch モナヒ n.m 君主	
Aber アーバー conj. しかし	
da ダー conj. ~なので	「副詞節」
er エア pron 彼は	「主語」
sehr gütig セーア・ギューティヒ adj. とても思いやりがある	「補語」
war, ヲァール 3 単過(sein)v.i ~ だった	「動詞」
gab カープ 3 単過(geben)v.t (相手に) 言っていた	「動詞」
er エア pron 彼は	「主語」
vernünftige Befehle. フェアニュンフティゲ・ベフエーレ pl.n.m.4 格 分別のある命令を	「目的語」
vernünftige フェアニュンフティゲ adj.pl.m(vernünftig) 分別のある	

「もしわしが命令するならば」と、王様はよく言っていた。「もしわしがある将軍に海鳥に変身するように命じて、この将軍が従わなかったならば、それは将軍の罪ではないであろう。それはわしの罪であろう」

»Wenn ich geböte«, pflegte er zu sagen, »wenn ich einem General geböte, sich in einen Seevogel zu verwandeln, und wenn dieser General nicht gehorchte, es wäre nicht die Schuld des Generals. Es wäre meine Schuld.«

《「副詞節」》, 「動詞句」「主語」「動詞句」,

《「副詞節」und「副詞節」, 「主語」「動詞句」「補語」 | 「主語」「補語」》

»Wenn ヲェン conj. もし~ならば	「副詞節」
ich イヒ pron わしが	「主語」
geböte«, ゲベーテ 接 II・1 単現(gebieten)v.t 命ずる	「動詞」
pflegte ...zu sagen, プフレーケ...ツァー・ザー・ゲン 3 単過・習慣(pflegen+zu 不定詞)	
v.t よく言っていた	「動詞句」
er エア pron 彼は	「主語」
»wenn ヲェン conj. もし~ならば	「副詞節」
ich イヒ pron わしが	「主語」
einem General アイネム・ジェネ랄 n.m.3 格 ある将軍に	「間接目的語」
geböte, ゲベーテ 接 II・1 単現(gebieten)v.t 命ずる	「動詞」
zu 不定句 n. ~するようにと	「直接目的語」
sich ...zu verwandeln, スィヒ...ツァー・フェアヴァンデルン zu 不定詞(sich-4 verwandeln)	
v.pr(in ~に) 変身する、姿を変える	「動詞句」
in einen Seevogel イン・アイネン・セーフォーゲル adv. 海鳥に	「間接目的語」
und ウント conj. そして	

X

wenn	ヴェン conj.	もし～ならば	「副詞節」
dieser General	デーザー・ジェネラル n.m.1 格	この将軍が	「主語」
nicht gehorchte,	ニヒト・ゲホルヒテ 3 単過・否定(gehorschen)v.i	従わなかった	「動詞句」
es	エス pron	それは	「主語」
wäre nicht	ヴェーレ・ニヒト 接 II・3 単現・否定・推量(sein)v.i	～ではないだろう	「動詞句」
die Schuld	デー・シュルト n.f	責任、罪	「補語」
des Generals.	デス・ゲネラルス n.m.2 格	その将軍の	「形容詞句」
Es	エス pron	それは	「主語」
wäre	ヴェーレ 接 II・3 単現・推量(sein)v.i	～だろう	「動詞」
meine Schuld.	マイネ・シュルト n.f.1 格	わしの責任、罪	「補語」

「座ってもいいでしょうか？」と、王子さまはおずおずと尋ねた。

»Darf ich mich setzen?« fragte schüchtern der kleine Prinz.

《「動詞句」「主語」「動詞句」》, 「動詞」「副詞」「主語」

»Darf ...mich setzen?« ダルフ...ミヒ・ゼッツェン 1 単現・許可・疑問文(dürfen+不定詞 sich setzen)

v.pr 座ってもいいでしょうか? 「動詞句」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

fragte フラーケ 3 単過(fragen)v.t 尋ねた 「動詞」

schüchtern シュヒターン adv. おずおずと、恐る恐る 「副詞」

der kleine Prinz. デア・クライネ・プリンツ n.m お王子さまは 「主語」

「君に座るように命じる」と、王様は答えた。そしてシロテンのマントの片隅を厳かに自分のほうへ引き寄せた。

»Ich befehle dir, dich zu setzen«, antwortete der König und zog einen Zipfel seines Hermelinmantels majestätisch an sich heran.

《「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」》, 「動詞」「主語」

und 「動詞句」「目的語」「副詞」「動詞句」

»Ich イヒ pron わしは 「主語」

befehle ベフェーレ 1 単現(befehlen)v.t 命ずる 「動詞」

dir, ディア pron 君に 「間接目的語」

dich zu setzen«, ディヒ・ツァー・ゼッツェン zu 不定句 n. 座ることを 「直接目的語」

antwortete アントヴァアテ 3 単過(antworten)v.i 答えた 「動詞」

der König デア・ケーニヒ n.m 王様が 「主語」

und ウント conj. そして

zog ...heran. ツォーク...ヘラン 3 単過(ziehen)v.t 引き寄せた 「動詞句」

einen Zipfel アイネン・ツイプフェル n.m 片隅を 「目的語」

X

seines Hermelinmantels ザ イネス・ヘアメリン・マンテルス

n.n.2 格 シロテンのマントの

「形容詞句」

majestätisch マエステーティヒ adv. 威厳をもって、厳かに

「副詞」

an sich アン・ズィッヒ adv. 自分のほうへ

「副詞句」

しかし王子さまは意外に思った。その惑星は非常に小さかったのだ。王様はいったい何を支配できていたのだろうか？

Aber der kleine Prinz staunte. Der Planet war winzig klein. Worüber konnte der König wohl herrschen?

Aber 「主語」「動詞」 | 「主語」「動詞」「補語」

「間接目的語」「動詞句」「主語」「副詞」「動詞句」

Aber アーバー conj. しかし

der kleine Prinz テア・クライネ・プリンツ n.m 王子さまは

「主語」

staunte. シュタウンテ 3 単過(staunen)v.i 意外に思った、驚いた

「動詞」

Der Planet テア・プラネート n.m その惑星は

「主語」

war ヲアール 3 単過(sein)v.i ~ だった

「動詞」

winzig klein. ウィンツィヒ・クライン adj. 非常に小さい

「補語」

Worüber ヲオリューバー adv. 何について

「間接目的語」

konnte ...herrschen? コンテ...ヘアシェン 3 単過・可能(können+不定詞)

v.i 支配できていた

「動詞句」

der König テア・ケーニヒ n.m 王様は

「主語」

wohl ヲォール adv. いったい

「副詞」

「陛下」と、彼は王様に言った。「お願い致します。質問することをお許し願います...」

»Herr«, sagte er zu ihm... »ich bitte, verzeiht mir, dass ich Euch frage...«

《「呼びかけ」》, 「動詞」「主語」「間接目的語」,

《「主語」「動詞」, 「動詞」「間接目的語」「直接目的語」》

»Herr«, ハー n.m 陛下

「呼びかけ」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

er エア pron 彼は

「主語」

zu ihm... ツー・イム adv. 彼に

「間接目的語」

»ich イヒ pron 僕は

「主語」

bitte, ビッテ 1 単現(bitten)v.t 願う、頼む

「動詞」

verzeiht フェアツァイト 命・2 複現(verzeihen)v.t 許してください

「動詞」

mir, ミア pron 私を

「間接目的語」

dass ダス conj. ~ということ

「直接目的語」

ich イヒ pron 私が

「主語」

X

Euch オヒ pron. (2 人称敬称) 3 格 あなたに 「間接目的語」
 frage...« フラーゲ 1 単現(fragen)v.t 尋ねる 「動詞」

「君に質問するように命じる」と、王様は急いで言った。

»Ich befehle dir, mich zu fragen«, beeilte sich der König zu sagen.

《「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」》, 「動詞句」「主語」「動詞句」

»Ich イヒ pron わしは 「主語」
 befehle ベフェーレ 1 単現(befehlen)v.t 命ずる 「動詞」
 dir, ディア pron 君に 「間接目的語」
 mich zu fragen«, ミヒ・ツ・フラーゲン zu 不定句.n わしに質問することを 「直接目的語」
 beeilte sich ...zu sagen. ベアイルテ・スィヒ...ツ・ザーゲン 3 単過・至急(sich-4 beeilen +zu 不定詞)
 v.t 急いで言った 「動詞句」
 der König テア・ケーニヒ n.m 王様は 「主語」

「陛下... あなたは何を支配しているのですか？」

»Herr... worüber herrscht Ihr?« 《「呼びかけ」, 「間接目的語」「動詞」「主語」》
 »Herr... ハア n.m 陛下 「呼びかけ」
 worüber ヴォルユバー adv. 何について 「間接目的語」
 herrscht ハシュト 3 単現(herrschen)v.i 支配している 「動詞」
 Ihr?« イア pron (2 人称敬称) あなたは 「主語」

「すべてじゃよ」と、王様はまったく明快地答えた。

»Über alles«, antwortete der König mit großer Einfachheit.

《「間接目的語」》, 「動詞」「主語」「副詞句」

»Über ユーバー prep (関連) 〜に関して 「間接目的語」
 alles«, pron すべてのもの 「目的語」
 antwortete アントヴァアテ 3 単過(antworten)v.i 答えた 「動詞」
 der König テア・ケーニヒ n.m 王様は 「主語」
 mit ミット prep (随伴状況を示して) 〜を伴って 「副詞句」
 großer Einfachheit. グローサー・インファッハイト n.f 大変な明快さ 「目的語」

「すべてを？」

»Über alles?« 《「間接目的語」》
 »Über alles?« ユーバー・アレス adv. すべてを? 「間接目的語」

X

王様は、意味ありげな身ぶりで、自分の惑星やその他の惑星と星たちを指さした。

Der König wies mit einer bedeutsamen Gebärde auf seinen Planeten, auf die anderen Planeten und auf die Sterne. 「主語」「動詞」「副詞句」「間接目的語」

Der König デア・ケーニヒ n.m 王様は 「主語」

wies ヴィース 3 単過(weissen)v.i (方向を示す語句と) (auf を) 指し示した 「動詞」

mit einer bedeutsamen Gebärde ミット・アイナー・ベト・イトザーメン・ゲベアデ

adv. (様態) 意味ありげな身ぶりで 「副詞句」

auf seinen Planeten, アウフ・ザイネン・プランネテン adv. 自分の惑星を 「間接目的語」

seinen ザイネン adj.m.4 格 彼の Planeten プランネテン n.m.4 格 惑星

auf die anderen Planeten アウフ・デー・アンデレン・プランネテン adv. その他の惑星を 「間接目的語」

die anderen デー・アンデレン adj.m.pl.4 格 その他の Planeten プランネテン pl.n.m.4 格 惑星達

und ウント conj. そして

auf die Sterne. アウフ・デー・シュテルネ adv. 星たちを 「間接目的語」

die Sterne デー・シュテルネ pl.n.m.(Stern) 星たち

「あれらをすべてを？」と、王子様が言った。

»Über all das?« sagte der kleine Prinz. 《「間接目的語」》, 「動詞」「主語」

»Über all das?« ユーバー・アル・ダス adv. あれらをすべてを? 「間接目的語」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」

der kleine Prinz. デア・クライン・プリンツ n.m 王子さまは 「主語」

「あれらをすべてじゃ？」と、王様が答えた。

»Über all das...«, antwortete der König. 《「間接目的語」》, 「動詞」「主語」

»Über all das...«, ユーバー・アル・ダス adv. あれらをすべてじゃ? 「間接目的語」

antwortete アントヴァアテテ 3 単過(antworten)v.t 答えた 「動詞」

der König. デア・ケーニヒ n.m 王様は 「主語」

なぜなら、彼は絶対君主だただけではなく、普遍的な君主でもあったのだ。

Denn er war nicht nur ein absoluter Monarch, sondern ein universeller.

Denn 「主語」「動詞」「補語」

Denn デン conj. なぜなら

er エ pron 彼は 「主語」

war ヴァール 3 単過(sein)v.i ~ だった 「動詞」

nicht nur ニヒト・ヌア adv. ただ～だけではなく 「副詞句」

ein absoluter Monarch, アイン・アプゾルテール・モナーヒ n.m 絶対君主 「補語」

sondern ゾンダーン adv. ～も 「副詞句」

X

ein universeller. アイン・ウニヴァーセル n.m 普遍的な君主

「補語」

「それで、星たちはあなたに従っているのですか？」

»Und die Sterne gehorchen Euch?«

《Und 「主語」「動詞」「間接目的語」》

»Und ウント conj. それで

die Sterne デー・シュテルネ pl.n.m(Stern) 星たちは

「主語」

gehören ゲホルヘン 3 複現 v.i(j-3 に) 従う

「動詞」

Euch?« オイ pron. (敬称) 3 格 あなたに

「間接目的語」

「もちろん」と、王様は言った。「彼らはわしの言葉に従う。わしは不服従を許さない」

»Gewiß«, sagte der König. »sie gehorchen aufs Wort. Ich dulde keinen Ungehorsam.«

《「応答」》, 「動詞」「主語」, 《「主語」「動詞」「間接目的語」 | 「主語」「動詞」「目的語」》

»Gewiß«, ゲウイス adj. 確実な、その通りだ

「応答」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

der König. デア・ケーニヒ n.m 王様は

「主語」

»sie ジー pron.pl 彼らは

「主語」

gehören ゲホルヘン 3 複現 v.i(j-3 に) 従う

「動詞」

aufs Wort. アウス・ヴォート adv. わしの言葉に

「間接目的語」

Ich イヒ pron わしは

「主語」

dulde ドゥルデ 1 単現(dulden)v.t 許す

「動詞」

keinen Ungehorsam.« カイン・ウンゲホーザム n.m どんな不服従も〜ない

「目的語」

王子さまはそれほどの権力に対してとても驚いた。

Solche Macht verwunderte den kleinen Prinzen sehr.

「主語」「動詞」「目的語」「副詞」

Solche Macht ザルヒエ・マハト n.f.1 格 そのような権力は

「主語」

verwunderte フェアウンテアテ 3 単過(verwundern)v.t 驚かせた

「動詞」

den kleinen Prinzen デン・クライネン・プリンツ n.m.4 格 王子様を

「目的語」

sehr. セーア adv. とても

「副詞」

無生物主語なので、王子様を主語として翻訳する

X

もしも王子様自身がそんな権力を持っていたなら、同じ日のうちに、43 回といわず、72 回、いやそれどころか、100 回や 200 回さえも、椅子を動かす必要もなく、日の入りを見ることができただろうに。

Wenn er sie selbst gehabt hätte, wäre es ihm möglich gewesen, nicht dreiundvierzig, sondern zweiundsiebzig oder sogar hundert oder selbst zweihundert Sonnenuntergängen an ein und demselben Tage beizuwohnen, ohne dass er seinen Sessel hätte rücken müssen.

「副詞節」, 「動詞句」 「間接目的語」 「補語」 「動詞句」, 「主語」

Wenn ウェン conj. (仮定・接続法) 仮に～ならば 「副詞節」

er エア pron 彼が 「主語」

sie シー pron (Macht の代用) それを 「目的語」

selbst ゼルプスト pron 自分自身が 「主語」

gehabt hätte, ゲハプト・ハッテ 接 II・3 単現・完了形(haben)

v.t 持っていた (とする) 「動詞句」

wäre ...gewesen, ヴェレ...ゲヴェゼン 接 II・3 単現・完了形・状態の変化・推量(sein)

v.i ～になっていたろう 「動詞句」

es エス pron 仮の主語 (真の主語は nicht dreiundvierzig 以降)

ihm イム pron 彼にとって 「間接目的語」

möglich メクリヒ adj. 可能な 「補語」

zu 不定句 n. ～することが 「主語」

nicht dreiundvierzig, ニヒト・ドライ・ウント・フィアツヒ adv. 43 回ではなく 「副詞句」

sondern ザンダーン adv. ～も 「副詞句」

zweiundsiebzig ツヴァイ・ウント・ジーブ ツヒ adv. 72 回 「副詞」

oder オダー conj. または

sogar オダー・ゾーガー adv. それどころか～さえも 「副詞句」

hundert フンダート adv. 100 回 「副詞」

oder オダー conj. または

selbst ゼルプスト adv. ～さえ 「副詞句」

zweihundert ツヴァイフンダート adv. 200 回 「副詞」

Sonnenuntergängen ザネウンターゲンゲン pl.n.m.4 格 日の入りを 「目的語」

an ein und demselben Tage アン・アイン・ウント・デーメルベン・ターゲ

adv. 同じ日のうちに 「副詞句」

beizuwohnen, バイ・ツァー・ワオーネン zu 不定詞 v.i 立ち会う 「動詞句」

ohne オーネ prep ～なしで 「副詞句」

dass ダス conj. ～ということ 「目的語」

er エア pron 彼が 「主語」

X

seinen Sessel ザ・イン・ゼッセル n.m.4 格 椅子を 「目的語」
 hätte rücken müssen. ハッテ・リュッケン・ミュッセン 接 II・3 単現・完了形・推量(müssen+不定詞)
 v.t 動かさなければならなかった 「動詞句」

そして、小さい見捨てられた彼の惑星のことを思い出して、少し悲しくなり、彼は自分の気持ちを述べて、王様に力添えを頼んだ。

Und da er sich in der Erinnerung an seinen kleinen verlassenen Planeten ein bißchen traurig fühlte, faßte er sich ein Herz und bat den König um eine Gnade:

Und 「副詞節」, 「動詞句」 「主語」 「動詞句」 「目的語」
 und 「動詞」 「直接目的語」 「間接目的語」

Und ウント conj. そして
 da ダー conj. ～なので 「副詞節」
 er エア pron 彼は 「主語」
 sich ...fühlte, スィット...フュールテ 3 単過(sich-4 fühlen)
 v.pr 自分を～だと感じた 「動詞句」
 in der Erinnerung イン・デア・エアイレニング
 adv. (起因) ～の思い出によって、～を思い出して 「副詞句」
 an アン adv. (関連) ～に関する 「副詞句」
 seinen kleinen verlassenen ザ・イン・クライン・フェアラッセン
 adj.m.4 格 彼の小さな見捨てられた 「形容詞句」
 Planeten プラネテン n.m.4 格 惑星を 「目的語」
 ein bißchen traurig アイン・ビッスヒェン・トラウリヒ adj.m.1 格 少し悲しい 「補語」
 faßte ...sich ファステ...スィット 3 単過(sich-4 fassen)v.pr 考えを述べた 「動詞句」
 er エア pron 彼は 「主語」
 ein Herz アイン・ヘアツ n.n 気持ちを 「目的語」
 und ウント conj. そして
 bat ハート 3 単過(bitten)v.t (j-4 um et-4) (人-4 に何-4 を) 頼んだ 「動詞」
 den König デン・ケーニヒ n.m 王様に 「直接目的語」
 um eine Gnade: ウム・アイネ・グナーデ adv. 慈悲を 「間接目的語」

「僕は、日の入りを見たいのですが... 僕を喜ばせてください... 太陽に沈むように命令してください...」

»Ich möchte einen Sonnenuntergang sehen... Machen Sie mir die Freude... Befehlen Sie der Sonne unterzugehen...«

《「主語」 「動詞句」 「目的語」 「動詞句」

「動詞」 「主語」 「間接目的語」 「直接目的語」 | 「動詞」 「主語」 「目的語」》

X

»Ich	イチ	pron	僕は	「主語」
möchte ...sehen...	メテ...セーエン	1 単現・願望(möchte+不定詞)v.t	見たいのですが	「動詞句」
einen Sonnenuntergang	アイネン・ゾネウンターガンク	n.m.4 格	日の入りを	「目的語」
Machen	マヘン	命・3 複現・依頼 v.t(j-3 et-4)	(人-3 に何-4 を) 与えてください	「動詞」
Sie	ジー	pron	あなたは	「主語」
mir	ミーア	pron.3 格	私に	「間接目的語」
die Freude...	デーイー・フロイデ	n.f.4 格	喜びを	「直接目的語」
Befehlen	ベフェレン	命・3 複現・依頼 v.t	～を命じてください	「動詞」
Sie	ジー	pron	あなたは	「主語」
zu	不定句	～することを		「目的語」
der Sonne	デア・ゾネ	デア・ゾネ	n.m.1 格 太陽が	「主語」
unterzugehen...	«	ウンター・ツァー・ゲーエン	zu 不定詞 v.i	沈む
				「動詞句」

「もし将軍に、蝶のように花から花へ飛ぶようにと命令したり、なにか悲劇を書くようにと命令したり、海鳥に変身するように命令したときに、もしもその将軍が命令に従わなかったならば、誰が間違っているのだろうか？その将軍だろうか、それともわしだろうか？」

»Wenn ich einem General geböte, nach der Art der Schmetterlinge von einer Blume zu andern zu fliegen oder eine Tragödie zu schreiben oder sich in einen Seevogel zu verwandeln, und wenn dieser General den erhaltenen Befehl nicht ausführte, wer wäre im Unrecht, er oder ich?«

《「副詞節」, und 「副詞節」, 「主語」「動詞」「補語」, 「問いかけ」》

»Wenn	ヴァン	conj.	もしも～ならば	「副詞節」
ich	イチ	pron	わしが	「主語」
einem General	アイネム・ゲネラル	n.m.3 格	将軍に	「間接目的語」
geböte,	ゲベーテ	接 II・1 単現・假定(gebieten)v.t	命ずる	「動詞」
zu	不定句	n. ～するということを		「直接目的語」
nach der Art	ナーハ・デア・アルト	adv. (類似)	～のように	「副詞句」
der Schmetterlinge	デア・シュメッターリンケ	pl.n.m.2 格	蝶の	「形容詞句」
von einer Blume zu andern	フォン・アイナー・ブルーメ・ツァー・アンダーン	adv.	花から花へ	「副詞句」
zu fliegen	ツァー・フリーゲン	zu 不定詞 v.i	飛ぶ	「動詞句」
oder	オダー	conj.	または	
zu	不定句	n. ～するということを		「直接目的語」
eine Tragödie	アイネ・トラゲーデー	n.f.4 格	悲劇を	「目的語」
zu schreiben	ツァー・シュライベン	zu 不定詞 v.t	書く	「動詞句」

X

oder オーダー conj. または	
zu 不定句 n. ～するということを	「直接目的語」
sich ...zu verwandeln, ズィツヒ...ツァー・フェアヴァンデルン zu 不定詞	
v.pr 変身する	「動詞句」
in einen Seevogel イン・アイネン・ゼー・フォーゲル adv. 海鳥に	「間接目的語」
und ウント conj. そして	
wenn ウェン conj. もしも～ならば	「副詞節」
dieser General ディーザー・ゲネラル n.m.1 格 この将軍が	「主語」
den erhaltenen Befehl デン・エアハルテネン・ベフェール	
n.m.4 格 受け取った命令を	「目的語」
erhaltenen エアハルテネ 過去分詞(erhalten)adj.m.4 格 受け取った	
nicht ausführte, ニヒト・アウスフューテ 3 単過・否定(ausführen)	
v.t 実行しなかった	「動詞句」
wer ウェア pron 誰が	「主語」
wäre ウェレ 接 II・3 単現・推測(sein)v.i ～であろうか	「動詞」
im Unrecht, イム・ウンレヒト adv. 間違った	「補語」
er oder ich?« エア・オーダー・イツヒ n. 将軍だろうか、それともわしだろうか?	「問いかけ」

「それはあなたでしょうね」と、王子さまはきっぱり言った。

»Sie wären es«, sagte der kleine Prinz überzeugt.

《「主語」「動詞」「補語」》, 「動詞」「主語」「副詞」

»Sie シー pron あなたが	「主語」
wären ウェレン 接 II・3 複現・推測(sein)v.i ～だろう	「動詞」
es«, エス adj. (unrecht の代用) 間違った	「補語」
sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
der kleine Prinz デア・クライン・プリンツェン n.m 王子さまは	「主語」
überzeugt. ユーバーツォイクト adv. 確信して、はっきりと	「副詞」

「その通り。人は誰でも、自分が成し遂げられることを要求しなければならないのだ」

»Richtig. Man muß von jedem fordern, was er leisten kann«, antwortete der König.

《「応答」 | 「主語」「動詞句」「副詞句」「目的語」》, 「動詞」「主語」

»Richtig. リヒチ adj. その通り、正しい	「応答」
Man マン pron 人は	「主語」
muß ...fordern, ムス...フォアダーン 3 単現・必要(müssen+不定詞)	
v.t 要求しなければならない	「動詞句」
von jedem フォン・イエデム adv. それぞれ	「副詞句」

X

was ヲアス pron	～することを	「目的語」
er エア pron	自分が、彼が	「主語」
leisten kann	«, ライステン・カン 3 単現・可能(können+不定詞)	
v.t	成し遂げられる	「動詞句」
antwortete	アントウ・ォアテテ 3 単過(antworten)v.i	「動詞」
der König.	デア・ケーニヒ n.m	「主語」
	王様は	

「権威というものは、何よりも道理に基づいている」

»Die Autorität beruht vor allem auf der Vernunft.

《「主語」「動詞」「副詞句」「間接目的語」》

»Die Autorität	デー・アウトリテート n.f	権威は	「主語」
beruht	ベルト 3 単現(beruhen)v.i	(auf et-3 何-3 に) 基づく、よる	「動詞」
vor allem	フォア・アルム adv.	(優位) 何よりも、とりわけ	「副詞句」
auf	アフ prep	～の上に	「間接目的語」
der Vernunft.	デア・フェアヌフト n.f.3 格	道理に	「目的語」

もし君が、国民に行進して海に身を投げるように命令したら、革命が起こるだろう。

Wenn du deinem Volke befehlst, zu marschieren und sich ins Meer zu stürzen, wird es revoltieren.

「副詞節」, 「動詞句」

Wenn	ヴェン conj.	(条件) もし～ならば	「副詞節」
du	トゥー pron	君が	「主語」
deinem Volke	ダイネム・フォルケ n.n(Volk).3 格	国民に	「間接目的語」
befiehlt,	ベフィールスト 2 単現(befehlen)v.t	命ずる	「動詞」
zu	不定詞 n.	～することを	「直接目的語」
zu marschieren	ツァー・マルシーレン zu 不定詞 v.i	行進する	「動詞句」
und	ウント conj.	そして	
sich ...zu stürzen,	スィットヒ...ツァー・シュトルツェン zu 不定詞		
v.pr		身を投げる	「動詞句」
ins Meer	インス・メア adv.	海の中に	「副詞句」
wird es revoltieren.	ウィルト・エス・レウ・オルチャーレン 3 単未・非人称・推量(werden+不定詞)		
v.h		革命が起こるだろう	「動詞句」

「わしの命令は理にかなっているから、わしには、服従を要求する権利があるのじゃ」

Ich habe das Recht, Gehorsam zu fordern, weil meine Befehl vernünftig sind.«

《「主語」「動詞」「目的語」「副詞節」》

Ich	イット pron	わしは	「主語」
-----	----------	-----	------

X

habe ハーベ 1 単現(haben)v.t ある	「動詞」
das Recht, ダス・レヒト n.n.4 格 権利	「目的語」
zu 不定句 adj. (同格) ～という	「形容詞句」
Gehorsam ゲホアザーム n.m.4 格 服従を	「目的語」
zu fordern, ツー・フォアダーン zu 不定詞 v.t 要求する	「動詞句」
weil ウェイル conj. (理由) ～なので	「副詞節」
meine Befehl メイネ・ベフェール pl.n.m.1 格 わしの命令は	「主語」
Befehle ベフェーレ pl.n.m.(Befehl) 命令、指図	
vernünftig フェアニュンフティヒ adj. 合理的な、分別のある	「補語」
sind.« ジント 3 複現(sein)v.i ～である	「動詞」

「それじゃあ、僕の日の上りについてはどうなるの？」と、王子さまは催促した。彼は、いったん質問すると、それを決して忘れなかった。

»Was ist also mit meinem Sonnenuntergang?« erinnerte der kleine Prinz, der niemals eine Frage vergaß, wenn er sie einmal gestellt hatte.

《「主語」「動詞」「副詞」「間接目的語」》,	
「動詞」「主語」, 「主語」「動詞句」「目的語」「副詞節」	
»Was ウェアス pron どのようなこと	「主語」
ist イスト 3 単現(sein)v.i ～である	「動詞」
also アルゾー adv. それでは	「副詞」
mit meinem Sonnenuntergang?« ミット・マイネム・ツネンウンターガンク	
adv. (関連) 僕の日の上りについては	「間接目的語」
erinnerte エイネアテ 3 単過(erinnern)v.t 催促した	「動詞」
der kleine Prinz, デア・クライネ・プリンツ n.m 王子さまは	「主語」
der デア pron 彼は	「主語」
niemals ...vergaß, ニーマールス...フェアガース 3 単過・否定(vergessen)	
v.t 決して忘れなかった	「動詞句」
eine Frage アイネ・フラーゲ n.f 質問を	「目的語」
wenn ウェン conj. ～するとき	「副詞節」
er エア pron 彼が	「主語」
sie シー pron.f (Frage の代用) 質問を	「目的語」
einmal アインマル adv. 一度	「副詞」
gestellt hatte. ゲシュテルト・ハッテ 3 単過・完了形(stellen)v.t (質問を) した	「動詞句」

X

「君は、日の入りを見ることができるだろう。わしはそうに言いつけておく。しかし、わしの統治の教訓によって、条件が好都合になるまで待つことにする」

»Deinen Sonnenuntergang wirst du haben. Ich werde ihn befehlen. Aber in meiner Herrscherweisheit werde ich warten, bis die Bedingungen dafür günstig sind.«

《「目的語」「動詞句」「主語」「動詞句」 | 「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」

Aber 「副詞句」「動詞句」「主語」「動詞句」「副詞節」》

»Deinen Sonnenuntergang ダイネン・ゾネンウンターガンク n.m.4 格 君の日の入りを 「目的語」
wirst ...haben. ヴァイルスト...ハーベン 2 単未(werden+不定詞)

v.t 見ることができるだろう 「動詞句」

du トゥー pron 君は 「主語」

Ich イヒ pron わしは 「主語」

werde ...befehlen. ヴェアデ...ベフェレン 1 単現・意志(werden)

v.t きつと言いつけておく 「動詞句」

ihn イン pron そのことを 「目的語」

Aber アーバー conj. しかし

in meiner Herrscherweisheit イン・マイナー・ヘアシャー・ヴァイスハイト

adv. (理由) わしの統治の教訓によって 「副詞句」

werde ...warten, ヴェアデ...ヴァルテン 1 単現・意志(werden+不定詞)

v.i 待つことにする 「動詞句」

ich イヒ pron わしは 「主語」

bis ビス conj. (時間的) ~するまで 「副詞節」

die Bedingungen ディー・ベデイングンゲン pl.n.f(Bedingung).1 格 条件が 「主語」

dafür ダフューアー adv. (日の入り) ~のために 「副詞」

günstig ギュンステヒ adj. 好都合の 「補語」

sind.« ジント 3 複現(sein)v.i ~である 「動詞」

「それはいつになるのですか？」と、王子さまは問いただした。

»Wann wird das sein?« erkundigte sich der kleine Prinz.

《「副詞」「動詞句」「主語」「動詞句」》, 「動詞句」「主語」

»Wann ヴァン adv. いつに 「副詞」

wird ...sein?« ヴァルト...ザイン 3 単未(werden+不定詞)v.i ~になるだろうか? 「動詞句」

das ダス pron それは 「主語」

erkundigte sich エクンディクテ・スィヒ 3 単過(sich+4 erkundigen)

v.pr 問いただした 「動詞句」

der kleine Prinz. デア・クライン・プリンツ n.m 王子さまは 「主語」

X

問いただし：

不明な点を質問する。多くの場合、厳しく追及する意味合いを含む。「問い質す」とも書く。

「えへん、えへん」と、王様はまず大きなカレンダーを詳しく調べてから言った。「えーと、それは、およそ... およそ...、それは今晚 7 時 40 分頃じゃ。その時、人がどれほどわしの命令に服従するかが、分かるだろう」

»Hm, hm!« antwortete der König, der zunächst einen großen Kalender studierte. »hm, hm! Das wird sein gegen... gegen... das wird heute abend gegen sieben Uhr vierzig sein! Und du wirst sehen, wie man mir gehorcht.«

《「間投」》, 「動詞」「主語」「副詞節」, 《「間投」 | 「主語」「動詞句」「副詞句」

「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」 | Und 「主語」「動詞句」「目的語」》

»Hm, hm!« フム・フム int. えへん、えへん 「間投」
antwortete アントヴァアテ 3 単過(antworten)v.i 答えた 「動詞」
der König, デア・ケーニヒ n.m 王様は 「主語」
der デア pron (挿入節) 彼は～をして 「副詞節」
zunächst ツネヒスト adv. まず、最初に 「副詞」
einen großen Kalender アイネン・グロセン・カレンダー
n.m.4 格 大きなカレンダーを 「目的語」
studierte, スツティアテ 3 単過(studieren)v.t 詳しく調べた 「動詞」
»hm, hm! フム・フム int. えーと 「間投」
Das ダス pron それは 「主語」
wird sein ヴァルト・ザイン 3 単末(werden+不定詞)v.i ～になるだろう 「動詞句」
gegen... gegen... ケーゲン・ケーゲン adv. およそ... およそ... 「副詞句」
das ダス pron それは 「主語」
wird ...sein! ヴァルト...ザイン 3 単末(werden+不定詞)v.i ～になるだろう 「動詞句」
heute abend ホテ・アーベント adv. 今晚 「副詞句」
gegen sieben Uhr vierzig ケーゲン・シーベン・ウーア・フィアツヒ adv. およそ 7 時 40 分 「副詞句」
Und ウント conj. そして
du トゥー pron 君は 「主語」
wirst sehen, ヴァイルスト・ゼーエン 2 単末(werden+不定詞)v.t 分かるだろう 「動詞句」
wie ヴァー adv. どれほど～ということ 「目的語」
man マン pron 人が 「主語」
mir ミー pron わしに 「間接目的語」
gehört.« ケアヒト 3 単現(gehören)v.i (j-3 人に) 従う、服従する 「動詞」

問いただし：

X

王子さまはあくびをした。日の入りを見損ない、悔やんでいた。すでに少し退屈していた。

Der kleine Prinz gähnte. Es tat ihm leid um den versäumten Sonnenuntergang. Er langweilte sich schon ein bißchen.

「主語」「動詞」 | 「主語」「動詞」「間接目的語」「補語」「副詞句」

「主語」「動詞句」「副詞句」

Der kleine Prinz デア・クライネ・プリンツ n.m 王子さまは 「主語」

gähnte. ゲーnte 3 単過(gähnen)v.i あくびをした 「動詞」

Es エス pron それは 「主語」

tat タート 3 単過(tun)v.t ～した 「動詞」

ihm イム pron 彼を 「間接目的語」

leid ライト adj. 悔やまれる 「補語」

um ウム prep (原因) (喪失の対象を示して) ～を失って 「副詞句」

den versäumten Sonnenuntergang. デン・フェアツ・イムテン・ゾネンウンターガンク

n.m.4 格 見損なった日の入り 「目的語」

versäumten フェアツ・イムテン 過去分詞(versäumen)adj.m.4 格 逃した

Er エア pron 彼は 「主語」

langweilte sich ラングヴァイルテ・スイヒ 3 単過(sich langweilen)v.pr 退屈していた 「動詞句」

schon ein bißchen. ショーン・アイン・ビスシェン adv. すでに少し 「副詞句」

「ここにはもう何もすることがありません」と、彼は王様に言った。「また出発します」

»Ich habe hier nichts mehr zu tun«, sagte er zum König. »Ich werde wieder abreisen!«

《「主語」「動詞」「副詞」「目的語」》, 「動詞」「主語」「間接目的語」,

《「主語」「動詞句」「副詞」「動詞句」》

»Ich イヒ pron 僕は 「主語」

habe ハーベ 1 単現(haben)v.t ～がある 「動詞」

hier ヒア adv. ここでは 「副詞」

nichts mehr zu tun«, ニヒツ・メア・ツウ・トゥン

pron・否定 すべきことはもう何も～ない 「目的語」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」

er エア pron 彼は 「主語」

zum König. ツーム・ケーニヒ adv. 王様に 「間接目的語」

»Ich イヒ pron 僕は 「主語」

werde ...abreisen!« ウェアデ ...アッブ・ライゼン 1 単未・意思(werden+不定詞)

v.i 出発しようと思う 「動詞句」

wieder ヴァイダー adv. また 「副詞」

X

「出発してはいけない！」と、家臣ができて誇らしげな王様が言った。「君を大臣にしよう！」

»Reise nicht ab«, antwortete der König, der so stolz war, einen Untertanen zu haben, »ich mache dich zum Minister!«

《「動詞句」》, 「動詞」「主語」, 「副詞節」, 《「主語」「動詞」「目的語」「補語」》

»Reise nicht ab«, ライゼ・ニヒト・アッパ 命・2 単現(ab|reisen)v.i 出発するな！ 「動詞句」

antwortete アントワ・リテ 3 単過(antworten)v.i 答えた 「動詞」

der König, デア・ケーニヒ n.m 王様が 「主語」

der デア pron (挿入節) 彼は～だった 「副詞節」

so stolz ソー・ショトルツ adj. とても誇らしげな 「補語」

war, ヴァール 3 単過(sein)v.i ～ だった 「動詞」

zu 不定句 adv. (理由) ～することで 「副詞句」

einen Untertanen アイネ・ウンターターネ n.m.4 格 家臣を 「目的語」

zu haben, ツー・ハベン zu 不定詞 v.t 持つ 「動詞」

»ich イヒ pron わしは 「主語」

mache マ 1 単現(machen)v.t ～にする 「動詞」

dich ディイヒ pron 君を 「目的語」

zum Minister!« ツム・ミンスター adv. 大臣に 「補語」

「何の大臣に？」

»Zu was für einem Minister?« 《「副詞句」》

»Zu was für einem Minister?« ツー・ヴァス・フューア・アイネム・ミンスター

adv. 何のための大臣に？ 「副詞句」

「えー... 法務大臣に」

»Zum... zum Justizminister!« 《「副詞句」》

»Zum... zum Justizminister!« ツム・ジュスティツ・ミンスター adv. えー... 法務大臣に 「副詞句」

「でも、ここには裁判にかけるような人は誰もいませんよ」

»Aber es ist niemand da, über den man richten könnte!«

《Aber 「動詞」「主語」「副詞」「間接目的語」》

»Aber アーバー conj. でも

es エス pron 非人称

ist イスト 3 単現・存在(sein)v.i ～がいる 「動詞」

niemand ニーマント pron 誰も～ない 「主語」

da, ダー adv. ここには 「副詞」

über den ユーバー・デッ adv. その人に対して 「間接目的語」

X

man マン pron 人が 「主語」

richten könnte!« リヒテン・ケンテ 接 II・3 単現・可能・推量(können+不定詞 richten)

v.i(über j-4 人-4 について) 判断を下すことができる 「動詞句」

「それは分からない」と、王様は言った。「わしはまだ王国を一回りしたことがないのじゃ。
もう高齢だし、車を置く場所もないし、歩くのは疲れる」

»Das weiß man nicht«, sagte der König. »Ich habe die Runde um mein Königreich noch nicht gemacht. Ich bin sehr alt, ich habe keine Platz für einen Wagen und das Gehen macht mich müde.«

《「目的語」「動詞句」「主語」「動詞句」》, 「動詞」「主語」,

《「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」「動詞句」

「主語」「動詞」「補語」, 「主語」「動詞」「目的語」 und 「主語」「動詞」「目的語」「補語」》

»Das ダス pron それを 「目的語」

weiß ...nicht«, ヱァイス...ニヒト 3 単現・否定(wissen)v.t 分からない 「動詞句」

man マン pron 人は 「主語」

sagte サークテ 3 単現(sagen)v.t 言った 「動詞」

der König. デア・ケーニヒ n.m 王様は 「主語」

»Ich イヒ pron わしは 「主語」

habe ...noch nicht gemacht. ハーベ ...ノッホ・ニヒト・ゲマハト 1 単現・完了形・否定(machen)

v.t まだ～をしていない 「動詞句」

die Runde ディー・ルンデ n.f 一回り 「目的語」

um mein Königreich ウム・マイン・ケーニクラヒ adv. わが王国を 「副詞句」

Ich イヒ pron わしは 「主語」

bin ビン 1 単現(sein)v.i ～である 「動詞」

sehr alt, ゼーア・アルト adj. とても高齢の 「補語」

ich イヒ pron わしは 「主語」

habe ハーベ 1 単現(haben)v.t ある 「動詞」

keine Platz カイネ・プラッツ n.m 場所が～ない 「目的語」

für einen Wagen フェア・アイネン・ヴァーゲン adj. 車のための 「形容詞句」

und ウント conj. そして

das Gehen ダス・ゲーエン n.n 歩くことは 「主語」

macht マハト 3 単現(machen)v.t ～にする 「動詞」

mich ミヒ pron わしを 「目的語」

müde.« ミューデ adj. 疲れた 「補語」

X

「おお！さっき、見たんですけど」と、王子さまは身をかがめて惑星の反対側に目をやって言った。「あちら側にも、誰もいませんよ...」

»Oh! Aber ich habe schon gesehen«, sagte der kleine Prinz, der sich bückte, um einen Blick auf die andere Seite des Planeten zu werfen, »es ist auch dort drüben niemand...«

《「感嘆」 | Aber「主語」「動詞句」「副詞」「動詞句」》, 「動詞」「主語」,
《「動詞」「副詞句」「主語」》

»Oh! オー int. おお 「感嘆」

Aber アーバー conj. しかし

ich イヒ pron 僕は 「主語」

habe ...gesehen, ハーベ...ゲゼーエン 1 単現・完了形(sehen)v.t 見た 「動詞句」

schon ショーン adv. すでに、先刻、さっき 「副詞」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」

der kleine Prinz, デア・クライン・プリンツ n.m 王子さまは 「主語」

der デア pron (主語) ～する 「形容詞節」

sich bückte, スィヒヒ・ヒュクテ 3 単過(sich-4 bücken)

v.pr 身をかがめた 「動詞句」

zu 不定句 adv. (継続) そして～した 「副詞句」

um einen Blick ウム・アイネン・ブリック adv. 一瞥を 「間接目的語」

auf die andere Seite アウフ・デーイー・アンデレ・ザイテ

adv. 反対側に 「副詞句」

des Planeten デス・プラネーテン adj. 惑星の 「形容詞句」

zu werfen, ツー・ヴェアフェン zu 不定詞 v.i 投げた 「動詞句」

»es エス pron 非人称

ist イスト 3 単現(sein)v.i ～がいる 「動詞」

auch dort drüben アウフ・ドアト・ドリュエベン adv. あちら側にも 「副詞句」

niemand...« ニーマント pron 誰も～ない 「主語」

「それなら、君は自分自身を裁いたら良いだろう」と、王様は彼に答えた。「それは一番難しいことだ。自分自身を裁くことは、他人を裁くことよりずっと難しいのだ。もし君が、自分自身をしっかりと裁くことが出来たら、君は本当の賢者だということだ」

»Du wirst also über dich selbst richten«, antwortete ihm der König. »Das ist das Schwerste. Es ist viel schwerer, sich selbst zu verurteilen, als über andere zu richten. Wenn es dir gelingt, über dich selbst gut zu Gericht zu sitzen, dann bist du ein wirklicher Weiser.« 《「主語」「動詞句」「副詞」「目的語」「動詞句」》, 「動詞」「間接目的語」「主語」,

《「主語」「動詞」「補語」 | 「動詞」「補語」「主語」「副詞句」

「副詞節」, 「副詞」「動詞」「主語」「補語」》

X

»Du トゥー pron 君は	「主語」
wirst ...richten«, ヴィルスト...リヒテン 2 単未・妥当(werden+不定詞 richten)	
v.i(über について) 裁けば良いだろう	「動詞句」
also アルゾー adv. それなら	「副詞」
über dich selbst ユーバー・ディヒ・ゼルフ ^ス adv. 自分自身について	「間接目的語」
antwortete アントヴ ^テ オアテテ 3 単過(antworten)v.i 答えた	「動詞」
ihm イム pron.3 格 彼に	「間接目的語」
der König. デア・ケーニヒ n.m 王様は	「主語」
»Das ダス pron それは	「主語」
ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である	「動詞」
das Schwerste. ダス・シュヴァーステ n.n.1 格(schwer の中性名詞化) 一番難しいこと	「補語」
Es エス pron 仮の主語 (真の主語は sich selbst zu verurteilen)	
ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である	「動詞」
viel schwerer, フィール・シュヴァーラー adj. (schwer 比較級) ずっと難しい	「補語」
zu 不定句 n. ~することは	「主語」
sich ...zu verurteilen, スィヒ...ツァー・フェアウルタイルン zu 不定詞(sich-4 verurteilen)	
v.pr 自分で裁く	「動詞句」
selbst ゼルフ ^ス pron 自分自身を	「目的語」
als アルス adv. (比較) ~よりも	「副詞句」
über andere zu richten. ユーバー・アンデレ・ツァー・リヒテン	
zu 不定句 n. 他人を裁くこと	「目的語」
Wenn ヴェン conj. もし~するなら	「副詞節」
es エス pron 仮の主語 (真の主語は über dich selbst gut zu Gericht zu sitzen)	
dir ディア pron.3 格 君にとって	「間接目的語」
gelingt, ゲリント 3 単現(gelingen)v.i 成功する	「動詞」
zu 不定句 ~することが	「主語」
über dich selbst ユーバー・ディヒ・ゼルフ ^ス adv. 君自身を	「間接目的語」
gut zu Gericht ゲート・ツァー・ゲリヒト adj. 裁判に対して良い	「補語」
zu sitzen, ツァー・ジッツェン zu 不定詞 v.i (うまく) はまっている	「動詞句」
dann ダン adv. その時は、そうすれば	「副詞」
bist ビスト 2 単現(sein)v.i ~である	「動詞」
du トゥー pron 君は	「主語」
ein wirklicher Weiser.« アイン・ヴィルクリヒャー・ヴァイザー n.m.1 格 本当の賢者	「補語」

X

「僕は」と、王子さまは言った。「僕は、どこにしようとも、自分自身を裁くことが出来ません。だから、ここに住む必要はありません」

»Ich«, sagte der kleine Prinz, »ich kann über mich richten, wo immer ich bin. Dazu brauche ich nicht hier zu wohnen.«

《「主語」》, 「動詞」「主語」,

《「主語」「動詞句」「間接目的語」「副詞節」 | 「副詞」「動詞句」「主語」「動詞句」》

»Ich«, イッヒ pron 僕は 「主語」
 sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 der kleine Prinz, デア・クライネ・プリンツ n.m 王子さまは 「主語」
 »ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 kann ...richten, カン...リヒテン 1 単現・可能(können+不定詞)v.i 裁ける 「動詞句」
 über mich ユーバー・ミッヒ adv. 自分自身について 「間接目的語」
 wo ヴォー adv. どこに～する 「副詞節」
 immer イマー adv. ～であろうとも 「副詞」
 ich イッヒ pron 僕が 「主語」
 bin. ビン 1 単現(sein)v.i (存在) ～にいる 「動詞」
 Dazu ダツァー adv. だから、それで 「副詞」
 brauche ...nicht hier zu wohnen.« ブラウヘ...ニヒト・ヒーア・ツァー・ヴォーネン 1 単現・必要・否定
 (brauchen+zu 不定句)v.t ここに住む必要はない 「動詞句」
 ich イッヒ pron 僕は 「主語」

「えへん、えへん」と、王様が言った。「わしの惑星のどこかに、年老いたネズミがいてわしは思っているのだが」

»Hm, hm!« sagte der König, »ich glaube, dass es auf meinem Planeten irgendwo eine alte Ratte gibt.«

《「間投」》, 「動詞」「主語」, 《「主語」「動詞」「目的語」》

»Hm, hm!« フム・フム adv. えへん、えへん 「間投」
 sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 der König, デア・ケーニッヒ n.m 王様が 「主語」
 »ich イッヒ pron わしは 「主語」
 glaube, グラウヘ 1 単現(glauben)v.t ～と思う 「動詞」
 dass ダス conj. ～とということを 「目的語」
 es ...gibt. エス...ギブト 3 単現・非人称(es geben et-4)v.t ～がいる 「動詞句」
 et-4 (j-4) は、意味上の主語だが、文法的には geben の目的語
 auf meinem Planeten アウフ・マイネム・プラネーテン adv. わしの惑星の上に 「副詞句」
 irgendwo イルゲントヴォー adv. どこかに 「副詞」
 eine alte Ratte アイン・アルテ・ラッテ n.f 年老いたネズミが 「目的語」

X

夜になると、そのネズミの音が聞こえるのじゃ。

Ich höre sie in der Nacht.

「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」

Ich イッ pron わしは

「主語」

höre ヘレ 1 単現・知覚動詞(hören)v.t(et-4 / j-4 ~の音が) 聞こえる

「動詞」

sie ジー pron.f (Ratte の代用) .4 格 そのネズミの音が

「目的語」

in der Nacht. イン・デア・ナハト adv. 夜に

「副詞句」

そのネズミの裁判官になってくれないかね？

Du könntest Richter über dies alte Ratte sein.

「主語」「動詞句」「補語」「動詞句」

Du ドゥ pron 君は

「主語」

könntest ...sein. ケンテスト...ザイン 接 II・2 単現・依頼(können+不定詞)

v.i ~になってくれないか？

「動詞句」

接続法は話者の願望などを表す。この場合は、「主語」に対する依頼を表す。

Richter リッター n.m.1 格 裁判官

「補語」

über ユーバー prep (4 格と) ~に関して

「形容詞句」

dies alte Ratte デーイス・アルテ・ラッテ n.f この年老いたネズミ

「目的語」

時々、そのネズミに死刑を宣告して欲しい。

Du wirst sie von Zeit zu Zeit zum Tode verurteilen.

「主語」「動詞句」「目的語」「補語」

Du ドゥ pron 君は

「主語」

wirst ...verurteilen. ヴェイルスト...フェアウルタイレン 2 単未・要請(werden+不定詞)

v.t(j-4 に) 有罪の判決を下して欲しい

「動詞句」

werden は助動詞として不定詞を伴い未来時制を表すが、話者の願望を含んでおり、

2 人称主語に対する要請や命令を表す。

sie ジー pron.4 格 そのネズミを

「目的語」

von Zeit zu Zeit フォン・ツァイト・ツァイト adv. 時々

「副詞句」

zum Tode ツム・トデー adv. 死刑に

「補語」

そうなると、ネズミの命は君の判決次第ということになるだろう。

So wird ihr Leben von deiner Rechtsprechung abhängen.

「副詞」「動詞句」「主語」「副詞句」「動詞句」

So ザー adv. そうすると

「副詞」

wird ...abhängen. ヴェイルト...アッペンゲン 3 単未・推量(werden+不定詞)

v.i (von et-3 に) 依存していることになるだろう

「動詞句」

ihr Leben イア・レーベン n.n.1 格 その命は

「主語」

X

von deiner Rechtsprechung フォン・ダ イー・レヒツ°レヒュンク° adv. 君の判決に 「副詞句」

しかし裁判のたびに、そのネズミを生かしておくために、恩赦を与えてほしい。ネズミは一匹しかいないんだ。

Aber du wirst sie jedesmal begnadigen, um sie aufzusparen. Es gibt nur eine.«

Aber 「主語」「動詞句」「目的語」「副詞」「動詞句」「副詞句」 | 「動詞句」「目的語」

Aber アーバー conj. しかし

du トゥ pron 君は 「主語」

wirst ... begnadigen, ヴィルスト...ベグナーディゲン 2 単未・要請(werden+不定詞)

v.t 恩赦を与えてほしい 「動詞句」

sie シー pron.4 格 そのネズミに 「目的語」

jedesmal イェテス・マル adv. そのたびごとに 「副詞」

jeder + Mal

um +zu 不定詞 ウム adv. ~するために 「副詞句」

sie シー pron そのネズミを 「目的語」

aufzusparen. アウフ・ツァー・スパールン zu 不定詞(auf|sparen)v.t 残しておく 「動詞句」

Es gibt エス・ギブト 3 単現・非人称(es geben)v.t ~がある 「動詞句」

nur eine.« ヌア・アイネ pron.f ひとつだけしか~ない 「目的語」

「僕は、死刑にするのはいやです」と、王子様が答えた。「それで、僕はもう立ち去ります」

»Ich liebe es nicht, zum Tode zu verurteilen«, antwortete der kleine Prinz, »und ich glaube wohl, dass ich jetzt gehe.«

《「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」》, 「動詞」「主語」,

《und 「主語」「動詞」「副詞」「目的語」》

»Ich イヒ pron 僕は 「主語」

liebe ...nicht, リーベ...ニヒト 1 単現・否定(lieben)v.t 好まない 「動詞句」

es エス pron 仮の目的語 (真の目的語は zum 以降)

zum Tode zu verurteilen«, ツム・トデー・ツァー・フェアウルタイレン zu 不定句

n. 死刑にすること 「目的語」

antwortete アントヴァアテテ 3 単過(antworten)v.i 答えた 「動詞」

der kleine Prinz, デア・クライネ・プリンツ n.m 王子さまは 「主語」

»und ウント conj. そして

ich イヒ pron 僕は 「主語」

glaube グラウベ 1 単現(glauben)v.t ~と思う 「動詞」

wohl, ヴォール adv. しっかり、強く 「副詞」

dass ダス conj. ~ということ を 「目的語」

X

ich イヒ pron 僕は 「主語」
 jetzt イェツト adv. 今 「副詞」
 gehe.« ゲーエ 1 単現(gehen)v.i 立ち去る 「動詞」

「いかん」と、王様が言った。

»Nein«, sagte der König. 《「応答」》, 「動詞」「主語」
 »Nein«, ナイン adv. (否定) いかん 「応答」
 sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 der König. デア・ケーニヒ n.m 王様は 「主語」

しかし王子さまは、すでに支度を整えていて、年老いた君主に面倒をかけたくなかった：

Aber der kleine Prinz, der seine Vorbereitungen bereits getroffen hatte, wollte dem alten Monarchen nicht wehtun: Aber 「主語」, 「副詞節」, 「動詞句」「間接目的語」
 Aber アーバー conj. しかし
 der kleine Prinz, デア・クライン・プリンツ n.m 王子さまは 「主語」
 der デア pron (挿入句) 彼は～する 「副詞節」
 seine Vorbereitungen サイネ・フォーアベライトゥンゲン pl.n.f.4 格 支度を 「目的語」
 bereits ベライツ adv. すでに 「副詞」
 getroffen hatte, ゲトロッフェン・ハッテ 3 単過・完了形(treffen)
 v.t(Vorbereitungen 準備を) 整えていた 「動詞句」
 wollte ...nicht wehtun: ヴォルテ...ニヒト・ヴェートゥン 3 単過・願望・否定
 (wollen+不定詞)v.i(j-3 人-3 に) 面倒をかけたくなかった 「動詞句」
 weh|tun ヴェートゥン v.i(j-3 を) 痛い目に合わせる、傷つける、悲しませる
 dem alten Monarchen デーム・アルテン・モナーヒエン n.m.3 格 年老いた君主に 「間接目的語」

「もし陛下が、きちんと従うことが重要だとお考えでしたら、僕に分別のある命令をしないでいただけないでしょうか？」

»Wenn Eure Majestät Wert auf pünktlichen Gehorsam legen, könnten Sie mir einen vernünftigen Befehl erteilen. 《「副詞節」, 「動詞句」「主語」「間接目的語」「直接目的語」》
 »Wenn ヴェン conj. (条件) もし～ならば 「副詞節」
 Eure Majestät オイレ・マジェステート n.f.1 格 陛下が 「主語」
 Majestät は三人称複数・敬称として扱い、定動詞を複数形にする
 Wert ヴェーアト n.m.4 格 価値を、重要性を 「目的語」
 auf pünktlichen Gehorsam アウフ・プンクトリッヒエン・ゲホーアザーム
 adv. (基準) きちんとした従順に対して 「副詞句」
 legen, レーゲン 3 複現 v.t 置く 「動詞」

X

könntenerteilen. ケンテン...エアタイルン 接 II・3 複現・依頼(können+不定詞)

v.t. ～を与えていただけませんか？

「動詞句」

Sie ジー pron.pl あなたは

「主語」

mir ミーア pron 僕に

「間接目的語」

einen vernünftigen Befehl アイネン・フェアニユンフチゲン・ヘフェール

n.m.4 格 分別のある命令を

「直接目的語」

接続法：

願わしいことまたは假定・想像として述べる。丁寧な依頼や勧誘に用いることができる。

「例えば、1 分以内に立ち去れ、と僕に命令してください」

Sie könnten mir zum Beispiel befehlen, innerhalb eine Minute zu verschwinden.

《「主語」「動詞句」「間接目的語」「副詞句」「直接目的語」》

Sie ジー pron.pl あなたは

「主語」

könnten ...befehlen, ケンテン...ヘフェーレン 接 II・3 複現・勧誘(können+不定詞)

v.t. 命令してください

「動詞句」

mir ミーア pron 僕に

「間接目的語」

zum Beispiel ツム・バイシュピール adv. 例えば

「副詞句」

zu 不定句 n. ～ということ

「直接目的語」

innerhalb eine Minute イナー・ハルプ・アイネ・ミヌーテ adv. 1 分以内に

「副詞句」

zu verschwinden. ツー・フェアシュウ・インデッン zu 不定詞・命令

v.i. そっと立ち去れ

「動詞句」

「状況は良いと思いますが...」

Es scheint mir, dass die Umstände günstig sind...«

《「動詞」「間接目的語」「主語」》

Es エス pron 仮の主語（真の主語は dass 以降）

scheint シャイト 3 単現(scheinen)v.i. ～のように見える

「動詞」

mir, ミーア pron 僕には

「間接目的語」

dass ダス conj. ～ということが

「主語」

die Umstände デー・ウムシュテンデ pl.n.m.1 格 状況は

「主語」

günstig ギュンステヒ adj. 好都合な

「補語」

sind...« ジント 3 複現(sein)v.i. ～である

「動詞」

王様が返事をしなかったので、王子さまは初めのうちはためらっていたのだが、やがてため息をついて、出発した。

Da der König nichts erwiderte, zögerte der kleine Prinz zuerst, dann brach er mit einem Seufzer auf.

「副詞節」, 「副詞」「動詞句」「主語」「副詞句」

接続法：

X

Da ダー conj. ～なので	「副詞節」
der König テア・ケーニヒ n.m 王様は	「主語」
nichts erwiderte, ニヒツ・エウイーデアテ 3 単過・否定(erwidern)	
v.t 返事しなかった	「動詞句」
zögerte ツェーゲーアテ 3 単過・挿入句(zögern)v.i ためらった	「副詞節」
der kleine Prinz テア・クライン・プリンツ n.m 王子さまは	「主語」
zuerst, ツェアースト adv. 最初は、初めのうちは	「副詞」
dann ダン adv. そのあと、やがて	「副詞」
brach ...auf. ブラフ...アウフ 3 単過(auf brechen)v.i 出発した	「動詞句」
er エア pron 彼は	「主語」
mit ミット prep (随伴状況を示して) ～をして	「副詞句」
einem Seufzer アイネム・ゾイツァー n.m ため息	「目的語」

「君を大使にしてやろう」と、王様は急いで彼に呼び掛けた。

»Ich mache dich zu meinem Gesandten«, beeilte sich der König, ihm nachzurufen.	
《「主語」「動詞」「目的語」「補語」》, 「動詞句」「主語」「間接目的語」「動詞句」	
»Ich イヒ pron わしは	「主語」
mache マハ 1 単現(machen)v.t ～にする、～に変える	「動詞」
dich ディイヒ pron 君を	「目的語」
zu meinem Gesandten«, ツー・マイネム・ゲザンテン adv. 大使に	「補語」
beeilte sich ... nachzurufen. ヘアイルテ・ズィヒツ...ナーハ・ツー・ルーフェン 3 単過・急ぎ	
v.pr(sich-4 beeilen+zu 不定詞) 急いで呼びかけた	「動詞句」
der König, テア・ケーニヒ n.m 王様は	「主語」
ihm イム pron 彼に	「間接目的語」

彼は威厳のある素振りを見せた。

Er gab sich den Anschein großer Autorität.	「主語」「動詞句」「目的語」
Er エア pron 彼は	「主語」
gab sich ガーフ・スィヒツ 3 単過(sich geben)v.pr 振舞った	「動詞句」
den Anschein テン・アンシャイン n.m.4 格 様子を	「目的語」
großer Autorität. グローサー・アウトリテート adj. 偉大な権威の	「形容詞句」

《大人たちは、とっても変わっている》と、王子さまは、旅の間、心の中で思った。

Die großen Leute sind sehr sonderbar, sagte sich der kleine Prinz auf seiner Reise.	
《「主語」「動詞」「補語」》, 「動詞句」「主語」「副詞句」	
Die großen Leute ティー・グロースン・ロイテ pl.n.1 格 大人たちは	「主語」

XI

sind ジント 3 複現(sein)v.i ~である

「動詞」

sehr sonderbar, セーア・ゾンダーバー adj. とても変わっている

「補語」

sagte sich サークテ・ズィット 3 単過(sich sagen)v.pr 心の中で思った

「動詞句」

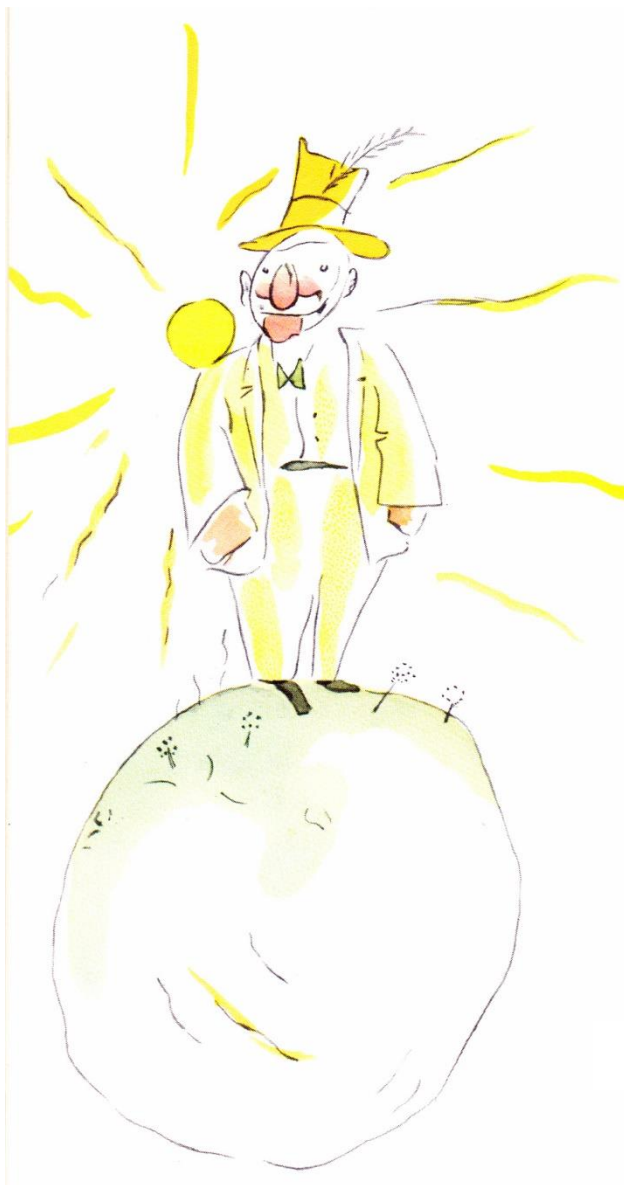
der kleine Prinz デア・クライン・プリンツ n.m 王子さまは

「主語」

auf seiner Reise. アウフ・ザ イー・ライゼ adv. (期間) 旅の間

「副詞句」

XI



2 番目の惑星には、見栄張り男が住んでいた。

Der zweite Planet war von einem Eitlen bewohnt.

「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」

Der zweite Planet デア・ツヴァイト・プラネー n.m.1 格 2 番目の惑星は

「主語」

XI

war ...bewohnt. ヲァール...ヘボォント 3 単過・状態受動(sein+過去分詞)

v.t 住まっていた

「動詞句」

von フォン prep (受動文の動作主を示して、3 格と) ～によって

「副詞句」

einem Eitlen アイネム・アイトレン n.m(eitel).3 格 見栄張り男

「目的語」

このまま翻訳しても日本語らしくない

eitel の名詞化 : 格変化の例

eitel アイテル adj. 見栄っ張りの → der **Eitle** アイトレ n.m.1 格 見栄張り男 → dem **Eitlen** 3 格

die **Eitlen** アイトレン pl.n.m.1 格 見栄張り男は

「ああ、これは、これは、おれのファンが会いに来たぞ！」と、王子様に気付くやいなや、見栄張り男は遠くから叫んだ。

»Ah, ah, schau, schau, ein Bewunderer kommt zu Besuch!« rief der Eitle von weitem, sobald er des kleinen Prinzen ansichtig wurde.

《「感嘆」「主語」「動詞句」》, 「動詞」「主語」「副詞句」

»Ah, ah, アア・アア int. ああ、ああ

「感嘆」

schau, schau, シャウ・シャウ 命・2 単現(schauen)v.i これは、これは

「感嘆」

ein Bewunderer アイン・ベウンダーラー n.m.1 格 ファンが

「主語」

kommt zu Besuch!« コムト・ツァー・ベズーフ 3 単現・目的(kommen zu+名詞)

v.i 訪問にやってきた

「動詞句」

rief リーフ 3 単過(rufen)v.i 叫んだ

「動詞」

der Eitle デア・アイトレ n.m.1 格 見栄っ張り

「主語」

von weitem, フォン・ヴァイテム adv. (空間的) 遠くから

「副詞句」

sobald ソバルト conj. ～するやいなや

「副詞節」

er エア pron 彼は

「主語」

des kleinen Prinzen デス・クライン・プリンツェン n.m.2 格 王子様に

「副詞句」

ansichtig アンズィヒヒ adj.(j-2 に) 気づいた

「補語」

wurde. ヲールテ 3 単過(werden)v.i ～になった

「動詞」

なぜなら、見栄張りたちにとっては、ほかの人たちは自分のファンなのだ。

Denn für die Eitlen sind die anderen Leute Bewunderer.

Denn 「副詞句」「動詞」「主語」「補語」

Denn デン conj. なぜなら～だから

für die Eitlen フェア・ディー・アイトレン adv. 見栄張りたちにとっては

「副詞句」

die Eitlen ディー・アイトレン pl.n.m.4 格 見栄張りたち

sind シント 3 複現(sein)v.i ～である

「動詞」

die anderen Leute ディー・アンデレン・ロイテ pl.n.1 格 他の人々は

「主語」

eitel の名詞化 : 格変化の例

XI

Bewunderer. ベウンダーラー pl.n.m.1 格 ファン

「補語」

「こんにちは」と、王子様が言った。「面白い帽子をかぶっていますね」

»Guten Tag«, sagte der kleine Prinz. »Sie haben einen spaßigen Hut auf.«

《「挨拶」》, 「動詞」「主語」, 《「主語」「動詞句」「目的語」》

»Guten Tag«, グーテン・ターク adv. こんにちは

「挨拶」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

der kleine Prinz. デア・クライネ・プリンツ n.m 王子さまは

「主語」

»Sie シー pron あなたは

「主語」

haben ...auf.« ハーベン...アウフ 3 複現(auf|haben)v.t (帽子を) かぶっている

「動詞句」

einen spaßigen Hut アイン・シュパ・シゲン・フート n.m.4 格 面白い帽子を

「目的語」

spaßigen シュパ・シゲン adj.m(spaßig).4 格 面白い Hut フート n.m 帽子

「これは挨拶のためだよ」と、見栄張り男が彼に答えた。「誰かが私に対して歓声を上げたときに、挨拶するためなんだよ。あいにく、誰もここを通りかからないがね」

»Der ist zum Grüßen«, antwortete ihm der Eitle. »Er ist zum Grüßen, wenn man mir zujauchzt. Unglücklicherweise kommt hier niemand vorbei.«

《「主語」「動詞」「補語」》, 「動詞」「間接目的語」「主語」,

《「主語」「動詞」「補語」「副詞節」 | 「副詞」「動詞句」「主語」「動詞句」》

»Der デア pron これは

「主語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である

「動詞」

zum Grüßen«, ツーム・グリューセン adv. (目的) 挨拶のために

「補語」

antwortete アントヴァテ 3 単過(antworten)v.i 答えた

「動詞」

ihm イム pron 彼に

「間接目的語」

der Eitle. デア・アイトレ n.m 見栄張り男が

「主語」

»Er エア pron (Hut の代用) 帽子は

「主語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である

「動詞」

zum Grüßen, ツーム・グリューセン adv. (目的) 挨拶のために

「補語」

wenn ウェン conj. ~するときに

「副詞節」

man マン pron 誰かが

「主語」

mir ミーア pron 私に対して

「間接目的語」

zujauchzt. ツーヤウツト 3 単現(zu|jauchzen)v.i 歓声をあげる

「動詞句」

Unglücklicherweise ウングリュックリヒャーヴァイセ adv. 不運にも、あいにく

「副詞」

kommt ...vorbei.« コムト...フォアバイ 3 単現(vorbei|kommen)v.i 通りかかる

「動詞句」

hier ヒーア adv. ここを

「副詞」

niemand ニーマント pron 誰も~ない

「主語」

XI

「ああ、そう」と、王子さまは言ったが、それについて分かっていたいなかった。

»Ach ja?« sagte der kleine Prinz, der nichts davon begriff.

《「応答」》, 「動詞」 「主語」, 「主語」 「動詞句」 「間接目的語」

»Ach ja?« アッハ・ヤー int. ああ、そう 「応答」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」

der kleine Prinz, デア・クライネ・プリンツ n.m 王子さまは 「主語」

der デア pron 王子さまは 「主語」

nichts ...begriff. ニツ...ベググリフ 3 単過・否定(begreifen)v.t 分からなかった 「動詞句」

davon ダフォン adv. それについて 「間接目的語」

「拍手しなさい」と、見栄張り男が彼に勧めた。

»Schlag deine Hände zusammen«, empfahl ihm der Eitle.

《「動詞」 「目的語」 「副詞句」》, 「動詞」 「間接目的語」 「主語」

»Schlag シュラク 命・2 単現(schlagen)v.t たたきなさい 「動詞」

deine Hände ダイネ・ヘンデ pl.n.f.4 格 手を 「目的語」

zusammen«, ツサメン adv. 合わせて 「副詞」

empfahl エンプファール 3 単過(empfehlen)v.t 推薦した、伝えた 「動詞」

ihm イム pron 彼に 「間接目的語」

der Eitle. デア・アイトレ n.m(eitel).1 格 見栄張り男が 「主語」

王子さまは拍手した。

Der kleine Prinz schlug seine Hände gegeneinander. 「主語」 「動詞」 「目的語」 「副詞」

Der kleine Prinz デア・クライネ・プリンツ n.m 王子さまは 「主語」

schlug シュルク 3 単過(schlagen)v.t 叩いた 「動詞」

seine Hände サイネ・ヘンデ pl.n.f.4 格 手を 「目的語」

gegeneinander. ゲーゲン・アイツンダー adv. 互いに向き合わせて 「副詞」

見栄張り男は、帽子をちょっと持ち上げて、うやうやしく挨拶した。

Der Eitle grüßte bescheiden, indem er seinen Hut lüftete. 「主語」 「動詞」 「副詞句」

Der Eitle デア・アイトレ n.m(eitel).1 格 見栄張り男は 「主語」

grüßte グリュステ 3 単過(grüßen)v.t 挨拶した 「動詞」

bescheiden, ベシャイデン adv. うやうやしく 「副詞」

indem インデーム conj. (手段) ～することによって 「副詞節」

er エア pron 彼は 「主語」

seinen Hut サイネ・フット n.m.4 格 帽子を 「目的語」

XI

lüftete. リュフテテ 3 単過(lüften)v.t (帽子を) ちょっと持ち上げた 「動詞」

《これは、王様を訪問するよりずっと面白い》と、王子さまは思った。

Das ist unterhaltender als der Besuch beim König, sagte sich der kleine Prinz.

《「主語」「動詞」「補語」》, 「動詞句」「主語」

Das ダス pron これは 「主語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である 「動詞」

unterhaltender ウンターハルテンダー adj. (比較級) もっと面白い 「補語」

als アルス conj. (比較) ~よりも 「副詞句」

der Besuch デア・ベズーフ n.m.1 格 訪問 「目的語」

beim König, バイム・ケーニヒ adv. 王様への 「副詞句」

sagte sich サークテ・ズィヒ 3 単過(sich-4 sagen)v.pr 思った 「動詞句」

der kleine Prinz. デア・クライン・プリンツ n.m 王子さまは 「主語」

それでまた拍手を始めた。

Und er begann von neuem die Hände zusammenzuschlagen.

Und 「主語」「動詞句」「副詞句」「目的語」「動詞句」

Und ウント conj. そして

er エア pron 彼は 「主語」

begann ...zusammenzuschlagen. ベカソ...ツサメン・ツァー・シュラーゲン 3 単過・開始

(beginnen+zu 不定詞)v. ~を打合せ始めた 「動詞句」

von neuem ヴォン・ノイェム adv. 再び 「副詞句」

die Hände デー・ヘンデ pl.n.f.4 格 手を 「目的語」

見栄張り男は、帽子を少し持ち上げる挨拶をまた続けた。

Der Eitle wieder fuhr fort, seinen Hut grüßend zu lüften.

「主語」「副詞」「動詞句」「目的語」

Der Eitle デア・アイトレ n.m(eitel).1 格 見栄張り男は 「主語」

wieder ヴァーダー adv. ふたたび、また 「副詞」

fuhr fort, フーア・フォート 3 単過(fort|fahren)v.i ~を続行した 「動詞句」

zu 不定句 n. ~することを 「目的語」

seinen Hut サイネン・フット n.m 帽子を 「目的語」

grüßend グリュセント 現在分詞(grüßen)adv. (目的) 挨拶のために 「副詞」

zu lüften. ツァー・リュフテン 不定詞 v.t ちょっと上げる 「動詞句」

XI

5 分もすると、王子さまはこの遊びの単調さに飽き飽きしてしまった。

Nach fünf Minuten wurde der kleine Prinz der Eintönigkeit dieses Spieles überdrüssig:

「副詞句」, 「動詞」 「主語」 「補語」

Nach fünf Minuten ナーハ・フュンフ・ミヌーテン adv. 5 分後に

「副詞句」

wurde ウルテ 3 単過(werden)v.i 〜になった

「動詞」

der kleine Prinz デア・クライネ・プリンツ n.m.1 格 王子さまは

「主語」

der Eintönigkeit デア・アインテニヒカイト n.f.2 格 単調さに

「副詞句」

dieses Spieles ディーゼス・シュピールス n.n.2 格 この遊びの

「形容詞句」

überdrüssig: ユーバートリュスィヒ adj. (et-2 〜に) 飽き飽きした

「補語」

「それじゃあ、僕は何をしなくちゃならないの？」と、王子さまは尋ねた。「その帽子が転げ落ちるためには」

»Und was muß man tun«, fragte er, »damit der Hut herunterfällt?«

《Und 「目的語」 「動詞句」 「主語」》, 「動詞」 「主語」, 《「副詞節」》

»Und ウント conj. そして

was ヴァス pron 何を

「目的語」

muß ...tun«, ムス...トゥン 3 単現・必要(müssen+不定詞)v.t しなければならない

「動詞句」

man マン pron (ich の代用として) 僕は

「主語」

fragte フラークテ 3 単過(fragen)v.t 尋ねた

「動詞」

er, エア pron 彼は

「主語」

»damit ダミット conj. 〜するために

「副詞節」

der Hut デア・フット n.m その帽子が

「主語」

herunterfällt?« ヘルンター・フェルト 3 単現(herunter | fallen)v.i 転げ落ちる

「動詞句」

しかし、見栄張り男は彼のいうことを聞いていなかった。見栄張り男たちは誉め言葉しか聞こうとしないのだ。

Aber der Eitle hörte ihn nicht. Die Eitlen hören immer nur die Lobreden.

Aber 「主語」 「動詞句」 「目的語」 | 「主語」 「動詞」 「目的語」

Aber アーバー conj. しかし

der Eitle デア・アイトレ n.m(eitel).1 格 見栄張り男は

「主語」

hörte ...nicht. ヘーアテ...ニヒト 3 単過・否定(hören)v.t (意識的に) 聞こうとしなかった「動詞句」

ihn イン pron 彼のいうことを

「目的語」

Die Eitlen ディー・アイトレン pl.n.m(eitel).1 格見栄張り男たちは

「主語」

hören ヘレン 3 複現 v.t (意識的に) 聞こうとする

「動詞」

immer nur イマー・ヌア adv. 〜だけ

「副詞句」

die Lobreden. ディー・ローブレテン pl.n.f 誉め言葉を

「目的語」

XI

「本当に私を褒めたたえてくれているのかね？」と、彼は王子様に尋ねた。

»Bewunderst du mich wirklich sehr?« fragte er den kleinen Prinzen.

《「動詞」「主語」「目的語」「副詞句」》, 「動詞」「主語」「目的語」

»Bewunderst ベウンデアスト 2 単現(bewundern)v.t 称賛する、褒めたたえている 「動詞」

du ドゥ pron 君は 「主語」

mich ミッヒ pron 私を 「目的語」

wirklich sehr?« ウィルクリヒ・ゼーア adv. 本当に 「副詞句」

fragte フラーケ 3 単過(fragen)v.t 尋ねた 「動詞」

er エア pron 彼は 「主語」

den kleinen Prinzen. デン・クライネン・プリンツェン n.m 王子様に 「目的語」

「ほめたたえるって、どういう意味なの？」

»Was heißt bewundern?«

《「補語」「動詞」「主語」》

»Was ウァス pron 何 「補語」

heißt ハイスト 3 単現(heißen)v.i (～という) 意味である 「動詞」

bewundern?« ベウンダーン 不定詞 n. ほめたたえるということは 「主語」

「ほめたたえるというのは、俺がこの惑星で一番美しくて、一番良い服を着て、一番金持ちで、一番利口だということに気付いて、俺にそのことを表現することだよ」

»Bewundern heißt erkennen, dass ich der schönste, der bestangezogene, der reichste und der intelligenteste Mensch des Planeten bin.«

《「主語」「動詞」「補語」》

»Bewundern ベウンダーン 不定詞 n. ほめたたえるということは 「主語」

heißt ハイスト 3 単現(heißen)v.i (～という) 意味である 「動詞」

erkennen, エッケン 不定詞 n. 気づくということ 「補語」

何かに気付いて、それに対する表情や行動を相手に示す

dass ダス conj. ～ということ 「目的語」

ich イッヒ pron 俺が 「主語」

der schönste, デア・シェンステ

adj. m.1 格 (最上級) 一番美しい 「形容詞句」

der bestangezogene, デア・ベシュト・アンゲゾーゲネ 過去分詞(an | ziehen+best)

adj.m.1 格 (最上級) 一番良い服を着た 「形容詞句」

der reichste デア・ライヒステ

adj.m.1 格 (最上級) 一番金持ちの 「形容詞句」

und ウント conj. そして

der intelligenteste デア・インテリゲンステ

XI

adj.m.1 格 (最上級) 一番利口な	「形容詞句」
Mensch メンシュ n.m.1 格 人間	「補語」
des Planeten デス・プラネテン adj. この惑星で	「形容詞句」
bin.« ビン 1 単現(sein)v.i ~である	「動詞」

「だけど、この星には君一人しかいないよ！」

»Aber <u>du bist doch allein auf deinem Planeten!</u> «	《Aber 「主語」「動詞」「補語」》
»Aber アーバー conj. しかし	
du トゥー pron 君は	「主語」
bist ビスト 2 単現(sein)v.i ~である	「動詞」
doch allein トッホ・アイン adj. たった一人の	「補語」
doch は否定の強調	
auf deinem Planeten!« アウフ・ダイネム・プラネテン adv. 君の星では	「副詞句」

「俺を喜ばせてくれよ！それでも俺を喜ばしてくれよ！」

» <u>Mach mir die Freude, bewundere mich trotzdem!</u> «	《「動詞」「間接目的語」「直接目的語」, 「動詞」「目的語」「副詞」》
»Mach マッハ 命・2 単現(machen)v.t (j-3 et-4) (人-3 に何-4 を) 与えよ！	「動詞」
mir ミーア pron.3 格 俺に	「間接目的語」
die Freude, デー・フレイデ n.f.4 格 喜びを	「直接目的語」
bewundere ベウンデレ 命・2 単現(bewundern)v.t 喜ばせろ！	「動詞」
mich ミッヒ pron 俺を	「目的語」
trotzdem!« トロツデーム adv. それでも	「副詞」

「君をほめたたえてあげるよ」と、王子さまは、肩を少しすくめながら、言った。「だけど、それによって君は大切なものが手に入るの？」

» <u>Ich bewundere dich</u> «, <u>sagte der kleine Prinz, indem er ein bisschen die Schultern hob,</u> »aber <u>wozu nimmst du das wichtig?</u> «	《「主語」「動詞」「目的語」》, 「動詞」「主語」「副詞節」, 《aber 「副詞」「動詞」「主語」「目的語」》
»Ich イッヒ pron 僕は	「主語」
bewundere ベウンデレ 1 単現(bewundern)v.t 喜ばせる	「動詞」
dich«, デイッヒ pron 君を	「目的語」
sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
der kleine Prinz, デア・クライネ・プリンツ n.m 王子さまは	「主語」
indem インデーム conj. ~しながら	「副詞節」

XII

er エア pron 彼は 「主語」
 ein bisschen die Schultern アイン・ビッシェン・デー・イー・シュルターン pl.n.f 少し肩を 「目的語」
 hob, ホーフ 3 単過(heben)v.t (体の一部を) 上げた 「動詞」
 »aber アーバー conj. しかし
 wozu ヴォツ adv. それによって 「副詞」
 nimmst ニムスト 2 単現(nehmen)v.t 手に入れる 「動詞」
 du トゥー pron 君は 「主語」
 das wichtig?« ダス・ウィヒティ pron 大切なことを 「目的語」

そう言って、王子さまはそこから立ち去った。

Und der kleine Prinz machte sich davon. Und 「主語」「動詞句」「副詞」
 Und ウント conj. そして
 der kleine Prinz デア・クライン・プリンツ n.m 王子さまは 「主語」
 machte sich マハテ・ズィヒ 3 単過(sich machen)v.pr 立ち去った 「動詞句」
 davon. ダフォン adv. そこから 「副詞」

「大人ってまったくおかしい」と、王子さまは旅行の間中言っていた。

Die großen Leute sind entschieden sehr verwunderlich, stellte er auf seiner Reise fest.
 「主語」「動詞」「補語」, 「動詞句」「主語」「副詞句」「動詞句」
 Die großen Leute デー・グロセン・ロイテ pl.n 大人は 「主語」
 sind シント 3 複現(sein)v.i 〜である 「動詞」
 entschieden sehr verwunderlich, エントシーデシオン・ゼー・ア・フェアウナダーリヒ
 adj. 明らかにとてもおかしい 「補語」
 stellte ...fest. シュテルテ...フェスト 3 単過(fest|stellen)v.t 断言した 「動詞句」
 er エア pron 彼は 「主語」
 auf seiner Reise アウフ・ザイ・イー・ライゼ adv. 旅行の間 「副詞句」

XII

次の惑星には、吞兵衛が住んでいた。この訪問はとても短いものだったが、王子様を深く憂鬱にさせた。

Den nächsten Planeten bewohnte ein Säuer. Dieser Besuch war sehr kurz, aber er tauchte den kleinen Prinzen in eine tiefe Schwermut.

「目的語」「動詞」「主語」 | 「主語」「動詞」「補語」, aber 「主語」「動詞」「目的語」「補語」

Den nächsten Planeten デン・ネヒステン・プラネテン n.m.4 格 次の惑星に 「目的語」
 名詞の 4 格は副詞として利用されることもあるが、ここでは目的語である。

XII

bewohnte	ベウ・ォンテ 3 単過(bewohnen)v.t	住んでいた	「動詞」
ein Säufer.	アイン・ゾイフェ n.m (女性形: Säuferin)	呑兵衛	「主語」
Dieser Besuch	デーザー・ベズーフ n.m.1 格	この訪問は	「主語」
war	ヴァール 3 単過(sein)v.i	～ だった	「動詞」
sehr kurz,	セーア・クルツ adj.	とても短い	「補語」
aber	アーバー conj.	しかし	
er	エア pron (Dieser Besuch の代用)	それは	「主語」
tauchte	トイフェ 3 単過(tauchen)v.t	～の状態にした、沈めた	「動詞」
den kleinen Prinzen	デン・クライネン・プリンツェン n.m	王子様を	「目的語」
in eine tiefe Schwermut.	イン・アイネ・ティーフェ・シュヴァムート adv.	深い憂鬱状態に	「補語」



「そこで何をしているの？」と、王子さまは呑兵衛に尋ねた。王子さまは、呑兵衛が空の瓶と満杯の瓶の行列の前で、黙って座っているのが見えた。

»Was machst du da?« fragte er den Säufer, den er stumm vor einer Reihe leerer und einer Reihe voller Flaschen sitzend antraf.

《「目的語」「動詞」「主語」》, 「動詞」「主語」「目的語」,
「目的語」「主語」「補語」「動詞句」

»Was	ヴァス pron	何を	「目的語」
<u>machst</u>	マハスト 2 単現(machen)v.t	している	「動詞」
<u>du</u>	ドゥー pron	君は	「主語」

XII

da?« ダー adv. そこで	「副詞」
fragte フラーケ 3 単過(fragen)v.t 尋ねた	「動詞」
er エア pron 王子さまは	「主語」
den Säufer, デン・ゾイフェ n.m.4 格 呑兵衛に	「目的語」
den デン pron.m.4 格 その呑兵衛が	「目的語」
er エア pron 王子さまは	「主語」
stumm シュトゥム adv. 黙って	「副詞」
vor フォア prep 〜の前で	「副詞句」
einer Reihe leerer アイー・ライエ・レーラー adj.pl.f.3 格 空の行列の	「形容詞句」
und ウント conj. そして	
einer Reihe voller アイー・ライエ・フォーラー adj.pl.f.3 格 満杯の行列の	「形容詞句」
Flaschen フラシェン pl.n.f.3 格 瓶	「目的語」
sitzend シッツェント 現在分詞・der の動作(sitzen)v.i 座っている	「補語」
antraf. アン・トラーフ 3 単過・知覚動詞(an treffen)v.t 見つけた	「動詞句」

「飲んでいるんだ」とのん兵衛が、陰気な顔つきで答えた。

»Ich trinke«, antwortete der Säufer mit düsterer Miene.

《「主語」「動詞」》, 「動詞」「主語」「副詞句」

»Ich イヒ pron 俺は	「主語」
trinke«, トリンケ 1 単現(trinken)v.i 飲んでいる	「動詞」
antwortete アントヴァーテ 3 単過(antworten)v.i 答えた	「動詞」
der Säufer デア・ゾイフェ n.m のん兵衛は	「主語」
mit düsterer Miene. ミット・デュースター・ミーネ adv. (様態) 陰気な顔つきで	「副詞句」

「どうして飲んでいるの？」と、王子さまは尋ねた。

»Warum trinkst du?« fragte ihn der kleine Prinz.

《「副詞」「動詞」「主語」》, 「動詞」「目的語」「主語」

»Warum ヴァールム adv. どうして	「副詞」
trinkst トリンクスト 2 単現(trinken)v.i 飲んでいる	「動詞」
du?« ドゥー pron 君は	「主語」
fragte フラーケ 3 単過(fragen)v.t 尋ねた	「動詞」
ihn イン pron 彼に	「目的語」
der kleine Prinz. デア・クライン・プリンツ n.m 王子さまは	「主語」

XII

「どうして恥ずかしいの？」と王子さまは、彼を助けたいと思って尋ねた。

»Weshalb schämst du dich?« fragte der kleine Prinz, der den Wunsch hatte, ihm zu helfen.

《「副詞」「動詞句」「主語」》, 「動詞」「主語」, 「主語」「目的語」「動詞」

»Weshalb ヲェスハルプ adv. なにのために、どうして 「副詞」

schämst ...dich?« シェムスト...ディヒ 3 単現(sich-4 schämen)v.pr 恥ずかしい 「動詞句」

du トゥ pron 君は 「主語」

fragte フラーケ 3 単過(fragen)v.t 尋ねた 「動詞」

der kleine Prinz, デア・クライネ・プリンツ n.m 王子さまは 「主語」

der デア pron 王子さまは 「主語」

den Wunsch デン・ブンシュ n.m.4 格 望みを 「目的語」

hatte, ハッテ 3 単過(haben)v.t 持っていた、あった 「動詞」

zu 不定句・同格 〜するという 「形容詞句」

ihm イム pron.3 格 彼を 「間接目的語」

zu helfen. ツー・ヘルフェン 不定詞 v.i 助ける 「動詞句」

「酒を飲むのが恥ずかしいのさ！」と言い終わると、のん兵衛は完全に黙り込んだ。

»Weil ich saufe!« endete der Säufer und verschloss sich endgültig in sein Schweigen.

《Weil 「主語」「動詞」》, 「動詞」「主語」 und 「動詞句」「副詞句」

»Weil ヲァイル conj. 〜なので

ich イヒ pron 俺が 「主語」

saufe!« サウフェ 1 単現(saufen)v.i 酒を飲む 「動詞」

endete エンデテ 3 単過(enden)v.i 終わった、言い終えた 「動詞」

der Säufer デア・ゾイフェ n.m のん兵衛が 「主語」

und ウント conj. そして

verschloss sich フェアシュロス・ズイヒ 3 単過(sich-4 verschließen)v.pr 閉じこもった 「動詞句」

endgültig エントギュルティヒ adv. 決定的に 「副詞」

in sein Schweigen. イン・ザイン・シュヴァイゲン adv. 沈黙に 「副詞句」

それで王子さまは当惑して立ち去った。

Und der kleine Prinz verschwand bestürzt.

Und 「主語」「動詞」「副詞」

Und ウント conj. そして

der kleine Prinz デア・クライネ・プリンツ n.m 王子さまは 「主語」

verschwand フェアシュヴァント 3 単過(verschwinden)v.i 立ち去った 「動詞」

bestürzt. ベシュチュルツト adv. うろたえて、当惑して 「副詞」

XIII

《大人というのは、本当にすごく、とても奇妙だな》と、旅の間中、心の中で思った。

Die großen Leute sind entschieden sehr, sehr wunderlich, sagte zu sich auf seiner Reise.

《「主語」「動詞」「補語」》, 「動詞句」「副詞句」

Die großen Leute デー・グロセン・ロイテ pl.n 大人は 「主語」
sind シント 3 複現(sein)v.i ~である 「動詞」
entschieden sehr, エントシェデン・セーア adj. 本当にすごく 「形容詞句」
sehr wunderlich, セーア・ウンダーリヒ adj. とても奇妙な 「補語」
sagte zu sich サークテ・ツァー・ズィヒ 3 単過(sagen zu sich)v.pr 心の中で思った 「動詞句」
auf seiner Reise. アフ・ザ・イネー・ライゼ adv. 旅の間 「副詞句」

XIII

4 番目の惑星は、実業家の惑星だった。その人は忙しすぎて、王子様が到着しても、頭を上げさえしなかった。

Der vierte Planet war der des Geschäftsmannes. Dieser Mann war so beschäftigt, dass er bei der Ankunft des kleinen Prinzen nicht einmal den Kopf hob.

「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞」「補語」

Der vierte Planet デア・フィーアテ・プラネート n.m.1 格 4 番目の惑星は 「主語」
vierte フィアテ adj(viert).m.1 格 4 番目の
war ヴァール 3 単過(sein)v.i ~ だった 「動詞」
der デア pron.1 格 惑星 「補語」
des Geschäftsmannes. デス・ゲシェフツマネス
n.m.2 格 実業家の、ビジネスマンの 「形容詞句」
Dieser Mann デーザー・マン n.m.1 格 この人は 「主語」
war ヴァール ヴァール 3 単過(sein)v.i ~ だった 「動詞」
so beschäftigt, ソー・ベシェフチヒト adj. (so...dass~) あまりにも忙しくて~しない 「補語」
dass ダス conj. それで~する 「副詞節」
er エア pron 彼は 「主語」
bei バイ prep (3 格と) (状況) ~の場合に 「副詞句」
der Ankunft デア・アンクンフト n.f.3 格 到着の 「目的語」
des kleinen Prinzen デス・クライネン・プリンツェン
n.m.2 格 王子様の 「形容詞句」
nicht einmal ...hob. ニヒト・アインマル...ホプ 3 単過・否定・強調(heben)
v.t ~さえ上げなかった 「動詞句」
nicht einmal 「~ですら... ない」
den Kopf デン・コプフ n.m.4 格 頭を 「目的語」

XIII

「こんにちは」と、王子様が彼に言った。「タバコの火が消えてますよ」

»Guten Tag«, sagte dieser zu ihm. »Ihre Zigarette ist ausgegangen.«

《「挨拶」》, 「動詞」「主語」「間接目的語」, 《「主語」「動詞」「補語」》

»Guten Tag«, グーテン・ターク adv. こんにちは

「挨拶」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

dieser デーザー pron 王子さまは

「主語」

zu ihm. ツー・イム adv. 彼に

「間接目的語」

»Ihre Zigarette イーレ・ツィガレット n.f.1 格 あなたのタバコは

「主語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である

「動詞」

ausgegangen.« アウスガングェン 過去分詞(ausgehen)adj. 消えた

「補語」



「2 足す 3 は 5。5 足す 7 は 12。12 足す 3 は 15」

»Drei und zwei ist fünf. Fünf und sieben ist zwölf. Zwölf und drei ist fünfzehn.«

《「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞」「補語」》

»Drei und zwei ドライ・ウント・ツヴァイ n. 2 足す 3 は

「主語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である

「動詞」

fünf. フュフ adj. 5 の

「補語」

XIII

Fünf und sieben	フンフ・ウントジーベン	n. 5 足す 7 は	「主語」
ist	イスト	3 単現(sein)v.i ~である	「動詞」
zwölf.	ツワエルフ	adj. 12 の	「補語」
Zwölf und drei	ツワエルフ・ウント・ドライ	n. 12 足す 3 は	「主語」
ist	イスト	3 単現(sein)v.i ~である	「動詞」
fünfzehn.	フンフツェーン	adj. 15 の	「補語」

「こんにちは。15 足す 7 は 22」

Guten Tag. Fünfzehn und sieben ist zweiundzwanzig.

《「挨拶」 | 「主語」「動詞」「補語」》

Guten Tag.	グーテン・ターク	adv. こんにちは	「挨拶」
Fünfzehn und sieben	フンフツェーン・ウント・ツジーベン	n. 15 足す 7 は	「主語」
ist	イスト	3 単現(sein)v.i ~である	「動詞」
zweiundzwanzig.	ツヴァイウントツヴァンツィヒ	adj. 22 の	「補語」

「22 足す 6 は 28」

Zweiundzwanzig und sechs ist achtundzwanzig.

《「主語」「動詞」「補語」》

Zweiundzwanzig und sechs	ツヴァイウントツヴァンツィヒ・ウント・ゼックス	n. 22 足す 6 は	「主語」
ist	イスト	3 単現(sein)v.i ~である	「動詞」
achtundzwanzig.	アハトウントツヴァンツィヒ	adj. 28 の	「補語」

「タバコに火を付け直す時間がない。26 足す 5 は 31。やれやれ！」

Keine Zeit, sie wieder anzuzünden. Sechundzwanzig und fünf ist einunddreißig. Uff!

《「目的語」 | 「主語」「動詞」「補語」 | 「感嘆」》

Keine Zeit, カイネ・ツァイト n.f 時間が～ない 「目的語」

Ich habe が省略されている

zu 不定句・Zeit を補足する adj. ～するための 「形容詞句」

sie ジー pron.f (Zigarette の代用) タバコを 「目的語」

wieder ヲィター adv. 再び、また 「副詞」

anzuzünden. アン・ツァー・ツェンデッ zu 不定詞(an|zünden)

v.t 火をつける 「動詞句」

Sechundzwanzig und fünf ゼヒウントツヴァンツィヒ・ウント・フンフ n. 26 足す 5 は 「主語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である 「動詞」

einunddreißig. アインウントドライスィヒ adj. 31 の 「補語」

Uff! ウフ int. やれやれ 「感嘆」

XIII

「したがって、これで 5 億 162 万 2731 になった」

Das macht also fünfhunderteine.....Million
sechshundertzweiundzwanzigtausendsiebenhunderteinunddreißig.«

《「主語」「動詞」「副詞」「目的語」》

Das ダス pron これが 「主語」

macht マハト 3 単現(machen)v.t 〜の数字になる 「動詞」

also アルゾー adv. したがって 「副詞」

fünfhunderteine Million, フェンフフンダート・アイネ・ミリオン n. 5 億 100 万 「目的語」

sechshundertzweiundzwanzigtausendsiebenhunderteinunddreißig.«

ゼックスフンダート・ツヴァイ・ウント・ツヴァンツィヒ・タウゼント・ジューベン・フンダート・アイン・ウント・ドライシヒ

n. 62 万 2731 「目的語」

「何が 5 億なの？」

»Fünfhundert Millionen wovon?« 「主語」

»Fünfhundert Millionen フェンフ・フンダート・ミリオン pl.n.f 5 億 「主語」

wovon?« ヴォフォン adv. 何が? 「副詞」

「なんだって? 相変わらず、まだそこに居たのか? 5 億 100 万... もう分からない」

»Wie? Du bist immer noch da? Fünfhunderteine Million von... ich weiß nicht mehr...

《「感嘆」 | 「主語」「動詞」「副詞句」 | 「主語」 | 「主語」「動詞句」》

»Wie? ヴァー adv. (感嘆) なんとまあ、なんだって? 「感嘆」

Du ドゥ pron 君は 「主語」

bist ビスト 2 単現(sein)v.i 〜にいる 「動詞」

immer イマー adv. 相変わらず 「副詞」

noch da? ノッホ・ダー adv. まだそこに 「副詞句」

Fünfhunderteine Million von... フェンフ・フンダート・アイネ・ミリオン・フォン

n. 5 億 100 万... 「主語」

ich イヒ pron おれは 「主語」

weiß nicht mehr... ヴァイス・ニヒト・メア 1 単現・否定(wissen)v.t もう分からない 「動詞句」

「こんなに沢山の仕事がある。おれはまじめな男だ」

ich habe so viel Arbeit! Ich bin ein ernsthafter Mann,

《「主語」「動詞」「目的語」 | 「主語」「動詞」「補語」》

ich イヒ pron おれは 「主語」

habe ハーベ 1 単現(haben)v.t 〜がある 「動詞」

so viel Arbeit! ザー・フィール・アルハイト n. こんなにたくさんの仕事 「目的語」

XIII

Ich イッヒ pron おれは 「主語」
 bin ビン 1 単現(sein)v.i 〜である 「動詞」
 ein ernsthafter Mann, アイン・エアンストハフター・マン n.m.1 格 まじめな男 「補語」

「俺はくだらないことには関わらない。2 足す 5 は 7...」

ich gebe mich nicht mit Kindereien ab. Zwei und fünf ist sieben...«

《「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」 | 「主語」「動詞」「補語」》

ich イッヒ pron おれは 「主語」
 gebe mich nicht ...ab. ゲーベ・ミヒ・ニヒト...アッパ 1 単現・否定(sich-4 ab | geben)
 v.pr(mit と) かかわりあわない、付き合わない 「動詞句」
 mit Kindereien ミット・キンダーライエン adv. くだらないことに 「間接目的語」
 Zwei und fünf ツヴァイ・ウント・フュフ 2 足す 5 は 「主語」
 ist イスト 3 単現(sein)v.i 〜である 「動詞」
 sieben...« シーベン adj. 7 の 「補語」

「何が 5 億 100 万なの？」と、王子様が繰り返した。彼は一度した質問を決してあきらめなかった。

»Fünfhunderteine Million wovon?« wiederholte der kleine Prinz, der niemals in seinem Leben auf eine Frage verzichtete, die er einmal gestellt hatte.

《「質問」, 「動詞」「主語」, 「主語」「副詞句」「間接目的語」「動詞句」, 「形容詞節」

»Fünfhunderteine Million wovon?« フュフ・フンダート・アイネ・ミリオン・ヴォフォン

n. 何が 5 億 100 万なの? 「質問」
 wiederholte ヴァーダーホルテ 3 単過(widerholen)v.t 繰り返した 「動詞」
 der kleine Prinz, デア・クライネ・プリンツ n.m 王子様が 「主語」
 der デア pron (Prinz の代用) 王子さまは 「主語」
 niemals ニーマールス adv. 一度も〜ない 「副詞」
 in seinem Leben イン・ザ・イネム・レーベン adv. 彼の人生の中で 「副詞句」
 auf eine Frage アウフ・アイネ・フラゲ adv. 質問を 「間接目的語」
 verzichtete, フェアツヒテテ 3 単過(verzichten)v.i(auf et-4 を) あきらめた 「動詞」
 die デー pron.f (目的語) 〜する 「形容詞節 : Frage」
 er エア pron 彼が 「主語」
 einmal アインマル adv. 一度 「副詞」
 gestellt hatte. ゲシュテルト・ハッテ 3 単過・完了形(stellen)
 v.t (動作名詞と) 〜した 「動詞句」

XIII

実業家は頭を上げた。

Der hob den Kopf.

「主語」「動詞」「目的語」

Der Geschäftsmann テア・ゲシェフツマン n.m 実業家は

「主語」

hob ホフ 3 単過(heben)v.t (体の一部を) 上げた

「動詞」

den Kopf. デン・コフ n.m.4 格 頭を

「目的語」

「この惑星に住んでから 54 年の間に、邪魔されたのは 3 回しかない」

»In den vierundfünfzig Jahren, die ich auf diesem Planeten wohne, bin ich nur dreimal gestört worden.

《「副詞句」「主語」「副詞句」「動詞」, 「動詞句」「主語」「副詞句」「動詞句」》

»In イン prep (3 格または 4 格と) (時間び終点; 3 格と) ~ たったとき

「副詞句」

den vierundfünfzig Jahren, デン・フィーア・ウント・フュンツィヒ・ヤーレン

pl.n.n.3 格 54 年

「目的語」

die テー pl.n.4 格 その間に

「副詞」

ich イヒ pron 私が

「主語」

auf diesem Planeten アウフ・テューゼム・プラネテン adv. この惑星に

「副詞句」

wohne, ウォーネ 1 単現(wohnen)v.i 住む

「動詞」

bin ...gestört worden. ビン...ゲシュテアテ・ウァアテン 1 単現・完了形・受動(stören)

v.t 邪魔された

「動詞句」

ich イヒ pron 私は

「主語」

nur dreimal ノー・ドライマル adv. 3 回だけ

「副詞句」

「最初は、22 年前の、コガネムシだった。そいつがどこかから落ちてきたんだ。」

Das erstmal war es vor zweiundzwanzig Jahren ein Maikäfer, der von weiß Gott wo heruntergefallen war. 《「主語」「動詞」「副詞句」「補語」, 「主語」「副詞句」「動詞句」》

Das erstmal ダス・エアステマル n.n 最初は

「主語」

war ウァール 3 単過(sein)v.i ~ だった

「動詞」

es エス pron 非人称

vor zweiundzwanzig Jahren フォー・ツヴァイ・ウント・ツヴァンツィヒ・ヤーレン adv. 22 年前に

「副詞句」

ein Maikäfer, アイン・マイケーフェ n.m.1 格 コガネムシが

「補語」

der テア pron それが

「主語」

von weiß Gott wo フォン・ウァイス・ゴット・ウァ

adv. どこかを神が知る所から、どこからか

「副詞句」

heruntergefallen war. ヘルンター・ゲ・ファレン・ウァール 3 単過・完了形(herunter| fallen)

v.i 落ちてきた

「動詞句」

XIII

「そいつがぞっとするような音を出したので、おれは 4 回も足し算を間違えてしまった。」

Er machte einen schrecklichen Lärm, und ich habe in einer Addition vier Fehler gemacht.

《「主語」「動詞」「目的語」 und 「主語」「動詞句」「副詞句」「目的語」》

Er エア pron (Maikäfer の代用) それが 「主語」

machte マハテ 3 単過(machen)v.t (音を) 立てた、作った 「動詞」

einen schrecklichen Lärm, アイン・シュレックリヒェン・レアム n.m.4 格 ぞっとする音を 「目的語」

schrecklichen シュレックリヒェン adj. ぞっとするような Lärm レアム n.m 騒音

und ウント conj. そして

ich イヒ pron 俺は 「主語」

habe ...gemacht. ハーベ...ゲマハト 1 単現・完了形(machen)v.t (行為を) した 「動詞句」

in einer Addition イン・アイー・アデイツィオン adv. 足し算で 「副詞句」

vier Fehler フィアー・フェラー pl.n.m.4 格 4 つの間違いを 「目的語」

「2 回目は、11 年前に、リユーマチの発作が原因だった。」

Das zweitemal, vor elf Jahren, war es ein Anfall von Rheumatismus.

《「主語」「副詞句」「動詞」「主語」「補語」》

Das zweitemal, ダス・ツヴァイテマル n.n 2 回目は 「主語」

vor elf Jahren, フォーア・エルフ・ヤーレン adv. 11 年前に 「副詞句」

war ヲアール 3 単過(sein)v.i ~ だった 「動詞」

es エス pron それは 「主語」

ein Anfall アイン・アンファル n.m 発作 「補語」

von Rheumatismus. フォン・ロイマチスムス adv. (原因) リユーマチによる 「形容詞句」

「俺は、運動不足なんだ。あちこちぶらぶらする時間がないんだ」

Es fehlt mir an Bewegung. Ich habe nicht Zeit, herumzubummeln.

《「動詞」「間接目的語」 | 「主語」「動詞句」「目的語」》

Es エス pron 非人称

fehlt フェルト 3 単現(fehlen)v.h(an 何が) 不足している 「動詞」

mir ミーア pron 俺には 「間接目的語」

an Bewegung. アン・ベウエグング adv. 運動が 「間接目的語」

Ich イヒ pron 俺は 「主語」

habe nicht ハーベ・ニヒト 1 単現・否定(haben)v.t ~がない 「動詞句」

Zeit, ツァイト n.f.4 格 時間が 「目的語」

herumzubummeln. ヘルム・ツーフメルン zu 不定詞・目的(herum | bummeln)

adj. あちこちぶらつくための 「形容詞句」

XIII

「おれはまじめな男だ。そしてこれが、まさに3回目だ。ところで、おれは、5億100万...
と言っていたな...」

Ich bin ein ernsthafter Mann. Und das ist nun das drittemal! Ich sagte also,
fünfhunderteine Million...« 《「主語」「動詞」「補語」 | Und 「主語」「動詞」「補語」
「主語」「動詞」「副詞」「目的語」》

Ich イッヒ pron 俺は	「主語」
bin ビン 1 単現(sein)v.i ~である	「動詞」
ein ernsthafter Mann. アイン・エアンストハフター・マン n.m.1 格 まじめな男	「補語」
Und ウント conj. そして	
das ダス pron これが、今回が	「主語」
ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である	「動詞」
nun ヌン adv. まさに	「副詞」
das drittemal! ダス・ドッリッテマル n.n.1 格 3 回目	「補語」
Ich イッヒ pron 俺は	「主語」
sagte サーゲ 1 単過(sagen)v.t 言っていた	「動詞」
also, アルゾー adv. ところで	「副詞」
fünfhunderteine Million...« フェンフ・フンダート・アイネ・ミリオン n. 5 億 100 万...	「目的語」

「無数の何なの？」

[illegible]

実業家は、安らぎを期待できる見込みがないと分かった。

Der Geschäftsmann begriff, dass es keine Aussicht auf Frieden gab:

		「主語」「動詞」「目的語」
Der Geschäftsmann	デア・ゲシェフツマン n.m.1 格 実業家は	「主語」
begriff,	ベグリフ 3 単過(begreifen)v.t 理解した、分かった	「動詞」
dass	ダス conj. ～ということ	「目的語」
es ...gab:	エス...ガーフ 3 単過・非人称・時制の一致(es geben j-4 / et-4)	
v.h	ある	「動詞句」
keine Aussicht	カイネ・アウスジヒト pl.n.f.4 格 見込み～ない	「目的語」
auf Frieden	アウフ・フリーデン adv. (期待) 安らぎを期待できる	「副詞句」

XIII

「時々、空に見える、あの無数の小さいものだよ」

»Millionen von diesen kleinen Dingen, die man manchmal am Himmel sieht.«

《「主語」》

»Millionen von ミリオン・フォン adj. (+3 格) 無数の～
diesen kleinen Dingen, デーゼン・クライネ・ディンゲン

「形容詞句」

pl.n.n.3 格 あれらの小さいもの

「主語」

Dingen ディンゲン pl.n.n(Ding).3 格 もの

die デー pron.pl (目的語) ～する

「形容詞節」

man マン pron 人が

「主語」

manchmal マンマル adv. 時には、たまに

「副詞」

am Himmel アム・ヒメル adv. 空に

「副詞句」

sieht.« シート 3 単現(sehen)v.t 見える

「動詞」

「ハエ？」

»Fliegen?«

《「問いかけ」》

»Fliegen?« フリーゲン pl.n.f ハエ？

「問いかけ」

「いいや違うよ、きらきら光る小さいものだよ」

»Aber nein, kleine Dinger, die glänzen.«

《「応答」, 「主語」》

»Aber nein, アーバー・ナイン adv. いいや違うよ

「応答」

kleine Dinger, クライネ・ディンガー pl.n.n(Ding).1 格 小さなもの

「主語」

単数の時は: kleines Ding クライネ・ディンク n.n.1 格

die デー pron.pl (主語) ～する

「形容詞節」

glänzen.« グレンツェン 3 複現 v.i 輝く、きらめく

「動詞」

「ハチ？」

»Bienen?«

《「問いかけ」》

»Bienen?« ビーネン pl.n.f(Biene).1 格 ハチ

「問いかけ」

「いいや違うよ。怠け者たちが夢中になってしまう、小さい金色のものだよ」

»Aber nein. Kleine goldene Dinger, von denen die Nichtstuer träumerisch werden.

《「応答」 | 「主語」》

»Aber nein, アーバー・ナイン adv. いいや違うよ

「応答」

Kleine goldene Dinger, クライネ・ゴルデネ・ディンガー pl.n.n.1 格 小さい金色のもの

「主語」

adj. ～する

「形容詞節」

von denen フォン・デーネン adv. (原因) それによって

「副詞句」

XIII

die Nichtstuer デー・ニヒツトゥーエ pl.n.m 怠け者たちが 「主語」
 träumerisch トロイメルッシュ adj. 夢心地の 「補語」
 werden. ヴェアデレン 3 複現 v.i. ～になる 「動詞」

「俺はまじめな男なんだ。夢想到に耽っている時間なんてないんだ」

Ich bin ein ernsthafter Mann. Ich habe nicht Zeit zu Träumereien.«

《「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞句」「目的語」》

Ich イヒ pron 俺は 「主語」
 bin ビン 3 単現(sein)v.i. ～である 「動詞」
 ein ernsthafter アイン・エンストハフター adj.m.1 格 まじめな 「形容詞句」
 Mann. マン n.m.1 格 男 「補語」
 Ich イヒ pron 俺は 「主語」
 habe nicht ハーベ・ニヒツ 1 単現・否定(haben)v.t. ない 「動詞句」
 Zeit ツァイト n.f 時間が 「目的語」
 zu Träumereien. ツー・トロイレイエン adj. (目的) 夢想到に耽るための 「形容詞句」

「ああ、星かい？」

»Ach, die Sterne?«

《「感嘆」「確認」》

»Ach, アッハ int. ああ

「感嘆」

die Sterne?« デー・イー・シュテルネ pl.n.m.1 格 星かい？

「確認」

「その通り、星だよ」

»Dann sind es wohl die Sterne.«

《「応答」「動詞」「主語」「副詞」「補語」》

»Dann ダン adv. その通り

「応答」

sind シント 3 複現(sein)v.i. ～である

「動詞」

es エス pron (性数にかかわらず) それは

「主語」

wohl ヴォール adv. 確かに

「副詞」

die Sterne.« デー・イー・シュテルネ pl.n.m.1 格 星

「補語」

「それで、5 億の星で何をするの？」

»Und was machst du mit fünfhundert Millionen Sternen?«

《Und 「目的語」「動詞」「主語」「副詞句」》

»Und ウント conj. そして

was ヴァス pron 何を

「目的語」

machst マハスト 2 単現(machen)v.t. する

「動詞」

du トゥー pron 君は

「主語」

XIII

mit ミット prep (手段) ～を使って

「副詞句」

fünfhundert Millionen Sternen?« フェンフフンダート・ミリオン・シュテアネン

pl.n.m 5 億の星

「目的語」

「5 億 162 万 2731 だ」

»Fünfhunderteine-----Million
sechshundertzweiundzwanzigtausensiebenhunderteinunddreißig.

《「応答」》

»Fünfhunderteine

Million

sechshundertzweiundzwanzigtausensiebenhunderteinunddreißig.

フェンフフンダートアイネ・ミリオン・セックスフンダート・ツヴァイウントツヴァンツィヒタウゼン・シーベンフンダートアインウントドライスイヒ

adj. 5 億 162 万 2731 の

「応答」

「おれはまじめなんだ。おれは正確に数えるんだ」

Ich bin ein ernsthafter Mann, ich nehme es genau.«

《「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞」「目的語」「副詞」》

Ich イヒ pron おれは

「主語」

bin ビン 1 単現(sein)v.i ～である

「動詞」

ein ernsthafter Mann, アイン・エアンシュトハフター・マン n.m.1 格 まじめな男

「補語」

ich イヒ pron おれは

「主語」

nehme ネーメ 1 単現(nehmen)v.t 考える、とらえる

「動詞」

es エス pron それを

「目的語」

genau.« ゲナウ adv. 正確に、厳密に

「副詞」

「それで、それらの星で何をするの？」

»Und was machst du mit diesen Sternen?« 《Und 「目的語」「動詞」「主語」「副詞句」》

»Und ウント conj. そして

was ヴァス pron 何を

「目的語」

machst マハスト 2 単現(machen)v.t する

「動詞」

du トゥー pron 君は

「主語」

mit ミット prep (手段) ～を使って

「副詞句」

diesen Sternen?« デーゼン・シュテアネン pl.n.m.3 格 それらの星を

「目的語」

「おれがそれで何をするかだって？」

»Was ich damit mache?«

《「目的語」「主語」「副詞」「動詞」》

»Was ヴァス pron 何を

「目的語」

XIII

ich イッヒ pron 俺が 「主語」
 damit ダミット adv. それを使って 「副詞」
 mache?« マ 1 単現・疑問文(machen)v.t するかだって? 「動詞」

「そうだよ」

»Ja.« 「応答」
 »Ja.« ヤー adv. そうだよ 「応答」

「何もしない。おれはそれらを所有している」

»Nichts. Ich besitze sie.« 《「応答」 | 「主語」「動詞」「目的語」》
 »Nichts. ニッツ pron 何もしない 「応答」
 Ich イッヒ pron 俺は 「主語」
 besitze ベジッツェ 1 単現(besitzen)v.t 所有している 「動詞」
 sie.« ジー pron.pl (性の区別なしに既出の複数名詞を指して) それらを 「目的語」

「君が星たちを所有しているだって?」

»Du besitzt die Sterne?« 《「主語」「動詞」「目的語」》
 »Du トゥー pron 君は 「主語」
 besitzt ベジット 2 単現(besitzen)v.t 所有している 「動詞」
 die Sterne?« テーイー・シュテアーネ pl.n.m.4 格 星を 「目的語」

「そうだよ」

»Ja.« 「応答」
 »Ja.« ヤー adv. そうだよ 「応答」

「だけど、僕は以前にある王様にあったことがある。彼は...」

»Aber ich habe schon einen König gesehen, der...«
 《Aber 「主語」「動詞句」「副詞」「目的語」, 「主語」》
 »Aber アーバー conj. しかし
 ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 habe ...gesehen, ハーベ...ゲゼーエン 1 単現・完了形(sehen)v.t 会ったことがある 「動詞句」
 schon ショーン adv. すでに、以前に 「副詞」
 einen König アイネン・ケーニッヒ n.m.4 格 ある王様に 「目的語」
 der...« デア pron その王様は 「主語」

XIII

「王様は所有しない。彼らは支配する。それは全く違うことだ」

»Könige besitzen nicht, sie 'regieren über'. Das ist etwas ganz anderes.«

《「主語」「動詞句」, 「主語」「動詞句」 | 「主語」「動詞」「補語」》

»Könige ケーニゲ pl.n.m.1 格 王様は 「主語」
 besitzen nicht, ベズィッツェン・ニヒト 3 複現・否定 v.t 所有しない 「動詞句」
 sie シー pron.pl 彼らは 「主語」
 'regieren über'. レギーレン・ユーバー 3 複現(regieren +über)v.t 支配する 「動詞句」
 Das ダス pron それは 「主語」
 ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である 「動詞」
 etwas エトヴァス pron.n.1 格 なにか 「補語」
 ganz anderes.« ガンツ・アンデレス adj.n.1 格 全くことなる 「形容詞句」

「それで、星を所有することで何を得するの？」

»Und was hast du davon, die Sterne zu besitzen?«

《Und 「目的語」「動詞」「主語」「副詞句」》

»Und ウント conj. そして
 was ヴァス pron 何を 「目的語」
 hast ハスト 2 単現(haben)v.t 手に入れる、得る 「動詞」
 du トゥ pron 君は 「主語」
 davon, ダフォン adv. それによって 「副詞句」
 die Sterne zu besitzen?« デー・スターネ・ツウ・ベジッツェン zu 不定句
 n. 星を所有すること 「目的語」

「俺を金持ちにしてくれる」

»Das macht mich reich.«

《「主語」「動詞」「目的語」「補語」》

»Das ダス pron それは 「主語」
 macht マハト 3 単現(machen)v.t ~にする 「動詞」
 mich ミヒ pron 俺を 「目的語」
 reich.« ライヒ adj.4 格 金持ちの 「補語」

「それじゃあ、金持ちになることで何を得するの？」

»Und was hast du vom Reichsein?«

《Und 「目的語」「動詞」「主語」「副詞句」》

»Und ウント conj. そして
 was ヴァス pron 何を 「目的語」
 hast ハスト 2 単現(haben)v.t 手に入れる、得る 「動詞」
 du トゥ pron 君は 「主語」

XIII

vom Reichsein?« フォム・ライザイン adv. 金持ちになることから 「副詞句」

「誰かがほかの星を見つけた時に、それを買うのさ」

»Weitere Sterne kaufen, wenn jemand welche findet.« 《「目的語」「動詞」「副詞節」》

»Weitere Sterne ウェァイテレ・シュテァネ pl.n.m.4 格 他の星を 「目的語」

weitere ウェァイテレ adj.m.pl.4 格 他の

kaufen, カウフェン 不定詞 v.t 買う 「動詞」

wenn ウェン conj. ～するとき 「副詞節」

jemand イェーマント pron 誰かが 「主語」

welche ウェルヒェ pron.4 格 他の星を、何かを 「目的語」

findet.« ファインデット 3 単現(finden)v.t 見つける 「動詞」

「この男は」と、王子さまは心の中で思った。「ちょっとあの吞兵衛みたいな考え方だ」

Der da, sagte sich der kleine Prinz, denkt ein bisschen wie mein Säufer.

《「主語」》, 「動詞句」「主語」, 《「動詞」「副詞句」》

Der デア pron 男は 「主語」

da, ダー adv. そこにいる 「副詞」

sagte sich サークテ・ズィッヒ 3 単過(sich-4 sagen)v.pr 心の中で思った 「動詞句」

der kleine Prinz, デア・クライン・プリンツ n.m 王子さまは 「主語」

denkt デンクト 3 単現(denken)v.i 考えている 「動詞」

ein bisschen アイン・ビッシェン adv. ちょっと 「副詞句」

wie ウィー conj. ～のように 「副詞句」

mein Säufer. マイン・ゾイフェ n.m 吞兵衛 「目的語」

しかし彼は、さらに質問を続けた。

Indessen stellte er noch weitere Fragen: 「副詞」「動詞」「主語」「副詞句」「目的語」

Indessen インデッセン adv. しかし 「副詞」

stellte シュテルテ 3 単過(stellen)v.t (動作名詞と) ～をした 「動詞」

er エア pron 彼は 「主語」

noch weitere ノッホ・ウェァイテレ adv. さらにずっと 「副詞句」

Fragen: フラーゲン pl.n.m.4 格 質問を 「目的語」

「どうやったら星を所有できるの？」

»Wie kann man die Sterne besitzen?« 《「副詞」「動詞句」「主語」「目的語」》

»Wie ウィー adv. どうやって 「副詞」

kann ...besitzen?« カン...ベズィッツェン 3 単現・可能(können+不定詞)v.t 所有できる 「動詞句」

XIII

man マン pron 人は 「主語」
 die Sterne デー・イー・シュテアネ pl.n.m.4 格 星を 「目的語」

「星は誰のものかね？」と、実業家は不愛想に返事をした。

»Wem gehören sie?« erwiderte mürrisch der Geschäftsmann.

《「間接目的語」「動詞」「主語」》, 「動詞」「副詞」「主語」

»Wem ウェム pron.3 格 誰の 「間接目的語」
 gehören ゲヘレン 3 複現 v.i (j-3 の) ものである 「動詞」
 sie?« ジー pron.pl.1 格 星たちは 「主語」
 erwiderte エウイデテ 3 単過(erwidern)v.t 返事した 「動詞」
 mürrisch ムーリッシュ adv. 不愛想に 「副詞」
 der Geschäftsmann. デア・ゲシェフツマン n.m 実業家は 「主語」

「知らない。誰のものでもないよ」

»Ich weiß nicht. Niemandem.«

《「主語」「動詞句」 | 「間接目的語」》

»Ich イヒ pron 僕は 「主語」
 weiß nicht. ヴァイス・ニヒト 1 単現・否定(wissen)v.t 知らない 「動詞句」
 Niemandem.« ニマンデム pron.3 格 誰のものでもない 「間接目的語」

「それなら、星は俺のものだ。俺がそのことを最初に思い付いたのだから」

»Dann gehören sie mir, ich habe als erster daran gedacht.«

《「副詞」「動詞」「主語」「間接目的語」, 「主語」「動詞句」「副詞句」「間接目的語」》

»Dann ダン adv. それなら 「副詞」
 gehören ゲヘレン 3 複現 v.i (j-3 の) ものである 「動詞」
 sie ジー pron.pl.1 格 星たちは 「主語」
 mir, ミア pron.3 格 俺の 「間接目的語」
 ich イヒ pron 俺が 「主語」
 habe ...gedacht.« ハーベ...ゲダハト 1 単現・完了形(denken)v.i 考えた 「動詞句」
 als erster アルス・エアスター adv. 最初に 「副詞句」
 daran ダラン adv. それについて 「間接目的語」

「それで充分なの？」

»Das genügt?«

《「主語」「動詞」》

»Das ダス pron.1 格 それは 「主語」
 genügt?« ゲニュークト 3 単現(genügen)v.i 十分である 「動詞」

XIII

「その通り！君が誰のものでもないダイヤモンドを見つけたら、それは君のものだ」

»Gewiß. Wenn du einen Diamanten findest, der niemandem gehört, dann ist er dein.

《「応答」 | 「副詞節」, 「副詞」 「動詞」 「主語」 「補語」》

»Gewiß. ゲウイß adj. 確かな → adv. その通り、確かに 「応答」

Wenn ウェン conj. ～するとき 「副詞節」

du ドゥ pron 君が 「主語」

einen Diamanten アイン・デアマンテン n.m.4 格 ダイヤモンドを 「目的語」

findest, フィンデスト 2 単現(finden)v.t 見つける 「動詞」

der デア pron.m (主語) ～する 「形容詞節」

niemandem ニーマンデム pron.3 格 誰の～ない 「間接目的語」

gehört, ゲヘルト 3 単現(gehören)

v.i (j-3 人の) ものである 「動詞」

dann ダン adv. その時には 「副詞」

ist イスト 3 単現(sein)v.i ～である 「動詞」

er エア pron.m それは 「主語」

dein. ダイン pron 君のもの 「補語」

「君が誰のものでもない島を見つけたら、それは君のものだよ」

Wenn du eine Insel findest, die niemandem gehört, so ist sie dein.

《「副詞節」, 「動詞」 「主語」 「補語」》

Wenn ウェン conj. ～するとき 「副詞節」

du ドゥ pron 君が 「主語」

eine Insel アイン・インゼル n.f 島を 「目的語」

findest, フィンデスト 2 単現(finden)v.t 見つける 「動詞」

die デー pron.f (主語) ～する 「形容詞節」

niemandem ニーマンデム pron.3 格 誰の～ない 「間接目的語」

gehört, ゲヘルト 3 単現(gehören)

v.i (j-3 人の) ものである 「動詞」

so ヴー conj. (先行文からの帰結) それなら

ist イスト 3 単現(sein)v.i ～である 「動詞」

sie ジー pron.f それは 「主語」

dein. ダイン pron 君のもの 「補語」

「最初に何かを思いついて、その特許を取ったら、そのアイデアは君のものだよ。」

Wenn du als erster einen Einfall hast und du läßt ihn patentieren, so ist er dein.

《「副詞節」, 「動詞」 「主語」 「補語」》

XIII

Wenn ヱン conj. ～するとき	「副詞節」
du トゥ pron 君が	「主語」
als アルス conj. (資格) ～として	「副詞句」
erster エスター n.m.1 格 最初の者 → 最初に	「目的語」
einen Einfall アイン・アインファル n.m.4 格 思い付きを	「目的語」
hast ハスト 2 単現(haben)v.t (行為を) する	「動詞」
und ウント conj. そして	
du トゥー pron 君は	「主語」
läßt ...patentieren, レスト...パテンチレン 2 単現・使役(lassen+不定詞) v.t 特許を与えてもらう	「動詞句」
ihn イン pron それに	「目的語」
so ザー conj. (先行文からの帰結) それなら	
ist イスト 3 単現(sein)v.i ～である	「動詞」
er エア pron.m それは	「主語」
dein. ダイン pron 君のもの	「補語」

それで俺は、星たちを所有している。なぜなら、俺より先に、誰も星を主有するということ
を考えなかったからだ。

Und ich, ich besitze die Sterne, da niemand vor mir daran gedacht hat, sie zu besitzen.«

Und 「主語」「動詞」「目的語」, 「副詞節」

Und ウント conj. そして	
ich, イヒ pron わしは	「主語」
ich イヒ pron わしは	「主語」
besitze ベジッツェ 1 単現(besitzen)v.t 所有している	「動詞」
die Sterne, デーイー・シュテアーネ pl.n.f.4 格 星を	「目的語」
da ダー conj. (理由) ～なので	「副詞節」
niemand ニーマント pron 誰も～ない	「主語」
vor mir フォー・ミーア adv. 俺より先に	「副詞句」
daran ダラン adv. そのことについて	「間接目的語」
gedacht hat, ゲダハト・ハット 3 単現・完了形・否定文(denken) v.i 考えなかった	「動詞句」
sie zu besitzen.« ジー・ツー・ベジッツェン adj. (同格) それらを所有するという	「形容詞句」

XIII

「それは確かだ！」と、王子様が言った。「ところでそれを使って君は何をするの？」

»Das ist wahr«, sagte der kleine Prinz. »Und was machst du damit?«

《「主語」「動詞」「補語」》, 「動詞」「主語」, 《Und 「目的語」「動詞」「主語」「副詞」》
 »Das ダス pron それは 「主語」
 ist イスト 3 単現(sein)v.i 〜である 「動詞」
 wahr ヴァール adj. 本当の、事実の 「補語」
 sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 der kleine Prinz. デア・クライネ・プリンツ n.m 王子様が 「主語」
 »Und ウント conj. そして
 was ヴァス pron 何を 「目的語」
 machst マハスト 2 単現(machen)v.t する 「動詞」
 du トゥ pron 君は 「主語」
 damit? ダミット adv. (手段) それを用いて 「副詞」

「俺は星たちを管理している。星たちを数えては、また数え直しているんだ」と、実業家が言った。「それは優しいことじゃあないよ。だけど俺は真面目な男なんだ」

»Ich verwalte sie. Ich zähle sie und zähle sie wieder«, sagte der Geschäftsmann. »Das ist nicht leicht. Aber ich bin ein ernsthafter Mann.«

《「主語」「動詞」「目的語」 | 「主語」「動詞」「目的語」 und 「動詞」「目的語」「副詞句」》,
 「動詞」「主語」, 《「主語」「動詞」「補語」 | Aber 「主語」「動詞」「補語」》
 »Ich イヒ pron 俺は 「主語」
 verwalte フェアヴァルテ 1 単現(verwalten)v.t 管理する 「動詞」
 sie. ジー pron.pl 星たちを 「目的語」
 Ich イヒ pron 俺は 「主語」
 zähle ツェレ 1 単現(zählen)v.t 数える 「動詞」
 sie ジー pron.pl 星たちを 「目的語」
 und ウント conj. そして
 zähle ツェレ 1 単現(zählen)v.t 数える 「動詞」
 sie ジー pron.pl 星たちを 「目的語」
 wieder ヴァイダー adv. また、再び 「副詞」
 sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 der Geschäftsmann. デア・ゲシェフツマン n.m 実業家は 「主語」
 »Das ダス pron それは 「主語」
 ist イスト 3 単現(sein)v.i 〜である 「動詞」
 nicht leicht. ニヒト・ライヒト adj. 簡単ではない、難しい 「補語」
 Aber アーバー conj. だけど

XIII

ich イヒ pron 俺は 「主語」
 bin ビン 1 単現(sein)v.i ～である 「動詞」
 ein ernsthafter Mann.« アイ・エルストハフター・マン n.m.1 格 まじめな男 「補語」

王子さまはまだ満足していなかった。

Der kleine Prinz war noch nicht zufrieden. 「主語」「動詞」「補語」
 Der kleine Prinz デア・クライネ・プリンツ n.m 王子さまは 「主語」
 war ヲアル 3 単過(sein)v.i ～ だった 「動詞」
 noch nicht zufrieden. ノッホ・ニヒト・ツフリーデッ adj. まだ満足していない 「補語」
 zufrieden ツフリーデッ adj. 満足している、満ち足りた

「僕は絹のマフラーを持っているけど、それを首の周りに巻き付けたり、持ち歩いたりすることができる」

»Wenn ich ein Seidenschal habe, kann ich ihn um meinen Hals wickeln und mitnehmen.
 《「副詞節」, 「動詞句」「主語」「目的語」「副詞句」「動詞句」 und 「動詞句」》
 »Wenn ウェン conj. (事実の対比) ～であるが 「副詞節」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 ein Seidenschal イン・ザイテン・シャル n.m.4 格 絹のマフラーを 「目的語」
 seiden ザイテン adj. 絹の Schal シャール n.m マフラー、スカーフ
 habe, ハーベ 1 単現(haben)v.t 持っている 「動詞」
 kann ...wickeln カン...ヴィッケルン 1 単現・可能(können+不定詞)v.t 巻くことができる 「動詞句」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 ihn イン pron.m それを 「目的語」
 um meinen Hals ウム・マイネン・ハルス adv. 首の周りに 「副詞句」
 und ウント conj. そして
 mitnehmen. ミットネーメン 1 単現・可能(können+不定詞)v.t 持ち歩くことができる 「動詞句」

「もし僕が花を持っていたら、それを摘み取ったり、持ち歩くことが出来るよ。」

Wenn ich eine Blume habe, kann ich meine Blume pflücken und mitnehmen.
 《「副詞節」, 「動詞句」「主語」「目的語」「動詞句」 und 「動詞句」》
 Wenn ウェン conj. (条件・仮定) もしも～ならば 「副詞節」
 ich イヒ pron 僕が 「主語」
 eine Blume アイン・ブルーメ n.f.4 格 花を 「目的語」
 habe, ハーベ 1 単現(haben)v.t 持っている 「動詞」
 kann ...pflücken カン...プリュッケン 1 単現・可能(können+不定詞)v.t 摘み取れる 「動詞句」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」

XIII

meine Blume マイネ・ブルーメ n.f.4 格 僕の花を 「目的語」

und ウント conj. そして

mit|nehmen. ミットネーメン 1 単現・可能(können+不定詞)v.t 持ち歩ける 「動詞句」

「だけど君は星たちを摘み取ることはできないよ！」

Aber du kannst die Sterne nicht pflücken!!« 《Aber 「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」》

Aber アーバー conj. だけど

du トゥー pron 君は 「主語」

kannst ...nicht pflücken!« カスト...ニヒト・プフリュッケン 2 単現・可能・否定(können+不定詞)

v.t 摘み取れない 「動詞句」

die Sterne デー・シュテアネ pl.n.m(Stern).4 格 星たちを 「目的語」

「できないね！だけど俺は、星たちを銀行に預けることができる」

»Nein, aber ich kann sie in die Bank legen.«

《「応答」, aber 「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」「動詞句」》

»Nein, ナイン adv. 出来ないね 「応答」

aber アーバー conj. だけど

ich イヒ pron 僕は 「主語」

kann ...legen.« カ...レーゲン 1 単現・可能(können+不定詞)

v.t (場所を示す語句と) 入れることができる 「動詞句」

sie シー pron.pl 星たちを 「目的語」

in die Bank イン・デー・バンク adv. 銀行に 「副詞句」

「それはどういう意味なの？」

»Was soll das heißen?« 《「補語」「動詞句」「主語」「動詞句」》

»Was ヴァス pron 何 「補語」

soll ...heißen?« ザル...ハイゼン 3 単現・義務(sollen+不定詞)v.i 意味するということのか？ 「動詞句」

das ダス pron それは 「主語」

「それは、俺が小さな紙に俺の星の個数を書くということだよ」

»Das heißt, dass ich die Zahl meiner Sterne auf ein kleines Papier schreibe.

《「主語」「動詞」「補語」》

»Das ダス pron それは 「主語」

heißt, ハイスト 3 単現(heißen)v.i ～ということである 「動詞」

dass ダス conj. ～ということ 「補語」

ich イヒ pron 俺が 「主語」

XIII

die Zahl デー・ツァール n.f.4 格 数を 「目的語」
 meiner Sterne マイナー・シュテアネ pl.n.m.2 格 俺の星たちの 「形容詞句」
 auf ein kleines Papier アウフ・アイン・クライネス・ハピーア adv. 小さな紙の上に 「副詞句」
 schreibe. シュライベ 1 単現(schreiben)v.t 書く 「動詞」

「それからその紙を引き出しの中にしまっておくのさ」

Und dann sperre ich diese Papiers in eine Schublade.«

《Und 「副詞」「動詞」「主語」「目的語」「副詞句」》

Und ウント conj. そして
 dann ダン adv. それから 「副詞」
 sperre シュペレ 1 単現(sperren)v.t 閉じ込める 「動詞」
 ich イヒ pron 俺は 「主語」
 diese Papiers デー・イゼ・ハピーアス pl.n.n.4 格 これらの紙を 「目的語」
 in eine Schublade.« イン・アイン・シュブラーテ adv. 引き出しの中に 「副詞句」

「それがすべてなの？」

»Und das ist alles?« 《Und 「主語」「動詞」「補語」》
 »Und ウント conj. そして
 das ダス pron それが 「主語」
 ist イスト 3 単現・疑問文(sein)v.i 〜なの? 「動詞」
 alles?« アレス pron.n.1 格 すべて 「補語」

「それで充分さ」

»Das genügt.« 《「主語」「動詞」》
 »Das ダス pron それは 「主語」
 genügt.« ゲニュークト 3 単現(genügen)v.i 十分である 「動詞」

「これは面白い」と、王子さまは考えた。「これはほとんど詩的な話だけど、真面目に受け入れることは出来ないな」

Das ist amüsant, dachte der kleine Prinz. Es ist fast dichterisch. Aber es ist nicht ganz ernst zu nehmen.

《「主語」「動詞」「補語」》, 「動詞」「主語」,

《「主語」「動詞」「補語」 | Aber 「主語」「動詞」「補語」》

Das ダス pron これは、それは 「主語」
 ist イスト 3 単現(sein)v.i 〜である 「動詞」
 amüsant, アミューザント adj. 面白い 「補語」
 dachte ダハテ 3 単過(denken)v.i 考えた 「動詞」

XIII

der kleine Prinz. デア・クライネ・プリンツ n.m	王子さまは	「主語」
Es エス pron	それは	「主語」
ist イスト 3 単現(sein)v.i	～である	「動詞」
fast dichterisch. ファスト・デ・イテリッシュ adj.	ほとんど詩的な	「補語」
fast ファスト adv.	ほとんど、ほぼ	
dichterisch デ・イテリッシュ adj.	詩的な、詩の	
Aber アーバー conj.	しかし	
es エス pron	それは	「主語」
ist nicht イスト・ニヒト 3 単現・否定(sein)v.i	～でない	「動詞」
ganz ernst ガンツ・エルnst adj.	まったく真面目な	「補語」
ganz ガンツ adv.	まったく	
ernst エルnst adj.	まじめな、本気の	
zu nehmen. ツー・ネーメン 不定詞・条件 v.t	受け入れるためには	「副詞句」

王子さまは、真面目なことについて、大人の人たちとは全く異なる考え方をしていた。

Der kleine Prinz dachte über die ernsthaften Dinge völlig anders als die großen Leute.

「主語」「動詞」「間接目的語」「副詞句」

Der kleine Prinz デア・クライネ・プリンツ n.m	王子さまは	「主語」
dachte ダハテ 3 単過(denken)v.i	考えていた	「動詞」
über ユーバー prep (関連)	～について	「間接目的語」
die ernsthaften Dinge デー・イー・エアンstハフテン・デイング		
pl.n.n.3 格	真面目なこと	「目的語」
ernsthaften エアンstハフテン adj.n(ernsthaft).3 格	まじめな	
Ding デイング n.n	物事	
völlig anders フォリッヒ・アンダース adv.	全く違った風に	「副詞句」
völlig フォリッヒ adv.	完全に	
anders アンダース adv.	違った風に	
als アルs conj. (比較)	～とは	「副詞句」
die großen Leute. デー・イー・グロセ・ロイテ pl.n	大人の人々	「目的語」

「僕は」と、王子さまはさらに言った。「僕は1輪の花をもっていて、毎日それに水をやっているんだ」

»Ich«, sagte er noch, »ich besitze eine Blume, die ich jeden Tag begieße.

《「主語」》, 「動詞」「主語」「副詞」,

《「主語」「動詞」「目的語」, 「目的語」「主語」「副詞句」「動詞」》

»Ich«, イヒ pron	僕は	「主語」
sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t	言った	「動詞」
er エ pron	彼は	「主語」
noch, ノッホ adv.	さらに	「副詞」
»ich イヒ pron	僕は	「主語」

XIII

besitze ベジッツェ 1 単現(besitzen)v.t 所有している	「動詞」
eine Blume, アイン・ブルメ n.f 1 輪の花を	「目的語」
die デー pron.f それに	「目的語」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
jeden Tag イェデン・ターク adv. 毎日	「副詞句」
begieße. ベギーセ 1 単現(begießen)v.t 水をやっている	「動詞」

「僕は火山を 3 個もっていて、毎週それらを煤払いしているんだ」

Ich besitze drei Vulkane, die ich jede Woche kehre.

《「主語」「動詞」「目的語」, 「目的語」「主語」「副詞句」「動詞」》

Ich イヒ pron 僕は	「主語」
besitze ベジッツェ 1 単現(besitzen)v.t 所有している	「動詞」
drei Vulkane, ドライ・ヴァルカーネ pl.n.m(Vulkan).4 格 火山を 3 個	「目的語」
die デー pron.pl それらを	「目的語」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
jede Woche イェデ・ウィッヘ adv. 毎週	「副詞句」
kehre. キエレ 1 単現(kehren)v.t 掃除している	「動詞」

「そして僕は休火山も煤払いしているんだ。何が起こるかわからないから。」

Denn ich kehre auch den erloschenen. Man kann nie wissen.

《「副詞」「主語」「動詞」「目的語」 | 「主語」「動詞句」》

Denn デン adv. そして	「副詞」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
kehre ケレ 1 単現(kehren)v.t 掃除している、煤払い	「動詞」
auch アウフ adv. ～も	「副詞」
den erloschenen. デン・エアロシェン n.m (erloschen : adj.) .4 格 休火山	「目的語」
Man マン pron 人は	「主語」
kann nie wissen. カン・ニー・ウィッセン 3 単現・可能・否定(können+不定詞+nie) v.t 決してわからない	「動詞句」

「僕が所有していることは、僕の火山たちにとっても、僕の花にとっても良いことなんだ。」

Es ist gut für meine Vulkane und gut für meine Blume, dass ich sie besitze.

《「動詞」「補語」 und 「補語」「主語」》

Es エス pron 仮の主語 (真の主語は dass 以降)	
ist イスト 3 単現(sein)v.i ～である	「動詞」
gut ゲート adj. 良い	「補語」

XIII

für meine Vulkane	フュア・マイネ・ウルカー	adv. 僕の火山たちにとって	「副詞句」
und	ウント	conj. そして	
gut	グート	adj. 良い	「補語」
für meine Blume,	フュア・マイネ・ブルメ	adv. 僕の花にとって	「副詞句」
dass	ダス	conj. ～ということとは	「主語」
ich	イチ	pron 僕が	「主語」
sie	ジー	pron.pl それらを	「目的語」
besitze.	ベジッツェ	1 単現(besitzen)v.t 所有している	「動詞」

「だけど、君は星たちのために何の役にも立っていないよ...」

Aber <u>du bist für die Sterne zu nichts nütze...</u> «	《Aber 「主語」「動詞」「補語」》
Aber アーバー conj. しかし	
du ドゥー pron 君は	「主語」
bist ビスト 2 単現(sein)v.i ～である	「動詞」
für die Sterne フュア・デー・シュテアネ adv. 星たちのために	「副詞句」
zu nichts ツー・ニヒツ adv. なんにも～ない	「副詞句」
nütze...« ニュッツェ adj. 役に立つ	「補語」

実業家は口を開けたが、返事が見つからなかった。そこで王子さまはそっと立ち去った。

Der Geschäftsmann öffnete den Mund, aber er fand keine Antwort, und der kleine Prinz verschwand.

「主語」「動詞」「目的語」,aber 「主語」「動詞」「目的語」 und 「主語」「動詞」	
Der Geschäftsmann デア・ゲ ^ス ェフツマン n.m 実業家は	「主語」
öffnete エフネ 3 単過(öffnen)v.t 開けた	「動詞」
den Mund, デン・ムント n.m.4 格 口を	「目的語」
aber アーバー conj. しかし	
er エア pron 彼は	「主語」
fand ファント 3 単過(finden)v.t 見つけた	「動詞」
keine Antwort, カイネ・アントヴ ^ア ート n.f.4 格 返事を～ない	「目的語」
und ウント conj. そして	
der kleine Prinz デア・クライネ・プ ^リ ンツ n.m 王子さまは	「主語」
verschwand. フェアシュヴ ^ア ント 3 単過(verschwinden)v.i 立ち去った	「動詞」

「大人っていうのは、本当におかしいな」と、王子さまは、旅の間中、心の中で思った。

Die großen Leute sind entschieden ganz ungewöhnlich, sagte er sich auf der Reise.

《「主語」「動詞」「補語」》, 「動詞句」「主語」「動詞句」「副詞句」

XIV

Die großen Leute	デー・グロセン・ロイテ pl.n.	大人というのは	「主語」
sind	シント 3 複数(sein)v.i	〜である	「動詞」
entschieden	エントシーデテン adv.	明らかに	「副詞」
ganz ungewöhnlich,	ガンツ・ウンゲ・ヴェーンリヒ adj.	まったく異常な	「補語」
ungewöhnlich	ウンゲ・ヴェーンリヒ adj.	異常な、普通でない	
sagte ...sich	ザー・クテ...ズィッヒ 3 単過(sich-4 sagen)v.pr	心の中で思った	「動詞句」
er	エア pron	彼は	「主語」
auf der Reise.	アウフ・デア・ライゼ adv.	(期間) 旅の間中	「副詞句」

XIV

5 番目の惑星はとても変わっていた。すべての中で最も小さい惑星だった。そこには、1 本の街灯と 1 人の点灯夫がちょうど収まるだけの場所があった。

Der fünfte Planet war sehr sonderbar. Er war der kleinste von allen. Es war da gerade Platz genug für eine Straßenlaterne und einen Laternenanzünder.

「主語」「動詞」「補語」 「主語」「動詞」「補語」 「動詞句」「副詞」「主語」			
Der fünfte Planet	デア・フエンフテ・プラネート n.m.1 格	5 番目の惑星は	「主語」
war	ヴァール 3 単過(sein)v.i	〜だった	「動詞」
sehr sonderbar.	ゼー・ア・ゾンダー・バール adj.	とても変わった、奇妙な	「補語」
Er	エア pron	それは	「主語」
war	ヴァール 3 単過(sein)v.i	〜だった	「動詞」
der kleinste	デア・クラインステ adj.	(最高級) 最も小さい	「補語」
von allen.	フォン・アレン adv.	すべての中で	「副詞句」
Es war	エス・ヴァール 3 単過・非人称(sein)v.i	(存在) 〜があった	「動詞句」
da	ダー adv.	そこに	「副詞」
gerade	ゲラーテ adv.	ちょうど	「副詞」
Platz genug	プラッツ・ゲヌグ n.m	十分な場所が	「主語」
für	フュア prep	〜のために	「副詞句」
eine Straßenlaterne	アイネ・シュトラーセンラテルネ n.f.4 格	1 本の街灯	「目的語」
und	ウント conj.	そして	
einen Laternenanzünder.	アイネ・ラテルネン・アンチュンダー n.m.4 格	1 人の点灯夫	「目的語」

XIV

王子さまは、空のどこかにある、家も無く、住民もいない惑星の上で、いったい何のために
1本の街灯と1人の点灯夫を必要としているのか、ということが理解できなかった。

Der kleine Prinz konnte sich nicht erklären, wozu man irgendwo im Himmel, auf einem Planeten ohne Haus und ohne Bewohner, eine Straßenlaterne und einen Laternenanzünder braucht.

「主語」「動詞句」「間接目的語」

Der kleine Prinz デア・クライネ・プリンツ n.m 王子さまは

「主語」

konnte sich nicht erklären, コンテ・ズィヒ・ニヒト・エクレレン 3 単過・可能・否定(können+不定詞)

v.pr(sich erklären) 理解できなかった

「動詞句」

wozu ヴォツァー adv. 何のために～するかということ

「間接目的語」

man マン pron 人が

「主語」

irgendwo im Himmel, イルゲントヴォー・イム・ヒメル adv. 空のどこかにある 「副詞句」

auf einem Planeten アウフ・アイネム・プラネーテン adv. 惑星の上で

「副詞句」

ohne Haus オーネ・ハウス adj. 家の無い

「形容詞句」

und ウント conj. そして

ohne Bewohner, オーネ・ベヴァーナー adj. 住民のいない

「形容詞句」

eine Straßenlaterne und einen Laternenanzünder

アイネ・シュトラッセンラテルネ・ウント・アイネン・ラテルネン・アンツェンダー

pl.n 1本の街灯と1人の点灯夫を

「目的語」

braucht. ブラウフト 3 単現(brauchen)v.t 必要とする

「動詞」

しかし彼は心の中で思った：《この男は、ある程度は尋常ではないのかもしれない》

Doch sagte er sich: Es kann ganz gut sein, dass dieser Mann ein bißchen verrückt ist.

Doch 「動詞句」「主語」「動詞句」：《「動詞句」「補語」「動詞句」「主語」》

Doch ドツホ conj. しかし

sagte ...sich: サークテ...ズィヒ 3 単過(sich-4 sagen)v.pr 心の中で思った

「動詞句」

er エア pron 彼は

「主語」

Es エス pron 仮の主語（真の主語は dass 以降）

kann ...sein, カン...ザイン 3 単現・可能性(sein)v.i ～であるかもしれない

「動詞」

ganz gut ガンツ・グート adj. まずまずの、それなりの

「補語」

dass ダス conj. 何ということ

「主語」

dieser Mann ディーザー・マン n.m この男は

「主語」

ein bißchen verrückt アイン・ビッスェン・フェアユクト n.n.1 格 尋常でない人、狂人

「補語」

ist. イスト 3 単現(sein)v.i ～である

「動詞」

XIV

だけど、王様や見栄張り男や実業家や吞兵衛と比べたら、むしろ少しまともかもしれない。

Doch ist er weniger verrückt als der König, der Eitle, der Geschäftsmann und der Säufer.

Doch 「動詞」「主語」「補語」「副詞句」

Doch ドツホ conj. しかし

ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である 「動詞」

er エア pron 彼は 「主語」

weniger verrückt ウェーニガー・フェアリュクト adj. むしろ少しまともな 「補語」

wenig ウェーニヒ adj. ほとんど~ない → verrückt と合わせて、二重否定になる

als アルス conj. (比較) ~と比べると 「副詞句」

der König, デア・ケーニヒ n.m 王様 「目的語」

der Eitle, デア・アイトレ n.m(形容詞 eitel の活用).1 格 見栄張り 「目的語」

der Geschäftsmann デア・ゲシェフツマン n.m 実業家 「目的語」

und ウント conj. そして

der Säufer. デア・ゾイファー n.m 吞兵衛 「目的語」

少なくとも、彼の仕事には意味がある。

Seine Arbeit hat wenigstens einen Sinn. 「主語」「動詞」「副詞」「目的語」

Seine Arbeit サイネ・アルバイト n.f 彼の仕事は 「主語」

hat ハット 3 単現(haben)v.t ~がある 「動詞」

wenigstens ウェーニヒステンズ adv. 少なくとも 「副詞」

einen Sinn. アイン・シン n.m 意味 「目的語」

彼が街灯に火を灯すと、それはあたかも、新しい星を 1 つ、または一輪の花をこの世にささげるようなものだ。

Wenn er seine Laterne anzündet, so ist es, als setze er einen neuen Stern in die Welt, oder eine Blume. 「副詞句」, 「副詞」「動詞」「主語」, 「補語」

Wenn ウェン conj. ~するとき 「副詞節」

er エア pron 彼が 「主語」

seine Laterne サイネ・ラァネ n.f.4 格 街灯を 「目的語」

anzündet, アン・ツンデット 3 単現(an|zünden)v.t (et-4 に) 火を灯す 「動詞」

so ゴー adv. すると 「副詞」

ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である 「動詞」

es, エス pron それは 「主語」

als +接続法 アルス conj. あたかも~のような 「補語」

setze セッツェ 接・3 単現(setzen)v.t 置く、据える 「動詞」

er エア pron 彼が 「主語」

XIV

einen neuen Stern アイネン・ノイェン・シュテアン n.m.4 格 新しい星を 1 つ 「目的語」
 in die Welt, イン・デー・ヴァェルト adv. この世に 「副詞句」
 oder オーダー conj. または
 eine Blume. アイネ・ブルメ n.f.4 格 花を 1 輪 「目的語」

彼が街灯を消すと、星や花たちが眠りにつく。

Wenn er seine Laterne auslöscht, so schlafen Stern oder Blume ein.

「副詞節」, 「副詞」 「動詞句」 「主語」 「動詞句」

Wenn ウェン conj. ～するとき 「副詞節」
 er エア pron 彼が 「主語」
 seine Laterne サイネ・ラテアネ n.f.4 格 街灯を 「目的語」
 auslöscht, アウス・レント 3 単現(aus|löschen)v.t 消す、抹消する 「動詞句」
 so ザー adv. すると 「副詞」
 schlafen ...ein. シュラーフェン...アイン 3 複現(ein|schlafen)v.i 眠りにつく 「動詞句」
 Stern oder Blume シュテアン・オーダー・ブルメ pl.n 星や花たちが 「主語」
 または : A または B

「A か B のどちらか」という意味の他に、「A と B の両方」を表すこともある

これはとてもきれいな仕事だ。

Das ist eine sehr hübsche Beschäftigung.

「主語」 「動詞」 「補語」

Das ダス pron これは 「主語」
 ist イスト 3 単現(sein)v.i ～である 「動詞」
 eine sehr hübsche アイネ・ゼーア・ヒュプ・シェ adj.f.1 格 とてもきれいな 「形容詞句」
 Beschäftigung. ベシェフチゲンク n.f.1 格 仕事 「補語」

それはきれいだから、その上さらに、本当に役に立つ仕事なんだ。

Es ist auch wirklich nützlich, da es hübsch ist.

「主語」 「動詞」 「補語」, 「副詞節」

Es エス pron それは 「主語」
 ist イスト 3 単現(sein)v.i ～である 「動詞」
 auch アウフ adv. ～もまた 「副詞」
 wirklich nützlich, ヴィルクリッヒ・ニュッツリヒ adj. 本当に役に立つ 「補語」
 da ダー conj. ～なので 「副詞節」
 es エス pron それは 「主語」
 hübsch ヒュプ・シュ adj. きれいな 「補語」
 ist. イスト 3 単現(sein)v.i ～である 「動詞」

または : A または B

XIV

王子さまは、この星について時、点灯夫にうやうやしく挨拶をした。

Als er auf dem Planeten ankam, grüßte er den Laternenanzünder ehrerbietig.

「副詞節」, 「動詞」 「主語」 「目的語」 「副詞」

Als アルス conj. (過去のある時点で) ~した時 「副詞節」

er エア pron 王子様が 「主語」

auf dem Planeten アウフ・デーム・プ ラネーテン adv. この星に 「間接目的語」

ankam, アン・カム 3 単過(an|kommen)v.i 着いた 「動詞句」

grüßte グリューステ 3 単過(grüßen)v.t(j-4 に) 挨拶した 「動詞」

er エア pron 彼は 「主語」

den Laternenanzünder デン・ラテアネン・アンツンダー n.m.4 格 点灯夫に 「目的語」

ehrerbietig. エーラー・ビー・テヒ adv. うやうやしく 「副詞」

「こんにちは。どうして今きみは街灯を消したの？」

»Guten Tag. Warum hast Du Deine Laterne eben ausgelöscht?«

《「挨拶」 | 「副詞」 「動詞句」 「主語」 「目的語」 「副詞」 「動詞句」》

»Guten Tag. グーテン・ターク adv. こんにちは 「挨拶」

Warum ヲアルム adv. どうして 「副詞」

hast ...ausgelöscht?« ハスト...アウスグェロシュト 2 単現・完了形(aus|löschen)v.t 消した 「動詞句」

Du ドゥー pron 君は 「主語」

Deine Laterne ダイネ・ラテアネ n.f.4 格 街灯を 「目的語」

eben エーベン adv. 今、たった今 「副詞」

「指示があるんだ」と、点灯夫が答えた。「こんにちは」

»Ich habe die Weisung«, antwortete der Anzünder. »Guten Tag.«

《「主語」 「動詞」 「目的語」》, 「動詞」 「主語」, 《「挨拶」》

»Ich イヒ pron おれは 「主語」

habe ハーベ 1 単現(haben)v.t ~がある 「動詞」

die Weisung«, デー・イー・グァイスンク n.f.4 格 指示 「目的語」

antwortete アントヴァアテテ 3 単過(antworten)v.i 答えた 「動詞」

der Anzünder. デア・アンツェンダー n.m.1 格 点灯夫が 「主語」

»Guten Tag.«グーテン・ターク adv. こんにちは 「挨拶」

「何なの？その指示って」

»Was ist das, die Weisung?«

《「補語」 「動詞」 「主語」》

»Was ヲアス pron 何 「補語」

ist. イスト 3 単現(sein)v.i ~である 「動詞」

XIV

das, die Weisung?« ダス・デー・ウァイズング n.f.1 格 その指示は 「主語」

「指示は、街灯を消すことだよ。今晚は」

»Die Weisung, meine Laterne auszulöschen. Guten Abend.«

《「主語」「補語」 | 「挨拶」》

»Die Weisung, デー・ウァイズング n.f.1 格 その指示は 「主語」

zu 不定句 n. ～すること 「補語」

meine Laterne マイネ・ラテアネ n.f.4 格 街灯を 「目的語」

auszulöschen. アウス・ツァー・ロッシェン zu 不定詞 v.t 消す 「動詞句」

Guten Abend.« グーテン・アーベント adv. 今晚は 「挨拶」

そう言って、彼はまたそれを点灯した。

Und er zündete sie wieder an. Und 「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」「動詞句」

Und ウント conj. そして

er エア pron 彼は 「主語」

zündete ...an. ツンデテ...アン 3 単過(an|zünden)v.t 火をつけた 「動詞句」

sie シー pron.f (Laterne の代用) それを 「目的語」

wieder ヴァーダー adv. また 「副詞」

「だけど、どうして今またそれを点灯したの？」

»Aber warum hast Du sie soeben wieder angezündet?«

《Aber 「副詞」「動詞句」「主語」「目的語」「動詞句」「副詞句」》

»Aber アーバー conj. だけど

warum ヴァールム adv. どうして 「副詞」

hast ...angezündet?« ハスト...アン・ゲ・ツンデット 2 単現・完了形(an|zünden)

v.t 火をつけた 「動詞句」

Du ドゥー pron 君は 「主語」

sie シー pron.f (Laterne の代用) それを 「目的語」

soeben wieder ソーエーベン・ヴァーダー adv. たった今再び 「副詞句」

「それが指示なんだよ」と、点灯夫が答えた。

»Das ist die Weisung.«, antwortete der Anzünder.

《「主語」「動詞」「補語」》, 「動詞」「主語」

»Das ダス pron それが 「主語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i ～である 「動詞」

die Weisung.«, デー・ウァイズング n.f.1 格 指示 「補語」

XIV

antwortete アントヴ ァアテ 3 単過(antworten)v.i 答えた 「動詞」
 der Anzündler. デア・アンツェンダー n.m.1 格 点灯夫が 「主語」

「理解できないなあ」と、王子様が言った。

»Ich verstehe nicht«, sagte der kleine Prinz. 《「主語」「動詞句」》, 「動詞」「主語」
 »Ich イヒ pron 僕は 「主語」
 verstehe nicht«, フェアシュテエ・ニヒト 1 単現・否定(verstehen)
 v.t 分からない、理解できない 「動詞句」
 sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 der kleine Prinz. デア・クライネ・プリンツ n.m 王子様が 「主語」

「理解すべきものなんて何もないよ」と、点灯夫が言った。「指示は指示さ。こんにちは」

»Da ist nichts zu verstehen« sagte der Anzündler. »Die Weisung ist eben die Weisung. Guten Tag.« 《「動詞句」「主語」》, 「動詞」「主語」, 《「主語」「動詞」「補語」 | 「挨拶」》
 »Da ist ダー・イスト 3 単現(da sein)v.i ~がある 「動詞句」
 nichts zu verstehen« ニヒツ・ツァー・フェアシュテエン pron 理解すべきものは何も~ない 「主語」
 名詞+zu+不定詞 「~すべきもの」
 sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 der Anzündler. デア・アンツェンダー n.m.1 格 点灯夫が 「主語」
 »Die Weisung ティー・ヴァイスンク n.f.1 格 指示は 「主語」
 ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である 「動詞」
 eben die Weisung. エーベン・ティー・ヴァイスンク n.f.1 格 まさしく指示 「補語」
 eben エーベン adv. まさしく、ほかならぬ
 Guten Tag.« グーテン・ターク adv. こんにちは 「挨拶」

そう言って、彼はまた街灯を消した。

Und er löschte seine Laterne wieder aus.

Und 「主語」「動詞句」「目的語」「副詞」「動詞句」

Und ウント conj. そして
 er エア pron 彼は 「主語」
 löschte ...aus. レシテ...アウス 3 単過(aus|löschen)v.t 消した 「動詞句」
 seine Laterne サイネ・ラターネ n.f.4 格 街灯を 「目的語」
 wieder ヴァイダー adv. ふたたび、また 「副詞」

XIV

それから彼は赤い格子縞のハンカチで額を拭いた。

Dann trocknete er sich die Stirn mit einem rot karierten Taschentuch.

「副詞」「動詞句」「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」

Dann ダン adv. それから

「副詞」

trocknete ...sich トロクネテ...スィヒ 3 単過(sich・3 trocknen)

v.pr (自分の体の～を) 拭いた、乾かした

「動詞句」

er エア pron 彼は

「主語」

die Stirn ディー・シュティアン n.f.4 格 額を

「目的語」

mit ミット prep (3 格と) (道具) ～を使って

「副詞句」

einem rot karierten アイネム・ロート・カリアテン

adj.n.3 格 赤い格子縞の

「形容詞句」

rot ロート adj. 赤い、赤色の kariert カリアト adj. 格子縞の、方眼の、チェックの

Taschentuch. タッシェントウフ n.n.3 格 ハンカチ

「目的語」

「俺はここぞっとするような仕事をしているのさ。昔は、理にかなった仕事だったんだが」

»Ich tue da einen schrecklichen Dienst. Früher ging es vernünftig zu.

《「主語」「動詞」「副詞」「目的語」 | 「副詞」「動詞句」「補語」「主語」》

»Ich イヒ pron 俺は

「主語」

tue トゥエ 1 単現(tun)v.t (仕事を) している

「動詞」

da ダー adv. ここで

「副詞」

einen schrecklichen アイネン・シュレックリッヒェン

adj.m(schrecklich).4 格 ぞっとするような

「形容詞句」

Dienst. ディーンスト n.m.4 格 仕事を

「目的語」

Früher フリュアー adv. 以前は、昔は

「副詞」

ging ...zu. キング...ツァー 3 単過(zu|gehen)v.i (～の状態)で 進行していた

「動詞句」

es エス pron それは

「主語」

vernünftig フェアニュフチ adj. まともな、合理的な

「補語」

「朝には、火を消して、夕方には、火をつけていたものだ。」

Ich löschte am Morgen aus und zündete am Abend an.

《「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」 und 「動詞句」「副詞句」「動詞句」》

Ich イヒ pron 俺は

「主語」

löschte ...aus レシュテ...アウス 1 単過(aus|löschen)v.t (火を) 消した

「動詞句」

am Morgen アム・モアゲン adv. 朝に

「副詞句」

und ウント conj. そして

zündete ...an. チュンデテ...アン 1 単過(an|zünden)v.t (et-4 に) 火をつけた

「動詞句」

XIV

am Abend アム・アーベント adv. 夕方に

「副詞句」

「昼間の残りは休息のために使えたし、夜の残りは睡眠に使えたんだ。」

Den Rest des Tages hatte ich zum Ausruhn und den Rest der Nacht zum Schlafen...«

《「目的語」「動詞」「主語」「副詞句」 und 「目的語」「副詞句」》

Den Rest デン・レスト n.m.4 格 残りを

「目的語」

des Tages デス・ターゲス n.m.2 格 昼間の

「形容詞句」

hatte ハッテ 1 単過(haben)v.t 持っていた

「動詞」

ich イヒ pron 俺は

「主語」

zum Ausruhn ツーム・アウスルン adv.(Ausruhen) (目的) 休息のために

「副詞句」

und ウント conj. そして

den Rest デン・レスト n.m.4 格 残りを

「目的語」

der Nacht デア・ナハト n.f.2 格 夜の

「形容詞句」

zum Schlafen...« ツーム・シュラーフェン adv. (目的) 眠るために

「副詞句」

「それ以来、指示が変更されたの？」

»Seit damals wurde die Weisung geändert?« 《「副詞句」「動詞句」「主語」「動詞句」》

»Seit damals サイト・ダーマルス adv. それ以来

「副詞句」

wurde ...geändert?« ウルテ...ゲ・エンダー 3 単過・受動(ändern)

v.t 変えられた、変更された

「動詞句」

die Weisung デーイー・ヴァイズング n.f.1 格 指示は

「主語」

「指示は変更されていないんだ」と、点灯夫が言った。

»Die Weisung wurde nicht geändert« sagte der Anzünder.

《「主語」「動詞句」》, 「動詞」「主語」

»Die Weisung デーイー・ヴァイズング n.f.1 格 指示は

「主語」

wurde nicht geändert« ウルテ・ニヒト・ゲ・エンダー 3 単過・受動・否定(ändern)

v.t 変更されなかった

「動詞句」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

der Anzünder. デア・アンチュンダー n.m 点灯夫が

「主語」

「まさにそれが悲劇なんだ！」

»Das ist ja das Trauerspiel!

《「主語」「動詞」「補語」》

»Das ダス pron それが

「主語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である

「動詞」

ja ヤー adv. (強調) まさに、実は

「副詞」

XIV

das Trauerspiel! ダス・トロイアー・シュピール n.n.1 格 悲劇

「補語」

「惑星は毎年少しずつ速く回転するようになったけれども、指示は同じままなんだ。」

Der Planet hat sich von Jahr zu Jahr schneller und schneller gedreht und die Weisung ist die gleiche geblieben!« 《「主語」「動詞句」「副詞句」 und 「主語」「動詞句」「補語」》

Der Planet デア・プ・ラネト n.m 惑星は

「主語」

hat sich ...gedreht ハット・ズィヒッ...ゲトブレート 3 単現・完了形(sich-4 drehen)

v.pr 回転した

「動詞句」

von Jahr zu Jahr フォン・ヤール・ツウ・ヤール adv. 年々

「副詞句」

schneller und schneller シュネラー・ウント・シュネラー adv. 少しずつ速く

「副詞句」

und ウント conj. そして

die Weisung デー・イー・ヴァイスンク n.f 指示は

「主語」

ist ...geblieben!« イスト...ゲブリーベン 3 単現・完了形(bleiben)v.i 〜のままだった「動詞句」

die gleiche デー・イー・グライヘ adj.f.1 格 同一の (指示)

「補語」

「それで？」と、王子様は答えた。

»Und?«, sagte der kleine Prinz.

《「応答」》, 「動詞」「主語」

»Und?«, ウント conj. それで

「応答」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

der kleine Prinz. デア・クライン・プリンツ n.m 王子さまは

「主語」

「それで、今では惑星は1分ごとに1回転しているので、俺には1秒の休憩もない」

»Und jetzt, da er in der Minute eine Umdrehung macht, habe ich nicht mehr eine Sekunde Ruhe. 《Und 「副詞句」, 「動詞」「主語」「副詞句」「目的語」》

»Und ウント conj. それで

jetzt, イェツト adv. 今では

「副詞」

da ダー conj. 〜なので

「副詞節」

er エア pron (Der Planet の代用) 星は

「主語」

in der Minute イン・デ・ミヌーテ adv. 1分について

「副詞句」

eine Umdrehung アイン・ウムドレーウング n.f.4 格 1回転を

「目的語」

macht, マハト 3 単現(machen)v.t (動作を)する

「動詞」

habe ハーベ 1 単現(haben)v.t ある

「動詞」

ich イヒ pron 俺は

「主語」

nicht mehr ニヒト・メー adv. もう〜ない

「副詞句」

eine Sekunde Ruhe. アイン・ゼクンデ・ルーエ n.f.4 格 1秒の休憩

「目的語」

XIV

「1 分ごとに、火をつけたり消したりしているのさ」

Jede Minute zünde ich einmal an, lösche ich einmal aus!«

《「副詞句」「動詞句」「主語」「副詞」「動詞句」, 「動詞句」「主語」「副詞」「動詞句」》

Jede Minute イェーテ・ミヌテ n.f.4 格 1 分ごとに 「副詞句」

zünde ...an, チュンテ ...アン 1 単現(an| zünden)v.t 火をつけている 「動詞句」

ich イヒ pron 俺は 「主語」

einmal アインマル adv. 1 度 「副詞」

lösche ...aus! レッシェ...アウス 1 単現(aus| löschen)v.t 消している 「動詞句」

ich イヒ pron 俺は 「主語」

einmal アインマル adv. 1 度 「副詞」

「それはおかしい！君の所では、1 日の長さが 1 分しかないなんて！」

»Das ist drollig! Die Tage dauern bei dir eine Minute!«

《「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞」「副詞句」「補語」》

»Das ダス pron それは 「主語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である 「動詞」

drollig! ドロリヒ adj. 奇妙な、おかしい 「補語」

Die Tage テー・ターゲ pl.n.m.1 格 日々が 「主語」

dauern ダウアーン 3 複現 v.i (時間的に) 続く、(時間が) ~の長さである 「動詞」

bei dir バイ・ディア adv. 君のところでは 「副詞句」

eine Minute!« アイネ・ミヌテ n.f.1 格 1 分 「補語」

「少しもおかしくないよ」と、点灯夫は言った。「僕たちが話し始めて、もう 1 ケ月になる」

»Das ist ganz und gar nicht drollig«, sagte der Anzünder. »Das ist nun schon ein Monat,
dass wir miteinander sprechen.«

《「主語」「動詞」「補語」》, 「動詞」「主語」, 《「動詞」「補語」「主語」》

»Das ダス pron それは 「主語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である 「動詞」

ganz und gar nicht drollig«, ガンツ・ウント・ガール・ニヒト・ドロリヒ adj. 全くおかしくない 「補語」

ganz und gar ガンツ・ウント・ガール adv. (強調) まったく

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」

der Anzünder. デア・アンチュンダー n.m 点灯夫が 「主語」

»Das ダス pron 仮の主語 (真の主語は dass 以降)

ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である 「動詞」

nun schon ヌン・ショーン adv. いまやもう 「副詞句」

ein Monat, アイン・モナト n.m.1 格 1 ケ月 「補語」

XIV

dass ダス conj. ～以来（～してからの時間は）

wir ヱーア pron 僕たちが

miteinander ミットアインダー adv. 一緒に

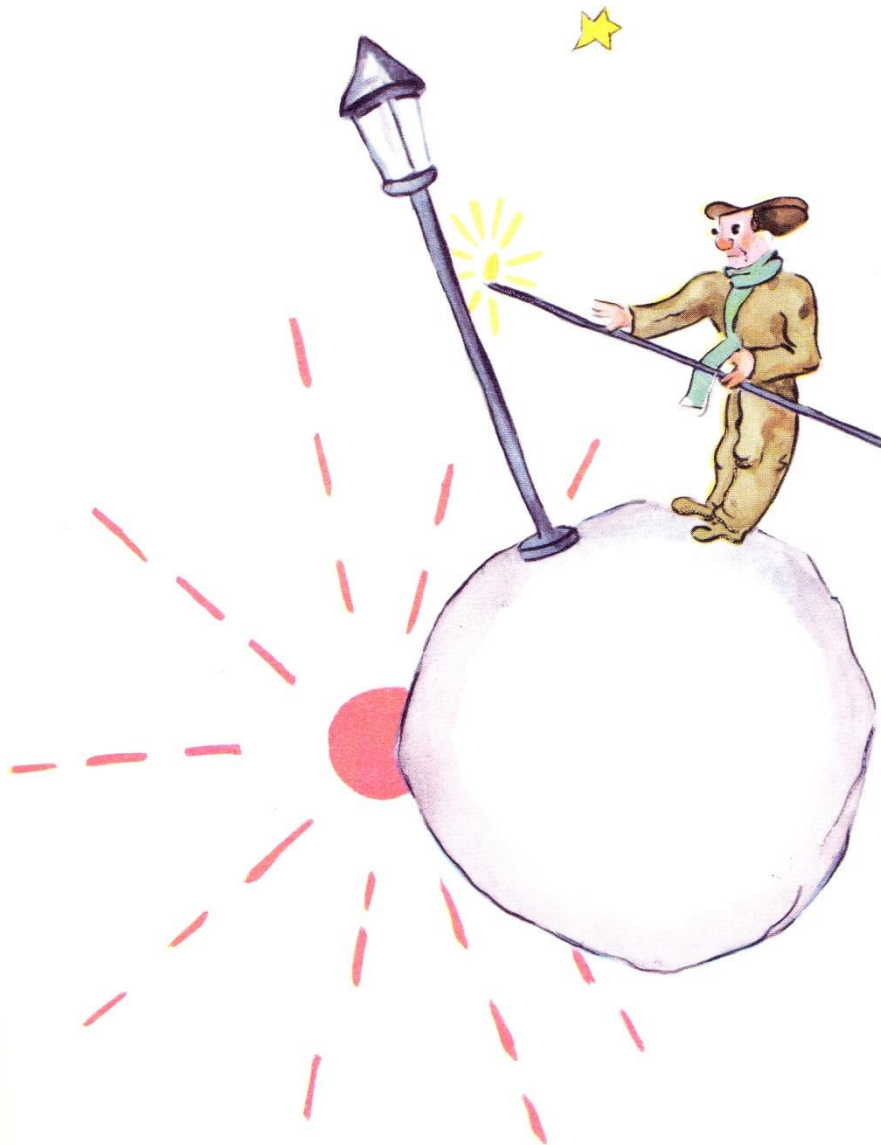
sprechen.« シュプレヒェン 1 複現 v.i 話す

「主語」

「主語」

「副詞」

「動詞」



Je fais là un métier terrible.

XIV

「1ヶ月だって？」

»Ein Monat?«

《「補語」》

»Ein Monat?« アイン・モナト n.m.1 格 1ヶ月

「補語」

「そうだよ、30分さ！つまり、30日だ！こんばんは」

»Ja, dreißig Minuten. Dreißig Tage! Guten Abend.«

《「応答」, 「補語」 | 「補語」 | 「挨拶」》

»Ja, ヤー adv. そうだよ

「応答」

dreißig Minuten. ドライスイヒ・ミヌーテン pl.n.f.1 格 30分

「補語」

Dreißig Tage! ドライスイヒ・ターゲ pl.n.m.1 格 30日

「補語」

Guten Abend.« グーテン・アーベント adv. こんばんは

「挨拶」

そう言って、また街灯に火をつけた。

Und er zündete seine Laterne wieder an.

Und 「主語」「動詞句」「目的語」「副詞」「動詞句」

Und ウント conj. そして

er エア pron 彼は

「主語」

zündete ...an. ツュンデテ...アン 3 単過(an|zünden)v.t 火をつけた

「動詞句」

seine Laterne サイネ・ラターネ n.f.4 格 街灯を

「目的語」

wieder ヴァイダー adv. ふたたび

「副詞」

王子さまは彼をじっと見た。そしてこれほど指示に忠実に従うこの点灯夫を好きになった。

Der kleine Prinz sah ihm zu, und er liebte diesen Anzünder, der sich so treu an seine Weisung hielt.

「主語」「動詞句」「間接目的語」und 「主語」「動詞」「目的語」

Der kleine Prinz デア・クライネ・プリンツ n.m 王子さまは

「主語」

sah ...zu, サー...ツァー 3 単過(zu|sehen)v.i じっと見た、見守った

「動詞句」

ihm イム pron.3 格 彼を

「間接目的語」

und ウント conj. そして

er エア pron 彼は

「主語」

liebte リーブテ 3 単過(lieben)v.t 好きになった

「動詞」

diesen Anzünder, デイゼン・アンツェンダー n.m.4 格 この点灯夫を

「目的語」

der デア pron (主語) ～する

「形容詞節」

sich ...hielt. スィヒト...ヒールト 3 単過(sich-4 an et-4 halten)

v.pr (何4に) 従う

「動詞句」

so treu ザー・トロイ adv. それほど忠実に

「副詞句」

an seine Weisung アン・サイネ・ヴァイスンク adv. 指示に

「間接目的語」

XIV

彼はむかし椅子を動かして何度も見たことがある、日の入りのことを思い出した。

Er erinnerte sich der Sonnenuntergänge, die er einmal gesucht hatte und um deretwillen er seinen Sessel rückte.

Er エア pron 彼は 「主語」

erinnerte sich エア^ニエテ・ス^ニ イッヒ 3 単過(sich-4 et-2 erinnern)v.pr ~を思い出した 「動詞句」

der Sonnenuntergänge, デア・ゾ^ニ ネウンターゲンゲ pl.n.m.2 格 日の入りを 「目的語」

Sonnenuntergänge ゾ^ニ ネウンターゲンゲ pl.n.m(Sonnenuntergang) 日の入り

die デー^ニ pron.pl.4 格 それらを~する 「形容詞節」

er エア エア pron 彼は 「主語」

einmal アインマル adv. 昔、かつて 「副詞」

gesucht hatte ゲス^ニフト・ハッテ 3 単過・完了形(suchen)

v.t 見たことがあった 「動詞句」

und ウント conj. そして

um deretwillen ウム・デレツト・ウィレン adv. するために 「副詞句」

um+代名詞(der)+e(et)+willen → 副詞句 「~のために、~のおかげで」 そのために

er エア エア pron 彼は 「主語」

seinen Sessel サイネン・セッセル n.m.4 格 椅子を 「目的語」

rückte. リュックテ 3 単過(rücken)v.t 動かした 「動詞」

彼は友達を助けたいと思った。

Er wollte seinem Freund beispringen:

Er エア pron 彼は 「主語」

wollte ...beispringen: ウォルテ...ハイシュプ^ニ リンゲン 3 単過・願望(wollen+不定詞)

v.i(j-3 人を) 助けたいと思った 「動詞句」

seinem Freund サイネム・フロイント n.m.3 格 友達を 「間接目的語」

「ねえ、君が好きなきに休むことができる方法を知っているんだけど...」

»Weißt du ... ich kenne ein Mittel, wie du dich ausruhen könntest, wenn du wolltest...«

《「呼びかけ」, 「主語」 「動詞」 「目的語」》

»Weißt du ... ウァイスト・トゥ adv. ねえ 「呼びかけ」

ich イッヒ pron 僕は 「主語」

kenne ケネ 1 単現(kennen)v.t 知っている 「動詞」

ein Mittel, アイン・ミッテル n.n.4 格 ある方法を 「目的語」

wie ウィー conj. ~するような 「形容詞節」

du トゥー pron 君が 「主語」

XIV

dich ausruhen könntest, ディヒ・アウスルーエン・ケンテスト 接 II・2 単現・可能・推量(können+不定詞)

v.pr 休めるだろう

「動詞句」

wenn ウェン conj. ～するときに

「副詞節」

du トゥー pron 君が

「主語」

wolltest...« ウォルテスト 接 II・2 単現・仮定(wollen)v.t 望む 「動詞」

「いつだって休みたいよ」と、点灯夫が言った。

»Ich will immer«, sagte der Anzünder. 《「主語」「動詞句」「副詞」》, 「動詞」「主語」

»Ich イヒ pron 僕は

「主語」

will ウィル 1 単現・願望(wollen+不定詞 mich ausruhen)v.pr そうしたい

「動詞句」

immer«, イマー adv. いつでも

「副詞」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

der Anzünder. デア・アンチュンダー n.m 点灯夫が

「主語」

なぜなら、人は勤勉であると同時に怠け者でもあるから。王子さまは話を続けた。

Denn man kann treu und faul zugleich sein. Der kleine Prinz fuhr fort:

Denn 「主語」「動詞句」「補語」 | 「主語」「動詞句」

Denn デン conj. なぜならば

man マン n.m 人は

「主語」

kann ...sein. カン...ザイン 3 単現・可能性(können+不定詞)v.i ～になる可能性がある「動詞句」

treu und faul トロイ・ウント・ファウル adj. 忠実(勤勉)かつ怠け者の

「補語」

zugleich ツグライヒ adv. 同時に

「副詞」

Der kleine Prinz デア・クライン・プリンツ n.m 王子さまは

「主語」

fuhr fort: フーア・フォルト 3 単過(fort|fahren)v.i 話を続けた、立ち去った

「動詞句」

「君の星はこんなに小さいから、ジャンプ 3 回で一回り出来るね」

»Dein Planet ist so klein, dass Du mit drei Sprüngen herumkommst.

《「主語」「動詞」「補語」, dass 「主語」「動詞句」「副詞句」》

»Dein Planet ダイン・プラネット n.m 君の星は

「主語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i ～である

「動詞」

so klein, ソー・クライン adj. こんなに小さい

「補語」

dass ダス conj. (so..dass) その結果

Du トゥー pron 君は

「主語」

mit drei Sprüngen ミット・ドライ・シュプ ルンゲン adv. (手段) ジャンプ 3 回で

「副詞句」

herumkommst. ヘルム・コムスト 2 単現(herum|kommen)v.i 一回りする

「動詞句」

XIV

「ずっと太陽を眺め続けるためには、君は非常にゆっくり歩きさえすればいいんだ。」

Du mußt nur langsam genug gehen, um immer in der Sonne zu bleiben.

《「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」, 「副詞句」》

Du トゥ pron 君は

「主語」

mußt nur ...gehen, ムスト・ヌー...ゲーエン 2 単現・推量・十分(müssen nur+不定詞)

v.i 歩きさえすればよい

「動詞句」

langsam genug ランゲザーム・ゲヌーク adv. 非常にゆっくりと

「副詞句」

um immer ...zu bleiben. ウム・イマー...ツァー・ブライベン zu 不定句(um +zu 不定句+ immer)

adv. (手段) いつも居るためには

「副詞句」

in der Sonne イン・デア・ゾネ adv. 太陽の中に、太陽を見て

「副詞句」

「君が休みたいと思ったら、歩けばいいんだ。それで、昼間は君が望むだけ長く続くんだ」

Willst Du dich ausruhen, dann gehst Du... und der Tag wird so lange dauern, wie Du willst.«

《「動詞句」「主語」「動詞句」, 「副詞」「動詞」「主語」

und 「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」, 「副詞節」》

Willst ...dich ausruhen, ヴィルスト...ディヒ・アウス・ルーエン 2 単現・疑問文・仮定(wollen+不定詞)

v.pr(sich+4 aus|ruhen) 休みたいのならば

「動詞句」

Du トゥ pron 君が

「主語」

dann ダン adv. それなら

「副詞」

gehst ゲースト 2 単現(gehen)v.i 歩きなさい

「動詞」

Du... トゥ pron 君は

「主語」

und ウント conj. そして

der Tag テア・ターク n.m 昼間は

「主語」

wird ...dauern, ヴィルト...ダウアーン 3 単未・推量(werden+不定詞)v.i 続くだろう

「動詞句」

so lange ザー・ロンゲ adj. それだけ長く

「副詞句」

wie ヴィー conj. (比喩) ~するように

「副詞節」

Du トゥ pron 君が

「主語」

willst.« ヴィルスト 2 単現(wollen)v.t 望む

「動詞」

「そんなことは、冗談にもならないね」と、点灯夫が言った。「この世で、俺が好きなのは眠ることだよ」

»Das hat nicht viel Witz«, sagte der Anzünder, »was ich im Leben liebe, ist der Schlaf.«

《「主語」「動詞句」「目的語」, 「動詞」「主語」, 《「主語」「動詞」「補語」》

»Das ダス pron それは

「主語」

hat nicht ハット・ニヒト 3 単現・否定(haben)v.t ~がない

「動詞句」

viel Witz«, フィール・ウィッツ n.m たくさんのジョーク、たくさんの知恵

「目的語」

XIV

sagte ザークテ 3 単過(sagen)v.t	言った	「動詞」
der Anzünder, デア・アンチュンダー	n.m 点灯夫が	「主語」
»was ヲース pron	(主語) ~するものは	「主語」
ich イヒ pron	俺が	「主語」
im Leben イム・レーベン	adv. この世で、人生で	「副詞句」
liebe, リーベ 1 単現(lieben)v.t	好む	「動詞」
ist イスト 3 単現(sein)v.i	~である	「動詞」
der Schlaf.« デア・シュラーフ	n.m.1 格 睡眠	「補語」

「それじゃあ、絶望的だね」と、王子様が言った。

»Dann ist es aussichtslos«, sagte der kleine Prinz.

《「副詞」「補語」「動詞」「主語」》, 「動詞」「主語」

»Dann ダン	adv. それじゃあ	「副詞」
ist イスト 3 単現(sein)v.i	~である	「動詞」
es エス pron	それは	「主語」
aussichtslos«, アウスジヒツロース	adj. 絶望的な	「補語」
sagte ザークテ 3 単過(sagen)v.t	言った	「動詞」
der kleine Prinz. デア・クライネ・プリンツ	n.m 王子様が	「主語」

「絶望的だよ」と、点灯夫が言った。「おはよう」

»Aussichtslos«, sagte der Anzünder. »Guten Tag.«

《「補語」》, 「動詞」「主語」, 《「挨拶」》

»Aussichtslos«, アウスジヒツロース	adj. 絶望的な	「補語」
sagte ザークテ 3 単過(sagen)v.t	言った	「動詞」
der Anzünder. デア・アンチュンダー	n.m 点灯夫が	「主語」
»Guten Tag.« グーテン・ターク	adv. おはよう	「挨拶」

そして街灯を消した。

Und er löschte seine Lampe aus.

Und 「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」

Und ウント conj. そして

er エア pron	彼は	「主語」
löschte ...aus. レシュテ...アウス 3 単過(aus löschen)v.t	消した	「動詞句」
seine Lampe サイネ・ランペ	n.f 街灯を	「目的語」

XIV

《この人は》と、王子さまは旅をしている間中ずっと心の中で思った。《この人は、他のだれからも、軽蔑されるだろうな。王様からも、見栄張り男やのん兵衛や実業家からも》

Der, sagte sich der kleine Prinz, während er seine Reise fortsetzte, der wird von allen anderen verachtet werden, vom König, vom Eitlen, vom Säufer, vom Geschäftsmann.

《「主語」》, 「動詞句」「主語」「副詞節」, 《「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」, 「副詞句」》

Der, デア pron この人は 「主語」
 sagte sich サークテ・ズィッヒ 3 単過(sich-4 sagen)v.pr 心の中で思った 「動詞句」
 der kleine Prinz, デア・クライネ・プリンツ n.m 王子さまは 「主語」
 während ヴァーレント conj. ～している間中 「副詞節」
 er エア pron 彼が 「主語」
 seine Reise サイネ・ライゼ n.f.4 格 旅を 「目的語」
 fortsetzte, フォルトゼッツテ 3 単過(fort|setzen)v.t 続けた 「動詞句」
 der デア pron この人は 「主語」
 wird ...verachtet werden, ヴィルト...フェアアハテット・ヴァアテン 3 単未・受動(verachten)
 v.t 軽蔑されるだろう 「動詞句」
 von allen anderen フォン・アレン・アンデレン adv. ほかのすべての人から 「副詞句」
 vom König, フォム・ケーニヒ adv. 王様から 「副詞句」
 vom Eitlen, フォム・アイトレン adv. 見栄張り男から 「副詞句」
 vom Säufer, フォム・ザイフェ adv. のん兵衛から 「副詞句」
 vom Geschäftsmann. フォム・ゲシェフツマン adv. 実業家から 「副詞句」

それなのに彼は、僕が滑稽だと思わない唯一の人だな。

Dabei ist er der einzige, den ich nicht lächerlich finde. 「副詞」「動詞」「主語」「補語」

Dabei ダバイ adv. (譲歩) それなのに、それにもかかわらず 「副詞」

ist イスト 3 単現(sein)v.i ～である 「動詞」

er エア pron 彼は 「主語」

der einzige, デア・アインツィゲ adj.m.1 格 唯一の (人) 「補語」

den テン pron.m.4 格 (目的語) ～する 「形容詞節」

SVOC の構文 (O と C は、性・数及び格が一致する)

ich イヒ pron 僕が 「主語」

nicht lächerlich ニヒト・レツヒャーリヒ adj.4 格 滑稽でない 「補語」

finde. フィンデ 1 単現(finden)

v.t (j-4/et-4+様態を示す語句：補語) ～と思う 「動詞」

XIV

それは、もしかしたら、彼は自分以外のことに従事しているからなのだろう。

Das kommt vielleicht daher, weil er sich mit anderen Dingen beschäftigt statt mit sich selbst.

「主語」「動詞句」「副詞」「動詞句」, 「副詞節」

Das ダス pron それは

「主語」

kommt ...daher, コムト...ダヘア 3 単現(daher | kommen)v.i (むこうから) やってくる「動詞句」

vielleicht フライヒト adv. ひょっとしたら、ことによると

「副詞」

weil ウェイル conj. ~なので

「副詞節」

er エア pron 彼は

「主語」

sich ...beschäftigt スィヒ...ベシェフト 3 単現(sich-4 beschäftigen)

v.pr (mit et-3 に) 従事している

「動詞句」

mit anderen Dingen ミット・アンデレン・デイングエン adv. 他のことに

「間接目的語」

statt シタット prep ~ではなく

「副詞句」

mit sich selbst. ミット・ズィヒ・ゼルブスト adv. 自分自身のことに

「副詞句」

彼は惜別の溜息を發し、さらに思った。

Er stieß einen Seufzer des Bedauerns aus und sagte sich noch:

「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」 und 「動詞句」「副詞」

Er エア pron 彼は

「主語」

stieß ...aus シュティース...アウス 3 単過(aus | stoßen)v.t (声を) 發した

「動詞句」

einen Seufzer アイネン・ゾイフツァー n.m.4 格 溜息を

「目的語」

des Bedauerns デス・ベダウアーンス n.n.2 格 惜別の

「形容詞句」

und ウント conj. そして

sagte sich サークテ・ズィヒ 3 単過(sich-4 sagen)v.pr 心の中で思った

「動詞句」

noch: ノッホ adv. さらに

「副詞」

惜別 せきべつ : 別れを惜しむこと

彼は、僕が友達にできたかもしれない、唯一の人だ。

Der ist der einzige, den ich zu meinem Freund hätte machen können.

「主語」「動詞」「補語」

Der デア pron.1 格 彼は

「主語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である

「動詞」

der einzige, デア・アイツィゲ adj.m.1 格 唯一の (人)

「補語」

den デン pron.4 格 彼を~する

「形容詞節」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

zu meinem Freund ツー・マイネム・フロイント adv. 僕の友達に

「間接目的語」

hätte machen können. ヘッテ・マヘン・ケネ 接 II・1 単現・完了形・可能性・推量(können+不定詞)

XIV

v.t ~にできたかもしれない

「動詞句」

だけど彼の惑星は本当に小さすぎる。二人分としては、場所が足りない。

Aber sein Planet ist wirklich zu klein. Es ist nicht viel Platz für zwei...

Aber 「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞」「補語」

Aber アーバー conj. しかし

sein Planet サイン・プラネート n.m 彼の惑星は

「主語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である

「動詞」

wirklich zu klein. ウィルクリヒ・ツァー・クライン adj. 本当に小さすぎる

「補語」

Es エス pron あれは

「主語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である

「動詞」

nicht viel Platz ニヒト・フィール・プラッツ n.m 不十分な場所

「補語」

für zwei... フュア・ツヴァイ adv. 二人に対して

「副詞句」

王子様が認めたくなかったこと、それは、とりわけ 24 時間の間に 1440 回の日の入りが見られるがゆえに、祝福されたこの惑星を去り難かったことだった。

Was sich der kleine Prinz nicht einzugestehen wagte, war, dass er diesem gesegneten Planeten nachtrauerte, besonders der tausendvierhundertvierzig Sonnenuntergänge wegen, in vierundzwanzig Stunden!

「主語」「動詞」「補語」

Was ヴァス pron ことは

「主語」

sich ...nicht einzugestehen wagte, スィヒヒ...ニヒト・アイン・ツァー・ゲシュテエーエン・ヴァークテ

zu 不定句・否定・意欲(sich-4 wagen+不定詞)v.t 認めたくなかった 「形容詞句」

der kleine Prinz デア・クライン・プリンツ n.m 王子様が

「主語」

war, ヴァール 3 単過(sein)v.i ~ だった

「動詞」

dass ダス conj. ~ということ

「補語」

er エア pron 彼は

「主語」

diesem gesegneten Planeten デーイーセム・ゲセーグ・ネテン・プラネーテン

n.m.3 格 この祝福された惑星のことを

「間接目的語」

nachtrauerte, ナーハ・トラウエテ 3 単過(nach|trauern)

v.i (et-3 を)残念に思っていた

「動詞句」

besonders ベゾンダース adv. とりわけ

「副詞」

der デア adj.pl.2 格 ~の

「形容詞句」

tausendvierhundertvierzig Sonnenuntergänge

タウゼント・フィアフンダート・フィアツィヒ・ゾネウンターゲング

pl.n.m.2 格 1440 回の日の入り

「目的語」

wegen, ヴェーゲン prep (しばしば後置) ~のゆえに

「副詞句」

XV

in vierundzwanzig Stunden! イン・フィーア・ウント・ツヴァンツィヒ・シュトウンデーン

adv. 24 時間の間に

「副詞句」

XV

6 番目の惑星は、10 倍も大きかった。そこには老紳士が住んでいて、馬鹿でかい本を書いていた。

Der sechste Planet war zehnmal so groß. Er war von einem alten Herrn bewohnt, der ungeheure Bücher schrieb.

「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞句」「副詞句」, 「主語」「目的語」「動詞」

Der sechste デア・ゼクステ adj.m.1 格 6 番目の

「形容詞句」

Planet プラネート n.m.1 格 惑星は

「主語」

war ヲアール 3 単過(sein)v.i ~ だった

「動詞」

zehnmal so groß. ツェンマル・ゾー・グロース adj. 10 倍も大きな

「補語」

Er エア pron その惑星は

「主語」

war ...bewohnt, ヲアール...ヘウ・オント 3 単過・状態受動(bewohnen)v.i 住まれていた

「動詞句」

von einem alten Herrn フォン・アイネン・アルテン・ヘン adv. 1 人の老紳士によって

「副詞句」

老紳士を主語として翻訳する

der デア pron 彼は

「主語」

ungeheure ウンゲホイレ adj.n.pl(ungeheuer).4 格 巨大な

「形容詞」

ungeheuer ウンゲホイアー adj. 巨大な (ungeheuer- + 活用語尾)

Bücher ビューヒャー pl.n.n.4 格 本を

「目的語」

schrieb. シュリーフ 3 単過(schreiben)v.t 書いていた

「動詞」

「おや、探検家がやってきたぞ!」と彼は、王子様を見て、叫んだ。

»Da schau! Ein Forscher!« rief er, als er den kleinen Prinzen sah.

《「副詞」「動詞」 | 「主語」》, 「動詞」「主語」, 「副詞節」

»Da ダー adv. そこを

「副詞」

schau! シャウ 命・2 単現(schauen)v.i 見なさい

「動詞」

da schau! ダー・シャウ int. おや、まあ

Ein Forscher!« アイン・フォアシャー n.m 調査者、探検家

「主語」

rief リーフ 3 単過(rufen)v.i 叫んだ

「動詞」

er, エア pron 彼は

「主語」

als アルス conj. ~したとき

「副詞節」

er エア pron 彼は

「主語」

den kleinen Prinzen デン・クライネン・プリンツェン n.m.4 格 王子様を

「目的語」

XV

sah. ザー 3 単過(sehen)v.t 見た

「動詞」

王子さまは机に腰を下ろして、少し一息ついた。もうすでにそれほど沢山の旅行をしてきたのだった。

Der kleine Prinz setzte sich an den Tisch und verschnaufte ein wenig. Er war schon so viel gereist!

「主語」「動詞句」「副詞句」 und 「動詞」「副詞句」 | 「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」

Der kleine Prinz デア・クライネ・プリンツ n.m 王子さまは 「主語」

setzte sich ゼッツテ・スイヒ 3 単過(sich-4 setzen)v.pr 腰を下ろした 「動詞句」

an den Tisch アン・デーン・ティッシュ adv. 机に 「副詞句」

und ウント conj. そして

verschnaufte フェアシュノフテ 3 単過(verschnaufen)v.i 一息ついた 「動詞」

ein wenig. アイン・ウエニヒ adv. 少し 「副詞句」

Er エア pron 彼は 「主語」

war ...gereist! ヴァール...ゲライスト 3 単過・完了形(reisen)v.i 旅行してきた 「動詞句」

schon ショーン adv. すでに 「副詞」

so viel ザー・フィール adv. それほどたくさん 「副詞句」

「どこから来たのかね？」と、老紳士が尋ねた。「その大きい本はなんですか？」と、王子様が言った。「そこで、何をしていますのですか？」

»Woher kommst Du?« fragte ihn der alte Herr. »Was ist das für ein dickes Buch?« sagte der kleine Prinz. »Was machen Sie da?«

《「副詞」「動詞」「主語」》, 「動詞」「目的語」「主語」,

《「補語」「動詞」「主語」》, 「動詞」「主語」, 《「目的語」「動詞」「主語」「副詞」》

»Woher ウォヘア adv. どこから 「副詞」

kommst コムスト 2 単現(kommen)v.i 来る 「動詞」

Du?« トゥ pron 君は 「主語」

fragte フラーケ 3 単過(fragen)v.t 尋ねた 「動詞」

ihn イン pron.4 格 彼に 「目的語」

der alte Herr. デア・アルテ・ヘア n.m 老紳士が 「主語」

»Was ヴァス pron 何 「補語」

ist イスト 3 単現・疑問文(sein)v.i ~ですか? 「動詞」

das für ein dickes Buch?« ダス・フュア・アイン・ディッケス・ブーフ n.n.1 格 その大きな本は 「主語」

sagte ザーケ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」

der kleine Prinz. デア・クライネ・プリンツ n.m 王子さまは 「主語」

»Was ヴァス pron 何を 「目的語」

XV

machen マヘン 3 複現 v.t している	「動詞」
Sie シー pron (2 人称敬称単数・複数) あなたは	「主語」
da?« ダー adv. そこで	「副詞」

「わしは地理学者じゃよ」と、老紳士が言った。

»Ich bin Geograph«, sagte der alte Herr.	《「主語」「動詞」「補語」》, 「動詞」「主語」
»Ich イヒ pron 私は	「主語」
bin ビン 1 単現(sein)v.i 〜である	「動詞」
Geograph«, ゲオグラフ n.m 地理学者	「補語」
sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
der alte Herr. デア・アルテ・ヘア n.m 老紳士が	「主語」

「その地理学者って、何なの？」

»Was ist das, ein Geograph?«	《「補語」「動詞」「主語」》
»Was ヴァス pron 何?	「補語」
ist イスト 3 単現(sein)v.i 〜である	「動詞」
das, ダス pron それは	「主語」
ein Geograph?« アイン・ゲオグラフ n.m 地理学者というのは	「主語」

「それは、どこに海や大河や町や山や砂漠があるかを知っている学者のことじゃよ」

»Das ist ein Gelehrter, der weiß, wo sich die Meere, die Ströme, die Städte, die Berge und die Wüsten befinden.«	《「主語」「動詞」「補語」》
»Das ダス pron それは	「主語」
ist イスト 3 単現(sein)v.i 〜である	「動詞」
ein Gelehrter, アイン・ゲレアター n.m(Gelehrte).1 格 学者	「補語」
Gelehrte ゲレアテ n.m, n.f 学者、識者、物知り (Alte と同じ形容詞変化)	
der デア pron (主語) 〜する	「形容詞節」
weiß, ヴァイス 3 単現(wissen)v.t 知っている	「動詞」
wo ヴォー adv. どこに〜するかということを	「目的語」
sich ...befinden.« スィヒ...ベフィンデン 3 複現(sich-4 befinden)	
v.pr (〜の場所に) ある	「動詞句」
die Meere, die Ströme, die Städte, die Berge und die Wüsten	
デイー・マーレ・デイー・シュトロメ・デイー・シュテテ・デイー・ベアゲ・ウント・デイー・グュステン	
(Meer, Strom, Stadt, Berg, Wüste)	
pl.n 海や大河や町や山や砂漠が	「主語」

XV

名詞化した形容詞 格変化例 alte	男性名詞・単数	女性名詞・単数	複数名詞 性別なし
1 格 は(が)	der Alte	die Alte	die Alten
2 格 の	des Alten	der Alten	der Alten
3 格 に	dem Alten	der Alten	den Alten
4 格 を	den Alten	die Alte	die Alten

名詞化した形容詞 格変化例 alte	男性名詞・単数	女性名詞・単数	複数名詞 性別なし
1 格 は(が)	ein Alter	eine Alte	Alte
2 格 の	eines Alten	einer Alten	Alter
3 格 に	einem Alten	einer Alten	Alten
4 格 を	einen Alten	eine Alte	Alte

「それはとても興味深いですね」と、王子様が言った。「それこそ本当の仕事だ！」

»Das ist sehr interessant«, sagte der kleine Prinz. »Endlich ein richtiger Beruf!«

《「主語」「動詞」「補語」》, 「動詞」「主語」, 《「感嘆」》

»Das ダス pron それは 「主語」
 ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である 「動詞」
 sehr interessant«, ゼア・インテラント adj. とても興味深い 「補語」
 sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 der kleine Prinz. » デア・クライン・プリンツ n.m 王子さまは 「主語」
 Endlich エントリッヒ adv. ついに、それこそ 「副詞」
 ein richtiger Beruf!« アイン・リヒター・ベルフ n.m 本当の仕事 「感嘆」

そして、彼は地理学者の惑星の上を見回した。

Und er warf einen Blick um sich auf den Planeten des Geographen.

Und 「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」

Und ウント conj. そして
 er エア pron 彼は 「主語」
 warf ヴァーフ 3 単過(werfen)v.t 投げた 「動詞」
 einen Blick アイン・ブリック n.m.4 格 視線を 「目的語」

XV

um sich ウム・ズィヒ adv. 自分の周りに 「副詞句」

auf den Planeten アウフ・デーン・プラーネテン adv. 惑星の上に 「副詞句」

des Geographen. デス・ゲオグラフェン n.m.2 格 地理学者の 「形容詞句」

彼はこれほど威厳のある惑星をいままでに一度も見たことがなかった。

Er hatte noch nie einen so majestätischen Planeten gesehen.

「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」

Er エア pron 彼は 「主語」

hatte noch nie ...gesehen. ハッテ・ノッホ・ニー...ゲゼーエン 3 単過・完了形・否定(sehen)

v.t いままでに一度も見たことがなかった 「動詞句」

einen so majestätischen Planeten アイネン・ゾー・マエステーチシェン・プラーネテン

n.m.4 格 これほど威厳のある惑星を 「目的語」

「とても美しいですね、あなたの惑星は。ここには、大洋もありますか？」

»Er ist sehr schön, Euer Planet. Gibt es da auch Ozeane?«

《「動詞」「補語」「主語」 | 「動詞句」「副詞」「主語」》

»Er エア pron 仮の主語（真の主語は Euer Planet）

ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である 「動詞」

sehr schön, ゼーア・シェーン adj. とても美しい 「補語」

Euer Planet. オイー・プラーネ ン.m.1 格 あなたの惑星は 「主語」

Euer オイー pron （二人称敬称単数・複数 Ihr の所有代名詞）あなた（がた）の

Gibt es キープト・エス 3 単現・非人称・存在(es geben et-4/j-4)v.h ~がある 「動詞句」

da ダー adv. そこに 「副詞」

auch Ozeane?« アウフ・オーツェアネ pl.n.m.1 格 大洋も 「主語」

「それを知ることが出来ないのじゃ」と、地理学者が言った。

»Das kann ich nicht wissen«, sagte der Geograph.

《「目的語」「動詞句」「主語」「動詞句」》, 「動詞」「主語」

»Das ダス pron それを 「目的語」

kann ...nicht wissen«, カン...ニヒト・ウィッセン 1 単現・可能・否定(wissen)

v.t 知ることができない 「動詞句」

ich イヒ pron わしは 「主語」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」

der Geograph. デア・ゲオグラフ n.m 地理学者が 「主語」

XV



「ああ！」と、王子さまはがっかりした。「それじゃあ、山は？」

»Ach!« Der kleine Prinz war enttäuscht. »Und Berge?«

《「感嘆」》, 「主語」「動詞」「補語」, 《Und 「目的語」》

»Ach!« アッハ int. ああ

「感嘆」

Der kleine Prinz デア・クライネ・プリンツ n.m 王子さまは

「主語」

war ヲアール 3 単過(sein)v.i ~ だった

「動詞」

enttäuscht. エントトイシュト adj. 失望した、がっかりした

「補語」

»Und ウント conj. そして

Berge?« ベアゲ pl.n.m 山

「目的語」

「それもやはり知ることが出来ないのじゃ」と、地理学者が言った。

»Das kann ich auch nicht wissen«, sagte der Geograph.

《「目的語」「動詞句」「主語」「動詞句」》, 「動詞」「主語」

»Das ダス pron それを

「目的語」

kann ...auch nicht wissen«, カン...アフ・ニヒト・ヴィッセン 1 単現・可能・否定(wissen)

v.t やはり知ることができない

「動詞句」

ich イヒ pron わしは

「主語」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

der Geograph. デア・ゲオグラフ n.m 地理学者が

「主語」

XV

「だけど、あなたは地理学者でしょう？——それじゃあ、町や川や砂漠はあるの？」

»Aber ihr seid Geograph! - Und Städte und Flüsse und Wüsten?«

《Aber「主語」「動詞」「補語」 | Und「目的語」》

»Aber アーバー conj. しかし

ihr イア pron.1 格 (二人称親称複数) あなたは

「主語」

seid ザイト 2 複現(sein)v.i ~である

「動詞」

Geograph! - ゲオグラフ n.m 地理学者

「補語」

Und ウント conj. それじゃあ

Städte シュテッテ pl.n.f (Stadt).4 格 町は

「目的語」

und ウント conj. そして

Flüsse フリュッセ pl.n.m(Fluss). 4 格 川は

「目的語」

und ウント conj. そして

Wüsten?« ヴェーステン pl.n.f (Wüste).4 格 砂漠は

「目的語」

「それもあることが出来ないのじゃ」

»Auch das kann ich nicht wissen.«

《「目的語」「動詞句」「主語」「動詞句」》

»Auch das アウフ・ダス pron それも

「目的語」

kann ...nicht wissen.« カン...ニヒト・ウィッセン 1 単現・可能・否定(wissen)

v.t 知ることができない

「動詞句」

ich イヒ pron わしは

「主語」

「だけど、あなたはそれでも地理学者なんでしょう？」

»Aber ihr seid doch Geograph!«

《Aber「主語」「動詞」「副詞」「補語」》

»Aber アーバー conj. しかし

ihr イア pron (二人称親称複数) あなたは

「主語」

seid ザイト 2 複現(sein)v.i ~である

「動詞」

doch ドッホ adv. それでも

「副詞」

Geograph!« ゲオグラフ n.m.1 格 地理学者

「補語」

「その通り」と、地理学者は言った。「だが、わしは探検家ではないのじゃ」

»Richtig«, sagte der Geograph, »aber ich bin nicht Forscher«.

《「応答」》, 「動詞」「主語」, 《aber「主語」「動詞」「補語」》

»Richtig«, リヒヒ adj. その通り

「応答」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

der Geograph, デア・ゲオグラフ n.m.1 格 地理学者が

「主語」

»aber アーバー conj. しかし

XV

ich イヒ pron わしは 「主語」
 bin nicht ビン・ニヒト 1 単現・否定(sein)v.i ～ でない 「動詞」
 Forscher. フォアシャー n.m 調査者、探検家 「補語」

この惑星には、探検家が全くいないのじゃ。

Es fehlt uns gänzlich an Forschern. 「動詞句」「間接目的語」「副詞」「直接目的語」
 Es fehlt エス・フェルト 3 単現・非人称(es fehlen j-3 an et-3 人-3 に何-3 が)
 v.h 不足している 「動詞句」
 uns ウンス pron(wir).3 格 我々には 「間接目的語」
 gänzlich ゲンツリヒ adv. まったく、完全に 「副詞」
 an Forschern. アン・フォアシャー n.m 探検家が 「直接目的語」
 副詞句だが、意味から考えて、「直接目的語」とする

地理学者は、街や、大河や、山や、海や大洋や砂漠を数えに行かないのだ。

Nicht der Geograph geht die Städte, die Ströme, die Berge, die Meere, die Ozeane und die Wüsten zählen. 「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」
 Nicht der Geograph ニヒト・デア・ゲオグラフ n.m 地理学者は～ない 「主語」
 geht ...zählen. ゲート...ツェーレン 3 単現・行く(gehen+不定詞)v.t ～を数えに行く 「動詞句」
 die Städte, デーイー・シュテテ pl.n.f.4 格 街を 「目的語」
 die Ströme, デーイー・シュトレメ pl.n.m.4 格 大河を 「目的語」
 die Berge, デーイー・ベアゲ pl.n.m.4 格 山を 「目的語」
 die Meere, デーイー・メーレ pl.n.n.4 格 海を 「目的語」
 die Ozeane デーイー・オーツェアーネ pl.n.m.4 格 大洋を 「目的語」
 und ウント conj. そして
 die Wüsten デーイー・ヴェーステン pl.n.f.4 格 砂漠を 「目的語」

地理学者は、重要な仕事をしているので、周囲を調査に行くことが出来ないのじゃ。

Der Geograph ist zu wichtig, um herumzustreunen. 「主語」「動詞」「補語」
 Der Geograph デア・ゲオグラフ n.m.1 格 地理学者は 「主語」
 ist イスト 3 単現(sein)v.i ～である 「動詞」
 zu wichtig, ツー・ヴィヒヒ adj. あまりに重要な 「補語」
 um herumzustreunen. ウム・ヘルム・ツー・シュトロイネン um+zu 不定詞・目的
 adv. あたりをうろつきまわるためには 「副詞句」
 zu..., um～zu 不定句 「あまりに... で、～できない」「～するにはあまりに... である」

XV

彼は事務机から離れることはない。その代わり、探検家たちを招き入れる。

Er verläßt seinen Schreibtisch nicht. Aber er empfängt die Forscher.

「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」 | Aber 「主語」「動詞」「目的語」

Er エア pron 彼は

「主語」

verläßt ...nicht. フェアレスト...ニヒト 3 単現・否定(verlassen)

v.t(et-4 何-4 から) 離れない

「動詞句」

seinen Schreibtisch サイネン・シュライプ ティッシェ n.m.4 格 事務机

「目的語」

Aber アーバー conj. しかし

er エア pron 彼は

「主語」

empfängt エンプ フェンクト 3 単現(empfangen)v.t (賓客を) 迎える、招き入れる

「動詞」

die Forscher. デーイー・フォアシャー pl.n.m.4 格 探検家たちを

「目的語」

彼は探検家たちに聞いて、その報告を記録する。

Er befragt sie und schreibt sich ihre Eindrücke auf.

「主語」「動詞」「目的語」 und 「動詞句」「目的語」「動詞句」

Er エア pron 彼は

「主語」

befragt ベフラークト 3 単現(befragen)v.t(j-4 人-4 に) 尋ねる

「動詞」

sie ジー pron.pl.4 格 彼らに

「目的語」

und ウント conj. そして

schreibt sich ...auf. シュライフト・ト・ズィット...アウフ 3 単現(sich-4 auf|schreiben)

v.pr 記録する、書き留める

「動詞句」

ihre Eindrücke イーレ・アイントリュッケ pl.n.m.4 格 彼らの報告を

「目的語」

Eindrucke アイントリュック n.m 印象、感銘

そして、ある探検家の報告が注目すべきであると思われたら、地理学者はその探検家の品行について公の調査を開始させる。

Und wenn ihm die Notizen eines Forschers beachtenswert erscheinen, läßt der Geograph über dessen Moralität eine amtliche Untersuchung anstellen.«

Und 「副詞節」, 「動詞句」「主語」「副詞句」「目的語」「動詞句」

Und ウント conj. そして

wenn ウェン conj. ～するときに

「副詞節」

ihm イム pron.3 格 彼にとって

「間接目的語」

die Notizen デーイー・ノティツェン pl.n.f.1 格 その報告が

「主語」

Notizen ノティツェン pl.n.f.(Notitz).1 格 メモ、覚え書き、書き込み

eines Forschers アイネス・フォアシャー n.m.2 格 ある探検家の

「形容詞句」

beachtenswert ベアヘンズワーアト adj. 注目すべき

「補語」

XV

erscheinen, エアシャイン 3 複現 v.i(j-3+C 人-3 に C に) 思われる 「動詞」
 läßt ...anstellen.« レスト...アンシュテルン 3 単現・使役(lassen+不定詞)
 v.t 始動させる 「動詞句」
 der Geograph テア・ゲオグラーフ n.m 地理学者は 「主語」
 über dessen Moralität ユーバー・デッセン・モラリテート adv. その品行について、道德性 「副詞句」
 eine amtliche Untersuchung アイネ・ウンターズーフング n.f.4 格 公の調査を 「目的語」
 amtlich アムトリッヒ adj. 公の Untersuchung ユンターズーフング n.f 調査、取り調べ

「なぜそんなことを？」

»Warum das?« 「副詞句」
 »Warum ウァルム adv. なぜ 「副詞句」
 das?« ダス pron そんなことを 「目的語」

「嘘をつくような探検家は、地理学の本を台無しにしてしまう恐れがあるからじゃよ。それに、酒を飲みすぎる探検家も、同様じゃ」

»Weil ein Forscher, der lügt, in den Geographiebüchern Katastrophen herbeiführen würde. Und auch ein Forscher, der zuviel trinkt.«

《Weil 「主語」「間接目的語」「直接目的語」「動詞句」 | Und 「主語」》

»Weil ウァイル conj. ～であるから
 ein Forscher, イン・フォアシャー n.m 探検家は 「主語」
 der テア pron (主語) ～する 「形容詞節」
 lügt, リュクト 3 単現(lügen)v.i 嘘をつく 「動詞」
 in den Geographiebüchern イン・デン・ゲオグラフィービュヘヤーン adv. 地理学の本に 「間接目的語」
 Katastrophen カタストローフェン pl.n.f 破局 「直接目的語」
 herbeiführen würde. ヘアバイフューレン・ヴァルデ 3 単過・推量・時制の一致(werden+不定詞)
 v.t もたらすだろう 「動詞句」
 Und ウント conj. そして
 auch ein Forscher, アウフ・イン・フォアシャー n.m 探検家も 「主語」
 der テア pron (主語) ～する 「形容詞節」
 zuviel ツーフィール adv. あまりにたくさん 「副詞」
 trinkt.« トリンクト 3 単現(trinken)v.t 飲む 「動詞」

「それはどうして？」と、王子様が尋ねた。

»Wie das?«, fragte der kleine Prinz. 《「副詞」「主語」》, 「動詞」「主語」
 »Wie ウィー adv. どうして 「副詞」
 das?«, ダス pron それは 「主語」

XV

fragte フラーケ 3 単過(fragen)v.t 尋ねた

「動詞」

der kleine Prinz. デア・クライネ・プリンツ n.m 王子様が

「主語」

「吞兵衛はものが二重に見えるからじゃ。酔っ払った地理学者は、山が 1 つしかない場所に 2 つ記入する恐れがあるのじゃ」

»Weil die Säufer doppelt sehen. Der Geograph würde dann zwei Berge einzeichnen, wo nur ein einziger vorhanden ist.«

《Weil 「主語」「副詞」「動詞」 | 「主語」「動詞句」「副詞」「目的語」「動詞句」「副詞節」》

»Weil ウァイル conj. 〜だから

die Säufer デー・ゾーイファー pl.n.m.1 格 吞兵衛は

「主語」

doppelt ドッペルト adv. 二重に

「副詞」

sehen. セーエン 3 複現 v.t 見える

「動詞」

Der Geograph デア・ゲオグラフ n.m その地理学者は

「主語」

würde ...einzeichnen, ヴェルテ...アインツァイネン 接 II・3 単現・推量(werden+不定詞)

v.t 記入するかもしれない

「動詞句」

dann ダン adv. そうすると、酔っ払っていると

「副詞」

zwei Berge ツヴァイ・ベアゲ pl.n.m.4 格 2 つの山を

「目的語」

wo ウォー adv. 〜する場所に

「副詞節」

nur ein einziger ヌーア・アイン・アインツィガー

n.m.1 格 (Berg が省略されている) 山が 1 つしか

「主語」

vorhanden フォーハントェン adj. 現存する

「補語」

ist.« イスト 3 単現(sein)v.i 〜である

「動詞」

「ある人を知っているけど」と、王子様が言った。「その人は悪い探検家かもしれない」

»Ich kenne einen«, sagte der kleine Prinz, »der wäre ein schlechter Forscher.«

《「主語」「動詞」「目的語」, 「動詞」「主語」, 《「主語」「動詞」「補語」》

»Ich イヒ pron 僕は

「主語」

kenne ケネ 1 単現(kennen)v.t 知っている

「動詞」

einen«, アイン pron.m.4 格 ある人を

「目的語」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

der kleine Prinz, デア・クライネ・プリンツ n.m 王子様が

「主語」

»der デア pron.m.1 格 その人は

「主語」

wäre ウェーレ 接 II・3 単現・推量(sein)v.i 〜 かもしれない

「動詞」

ein schlechter Forscher.« アイン・シュレヒター・フォアシャー n.m.1 格 悪い探検家

「補語」

XV

「それはありうる。だから、探検家の品行がよさそうに見えるときには、我々は彼の発見について調査をするのじゃ」

»Das ist möglich. Doch wenn die Moralität des Forschers gut zu sein scheint, macht man eine Untersuchung über seine Entdeckung.«

《「主語」「動詞」「補語」 | 「副詞句」, 「動詞」「主語」「目的語」「副詞句」》

»Das ダス pron それは 「主語」
 ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である 「動詞」
 möglich. ムーグヒ adj. (可能性として) ありうる 「補語」
 Doch ドッホ adv. だから 「副詞」
 wenn ウェン conj. ~するときに 「副詞節」
 die Moralität デーイー・モラリテート n.f 道徳性が 「主語」
 des Forschers デス・フォアシャーズ n.m.2 格 探検家の 「形容詞句」
 gut ゲート adj. よく 「補語」
 zu sein scheint, ツー・ザイン・シャイント 3 単現・様態(zu sein scheinen)
 v.i ~であるように見える 「動詞句」
 macht マハト 3 単現(machen)v.t (動作名詞と) ~する 「動詞」
 man マン pron (動詞は三人称単数形) 我々は 「主語」
 eine Untersuchung アイネ・ウンターズーフング n.f 調査を 「目的語」
 über ユーバー prep (対象) ~に関して 「副詞句」
 seine Entdeckung. サイネ・エントデックング n.f 彼の発見 「目的語」

「確認に行くのですか？」

»Geh man nachsehen?« 《「動詞句」「主語」「動詞句」》

»Geh ...nachsehen?« ゲー...ナーハセーエン 3 単現・行く・疑問文(gehen+不定詞)

v.t 確認に行くのですか? 「動詞句」

gehen+不定詞 「~しに行く」 nach|sehen ナーハセーエン v.t 確かめる、調べる、検査する

man マン pron (動詞は三人称単数形) 人は 「主語」

「いや、それは手間がかかりすぎる。その代わり、探検家に証拠の提出を求める」

»Nein. Das ist zu umständlich. Aber man verlangt vom Forscher, dass er Beweise liefert.

《「応答」 | 「主語」「動詞」「補語」 | Aber 「主語」「動詞」「副詞句」「目的語」》

»Nein. ナイン adv. いや 「応答」
 Das ダス pron それは 「主語」
 ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である 「動詞」
 zu umständlich. ツー・ウムシュェントリヒ adj. あまりにも手間がかかる 「補語」
 zu ツー adv. あまりにも~すぎる

XV

Aber アーバー conj. しかし

man マン pron 我々は

「主語」

verlangt フェランツ 3 単現(verlangen)v.t(von j-3 et-4 人-3 から何-4 を) 求める

「動詞」

vom Forscher, フォム・フォアシャー adv. 探検家から

「副詞句」

dass ダス pron 〜ということを

「目的語」

er エア pron 彼が

「主語」

Beweise ベウァイゼ pl.n.m(Beweis) 証拠を

「目的語」

liefert. リーフェルト 3 単現(liefern)v.t 納入する、納める、提出する

「動詞」

「例えば、それが大きな山の発見に関することであれば、我々は大きい石を持ってくるように要求する」

Wenn es sich zum Beispiel um die Entdeckung eines großen Berges handelt, verlangt man, dass er große Steine mitbringt.«

《「副詞節」, 「動詞」 「主語」 「目的語」》

Wenn ウェン conj. 〜するとき

「副詞節」

es sich ...handelt, エス・ズィヒ...ハントェルト 3 単現(es handelt sich-4 um et-4 何-4 の)

v.i ことである

「動詞句」

zum Beispiel ツム・バイシュェール adv. 例えば

「副詞句」

um die Entdeckung ウム・デー・エントデックUNG adv. 発見に関する

「副詞句」

eines großen Berges アイネス・グロセン・ヘアゲス

n.m.2 格 大きな山の

「形容詞句」

verlangt フェランツ 3 単現(verlangen)v.t(et-4 何-4 を) 求める

「動詞」

man, マン pron 我々は

「主語」

dass ダス pron 〜ということを

「目的語」

er エア pron 彼が

「主語」

große Steine グローセン・シュタイン pl.n.m 大きい石を

「目的語」

mitbringt.« ミット・ブリンツ 3 単現(mit|bringen)v.t 持ってくる

「動詞句」

急に、地理学者は興奮した。

Plötzlich ereiferte sich der Geograph.

「副詞」 「動詞句」 「主語」

Plötzlich プレツツヒ adv. 急に

「副詞」

ereiferte sich エアライファテ・ズィヒ 3 単過(sich-4 ereifern)v.pr 興奮した

「動詞句」

der Geograph. デア・ゲオグラフ n.m 地理学者は

「主語」

XV

「ところで君、君は遠くからここまで来たのだから、探検家ということだな！君の惑星のことを聞かせてくれんか？」

»Und du, du kommst von weit her! Du bist ein Forscher! Du wirst mir Deinen Planeten beschreiben!«

《Und 「呼びかけ」, 「主語」 「動詞」 「副詞句」

「主語」 「動詞」 「補語」 | 「主語」 「間接目的語」 「動詞句」 「直接目的語」 「動詞句」》

»Und ウント conj. それで

du, ドゥー pron 君 「呼びかけ」

du ドゥー pron 君は 「主語」

kommst コムスト 2 単現(kommen)v.i 来た 「動詞」

von weit her! フォン・ヴァイト・ヘア adv. 遠くからここに 「副詞句」

von フォン prep (空間的) 〜から weit ヴァイト adv. (空間的) 遠く her ヘア adv. こちらへ

Du ドゥー pron 君は 「主語」

bist ビスト 2 単現(sein)v.i 〜である 「動詞」

ein Forscher! アイン・フォアシャー n.m.1 格 探検家 「補語」

Du ドゥー pron 君は 「主語」

wirst ...beschreiben! ヴァイルスト...ベシュライベン 2 単現・要請(werden+不定詞)

v.t 説明してくれないかね 「動詞句」

mir ミーア pron.3 格 わしに 「間接目的語」

Deinen Planeten ダイネン・プラネーテン n.m.4 格 君の惑星のことを 「直接目的語」

そう言って、地理学者は登録簿を開き、鉛筆を削った。

Und der Geograph schlug sein Registrierbuch auf und spitzte einen Bleistift.

Und 「主語」 「動詞句」 「目的語」 「動詞句」 und 「動詞」 「目的語」

Und ウント conj. そして

der Geograph テア・ゲオグラフ n.m 地理学者は 「主語」

schlug ...auf シュルク...アフ 3 単過(auf|schlagen)v.t 開いた 「動詞句」

sein Registrierbuch サイン・レギストリエアブーフ n.m.4 格 登録簿を 「目的語」

und ウント conj. そして

spitzte シュピッツテ 3 単過(spitzen)v.t (鉛筆を) 削った、とがらした 「動詞」

einen Bleistift. アイン・ブライシュティフト n.m.4 格 鉛筆を 「目的語」

地理学者は、まず最初に、探検家たちの話を鉛筆で書き留めるのだ。

Zuerst notiert man die Erzählungen der Forscher mit Bleistift.

「副詞」 「動詞」 「主語」 「目的語」 「副詞句」

Zuerst ツ・エアスト adv. まず最初に 「副詞」

XV

notiert ノチエト 3 単現(notieren)v.t 書き留める	「動詞」
man マン pron 地理学者は	「主語」
die Erzählungen デー・イー・エアツェールンゲン pl.n.f.4 格 話を	「目的語」
der Forscher デア・フォアシャー pl.n.m.2 格 探検家たちの	「形容詞句」
mit Bleistift. ミット・ブライシュェティフト adv. 鉛筆で	「副詞句」

探検家の話をインクで清書するためには、地理学者は、探検家が証拠の提出を済ませるまで待たなければならない。

Um sie mit Tinte aufzuschreiben, wartet man, bis der Forscher Beweise geliefert hat.

「副詞句」, 「動詞」 「主語」, 「副詞節」

Um +zu 不定句 ウム adv. (目的) ~するために	「副詞句」
sie シー pron.f.pl (die Erzählungen の代用) それらを	「目的語」
mit Tinte ミット・ティンテ adv. インクで	「副詞句」
aufzuschreiben, アウフ・ツァー・シュライベン zu 不定詞(auf schreiben)v.t 記録する	「動詞句」
wartet ヴァルテット 3 単現(warten)v.i 待つ	「動詞」
man, マン pron 地理学者は	「主語」
bis ビス conj. ~するまで	「副詞節」
der Forscher デア・フォアシャー n.m その探検家が	「主語」
Beweise ベヴァイゼ pl.n.m.4 格 証拠を	「目的語」
geliefert hat. ゲリーフェルト・ハット 3 単現・完了形(liefern)v.t 提出を済ませる	「動詞句」

「さあ」と、地理学者は促した。

»Nun?« <u>fragte der Geograph.</u>	《「催促」》, 「動詞」 「主語」
»Nun?« ヌン adv. (命令・促し) さあ	「催促」
fragte フラクテ 3 単過(fragen)v.t 促した、問い合わせた	「動詞」
der Geograph. デア・ゲオグラフ n.m 地理学者は	「主語」

「ああ、僕の家については」と、王子様が言った。「まったく小さな惑星なので、あまり変わったことはありませんよ。僕は火山を 3 個持っています」

»Oh, bei mir zu Hause«, sagte der kleine Prinz, »ist nicht viel los, da ist es ganz klein.

Ich habe drei Vulkane. 《「感嘆」「副詞句」》, 「動詞」 「主語」, 《「動詞」「補語」, 「副詞節」 | 「主語」「動詞」「目的語」》

»Oh, オー int. ああ	「感嘆」
bei mir zu Hause«, バイ・ミー・ツァー・ハウゼ adv. (状況) 僕の家については	「副詞句」
sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
der kleine Prinz, デア・クライン・プリンツ n.m 王子様が	「主語」

XV

»ist nicht	イスト・ニヒト 3 単過・否定(sein)v.i	～でない	「動詞」
viel los,	フィール・ロース adj.	(否定文で) 余り特別なことがない	「補語」
los	ロース adj.	(物事が) 起こった、生じた → 珍しい、興味を引く	
da	ダー conj.	(理由) ～なので	「副詞節」
ist	イスト 3 単現(sein)v.i	～である	「動詞」
es	エス pron	それは	「主語」
ganz klein.	ガンツ・クライン adj.	まったく小さい	「補語」
Ich	イヒ pron	僕は	「主語」
habe	ハーベ 1 単現(haben)v.t	持っている	「動詞」
drei Vulkane.	ドライ・ヴァルカーネ pl.n.m(Vulkan)	火山を 3 個	「目的語」

活火山を 2 つと休火山を 1 つ持っています。でも、何が起こるか、誰にもわかりません。

Zwei Vulkane in Tätigkeit und einen erloschenen. Aber man kann nie wissen.«

「目的語」 | Aber 「主語」「動詞句」

Zwei Vulkane ツヴァイ・ヴァルカーネ pl.n.m(Vulkan) 2 つの火山を 「目的語」

in Tätigkeit イン・テーティヒカイト adj. 活動中の 「形容詞句」

in イン prep (状態) ～に、～で Tätigkeit テーティヒカイト n.f 活動、行動

und ウント conj. そして

einen アイン pron.m.4 格(Vulkan の代用) 1 つの火山 「目的語」

erloschenen. エアロシェネン adj.m.4 格(erloschen) 消えた 「形容詞」

Aber アーバー conj. しかし

man マン pron 人は 「主語」

kann nie wissen.« カン・ニー・ヴィッセン 3 単現・可能・否定(können+不定詞+nie)

v.t 決して分からない 「動詞句」

nie ニー adv. 決して～ない、一度も～ない

「誰にも分からないさ」と、地理学者が言った。

»Man weiß nie«, sagte der Geograph.

«「主語」「動詞句」», 「動詞」「主語」

»Man マン pron 人は 「主語」

weiß nie«, ヴァイス・ニー 3 単現・否定(wissen+nie)v.t 分からない 「動詞句」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」

der Geograph. デア・ゲオグラフ n.m 地理学者が 「主語」

「花も 1 輪あります」

»Ich habe auch eine Blume.«

«「主語」「動詞」「目的語」»

»Ich イヒ pron 僕は 「主語」

XV

habe ハーベ 1 単現(haben)v.t. ～がある

「動詞」

auch eine Blume.« アウフ・アイネ・ブルーメ n.f.4 格 花も 1 輪

「目的語」

「花は記録しないんだよ」と、地理学者が言った。

»Wir schreiben Blumen nicht auf«, sagte der Geograph.

《「主語」「動詞句」「目的語」》, 「動詞」「主語」

»Wir ヴィアー pron (Geographen の代用) 私たちは (地理学者は)

「主語」

schreiben ...nicht auf«, シュライベン...ニヒト・アウフ 1 複現・否定(auf|schreiben)

v.t 記録しない

「動詞句」

Blumen ブルメン pl.n.f.4 格 花を

「目的語」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

der Geograph. デア・ゲオグラーフ n.m 地理学者が

「主語」

「それはどうして？あれは一番美しいのに！」

»Warum das? Sie sind das Schönste!«

《「副詞」「主語」 | 「主語」「動詞」「補語」》

»Warum ヴァルム adv. どうして

「副詞」

das? ダス pron それは

「主語」

Sie シー pron (性別なし→中性) (Blumen の代用) それは

「主語」

sind シント 3 複現(sein)v.i. ～である

「動詞」

das Schönste!« ダス・シェンステ n.n.1 格 (最上級) 最も美しいもの

「補語」

「花ははかないからじゃ」

»Weil Blumen vergänglich sind.«

《Weil 「主語」「動詞」「補語」》

»Weil ヴァイル conj. ～だから、～なので

Blumen ブルメン pl.n.f 花は

「主語」

vergänglich フェアゲングリヒ adj. はかない

「補語」

sind.« シント 3 複現(sein)v.i. ～である

「動詞」

「“はかない” って、どういう意味なんですか？」

»Was heißt 'vergänglich'?«

《「補語」「動詞」「主語」》

»Was ヴァス pron 何

「補語」

heißt ハイスト 3 単現(heißen)v.i (～という) 意味である

「動詞」

'vergänglich'?« フェアゲングリヒ adj. “はかない” というのは

「主語」

XV

「地理学書とは」と、地理学者は答えた。「すべての書物の中で、最も重要なものだ。決して時代遅れにならないのじゃ」

»Die Geographiebücher«, entgegnete der Geograph, »sind die wertvollsten von allen Büchern. Sie veralten nie.

《「主語」》, 「動詞」「主語」, 《「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞句」》

»Die Geographiebücher«, ティー・ゲオグラフィー・ビュヒャー pl.n.n 地理学書は 「主語」

Geographie ゲオグラフィー n.f 地理学 Bücher ビュヒャー pl.n.n(Buch) 本、書物

entgegnete エントゲーゲテ 3 単過(entgegen)v.t 答えた 「動詞」

der Geograph, デア・ゲオグラフ n.m 地理学者は 「主語」

»sind シント 3 複現(sein)v.i ~である 「動詞」

die wertvollsten ティー・ヴァルトフォルステン adj. (最上級) 最も重要な 「補語」

von allen Büchern. フォン・アレ・ビュヒャー adv. (所属) すべての書物の中で 「副詞句」

Sie シー pron.pl それは 「主語」

veralten nie. フェアルテン・ニー 3 複現・否定 v.i 決して時代遅れにならない 「動詞句」

「山が移動することは、ほとんどない」

Es ist sehr selten, dass ein Berg seinen Platz wechselt. 《「動詞」「補語」「主語」》

Es エス pron 仮の主語 (真の主語は dass 以降)

ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である 「動詞」

sehr selten, セーア・セルトン adj. 非常にまれな 「補語」

dass ダス conj. ~ということは 「主語」

ein Berg アイン・ベーク n.m 山が 「主語」

seinen Platz サイネン・プラッツ n.m.4 格 場所を 「目的語」

wechselt. ヴェクセルト 3 単現(wechseln)v.t 変える、変更する 「動詞」

「大洋の水が空になることはほとんどない。我々は永遠のものを記録しているのじゃ」

Es ist sehr selten, dass ein Ozean seine Wasser ausleert. Wir schreiben die ewigen Dinge auf.《「動詞」「補語」「主語」 | 「主語」「動詞句」「目的語」》

Es エス pron 仮の主語 (真の主語は dass 以降)

ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である 「動詞」

sehr selten, セーア・セルトン adj. 非常にまれな 「補語」

dass ダス conj. ~ということは 「主語」

ein Ozean アイン・オーツェアン n.m 大洋が 「主語」

seine Wasser サイネン・ヴァッサー n.n.4 格 水を 「目的語」

ausleert. アウス・レエルト 3 単現(aus|leeren)v.t 空にする 「動詞句」

Wir ヴィーア pron.pl 我々は 「主語」

XV

schreiben ...auf. «シュライベン...アウフ 1 複現(auf|schreiben)v.t 記録している 「動詞句」

die ewigen Dinge テーイー・エウイゲン・デインゲ pl.n.n.4 格(Ding) 永遠のものを 「目的語」

ewigen エウイゲン adj.pl.4 格 永遠の、不滅の、不変の

「それでも、休火山はまた目を覚ますかもしれませんよ」と、王子さまは話をさえぎった。

「“はかない” って何を意味するんですか？」

»Aber die erloschenen Vulkane können wieder aufwachen«, unterbrach der kleine Prinz.

»Was bedeutet 'vergänglich'?«

《Aber 「主語」「動詞句」》, 「動詞」「主語」, 《「目的語」「動詞」「主語」》

»Aber アーバー conj. しかし

die erloschenen Vulkane テーイー・エロシェネン・ヴルカーネ pl.n.m 休火山は 「主語」

erloschenen エロシェネン adj(erloschen).pl.1 格 消えた、死滅した

können wieder aufwachen. «, ケネン・ヴーイーダー・アウフワッヘン 3 複現・可能性(können+不定詞)

v.i 再び目を覚ますかもしれない 「動詞句」

wieder ヴーイーダー adv. 再び auf|wachen アウフワッヘン v.i 目が覚める、よみがえる

unterbrach ウンターブラーフ 3 単過(unterbrechen)v.t (人の話を) さえぎった 「動詞」

der kleine Prinz. デア・クライン・プリンツ n.m 王子さまは 「主語」

»Was ヴァス pron 何を 「目的語」

bedeutet ベトイェット 3 単現(bedeutend)v.t 意味する 「動詞」

'vergänglich'? « フェアゲンクグリヒ adj. “はかない” というのは 「主語」

「休火山だろうが活火山だろうが、我々にとっては同じことだ」と、地理学者が言った。

「我々にとって重要なのは、山なんだ。山は変化しない」

»Ob die Vulkane erloschen oder tätig sind, kommt für uns aufs gleiche hinaus«, sagte der Geograph. »Was für uns zählt, ist der Berg. Er verändert sich nicht.«

《「副詞節」, 「動詞句」「間接目的語」「補語」「動詞句」》, 「動詞」「主語」,

《「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞句」》

»Ob オップ conj. (ob...ob/oder...の形で) ~であろうと... であろうと 「副詞節」

die Vulkane erloschen テーイー・ヴルカーネ・エロッシェン pl.n.m 休火山 「主語」

oder オーダー conj. あるいは

tätig テーティヒ adj. 活動している 「形容詞」

sind, シント 3 複現(sein)v.i ~である 「動詞」

kommt ...hinaus. «, コムト...ヒナウス 3 単現(hinaus|kommen)

v.i(auf et-4 何-4 という)結果になる 「動詞句」

für uns フューア・ウンス adv. 我々にとっては 「間接目的語」

aufs gleiche アウフス・グラヒヒ adv. 同じという 「補語」

XV

sagte	サーケ	3 単過(sagen)v.t	言った	「動詞」
der Geograph.	デア・ゲオグラフ	n.m	地理学者が	「主語」
»Was	ヴァス	pron (主語)	～するものは	「主語」
für uns	フュア・ウンス	adv.	我々にとって	「副詞句」
zählt,	ツェルト	3 単現(zählen)v.i	重要である	「動詞」
ist	イスト	3 単現(sein)v.i	～である	「動詞」
der Berg.	デア・ベアク	n.m	山	「補語」
Er	エア	pron (Berg の代用)	それは	「主語」
verändert sich nicht.«	フェアエンダート・ズィヒ・ニヒト	3 単現・否定(sich-4 verändern)		
v.pr	変わらない、変化しない			「動詞句」

「でも、“はかない” って、どういう意味なの？」と、王子さまは繰り返した。彼は、一度言い出した質問を諦めたことは一度もなかった。

»Aber was bedeutet 'vergänglich'?« wiederholte der kleine Prinz, der in seinem Leben noch nie auf eine einmal gestellte Frage verzichtet hatte.

《Aber 「目的語」「動詞」「主語」》, 「動詞」「主語」,
「主語」「副詞句」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」

»Aber	アーバー	conj.	しかし	
was	ヴァス	pron	何を	「目的語」
bedeutet	ベトイェット	3 単現(bedeutend)v.t	意味する	「動詞」
'vergänglich'?«	フェアゲンゲリヒ	adj.	“はかない” というのは	「主語」
wiederholte	グイーダーホルテ	3 単過(wiederholen)v.t	繰り返した	「動詞」
der kleine Prinz,	デア・クライネ・プリンツ	n.m	王子さまは	「主語」
der	デア	pron	彼は	「主語」
in seinem Leben	イン・ザイネム・レーベン	adv.	彼の人生において	「副詞句」
noch nie ... verzichtet hatte.	ノッホ・ニー... フェアツィヒテット・ハッテ	3 単過・完了形・否定(verzichten)		
v.t(auf et-4 何-4 を)	諦めたことは一度もなかった			「動詞句」
auf eine einmal gestellte Frage	アウフ・アイネ・アインマル・ゲシュテルテ・フラーゲ			
adv.	一度した質問を			「間接目的語」
einmal	アインマル	adv.	一度	
gestellte	ゲシュテルテ	過去分詞(stellen)adj.f.3 格	(質問) した	

「それは、“間もなく消滅する危機に脅かされている” という意味だよ」

»Das heißt 'von baldigem Entschwinden bedroht'.«	《「主語」「動詞」「補語」》
»Das ダス pron それは	「主語」
heißt ハイスト 3 単現(heißen)v.i (～という) 意味である	「動詞」
'von フォン prep (3 格と) (時間的起点を示す) ～から	「副詞句」

XV

baldigem バルディゲム adj. 間もない、近々の 「形容詞」
 Entschwinden エントシュヴィンデン 動詞の名詞化 n.n.3 格 絶滅、消滅 「目的語」
 bedroht!« ベトロート 過去分詞・受動(bedrohen)adj. (〜に) 脅かされた 「補語」

「僕の花は、“間もなく消滅する危機に脅かされている” というの？」

»Ist meine Blume von baldigem Entschwinden bedroht?« 《「動詞」「主語」「補語」》
 »Ist イスト 3 単現・疑問文(sein)v.i ーなのか? 「動詞」
 meine Blume マイネ・ブルーメ n.f 僕の花は 「主語」
 von baldigem Entschwinden bedroht?« フォン・バルディゲム・エントシュヴィンデン・ベトロート
 adj. 間もなく消滅する危機に脅かされている 「補語」

「その通り」

»Gewiß.« 《「応答」》
 »Gewiß.« ゲウイス adj. 確かな、その通り 「応答」

「僕の花ははかないんだ」と、王子さまは自分に言い聞かせた。「それに世間から身を守るために、4本の棘しか持っていないんだ！」

Meine Blume ist vergänglich, sagte sich der kleine Prinz, und sie hat nur vier Dornen, um sich gegen die Welt zu wehren!

《「主語」「動詞」「補語」》, 「動詞句」「主語」, 《und 「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」》
 Meine Blume マイネ・ブルーメ n.f 僕の花は 「主語」
 ist イスト 3 単現(sein)v.i ーである 「動詞」
 vergänglich, フェアゲンゲリヒ adj. はかない 「補語」
 sagte sich サークテ・ズィッヒ 3 単過(sich-4 sagen)v.pr 自分に言って聞かせた 「動詞句」
 der kleine Prinz, デア・クライン・プリンツ n.m 王子さまは 「主語」
 und ウント conj. そして
 sie ジー pron 彼は 「主語」
 hat ハット 3 単現(haben)v.t 持っている 「動詞」
 nur vier Dornen, ヌーア・フィーア・ドアーネン pl.n.m(Dorn) 4本の棘しか〜ない 「目的語」
 um sich ...zu wehren! ウム・ズィッヒ...ツァー・グァーレン zu 不定句
 adv.(sich-4...wehren) (目的) 身を守るために 「副詞句」
 gegen die Welt ケーゲン・デー・ヴェルト adv. (対抗) 世の中から 「副詞句」

それなのに僕は、彼女を僕の星に、たった一人に置き去りにしてきたんだ。

Und ich habe sie ganz allein zu Hause zurückgelassen!

Und 「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」

XV

Und ウント conj. そして

ich イヒ pron 僕は 「主語」

habe ...zurückgelassen! ハーベ ...ツリェック・ゲ・ラッセン 1 単現・完了形(zurück | lassen)

v.t あとに残した、置き去りにした 「動詞句」

sie シー pron.f 彼女を 「目的語」

ganz allein zu Hause ガンツ・アイン・ツウ・ハウゼ adv. 僕の星にたった一人に 「副詞句」

ganz ガンツ adv. まったく allein アイン adv. 一人に

それは彼の後悔の最初の感情だった。だが、彼はまた気を取り直した。

Das war die erste Regung seiner Reue. Aber er fasste wieder Mut.

「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞」「副詞」「目的語」

Das ダス pron それは 「主語」

war ヲアル 3 単過(sein)v.i ~ だった 「動詞」

die erste Regung デー・エーステ・レーグング n.f.1 格 最初の心の動き、感情 「補語」

seiner Reue. サイネー・ロイ n.f.2 格 彼の後悔の 「形容詞句」

Aber アーバー conj. しかし

er エア pron 彼は 「主語」

fasste ファステ 3 単過(fassen)v.t つかんだ 「動詞」

wieder ヲイダー adv. 再び 「副詞」

Mut. ムート n.m.4 格 勇気を、気力を 「目的語」

「あなたは何を勧めますか？僕はどこへ行ったらいいですか？」と、彼は尋ねた。

»Was raten Sie mir, wohin ich gehen soll?« fragte er.

《「直接目的語」「動詞」「主語」「間接目的語」》, 「動詞」「主語」

»Was ヲアス pron 何を 「直接目的語」

raten ラーテン 3 複現 v.t 勧める 「動詞」

Sie シー pron あなたは 「主語」

mir, ミア pron 僕に 「間接目的語」

wohin ヲーヒン adv. どこへ 「副詞」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

gehen soll?« ゲーエン・ゾル 1 単現・義務(sollen+不定詞)v.i 行くべきである 「動詞句」

fragte フラーケ 3 単過(fragen)v.t 尋ねた 「動詞」

er. エア pron 彼は 「主語」

XVI

「地球という惑星がいいだろう」と、地理学者が答えた。「評判がいいんだ...」

»Auf den Planeten Erde«, antwortete der Geograph, »er hat einen guten Ruf...«

《「副詞句」》, 「動詞」「主語」, 《「主語」「動詞」「目的語」》

»Auf アウフ prep (場所) ~へ

「副詞句」

den Planeten Erde«, デン・プ ラネーテン・エアデ n.m.4 格 地球という惑星 「目的語」

antwortete アントワァアデテ 3 単過(antworten)v.i 答えた

「動詞」

der Geograph, デア・ゲオグラフ n.m 地理学者は

「主語」

»er エア pron それは

「主語」

hat ハット 3 単現(haben)v.t 何がある

「動詞」

einen guten Ruf...« アイン・グーテン・ルフ n.m.4 格 良い評判

「目的語」

それで王子さまは出発して、彼の花のことを思い浮かべた。

Und der kleine Prinz machte sich auf und dachte an seine Blume.

Und 「主語」「動詞句」 und 「動詞」「間接目的語」

Und ウント conj. そして

der kleine Prinz デア・クライネ・プリンツ n.m 王子さまは

「主語」

machte sich auf マハテ・ズィッヒ・アウフ 3 単過(sich-4 auf| machen)v.pr 出発した

「動詞句」

und ウント conj. そして

dachte ダハテ 3 単過(denken)v.i 考えた、思い浮かべた

「動詞」

an seine Blume. アン・ザ イネ・ブルメ adv. 彼の花のことを

「間接目的語」

XVI

7 番目の惑星は、だから、地球だった。

Der siebente Planet war also die Erde.

「主語」「動詞」「副詞」「補語」

Der siebente Planet デア・ジューベンテ・プラネート n.m.1 格 7 番目の惑星は

「主語」

Der siebente デア・ジューベンテ adj.m.1 格 7 番目の

war ヲアール 3 単過(sein)v.i ~ だった

「動詞」

also アルゾー adv. したがって、だから

「副詞」

die Erde. ディー・エアデ n.f.1 格 地球

「補語」

地球はありふれた惑星ではない！

Die Erde ist nicht irgend ein Planet!

「主語」「動詞」「補語」

Die Erde ディー・エアデ n.f.1 格 地球は

「主語」

ist nicht イスト・ニヒト 3 単現・否定(sein)v.i ~ でなかった

「動詞」

irgend ein イルゲント・アイン adj.m.1 格 何かそのような、ありふれた

「形容詞句」

XVI

Planet! プラネート n.m.1 格 惑星

「補語」

そこには、111 人の王様がいる（もちろん、黒人の王様も含める）、そして、7000 人の地理学者、90 万人の実業家、750 万人の吞兵衛、3 億 1100 万の見栄っ張り、つまり、約 20 億の大人の人々が住んでいる。

Man zählt da hundertelf Könige, wenn man, wohlgemerkt, die Negerkönige nicht vergißt, siebentaused Geographen, neunhunderttausend Geschäftsleute, siebeneinhalb Millionen Säufer, dreihundertelf Millionen Eitle, kurz - ungefähr zwei Milliarden erwachsene Leute.

「主語」「動詞」「副詞」「目的語」, 「副詞節」, 「目的語」, 「副詞」「目的語」

Man マン pron 人は 「主語」

zählt ツェールト 3 単現(zählen)v.t 数える 「動詞」

da ダー adv. そこに 「副詞」

hundertelf Könige, フンダート・エルフ・ケーニグ pl.n.m 111 人の王様を 「目的語」

wenn ウェン conj. (条件) ~の場合 「副詞節」

man, マン pron 人は 「主語」

wohlgemerkt, ウォールゲマクト adv. もちろん、はっきり言って 「副詞」

die Negerkönige ティー・ネガー・ケーニグ pl.n.m.4 格 黒人の王様を 「目的語」

nicht vergißt, ニヒト・フェアギスト 3 単現・否定(vergessen)v.t 忘れない 「動詞句」

siebentaused Geographen, シーベン・タウゼント・ゲオグラフェン

pl.n.m 7000 人の地理学者 「目的語」

neunhunderttausend Geschäftsleute, ノイン・フンダート・タウゼント・ゲシェフツロイテ

pl.n.m 90 万人の実業家 「目的語」

siebeneinhalb Millionen Säufer, シーベン・アイン・halb・ミリオーネン・ゾイファー

pl.n.m 750 万人の吞兵衛 「目的語」

sieben シーベン adj. 7 の einhalb アインhalb adj. 半分の Million ミリオン n.f 100 万

dreihundertelf Millionen Eitle, トライ・フンダート・エルフ・ミリオーネン・アイトレ

pl.n.m 3 億 1100 万の見栄っ張り 「目的語」

dreihundertelf → dreihundert トライ・フンダート adj. 300 の elf エルフ adj. 11 の

kurz クルツ adv. 手短に、要するに、つまり 「副詞」

- ungefähr ウンゲフェア adv. おおよそ、約 「副詞」

zwei Milliarden erwachsene Leute. ツヴァイ・ミリアルデン・エウァクセネ・ロイテ

pl.n 20 億の大人の人々 「目的語」

XVI

君たちに地球の大きさについて大まかな知識を与えるために、私は君たちに言いたい；電気が発明される前には、6大陸すべて合わせて丸々1個の軍隊に相当する、46万2511人の点灯夫が必要だったのだと。

Um euch einen Begriff von den Ausmaßen der Erde zu geben, muß ich euch sagen, dass man vor der Erfindung der Elektrizität dort auf allen sechs Kontinenten zusammen eine ganze Armee von vierhundertzweiundsechzigtausendfünfhundertelf Laternenanzündern im Dienst hatte.

「副詞句」, 「動詞句」「主語」「間接目的語」「直接目的語」

Um ...zu geben, ウム...ツ-ゲーベン um zu 不定句・目的 adv. ～を与えるために 「副詞句」

euch オイ pron.pl.3 格 君たちに 「間接目的語」

einen Begriff アイネン・ベグリーフ n.m.4 格 大まかな知識、概念 「直接目的語」

von den Ausmaßen フォン・デン・アウスマセン

adj. (対象) 大きさについての

「形容詞句」

der Erde デア・エアデ n.f.2 格 地球の

「形容詞句」

muß ...sagen, ムス...ザーゲン 1 単現・必要(müssen+不定詞)v.t 言いたい

「動詞句」

man müßte ... 「私は～したい」

ich イヒ pron 私

「主語」

euch オイ pron.pl.3 格 君たちに

「間接目的語」

dass ダス conj. ～ということ

「直接目的語」

man マン pron 人

「主語」

vor フォア prep (時間的 ; 3 格と) ～より前には

「副詞句」

der Erfindung デア・エアフント・カンク n.f.3 格 発明の

「目的語」

der Elektrizität デア・エレクトリツィテート n.f.2 格 電気の

「形容詞句」

dort auf allen sechs Kontinenten zusammen ト・アト・アウフ・アレシ・セックス・コンチネン・ツァ・メン

adv. 6大陸すべて合わせて

「副詞句」

eine ganze Armee アイネ・ガンツェ・アルメー n.f.4 格 丸々1個軍隊を

「目的語」

von フォン prep (3 格と) (規模) ～の

「形容詞句」

vierhundertzweiundsechzigtausendfünfhundertelf Laternenanzündern

フィーア・フンダー・ト・ツヴァイ・ウント・ゼヒツィヒ・タウゼント・フュンフ・ウント・フンダー・ト・エルフ・ラテアネン・アンツンダー・ン

pl.n.m.3 格 46万2511人の点灯夫

「目的語」

im Dienst イム・ディーンスト adj. 勤務中の

「形容詞句」

hatte. ハッテ 3 単過(haben)v.t 持っていた

「動詞」

zu 不定詞 まとめ :

●名詞的用法 (主語や補語、目的語として)

Auf dem Bauplatz zu spielen ist verboten. 工事現場で遊ぶことは禁止されている。

Es ist verboten, auf dem Bauplatz zu spielen. (主語が長いので仮の主語 Es を用いた例)

XVI

Sein Ziel ist, Politiker zu werden. 彼の目標は政治家になることだ。

Ich hoffe, Sie bald wiederzusehen. あなたにすぐに再会できるのを望んでいます

Der Lehrer hat mir empfohlen, das Buch zu lesen.

先生は私にその本を読むことを勧めた

Er hat darauf verzichtet, den Plan zu verwirklichen.

彼はその計画を実現するのをあきらめた

●形容詞的用法 (zu 不定句の前の名詞を修飾する)

Hast du Lust, mit mir ins Kino zu gehen? 僕と一緒に映画に行く気がある?

Er hat den Wunsch, Arzt zu werden. 彼は医者になる望みを持っている

Ich habe viel zu essen. 食べるものはたくさんある

Ich habe heute viel zu tun. 今日はすることがたくさんある

●副詞的用法 (前置詞+zu 不定句)

um ... zu 不定句 ...するために

Sie spart, um ein neues Auto zu kaufen. 彼女は新しい車を買うために節約している。

ohne ... zu 不定句 ...しないで

Er ging weg, ohne ein Wort zu sagen. 彼は一言も言わずに出て行った。

statt ... zu 不定句 ...する代わりに

Ich möchte zu Hause bleiben, statt ins Kino zu gehen.

私は映画に行く代わりに家に残っていたい。

●haben + zu 不定句 「...しなくてはならない」

Du hast noch fleißiger zu lernen. 君はもっと一生懸命勉強しなければならない。

●sein + zu 不定詞 「...されうる」(受動的な意味で同時に可能も表わす)

「...されねばならない」(受動と義務の意味を表わす)

Das Problem ist leicht zu lösen. 「その問題は簡単に解かれうる」

Die Pflicht ist immer zu tun. 「義務はつねに果たされねばならない」

少し離れて見ると、それは素晴らしい効果を示していた。

Von einiger Entfernung aus gesehen, wirkte das prächtig.

「副詞句」, 「動詞」「主語」「補語」

Von ...aus フォン...アウス prep (3 格と) (空間的・起点) (条件) 〜から... すると「副詞句」

einiger Entfernung アイニガー・ェントフェアヌング n.f.3 格 少しばかりの距離 「目的語」

einige アイニゲ pron 少しばかりの、若干の

gesehen, ゲゼーエン 過去分詞・受動 v.t 見られる

「動詞」

wirkte ヲイルクテ 3 単過(wirken)v.i 効果があった

「動詞」

das ダス pron それは

「主語」

prächtig. プレヒティヒ adj. すばらしい

「補語」

XVI

この軍団の動きは、オペラのバレエ団の動きのように、磨き上げられていた。

Die Bewegungen dieser Armee waren gedrillt, wie die eines Opernballetts.

「主語」「動詞」「補語」「副詞句」

Die Bewegungen デーイー・ベウエーグンゲン pl.n.f 動きは、移動 「主語」

dieser Armee デーイーザー・アルメー n.f.2 格 この軍団の 「形容詞句」

waren ヲアレ 3 複過(sein)v.i ~ だった 「動詞」

gedrillt, ゲドリルト adj. 厳しく鍛えられた 「補語」

wie ヲイー conj. ~のように 「副詞句」

die デーイー pron (Bewegungen の代用) 動き、移動 「目的語」

eines Opernballetts. アイネス・オペルン・バレツ

n.n.2 格 オペラのバレエ団の 「形容詞句」

ニュー人ランドとオーストラリアの街灯の点灯夫たちが円舞を始めた。

Den Reigen begannen die Anzünder der neuseeländischen und australischen Laternen.

「目的語」「動詞」「主語」

Den Reigen デン・ライゲン n.m.4 格 円舞を 「目的語」

begannen ベガネ 3 複過(beginnen)v.t(et-4 を) 始めた 「動詞」

die Anzünder デーイー・アンチュンダー pl.n.m.1 格 点灯夫たちが 「主語」

der neuseeländischen und australischen デア・ノイゼーランデシェン・ウント・アウストラリシェン

adj.f.pl ニュー人ランドとオーストラリアの 「形容詞句」

Laternen. ラデアネ pl.n.f.2 格 街灯の 「形容詞」

彼らは街灯に灯をつけて、寝に行った。

Hatten sie ihre Lampen angezündet, gingen sie schlafen.

「動詞句」「主語」「目的語」「動詞句」, 「動詞句」「主語」「動詞句」

Hatten ...angezündet, ハッテン...アソゲ・チュンデット 3 複過・完了形(an|zündet)

v.t (et-4 何-4 に) 火をつけた 「動詞句」

sie ジー pron 彼らは 「主語」

ihre Lampen イレ・ランペン pl.n.f.4 格 ランプに 「目的語」

gingen ...schlafen. ギンゲン...シュラーフェン 3 複過・しに行く(gehen+不定詞)

v.i 寝に行った 「動詞句」

sie ジー pron 彼らは 「主語」

XVI

それから、中国とシベリアの点灯夫たちが舞踏会に姿を現した。

Dann traten die Laternenanzünder von China und Sibirien zum Tanze an.

「副詞」「動詞句」「主語」「間接目的語」「動詞句」

Dann ダン adv. それから

「副詞」

traten ... an. トレーテン...ツム・タンツェ・アン 3 複過・目的(an|treten)

v.i (zum 仕事に) 姿を現した、出かけて行った

「動詞句」

die Laternenanzünder デー・ランテアネン・アンツェンダー pl.n.m 点灯夫たちが

「主語」

von China und Sibirien フォン・ヒーナ・ウント・ジ・ビレーエン

adj. (所属) 中国とシベリアの

「形容詞句」

zum Tanze ツム・タンツェ adv. (目的) 舞踏会に

「間接目的語」

彼らも、舞台の裏に消えた。

Auch sie verschwanden hinter den Kulissen.

「主語」「動詞」「副詞句」

Auch sie アウフ・ジー pron.pl 彼らもまた

「主語」

verschwanden フェアシュヴァンデン 3 複過(verschwinden)v.i 消えた、そっと立ち去った「動詞」

hinter ヒンター prep (静止は 3 格、移動は 4 格と) ~の後ろに

「副詞句」

den Kulissen. デン・クリッセン pl.n.f.3 格 舞台、舞台装置

「目的語」

次は、ロシアとインドの点灯夫たちの順番になった。

Dann kamen die russischen und indischen Laternenanzünder an die Reihe.

「副詞」「動詞」「主語」「副詞句」

Dann ダン adv. それから

「副詞」

kamen カメン 3 複過(kommen)v.i やって来た

「動詞」

die russischen und indischen デー・ルッスィシェン・ウント・インデシェン

adj.pl ロシアとインドの

「形容詞句」

Laternenanzünder ランテアネン・アンツェンダー pl.n.m 点灯夫たちが

「主語」

an die Reihe. アン・デー・ライェ adv. 順番に

「副詞句」

それからは、アフリカとヨーロッパの点灯夫たち、そして南米の点灯夫たち、さらに北米の点灯夫たちが次々に現れては、消えていった。

Dann die von Afrika und Europa. Dann die von Südamerika. Dann die von Nordamerika.

「副詞」「主語」 | 「副詞」「主語」 | 「副詞」「主語」

Dann ダン adv. それから

「副詞」

die デー pron.pl (Laternenanzünder の代用) 点灯夫たちが

「主語」

von Afrika und Europa. フォン・アーフリカ・ウント・オイローパ

adj. (所属) アフリカとヨーロッパの

「形容詞句」

XVI

Dann ダン adv. それから 「副詞」
 die von Südamerika. ティー・フォン・ジュートアメリカ pron.pl 南米の点灯夫たちが 「主語」
 Dann ダン adv. それから 「副詞」
 die von Nordamerika. ティー・フォン・ノルト・アメリカ pron.pl 北米の点灯夫たちが 「主語」

そして彼らは決して登場の順番を間違えなかった。それは見事なものだった。

Und niemals irrten sie sich in der Reihenfolge ihres Auftritts. Es war großartig.

Und 「副詞」「動詞句」「主語」「動詞句」「間接目的語」 | 「主語」「動詞」「補語」
 Und ウント conj. そして
 niemals ニーマールス adv. 決して～しない 「副詞」
 irrten ...sich イルテン...ズィッヒ 3 複過・否定(sich-4 irren)
 v.pr (in について) 間違えなかった 「動詞句」
 sie ジー pron.pl 彼らは 「主語」
 in der Reihenfolge イン・デア・ライエンフォルグ adv. 順番について 「間接目的語」
 ihres Auftritts. イレス・アウフトリツ n.m.2 格 登場の 「形容詞句」
 Es エス pron それは 「主語」
 war ヴァール 3 単過(sein)v.i ～ だった 「動詞」
 großartig. グロース・アルティヒ adj. 素晴らしい、みごとな 「補語」

北極の唯一の街灯の点灯夫と南極の唯一の街灯の点灯夫だけは、何もしないでくつろいだ生活を送っていた：彼らは年に 2 回働いていた。

Nur der Anzünder der einzigen Laterne am Nordpol und sein Kollege von der einzigen Laterne am Südpol führten ein Leben voll Müßiggang und Gemütlichkeit: sie arbeiteten zweimal im Jahr.

「主語」「動詞」「目的語」：「主語」「動詞」「副詞句」
 Nur ヌーア adv. ～だけ 「副詞」
 der Anzünder テア・アンツェンダー n.m.1 格 点灯夫は 「主語」
 der einzigen Laterne テア・アインツィゲン・ラテアネ n.f.2 格 唯一の街灯の 「形容詞句」
 am Nordpol アム・ノルトポール adv. 北極の 「副詞句」
 und ウント conj. そして
 sein Kollege サイン・コレゲ n.m.1 格 点灯夫は、彼の同僚は 「主語」
 von der einzigen Laterne フォン・デア・アインツィゲン・ラテアネ adj. 唯一の街灯の 「形容詞句」
 am Südpol アム・ジュートポール adv. 南極の 「副詞句」
 führten フューアテン 3 複過(führen)
 v.t (+動作名詞) (生活を) 送っていた 「動詞」
 ein Leben アイン・レーベン n.n.4 格 生活を 「目的語」
 voll フォル adv. ～でいっぱい 「副詞句」

XVII

Müßiggang ミュシガンク n.m 何もしないこと

「目的語」

und ウント conj. そして

Gemütlichkeit ゲミュートリヒカイト n.f くつろぎ

「目的語」

sie シー pron.pl 彼らは

「主語」

arbeiteten アルバ イテン 3 複過(arbeiten)v.i 働いていた

「動詞」

zweimal im Jahr. ツハ イマル・ィム・ヤール adv. 年に 2 回

「副詞句」

führen フューレン : v.t (+動作名詞で機能動詞として)

den Beweis für et-4 führen 何-4 を証明する

einen Briefwechsel mit j-3 führen 人-3 と文通する

ein einfaches Leben führen 簡素な生活をする

Regie führen 演出する

eine deutliche Sprache führen 明言する

Verhandlungen mit j-3 führen 人-3 交渉する

XVII

人は才気を認めてもらおうとするが、その時は、物事を少し大げさに言ったりするものだ。

Will man geistreich sein, dann kommt es vor, dass man ein bisschen aufschneidet.

「動詞句」「主語」「補語」「動詞句」, 「副詞」「動詞句」「主語」

Will ...sein, ヲィル...ザィン 3 単半・意欲(wollen+不定詞)v.i ~になろうとする

「動詞句」

man マン pron 人は

「主語」

geistreich ガイストライヒ adj. 才気あふれる、利口な

「補語」

dann ダン adv. その時に

「副詞」

kommt ...vor, コムト...フォー 3 単現(vor|kommen)v.i (意外なことが) 起こる

「動詞句」

es エス pron 仮の主語 (真の主語は dass 以降)

dass ダス conj. ~ということが

「主語」

man マン pron 人は

「主語」

ein bisschen アイン・ビッッシェン adv. 少し

「副詞句」

aufschneidet. アウフ・シュナイテット 3 単現(auf|schneiden)

v.i 大げさに言う、ほらを吹く

「動詞句」

君たちに街灯の点灯夫たちについて語ったとき、僕はあまり正直ではなかった。

Ich war nicht ganz aufrichtig, als ich euch von den Laternenanzündern erzählte.

「主語」「動詞」「補語」, 「副詞節」

Ich イット pron 僕は

「主語」

führen フューレン : v.t (+動作名詞で機能動詞として)

XVII

war nicht	ヴァール・ニヒト	1 単過・否定(sein)v.i	～でなかった	「動詞」
ganz aufrichtig,	ガンツ・アウフリヒヒ	adj.	(否定文で) あまり正直～でない	「補語」
als	アルス	conj.	～したとき	「副詞節」
ich	イヒ	pron	僕が	「主語」
euch	オイヒ	pron/pl	君たちに	「間接目的語」
von den Laternenanzündern	フォン・デン・ラテアネン・アンチュンダーン			
adv.	街灯の点灯夫たちについて			「間接目的語」
erzählte.	エアツェールテ	1 単過(erzählen)v.t	語った	「動詞」

僕はそれによって、僕たちの惑星を知らない人たちに間違えたイメージを与えてしまう危険を冒している。

Ich laufe Gefahr, denen, die unseren Planeten nicht kennen, ein falsches Bild von ihm zu geben.

Ich	イヒ	pron	僕は	「主語」
laufe	ラウフェ	1 単現(laufen)v.i	進んでいる、歩いている	「動詞」
Gefahr,	ゲファール	n.f	危険	「間接目的語」
Gefahr laufen	「危険を冒す」		(危険に向かって進んでいる)	
zu	不定句	adj.	～するという	「形容詞句 : Gefahr」
denen,	デーネン	pron.n.3 格	～する人たちに	「間接目的語」
die unseren Planeten	ディー・ウンゼレン・プラネーテン			
pl.n.m.4 格	僕たちの惑星を			「目的語」
nicht kennen,	ニヒト・ケネン	3 複現・否定(kennen)		
v.t	知らない			「動詞句」
ein falsches Bild	アイン・ファルシェス・ビルト			
n.n.4 格	間違えたイメージを			「直接目的語」
von ihm	フォン・イム	adv.	それによって	「副詞句」
zu geben.	ツェーゲベン	zu 不定詞 v.t	与える	「動詞句」

人間は、地球上で、非常にわずかの空間しか利用していない。

Die Menschen benutzen nur sehr wenig Raum auf der Erde.

Die Menschen	ディー・メンシェン	pl.n.m	人間は	「主語」
benutzen	ベヌツェン	3 複現 n.t	利用している	「動詞」
nur sehr wenig Raum	ヌーア・ゼーア・ヴァーニヒ・ラウム			
n.m	非常にわずかの空間しか～ない			「目的語」
nur	ヌーア	adv.	～でしかない	
wenig	ヴァーニヒ	adj.	ほんの少しの	
auf der Erde.	アウフ・デア・エアーデ	adv.	地球上で	「副詞句」

XVII

地球に住んでいる 20 億人の居住者が、例えば集会の時のように、多少混みあって立つならば、長さが 20 マイルで横幅が 20 マイルの公共広場に、容易に収まってしまうだろう。

Wenn die zwei Milliarden Einwohner, die die Erde bevölkern, sich aufrecht und ein bisschen gedrängt hinstellten, wie bei einer Volksversammlung etwa, kämen sie auf einem öffentlichen Platz von zwanzig Meilen Länge und zwanzig Meilen Breite leicht unter.

「副詞節」, 「動詞句」 「主語」 「副詞句」 「動詞句」

Wenn ウェン conj. (条件) ~するならば、~するとき

「副詞節」

die zwei Milliarden Einwohner, デーイー・ツヴァイ・ミリアルデン・アインヴォーナ

pl.n.m 20 億人の居住者が

「主語」

die デーイー pron.pl (主語) ~する

「形容詞節」

die Erde デーイー・エアデ n.f.4 格 地球に

「目的語」

bevölkern, エアフェルカーン 3 複現 v.t 住んでいる

「動詞」

sich ...hinstellten, スィヒヒ...ヒンシュテルン 3 複現(sich hin|stellten)

v.pr 立つ

「動詞句」

aufrecht アウフルヒト adv. まっすぐに

「副詞」

und ウント conj. そして

ein bisschen gedrängt アイン・ビッッシェン・ゲドレンツ adv. 少し混みあって

「副詞句」

wie ヴェー conj. ~のように

「副詞句」

bei バイ prep (条件) ~の場合に

「副詞句」

einer Volksversammlung アイナー・フォルクスフェアザムルンク

n.f 集会

「目的語」

etwa, エトヴァ adv. 例えば

「副詞」

kämen ...unter. ケメン...ウンター 接 II・3 複現・推量(unter|kommen)

v.i (場所に) 収容されるだろう

「動詞句」

sie ジー pron.pl 彼らは

「主語」

auf einem öffentlichen Platz アウフ・アイネム・エフフェントリッヒェン・プラッツ adv. 公共広場に

「副詞句」

öffentlich エフフェントリッヒ adj. 公共の Platz プラッツ n.m 広場、場所、座席

von フォン prep (規模) ~の

「副詞句」

zwanzig Meilen Länge ツヴァンツィヒ・マイレン・レンゲ

n.f 20 マイルの長さ

「目的語」

und ウント conj. そして

zwanzig Meilen Breite ツヴァンツィヒ・マイレン・ブライト

n.f 20 マイルの横幅

「目的語」

leicht ライト adv. 容易に

「副詞」

XVII

一人当たりの面積は：

1 マイルは約 1609m だから、「20 マイル x 20 マイル」は約 10 億^mとなり、20 億人に対しては、一人当たりの面積は 0.5 ^mになる。人を物として置いておくだけなら可能である。しかし、人は食事をする必要もあるし、食事のためには野菜や家畜を育てる場所や、魚などが住む川や海のアラも必要である。そして、生活をするための家や会社や病院や公園なども必要になるので、一人当たりに必要な面積は、10000 ^mを超えると考えられる。地球の半径は 6371Km だから、その表面積は 5 億 1000 万^{km}になる。地球上の全人口が 100 億人に増加したとすると、一人当たりの面積は 51000 ^m（海・山・川を含む）になる。作者はとにかく数字を示して、読者に数字の意味などを考えさせたいのだと思われる。

太平洋の小さい島に、人類を詰め込むこともできるだろう。

Man könnte die...Menschheit auf einer kleinen Insel des Pazifischen Ozeans zusammenpferchen. 「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」「動詞句」

Man マン pron 人は 「主語」

könnte ...zusammenpferchen. ケンテ...ツァーメンプフェアシェン 接 II・3 単現・可能・推量

(können+不定詞)v.t. ～を詰め込むことができるだろう 「動詞句」

die Menschheit デー・メンシュハイト n.f (集合的) 人類を 「目的語」

auf einer kleinen Insel アウフ・アイー・クライネン・インセル adv. 小さな島に 「副詞句」

des Pazifischen Ozeans デス・パチフィシェン・オーツェアンス adj. 太平洋の 「形容詞句」

大人たちはもちろん、このことについて君たちを信用しないだろう。

Die großen Leute werden Euch das freilich nicht glauben.

「主語」「動詞句」「直接目的語」「間接目的語」「副詞」「動詞句」

Die großen Leute デー・グロゼン・ロイテ pl.n 大人の人たちは 「主語」

Leute ロイテ pl.n 人々

werden ...nicht glauben. ヴェアデレン...ニヒト・グラウバエン 3 複未・推量・否定(werden+不定詞)

v.t. 信用しないだろう 「動詞句」

Euch オイェ pron 君たちを 「直接目的語」

das ダス pron このことについて 「間接目的語」

freilich フライヒ adv. もちろん 「副詞」

彼らは、自分たちがたくさんの場所を使っていると思い込んでいる。

Sie bilden sich ein, viel Platz zu brauchen. 「主語」「動詞句」「目的語」

Sie ジー pron.pl 彼らは 「主語」

bilden sich ein, ビルデン・ジッヒ・アイン 3 複現(sich-4 ein | bilden)v.pr 思い込んでいる「動詞句」

zu 不定句 n. ～ということを 「目的語」

一人当たりの面積は：

XVII

viel Platz フィール・プラッツ n.m.4 格 たくさんの場所を
zu brauchen. ツー・ブラウヘン zu 不定詞 v.t 使っている

「目的語」

「動詞句」

彼らは、自分たちがバオバブの木のように偉大なものだと思い込んでいるんだ。

Sie nehmen sich wichtig wie Affenbrotbäume.

「主語」「動詞句」「補語」

Sie シー pron.pl 彼らは

「主語」

nehmen sich ネーメン・ズィヒ 3 複現(sich-4 nehmen)

v.t (SVOC 自分自身を) ～であるとみなしている

「動詞句」

wichtig ウィヒティヒ adj. 偉大な、重要な

「補語」

wie Affenbrotbäume. ヴィー・アッフェンブーロートボイメ adv. バオバブのように

「副詞句」

Affen アッフェン pl.n.m(Affe) サル Brot ブロート n.n パン Bäume ボイメ pl.n.m(Baum) 木

→ パンの木、バオバブ

それでは、彼らに自分で計算するように助言してごらんなさい。

Geht ihnen also den Rat, sich's auszurechnen.

「動詞」「間接目的語」「副詞」「直接目的語」

Geht ゲーフト 命・2 複現(geben)v.t 与えなさい

「動詞」

ihnen イーネン pron.pl 彼らに

「間接目的語」

also アルゾー adv. それでは

「副詞」

den Rat, デン・ラート n.m.4 格 助言、手段

「直接目的語」

sich's auszurechnen. スィヒ・ス・アウス・ツー・レヒン zu 不定句(sich-3 et-4 ausrechnen)

adj. (同格) 自分で計算するという

「形容詞句」

フランス語の原文では : 次の文が続いていた

彼らは数字が大好きだから、その助言はきっと彼らの気に入るだろう。

Elles adorent les chiffres : ça leur plaira.

しかしそんなことで時間を無駄にしてはならない。それは無意味だ。君たちは僕の言うことを信じてくれ。

Aber ihr sollt Eure Zeit nicht damit verlieren. Es ist zwecklos. Glaubt mir.

Aber 「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」

「主語」「動詞」「補語」 | 「動詞」「間接目的語」

Aber アーバー conj. しかし

ihr イー pl.pron.1 格 君たちは

「主語」

sollt ... nicht damit verlieren. ゾルト...ニヒト・ダミット・フェアリーレン 2 複現・禁止(sollen+不定詞)

v.t そのことで無駄にしてはならない

「動詞句」

フランス語の原文では : 次の文が続いていた

XVII

Eure Zeit	オイレ・ツァイト n.f.4 格	君たちの時間を	「目的語」
Es	エス pron	それは	「主語」
ist	イスト 3 単現(sein)v.i	～である	「動詞」
zwecklos.	ツァェックロス adj.	無意味な	「補語」
Glaubt	グラウプト 命・2 複現(glauben)v.i	信じなさい	「動詞」
mir.	ミア pron.3 格	ぼくの言うことを	「間接目的語」

王子さまは、ともかく地球に降り立って見たが、誰にも会わないことに驚いた。

Einmal auf der Erde, wunderte sich der kleine Prinz, niemanden zu sehen.

「副詞句」, 「動詞句」 「主語」 「目的語」

Einmal	アインマル adv.	一度	「副詞」
auf der Erde,	アウフ・デア・エーアデ adv.	地球の上にいると	「副詞句」
wunderte sich	ウンテアテ・ズィッヒ 3 単過(sich-4 wundern)v.pr	驚いた	「動詞句」
der kleine Prinz,	デア・クライネ・プリンツ n.m	王子さまは	「主語」
niemanden zu sehen.	ニーマンデン・ツァーゼーエン zu 不定句 n.	誰にも会わないことに	「目的語」

彼は惑星を間違えてしまったのではないかとすでに心配していた。その時、月色の輪が砂の中で動いた。

Er fürchtete schon, sich im Planeten geirrt zu haben, als ein mondfarbener Ring sich im Sande bewegte.

「主語」 「動詞句」 「副詞句」 「目的語」 「動詞句」,
als 「主語」 「動詞句」 「副詞句」 「動詞句」

Er	エア pron	彼は	「主語」
fürchtete	フュルヒテテ 3 単過(fürchten)v.t (+zu 不定句)	～しないかと心配していた	「動詞」
schon,	ショーン adv.	もう、すでに	「副詞」
zu	不定句・完了形 n.	～したということ	「目的語」
sich ...geirrt zu haben,	ズィッヒ...ゲイルト・ツァーハーベン zu 不定詞・完了形(sich-4 irren)		
	v.pr	間違えてしまった	「動詞句」
im Planeten	イム・プラネーテン adv.	惑星を	「間接目的語」
als	アルス conj.	その時～する	
ein mondfarbener Ring	アイン・モントファルベナー・リング n.n	月色の輪が	「主語」
Mond	モント n.m (天体) 月	–farben	ファルベン(farbig)adj. ～色の
sich ...bewegte.	ズィッヒ...ベウエーケテ 3 単過(sich-4 bewegen)v.pr	動いた	「動詞句」
im Sande	イム・ザンデ adv.	砂の中で	「副詞句」
Snad	ザント n.m (専門語: [複]Sande)	砂	

XVII

「こんばんは」と、王子さまは、何か分からないままに挨拶した。

»Guten Abend«, sagte der kleine Prinz aufs Geratewohl.

《「挨拶」》, 「動詞」「主語」「副詞句」

»Guten Abend«, ゲーテン・アーベント adv. 今晩は

「挨拶」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

der kleine Prinz デア・クライネ・プリンツ n.m 王子さまは

「主語」

aufs Geratewohl. アウフ・ゲラーテウール adv. あてずっぽうに、ともかく

「副詞句」

「こんばんは」と、へビが言った。

»Guten Abend«, sagte die Schlange.

《「挨拶」》, 「動詞」「主語」

»Guten Abend«, ゲーテン・アーベント adv. 今晩は

「挨拶」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

die Schlange. デーイー・シュランゲ n.f へビが

「主語」

「どの惑星に落ちたんだろう」と、王子さまは尋ねた。

»Auf welchen Planeten bin ich gefallen?« fragte der kleine Prinz.

《「副詞句」「動詞句」「主語」「動詞句」》, 「動詞」「主語」

»Auf welchen Planeten アウフ・ウェルヒェン・プレーネテン adv. どの惑星に

「副詞句」

bin ...gefallen?« ビン...ゲファレン 1 単現・完了形(fallen)v.i 落ちた

「動詞句」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

fragte フラーケ 3 単過(fragen)v.t 尋ねた

「動詞」

der kleine Prinz. デア・クライネ・プリンツ n.m 王子さまは

「主語」

「君は、地球のアフリカにいるんだよ」と、へビが答えた。

»Auf die Erde, du bist in Afrika«, antwortete die Schlange.

《「副詞句」, 「主語」「動詞」「副詞句」》, 「動詞」「主語」

»Auf die Erde, アウフ・デーイー・エアデ adv. 地球の上に

「副詞句」

du トゥー pron 君は

「主語」

bist ビスト 2 単現(sein)v.i ~にいる

「動詞」

in Afrika«, イン・アフリカ adv. アフリカに

「副詞句」

antwortete アントヴァーアテ 3 単過(antworten)v.i 答えた

「動詞」

die Schlange. デーイー・シュランゲ n.f へビが

「主語」

「ああ！それじゃあ、地球には誰もいないの？」

»Ah! ... es ist also niemand auf der Erde?«

《「感嘆」... 「動詞」「副詞」「主語」「副詞句」》

XVII

»Ah! ... アー int. ああ!	「感嘆」
es エス pron 形式主語	
ist イスト 3 単現(sein)v.i 〜がいる	「動詞」
also アルゾー adv. それじゃあ	「副詞」
niemand ニーマント pron 誰も〜ない	「主語」
auf der Erde?« アウフ・デア・エーアデ adv. 地球上には	「副詞句」

「ここは砂漠だよ。砂漠には誰もいないよ。地球は大きいんだ」と、ヘビが言った。

»Hier ist die Wüste. In den Wüsten ist niemand. Die Erde ist groß« sagte die Schlange.
 《「副詞」「動詞」「補語」 | 「副詞句」「動詞」「主語」 | 「主語」「動詞」「補語」》,
 「動詞」「主語」

»Hier ヒーア adv. ここは	「副詞」
ist イスト 3 単現(sein)v.i 〜である	「動詞」
die Wüste. ディー・ウェステ n.f.1 格 砂漠	「補語」
In den Wüsten イン・テン・ウェステン adv. 砂漠には	「副詞句」
ist イスト 3 単現(sein)v.i 〜がいる	「動詞」
niemand. ニーマント pron 誰も〜ない	「主語」
Die Erde ディー・エーアデ n.f 地球は	「主語」
ist イスト 3 単現(sein)v.i 〜である	「動詞」
groß« グロース adj. 大きな	「補語」
sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
die Schlange. ディー・シュランゲ n.f ヘビが	「主語」

王子さまは、石の上に腰を下ろして、空を見上げていた。

Der kleine Prinz setzte sich auf einen Stein und hob die Augen zum Himmel.

	「主語」「動詞句」「副詞句」 und 「動詞」「目的語」「副詞句」
Der kleine Prinz デア・クライネ・プリンツ n.m 王子さまは	「主語」
setzte sich セッツテ・スィット 3 単過(sich-4 setzen)v.pr 腰を下ろしていた	「動詞句」
auf einen Stein アウフ・アイン・シュタイン adv. 石の上に	「副詞句」
und ウント conj. そして	
hob ホブ 3 単過(heben)v.t (体の一部を) 上げていた	「動詞」
die Augen ディー・アウゲン pl.n.n.4 格 目を	「目的語」
zum Himmel. ツム・ヒメル adv. (目標) 空に向けて	「副詞句」

XVII

「僕は疑問に思う」と、彼が言った。「誰もがいつかは自分の星を見つけることができるように、星たちは輝いているのだろうか。僕の惑星を見てごらん」

»Ich frage mich«, sagte er, »ob die Sterne leuchten, damit jeder eines Tages den seinen wiederfinden kann. Schau meinen Planeten an.

《「主語」「動詞句」》, 「動詞」「主語」, 《「目的語」 | 「動詞句」「目的語」「動詞句」》
 »Ich イヒ pron 僕は 「主語」
 frage mich«, フラーゲ・ミッヒ 1 単現(sich-4 fragen) 「動詞句」
 v.pr (ob ~かどうかということ) 疑問に思う 「動詞句」
 sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 er, エア pron 彼は 「主語」
 »ob オップ conj. ~かどうかということ 「目的語」
 die Sterne デー・シュテアネ pl.n.m.1 格 星たちは 「主語」
 leuchten, ロヒテン 3 複現 v.i 輝いている 「動詞」
 damit ダミット conj. ~するために 「副詞節」
 jeder イェダー pron 誰もが 「主語」
 eines Tages アイネス・ターゲス adv. いつかは 「副詞句」
 den seinen デン・ザイネン n.m.4 格 自分の星を 「目的語」
 wiederfinden kann. ヴィーダー・フィンデン・カン 3 単現・可能(können+不定詞)
 v.t また見つけることができる 「動詞句」
 Schau ...an. シャウ...アン 命・2 単現(an|achauen)v.t 見てごらん 「動詞句」
 meinen Planeten マイネン・プラネーテン n.m.4 格 僕の惑星を 「目的語」

「僕たちの丁度真上にある。でも、なんて遠く離れているんだろう」

Er steht gerade über uns... Aber wie weit ist er fort!«

《「主語」「動詞」「副詞句」 | Aber 「副詞句」「動詞」「主語」「副詞」》
 Er エア pron (Planeten の代用) それは 「主語」
 steht シュテート 3 単現(stehen)v.i (場所に) ある、いる 「動詞」
 gerade ゲラーテ adv. ちょうど 「副詞」
 über uns... ユーバー・ウス adv. 僕たちの上に 「副詞句」
 Aber アーバー conj. しかし
 wie weit ヴィー・ヴァイト adv. なんて遠い 「副詞句」
 ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である 「動詞」
 er エア pron それは 「主語」
 fort!« フォート adv. 離れて 「副詞」

XVII



「あの星は美しいね」と、蛇が言った。「君はここで何をするつもりなの？」

»Er ist schön«, sagte die Schlange. »Was willst Du hier machen?«

《「主語」「動詞」「補語」》, 「動詞」「主語」, 《「目的語」「動詞句」「主語」「副詞」「動詞句」》

»Er	エ	pron	あの星は	「主語」
ist	イスト	3 単現(sein)	v.i ~である	「動詞」
schön	シェン	adj.	美しい	「補語」
sagte	サーケ	3 単過(sagen)	v.t 言った	「動詞」
die Schlange	ディー・シュランゲ	n.f	ビガ	「主語」
»Was	ヴァス	pron	何を	「目的語」
willst ...machen?	ウィルスト...マヘン	2 単現・意志(wollen+不定詞)		
v.t	するつもりである			「動詞句」

XVII

Du ドゥ pron 君は 「主語」
 hier ヒア adv. ここで 「副詞」

「ある花との間にもめ事があるんだ」と、王子様が言った。

»Ich habe Schwierigkeiten mit einer Blume«, sagte der kleine Prinz.

《「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」》, 「動詞」「主語」

»Ich イヒ pron 僕は 「主語」
 habe ハーベ 1 単現(haben)v.t 〜がある 「動詞」
 Schwierigkeiten シュヴィーリヒカイトン pl.n.f(Schwierigkeit).4 格 もめごと、面倒 「目的語」
 mit einer Blume«, ミット・アイナー・ブルメ adv. ある花との間に 「副詞句」
 sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 der kleine Prinz. デア・クライネ・プリンツ n.m 王子様が 「主語」

「ああ、そうなの」と、ヘビが言った。

»Ah!« sagte die Schlange.

《「応答」》, 「動詞」「主語」

»Ah!« アー int. ああ、そうなの 「応答」
 sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 die Schlange. デー・シュランゲ n.f ヘビが 「主語」

そして、彼らは黙り込んだ。

Und sie schwiegen.

Und 「主語」「動詞」

Und ウント conj. そして
 sie ジー pron.pl 彼らは 「主語」
 schwiegen. シュヴィーゲン 3 複過(schweigen)v.i 黙った、沈黙した 「動詞」

「人間たちはどこにいるの？」と、ついに王子様が話を続けた。「砂漠では、人は少し孤独だね」

»Wo sind die Menschen?« fuhr der kleine Prinz endlich fort. »Man ist ein bisschen einsam in der Wüste...«

《「副詞」「動詞」「主語」》, 「動詞句」「主語」「動詞句」, 《「主語」「動詞」「補語」》

»Wo ヴォー adv. どこに 「副詞」
 sind シント 3 複現(sein)v.i 〜にいる 「動詞」
 die Menschen?« デー・メンシェン pl.n.m 人間たちは 「主語」
 fuhr ...endlich fort. フー...エンドリヒ・フォート 3 単過(fort | fahren+endlich)
 v.i ついに話を続けた 「動詞句」
 der kleine Prinz デア・クライネ・プリンツ n.m 王子様が 「主語」

XVII

»Man マン pron 人は 「主語」
 ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である 「動詞」
 ein bisschen einsam アイン・ビッシェン・アインザーム adj. 少し孤独な 「補語」
 in der Wüste...« イン・デア・ヴェーステ adv. 砂漠では 「副詞句」

「人は、人間たちの中に混じっていても、孤独だよ」と、へビが言った。

»Man ist auch bei den Menschen einsam«, sagte die Schlange.
 《「主語」「動詞」「副詞句」「補語」》, 「動詞」「主語」
 »Man マン pron 人は 「主語」
 ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である 「動詞」
 auch アウフ adv. ~も、~もまた 「副詞句」
 bei バイ prep (3 格と) ~の中にまじって、~のそばで 「副詞句」
 den Menschen デン・メンシェン pl.n.m.3 格 人間たち 「目的語」
 einsam«, アインザーム adj. 孤独な 「補語」
 sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 die Schlange. ティー・シュランゲ n.f へビが 「主語」

王子さまは、しばらくへビを見つめていた。

Der kleine Prinz sah sie lange an. 「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」「動詞句」
 Der kleine Prinz テア・クライェ・プリンツ n.m 王子さまは 「主語」
 sah ...an. サー...アン 3 単過(an|sehen)v.t 見つめた 「動詞句」
 sie シー pron (Schlange の代用) へビを 「目的語」
 lange ランゲ adv. 長く 「副詞」

「君は奇妙な動物だね」と、ついに王子様が言った。「指みたいに細くて...」

»Du bist ein drolliges Tier«, sagte er schließlich, »dünn wie ein Finger...«
 《「主語」「動詞」「補語」》, 「動詞」「主語」「副詞」, 《「補語」》
 »Du トゥー pron 君は 「主語」
 bist ビスト 2 単現(sein)v.i ~である 「動詞」
 ein drolliges アイン・トロリゲス adj.n.1 格 奇妙な 「形容詞句」
 Tier«, ティアー n.n.1 格 動物 「補語」
 sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 er エア pron 彼は 「主語」
 schließlich, シュリースリヒ adv. ついに 「副詞」
 »dünn デュン adj. 細い 「補語」
 wie ヴァイ conj. ~のように 「副詞句」

XVII

ein Finger...« アイン・フィンガー n.m 指

「目的語」

「だけど、おれは王様の指より強いぜ」と、へびが言った。

»Aber ich bin mächtiger als der Finger eines Königs«, sagte die Schlange.

《Aber 「主語」「動詞」「補語」》, 「動詞」「主語」

»Aber アーバー conj. しかし

ich イヒ pron おれは

「主語」

bin ビン 1 単現(sein)v.i 〜である

「動詞」

mächtiger メチガー adj. (比較級) より強力な

「補語」

als アルス conj. (比較) 〜よりも

「副詞句」

der Finger デア・フィンガー n.m.1 格 指

「目的語」

eines Königs«, アインス・ケーニヒス n.m.2 格 王様の

「形容詞句」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

die Schlange. テー・シュランゲ n.f へびが

「主語」

王子さまは思わず微笑んでしまった。

Der kleine Prinz musste lächeln.

「主語」「動詞句」

Der kleine Prinz デア・クライネ・プリンツ n.m 王子さまは

「主語」

musste lächeln. ムステ・レツヒェルン 3 単過・衝動(müssen+不定詞)

v.i 思わず微笑んだ

「動詞句」

「それほど強くないね... 手足さえないし... 旅行さえできないだろう...」

»Du bist nicht sehr mächtig ... Du hast nicht einmal Füße ... Du kannst nicht einmal reisen ...« 《「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞句」「目的語」 | 「主語」「動詞句」》

»Du ドゥー pron 君は

「主語」

bist nicht ビスト・ニヒト 2 単現・否定(sein)v.i 〜でない

「動詞」

sehr mächtig ... ゼア・メチヒ adj. (否定文で) それほど強い〜ない

「補語」

Du ドゥー pron 君は

「主語」

hast nicht ハスト・ニヒト 2 単現・否定(haben)〜がない

「動詞句」

einmal Füße ... アインマル・フューセ pl.n.m 手足さえ〜ない

「目的語」

nicht einmal 「〜さえ... ない」

Du ドゥー pron 君は

「主語」

kannst nicht einmal reisen ...« カnst・ニヒト・アインマル・ライゼン 2 単現・可能(können+不定詞)

v.i 旅行さえできない

「動詞句」

XVII

「船よりも、君を遠くへ運ぶことができるぜ」と、ヘビが言った。

»Ich kann Dich weiter bringen als ein Schiff«, sagte die Schlange.

《「主語」「動詞句」「目的語」「副詞」「動詞句」「副詞句」》, 「動詞」「主語」

»Ich イヒ pron おれは 「主語」
 kann ...bringen カン...ブリンゲン 1 単現・可能(können+不定詞)v.t 運べる 「動詞句」
 Dich ディヒ pron.4 格 君を 「目的語」
 weiter ヴァイター adv. (比較級) もっと遠くへ 「副詞」
 als ein Schiff«, アルス・アイン・シッフ adv. (比較) 船よりも 「副詞句」
 sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 die Schlange. ティー・シュランゲ n.f ヘビが 「主語」

ヘビは、金の腕輪のように王子様のくるぶしの周りに巻き付いた。

Sie rollte sich um den Knöchel des kleinen Prinzen wie ein goldenes Armband.

「主語」「動詞句」「副詞句」

Sie シー pron.f (Schlange の代用) ヘビは 「主語」
 rollte sich ロルテ・スィヒ 3 単過(sich-4 rollen)v.pr 巻き付いた 「動詞句」
 um ウム prep (4 格と) ~の周りに 「副詞句」
 den Knöchel テン・クノヒェル n.m.4 格 くるぶし、足首の隆起部分 「目的語」
 des kleinen Prinzen テス・クライネン・プリンツェン n.m.2 格 王子様の 「形容詞句」
 wie ヴァー conj. (比較) ~のように 「副詞句」
 ein goldenes Armband. アイン・ゴルデネス・アルムバンド n.n.1 格 金の腕輪 「目的語」

「俺が誰かに触れると、その人がいた大地に返すことができる」と、ヘビがさらに言った。

»Wen ich berühre, den gebe ich der Erde zurück, aus der er hervorgegangen ist«, sagte sie noch.

《「目的語」「主語」「動詞」, 「目的語」「動詞句」「主語」「副詞句」「動詞」「動詞句」》,
 「動詞」「主語」「副詞」

»Wen ウェン pron.4 格 誰かを 「目的語」
 ich イヒ pron 俺が 「主語」
 berühre, ベリュール 1 単現(berühren)v.t 触れる 「動詞」
 den テン pron.4 格 その人を 「目的語」
 gebe ...zurück, ゲーヘ ...ツュック 1 単現(zurück|geben)v.t 返す 「動詞」
 ich イヒ pron 俺は 「主語」
 der Erde テア・エアデ n.f.3 格 大地に 「副詞句」
 aus der アウス・デア adv. そこから~するところへ 「副詞節」
 er エア pron 彼が 「主語」

XVII

hervorgegangen ist«, ハーフォアゲカソゲン・イスト 3 単現・完了形(hervor|gehen)

v.i 出てきた

「動詞」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

sie シー pron.f (Schlange の代用) ヘビは

「主語」

noch. ノッホ adv. (追加を示して) さらに

「副詞」



— Tu es une drôle de bête, lui dit-il enfin, mince comme un doigt...

XVII

「だけど、君は純粹だし、星から来たんだ...」

»Aber Du bist rein, du kommst von einem Stern...«

《Aber 「主語」「動詞」「補語」, 「主語」「動詞」「副詞句」》

»Aber アーバー conj. しかし

Du ドゥー pron 君は 「主語」

bist ビスト 2 単現(sein)v.i ~である 「動詞」

rein, ライン adj. 純粹な 「補語」

du トゥ pron 君は 「主語」

kommst コムスト 2 単現(kommen)v.i 来た 「動詞」

von einem Stern...« フォン・アイネム・シュテアン adv. 星から 「副詞句」

王子さまは、何も答えなかった。

Der keine Prinz antwortete nichts.

「主語」「動詞」「目的語」

Der keine Prinz テア・クレイネ・プリンツ n.m 王子さまは 「主語」

antwortete アントヴァアテテ 3 単過(antworten)v.t 答えた 「動詞」

nichts. ニヒツ pron 何も~ない 「目的語」

「君が花崗岩の地球にいるなんて、僕はとても残念に思う。君はとてもか弱いのだから」

»Du tust mir leid auf dieser Erde aus Granit, du, der du so schwach bist.

《「主語」「動詞」「間接目的語」「補語」「副詞句」, 「主語」》

»Du ドゥー pron 君は 「主語」

tust トゥースト 2 単現(tun)v.t する 「動詞」

mir ミーア pron 私にとって 「間接目的語」

leid ライト adj. (人にとって) 悔やまれる、うんざりした 「補語」

auf dieser Erde アウフ・デーザー・エアテ adv. この地球に 「副詞句」

aus Granit, アウス・グラニート adv. (材料) 花崗岩でできた 「副詞句」

du, トゥ pron 君が 「主語」

der テア pron (同格) ~である 「形容詞節」

du トゥ pron 君は 「主語」

so schwach ソー・シュヴァッハ adj. とてもか弱い 「補語」

bist. ビスト 2 単現(sein)v.i ~である 「動詞」

「いつか君がたまらなく自分の惑星が恋しくなったら、君を助けてあげられるよ。俺は、できるんだ」

Ich kann dir eines Tages helfen, wenn Du dich zu sehr nach Deinem Planeten sehnst.

Ich kann ...« 《「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」「動詞句」, 「副詞節」 | 「主語」「動詞」》

XVII

Ich イッヒ pron おれは	「主語」
kann ...helfen, カン...ヘルフェン 1 単現・可能(können+不定詞)	
v.i 助けることができる	「動詞句」
dir ディーア pron.3 格 君を	「間接目的語」
eines Tages アイネス・ターゲス adv. いつか	「副詞句」
wenn ウェン conj. ～するとき	「副詞節」
Du ドゥー pron 君が	「主語」
dich ...sehnst. ディッヒ...ゼーンスト 2 単現(sehen)	
v.pr(sich-4 nach et-3 何-3 を) あこがれる、切望する	「動詞句」
zu sehr ツー・ゼーア adv. あまりにも	「副詞句」
nach Deinem Planeten ナーハ・ダ イネム・プ ラネテン	
n.m.3 格 自分の惑星を	「間接目的語」
Ich イッヒ pron おれは	「主語」
kann ...« カン [助]1 単現(können)v. できる	「動詞」

「ああ、よく分かったよ」と、王子様が言った。「だけど、どうしていつも謎めいた言い方を
をするの？」

»Oh, ich habe sehr gut verstanden« sagte der kleine Prinz, »aber warum sprichst Du
immer in Rätseln?« 《「感嘆」, 「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」》, 「動詞」「主語」,
《aber 「副詞」「動詞」「主語」「副詞句」》

»Oh, オー int. ああ	「感嘆」
ich イッヒ pron 僕は	「主語」
habe ...verstanden« ハーベ ...フェアシュタンテン 1 単現・完了形(verstehen)v.t 分かった	「動詞句」
sehr gut ゼーア・グート adv. とてもよく	「副詞句」
sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
der kleine Prinz, デーア・クライネ・プリンツ n.m 王子さまは	「主語」
»aber アーバー conj. しかし	
warum ウェアルム adv. どうして	「副詞」
sprichst シュプ リヒスト 2 単現(sprechen)v.i 話す、言う	「動詞」
Du ドゥー pron 君は	「主語」
immer イマー adv. いつも、常に	「副詞」
in Rätseln?« イン・レーツェルン adv. 謎めかして	「副詞句」

「俺がすべての謎を解く」と、ヘビが言った。それから、彼らは黙り込んだ。

»Ich löse sie alle«, sagte die Schlange. Und sie schwiegen.

《「主語」「動詞」「目的語」》, 「動詞」「主語」 | Und 「主語」「動詞」

XVIII

»Ich	イチ	pron	俺は	「主語」
löse	レーゼ	1 単現(lösen)	v.t (問題を) 解く、解決する	「動詞」
sie alle	ジー・アレ	pron	(Rätsel の代用) 謎をすべて	「目的語」
sie	ジー	pron	(3 人称複数・性の区別なしで 1 格・4 格) それら (を)	
sagte	サークテ	3 単過(sagen)	v.t 言った	「動詞」
die Schlange.	デー・イー・シュランゲ	n.f	ヘビが	「主語」
Und	ウント	conj.	そして	
sie	ジー	pron.pl	彼らは	「主語」
schwiegen.	シュワイゲン	3 複過(schweigen)	v.i 黙り込んだ	「動詞」

XVIII

王子さまは砂漠を横断したが、花卉が 3 枚の全くみすばらしい花にしか出会わなかった。

Der kleine Prinz durchquerte die Wüste und begegnete nur einer Blume mit drei Blütenblättern einer ganz armseligen Blume...

				「主語」「動詞」「目的語」 und 「動詞」「間接目的語」
Der kleine Prinz	デア・クライネ・プリンツ	n.m	王子さまは	「主語」
durchquerte	トゥルクワエテ	3 単過(durchqueren)	v.t 横断した	「動詞」
die Wüste	デー・イー・グーステ	n.f	砂漠を	「目的語」
und	ウント	conj.	そして	
begegnete	ベゲーグテ	3 単過(begegnen)	v.i (j-3 に) 出会った	「動詞」
nur einer Blume	ヌーア・アイナー・ブルーメ	n.f.3 格	花にしか～ない	「間接目的語」
mit	ミット	adv.	(様態) ～のある	「副詞句」
drei Blütenblättern,	ドライ・ブルーテン・ブレッターン			
	pl.n.n.3 格		3 枚の花びら	「目的語」
Blüten	ブルーテン	pl.n.f(Blüte)	花	
Blättern	ブレッターン	pl.n.n(Blatt).3 格	葉	
einer ganz armseligen	アイナー・ガント・アルムゼーリゲン			
	adj.f.3 格		まったくみすばらしい	「形容詞句」
Blume...	ブルーメ	n.f.3 格	花に	「間接目的語」

XVIII



「こんにちは」と、王子様言った。

»Guten Tag«, sagte der kleine Prinz.

《「挨拶」》, 「動詞」「主語」

»Guten Tag«, グーテン・ターク adv. こんにちは

「挨拶」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

der kleine Prinz. デア・クライネ・プリンツ n.m 王子さまは

「主語」

「こんにちは」と、花が言った。

»Guten Tag«, sagte die Blume.

《「挨拶」》, 「動詞」「主語」

»Guten Tag«, sagte

»Guten Tag«, グーテン・ターク adv. こんにちは

「挨拶」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

die Blume. デー・ブルーメ n.f 花が

「主語」

「人間たちはどこにいますか？」と、王子さまは丁寧に尋ねた。

»Wo sind die Menschen?« fragte höflich der kleine Prinz.

《「副詞」「動詞」「主語」》, 「動詞」「副詞」「主語」

»Wo ヴォー adv. どこに

「副詞」

sind シント 3 複現・存在(sein)v.i ～にいる

「動詞」

die Menschen?« デー・メンシェン pl.n.m(Mensch) 人間たちは

「主語」

XVIII

fragte フラーケ 3 単過(fragen)v.t 尋ねた	「動詞」
höflich ヘーフリヒ adv. 丁寧に、礼儀正しく	「副詞」
der kleine Prinz. デア・クライネ・プリンツ n.m 王子さまは	「主語」

花は、ある日、キャラバンが通り過ぎていくのを見たことがあった。

Die Blume hatte eines Tages eine Karawane vorüberziehen sehen.

	「主語」「動詞句」「副詞句」「目的語」「補語」「動詞句」
Die Blume デーイー・ブルーメ n.f 花は	「主語」
hatte ... sehen . ハッテ...ゼーエン 3 単過・完了形・知覚動詞(sehen)	
v.t 見たことがあった	「動詞句」
知覚動詞が完了形で、不定詞の後に置かれる場合は、不定詞のままになる	
eines Tages アイネス・ターゲス adv. ある日のこと	「副詞句」
eine Karawane アイネ・カラヴァーネ n.f.4 格 (砂漠を旅する) 隊商、キャラバン	「目的語」
vorüberziehen フォリュバー・チーエン 不定詞・Karawane の動作(vorüber+ziehen)	
v.i 通り過ぎていく	「補語」
vorüber フォリュバー adv. 通り過ぎて ziehen チーエン v.i 移動する、行進する	

「人間たち？6 人か 7 人はいると思います」

»Die Menschen? Es gibt, glaube ich, sechs oder sieben.

	《「主語」 「動詞句」「動詞」「主語」「主語」》
»Die Menschen? デーイー・メンシェン pl.n.m(Mensch) 人間たちは	「主語」
Es gibt, エス・ギーブト 3 単現・非人称 v.i いる	「動詞句」
glaube グラウヘ 1 単現(glauben)v.t 思う	「動詞」
ich, イッヒ pron 私は	「主語」
sechs oder sieben. ゼックス・オーダー・ジーヘン pron.pl 6 人か 7 人	「主語」

「何年も前に、彼らを見ました。でもどこで彼らを見つけられるかは分かりません」

Ich habe sie vor Jahren gesehen. Aber man weiß nie, wo sie zu finden sind.

	《「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」 Aber 「主語」「動詞句」「目的語」》
Ich イッヒ pron 私は	「主語」
habe ...gesehen. ハーヘ...ゲゼーエン 1 単現・完了形(sehen)v.t 見た	「動詞句」
sie ジー pron.pl 彼らを	「目的語」
vor Jahren フォア・ヤーレン adv. 何年も前に	「副詞句」
Aber アーバー conj. しかし	
man マン pron (否定文で) 誰も	「主語」
weiß nie, ヴァイス・ニー 3 単現・否定(wissen)v.t 分からない	「動詞句」

XIX

wo ヲ adv. どこで～するかということ 「目的語」
 sie ジー pron.pl 彼らが 「主語」
 zu finden sind. ツー・フィンデン・ジント zu 不定詞・受動(finden)
 v.t 見つけられる 「動詞句」

「風が彼らを吹き飛ばすのです。彼らには根が無いから、とても困っているんです」

Der Wind verweht sie. Es fehlen ihnen die Wurzeln, das ist sehr übel für sie.«
 《「主語」「動詞」「目的語」 | 「動詞句」「間接目的語」「主語」, 「主語」「動詞」「補語」》
 Der Wind デア・ヴァント n.m 風が 「主語」
 verweht フェアヴァェト 3 単現(verwehen)v.t 吹き飛ばす 「動詞」
 sie. ジー pron 彼らを 「目的語」
 Es fehlen エス・フェレン 3 複現(ehlen)v.h ～が欠けている 「動詞句」
 ihnen イーネン pron 彼らには 「間接目的語」
 die Wurzeln, ディー・ワルツェルン pl.n.f 根が 「主語」
 das ダス pron そのことが 「主語」
 ist イスト 3 単現(sein)v.i ～である 「動詞」
 sehr übel ゼーア・ユーベル adj. 非常に困った 「補語」
 für sie. フュア・ジー adv. 彼らにとって 「副詞句」

「さようなら」と、王子様が言った。

»Adieu«, sagte der kleine Prinz. 《「間投」》, 「動詞」「主語」
 »Adieu«, アジュー int. さようなら 「間投」
 sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 der kleine Prinz. デア・クライネ・プリンツ n.m 王子様が 「主語」

「さようなら」と、花が言った。

»Adieu«, sagte die Blume. 《「間投」》, 「動詞」「主語」
 »Adieu«, アジュー int. さようなら 「間投」
 sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 die Blume. ディー・ブルメ n.f 花が 「主語」

XIX

王子さまは、高い山に登った。

Der kleine Prinz stieg auf einen hohen Berg. 「主語」「動詞」「間接目的語」
 Der kleine Prinz デア・クライネ・プリンツ n.m 王子さまは 「主語」

XIX

stieg シュタイク 3 単過(steigen)v.i(auf ～に) 登った 「動詞」

auf einen hohen Berg. アウフ・アイネン・ホーヘン・ベーク adv. 高い山に 「間接目的語」

einen hohen アイネン・ホーヘン adj.m(hoch).3 格 高い Berg ベーク n.m.3 格 山

彼が知っていた山は、3 つの火山だけだった。それらは膝までしか届かなかった。そして彼は休火山を腰かけとして使っていた。

Die einzigen Berge, die er kannte, waren die drei Vulkane, und sie reichten nur bis an die Knie, und den erloschenen Vulkan benutze er als Schemel.

「主語」「動詞」「補語」 und 「主語」「動詞」「副詞句」

und 「目的語」「動詞」「主語」「副詞句」

Die einzigen デーイー・アインツィゲン adj.pl.m.1 格 ただ一つの 「形容詞句」

Berge, ベーク pl.n.m.1 格 山は 「主語」

die デーイー pron (目的語) ～する 「形容詞節」

er エア pron 彼が 「主語」

kannte, カンテ 3 単過(kennen)v.t 知っていた 「動詞」

waren ヴァレン 3 複過(sein)v.i ～ だった 「動詞」

die drei Vulkane, デーイー・ドライ・ヴルカーネ pl.n.m.1 格 3 個の火山 「補語」

und ウント conj. そして

sie ジー pron.pl それらは 「主語」

reichten ライヒテン 3 複過(reichen)v.i 達した 「動詞」

nur bis ヌーア・ビス prep ～までしか 「副詞句」

an die Knie, アン・デーイー・クニー adv. 膝に 「間接目的語」

und ウント conj. そして

den erloschenen デン・エアロシェネン adj.m.4 格 消えた 「形容詞句」

Vulkan ヴルカン n.m.4.格 火山を 「目的語」

benutze ベヌツテ 3 単過(benutzen)v.t 使っていた 「動詞」

er エア pron 彼は 「主語」

als Schemel. アルス・シェメル adv. 腰かけとして 「副詞句」

このように高い山からならば、1 度で惑星全体とすべての人間を見ることができるだろう、と彼は思った。

Von einem Berg so hoch wie der da, sagte er sich, werde ich mit einem mal den ganzen Planeten und alle Menschen sehen...

「副詞句」, 「動詞句」「主語」, 「動詞句」「主語」「副詞句」「目的語」「動詞句」

Von einem Berg フォン・アイネム・ベーク adv. (条件) この山からならば 「副詞句」

so hoch ソー・ホーホ adj. これほど高い 「形容詞句」

XIX

wie der da, ヲィー・デア・ダー	adv. そのような	「副詞句」
sagte ...sich, サークテ...ズィヒ	3 単過(sich sagen)v.pr 思った	「動詞句」
er エア	pron 彼は	「主語」
werde ...sehen... ヲェアデ...ゼーエン	1 単未・推量(werden+不定詞)v.t 見えるだろう	「動詞句」
ich イヒ	pron 僕は	「主語」
mit einem mal ミット・アイネ・マル	adv. 1 度で	「副詞句」
den ganzen Planeten デン・ガントェン・プラーネーテン	n.m.4 格 惑星全体を	「目的語」
und ウント	conj. そして	
alle Menschen アレ・メンシェン	pl.n.m.4 格 すべての人間を	「目的語」

しかし、針のように鋭い尖った岩の他には何も見えなかった。

Aber er sah nichts als Felsenspitzen, scharf wie Nadeln.

Aber 「主語」「動詞」「目的語」

Aber アーバー	conj. しかし	
er エア	pron 彼は	「主語」
sah サー	3 単過(sehen)v.t 見た	「動詞」
nichts ニヒツ	pron 何も～ない	「目的語」
als Felsenspitzen, アルス・フェルゼン・シュピッツェン	adv. 尖った岩以外は	「副詞句」
Felsen フェルゼン	n.m 岩	
spitz シュピッツ	adj. 尖った、鋭い	
scharf シャーフ	adj. 鋭い	「形容詞」
wie Nadeln. ヲィー・ナーデルン	adv. 針のように	「副詞句」

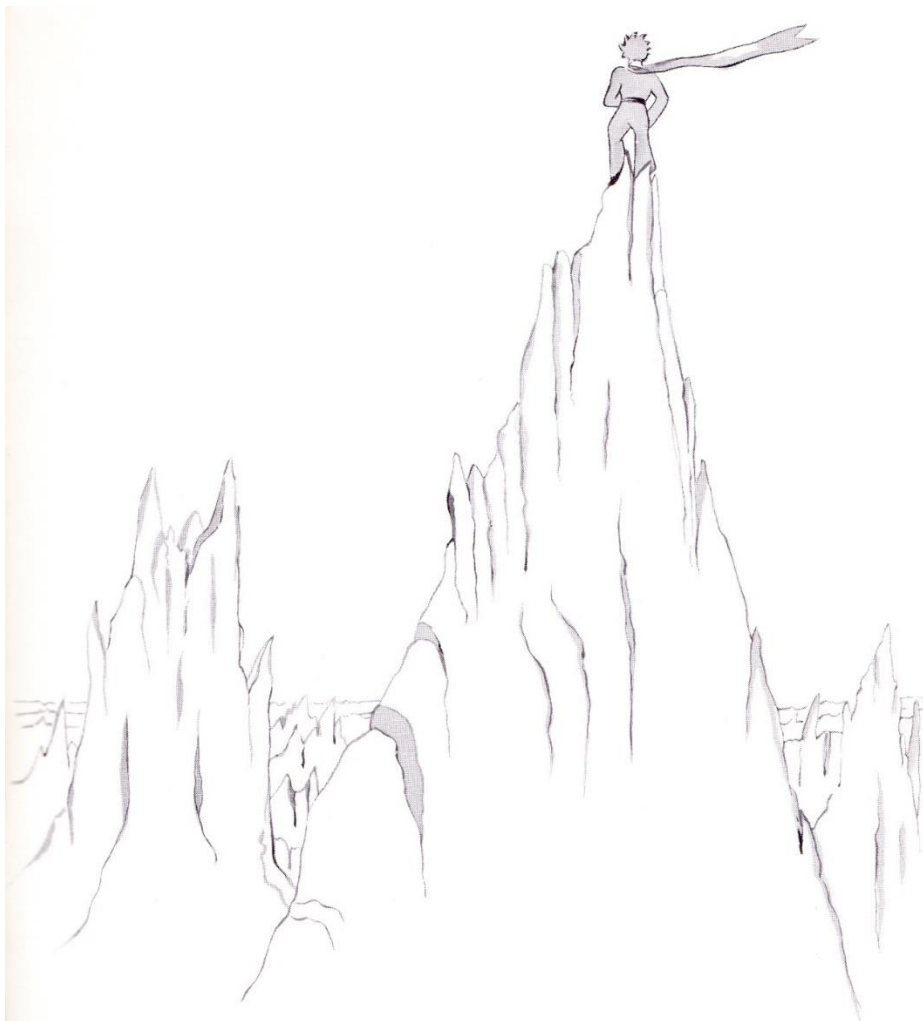
「こんにちは」と、彼は誰かが居るだろうと思って言った。

»Guten Tag«, sagte er aufs Geratewohl.	《「挨拶」》, 「動詞」「主語」「副詞句」
»Guten Tag«, グーテン・ターク adv. こんにちは	「挨拶」
sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
er エア pron 彼は	「主語」
aufs Geratewohl. アウフス・ゲラーテウール adv. (様態) あてずっぽうに	「副詞句」

「こんにちは... こんにちは... こんにちは...」と、こだまが答えた。

»Guten Tag... Guten Tag... Guten Tag...«, antwortete das Echo.	《「挨拶」, 「挨拶」, 「挨拶」》, 「動詞」「主語」
»Guten Tag... グーテン・ターク adv. こんにちは	「挨拶」
Guten Tag... グーテン・ターク adv. こんにちは	「挨拶」
Guten Tag...«, グーテン・ターク adv. こんにちは	「挨拶」
antwortete アントゥゝわテ 3 単過(antworten)v.i 答えた	「動詞」

XIX



Cette planète est toute sèche, et toute pointue et toute salée.

「僕は独りぼっち... 独りぼっち... 独りぼっち...」と、こだまが答えた。

»Ich bin allein... allein... allein...«, antwortete das Echo.

《「応答」, 「応答」, 「応答」》, 「動詞」「主語」

»Ich bin allein... イッヒ・ビン・アライン adv. 僕は独りぼっち

「応答」

allein... アライン adv. 独りぼっち

「応答」

allein...« アライン adv. 独りぼっち

「応答」

antwortete アントヴァテ 3 単過(antworten)v.i 答えた

「動詞」

das Echo. ダス・エヒョ n.n こだまが

「主語」

《奇妙な惑星だな!》と、彼は思った。

Was für ein merkwürdiger Planet! dachte er da.

〔「主語」〕, 「動詞」「主語」「副詞」

Was für ein merkwürdiger ヴァース・フュアー・アイン・マクワールデ・イカー adj. 奇妙な「形容詞句」

XIX

Planet! プラネート n.m 惑星	「主語」
dachte ダハテ 3 単過(denken)v.i 思った	「動詞」
er エア pron 彼は	「主語」
da. ダー adv. そこで	「副詞」

《まったく干からびて、いたるところが尖っていて、塩辛い。》

<u>Er ist ganz trocken, voller Spitzen und ganz salzig.</u>	《「主語」「動詞」「補語」》
Er エア pron.m (Planet の代用) それは	「主語」
ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である	「動詞」
ganz trocken, ガンツ・トロッケン adj. まったく干からびた	「補語」
voller Spitzen フォラー・シュピツェン pl.n.f(Spitze).2 格 全体が尖った先端	「補語」
und ウント conj. そして	
ganz salzig. ガンツ・サルツィヒ adj. まったく塩辛い	「補語」

《それに人間には想像力が欠けている。》

Und <u>den Menschen fehlt es an Phantasie.</u>	《Und 「間接目的語」「動詞句」「間接目的語」》
Und ウント conj. そして	
den Menschen デン・メンシェン pl.n.m.3 格 人間には	「間接目的語」
fehlt es フェルト・エス 非人称・3 単現(fehlen)	
v.i(es fehlt j-3 an et-3 人-3 に何-3 が) 欠けている	「動詞句」
an Phantasie. アン・ファンタジー adv.(Fantasie) 想像力が	「間接目的語」

「彼らは、人が彼らに言ったことを繰り返すだけだ。」

<u>Sie wiederholen, was man ihnen sagt...</u>	《「主語」「動詞」「目的語」》
Sie ジー pron.pl 彼らは	「主語」
wiederholen, ヴィーダーホルン 3 複現 v.t 繰り返す	「動詞」
was ヴァス pron ~するものを	「目的語」
man マン pron 人が	「主語」
ihnen イーネン pron.pl.3 格 彼らに	「間接目的語」
sagt... サークト 3 単現(sagen)v.t 言う	「動詞」

「僕の星では、僕は 1 輪の花を持っていた。彼女はいつも先に話しかけてくれたものだ。」

<u>Zu Hause hatte ich eine Blume: Sie sprach immer zuerst...</u>	《「副詞句」「動詞」「主語」「目的語」:「主語」「動詞」「副詞句」》
Zu Hause ツー・ハウゼ adv. (場所) 僕のところでは	「副詞句」
hatte ハッテ 1 単過(haben)v.t 持っていた	「動詞」

XX

ich	イヒ	pron	僕は	「主語」
eine Blume:	アイネ・ブルーメ	n.f 1	輪の花を	「目的語」
Sie	ジー	pron	彼女は	「主語」
sprach	シュプラーハ	3 単過・習慣(sprechen)v.i	話した	「動詞」
immer	イマー	adv.	いつも	「副詞」
zuerst...	ツェアースト	adv.	最初に、先に	「副詞」

XX

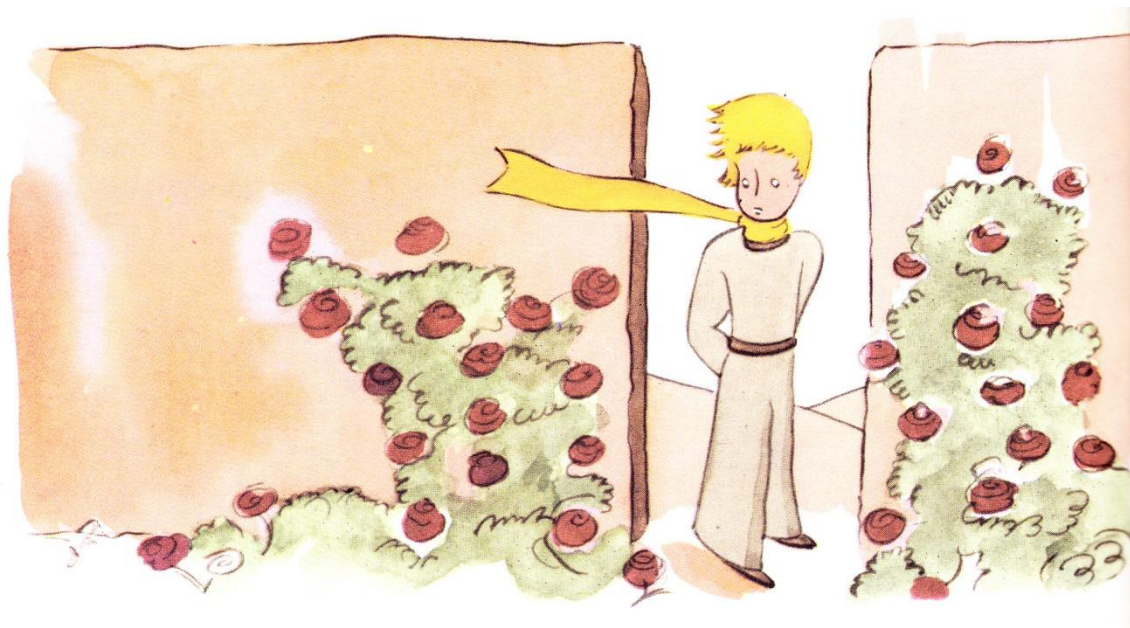
しかし、王子様が砂地と岩場と雪の上を長い間歩いた後で、ついに王子さまは 1 つの道を見つけることになった。

Aber nachdem der kleine Prinz lange über den Sand, die Felsen und den Schnee gewandert war, geschah es, dass er endlich eine Straße entdeckte.

Aber 「副詞節」, 「動詞句」 「主語」

Aber	アーバー	conj.	しかし	
nachdem	ナーハデーム	conj.	～したあとで	「副詞節」
der kleine Prinz	デア・クライネ・プリンツ	n.m	王子様が	「主語」
lange	ランゲ	adv.	長く、長い間	「副詞」
über	ユーバー	prep (3 格または 4 格と)	～の上で	「副詞句」
den Sand,	デン・ザント	n.m.4 格	砂地	「目的語」
die Felsen	ディー・フェルゼン	pl.n.m.4 格	岩	「目的語」
und	ウント	conj.	そして	
den Schnee	デン・シュネー	n.m.4 格	雪	「目的語」
gewandert war,	ゲ・ヴァンダート・ヴァール	3 単過・完了形(wandern)		
	v.i	歩き回った		「動詞句」
geschah es,	ゲシャー・エス	3 単過・非人称(geschehen)v.i	起こった	「動詞句」
	es geschah, dass...		「～ということが起きた、～することになった」	
dass	ダス	conj.	～ということが	「主語」
er	エア	pron	彼は	「主語」
endlich	エンドリッヒ	adv.	ついに	「副詞」
eine Straße	アイネ・シュトラッセ	n.f 1	つの道を	「目的語」
entdeckte.	エントデックテ	3 単過(entdecken)v.t	見つけた、発見した	「動詞」

XX



そして道というのは、人間たちに通じている。

Und die Straßen führen zu Menschen.

Und 「主語」「動詞」「間接目的語」

Und ウント conj. そして

die Straßen デー・シュトラセン pl.n.f 道というのは

「主語」

führen フューレン 3 複現 v.i(zu et-3 ～に) 通じている

「動詞」

zu Menschen. ツー・メンシェン adv.(Mensch) 人間たちへ

「間接目的語」

通じる : (道が)

～につながっている、～に導いていく

「こんにちは」と、王子さまは言った。

»Guten Tag«, sagte er.

《「挨拶」》, 「動詞」「主語」

»Guten Tag«, グーテン・ターク adv. こんにちは

「挨拶」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

er. エア pron 王子さまは

「主語」

そこは、花盛りのバラ園だった。

Da war ein blühender Rosengarten.

「主語」「動詞」「補語」

Da ダー adv. そこは

「主語」

war ヴァール 3 単過(sein)v.i ～ だった

「動詞」

ein blühender アイン・ブリューエンダー adj.m.1 格 花盛りの

「形容詞句」

Rosengarten. ローゼンガルテン n.m.1 格 バラ園

「補語」

Rosengarten → Rosen ローゼン pl.n.f バラの garten ガルテン n.m 庭

通じる : (道が)

XX

「こんにちは」と、バラたちが言った。

»Guten Tag«, sagten die Rosen.

《「挨拶」》, 「動詞」「主語」

»Guten Tag«, グーテン・ターク adv. こんにちは

「挨拶」

sagten サークテン 3 複過(sagen)v.t 言った

「動詞」

die Rosen. デー・ローゼン pl.n.f(Rose) バラたちが

「主語」

王子さまはそれらをじっと見つめた。彼らはみんな王子様の花に似ていた。

Der kleine Prinz sah sie an. Sie glichen alle seiner Blume.

「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」 | 「主語」「動詞」「主語」「間接目的語」

Der kleine Prinz デア・クライネ・プリンツ pron 王子さまは

「主語」

sah ...an. サー...アン 3 単過(an|sehen)v.t じっと見つめた

「動詞句」

sie シー pron.f.pl それらを

「目的語」

Sie シー pron.pl 彼らは

「主語」

glichen グリヒェン 3 複過(gleichen)v.i(et-3 に) 非常に似ていた

「動詞」

alle アレ pron みんな

「主語」

seiner Blume. サイナー・ブルメ n.f.3 格 彼の花に

「間接目的語」

「君たちは誰なの？」と、王子さまはひどく驚いて尋ねた。

»Wer seid ihr?« fragte er sie höchst erstaunt.

《「補語」「動詞」「主語」》, 「動詞」「主語」「目的語」「副詞句」

»Wer ウェア pron 誰?

「補語」

seid サイト 2 複現(sein)v.i ~である

「動詞」

ihr?« イア pron/pl.1 格 君たちは

「主語」

fragte フラーケ 3 単過(fragen)v.t 尋ねた

「動詞」

er エア pron 王子さまは

「主語」

sie シー pron.pl 彼らに

「目的語」

höchst erstaunt. ヘヒスト・エアシュタウト adv. ひどく驚いて

「副詞句」

「私たちはバラの花よ」と、バラの花たちが言った。

»Wir sind Rosen«, sagten die Rosen.

《「主語」「動詞」「補語」》, 「動詞」「主語」

»Wir ウィア pron 私たちは

「主語」

sind シント 1 複現(sein)v.i ~である

「動詞」

Rosen«, ローゼン pl.n.f(Rose) バラの花

「補語」

sagten サークテン 3 複過(sagen)v.t 言った

「動詞」

die Rosen. デー・ローゼン pl.n.f バラの花たちが

「主語」

XX

「ああ！」と、王子様が言った。

»Ach!« sagte der kleine Prinz...

《「感嘆」》, 「動詞」「主語」

»Ach!« アッハ int. ああ!

「感嘆」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

der kleine Prinz... デア・クライン・プリンツ n.m 王子様が

「主語」

そして彼は自分がとても不幸だと感じた。

Und er fühlte sich sehr unglücklich.

Und 「主語」「動詞句」「補語」

Und ウント conj. そして

er エア pron 彼は

「主語」

fühlte sich フュールテ・スィット 3 単過(sich-4 fühlen)v.pr (自分を) ~だと感じた

「動詞句」

sehr unglücklich. セーア・ウングリュックリヒ adj. とても不幸な

「補語」

彼の花は、自分はこの世の中でその種で唯一の花であると、彼に言っていた。

Seine Blume hatte ihm erzählt, dass sie auf der ganzen Welt einzig in ihrer Art sei.

「主語」「動詞句」「間接目的語」「直接目的語」

Seine Blume サイネ・ブルーメ n.f 彼の花は

「主語」

hatte ...erzählt, ハッテ...エアツェルト 3 単過・完了形(erzählen)v.t 語っていた

「動詞句」

ihm イム pron 彼に

「間接目的語」

dass ダス conj. ~ということ

「直接目的語」

sie シー pron 彼女は

「主語」

auf der ganzen Welt アウフ・デア・ガンツェン・ヴェルト adv. 全世界の中で

「副詞句」

einzig アインツィヒ adj. 唯一の

「補語」

in ihrer Art イン・イーラー・アルト adv. その種の中で

「副詞句」

sei. サイ 接・3 単現(sein)v.i ~である

「動詞」

「唯一」は主観を含むので、接続法を用いる

だけど、ほら、そこに、たった一つの庭にまったく同じ 5000 本のバラがあったじゃないか!

Und siehe!, da waren fünftausend davon, alle gleich, in einem einzigen Garten!

Und 「動詞」 | 「副詞」「動詞」「主語」

Und ウント conj. だけど

siehe!, シーヘ 命・2 単現(sehen)v.t ごらん

「動詞」

da ダー adv. そこに

「副詞」

waren ヲアレン 3 複過(sein)v.i ~があった

「動詞」

fünftausend davon, フェンフ・タウゼント・ダヴァン pron 5000 本のバラが

「主語」

alle gleich, アレ・グライヒ adj. まったく同じ

「形容詞句」

XX

in einem einzigen Garten! イン・アイネム・アインツィゲン・ガルテン

adv. たった一つの庭に

「副詞句」

《これを見たら、僕の花はとてもばつの悪い思いをするだろうな》と、王子さまは思った。

Sie wäre sehr böse, wenn sie das sähe, sagte er sich...

「主語」「動詞」「補語」, 「副詞節」, 「動詞句」「主語」

Sie ジー pron 僕の花は

「主語」

wäre ヱェレ 接 II・3 単現・推量(sein)v.i ~だろう

「動詞」

sehr böse, セーア・ベーセ adj. とても悪い → とてもばつの悪い

「補語」

wenn ヱェン conj. ~すると

「副詞節」

sie ジー pron 彼女が

「主語」

das ダス pron これを

「目的語」

sähe, セーヘ 接 II・3 単現・假定(sehen)v.t 見たとする

「動詞」

sagte ...sich... サークテ...スイッヒ 3 単過(sich-4 sagen)v.pr 思った

「動詞句」

er エア pron 王子さまは

「主語」

彼女は大きな咳をするだろう、そして、馬鹿にされるのを免れるために、死んだふりをする
だろうな。Sie würde fürchterlich husten und so tun, als stürbe sie, um der Lächerlichkeit zu entgehen. 「主語」「動詞句」「副詞」「動詞句」und so 「動詞句」「副詞節」, 「副詞句」

Sie ジー pron.f 彼女は

「主語」

würde ...husten ヱェルデ...フーステン 接 II・3 単現・推量(werden+不定詞)

v.i 咳をするだろう

「動詞句」

fürchterlich フュルヒターリヒ adv. すごい、大きな

「副詞」

und ウント conj. そして

soゾー conj. それから

tun, トゥン 接 II・3 単現・推量(werden+不定詞)v.i ふりをするだろう

「動詞句」

tun トゥン v.i 振る舞う、ふりをする

als+接続法 アルス conj. あたかも~であるかのように

「副詞節」

stürbe シュトゥルベ 接 II・3 単現(sterben)v.i 死んでいる

「動詞」

sie, ジー pron 彼女は

「主語」

zu 不定句・目的 adv. ~するために

「副詞句」

um der Lächerlichkeit ウム・デア・レヒャーリヒカイト adv. バカバカしさ

「間接目的語」

zu entgehen. ツー・ェントゲーエン zu 不定詞 v.i 免れる

「動詞句」

XX

そして僕は彼女の世話をするふりをしなければならないだろう、さもないと、僕も恥じ入らせるために、彼女を死なせてしまうことになるだろうから...

Und ich müßte wohl so tun, als pflegte ich sie, denn sonst ließe ich sie wirklich sterben, um auch mich zu beschämen...

Und 「主語」「動詞句」「副詞句」,denn 「副詞」「動詞」「主語」「目的語」「補語」「副詞句」

Und ウント conj. そして

ich イヒ pron 僕は 「主語」

müßte ...tun, ムステ...トゥン 接 II・1 単現・推量(müssen+不定詞)

v.i ふりをしなければならないだろう 「動詞句」

wohl so ヴォール・ゾー adv. 全くそのように 「副詞句」

als+接続法 アルス conj. あたかも～であるかのように 「副詞節」

pflegte プフルクテ 接 II・1 単現(pflegen)v.t 介護している 「動詞」

ich イヒ pron 僕が 「主語」

sie, シー pron 彼女を 「目的語」

denn デン conj. なぜならば

sonst ソンスト adv. さもないと 「副詞」

ließe リーセ 接 II・1 単現・使役・推量(lassen)v.t(SVO+不定詞 Oに) ～をさせるだろう「動詞」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

sie シー pron.f 彼女に 「目的語」

wirklich ヴィルクリヒ adv. 本当に 「副詞」

sterben, シュテアベン 不定詞・sie の動作 v.i 死ぬ 「補語」

zu 不定詞・目的 adv. ～するために 「副詞句」

um auch mich ウム・アウフ・ミヒ adv. 僕も 「目的語」

zu beschämen... ツー・ベ・シェーメン zu 不定詞 v.t 恥じ入らせる 「動詞句」

それから彼はさらに思った：僕は唯一無二の花のおかげで豊かなのだと思っていた。だけど、僕は普通のバラにすぎない 1 本の花をもっているだけなんだ。

Dann sagte er sich noch: Ich glaubte, ich sei reich durch eine einzigartige Blume, und ich besitze nur eine gewöhnliche Rose.

「副詞」「動詞句」「主語」「動詞句」「副詞句」:

「主語」「動詞」「目的語」und 「主語」「動詞」「目的語」

Dann ダン adv. それから 「副詞」

sagte ...sich ザークテ...スィヒ 3 単過・再帰動詞(sich-4 sagen)v.pr 思った 「動詞句」

er エア pron 彼は 「主語」

noch: ノッホ adv. (追加) さらに 「副詞」

Ich イヒ pron 僕は 「主語」

XX

glaubte, グラウプテ 1 単過(glauben)v.t	思っていた	「動詞」
n. ～ということ		「目的語」
ich イヒ pron	僕は	「主語」
sei サイ 接 I・1 単現(sein)v.i	～である	「動詞」
reich ライ adj.	豊かな	「補語」
durch ドゥルヒ prep	(原因) ～のおかげで	「副詞句」
eine einzigartige Blume, アインツィヒアルティゲ・ブルム		
n.f 唯一無二の花		「目的語」
und ウント conj.	そして	
ich イヒ pron	僕は	「主語」
besitze ベジッツェ 1 単現(besitzen)v.t	持っている	「動詞」
nur ヌア adv.	～でしかない	「副詞」
eine gewöhnliche Rose, アインゲワーンリッヒェ・ローセ n.f	普通のバラの花	「目的語」

あの花と僕の膝に達する 3 つの火山、その内 1 つは永久に休火山かもしれない、これでは僕を立派な王子様にすることはできない。

Sie und meine drei Vulkane, die mir bis ans Knie reichen und von denen einer vielleicht für immer verloschen ist, das macht aus mir keinen sehr großen Prinzen...

	「主語」, 「主語」 「動詞」 「間接目的語」 「補語」	
Sie ジー pron.f	あの花は	「主語」
und ウント conj.	そして	
meine drei Vulkane, マイネ・ドライ・ヴルカーネ pl.n.m	僕の 3 つの火山は	「主語」
die デー pron.pl	(主語) ～する	「形容詞節」
mir ミー pron	僕の	「間接目的語」
bis ans Knie ビス・アンス・クニー adv.	膝まで	「副詞句」
reichen ライエン 3 複現 v.i	達する	「動詞」
und ウント conj.	そして	
von denen einer フォン・デーネン・アイアー pron	そのうちの一つは	「主語」
vielleicht フライヒト adv.	ひょっとしたら	「副詞」
für immer フュア・イマー adv.	永久に	「副詞句」
verloschen フェアロシェン adj.	消えた	「補語」
ist, イスト 3 単現(sein)v.i	～である	「動詞」
das ダス pron	このことは	「主語」
macht マハト 3 単現(machen)v.t	(様態を示す語句と) ～にする	「動詞」
aus mir アウス・ミー adv.	僕を	「間接目的語」
keinen sehr großen Prinzen... カイン・セーア・グローセン・プリンツェン		

XXI

n.m 立派な王子様に～ない

「補語」

そう言うと、王子さまは草地の上に倒れこんで、泣いた。

Und er warf sich ins Gras und weinte. Und 「主語」「動詞句」「副詞句」 und 「動詞」

Und ウント conj. そして

er エ pron 王子さまは

「主語」

warf sich ヲァーフ・ズィッヒ 3 単過(sich-4 werfen)v.pr 倒れこんだ

「動詞句」

ins Gras インス・グラース adv. 草地の上に

「副詞句」

und ウント conj. そして

weinte. ヲァインテ 3 単過(weinen)v.i 泣いた

「動詞」

XXI

この時、キツネが現れた。

In diesem Augenblick erschien der Fuchs:

「副詞句」「動詞」「主語」

In diesem Augenblick イン・ディージェム・アウゲンブリック adv. この時

「副詞句」

erschien エアシーン 3 単過(erscheinen)v.i 現れた

「動詞」

der Fuchs: デア・フクス n.m キツネが

「主語」

「こんにちは」と、キツネが言った。

»Guten Tag«, sagte der Fuchs.

《「挨拶」》, 「動詞」「主語」

»Guten Tag«, グーテン・ターク adv. こんにちは

「挨拶」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

der Fuchs. デア・フクス n.m キツネが

「主語」

「こんにちは」と、王子さまは丁寧に答えて振り返ったが、何も見えなかった。

»Guten Tag«, antwortete höflich der kleine Prinz, der sich umdrehte, aber nichts sah.

《「挨拶」》, 「動詞」「副詞」「主語」, 「主語」「動詞句」, aber 「目的語」「動詞」

»Guten Tag«, グーテン・ターク adv. こんにちは

「挨拶」

antwortete アントヴァアテテ 3 単過(antworten)v.i 答えた

「動詞」

höflich ヘーフリヒ adv. 丁寧に

「副詞」

der kleine Prinz, デア・クライン・プリンツ n.m 王子様が

「主語」

der デア pron.m 彼は

「主語」

sich umdrehte, スィッヒ・ウム・ドレーテ 3 単過(sich-4 um | frehen)v.pr 振り返った

「動詞句」

aber アーバー conj. しかし

nichts ニヒツ pron 何も～ない

「目的語」

XXI

sah. ザー 3 単過(sehen)v.t 見えた

「動詞」

「ここにいるよ」と、声が言った。「リンゴの木下だよ」

»Ich bin da«, sagte die Stimme, »unter dem Apfelbaum...«

《「主語」「動詞」「副詞」》, 「動詞」「主語」, 《「副詞句」》

»Ich イッヒ pron ぼくは

「主語」

bin ビン 1 単現・存在(sein)v.i ~にいる

「動詞」

da«, ダー adv. ここに

「副詞」

sagte ザーケ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

die Stimme, デーイー・シュティメ n.f 声

「主語」

»unter ウンター prep ~の下に

「副詞句」

dem Apfelbaum...« デーム・アプフェルバウム n.m.3 格 リンゴの木の

「目的語」

「君は誰なの？」と、王子さまは言った。「君はとても可愛いね」

»Wer bist du?« sagte der kleine Prinz. »Du bist sehr hübsch...«

《「補語」「動詞」「主語」》, 「動詞」「主語」, 《「主語」「動詞」「補語」》

»Wer ヴェア pron 誰

「補語」

bist ビスト 2 単現(sein)v.i ~である

「動詞」

du?« ドゥー pron 君は

「主語」

sagte ザーケ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

der kleine Prinz. デア・クライン・プリンツ n.m 王子様が

「主語」

»Du ドゥー pron 君は

「主語」

bist ビスト 2 単現(sein)v.i ~である

「動詞」

sehr hübsch...« セーア・ヒュプシュ adj. とても可愛い

「補語」

「ぼくはキツネだよ」と、キツネが言った。

»Ich bin ein Fuchs«, sagte der Fuchs.

《「主語」「動詞」「補語」》, 「動詞」「主語」

»Ich イッヒ pron ぼくは

「主語」

bin ビン 1 単現(sein)v.i ~である

「動詞」

ein Fuchs«, アイン・フクス n.m.1 格 キツネ

「補語」

sagte ザーケ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

der Fuchs. デア・フクス n.m キツネが

「主語」

XXI



「来て、一緒に遊ぼうよ」と、王子さまは彼に提案した。「僕はこんなに悲しいんだよ」

»Komm und spiel mit mir«, schlug ihm der kleine Prinz vor. »Ich bin so traurig...«

《「動詞」 und 「動詞」 「副詞句」》,

「動詞句」 「間接目的語」 「主語」 「動詞句」, 《「主語」 「動詞」 「補語」》

»Komm コム 命・2 単現(kommen)v.i 来て!

「動詞」

und ウント conj. そして

spiel シュピール 命・2 単現(spielen)v.i 遊ぶ!

「動詞」

mit mir, ミット・ミー adv. 僕と一緒に

「副詞句」

schlug ...vor. シュルク...フォー 3 単過(vor|schlagen)v.t 提案した

「動詞句」

ihm イム pron 彼に

「間接目的語」

der kleine Prinz デア・クライネ・プリンツ n.m 王子さまは

「主語」

»Ich イヒ pron 僕は

「主語」

bin ビン 1 単現(sein)v.i ~である

「動詞」

so traurig...« ザー・トラウヒ adj. こんなに悲しい

「補語」

「君とは遊べない」と、キツネが言った。「まだ飼いならされていないから」

»Ich kann nicht mit dir spielen«, sagte der Fuchs. »Ich bin noch nicht gezähmt!«

《「主語」 「動詞句」 「間接目的語」 「動詞句」》, 「動詞」 「主語」,

《「主語」 「動詞句」 「副詞」 「動詞句」》

»Ich イヒ pron 僕は

「主語」

kann nicht ...spielen, カン・ニヒト...シュピール 1 単現・可能・否定(können+不定詞)

XXI

v.i(mit と) 遊べない	「動詞句」
mit dir ミット・デア adv. 君と	「間接目的語」
sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
der Fuchs. デア・フクス n.m キツネが	「主語」
»Ich イヒ pron 僕は	「主語」
bin ...nicht gezähmt!« ビン...ニヒト・ゲツェームト 1 単現・状態受動・否定(zähmen)	
v.t 飼いならされていない	「動詞句」
noch ノッホ adv. まだ	「副詞」

「ああ、ごめんね」と、王子様が言った。

»Ah, Verzeihung!« sagte der kleine Prinz.	《「感嘆」「応答」》, 「動詞」「主語」
»Ah, アー int. ああ	「感嘆」
Verzeihung!« フェアツァイクンク n.f ごめんね、赦し	「応答」
sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
der kleine Prinz. デア・クライン・プリンツ n.m 王子様が	「主語」

しかし少し考えてから、王子さまは付け加えた：

Aber nach einiger Überlegung fügte er hinzu:	Aber 「副詞句」「動詞句」「主語」「動詞句」
Aber アーバー conj. しかし	
nach ナーハ prep (時間) 〜のあとで	「副詞句」
einiger Überlegung アインガー・ユーバー・レーグンク n.f 少しの考慮	「目的語」
einige アインゲ pron (不定) いくらかの Überlegung ユーバー・レーグンク n.f 考慮	
fügte ...hinzu: フェクテ...ヒンツ 3 単過(hinzu fügen)v.t 付け加えた	「動詞句」
er エア pron 彼は	「主語」

「『飼いならす』って、どういう意味なの？」

»Was bedeutet das: 'zähmen'?«	《「目的語」「動詞」「主語」》
»Was ヴァス pron 何を	「目的語」
bedeutet ベトイェット 3 単現(bedeutен)v.t 意味する	「動詞」
das: 'zähmen'?« ダス・ツェーメン n.n ‘飼いならす’ という言葉は	「主語」

「君はここの出身じゃないね」と、キツネが言った。「何を探しているの？」

»Du bist nicht von hier, sagte der Fuchs, »was suchst du?«	《「主語」「動詞句」「補語」》, 「動詞」「主語」, 《「目的語」「動詞」「主語」》
»Du トゥー pron 君は	「主語」

XXI

bist nicht	ビスト・ニヒト	2 単現・否定(sein)v.i	～でない	「動詞句」
von hier,	フォン・ヒーア	adv. (出身)	ここから	「補語」
sagte	サーケテ	3 単過(sagen)v.t	言った	「動詞」
der Fuchs,	デア・フクス	n.m	キツネが	「主語」
»was	ヴァス	pron	何を	「目的語」
suchst	スーフスト	2 単現(suchen)v.t	探している	「動詞」
du?»	ドゥー	pron	君は	「主語」

「人間たちを探しているんだ」と、王子様が言った。『飼いなす』って、どういう意味？」

»Ich <u>suche die Menschen</u> «, <u>sagte der kleine Prinz</u> . » <u>Was bedeutet 'zähmen'?</u> «				
《「主語」「動詞」「目的語」》, 「動詞」「主語」, 《「目的語」「動詞」「主語」》				
»Ich	イチ	pron	僕は	「主語」
suche	スーヘ	1 単現(suchen)v.t	探している	「動詞」
die Menschen	ディー・メンシェン	pl.n.m	人間を	「目的語」
sagte	サーケテ	3 単過(sagen)v.t	言った	「動詞」
der kleine Prinz.	デア・クライネ・プリンツ	n.m	王子様が	「主語」
»Was	ヴァス	pron	何を	「目的語」
bedeutet	ベトイェット	3 単現(bedeutend)v.t	意味する	「動詞」
'zähmen'?	ツェーメン	不定詞 n.	『飼いなす』は	「主語」

「人間たちか」と、キツネが言った。「彼らは鉄砲を持っていて、獣を撃ち殺すんだ。それはとても厄介だ。彼らは鶏も飼っているんだ。これは彼らの唯一のいいところだ。君は鶏を探すの？」

» <u>Die Menschen</u> «, <u>sagte der Fuchs</u> , » <u>die haben Gewehre und schießen</u> . <u>Das ist sehr lästig</u> . <u>Sie ziehen auch Hühner auf</u> . <u>Das ist ihr einziges Interesse</u> . <u>Du suchst Hühner?</u> «				
《「確認」》, 「動詞」「主語」, 《「主語」「動詞」「目的語」 und 「動詞」				
「主語」「動詞」「補語」 「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」				
「主語」「動詞」「補語」 「主語」「動詞」「目的語」》				
»Die Menschen	ディー・メンシェン	pl.n.m	人間たちか	「確認」
sagte	サーケテ	3 単過(sagen)v.t	言った	「動詞」
der Fuchs,	デア・フクス	n.m	キツネが	「主語」
»die	ディー	pron.pl	彼らは	「主語」
haben	ハーベン	3 複現 v.t	持っている	「動詞」
Gewehre	ゲウエーレ	pl.n.m	銃、鉄砲を	「目的語」
und	ウント	conj.	そして	
schießen.	シーゼン	3 複現 v.t	(獣を) 撃ち殺す	「動詞」

XXI

Das ダス pron	それは	「主語」
ist イスト 3 単現(sein)v.i	～である	「動詞」
sehr lästig. ゼーア・レスティヒ adj.	非常に厄介な	「補語」
Sie ジー pron.pl	彼らは	「主語」
ziehen ...auf. ツィエン...アウフ 3 複現(auf ziehen)v.t	(動物を) 飼っている	「動詞句」
auch アウフ adv.	～もまた	「副詞」
Hühner ヒューナー pl.n.n(Huhn)	鶏 (食用の鳥)	「目的語」
Das ダス pron	それは	「主語」
ist イスト 3 単現(sein)v.i	～である	「動詞」
ihr einziges Interesse. イー・アインツィゲス・インテレス n.n	彼らの唯一の好きなところ	「補語」
Du ドゥー pron	君は	「主語」
suchst スーフト 2 単現(suchen)v.t	探す	「動詞」
Hühner?« ヒューナー pl.n.n(Huhn)	鶏 (食用の鳥)	「目的語」

「いや、探さないよ」と、王子様が言った。「僕は友達を探しているんだ。『飼いならす』ってどういう意味なの？」

»Nein«, sagte der kleine Prinz, »ich suche Freunde. Was heißt 'zähmen'?«

《「応答」》, 「動詞」「主語」, 《「主語」「動詞」「目的語」 | 「補語」「動詞」「主語」》

»Nein«, ナイン adv.	(否定) いや、探さないよ	「応答」
sagte ザーケ 3 単過(sagen)v.t	言った	「動詞」
der kleine Prinz, デア・クライン・プリンツ n.m	王子様が	「主語」
»ich イヒ pron	僕は	「主語」
suche スーヘ 1 単現(suchen)v.t	探している	「動詞」
Freunde. フロインデ pl.n.m	友達を	「目的語」
»Was ヴァス pron	何を	「補語」
heißt ハイスト 3 単現(heißen)v.i	(bedeuten と同義) (～の) 意味である	「動詞」
'zähmen'?« ツェーメン 不定詞 n.	『飼いならす』は	「主語」

「それは忘れられてしまった事だよ」と、キツネが言った。「それは『絆を作る』という意味だよ」

»Das ist eine in Vergessenheit geratene Sache«, sagte der Fuchs. »Es bedeutet: sich vertraut machen!«

《「主語」「動詞」「補語」》, 「動詞」「主語」, 《「主語」「動詞」: 「目的語」》

»Das ダス pron	それは	「主語」
ist イスト 3 単現(sein)v.i	～である	「動詞」
eine アイン art. 1 つの		「形容詞」

XXI

in Vergessenheit	イン・フェアゲスハイト	adv. 忘れられたように	「副詞句」
geratene	ゲラーテ	過去分詞(geraten)adj. 陥った	「形容詞」
Sache	「サッハ」	n.f 事	「補語」
sagte	ザーケ	3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
der Fuchs.	デア・フクス	n.m キツネが	「主語」
»Es	エス	pron それは	「主語」
bedeutet:	ベト・イェット	3 単現(bedeutend)v.t 意味する	「動詞」
sich ... machen	「ズィヒ...マヘン」	不定詞・再帰動詞	
n.	(状態が) ~になること、~に向かう		「目的語」
'vertraut	フェアトラウト	adj. 親しい	「補語」
→	親しくなることに向かう → 絆を作る		

「絆を作る？」

» <u>Vertraut machen?</u> «	《「目的語」「動詞句」》
»Vertraut	フェアトラウト
n.n	親しい関係を、絆を
machen?«	マヘン
不定詞 n.	作ること
	「主語」

「そうだよ」と、キツネが言った。

»Gewiß«, <u>sagte der Fuchs</u> .	《「応答」》, 「動詞」「主語」
»Gewiß«, ゲウイース adv. 確かな、その通り	「応答」
sagte ザーケ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
der Fuchs. »デア・フクス n.m キツネが	「主語」

「君はまだ僕にとっては、10 万人の少年に全くよく似た 1 人の少年にすぎない」

» <u>Du bist für mich noch nichts als ein kleiner Knabe, der hunderttausend kleinen Knaben völlig gleicht.</u>	《「主語」「動詞」「副詞句」「補語」》
»Du トゥ pron 君は	「主語」
bist ビスト 2 単現(sein)v.i ~である	「動詞」
für mich フュア・ミヒ adv. 僕にとって	「副詞句」
noch ノッホ adv. まだ	「副詞」
nichts als ein kleiner Knabe, ニヒツ・アルス・アイン・クライナー・クナーヘ	
n.m.1 格 まさに 1 人の少年	「補語」
der デア pron (主語) ~する	「形容詞節」
hunderttausend kleinen Knaben フンダー・ト・タウゼント・クライネン・クナーベン	
pl.n.m.3 格 10 万人の少年に	「間接目的語」
völlig フォーリヒ adv. まったく、完全に	「副詞」

XXI

gleich. グライヒト 3 単現(gleichen)v.i(j-3 に) よく似ている 「動詞」

「僕は君を必要としていないし、君も同様に僕を必要としていない」

Ich brauche dich nicht, und du brauchst mich ebenso wenig.

《「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」,und「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」》

Ich イット pron 僕は 「主語」

brauche ...nicht, ブラウヘ...ニヒト 1 単現・否定(brauchen)v.t 必要としていない 「動詞句」

dich デイット pron.4 格 君を 「目的語」

und ウント conj. そして

du トゥ pron 君は 「主語」

brauchst ...ebenso wenig. ブラウフスト...エーヴ エンゾー・ヴ エーニヒト 2 単現・否定(brauchen)

v.t 同様に必要としていない 「動詞句」

mich ミット pron.4 格 僕を 「目的語」

「僕は君にとっては、10 万匹のキツネによく似ている 1 匹のキツネにすぎない」

Ich bin für dich nur ein Fuchs, der hunderttausend Füchsen gleicht.

《「主語」「動詞」「副詞句」「補語」》

Ich イット pron 僕は 「主語」

bin ビン 1 単現(sein)v.i ~である 「動詞」

für dich フューア・デイト adv. 君にとって 「副詞句」

nur ein Fuchs, ヌーア・アイン・フクス n.m 1 匹のキツネにすぎない 「補語」

derデア pron (主語) ~する 「形容詞節」

hunderttausend Füchsen フンダート・タウゼント・フュクセン

pl.n.m.3 格 10 万匹のキツネに 「間接目的語」

gleich. グライヒト 3 単現(gleichen)v.i(j-3 に) よく似ている 「動詞」

「しかし、君が僕を飼いならすと、僕たちはお互いを必要とするようになるだろう」

Aber wenn du mich zähmst, werden wir einander brauchen.

《Aber「副詞節」,「動詞句」「主語」「目的語」「動詞句」》

Aber アーバー conj. しかし

wenn ウェン conj. ~すると 「副詞節」

du トゥ pron 君が 「主語」

mich ミット pron 僕を 「目的語」

zähmst, ツェームスト 2 単現(zähmen)v.t 飼いならす 「動詞」

werden ...brauchen. ウェアデッ...ブラウヘン 1 複未・推量(werden+不定詞)

v.t 必要とするだろう 「動詞句」

XXI

wir ヲィア pron 僕たちは 「主語」
 einander アイナダー pron お互いを 「目的語」

君は僕にとってこの世で唯一の存在になるだろう。

Du wirst für mich einzig sein in der Welt.

「主語」「動詞句」「間接目的語」「補語」「動詞句」「補語」
 Du トゥ pron 君は 「主語」
 wirst ...sein ヲィスト...ザイン 2 単未・推量(werden+不定詞)v.i ~になるだろう 「動詞句」
 für mich フュア・ミヒ adv. 僕にとって 「間接目的語」
 einzig アインツヒ adj. 唯一の 「補語」
 in der Welt. イン・デア・ヴェルト adv. この世で 「副詞句」

僕は君にとってこの世で唯一の存在になるだろう。

Ich werde für dich einzig sein in der Welt...«

「主語」「動詞句」「間接目的語」「補語」「動詞句」「補語」
 Ich イヒ pron 僕は 「主語」
 werde ...sein ヲェアデ...ザイン 1 単未・推量(werden+不定詞)v.i ~になるだろう 「動詞句」
 für dich フュア・ディヒ adv. 君にとって 「間接目的語」
 einzig アインツヒ adj. 唯一の 「補語」
 in der Welt...« イン・デア・ヴェルト adv. この世で 「副詞句」

「分かり始めてきたよ」、と王子様が言った。「1 輪の花があつてね... それが僕を飼いならした、と思うんだ」

»Ich beginne zu verstehen«, sagte der kleine Prinz. »Es gibt eine Blume... ich glaube, sie hat mich gezähmt...«

《「主語」「動詞句」》, 「動詞」「主語」,
 《「動詞句」「主語」 | 「動詞句」「主語」, 「主語」「動詞」「目的語」》
 »Ich イヒ pron 僕は 「主語」
 beginne zu verstehen«, ヘギネ・ツァー・フェアシュテエン 1 単現・開始(beginnen zu+不定詞)
 v.t 分かり始めてきた 「動詞句」
 sagte サーケ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 der kleine Prinz. デア・クライネ・プリンツ n.m 王子様が 「主語」
 »Es gibt エス・ギブト 3 単現・非人称・存在(geben)v.h ~がある 「動詞句」
 eine Blume... アイネ・ブルメ n.f 1 輪の花が 「主語」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 glaube, グラウヘ 1 単現(glauben)v.t ~と思う 「動詞」

XXI

sie シー pron 彼女が～したということを 「目的語」

hat ...gezähmt...« ハット...ゲツェームト 3 単現・完了形(zähmen)

v.t 飼いならした 「動詞句」

mich ミッヒ pron 僕を 「目的語」

「それはありうることだ」と、キツネが言った。「地球上では、人はあらゆることに会
うのだ」

»Das ist möglich«, sagte der Fuchs. »Man trifft auf der Erde alle möglichen Dinge...«

《「主語」「動詞」「補語」》, 「動詞」「主語」, 《「主語」「動詞」「副詞句」「目的語」》

»Das ダス pron それは 「主語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i ～である 「動詞」

möglich«, メークヒ adj. (可能性として) ありうる 「補語」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」

der Fuchs. デア・フクス n.m キツネが 「主語」

»Man マン pron 人間は 「主語」

trifft トリフト 3 単現(treffen)v.t 出会う 「動詞」

auf der Erde アウフ・デア・エアデ adv. 地球上では 「副詞句」

alle möglichen Dinge...« アル・メークヒエン・デイング pron あらゆる可能なことに 「目的語」

「ああ、それは地球上のことではないんだ」と、王子さまは言った。

»Oh, das ist nicht auf der Erde«, sagte der kleine Prinz.

《「間投」, 「主語」「動詞句」「補語」》, 「動詞」「主語」

»Oh, オー int. ああ 「間投」

das ダス pron それは 「主語」

ist nicht イスト・ニヒト 3 単現・否定(sein)v.i ～でない 「動詞句」

auf der Erde, アウフ・デア・エアデ adv. 地球上の話 「補語」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」

der kleine Prinz. デア・クライン・プリンツ n.m 王子さまは 「主語」

キツネはとても興奮したように見えた。

Der Fuchs schien sehr aufgeregt: 「主語」「動詞」「補語」

Der Fuchs デア・フクス n.m キツネは 「主語」

schien シーン 3 単過(scheinen)v.i ～のように見えた 「動詞」

sehr aufgeregt: セーア・アウフゲレクト adj. とても興奮した 「補語」

XXI

「他の惑星でのことだって？」

»Auf einem anderen Planeten?«

「確認」

»Auf einem anderen Planeten?« アウフ・アイネム・アンデレン・プラーネーテン

adv. 他の惑星でのことだって？

「確認」

「そうだよ」

»Ja.«

「応答」

»Ja.« ヤー adv. (肯定) そうだよ

「応答」

「その惑星に、狩人はいるの？」

»Gibt es Jäger auf diesem Planeten?«

《「動詞句」「主語」「副詞句」》

»Gibt es ギーフト・エス 3 単現・非人称・疑問文・存在(es gibt j-4 / et-4)

v.h. ～がいのの？

「動詞句」

Jäger イェーガー n.m 狩人が

「主語」

auf diesem Planeten?« アウフ・デ・イーゼム・プラーネーテン adv. その惑星に

「副詞句」

「いないよ」

»Nein.«

《「応答」》

»Nein.« ナイン adv. (否定) いらないよ

「応答」

「それは魅力的だね！それじゃあ、鶏はいるの？」

»Das ist interessant! Und Hühner?«

《「主語」「動詞」「補語」 | Und 「主語」》

»Das ダス pron それは

「主語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i. ～である

「動詞」

interessant! インテラサント adj. 興味を引く、魅力的な

「補語」

Und ウント conj. それじゃあ

Hühner?« ヒューナー pl.n.n(Huhn) 鶏は

「主語」

「いないよ」

»Nein.«

《「応答」》

»Nein.« ナイン adv. (否定) いらないよ

「応答」

「何も完ぺきではないね！」と、キツネはため息をついた。

»Nichts ist vollkommen!« seufzte der Fuchs. 《「主語」「動詞」「補語」》, 「動詞」「主語」

»Nichts ニッツ pron 何も～ない

「主語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i. ～である

「動詞」

XXI

vollkommen!« フォルコメン adj. 完璧な 「補語」
 seufzte ヴェイツテ 3 単過(seufzen)v.i ため息をついた 「動詞」
 der Fuchs. デア・フクス n.m キツネは 「主語」

しかしキツネは自分の考えに戻った。

Aber der Fuchs kam auf seinen Gedanken zurück:

Aber 「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」

Aber アーバー conj. しかし

der Fuchs デア・フクス n.m キツネは 「主語」
 kam ...zurück: カム...ツリュック 3 単過(zurück|kommen)v.i 戻った 「動詞句」
 auf seinen Gedanken アウフ・ザ・イネン・ゲダanken adv. 自分の考えに 「間接目的語」

「僕の生活は単調なんだ。僕が鶏を追いかけると、人間たちは僕を追いかけるんだ」

»Mein Leben ist eintönig. Ich jage Hühner, die Menschen jagen mich.

《「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞」「目的語」, 「主語」「動詞」「目的語」》

»Mein Leben マイン・レーベン n.n 僕の生活は、生命、生涯 「主語」
 ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である 「動詞」
 eintönig. アインテーニヒ adj. 単調な、退屈な 「補語」
 Ich イヒ pron 僕は 「主語」
 jage ヤーゲ 1 単現(jegen)v.t 狩猟する、追いかける 「動詞」
 Hühner, ヒューナー pl.n.n(Huhn) 鶏を 「目的語」
 die Menschen デー・メンシェン pl.n.m 人間たちが 「主語」
 jagen ヤーゲン 3 複現(jegen)v.t 狩猟する、追いかける 「動詞」
 mich. ミヒ pron 僕を 「目的語」

「すべての鶏は互いによく似ているし、すべての人間も互いによく似ている。」

Alle Hühner gleichen einander, und alle Menschen gleichen einander.

《「主語」「動詞」「間接目的語」 und 「主語」「動詞」「間接目的語」》

Alle Hühner アレ・ヒューナー pl.n.n(Huhn) すべての鶏は 「主語」
 gleichen グライヘン 3 複現 v.i 非常によく似ている 「動詞」
 einander, アイナダー pron 互いに 「間接目的語」
 und ウント conj. そして
 alle Menschen アレ・メンシェン pl.n.m(Mensch) すべての人間は 「主語」
 gleichen グライヘン 3 複現 v.i 非常によく似ている 「動詞」
 einander. アイナダー pron 互いに 「間接目的語」

XXI

「だから少しうんざりしているんだ」

Ich langweile mich also ein wenig.

《「主語」「動詞句」「副詞句」》

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

langweile mich ラングヴァイル・ミッヒ 1 単現・再帰動詞(sich-4 langweilen)

v.pr 退屈している、うんざりしている

「動詞句」

also アルゾー adv. だから

「副詞」

ein wenig. アイン・ヴェーニッヒ adv. 少し

「副詞句」

「だけど、君が僕を飼いならしたら、僕の生活は陽が当たったようになるだろう」

Aber wenn du mich zähmst, wird mein Leben wie durchsonnt sein.

《Aber 「副詞節」, 「動詞句」「主語」「補語」》

Aber アーバー conj. しかし

wenn ウェン conj. ～すると

「副詞節」

du トゥ pron 君が

「主語」

mich ミッヒ pron 僕を

「目的語」

zähmst, ツェームスト 2 単現(zähmen)v.t 飼いならす

「動詞」

wird ...sein. ヴァィルト...ザイン 3 単未(wewrden+不定詞)v.i ～になるだろう

「動詞句」

mein Leben マイン・レーベン n.n.1 格 僕の生活は

「主語」

wie durchsonnt ヴァー・トゥルヒゾンント adv. 陽が当たったように

「補語」

「僕は、他の足音とは異なる君の足音を聞き分けられるようになるだろう」

Ich werde den Klang deines Schrittes kennen, der sich von allen andern unterscheidet.

《「主語」「動詞句」「目的語」》

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

werde ...kennen, ヴェアデ...ケネ 1 単未(wewrden+不定詞)

v.t 聞き分けるようになるだろう

「動詞句」

kennen ケネ v.t (何-4 を) 識別する、見分ける

den Klang デン・クラング n.m.4 格 音を

「目的語」

deines Schrittes ダイネス・シュリッテス adj. 君の歩みの

「形容詞句」

der デア pron (主語) ～する

「形容詞節」

sich ...unterscheidet. スィッヒ...ウンターシャイテット 3 単現(sich-4 unterscheiden von et-3)

v.pr (何-3 と) 異なる

「動詞句」

von allen andern フォン・アレン・アンダーン

adv. ほかのすべての足音とは

「間接目的語」

XXI

「他の足音は僕を地面の下へ追い立てるだろう」

Die anderen Schritte jagen mich unter die Erde.

《「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」》

Die anderen Schritte デー・アンデレン・シュリッテ pl.n.m(Schritt) 他の足音は 「主語」
jagen ヤーゲン 3 複現 v.t 追い立てるだろう 「動詞」
mich ミッヒ pron 僕を 「目的語」
unter die Erde. ウンタ・デー・イー・エアデ adv. 地面の下へ 「副詞句」

「君の足音は、音楽のように、僕を穴の外に呼び出すだろう」

Der deine wird mich wie Musik aus dem Bau locken.

《「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」》

Der deine デア・ダイン pron.m 君の足音は 「主語」
wird ...locken. ヲィルト...ロッケン 3 単未(wewrden+不定詞)v.t 呼ぶだろう 「動詞句」
mich ミッヒ pron 僕を 「目的語」
wie Musik ヲイー・ムジーク adv. 音楽のように 「副詞句」
aus dem Bau アウス・デー・ム・バリ adv. 穴の中から 「副詞句」

「そしてそれから、見てごらん！あちらに小麦畑が見えるだろう？」

Und dann schau! Du siehst da drüben die Weizenfelder?

《Und 「副詞」「動詞」 | 「主語」「動詞」「副詞句」「目的語」》

Und ウント conj. そして
dann ダン adv. それから 「副詞」
schau! シャウ 命・2 複現(schauen)v.i 見なさい 「動詞」
Du ドゥ pron 君は 「主語」
siehst ジースト 2 単現(sehen)v.t 見る 「動詞」
da drüben ダー・ブリューベン adv. あちらに 「副詞句」
die Weizenfelder? デー・ヴァイツェン・フェルダー pl.n.n.4 格 (Weizen+Feld) 小麦畑 「目的語」

「僕はパンを食べないから、小麦は僕にとって役に立たない」

Ich esse kein Brot. Für mich ist der Weizen zwecklos.

《「主語」「動詞」「目的語」 | 「間接目的語」「動詞」「主語」「補語」》

Ich イッヒ pron 僕は 「主語」
esse エッセ 1 単現(essen)v.t 食べる 「動詞」
kein Brot. カイン・ブロート n.n パンを～ない 「目的語」
Für mich フュア・ミッヒ adv. 僕にとって 「間接目的語」
ist イスト 3 単現(sein)v.i ～である 「動詞」

XXI

der Weizen ヲアイツェン n.m 小麦は 「主語」
 zwecklos. ツェックロス adj. 役に立たない 「補語」

「小麦畑は僕に何も思い出させてくれない。それは悲しいことだ」

Die Weizenfelder erinnern mich an nichts. Und das ist traurig.

《「主語」「動詞」「間接目的語」「間接目的語」 | Und 「主語」「動詞」「補語」》

Die Weizenfelder ティー・ウアイツェンフェルダール pl.n.n(Weizen+Feld+er) 小麦畑は 「主語」
 erinnern エアヘン 3 複現 v.t(j-4 an et-4 人-4 に何-4 を) 思い出させる 「動詞」
 mich ミヒ pron 僕に 「間接目的語」
 an nichts. アン・ニヒツ adv. 何も 「間接目的語」
 Und ウント conj. そして
 das ダス pron そのことは 「主語」
 ist イスト 3 単現(sein)v.i 〜である 「動詞」
 traurig. トラウリヒ adj. 悲しい 「補語」

「だけど君は、小麦色の金髪だ」

Aber du hast weizenblondes Haar. 《Aber 「主語」「動詞」「目的語」》

Aber アーバー conj. しかし
 du トゥ pron 君は 「主語」
 hast ハスト 2 単現(haben)v.t (身体的特徴) をしている 「動詞」
 weizenblondes Haar. ヲアイツェン・ブロンデス・ハール n.n 小麦色の金髪 「目的語」
 weizenblondes ヲアイツェン・ブロンデス → Weizen 小麦+blondes adj.n.4 格 金髪の

「ああ、君が一度僕を飼いならしてくれたら、それは素晴らしいことになるだろう」

Oh, es wird wunderbar sein, wenn du mich einmal gezähmt hast!

《「間投」「主語」「動詞句」「補語」「動詞句」「副詞節」》

Oh, オー int. ああ 「間投」
 es エス pron それは 「主語」
 wird ...sein, ヲイルト...ザイン 3 単未・推測(werden+不定詞)v.i 〜になるだろう 「動詞句」
 wunderbar ウンターハール adj. 素晴らしい 「補語」
 wenn ヲエン conj. 〜すると 「副詞節」
 du トゥ pron 君が 「主語」
 mich ミヒ pron 僕を 「目的語」
 einmal アインマル adv. 一度 「副詞」
 gezähmt hast! ゲツェームト・ハスト 2 単現・完了形(zähmen)v.t 飼いならした 「動詞句」

XXI

「小麦畑の金色は、僕に君のことを思い出させてくれるだろう」

Das Gold der Weizenfelder wird mich an dich erinnern.

《「主語」「動詞句」「間接目的語」「間接目的語」「動詞句」》

Das Gold ダス・ゴルト n.n その金色は 「主語」
 der Weizenfelder デア・ヴァイツェンフェルダール pl.n.n.2 格 小麦畑の 「形容詞句」
 wird ...erinnern. ヴィルト...エアィーレン 3 単未・推測(werden+不定詞)
 v.t(j-4 an et-4 人-4 に何-4 を) 思い出させるだろう 「動詞句」
 mich ミヒ pron 僕に 「間接目的語」
 an dich アン・ディヒ adv. 君のことを 「間接目的語」

「そうすると、僕は小麦畑の中を通る風のざわめく音が好きになるだろう」

Und ich werde das Rauschen des Windes im Getreide lieb gewinnen.

《Und 「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」》

Und ウント conj. そして
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 werde ...lieb gewinnen. ヴェアデ...リーフ・ゲライネ 1 単未・推測(werden+不定詞)
 v.t 好きになるだろう 「動詞句」
 j-4 (et-4) lieb gewinnen 人-4 (何-4) が好きになる
 das Rauschen ダス・ラウシェン n.m.4 格 (風の) ざわめきを 「目的語」
 des Windes デス・ヴィンデス n.m.2 格 風の 「形容詞句」
 im Getreide イム・ゲトライデ adv. 穀物の中の 「副詞句」

キツネは黙り込み、長い間、王子様をじっと見つめた。

Der Fuchs verstummte und schaute den Prinzen lange an:

「主語」「動詞」und「動詞句」「目的語」「副詞」「動詞句」

Der Fuchs デア・フクス n.m キツネは 「主語」
 verstummte フェアシュトウムテ 3 単過(verstummen)v.i 黙り込んだ 「動詞」
 und ウント conj. そして
 schaute ...an: シャウテ...アン 3 単過(an|schauen)v.t じっと見つめた 「動詞句」
 den Prinzen デン・プリンツェン n.m.4 格 王子様を 「目的語」
 lange ランゲ adv. 長い間、長く 「副詞」

「どうか... 僕を飼いならしておくれよ」と、キツネは言った。

»Bitte... zähme mich!« sagte er. 《「依頼」... 「動詞」「目的語」》, 「動詞」「主語」
 »Bitte... ビッテ adv. どうか 「依頼」
 zähme ツェーメ 命・2 単現・依頼(zähmen)v.t 飼いならしてちょうだい 「動詞」

XXI

mich!« ミッヒ pron ぼくを 「目的語」
 sagte サーゲ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 er. エア pron 彼は 「主語」

「僕も、出来ればそうしたいよ」と、王子さまは答えた。「だけど、あまり時間がないんだ。
 友達を探さなければならないし、多くのことを知る必要があるんだ」

»Ich möchte wohl«, antwortete der kleine Prinz, »aber ich habe nicht viel Zeit. Ich muß
 Freunde finden und viele Dinge kennenlernen.«

《「主語」「動詞」「副詞」》, 「動詞」「主語」, 《aber「主語」「動詞句」「目的語」
 「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」und「目的語」「動詞句」》

»Ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 möchte メヒテ 接 II・1 単現・可能性(möchte)[助] 出来るならしたい 「動詞」
 wohl«, ヴォール adv. そのように 「副詞」
 antwortete アントヴァアテ 3 単過(antworten)v.i 答えた 「動詞」
 der kleine Prinz, デア・クライネ・プリンツ n.m 王子さまは 「主語」
 »aber アーバー conj. だけど
 ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 habe nicht ハーベ・ニヒト 1 単現・否定(haben)v.t ～がない 「動詞句」
 viel Zeit. フィール・ツァイト n.f (否定文で) あまり時間が 「目的語」
 Ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 muß ...finden ムス...フィンデン 1 単現・必要(müssen+不定詞)v.t 探さなければならない「動詞句」
 Freunde フロインデ pl.n.m 友達を 「目的語」
 und ウント conj. そして
 viele Dinge フィーレ・ディンゲ pl.n.n.4 格 沢山のことを 「目的語」
 kennenlernen.« ケネン・レアネン 1 単現・必要(müssen+不定詞)v.t 知らなければならない「動詞句」

「人は、飼いならした物しか知ることはできないんだよ」と、キツネが言った。

»Man kennt nur die Dinge, die man zähmt«, sagte der Fuchs.

《「主語」「動詞」「目的語」》, 「動詞」「主語」

»Man マン pron 人間は 「主語」
 kennt ケント 3 単現(kennen)v.t 知る 「動詞」
 nur ノー adv. ～だけ 「副詞」
 die Dinge, ディー・ディンゲ pl.n.n.4 格 物事を 「目的語」
 die ディー pron (目的語) ～する 「形容詞節」
 man マン pron 自分が 「主語」
 zähmt«, ツェーハント 3 単現(zähmen)v.t 飼いならす 「動詞」

XXI

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

der Fuchs. デア・フクス n.m キツネが

「主語」

「もはや人間たちには、何かを知るための時間は無いんだ」

»Die Menschen haben keine Zeit mehr, irgend etwas kennenzulernen.

《「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」》

»Die Menschen デー・メンシェン pl.n.m 人間たちは

「主語」

haben ハーベン 3 複現 v.t 〜がある

「動詞」

keine Zeit カイネ・ツァイト n.f 時間が〜ない

「目的語」

mehr, メア adv.(否定文で) もはや〜ない

「副詞」

zu 不定句・目的 adj. 〜するための

「形容詞句 : Zeit」

irgend etwas イルゲント・エトワース pron 何かを

「目的語」

kennenzulernen. ケネンツー・レーرن zu 不定詞 v.t 知る

「動詞句」

「彼らは、なんでも出来上がった物を店で買う。しかし友達を売る店はないから、もはや人々は友達を持っていない。」

Sie kaufen sich alles fertig in den Geschäften. Aber da es keine Kaufläden für Freunde gibt, haben die Leute keine Freunde mehr.

《「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」

Aber 「副詞節」, 「動詞」「主語」「目的語」「副詞」》

Sie シー pron.pl 彼らは

「主語」

kaufen sich カufen・ズィッヒ 3 複現(sich-4 kaufen)v.pr (自分用に) 買う

「動詞句」

alles アレス pron すべてのものを

「目的語」

fertig フェアティヒ adj. 出来上がった、完成した

「形容詞」

in den Geschäften. イン・テン・ゲシェフテン adv. 商店で

「副詞句」

Aber アーバー conj. しかし

da ダー conj. (理由) 〜なので

「副詞節」

es ...gibt, エス...ギブト 3 単現・非人称(es gibt et-4)v.h 〜がある

「動詞句」

keine Kaufläden カイネ・カウフレーデン pl.n.m(Kauladen).4 格 店が〜ない

「目的語」

für Freunde フェア・フロインデ adv. 友達を売るための

「形容詞句」

haben ハーベン 3 複現 v.t 持っている

「動詞」

die Leute デー・ロイテ pl.n. 人々は

「主語」

keine Freunde カイネ・フロインデ pl.n.m 友達を〜ない

「目的語」

mehr, メア adv. (否定文で) もはや

「副詞」

XXI

「もし友達が欲しいのなら、僕を飼いならしておくれよ！」

Wenn du einen Freund willst, so zähme mich!« 《「副詞節」, 「動詞」 「目的語」》
 Wenn ヱェン conj. (条件) もしも～ならば 「副詞節」
 du トゥ pron 君が 「主語」
 einen Freund アイン・フロント n.m 友達を 「目的語」
 willst, ヱェルスト 2 単現(wollen)v.t 望む 「動詞」
 so ソー conj. adv. それなら
 zähme ツェーメ 命・2 単現(zähmen)v.t 飼いならしておくれよ 「動詞」
 mich!« ミヒ pron 僕を 「目的語」

「そのためには、何をしなければいけないの？」と、王子様が言った。

»Was muss ich da tun?« sagte der kleine Prinz.
 《「目的語」 「動詞句」 「主語」 「副詞」 「動詞句」》, 「動詞」 「主語」
 »Was ヲアス pron 何を 「目的語」
 muss ...tun?« ムス...トゥン 1 単現・必要(müssen+不定詞)v.t しなければならない 「動詞句」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 da ダー adv. それなら、そのためには 「副詞」
 sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 der kleine Prinz. デア・クライネ・プリンツ n.m 王子さまは 「主語」

「非常に忍耐強くなければならない」と、きつねが答えた。

»Du musst sehr geduldig sein«, antwortete der Fuchs.
 《「主語」 「動詞句」 「補語」 「動詞句」》, 「動詞」 「主語」
 »Du トゥー pron 君は 「主語」
 musst ...sein«, ムスト...ザイン 2 単現・必要(müssen+不定詞)v.i ～でなければならない「動詞句」
 sehr geduldig セーア・ゲトゥルディヒ adj. 非常に忍耐強い 「補語」
 antwortete アントヴァーテテ 3 単過(antworten)v.i 答えた 「動詞」
 der Fuchs. デア・フクス n.m キツネは 「主語」

「君は、最初草の中に、僕から少しだけ離れて座るんだ」

»Du setzt dich zuerst ein wenig abseits von mir ins Gras.
 《「主語」 「動詞句」 「副詞句」》
 »Du トゥー pron 君は 「主語」
 setzt dich セット・ディヒ 2 単現(sich-4 setzen)v.pr 座る 「動詞句」
 zuerst ツェアースト adv. 最初は 「副詞」
 ein wenig abseits アイン・ヴァーニヒ・アッパ サイツ adv. 少しだけ離れて 「副詞句」

XXI

von mir フォン・ミーア adv. 僕から

「副詞句」

ins Gras. インス・グラーズ adv. 草の中に

「副詞句」

「僕は横目でこんな風にこっそりと君を見る。だけど、君は何も言ってはいけない」

Ich werde dich so verstohlen, so aus dem Augenwinkel anschauen, und du wirst nichts sagen.

《「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」「動詞句」,und「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」》

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

werde ...anschauen, ヲェアデ ...アソシャウエン 1 単未・推量(werden+不定詞)

v.t 見るだろう

「動詞句」

dich デイッヒ pron 君を

「目的語」

so verstohlen, ソー・フェアシュトレン adv. こっそりと

「副詞句」

so ソー adv. こんなふうに

「副詞」

aus dem Augenwinkel アウス・デアム・アウゲンウァンケル adv. 目の片隅から、横目で

「副詞句」

und ウント conj. そして

du トゥ pron 君は

「主語」

wirst ...sagen. ヲイルスト...サーゲン 2 単未・命令(werden+不定詞)v.t 言うのだ

「動詞句」

nichts ニヒツ pron 何も～ない

「目的語」

「言葉というものは、誤解のもとになる」

Die Sprache ist die Quelle der Mißverständnisse.

《「主語」「動詞」「補語」》

Die Sprache デーイー・シュプラーヘ n.f 言葉は

「主語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i ～である

「動詞」

die Quelle デーイー・クヴァエ n.f 原因、根源

「補語」

der Mißverständnisse. デア・ミスフェアシュタントニッセ n.n.2 格 誤解の

「形容詞句」

「だけど、毎日少しずつ近くに腰を下ろせるようになる」

Aber jeden Tag wirst du dich ein bisschen näher setzen können...«

《Aber「副詞句」「動詞句」「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」》

Aber アーバー conj. しかし

jeden Tag イェーデン・ターク adv. 毎日

「副詞句」

wirst ...dich ...setzen können...« ヲイルスト...デイッヒ...ゼッツェン・ケネン 2 単現・変化・可能

(werden+不定詞 können+sich-4 setzen)v.pr 腰を下ろせるようになる

「動詞句」

du トゥ pron 君は

「主語」

ein bisschen näher アイン・ビッッシェン・ネアー adv. 少しだけ近くに

「副詞句」

XXI

翌朝、王子様が戻ってきた。

Am nächsten Morgen kam der kleine Prinz zurück.

「副詞句」「動詞句」「主語」「動詞句」

Am nächsten Morgen アム・ネーヒステン・モアゲン adv. 翌朝

「副詞句」

kam ...zurück. カム...ツリュック 3 単過(zurück|kommen)v.i 戻ってきた

「動詞句」

der kleine Prinz デア・クライン・プリンツ n.m 王子様が

「主語」

「君が同じ時刻に戻ってきていたら、もっと良かったかもしれないね」

»Es wäre besser gewesen, du wärst zur selben Stunde wiedergekommen«, sagte der Fuchs.

《「動詞句」「補語」「動詞句」, 「主語」》, 「動詞」「主語」

»Es エス pron 仮の主語 (真の主語は du wärst zur selben Stunde wiedergekommen)

wäre ...gewesen, ヲェレ...ゲウエセン 接 II・3 単現・完了形・推測(sein)

v.i ~だったかもしれない

「動詞句」

besser ベッサー adj. (比較級) もっと良い

「補語」

du トゥ pron 君が~することは

「主語」

wärest ...wiedergekommen«, ヲェアスト...ウエイダーク・ゲ・コメン 接 II・2 単現・完了形・仮定法

(wieder|kommen)v.i 戻ってきていたら

「動詞句」

zur selben Stunde ツーア・ゼールベン・シュトゥンデ adv. 同じ時刻に

「副詞句」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

der Fuchs. デア・フクス n.m キツネが

「主語」

「君が、例えば 4 時にやって来るとしたら、僕は 3 時にはもう嬉しくなり始めるだろう」

»Wenn du zum Beispiel um vier Uhr nachmittags kommst, kann ich um drei Uhr anfangen, glücklich zu sein.

《「副詞節」, 「動詞句」「主語」「副詞句」「動詞句」》

»Wenn ウェン conj. (条件) もしも~ならば

「副詞節」

du トゥ pron 君が

「主語」

zum Beispiel ツーム・バイシュピール adv. 例えば

「副詞句」

um vier Uhr nachmittags ウム・フィーア・ウアー・ナーハミッタークス adv. 午後 4 時に

「副詞句」

kommst, コムスト 2 単現(kommen)v.i やって来る

「動詞」

kann ...anfangen, カン...アンファンゲン 1 単現・可能性(können+不定詞 anfangen)

v.i (+zu 不定句) ~し始めるだろう

「動詞句」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

um drei Uhr ウム・ドライ・ウアー adv. 3 時には

「副詞句」

zu 不定句 ~する

「動詞句」

glücklich グリュックリヒ adj. うれしい

「補語」

zu sein. ツーザイン zu 不定詞 v.i ~になる

「動詞句」

XXI

「時間が進むほど、僕はさらに幸せを感じるようになるだろう」

Je mehr die Zeit vergeht, um so glücklicher werde ich mich fühlen.

《Je 「副詞」「主語」「動詞」, um so 「副詞」「動詞句」「主語」「動詞句」》

Je イェ conj. (je+比較級..., umso+比較級...) ～するほど

mehr メー adv. (比較級) もっと 「副詞」

die Zeit デー・ツァイト n.f 時間が 「主語」

vergeht, フェアグェート 3 単現(vergehen)v.i 経過する、進む 「動詞」

um so ウム・ゾー conj. そうするほど

glücklicher グリュックリヒヤー adv. (比較級) より幸せに 「副詞」

werde ...mich fühlen. ヲェアデ ...ミッヒ・フューレン 1 単未・推測(werden+不定詞 sich-4 fühlen)

v.pr 自分を～のように感ずるだろう 「動詞句」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

「4 時には、僕は興奮してきて、心配になってくるだろうな；僕は幸せの代価がどれほど高くつくかを思い知ることになるだろう」

Um vier Uhr werde ich mich schon aufregen und beunruhigen; ich werde erfahren, wie teuer das Glück ist.

「副詞句」「動詞句」「主語」「動詞句」 und 「動詞句」；「主語」「動詞句」「目的語」

Um vier Uhr ウム・フィーア・ウアー adv. 4 時には 「副詞句」

werde ...mich schon aufregen ヲェアデ ...ミッヒ・ション・アフレーゲン 1 単未・推測

(werden+不定詞 sich-4 auf|regen)v.pr 興奮してくるだろう 「動詞句」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

und ウント conj. そして

beunruhigen; ベウルーイゲン 1 単未・推測(werden+不定詞 sich-4 auf| beunruhigen)

v.pr 心配になってくるだろう 「動詞句」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

werde erfahren, ヲェアデ・エアファレン 1 単未・推測(werden+不定詞 erfahren)

v.t 知ることになるだろう 「動詞句」

wie teuer ヲー・トアー n. どれほど高価な～ということ 「目的語」

das Glück ダス・グリュック n.n 幸せが 「主語」

ist. イスト 3 単現(sein)v.i ～である 「動詞」

XXI

「だけど、君が不定期にやって来ると、僕はいつ心の準備をしたらよいか分からない。しきたりが必要なんだ」

Wenn du aber irgendwann kommst, kann ich nie wissen, wann mein Herz da sein soll... Es muss feste Bräuche geben.«

《「副詞節」, 「動詞句」「主語」「動詞句」「目的語」 | 「動詞句」「目的語」「動詞句」》
 Wenn ウェン conj. (条件) ~すると 「副詞節」
 du トゥ pron 君が 「主語」
 aber アーバー conj. しかし
 irgendwann イルゲントヴァン adv. いつかある時、不定期に 「副詞」
 kommst, コムスト 2 単現(kommen)v.i やって来る 「動詞」
 kann ...nie wissen, カン...ニー・ヴィッセン 1 単現・可能・否定(können+不定詞)
 v.t わからない 「動詞句」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 wann ヴァン conj. いつ~するかを 「目的語」
 mein Herz マイン・ヘーツ n.n 僕の心が 「主語」
 da ダー adv. そこに 「副詞」
 sein soll... サイン・ゾル 3 単現・妥当(sollen+不定詞)v.i ~にいればよい 「動詞句」
 Es muss ...geben.« エス・ムス...ゲーベン 非人称・3 単現・必要(es geben et-4 何・4 が)
 v.h 存在しなければならない、必要である 「動詞句」
 feste Bräuche フェステ・ブローヒェ pl.n.m.4 格 変動しないしきたりが 「目的語」
 feste フェステ adj. 揺るがぬ、変動しない Brauch ブラウフ n.m しきたり、ならわし、習慣
 意味上は「主語」

「しきたりって、どういう意味なの？」と、王子様が言った。

»Was heißt 'fester Brauch'?«, sagte der kleine Prinz.

《「補語」「動詞」「主語」》, 「動詞」「主語」
 »Was ヴァス pron 何 「補語」
 heißt ハイスト 3 単現(heißen)v.i ~を意味する 「動詞」
 'fester Brauch'?, フェスター・ブラウフ n.m.1 格 しきたりは 「主語」
 sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 der kleine Prinz. デア・クライネ・プリンツ n.m 王子様が 「主語」

XXI



「これも、忘れ去られた何かだよ」と、キツネが言った。

»Auch etwas in Vergessenheit Geratenes«, sagte der Fuchs.

《「副詞」「主語」》, 「動詞」「主語」

»Auch アウフ adv. ～もまた

「副詞」

etwas エトヴァス pron 何か

「主語」

in Vergessenheit Geratenes, イン・フェアゲッセンハイト・ゲラーテネス

adj. 埋没した、忘れ去られた

「形容詞句」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

der Fuchs. デア・フクス n.m キツネが

「主語」

「それは、ある 1 日を他の日とは違うものにしたり、ある時間を他の時間をは違うものにするものだよ」

»Es ist das, was einen Tag vom andern unterscheidet, eine Stunde von den andern Stunden.

《「主語」「動詞」「補語」》

»Es エス pron それは

「主語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i ～である

「動詞」

das, ダス pron (was の先行詞として) それ

「補語」

was ヴァス pron (主語) ～する

「形容詞節」

einen Tag アイン・タク n.m.4 格 ある 1 日を

「目的語」

vom andern フォム・アンデアノ adv. 他の日から

「副詞句」

unterscheidet, ウンターシャイデット 3 単現(unterscheiden)

XXI

v.t 区別する、違うものにする	「動詞」
eine Stunde アイネ・シュトゥンデ n.f ある時間を	「目的語」
von den andern Stunden. フォン・デーン・アンデアン・シュトゥンデ	
adv. 他の時間から	「副詞句」

例えば、獵師たちのところには1つのしきたりがある。

Es gibt zum Beispiel einen Brauch bei meinen Jägern.

	「動詞句」「副詞句」「目的語」「副詞句」
Es gibt エス・ギブト 3 単現・非人称(es gibt et-4)v.h 〜がある	「動詞句」
zum Beispiel ツム・バイシュピール adv. 例えば	「副詞句」
einen Brauch アイネ・ブラウフ n.m あるしきたりが	「目的語」
bei meinen Jägern. バイ・マイネン・イエゲルン adv. 獵師たちのところには	「副詞句」

彼らは木曜日に村の娘とダンスをする。

Sie tanzen am Donnerstag mit dem Mädchen des Dorfes.

	「主語」「動詞」「副詞句」「間接目的語」
Sie シー pron.pl 彼らは	「主語」
tanzen タンツェン 3 複現 v.i ダンスをする	「動詞」
am Donnerstag アム・ドナースターク adv. 木曜日には	「副詞句」
mit dem Mädchen ミット・デーム・メートヒェン adv. 娘と	「間接目的語」
des Dorfes. デース・トアフェス n.n.2 格 村の	「形容詞句」

そうすると、木曜日は素晴らしい1日になる。

Daher ist der Donnerstag der wunderbare Tag.

	「副詞」「動詞」「主語」「補語」
Daher ダハー adv. それがもとで、それゆえ	「副詞」
ist イスト 3 単現(sein)v.i (変化) 〜になる	「動詞」
der Donnerstag デア・ドナースターク n.m 木曜日が	「主語」
der wunderbare Tag. デア・ワンダーウァーレ・ターク n.m.1 格 素晴らしい日	「補語」

僕はブドウ畑まで散歩に行く。

Ich gehe bis zum Weinberg spazieren.

	「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」
Ich イヒ pron 僕は	「主語」
gehe ...spazieren. ケーエ...シュパツィーレン 1 単現・しに行く(gehen+不定詞)	
v.i 散歩しに行く	「動詞句」
bis zum Weinberg ビス・ツム・ヴァインバーク adv. ブドウ畑まで	「副詞句」

XXI

「もし獵師たちが不定期にダンスに出かけると、毎日が同じようになって、僕は休みがなくなってしまうだろう」

Wenn die Jäger irgendwann einmal zum Tanze gingen, wären die Tage alle gleich und ich hätte niemals Ferien.«

《「副詞節」, 「動詞」「主語」「補語」 und 「主語」「動詞」「目的語」》

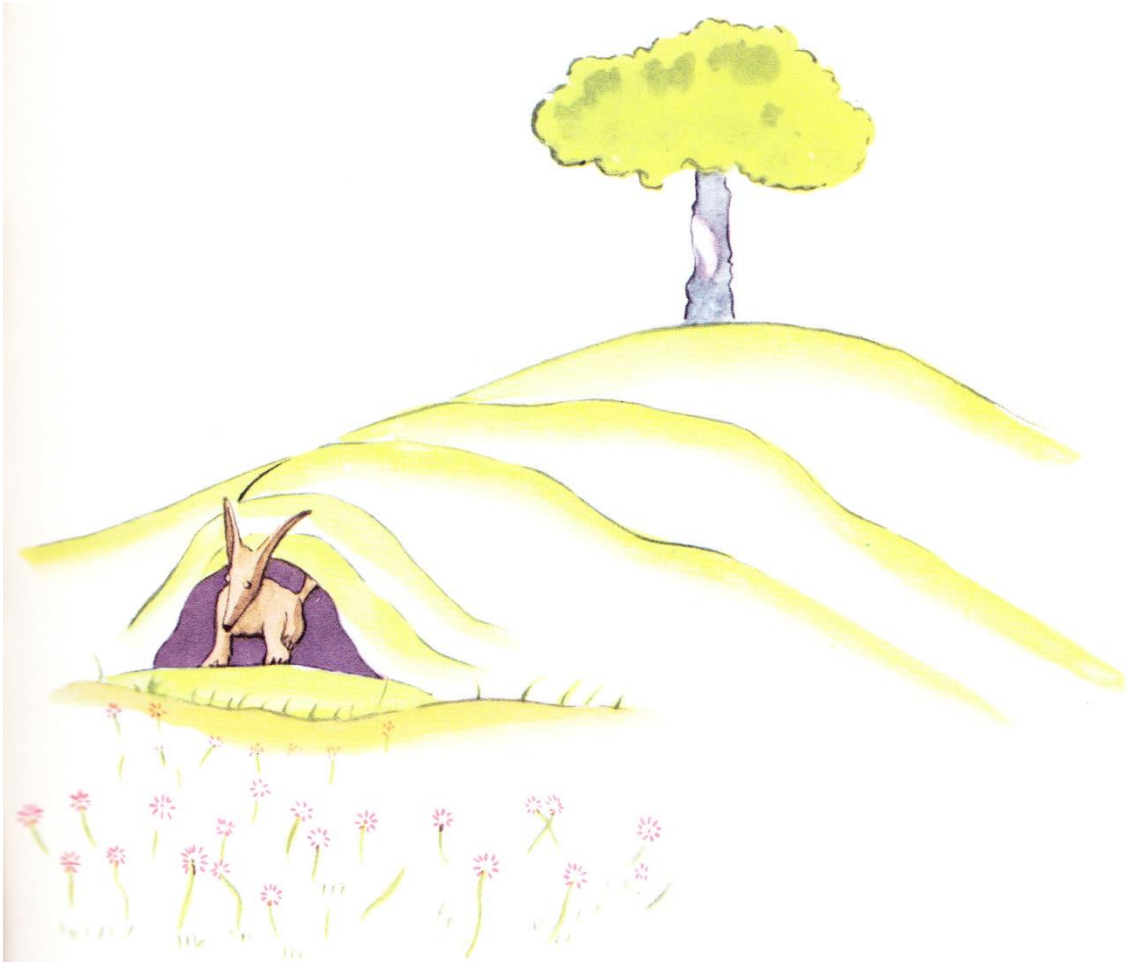
Wenn	ヴェン conj. (条件・仮定) もし〜すると	「副詞節」
die Jäger	デー・イエガー pl.n.m.1 格 獵師たちが	「主語」
irgendwann	イルゲンツヴァン adv. 不定期に	「副詞」
einmal	アインマル adv. 1 度	「副詞」
zum Tanze	ツム・タンツェ adv. ダンスのために	「副詞句」
gingen,	ギンゲン 接 II・3 複現(gehen)v.i 出かける	「動詞」
wären	ヴェレン 接 II・3 複現・推測(sein)v.i (変化) 〜になるだろう	「動詞」
die Tage	デー・ターゲ pl.n.m.1 格 1 日は	「主語」
alle gleich	アレ・グライヒ adj. みな似通った	「補語」
und	ウント conj. そして	
ich	イヒ pron 僕は	「主語」
hätte	ヘッテ 接 II・1 単現・推測(haben)v.t 〜があるだろう	「動詞」
niemals Ferien.	ニーマルス・フェリエン pl.n 休みがまったく〜ない	「目的語」

このようにして、王子さまはキツネを飼いならした。そして、別れの時が近づいた時：

So machte denn der kleine Prinz den Fuchs mit sich vertraut. Und als die Stunde des Abschieds nahe war: 「副詞」「動詞」「副詞」「主語」「目的語」「補語」 | Und 「副詞節」:

So	ゾー adv. このようにして	「副詞」
machte	マテ 3 単過(machen)v.t (様態を表す語句と) 〜にした	「動詞」
denn	デッ adv. それで	「副詞」
der kleine Prinz	デア・クライネ・プリンツ n.m 王子さまは	「主語」
den Fuchs	デッ・フクス n.m.4 格 キツネを	「目的語」
mit sich vertraut.	ミット・ズィヒ・フェアトラウト adv. 自分に親密な	「補語」
Und	ウント conj. そして	
als	アルス conj. 〜したとき	「副詞節」
die Stunde	デー・シュトゥンデ n.f 時が	「主語」
des Abschieds	デス・アプシューツ n.m.2 格 別れの	「形容詞句」
nahe	ナー adj. 近い	「補語」
war:	ヴァール 3 単過(sein)v.i 〜になった	「動詞」

XXI



「ああ！」と、キツネが言った。「泣き出しそうだよ」

»Ach!« sagte der Fuchs, »ich werde weinen.«

《「間投」》, 「動詞」「主語」, 《「主語」「動詞句」》

»Ach!« アッハ int. ああ!

「間投」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

der Fuchs, デア・フクス n.m キツネが

「主語」

»ich イヒ pron 僕は

「主語」

werde weinen.« ヲェアテ・ヴァイネン 1 単未・推量(werden+不定詞)

v.i 泣き出すだろう

「動詞句」

「それは君の責任だよ」と、王子様が言った。「僕は君に悪いことなんて何も望まなかった。

逆に、君が僕に飼いならして欲しいって言ったんだからね」

»Das ist deine Schuld«, sagte der kleine Prinz, »ich wünschte dir nichts Übles, aber du hast gewollt, dass ich dich zähme...«

《「主語」「動詞」「補語」》, 「動詞」「主語」,

《「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」, aber 「主語」「動詞句」「目的語」》

XXI

»Das ダス pron それは	「主語」
ist イスト 3 単現(sein)v.i ～である	「動詞」
deine Schuld«, ダ イネ・シュルト n.f 君の責任	「補語」
sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
der kleine Prinz, デア・クライネ・プリンツ n.m 王子さまは	「主語」
»ich イヒ pron 僕は	「主語」
wünschte ビュンシュト 1 単過(wünschen)v.t 望んだ	「動詞」
dir デイア pron 君に	「間接目的語」
niehts ニヒツ pron 何も～ない	「直接目的語」
Übles, ユーベレス n.n.2 格(Übel) 悪い	「形容詞」
aber アーバー conj. しかし	
du トゥ pron 君は	「主語」
hast gewollt, ハスト・ゲヴォルト 2 単現・完了形(wollen)v.t 望んだ	「動詞句」
dass ダス conj. ～ということ	「目的語」
ich イヒ pron 僕が	「主語」
dich デイヒ pron 君を	「目的語」
zähme...« ツェーメ 接・1 単現(zähmen)v.t 飼いなす	「動詞」

「その通りだよ」と、キツネが言った。

»Gewiss«, <u>sagte der Fuchs.</u>	《「応答」》, 「動詞」「主語」
»Gewiss«, ゲヴァイス adv. そのとおり、もちろん	「応答」
sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
der Fuchs. デア・フクス n.m キツネは	「主語」

「だけど、いまにも泣きそうなんでしょう？」と、王子様が言った。

»Aber <u>nun wirst du weinen!</u> « <u>sagte der kleine Prinz.</u>	《Aber 「副詞」「動詞句」「主語」「動詞句」》, 「動詞」「主語」
»Aber アーバー conj. だけど	
nun ヌン adv. 今では	「副詞」
wirst ...weinen!« ウィルスト...ヴァイネ 2 単末(werden+不定詞)v.i 泣きそうである	「動詞句」
du トゥ pron 君は	「主語」
sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
der kleine Prinz. デア・クライネ・プリンツ n.m 王子様が	「主語」

「確かに、その通りだよ」と、キツネが言った。

»Bestimmt«, <u>sagte der Fuchs.</u>	《「応答」》, 「動詞」「主語」
-------------------------------------	------------------

XXI

»Bestimmt«, ベシュチムト adv. 確かにその通り 「応答」
 sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 der Fuchs. デア・フクス n.m キツネは 「主語」

「それじゃあ、君は何も得をしなかったね！」

»So hast du nichts gewonnen!« 《「副詞」「動詞句」「主語」「目的語」「動詞句」》
 »So ザー adv. それなら、それじゃあ 「副詞」
 hast ...gewonnen!« ハスト...ゲウ・ォネ 2 単現・完了形(gewinnen)v.t 得をした 「動詞句」
 du トゥ pron 君は 「主語」
 nichts ニヒツ pron 何も～ない 「目的語」

「僕は」と、言った。「小麦の色を得したよ」

»Ich habe«, sagte der Fuchs, »die Farbe des Weizens gewonnen.«
 《「主語」「動詞句」》, 「動詞」「主語」, 《「目的語」「動詞句」》
 »Ich イヒ pron 僕は 「主語」
 habe«, ハーベ 1 単現・完了形・[助] 「動詞句」
 sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 der Fuchs, デア・フクス n.m キツネは 「主語」
 »die Farbe デー・イー・ファーベ n.f.4 格 色を 「目的語」
 des Weizens テス・ヴァイツェンス n.m.2 格 小麦の 「形容詞句」
 gewonnen.« ゲウ・ォネ 過去分詞(gewinnen)v.t 得をした 「動詞句」

それから、彼は付け加えた。

Dann fügte er hinzu: 「副詞」「動詞句」「主語」「動詞句」
 Dann ダン adv. それから、そのあと 「副詞」
 fügte ...hinzu: フュクテ...ヒンツァー 3 単過(hinzu|fügen)v.t 付け加えた 「動詞句」
 er エア pron 彼は 「主語」

「また、あのバラたちを見に行ってください。君のバラが、この世で唯一のものだということが分かんと思うよ」

»Geh die Rosen wieder anschauen. Du wirst begreifen, dass die deine einzig ist in der Welt.«
 《「動詞句」「目的語」「副詞」「動詞句」 | 「主語」「動詞句」「目的語」》
 »Geh ...anschauen. ゲー...アンシャウエン 命・2 単現・しに行く(gehen+不定詞 anschauen)
 v.t ～を見に行きなさい 「動詞句」
 die Rosen デー・イー・ローゼン pl.n.f バラの花たちを 「目的語」
 wieder ヴァーダー adv. また、再び 「副詞」

XXI

Du ドゥ pron 君は	「主語」
wirst begreifen, ヴィルスト・ヘグライフェン 2 単未・推量(werden+不定詞)	
v.t 分かるだろう	「動詞句」
dass ダス conj. ～ということ	「目的語」
die deine デー・ダイネ pron 君のバラが	「主語」
einzig アインツィ adj. 唯一の	「補語」
ist イスト 3 単現(sein)v.i ～である	「動詞」
in der Welt. イン・デア・ヴェルト adv. この世で	「副詞句」

「それが終わったら戻ってきて、僕にサヨナラを言うんだ。そうしたら、僕は君に秘密をプレゼントするよ」

Du wirst wiederkommen und mir adieu sagen, und ich werde dir ein Geheimnis schenken.«

《「主語」「動詞句」und「間接目的語」「直接目的語」「動詞句」,
und「主語」「動詞句」「間接目的語」「直接目的語」「動詞句」》

Du ドゥ pron 君は	「主語」
wirst wiederkommen ヴィルスト・ヴィーダー・コメン 2 単未・命令(werden+不定詞)	
v.i 戻っておいで	「動詞句」
und ウント conj. そして	
mir ミーア pron 僕に	「間接目的語」
adieu アジウ n.n サヨナラの挨拶を	「直接目的語」
sagen, サーゲン 2 単未・命令(werden+不定詞)v.t 言いなさい	「動詞句」
und ウント conj. そして	
ich イヒ pron 僕は	「主語」
werde ...schenken. « ヴェアデ ...シェンケン 1 単未・意思(werden+不定詞)	
v.t 贈るよ	「動詞句」
dir ディア pron 君に	「間接目的語」
ein Geheimnis アイン・ゲ・ハイムニス n.n 秘密を	「直接目的語」

王子さまは、またバラの花たちに会いに行った：

Der kleine Prinz ging, die Rosen wieder zu sehen:

「主語」「動詞句」

Der kleine Prinz デア・クライネ・プリンツ n.m 王子さまは

「主語」

ging, キング 3 単過(gehen)v.i(+zu 不定詞句 ～しに) 行った

「動詞句」

zu 不定詞句 n. ～しに

「動詞句」

die Rosen デー・ローゼン pl.n.f バラの花たちに

「目的語」

wieder ヴィーダー adv. また

「副詞」

zu sehen: ツー・ゼーエン zu 不定詞 v.t 会う

「動詞句」

XXI

「君たちは、僕のバラの花にまったく似ていないね。君たちはまだなにものでもないんだ」と、王子さまは彼らに言った。

»Ihr gleicht meiner Rose gar nicht, ihr seid noch nichts«, sagte er zu ihnen.

《「主語」「動詞句」「間接目的語」, 「主語」「動詞」「補語」》, 「動詞」「主語」「間接目的語」

»Ihr イア pron.pl.1 格 君たちは 「主語」

gleicht ... gar nicht, グライヒト...ガール・ニヒト 3 単現・否定(gleichen)

v.i(j-3 / et-3 に) まったく似ていない 「動詞句」

meiner Rose マイナー・ローゼ n.f.3 格 僕のバラに 「間接目的語」

ihr イア pron.pl.1 格 君たちは 「主語」

seid サイト 2 複現(sein)v.i ~である 「動詞」

noch nichts«, ノヒ・ニヒツ pron まだなにものでも~ない 「補語」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.i 言った 「動詞」

er エア pron 彼は 「主語」

zu ihnen. ツー・イーレン adv. 彼らに 「間接目的語」

「誰も君たちを飼いならさなかったし、君たちだって誰も飼いならさなかった」

»Niemand hat sich euch vertraut gemacht und auch ihr habt euch niemandem vertraut gemacht.

《「主語」「動詞句」「間接目的語」「補語」「動詞句」 und

「主語」「動詞句」「間接目的語」「補語」「動詞句」》

»Niemand ニーマント pron 誰も~ない 「主語」

hat sich ...gemacht ハット・ズィヒト...ゲマハト 3 単現・完了形・使役(sich-4 machen)

v.pr ~にした 「動詞句」

euch オヒ pron.pl.3 格 君たちを 「間接目的語」

vertraut フェアトラウト adj. 親密な 「補語」

und ウント conj. そして

auch ihr アウフ・イア pron/pl.1 格 君たちも 「主語」

habt euch ...gemacht. ハフト・オヒ...ゲマハト 2 複現・完了形・使役(sich-4 machen)

v.pr ~にした 「動詞句」

niemandem ニーマンデーム pron.3 格 誰も 「間接目的語」

vertraut フェアトラウト adj. 親密な 「補語」

「君たちは昔の僕のキツネみたいだ。あれは他の 10 万匹に似たキツネに過ぎなかった」

Ihr seid, wie mein Fuchs war. Der war nichts als ein Fuchs wie hunderttausend andere.

《「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞」「補語」》

Ihr イア pron.pl 君たちは 「主語」

XXI

seid, ザイト 2 複現(sein)v.i	～である	「動詞」
wie ヱー conj.	～のような	「補語」
mein Fuchs マイン・フクス n.m	僕のキツネが	「主語」
war. ヲール 3 単過(sein)v.i	～ だった	「動詞」
Der デア pron	それは	「主語」
war ヲール 3 単過(sein)v.i	～ だった	「動詞」
nichts ニツ pron	何もない	「補語」
als アルス conj.	(比較) ～と比べて	「副詞句」
ein Fuchs アイン・フクス n.m 1 匹のキツネ		「目的語」
wie ヱー conj.	～のような、～によく似た	「形容詞句」
hunderttausend andere. フンダートタウゼント・アンデレ		
pron.pl	他の 10 万匹	「目的語」

だけど僕は彼と友達になった。だから今では、彼はこの世で唯一の存在なんだ。

Aber ich habe ihn zu meinem Freund gemacht, und jetzt ist er einzig in der Welt.«

Aber 「主語」「動詞句」「目的語」「補語」,und 「副詞」「動詞」「主語」「補語」

Aber アーバー conj. しかし

ich イヒ pron	僕は	「主語」
habe ...gemacht, ハーベ...ゲマハト 1 単現・完了形(machen)v.t	～をした	「動詞句」
ihn イン pron.4 格	彼を	「目的語」
zu meinem Freund ツー・マイネム・フロイント adv.	僕の友達に	「補語」
und ウント conj.	そして	
jetzt エツト adv.	今では	「副詞」
ist イスト 3 単現(sein)v.i	～である	「動詞」
er エア pron	彼は	「主語」
einzig アインツィヒ adj.	唯一	「補語」
in der Welt. イン・デア・ヴェルト adv.	この世で	「副詞句」

すると、バラの花たちはとても恥じ入ってしまった。

Und die Rosen waren sehr beschämt.

Und 「主語」「動詞」「補語」

Und ウント conj. そして

die Rosen デー・ローゼン pl.n.f	バラの花たちは	「主語」
waren ヲアレ 3 複過・状態(sein)v.i	～になった	「動詞」
sehr beschämt. セー・ア・ベシエムト 過去分詞・受動(beschämen)		
adj.	とても恥じ入った、恐縮した	「補語」

XXI

「君たちは美しい、けれどもむなしい」と、王子さまはさらに言った。

»Ihr seid schön, aber ihr sein leer«, sagte er noch.

《「主語」「動詞」「補語」, aber 「主語」「動詞」「補語」》, 「動詞」「主語」「副詞」

»Ihr イア pron.1 格 (2 人称親称複数) 君たちは 「主語」

seid ザイト 2 複現(sein)v.i ~である 「動詞」

schön, シェン adj. 美しい 「補語」

aber アーバー conj. しかし

ihr イア pron.1 格 (2 人称親称複数) 君たちは 「主語」

sein ザイン 不定詞(sein)v.i ~である 「動詞」

leer«, レア adj. 空の、むなしい 「補語」

sagte ザーケ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」

er エ pron 王子さまは 「主語」

noch. ノッホ adv. さらに 「副詞」

フランス語の原文では :

「君たちは美しいけれど、意味がない」と王子様は花たちになおも言った。

Vous **êtes** belles, mais vous **êtes** vides, leur dit-il encore.

どちらも **êtes** なので、ドイツ語の文でもどちらも **seid** だと思われる。

「誰も、君たちのためには死ぬことができない」

»Man kann für euch nicht sterben. 《「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」》

»Man マン pron すべての人は 「主語」

否定文では、「誰も～ない」

kann ...nicht sterben. カン...ニヒト・シュテアベン 3 単現・可能・否定(können+不定詞)

v.i 死ぬことはできない 「動詞句」

für euch フェア・オイェ adv. 君たちのために 「副詞句」

「きっと通りすがりの人は、僕の花が君たちに似ている、と思うだろうな。」

Gewiss, ein Irgendwer, der vorübergeht, könnte glauben, meine Rose ähñle euch.

《「副詞」, 「主語」「動詞句」「目的語」》

Gewiss, ゲワイス adv. きっと、多分 「副詞」

ein Irgendwer, アイン・イルゲントワイア pron 誰かある人が 「主語」

der デア pron (主語) ~する 「形容詞節」

vorübergeht, フォリュバーゲート 3 単現(vorüber|gehen)v.i 通り過ぎる 「動詞」

könnte glauben, コンテ・グラウベン 接 II・3 単現・推量(können+不定詞)

v.t 思うかもしれない 「動詞句」

n. ~ということを 「目的語」

フランス語の原文では :

XXI

meine Rose マイネ・ローゼ n.f 僕の花が 「主語」
 ähnlē エーニレ 接・3 単現・推測(ähneln)v.i (j-3 に) 似ている 「動詞」
 euch. オヒ pron.3 格 君たちに 「間接目的語」

「それでも、あの花は君たち全部よりも大切なんだ。だって、僕が水をかけてやったのはあ
 の花なのだから。」

Aber in sich selbst ist sie wichtiger als ihr alle, da sie es ist, die ich begossen habe.

《Aber 「副詞句」「動詞」「主語」「補語」, 「副詞節」》

Aber アーバー conj. しかし

in sich selbst イン・スィッヒ・ゼルフスト adv. (譲歩) そうであっても、それ自体 「副詞句」

ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である 「動詞」

sie ジー pron 彼女が 「主語」

wichtiger ヴィヒチガー adj.(wichtig) (比較級) より大切な 「補語」

als ihr alle, アルス・イーア・アレ adv. (比較) 君たち全部よりも 「副詞句」

da ダー conj. ~なのだから 「副詞節」

sie ジー pron 彼女 「補語」

es エス pron それ (die 以降)

ist, イスト 3 単現(sein)v.i ~である 「動詞」

die デー pron.f (目的語) ~するのは 「主語」

ich イヒ pron 僕が 「主語」

begossen habe. ゲゴッセン・ハーベ 1 単現・完了形(gießen)

v.t (液体を) かけた 「動詞句」

「だって、僕がガラスの覆いをかけてあげたのは、彼女なのだから」

Da sie es ist, die ich unter den Glassturz gestellt habe. 《「副詞節」》

Da ダー conj. ~なのだから 「副詞節」

sie ジー pron 彼女 「補語」

es エス pron それ (die 以降)

ist, イスト 3 単現(sein)v.i ~である 「動詞」

die デー pron.f (目的語) ~するのは 「主語」

ich イヒ pron 僕が 「主語」

unter den Glassturz ウンター・テン・ガラス・シュトアツ

adv. ガラスの覆いの下に 「副詞句」

gestellt habe. ゲシュテルト・ハーベ 1 単現・完了形(stellen)

v.t 入れた、置いた 「動詞句」

XXI

「だって、僕が衝立で守ってあげたのは、彼女なのだから」

<u>Da sie es ist, die ich mit dem Wandschirm geschützt habe.</u>	《「副詞節」》
Da ダー conj. ～なのだから	「副詞節」
sie ジー pron 彼女	「補語」
es エス pron それ (die 以降)	
ist, イスト 3 単現(sein)v.i ～である	「動詞」
die テー pron.f (目的語) ～するのは	「主語」
ich イヒ pron 僕が	「主語」
mit dem Wandschirm ミット・デーム・ヴァントシュリム	
adv. (手段) 衝立で	「副詞句」
geschützt habe. ゲシュツット・ハーベ 1 単現・完了形(schützen)	
v.t 守った	「動詞句」

「(蝶々になる 2～3 匹を除いて) 僕が毛虫を取り除いてあげたのは、彼女なのだから」

<u>Da sie es ist, deren Raupen ich getötet habe (außer den zwei oder drei um der Schmetterlinge willen).</u>	《「副詞節」(「副詞句」)》
Da ダー conj. ～なのだから	「副詞節」
sie ジー pron 彼女	「補語」
es エス pron それ (deren 以降)	
ist, イスト 3 単現(sein)v.i ～である	「動詞」
n. ～するのは	「主語」
deren Raupen デーレン・ラウペン pl.n.f(Raupe) 毛虫を	「目的語」
deren は指示代名詞・女性 die の複数	
ich イヒ pron 僕が	「主語」
getötet habe ゲテーテット・ハーベ 1 単現・完了形(töten)v.t 殺した	「動詞句」
(außer アウサー prep (3 格と) ～を除いて	「副詞句」
den zwei oder drei テン・ツヴァイ・オーダー・ドライ pl.n.f.3 格 2～3 匹	「目的語」
um ...willen). ウム...ウィレン prep (2 格と) ～のために	「副詞句」
der Schmetterlinge デア・シュメッターリング pl.n.m.2 格 蝶々	「目的語」

「僕が苦情や自慢話や、時には沈黙にさえも耳を傾けたのは、彼女なのだから。あれは、僕のバラの花なのだから」

<u>Da sie es ist, die ich klagen oder sich rühmen gehört habe oder auch manchmal schweigen. Da es meine Rose ist.</u>	《「副詞節」 「副詞節」》
Da ダー conj. ～なのだから	「副詞節」
sie ジー pron 彼女	「補語」

XXI

es エス pron	それ (die 以降)	
ist, イスト	3 単現(sein)v.i	「動詞」
die デー pron.f	(目的語) ～するのは	「主語」
ich イヒ pron	僕が	「主語」
klagen クラーゲン n.f	苦情を	「目的語」
oder オーダー conj.	または	
sich rühmen スィット・スィット・リュメン n.n	自慢を	「目的語」
gehört habe ゲホーアト・ハーベ	1 単現・完了形(hören)	
v.t	聞いた、耳を傾けた	「動詞句」
oder オーダー conj.	または	
auch manchmal アウフ・マンヒマル adv.	時には～さえも	「副詞句」
schweigen. シュヴァイゲン n.n	沈黙を	「目的語」
Da ダー conj.	～なのだから	「副詞節」
es エス pron	彼女は	「主語」
meine Rose マイネ・ローゼ n.f	僕のバラの花	「補語」
ist.« イスト	3 単現(sein)v.i	「動詞」
	～である	

それから、王子さまはキツネのところへ戻った：

Und <u>er kam zum Fuchs zurück</u> :	Und 「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」
Und ウント conj. そして	
er エア pron 王子さまは	「主語」
kam ...zurück: カム...ツリュック 3 単過(zurück kommen)v.i 戻った	「動詞句」
zum Fuchs ツム・フクス adv. キツネのところへ	「間接目的語」

「さようなら」と、王子様が言った。

» <u>Adieu</u> «, <u>sagte er</u> ...	《「挨拶」》, 「動詞」「主語」
»Adieu«, アジュー adv. さようなら	「挨拶」
sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
er... エア pron 王子様が	「主語」

「さようなら」と、キツネが言った。

» <u>Adieu</u> «, <u>sagte der Fuchs</u> .	《「挨拶」》, 「動詞」「主語」
»Adieu«, アジュー adv. さようなら	「挨拶」
sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
der Fuchs. デア・フクス n.m キツネが	「主語」

XXI

「これが、僕の秘密だよ。これはすごく単純なんだ：人は心で見なければよく見えないんだよ。物事の本質は、目には見えないんだよ」

»Hier mein Geheimnis. Es ist ganz einfach: man sieht nur mit dem Herzen gut. Das Wesentliche ist für die Augen unsichtbar.«

《「副詞」「主語」 | 「主語」「動詞」「補語」:

「主語」「動詞」「副詞句」 | 「主語」「動詞」「補語」》

»Hier ヒア adv. ここに～がある 「副詞」
 mein Geheimnis. マイン・ゲ・ハイムニス n.n 僕の秘密 「主語」
 Es エス pron これは 「主語」
 ist イスト 3 単現(sein)v.i ～である 「動詞」
 ganz einfach: ガンツ・アインファッハ adj. まったく単純な 「補語」
 man マン pron 人は 「主語」
 sieht ジート 3 単現(sehen)v.t 見える 「動詞」
 nur mit dem Herzen ノーア・ミット・デーム・ヘアツェン adv. (手段・限定) 心によってだけ 「副詞句」
 gut. グート adv. よく 「副詞」
 Das Wesentliche ダス・ウェーゼントリヒェ n.n(wesentlich).1 格 物事の本質は 「主語」
 ist イスト 3 単現(sein)v.i ～である 「動詞」
 für die Augen フューア・デー・アイアウゲン adv. 目には 「副詞句」
 unsichtbar.« ウンズ・イヒトバール adj. 見えない、不可視の 「補語」

「物事の本質は、目には見えない」と、王子さまはそれを覚えておくために繰り返した。

»Das Wesentliche ist für die Augen unsichtbar«, wiederholte der kleine Prinz, um es sich zu merken.

《「主語」「動詞」「補語」》, 「動詞」「主語」, 「副詞句」

»Das Wesentliche ダス・ウェーゼントリヒェ n.n(wesentlich).1 格 物事の本質は 「主語」
 ist イスト 3 単現(sein)v.i ～である 「動詞」
 für die Augen フューア・デー・アイアウゲン adv. 目には 「副詞句」
 unsichtbar«, ウンズ・イヒトバール adj. 見えない、不可視の 「補語」
 wiederholte ヴァーダーホルテ 3 単過(wiederholen)v.t 繰り返した 「動詞」
 der kleine Prinz, デア・クライン・プリンツ n.m 王子さまは 「主語」
 um ...sich zu merken. ウム...スィヒ・ツァー・マケン um zu 不定句(sich-4 merken)
 adv. (目的) 覚えておくために 「副詞句」
 es エス それを 「目的語」

XXI

「君が自分のバラのために費やしたその時間が、君のバラの花をそんなにも大切なものに変えたんだよ」

»Die Zeit, die du für deine Rose verloren hast, sie macht deine Rose so wichtig.«

《「主語」「動詞」「目的語」「補語」》

»Die Zeit, デー・イー・ツァイト n.f その時間が

「主語」

die デー pron (目的語) ～する

「形容詞節」

du トゥ pron 君が

「主語」

für deine Rose フュア・ダ・イー・ローゼ adv. 君のバラのために

「副詞句」

verloren hast, フェアローレン・ハスト 2 単現・完了形(verlieren)

v.t (時間を) 使った

「動詞句」

sie ジー pron.f その時間が

「主語」

macht マハ 3 単現(machen)v.t (様態を表す語と) ～に変えている

「動詞」

deine Rose ダ・イー・ローゼ n.f 君のバラの花を

「目的語」

so wichtig. ソー・ウ・ヒヒ adj. そんなにも大切な

「補語」

「僕がバラのために使ったその時間が...」と、王子さまはそれを覚えておくために言った。

»Die Zeit, die ich für meine Rose verloren habe...«, sagte der kleine Prinz, um es sich zu merken.

《「主語」...》, 「動詞」「主語」「副詞句」

verloren habe

»Die Zeit, デー・イー・ツァイト n.f その時間が

「主語」

die デー pron (目的語) ～する

「形容詞節」

ich トゥ pron 僕が

「主語」

für meine Rose フュア・マイネ・ローゼ adv. 僕のバラのために

「副詞句」

verloren habe...«, フェアローレン・ハーベ 1 単現・完了形(verlieren)

v.t (時間を) 使った

「動詞句」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

der kleine Prinz, デア・クライネ・プリンツ n.m 王子さまは

「主語」

um ...sich zu merken. ウム...スィヒ・ツウ・マッケン um zu 不定句(sich-4 merken)

adv. (目的) 覚えておくために

「副詞句」

es エス それを

「目的語」

「人間たちはこの真理を忘れてしまっているんだ」と、キツネが言った。

»Die Menschen haben diese Wahrheit vergessen«, sagte der Fuchs.

《「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」》, 「動詞」「主語」

»Die Menschen デー・イー・メンシェン pl.n.m 人間たちは

「主語」

haben ...vergessen«, ハーベン...フェアゲッセン 3 複現・完了形(vergessen)

XXI

v.t 忘れてしまっている	「動詞句」
diese Wahrheit ディーゼ・ヴァールハイト n.f この真理を	「目的語」
sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
der Fuchs. デア・フクス n.m キツネが	「主語」

「だけど、君はそのことを忘れてはならない。君は、自分が飼いなしたものに対して、一生の間責任があるんだよ。君は自分のバラの花に責任があるんだよ...」

»Aber du darfst sie nicht vergessen. Du bist zeitlebens für das verantwortlich, was du dir vertraut gemacht hast. Du bist für deine Rose verantwortlich...«

《Aber 「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」 | 「主語」「動詞」「副詞」「補語」
「主語」「動詞」「補語」》

»Aber アーバー conj. だけど

du トゥ pron 君は 「主語」

darfst ...nicht vergessen. ダルフスト...ニヒト・フェアゲッセン 2 単現・禁止(dürfen+不定詞・否定)

v.t 忘れてはならない 「動詞句」

sie ジー pron そのことを 「目的語」

Du トゥ pron 君は 「主語」

bist ビスト 2 単現(sein)v.i ~である 「動詞」

zeitlebens ツァイトレーベンス adv. 一生の間 「副詞」

für das verantwortlich, フェア・ダス・フェアントヴァートリヒ adj. それに対して責任のある 「補語」

was ヴァス pron (目的語) ~する 「形容詞節」

du トゥ pron 君が 「主語」

dir ディア pron 君にとって 「間接目的語」

vertraut フェアトラウト adj. 親しい 「補語」

gemacht hast. ゲマハト・ハスト 2 単現・完了形・使役(machen)

v.t (状態を) ~にした 「動詞句」

Du トゥ pron 君は 「主語」

bist ビスト 2 単現(sein)v.i ~である 「動詞」

für deine Rose フェア・ダ・イネ・ローゼ adv. 君のバラの花に対して 「副詞句」

verantwortlich...« フェアントヴァートリヒ adj. 責任のある 「補語」

「僕は、自分のバラの花に対して責任がある」と、王子さまは覚えておくために繰り返した。

»Ich bin für meine Rose verantwortlich...«, wiederholte der kleine Prinz, um es sich zu merken.

《「主語」「動詞」「補語」》, 「動詞句」「主語」, 「副詞句」

»Ich イヒ pron 僕は 「主語」

bin ビン 1 単現(sein)v.i ~である 「動詞」

XXII

für meine Rose フェア・マイネ・ローゼ	adv. 僕のバラの花に対して	「副詞句」
verantwortlich...«	フェアントウ・ォアトリヒ adj.責任のある	「補語」
wiederholte ヴィーダーホルテ	3 単過(wieder holen)v.t 繰り返した	「動詞句」
der kleine Prinz, デア・クライネ・プリンツ	n.m 王子さまは	「主語」
um ...sich zu merken. ウム...ズィヒ・ツァー・マケン	um zu 不定句(sich-4 merken)	
adv. (目的) 覚えておくために		「副詞句」
es エス それを		「目的語」

XXII

「こんにちは」と、王子さまは言った。

»Guten Tag«, <u>sagte der kleine Prinz.</u>	《「挨拶」》, 「動詞」「主語」
»Guten Tag«, グーテン・ターク adv. こんにちは	「挨拶」
sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
der kleine Prinz. デア・クライネ・プリンツ n.m 王子さまは	「主語」

「こんにちは」と、転轍手は言った。

»Guten Tag«, <u>sagte der Weichensteller.</u>	《「挨拶」》, 「動詞」「主語」
»Guten Tag«, グーテン・ターク adv. こんにちは	「挨拶」
sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
der Weichensteller. デア・ヴァイシェンシュテラー n.m 転轍手は	「主語」

転轍手 (てんてつしゅ)、転轍機 :

鉄道の複数の線路が連結する個所で、どの線路を接続するかを切り替える装置を「転轍機」または「ポイント」と呼びます。つまり、列車の通り道を切り替える装置で列車運行上、重要な役目をもっています。かつては転轍手と呼ばれる係員が手で転轍機を操作していましたが、現在では電力を使う電気方式や圧縮空気を使う電空方式に変わり、人力に頼る機械でこ式はほとんど見られなくなりました。

「君はそこで何をしているの?」と、王子様は言った。

»Was machst du da?« sagte der kleine Prinz.	《「目的語」「動詞」「主語」「副詞」》, 「動詞」「主語」
»Was ヴァス pron 何を	「目的語」
machst マハスト 2 単現(machen)v.t している	「動詞」
du トゥ pron 君は	「主語」
da?« ダー adv. そこで	「副詞」
sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」

転轍手 (てんてつしゅ)、転轍機 :

XXII

der kleine Prinz. デア・クライネ・プリンツ n.m 王子さまは

「主語」

「乗客を 1000 人ずつの束に仕分けしているんだ」と、転轍手は言った。

»Ich sortiere die Reisenden nach Tausenderpaketen«, sagte der Weichensteller.

《「主語」「動詞」「直接目的語」「間接目的語」》, 「動詞」「主語」

»Ich イヒ pron 僕は

「主語」

sortiere ソルチエレ 1 単現(sortieren)v.t 仕分けしている

「動詞」

die Reisenden ディー・ライゼンデレン pl.n.4 格 (現在分詞の名詞化) 乗客たちを「直接目的語」

nach Tausenderpaketen«, ナーハ・タウゼンダー・パケテン adv. 1000 人ずつの束に「間接目的語」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

der Weichensteller. デア・ヴァイシェンシュテラー n.m 転轍手は

「主語」

「彼らを運ぶ列車を、あるいは右へ、あるいは左へ送っているのさ」

»Ich schicke die Züge, die sie fortbringen, bald nach rechts, bald nach links.«

《「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」》

»Ich イヒ pron 僕は

「主語」

schicke シッケ 1 単現(schicken)v.t 送っている

「動詞」

die Züge, ディー・ツューゲ pl.n.m(Zug).4 格 列車を

「目的語」

die ディー pron.pl (主語) ~する

「形容詞節」

sie シー pron.pl.4 格 彼らを

「目的語」

fortbringen, フォートブリンゲン 3 複現 v.t 運ぶ

「動詞」

bald nach rechts, バルト・ナーハ・レヒツ adv. あるいは右に

「副詞句」

bald nach links.« バルト・ナーハ・リンクス adv. あるいは左に

「副詞句」

bald..., bald~ 「ある時は...、ある時は~」、「あるいは...、あるいは~」

すると、明かりのついた急行列車が、雷のような轟音とともにやって来て、転轍手の小屋を揺らした。

Und ein lichterfunktender Schnellzug, grollend wie der Donner, machte das Weichenstellerhäuschen erzittern.

Und 「主語」「副詞句」「動詞」「目的語」「補語」

Und ウント conj. すると

ein lichterfunktender Schnellzug, アイン・リヒター・フンケルンダー・シュネルツーク

n.m.1 格 明かりのついた急行列車が

「主語」

lichter リヒター adj.m(licht).1 格 明るい、明かりのついた

funktender フンケルンダー 現在分詞(funkeln)adj.m.1 格 きらきら輝いている

Schnellzug シュネルツーク n.m 急行列車

grollend グローレント 現在分詞・同時(grollen)v.i 轟かせながら

「副詞句」

XXII

wie der Donner, ヴィー・ディートナー adv. 雷のように 「副詞句」
 machte マハテ 3 単過・使役(machen)v.t (SVO+不定詞 O に) ～させた 「動詞」
 das Weichenstellerhäuschen ダス・ヴァイエンシュテラー・ハイスェン n.n.4 格 転轍手の小屋を「目的語」
 Weichensteller ヴァイエンシュテラー n.m 転轍手 Häuschen ハイスェン n.n 小屋
 erzittern. エアツィターン 不定詞・目的語の動作 v.i 震える 「補語」

「彼らはとても急いでいるんだね」と、王子さまは言った。「どこへ行きたいの？」

»Sie haben es sehr eilig«, sagte der kleine Prinz. »Wohin wollen sie?«
 《「主語」「動詞」「目的語」》, 「動詞」「主語」, 《「副詞」「動詞」「主語」》
 »Sie ジー pron.pl 彼らは 「主語」
 haben ハーベン 3 複現 v.t 持っている 「動詞」
 es エス pron それを 「目的語」
 sehr eilig, セーア・アイリヒ adj. とても急いだ 「形容詞句」
 es eilig haben 「急いでいる」
 sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 der kleine Prinz. デア・クライン・プリンツ n.m 王子さまは 「主語」
 »Wohin ヴォーヒン adv. どこへ 「副詞」
 wollen ヴォレン 3 複現・願望 [助] ～をしたい 「動詞」
 sie?« ジー pron.pl 彼らは 「主語」

「機関士だって、そのことを知らないんだよ」と、転轍手は言った。

»Der Mann von der Lokomotive weiß es selbst nicht«, sagte der Weichensteller.
 《「主語」「動詞句」「目的語」》, 「動詞」「主語」
 »Der Mann デア・マン n.m その人は 「主語」
 von フォン prep (所属) ～の 「形容詞句」
 der Lokomotive デア・ロコモティヴ・ヴェ n.m 機関車 「目的語」
 → 機関士 (鉄道の動力車操縦者)
 weiß ...selbst nicht«, ヴァイス...ゼルフ・スト・ニヒト 3 単現・否定(wissen+ selbst)
 v.t ～でさえ知らない 「動詞句」
 selbst ゼルフ・スト adv. ～でさえ
 es エス pron それを 「目的語」
 sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 der Weichensteller. デア・ヴァイエンシュテラー n.m 転轍手は 「主語」

XXII

すると、明りのついた 2 番目の急行列車が轟音をあげて反対方向へ通り過ぎて行った。

Und ein zweiter blitzender Schnellzug donnerte vorbei, in entgegengesetzter Richtung.

Und 「主語」「動詞句」「副詞句」

Und ウント conj. そして

ein zweiter blitzender Schnellzug アイン・ツウ・アイター・ブリッツェンター・シュネルツーク

n.m.1 格 明りのついた 2 番目の急行列車が 「主語」

blitzender ブリッツェンター 現在分詞(blitzen)adj.m.1 格 きらめく、明りのついた

donnerte vorbei, トネラテ・フォアバイ 3 単過(vorbei | donnern)

v.i 轟音をあげて通り過ぎて行った 「動詞句」

in entgegengesetzter Richtung. イン・エントゲー・ゲンゲゼ・ツッター・リヒトウング adv. 反対方向へ 「副詞句」

entgegengesetzter エントゲー・ゲンゲゼ・ツッター adj.f.3 格 反対の Richtung リヒトウング n.f 方向

「もう戻ってきたの？」と、王子さまは尋ねた。

»Sie kommen schon zurück?« fragte der kleine Prinz...

《「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」》, 「動詞」「主語」

»Sie シー pron 彼らは 「主語」

kommen ...zurück?« コメン...ツリュック 3 複現(zurück | kommen)v.i 戻る 「動詞句」

schon ション adv. もう 「副詞」

fragte フラーケ 3 単過(fragen)v.t 尋ねた 「動詞」

der kleine Prinz... デア・クライネ・プリッツ n.m 王子さまは 「主語」

「あれはさっきの旅客じゃないんだよ」と、転轍手は言った。「入れ替わったんだよ」

»Das sind nicht die gleichen«, sagte der Weichensteller. »das wechselt.«

《「主語」「動詞」「補語」》, 「動詞」「主語」, 《「主語」「動詞」》

»Das ダス pron (性・数にかかわらず、人・物を指す) あれは 「主語」

sind nicht シント・ニヒト 3 複現・否定(sein)v.i ~でない 「動詞」

die gleichen, デーイー・グラ化エン pl.n.n.1 格 同じ人々 「補語」

gleichen グラ化エン adj.pl.1 格(gleich) 同じ

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」

der Weichensteller. デア・ウァイシェンシュテラー n.m 転轍手は 「主語」

»das ダス pron あれは 「主語」

wechselt.« ウェケルト 3 単現(wechseln)v.i 入れ替わる 「動詞」

「彼らがいた場所が気に入らなかったのかな？」

»Waren sie nicht zufrieden dort, wo sie waren?«

《「動詞」「主語」「補語」》

»Waren ヲアレン 3 複過・疑問文(sein)v.i ~ だったのかな？

「動詞」

XXII

sie シー pron.pl 彼らは 「主語」
 nicht zufrieden dort, ニト・ツフリーデッ・トアト adj. そこに満足しない 「補語」
 wo sie waren?« ウォー・シー・ワレン adj. 彼らがいた 「形容詞節」

「誰だって、どこに住んでいようが、その場所に満足しないものだよ」と、転轍手は言った。

»Man ist nie zufrieden dort, wo man ist«, sagte der Weichensteller.

《「主語」「動詞」「補語」》, 「動詞」「主語」

»Man マン pron 人は、誰でも 「主語」
 ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である 「動詞」
 nie zufrieden dort, ニー・ツフリーデッ・トアト adj. そこに満足しない 「補語」
 wo man ist«, ウォー・マン・イスト adv. (譲歩) どこに住んでいようが 「副詞節」
 sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 der Weichensteller. デア・ウァイシェンシュテラー n.m 転轍手は 「主語」

すると、明かりのついた 3 番目の急行列車が、轟音をあげながら通り過ぎて行った。

Und es rollte der Donner eines dritten funkelnden Schnellzuges vorbei.

Und 「動詞」「主語」「副詞」

Und ウント conj. そして
 es エス pron 仮の主語 (真の主語は der Donner eines dritten funkelnden Schnellzuges)
 rollte ロルテ 3 単過(rollen)v.i 進んでいった 「動詞」
 der Donner デア・ドナー n.m.1 格 雷のような大音響が 「主語」
 eines dritten funkelnden Schnellzuges アイネス・ドリッテン・フンケルンデッ・ン・シュネルツークェス
 n.m.2 格 明かりのついた 3 番目の急行列車の 「形容詞句」
 dritten トリッテン adj.m.2 格 3 番目の Schnellzuges シュネルツークェス n.m.2 格 急行列車の
 funkelnden フンケルンデッ 現在分詞(funkeln)adj.m.2 きらきら光る、明かりのついた
 vorbei. フォアバイ adv. 通り過ぎて 「副詞」

「最初の旅行者たちを追いかけているの？」と、王子様が尋ねた。

»Verfolgen diese die ersten Reisenden?« fragte der kleine Prinz.

《「動詞」「主語」「目的語」》, 「動詞」「主語」

»Verfolgen フェアフォルゲン 3 複現・疑問文 v.t 追いかけているの? 「動詞」
 diese デーゼ pron.pl この列車は 「主語」
 die ersten Reisenden?« デー・エーステン・ライゼンデッ pl.n 最初の旅行者たちを 「目的語」
 fragte フラーケ 3 単過(fragen)v.t 尋ねた 「動詞」
 der kleine Prinz. デア・クライン・プリンツ n.m 王子さまが 「主語」

XXII

「何も追いかけていないよ」と、転轍手が言った。

»Sie verfolgen gar nichts«, sagte der Weichensteller.

《「動詞」「主語」「目的語」》, 「動詞」「主語」

»Sie ジー pron.pl あの列車は

「主語」

verfolgen フェアフォルゲン 3 複現 v.t 追いかけている

「動詞」

gar nichts«, ガール・ニツ pron 全くなにも～ない

「目的語」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

der Weichensteller. デア・ウァイシェンシュテラー n.m 転轍手は

「主語」

「旅客たちはあの中で眠っているか、あくびをしている。子供たちだけは、自分の鼻をガラス窓に押し付けて外を眺めている」

»Sie schlafen da drinnen, oder sie gähnen auch. Nur die Kinder drücken ihre Nasen gegen die Fensterscheiben.«

《「主語」「動詞」「副詞句」, oder 「主語」「動詞」「副詞」

「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」》

»Sie ジー pron.pl 旅客たちは

「主語」

schlafen シュラーフェン 3 複現 v.i 眠っている

「動詞」

da drinnen, ダー・ドリネン adv. あの中で

「副詞句」

oder オーダー conj. さもなければ

sie ジー pron.pl 旅客たちは

「主語」

gähnen ゲーネン 3 複現 v.i あくびをしている

「動詞」

auch. アウフ adv. ～も

「副詞」

Nur die Kinder ノーア・デー・キンダー pl.n.n 子供たちだけは

「主語」

drücken ドゥルッケン 3 複現 v.t 押し付けている

「動詞」

ihre Nasen イーレ・ナーゼン n.f.4 格 自分の鼻を

「目的語」

gegen die Fensterscheiben.« ゲーゲン・デー・フェンスターシャイベン

adv. (衝突) 窓ガラスに

「副詞句」

「子供たちだけが、どこへ行こうとしているか知っているんだね」と、王子さまは言った。

»Nur die Kinder wissen, wohin sie wollen«, sagte der kleine Prinz.

《「主語」「動詞」「目的語」》, 「動詞」「主語」

»Nur die Kinder ノーア・デー・キンダー pl.n.n 子供たちだけは

「主語」

wissen, ヴァイッセン 3 複現 v.t 知っている

「動詞」

n. ～ということ

「目的語」

wohin ヴォーヒン adv. どこへ

「副詞」

sie ジー pron.pl 彼らが

「主語」

wollen«, ヴォレン 助動詞 v. ～しようとしている

「動詞」

XXII

sagte ザーケ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

der kleine Prinz. デア・クライネ・プリンツ n.m 王子さまは

「主語」

「子供たちは、ぼろきれ人形に時間を費やす。そうして人形は彼らにとってとても大切なものになっていく。だから、誰かが子供たちの人形を取り上げると、泣き出してしまう」

»Sie wenden ihre Zeit an eine Puppe aus Stoff-Fetzen, und die Puppe wird ihnen sehr wertvoll, und wenn man sie ihnen wegnimmt, weinen sie...«

《「主語」「動詞」「直接目的語」「間接目的語」,

und 「主語」「動詞」「間接目的語」「補語」, und 「副詞節」, 「動詞」「主語」》

»Sie ジー pron 子供たちは

「主語」

wenden ウェンテン 3 複現(auf / an et-4 に)v.t (金や時間を) 費やす

「動詞」

ihre Zeit イーレ・ツァイト n.f 自分たちの時間を

「直接目的語」

an eine Puppe アン・アイネ・プッペ adv. 人形に

「間接目的語」

aus Stoff-Fetzen, アウス・シュトッフ・フェッツェン

adj. (材料) ぼろきれで出来た

「形容詞句」

und ウント conj. (結果) だから

die Puppe デー・プッペ n.f その人形は

「主語」

wird ウィルト 3 単現・変化(werden)v.i ~になる

「動詞」

ihnen イーネン pron 彼らにとって

「間接目的語」

sehr wertvoll, セーア・ヴァルトフォール adj. とても重要な

「補語」

und ウント conj. そして

wenn ウェン conj. (仮定) ~すると

「副詞節」

man マン pron 誰かが

「主語」

sie ジー pron その人形を

「直接目的語」

ihnen イーネン pron 彼らの

「間接目的語」

wegnimmt, ウェーク・ニムト 3 単現(weg|nehmen)

v.t(j-3 et-4 人-3 から何-4 を) 取り上げる

「動詞」

weinen ウァイネン 3 複現 v.i 泣く

「動詞」

sie...« ジー pron.pl 子供たちは

「主語」

「子供たちは恵まれているよ」と、転轍手は言った。

»Sie haben es gut«, sagte der Weichensteller. 《「主語」「動詞」「目的語」》, 「動詞」「主語」

»Sie ジー pron.pl 子供たちは

「主語」

haben ハーベン 3 複現 v.t ~である、持っている

「動詞」

es gut«, エス・グート pron 良いものを

「目的語」

es は不定の代名詞 gut は es の形容詞

XXIII

es gut haben 「結構な暮らしをしている、うまくやっている」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

der Weichensteller. デア・ヴァイシェンシュテラー n.m 転轍手は

「主語」

XXIII

「こんにちは」と、王子様が言った。

»Guten Tag«, sagte der kleine Prinz.

《「挨拶」》, 「動詞」 「主語」

»Guten Tag«, グーテン・ターク adv. こんにちは

「挨拶」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

der kleine Prinz. デア・クライン・プリンツ n.m 王子様が

「主語」

「こんにちは」と、商人が言った。

»Guten Tag«, sagte der Händler.

《「挨拶」》, 「動詞」 「主語」

»Guten Tag«, グーテン・ターク adv. こんにちは

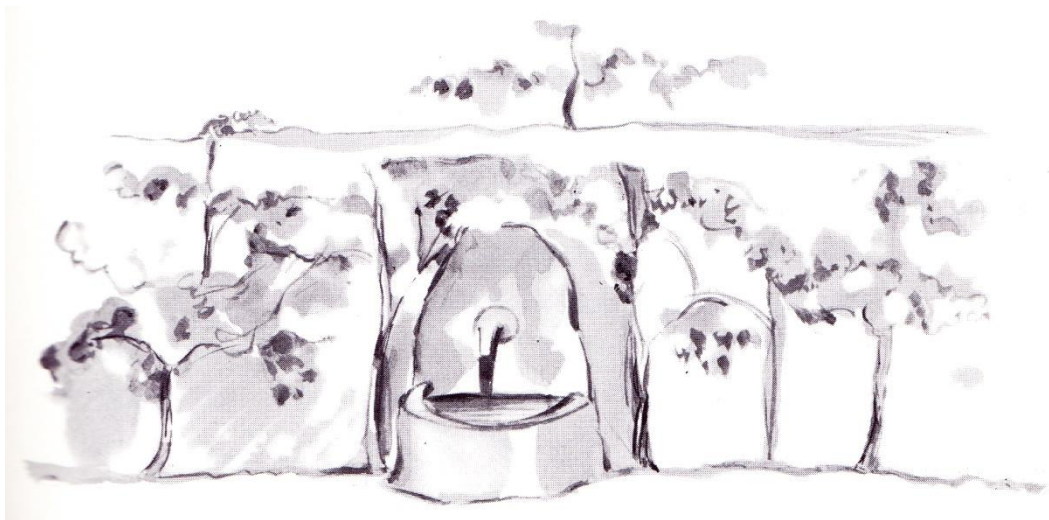
「挨拶」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

der Händler. デア・ヘントラー n.m 商人が

「主語」



彼は喉の渇きを確実に抑える丸薬を売っていた。

Er handelte mit höchst wirksamen, durststillenden Pillen.

「主語」 「動詞」 「間接目的語」

Er エア pron 彼は

「主語」

handelte ハンデルテ 3 単過(handeln)v.i(mit et-3 を) 売っていた

「動詞」

mit höchst wirksamen, durststillenden Pillen.

XXIII

ミット・ヘーヒスト・ウ・イルクサーメン・ト・ウルスト・スチレンテン・ピレン

adv. 喉の渇きを確実に抑える丸薬を

「間接目的語」

höchstヘーヒスト adv.(hoch) 最高に wirksamenウ・イルクサーメン adj.f.pl(wirksam).3格 有効な

Durstト・ウルスト n.m (喉の) 渇き stillenスチレン v.t 抑える → stillend 現在分詞

→ stillenden スチレンデン adj.f.pl.3格 抑える Pillenピレン pl.n.f(Pille) 丸薬、錠剤

毎週 1 錠飲めば、もう水を飲みたいという欲求を感じなくなる。

Man schluckt jede Woche eine und spürt überhaupt kein Bedürfnis mehr zu trinken.

「主語」「動詞」「副詞句」「目的語」 und 「動詞」「目的語」

Man マン pron 人は

「主語」

schluckt シュルククト 3 単現・条件(schlucken)v.t 飲み込む

「動詞」

jede Woche イェーデ・ウ・オッヘ adv. 毎週

「副詞句」

eine アイン pron.f (eine Pille の省略) 1 錠を

「目的語」

und ウント conj. (条件の結果) そうすれば

spürt シュピュアト 3 単現(spüren)v.t 感じる

「動詞」

überhaupt kein Bedürfnis ユーバー・ハウプ・ト・カイン・ベ・ト・ユルフニス

n.n.4 格 全く欲求が～ない

「目的語」

mehr zu trinken. メア・ツ・トリンケン adj. もはや飲みたいという

「形容詞句」

「どうして、そんなものを売っているの？」と、王子さまは言った。

»Warum verkaufst du das?«, sagte der kleine Prinz.

《「副詞」「動詞」「主語」「目的語」》, 「動詞」「主語」

»Warum ウァルム adv. (疑問文で) どうして?

「副詞」

verkaufst フェアカフスト 2 単現(verkaufen)v.t 売る

「動詞」

du トゥ pron 君は

「主語」

das?«, ダス pron それを

「目的語」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

der kleine Prinz. デア・クライネ・プリンツ n.m 王子さまは

「主語」

「これは、すごい時間の節約なんだよ」と、商人が言った。

»Das ist eine große Zeitersparnis«, sagte der Händler.

《「主語」「動詞」「補語」》, 「動詞」「主語」

»Das ダス pron これは

「主語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i ～である

「動詞」

eine große Zeitersparnis«, アイン・グロセ・ツァイト・エア・シュパールニス

n.f.1 格 すごい時間の節約

「補語」

XXIII

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

der Händler. デア・ヘントラー n.m 商人が

「主語」

「専門家たちが複雑な計算をしたんだ」

»Die Sachverständigen haben Berechnungen angestellt.

《「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」》

»Die Sachverständigen デーイー・ザッハフェアシュテンディゲン pl.n.1 格 専門家たちが

「主語」

sachverständig ザッハフェアシュテンディヒ adj. 専門知識のある→ (複数名詞 1 格に活用)

haben ...angestellt. ハーベン...アンゲシュテルト 3 複現・完了形(an|stellen)

v.t (動作を) した

「動詞句」

Berechnungen ベレヒスンゲン pl.n.f.4 格 計算を

「目的語」

「1 週間について 53 分の節約になるんだ」

Man erspart dreiundfünfzig Minuten in der Woche.«

《「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」》

Man マン pron 人は

「主語」

erspart エアシュパート 3 単現(ersparen)v.t 蓄える、節約する

「動詞」

dreiundfünfzig Minuten ドライ・ウント・フュンフツィヒ・ミヌーテン pl.n.f.4 格 53 分を

「目的語」

in der Woche.« イン・デア・ウオッヘ adv. 1 週間で

「副詞句」

「それじゃあ、その 53 分で何をするの？」

»Und was macht man mit diesen dreiundfünfzig Minuten?»

《Und 「目的語」「動詞」「主語」「副詞句」》

»Und ウント conj. そして

was ヴァス pron 何を

「目的語」

macht マハト 3 単現(machen)v.t (動作を) する

「動詞」

man マン pron 人は

「主語」

mit diesen dreiundfünfzig Minuten?» ミット・デーイーゼン・ドライ・ウント・フュンフツィヒ・ミヌーテン

adv. (手段) その 53 分で

「副詞句」

「それを使って、したいことをするのさ」

»Man macht damit, was man will...«

《「主語」「動詞」「副詞」「目的語」》

»Man マン pron 人は

「主語」

macht マハト 3 単現(machen)v.t (動作を) する

「動詞」

damit, ダミット adv. (手段) それで

「副詞」

was ヴァス pron ～するものを

「目的語」

XXIV

man マン pron 人は 「主語」
will...« ヲィル 3 単現(wollen)v.t 望む、したい 「動詞」

「もし余った 53 分があれば」と、王子様が言った。「僕なら、実にゆっくりと泉のほうへ歩いて行くだろうな...」

»Wenn ich dreiundfünfzig Minuten übrig hätte«, sagte der kleine Prinz, »würde ich ganz gemächlich zu einem Brunnen laufen...«

《「副詞節」》, 「動詞」「主語」, 《「動詞句」「主語」「副詞句」》

»Wenn ヲェン conj. (仮定・条件) もし〜したら 「副詞節」

ich イヒ pron 僕が 「主語」

dreiundfünfzig Minuten ドライ・ウント・フュンツィヒ・ミヌーテン pl.n.f.4 格 53 分を 「目的語」

übrig ユーフリヒ adj. 余りの 「形容詞」

hätte«, ハッテ 接 II・1 単現・仮定(haben)v.t 持っている 「動詞」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」

der kleine Prinz, デア・クライン・プリンツ n.m 王子さまは 「主語」

»würde ...laufen...« ヲェルテ ...ラウフェン 接 II・1 単現・推量(werden+不定詞)

v.i 歩いていくだろう 「動詞句」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

ganz gemächlich ガンツ・ゲメヒリヒ adv. まったくゆっくりと 「副詞句」

zu einem Brunnen ツー・アイネン・ブルネン adv. 泉のほうへ 「副詞句」

XXIV

砂漠での故障から 1 週間目になっていた。僕が水の蓄えの最後の一滴を飲んだ時、他ならぬ丸薬売りのあの話が聞こえた。

Es war am achten Tag nach meiner Panne in der Wüste, und ich hörte gerade die Geschichte vom Pillenverkäufer, als ich den letzten Tropfen meines Wasservorrats trank.

「主語」「動詞」「副詞句」, und 「主語」「動詞」「目的語」「副詞節」

Es エス pron (時間) それは 「主語」

war ヲァール 3 単過(sein)v.i ~ だった 「動詞」

am achten Tag アム・アハテン・ターク adv. (時点) 1 週間目に、8 日目 「副詞句」

最初の日を 1 日目として、1 週間目は 8 日目である

nach meiner Panne ナー・マイナー・パネ adv. (時間) 故障から 「副詞句」

in der Wüste, イン・デア・ヲェステ adv. 砂漠での 「副詞句」

und ウント conj. そして

ich イヒ pron 僕は 「主語」

XXIV

hörte ホアテ 1 単過(hören)v.t 聞こえた	「動詞」
gerade die Geschichte ゲラーデ・デー・ゲシヒテ n.f 他ならぬ話が	「目的語」
gerade ゲラーデ adj. まっすぐな, adv. 他ならぬ	
vom Pillenverkäufer, フォム・ピレン・フェアコイファー adv. 丸薬売りの	「副詞句」
als アルス conj. ～するとき	「副詞節」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
den letzten Tropfen テン・レッツテン・トロップ フェン n.m.4 格 最後の一滴を	「目的語」
meines Wasservorrats マイネス・ヴァッサー・フォーアラツ	
n.m.2 格 水の蓄えの	「形容詞句」
trank. トランク 1 単過(trinken)v.t 飲んだ	「動詞」

「ああ！」と、僕は王子様に言った。「君の思い出はまったく素敵だね。だけど、僕はまだ飛行機の修理をしていないし、飲み水もう無くなったから、もし僕も実にゆっくりと井戸のほうへ行けたらどんなに幸せだろう」

»Ach«, sagte ich zum kleinen Prinzen, »deine Erinnerungen sind ganz hübsch, aber ich habe mein Flugzeug noch nicht repariert, habe nichts mehr zu trinken und wäre glücklich, wenn ich auch ganz gemächlich zu einem Brunnen gehen könnte!«

《「感嘆」》, 「動詞」「主語」「間接目的語」,

《「主語」「動詞」「補語」, aber 「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」, 「動詞」「目的語」 und 「動詞」「補語」「副詞節」》

»Ach«, アッハ int. ああ	「感嘆」
sagte サークテ 1 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
zum kleinen Prinzen, ツム・クライン・プリンツ adv. 王子様に	「間接目的語」
»deine Erinnerungen ダイネ・エアネルンゲン pl.n.f.1 格 君の思い出は	「主語」
sind シント 3 複現(sein)v.i ～である	「動詞」
ganz hübsch, ガンツ・ヒュプシュ adj. まったく素敵な	「補語」
aber アーバー conj. しかし	
ich イヒ pron 僕は	「主語」
habe ...noch nicht repariert, ハーベ ...ノッホ・ニヒト・レパ リート 1 単現・完了形・否定(reparieren)	
v.t まだ修理していない	「動詞句」
mein Flugzeug マイン・フルークツォイク n.m.4 格 僕の飛行機を	「目的語」
habe ハーベ 1 単現(haben)v.t 持っている	「動詞」
nichts ニヒツ pron 何も～ない	「目的語」
mehr メア adv. (否定文で) もはや、もう	「副詞」
zu trinken ツー・トリンケン adj. (目的) 飲むべき	「形容詞句」

XXIV

und ウント conj. そして

wäre ヲェレ 接 II・1 単現・推量(sein)v.i ~だろう

「動詞」

glücklich, グリュックリヒ adj. 幸せな

「補語」

wenn ヲェン conj. (条件) もしも～ならば

「副詞節」

ich auch イヒ・アフ pron 僕もまた

「主語」

ganz gemächlich ガンツ・ゲメヒリヒ adv. まったくゆつくりと

「副詞句」

zu einem Brunnen ツー・アイネム・ブルネン adv. 井戸へ

「間接目的語」

gehen könnte!« ケーエン・ケンテ 接 II・1 単現・可能・仮定(können+不定詞)

v.i 行くことができたら

「動詞句」

「僕の友達のキツネが」と、彼は言った。

»Mein Freund, der Fuchs«, sagte er...

《「主語」, 「動詞」 「主語」

»Mein Freund, マイン・フロイント n.m.1 格 僕の友達が

「主語」

der Fuchs«, デア・フクス n.m.1 格 キツネが

「主語」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

er... エア pron 彼は

「主語」

「ねえ、坊や、もうキツネどころの問題ではないよ」

»Mein kleiner Mann, es geht gar nicht mehr um den Fuchs!«

《「呼びかけ」, 「動詞句」 「副詞句」》

»Mein kleiner Mann, マイン・クライナー・マン n.m.1 格 ねえ、坊や

「呼びかけ」

es geht エス・ゲート 非人称・3 単現(es gehen um et-4)v.h 何-4 の問題だ

「動詞句」

gar nicht mehr ガール・ニヒト・メア adv. もはやまったく～でない

「副詞句」

um den Fuchs!« ウム・デン・フクス adv. キツネの

「間接目的語」

es geht um et-4 「何-4 が問題だ、何-4 が重要だ」

「どうして？」

»Warum?«

《「質問」》

»Warum?« ヲァールム adv. (強調) adv. どうして？

「質問」

warum ヲァールム adv. (疑問) なぜ、どうして

「喉が渇きすぎたら、死んでしまうからさ...」

»Weil jemand vor Durst sterben wird...«

《Weil 「主語」 「副詞句」 「動詞句」》

»Weil ヲァイル conj. (理由) ~だから

jemand イェーメント pron 誰でも

「主語」

vor Durst フォーア・トウアスト adv. のどの渇きのあまり

「副詞句」

XXIV

sterben wird...« シュテアベン・ウァルト 3 単未・推量(werden+不定詞 sterben)

v.i 死んでしまうだろう

「動詞句」

彼は僕の言葉が理解できずに、答えた・

Er verstand meinen Einwand nicht, er antwortete:

「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」, 「主語」「動詞」:

Er エア pron 王子さまは

「主語」

verstand ...nicht, フェアシュタント...ニヒト 3 単過・否定(verstehen)v.t 理解できなかった「動詞句」

meinen Einwand マイネン・アインヴァント n.m.4 格 僕の異論を

「目的語」

er エア pron 彼は

「主語」

antwortete: アントワゝテ 3 単過(antworten)v.i 答えた

「動詞」

「人は、たとえ死ななければならない時でも、友達を持てたということはいいことだよ。僕自身は、キツネを友達として持つことが出来たのだから、幸せだよ」

»Es ist gut, einen Freund gehabt zu haben, selbst wenn man sterben muss. Ich bin froh, dass ich einen Fuchs zum Freunde hatte...«

《「動詞」「補語」「主語」, 「副詞節」 | 「主語」「動詞」「補語」, 「副詞句」》

»Es エス pron 仮の主語 (真の主語は einen Freund gehabt zu haben)

ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である

「動詞」

gut, グート adj. よい

「補語」

zu 不定句 n. ~ということは

「主語」

einen Freund アイネン・フロイント n.m.4 格 友達を

「目的語」

gehabt zu haben, ゲハプト・ツァー・ハーベン zu 不定句・完了形(haben)v.t 持った「動詞句」

selbst wenn ゼルプスト・ヴェン conj. (譲歩) ~する時であっても

「副詞節」

man マン pron 人が

「主語」

sterben muss. シュテアベン・ムス 3 単現・必要(müssen+不定詞 sterben)

v.i 死ななければならない

「動詞句」

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

bin ビン 1 単現(sein)v.i ~である

「動詞」

froh, フロー adj. うれしい、喜ばしい

「補語」

dass ダス conj. (理由) ~だから

「副詞節」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

einen Fuchs アイネン・フクス n.m.4 格 キツネを

「目的語」

zum Freunde ツーム・フロインテ adv. (目的) 友達として

「補語」

hatte...« ハッテ 1 単過(haben)v.t 持った

「動詞」

XXIV

《彼は危険を判断することが出来ないのだ》と、僕は心の中で思った。

Er kann die Gefahr nicht ermessen, sagte ich mir.

「主語」「動詞句」「目的語」, 「動詞」「主語」「間接目的語」

Er エア pron 彼は

「主語」

kann ...nicht ermessen, カン...ニヒト・エアメッセン 3 単現・可能・否定(können+不定詞 ermessen)

v.t 判断することが出来ない

「動詞句」

die Gefahr デーイー・ゲファール n.f 危険を

「目的語」

sagte サークテ 1 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

mir. ミア pron.3 格 自分自身に

「間接目的語」

彼には、飢えも、渇きもないんだ。彼には、わずかな太陽があれば十分なんだ。

Er hat nie Hunger, nie Durst. Ein bisschen Sonne genügt ihm...

「主語」「動詞」「目的語」 | 「主語」「動詞」「間接目的語」

Er エア pron 彼は

「主語」

hat ハット 3 単現(haben)v.t 〜がある

「動詞」

nie Hunger, ニー・フンガー n.m (否定の連続) 飢えも〜ない

「目的語」

nie Durst. ニー・トヴァスト n.m (否定の連続) 渇きも〜ない

「目的語」

Ein bisschen アイン・ビスヒェン adj. わずかな

「形容詞句」

Sonne ソネ n.f 太陽が

「主語」

genügt ゲニユクト 3 単現(genügen)v.i 十分である

「動詞」

ihm... イム pron.3 格 彼にとって

「間接目的語」

しかし彼はじっと僕を見つめてから、僕が考えていることに対して答えた。

Aber er sah mich an und antwortete auf meine Gedanken:

Aber 「主語」「動詞句」「目的語」 und 「動詞」「副詞句」

Aber アーバー conj. しかし

er エア pron 彼は

「主語」

sah ...an サー...アン 3 単過(an|sehen)v.t じっと見つめた

「動詞句」

mich ミヒ pron 僕を

「目的語」

und ウント conj. そして

antwortete アントヴァテ 3 単過(antworten)v.i 答えた

「動詞」

auf meine Gedanken: アウフ・マイネ・ゲダanken adv. 僕が考えていることに対して

「副詞句」

XXIV

「僕も喉が渴いたよ... 井戸を探しに行こうよ...」

»Ich habe auch Durst... suchen wir einen Brunnen...«

《「主語」「動詞」「副詞」「目的語」 | 「動詞」「主語」「目的語」》

»Ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 habe ハーベ 1 単現(haben)v.t 〜がある 「動詞」
 auch アウフ adv. 〜も 「副詞」
 Durst... ドゥールスト n.m 喉の渴き 「目的語」
 suchen スーヘン 1 複現・勧誘 v.t 〜を探そう 「動詞」
 wir ヴィーア pron 僕たちは 「主語」
 einen Brunnen...« アイネン・ブルネン n.m.4 格 井戸を 「目的語」

僕は身振りで絶望感を伝えた；無限に広がる砂漠の中で、運を天に任せて井戸を探すなんてことは馬鹿げている。

Ich machte eine Gebärde der Hoffnungslosigkeit; es ist sinnlos, auf gut Glück in der Endlosigkeit der Wüste einen Brunnen zu suchen.

「主語」「動詞」「目的語」；「動詞」「補語」「主語」

Ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 machte マハテ 1 単過(machen)v.t (動作を) した 「動詞」
 eine Gebärde アイネ・ゲバーデ n.f.4 格 身振り、手ぶり 「目的語」
 der Hoffnungslosigkeit; デア・ホフスングスローツィヒカイト n.f.2 格 絶望の 「形容詞句」
 es エス pron 仮の主語（真の主語は auf gut Glück 以降の zu 不定句）
 ist イスト 3 単現(sein)v.i 〜である 「動詞」
 sinnlos, シンロース adj. 無意味な、意味のない 「補語」
 auf gut Glück アウフ・グート・グリュック adv. 運を天に任せて 「副詞句」
 in der Endlosigkeit イン・デア・エンドロースィヒカイト adv. 無限の中を 「副詞句」
 der Wüste デア・ウェステ n.f.2 格 砂漠の 「形容詞句」
 einen Brunnen アイネン・ブルネン n.m.4 格 井戸を 「目的語」
 zu suchen. ツー・スーヘン zu 不定詞 n. 探すことは 「主語」

それでも僕たちは、出発した。

Dennoch machten wir uns auf den Weg. 「副詞」「動詞句」「主語」「動詞句」「副詞句」

Dennoch デノホ adv. それでも 「副詞」

machten ...uns マヘン...ウンズ 1 複過(sich-4 ...machen)

v.pr (方向を示す語句と) 出発した 「動詞句」

wir ヴィーア pron 僕たちは 「主語」

auf den Weg. アウフ・デーン・ヴェーク adv. 道に向かって 「副詞句」

XXIV

僕たちが何時間も黙り込んで歩いていると、急に日が暮れて、星たちが輝きだした。

Als wir stundenlang schweigend dahingezogen waren, brach die Nacht herein, und die Sterne begannen zu leuchten.

「副詞節」, 「動詞句」 「主語」 「動詞句」, und 「主語」 「動詞句」
 Als アルス conj. ～した時、～すると 「副詞節」
 wir ヱーア pron 僕たちが 「主語」
 stundenlang シュトゥンデンラング adv. 何時間も 「副詞」
 schweigend シュヴァイゲント 現在分詞(schweigen)adv. 黙って 「副詞」
 dahingezogen waren, ダヒンゲツォーゲン・ヴァレン 3 複過・完了形(dahin | ziehen)
 v.i 進んで行った 「動詞句」
 brach ...herein, ブラーハ...ヘライン 3 単過(herein | brechen)
 v.i (夜が突然) 始まった、(日が) 暮れた 「動詞句」
 die Nacht デー・ナハト n.f 夜が 「主語」
 und ウント conj. そして
 die Sterne デー・シュターネ pl.n.m 星たちが 「主語」
 begannen zu leuchten. ベカネン・ツウ・ロイヒテン 3 複過・開始(beginnen zu+不定詞 leuchten)
 v.i 輝き始めた 「動詞句」

僕は夢の中にいるように星を見た。喉の渇きのせいで、僕は少し熱っぽかった。

Ich sah sie wie im Traum. Ich hatte ein wenig Fieber vor Durst.

「主語」 「動詞」 「目的語」 「副詞句」 | 「主語」 「動詞」 「目的語」 「副詞句」
 Ich イヒ pron 僕は 「主語」
 sah サー 1 単過(sehen)v.t 見た 「動詞」
 sie ジー pron.pl (性の区別なし) (Sterne の代用) それらを 「目的語」
 wie ヱー conj. ～のように 「副詞句」
 im Traum. イム・トラウム adv. 夢の中 「副詞句」
 Ich イヒ pron 僕は 「主語」
 hatte ハッテ 1 単過(haben)v.t ～があった 「動詞」
 ein wenig Fieber アイン・ヴェニグ・フィーバー n.n.4 格 多少の熱が 「目的語」
 vor Durst. フォー・ドゥルスト adv. (原因) のどの渇きのせいで 「副詞句」

王子様の言葉が僕の意識を突き抜けて踊っていた。

Die Worte des kleinen Prinzen tanzten durch mein Bewusstsein.

「主語」 「動詞」 「副詞句」
 Die Worte デー・ヴォアテ pl.n.n.1 格(Wort) 言葉が 「主語」

XXIV

Wort ([複]Wörter; まれに Worte)

des kleinen Prinzen	デス・クライネ・プリンツェン n.m.2 格 王子様の	「形容詞句」
tanzten	タンツェン 3 複過(tanzen)v.i 踊っていた	「動詞」
durch	ドゥルヒ prep (4 格と) (仲介) ～を通して	「副詞句」
mein Bewusstsein.	マイン・ベウストザイン n.n.4 格 僕の意識、記憶	「目的語」

「それじゃあ、君も喉が渴いたんだね？」と、僕は彼に尋ねた。

»Du hast also auch Durst?« fragte ich ihn.

《「主語」「動詞」「副詞句」「目的語」》, 「動詞」「主語」「間接目的語」

»Du	ドゥ pron 君は	「主語」
hast	ハスト 2 単現(haben)v.t ～がある	「動詞」
also	アルゾー adv. それじゃあ	「副詞」
auch	アウフ adv. ～も	「副詞」
Durst?	ドゥルスト n.m.4 格 喉の渇きが	「目的語」
fragte	フラーケ 1 単過(fragen)v.t 尋ねた	「動詞」
ich	イチ pron 僕は	「主語」
ihn.	イン pron 彼に	「間接目的語」

彼は僕の質問には答えず、言葉少なく、こう言った：

Er antwortete nicht auf meine Frage. Er sagte einfach:

「主語」「動詞句」「副詞句」 | 「主語」「動詞」「副詞」

Er	エア pron 彼は	「主語」
antwortete nicht	アントヴェ・ワテ・ニヒト 3 単過・否定(antworten)v.i 答えなかった	「動詞句」
auf meine Frage.	アウフ・マイネ・フラーゲ adv. (対応) 僕の質問に対して	「副詞句」
Er	エア pron 彼は	「主語」
sagte	ザーケ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
einfach:	アインファッハ adv. 簡単に、飾り気なく	「副詞」

「水は、心にとっても良いのかもしれない…」

»Wasser kann auch gut sein für das Herz...«

《「主語」「動詞句」「補語」》

»Wasser	ヴァッサー n.n 水は	「主語」
kann ...sein	カン...ザイン 3 単現・可能性(können+sein)v.i ～であるかもしれない	「動詞句」
auch gut	アウフ・グート adj. ～も良い	「補語」
für das Herz...	フュア・ダス・ヘアツ adv. (関連) 心にとって	「副詞句」

XXIV

僕は彼の言葉が理解できなかったが、黙り込んだ...

Ich verstand seine Worte nicht, aber ich schwieg...

「主語」「動詞句」「目的語」, aber 「主語」「動詞」

Ich イッヒ pron 私は

「主語」

verstand ...nicht, フェアシュタント...ニヒト 1 単過・否定(verstehen)v.t 理解できなかった「動詞句」

seine Worte ザイネ・ウテ pl.n.n.4 格 彼の言葉を

「目的語」

aber アーバー conj. しかし

ich イッヒ pron 私は

「主語」

schwieg... シュウィーク 1 単過(schweigen)v.i 黙った

「動詞」

彼に尋ねてはいけないということはよく分かっていたから。

Ich wusste gut, dass man ihn nicht fragen durfte.

「主語」「動詞」「副詞」「目的語」

Ich イッヒ pron 私は

「主語」

wusste ウステ 1 単過(wissen)v.t 知っていた

「動詞」

gut, グート adv. (程度) 良く、十分に

「副詞」

dass ダス conj. ～ということを

「目的語」

man マン pron 誰でも

「主語」

ihn イン pron.4 格 彼に

「目的語」

nicht fragen durfte. ニヒト・フラーゲン・ドゥアルフテ 3 単過・禁止・時制の一致

v.t 尋ねてはならない

「動詞句」

彼は疲れていた。腰を下ろした。僕は彼の隣に腰を下ろした。それからしばらく沈黙が続いてから、彼はさらに言った。

Er war müde. Er setzte sich. Ich setzte mich neben ihn. Und nach einem Schweigen sagte er noch:

「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞句」 | 「主語」「動詞」「副詞句」

Und 「副詞句」「動詞」「主語」「副詞」

Er エア pron 彼は

「主語」

war ウァール 3 単過(sein)v.i ～ だった

「動詞」

müde. ミューデ adj. 疲れた

「補語」

Er エア pron 彼は

「主語」

setzte sich. セッツテ・スィッヒ 3 単過(sich-4 setzen)v.pr 腰を下ろした

「動詞句」

Ich イッヒ pron 私は

「主語」

setzte mich セッツテ・ミッヒ 1 単過(sich-4 setzen)v.pr 腰を下ろした

「動詞句」

neben ネベン prep (3 格または 4 格と) ～の隣に

「副詞句」

ihn. イン pron.4 格 (移動) 彼

「目的語」

Und ウント conj. そして

XXIV

nach ナハ prep (3格4格と) (時間的に) ~の後で	「副詞句」
einem Schweigen アイネ・シュヴァイゲン n.n.3格 沈黙	「目的語」
sagte サークテ 3単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
er エア pron 彼は	「主語」
noch: ノッホ adv. さらに、また	「副詞」

「星たちは美しいね。見えない花を思い出させてくれるから」

»Die Sterne sind schön, weil sie an eine Blume erinnern, die man nicht sieht...«

《「主語」「動詞」「補語」「副詞節」》

»Die Sterne デー・イー・シュテアネ pl.n.m(Stern).1格 星たちは	「主語」
sind シント 3複現(sein)v.i ~である	「動詞」
schön, シェーン adj. 美しい	「補語」
weil ヴァイル conj. (理由) ~なので	「副詞節」
sie ジー pron.pl 彼らは	「主語」
an eine Blume アン・アイネ・ブルーメ adv. ある花のことを	「間接目的語」
erinnern, エアネン 3複現 v.t(j-4 an et-4) (人-4に何-4を) 思い出させる	「動詞」
die デー・イー pron (目的語) ~する	「形容詞節」
man マン pron 人は	「主語」
nicht sieht...« ニヒト・ズィート 3単現・否定(sehen)	
v.t 見えない	「動詞句」

僕は答えた：「そうだね」それから黙って、月の光に照らされた砂のしわをじっと眺めた。

Ich antwortete: »Gewiss« und betrachtete schweigend die Falten des Sandes unter dem Mond.

「主語」「動詞」：《「応答」》und 「動詞」「副詞」「目的語」

Ich イット pron 僕は	「主語」
antwortete: アントワラテ 1単過(antworten)v.i 答えた	「動詞」
»Gewiss« ゲビス adj. 確かな「補語」	「応答」
und ウント conj. そして	
betrachtete ベトラハテ 1単過(betrachten)v.t じっと見つめた、眺めた	「動詞」
schweigend シュヴァイгент 現在分詞(schweigen)adv. 黙って	「副詞」
die Falten デー・イー・ファルテン pl.n.f(Falte).4格 しわを	「目的語」
des Sandes デス・ザンデス n.m(Sande).2格 砂の	「形容詞句」
unter ウンター prep (3格または4格と) (空間的) ~の下の	「副詞句」
dem Mond. デーム・モント n.m.3格 (静止) 月	「目的語」

XXIV

「砂漠は美しいね」と、彼は付け加えた。

»Die Wüste ist schön«, fügte er hinzu...

《「主語」「動詞」「補語」》, 「動詞句」「主語」「動詞句」

»Die Wüste ティー・ヴェステ n.f 砂漠は

「主語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i 〜である

「動詞」

schön«, シェン adj. 美しい

「補語」

fügte ...hinzu... フークテ...ヒンツ 3 単過(hinzu|fügen)v.t 付け加えた

「動詞句」

er エア pron 彼は

「主語」

そしてそれは本当だった。僕はずっと砂漠が好きだった。

Und das war wahr. Ich habe die Wüste immer geliebt.

Und 「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞句」「目的語」「副詞」「動詞句」

Und ウント conj. そして

das ダス pron それは

「主語」

war ヴァール 3 単過(sein)v.i 〜 だった

「動詞」

wahr. ヴァール adj. 本当の、事実の

「補語」

Ich イット pron 僕は

「主語」

habe ...geliebt. ハーベ...ゲリープト 1 単現・完了形(lieben)v.t 好きだった

「動詞句」

die Wüste ティー・ヴェステ n.f.4 格 砂漠を

「目的語」

immer イマー adv. いつも、たえず、ずっと

「副詞」

僕は砂丘の上に腰を下ろす。何も見えない。何も聞こえない。

Man setzt sich auf eine Sanddüne. Man sieht nichts. Man hört nichts.

「主語」「動詞句」「副詞句」 | 「主語」「動詞」「目的語」 | 「主語」「動詞」「目的語」

Man マン pron (1 人称 ich, wir の代用として) 僕は

「主語」

setzt sich ゼット・スイット 3 単現(sich+4 setzen)v.pr 腰を下ろす

「動詞句」

auf eine Sanddüne. アウフ・アイネ・ザント・ドュネ adv. 砂丘の上に

「副詞句」

Sanddüne ザント・ドュネ → Sand 砂 + Düne 砂丘

Man マン pron (1 人称 ich, wir の代用として) 僕は

「主語」

sieht シート 3 単現(sehen)v.t 見える

「動詞」

nichts. ニッツ pron 何も〜ない

「目的語」

Man マン pron (1 人称 ich, wir の代用として) 僕は

「主語」

hört ヘート 3 単現(hören)v.t 聞こえる

「動詞」

nichts. ニッツ pron 何も〜ない

「目的語」

XXIV

それなのに、何かが静けさの中で光り輝いている。

Und währenddessen strahlt etwas in der Stille. Und 「副詞」「動詞」「主語」「副詞句」

Und ウント conj. そして

währenddessen ヴェーレントデッセン adv. (während+dessen2 格) それなのに 「副詞」

strahlt ショトラルト 3 単現(strahlen)v.i 光り輝いている 「動詞」

etwas エトヴァス pron 何かが 「主語」

in der Stille. イン・デア・シュティレ adv. 静けさの中に、黙って、密かに 「副詞句」

「それが砂漠を美してしているんだ」と、王子さまは言った。「砂漠がどこかに井戸を隠しているってことだよ」

»Es macht die Wüste schön«, sagt der kleine Prinz, »dass sie irgendwo einen Brunnen birgt.«
《「主語」「動詞」「目的語」「補語」》, 「動詞」「主語」, 《「主語」》

»Es エス pron 仮の主語（真の主語は dass 以降）それが 「主語」

macht マハト 3 単現(machen)v.t (様態) ～にしている 「動詞」

die Wüste デーイー・グェーステ n.f.4 格 砂漠を 「目的語」

schön«, シェーン adj. 美しい 「補語」

sagt サークト 3 単現(sagen)v.t 言う 「動詞」

der kleine Prinz, デア・クライン・プリンツ n.m 王子さまは 「主語」

»dass ダス conj. ～ということが 「主語」

sie シー pron.f(Wüste の代用) 砂漠が 「主語」

irgendwo イルゲントウオー adv. どこかに 「副詞」

einen Brunnen アイネン・ブルネン n.m 井戸を 「目的語」

birgt.« ビアクト 3 単現(bergen)v.t 隠している 「動詞」

僕は、砂の神秘的な明かりについて、突然分かったので驚いた。

Ich war überrascht, dieses geheimnisvolle Leuchten des Sandes plötzlich zu verstehen.

「主語」「動詞」「補語」, 「副詞句」

Ich イヒ pron 僕は 「主語」

war ヴァール 1 単過(sein)v.i ～ だった 「動詞」

überrascht, ユーバーラシュト adj. 驚いた 「補語」

dieses geheimnisvolle Leuchten デーイーセース・ゲハイムニスフォル・ロイヒテン

pl.n.f.4 格 神秘的な明かりを～したので 「副詞句」

geheimnisvoll ゲハイムニスフォル adj. 神秘的な Leuchten ロイヒテン pl.n.f 明かり

des Sandes デース・ザンデス pl.n.m(Sand).2 格 砂の 「形容詞句」

plötzlich プレツツヒ adv. 突然 「副詞」

zu verstehen. ツー・フェアシュテェン zu 不定詞・理由 v.t 理解する、分かる 「動詞句」

XXIV

注意：

dieses geheimnisvolle Leuchten の性・数・格が不明確

dieses は n.m.2 格、n.n.(1・2・4 格)で、pl.n.f.4 格は diese となる

少年だったころ、僕は古い家に住んでいたが、言い伝えによると、その家には宝物が隠されているということだった。

Als ich ein kleiner Junge war, wohnte ich in einem alten Haus, und die Sage erzählte, dass darin ein Schatz versteckt sei.

「副詞節」, 「動詞」 「主語」 「副詞句」, und 「主語」 「動詞」 「目的語」

Als アルス conj. ～したとき

「副詞節」

ich イヒ pron 僕が

「主語」

ein kleiner Junge アイン・クライナー・ユンゲ n.m.1 格 小さい少年

「補語」

war, ヴァール 1 単過(sein)v.i ～ だった

「動詞」

wohnte ヴォンテ 1 単過(wohnen)v.i 住んでいた

「動詞」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

in einem alten Haus, イン・アイネム・アルテン・ハウス adv. 古い家に

「副詞句」

und ウント conj. そして

die Sage テー・サーゲ n.f 噂は

「主語」

erzählte, エアツェルテ 3 単過(erzählen)v.t 伝えている

「動詞」

dass ダス conj. ～ということ

「目的語」

darin ダリン adv. 家の中に

「副詞」

ein Schatz アイン・シャッツ n.m 宝が

「主語」

versteckt フェアシュテクト adj. 隠された

「補語」

sei. ザイ 接 I・3 単現・伝達(sein)v.i ～である

「動詞」

実際には、誰もその宝物を見つけられなかったのだが、もしかすると、誰もそれを探そうとしなかったのかもしれない。

Gewiss, es hat ihn nie jemand zu entdecken vermocht, vielleicht hat ihn nie jemand gesucht.

「副詞」, 「動詞句」 「目的語」 「主語」 「動詞句」,

「副詞」 「動詞句」 「目的語」 「主語」 「動詞句」

Gewiss, ケウイス adv. 実際には

「副詞」

es エス pron 非人称

hat ...zu entdecken vermocht, ハット...ツァー・エントデッケン・フェアモヒト 3 単現・完了形・可能・否定

(vermögen+不定詞)v.t 見つけることができなかった

「動詞句」

ihn イン pron それを

「目的語」

nie jemand ニー・イエマント pron 誰も～ない

「主語」

注意：

XXIV

vielleicht フライヒト adv. ことによると	「副詞」
hat ...gesucht. ハット...ゲズフト 3 単現・完了形(suchen)v.t 探そうとした	「動詞句」
ihn イン pron それを	「目的語」
nie jemand ニー・イエマント pron 誰も～ない	「主語」

しかしその宝物が家全体に魔法をかけていた。僕の家は、その心臓部の下に 1 つの秘密を隠していた...

Aber er verzauberte dieses ganze Haus. Mein Haus barg ein Geheimnis auf dem Grunde seines Herzens... Aber 「主語」「動詞」「目的語」 | 「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」

Aber アーバー conj. しかし

er エア pron(Schatz の代用) その宝物が 「主語」

verzauberte フェアツァウバエテ 3 単過(verzaubern)v.t 魔法をかけていた 「動詞」

dieses ganze Haus. デーゼス・ガントツェ・ハウス n.m.4 格 その家全体に 「目的語」

Mein Haus マイン・ハウス n.m 僕の家は 「主語」

barg バーク 3 単過(bergen)v.t 隠していた 「動詞」

ein Geheimnis アイン・ゲハイムニス n.n.4 格 1 つの秘密を 「目的語」

auf dem Grunde アウフ・デーム・グルンデ adv. 土台に 「副詞句」

seines Herzens... サイネス・ヘアツェンス n.n.2 格 心臓の 「形容詞句」

「そうだよ」と、僕は王子様に言った。「家でも、星でも、砂漠でも、それらの美しさを作り出しているものは、目には見えないんだよ」

»Ja«, sagte ich zum kleinen Prinzen, »ob es sich um das Haus, um die Sterne oder um die Wüste handelt, was ihre Schönheit ausmacht, ist unsichtbar!«

《「応答」》, 「動詞」「主語」「間接目的語」, 《「副詞節」》, 「主語」「動詞」「補語」》

»Ja«, ヤー adv. (同意) そうだよ 「応答」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

zum kleinen Prinzen, ツーム・クライン・フリンツェン adv. (対象) 王子様に 「間接目的語」

»ob オッブ conj. (ob...ob/oder...) ～であろうと (... であろうと) 「副詞節」

es sich ...handelt, エス・スィヒ...ハントルト 3 単現(es handelt sich-4 um et-4)

v.pr (何-4 の) 問題である 「動詞句」

um das Haus, um die Sterne oder um die Wüste

ウム・ダス・ハウス・ウム・デー・シュテアネ・オーダー・ウム・デー・ワユステ

adv. 家や星や砂漠 「間接目的語」

was ヴァス pron (先行詞なし) ～するものは 「主語」

ihre Schönheit イレ・シェンハイト n.f それらの美しさを 「目的語」

XXIV

ausmacht, アウス・マハト 3 単現(aus machen)v.t 構成している	「動詞」
ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である	「動詞」
unsichtbar!« ウンズィヒトバール adj. 目に見えない	「補語」

「僕は嬉しいよ」と、王子さまは言った。「君が僕のキツネと同じ意見だから」

»Ich bin froh«, sagte er, »dass du mit meinem Fuchs übereinstimmst.«	《「主語」「動詞」「補語」》, 「動詞」「主語」, 《「副詞節」》
»Ich イヒ pron 僕は	「主語」
bin ビン 1 単現(sein)v.i ~である	「動詞」
froh«, フロー adj. 嬉しい	「補語」
sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
er, エア pron 彼は	「主語」
»dass ダス conj. (理由) ~なので	「副詞節」
du トゥー pron 君が	「主語」
mit meinem Fuchs ミット・マイネム・フクス adv. 僕のキツネと	「副詞句」
übereinstimmst.« ユーバーライン・シュティムスト 2 単現(überein stimmen)	
v.i(mit j-3 人-3 と) 意見が一致している	「動詞句」

王子様が眠り込んでしまったので、僕は彼を両腕でかかえて、また歩き始めた。

Da der kleine Prinz einschlief, nahm ich ihn in meine Arme und machte mich wieder auf den Weg.	「副詞節」, 「動詞」「主語」「目的語」「副詞句」 und 「動詞句」「副詞句」
Da ダー conj. (理由) ~なので	「副詞節」
der kleine Prinz テア・クライン・プリンツ n.m 王子様が	「主語」
einschlief, アイン・シーフ 3 単過(ein schlafen)v.i 眠り込んでいた	「動詞句」
nahm ナム 1 単過(nehmen)v.t 手に取った、つかんだ	「動詞」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
ihn イン pron.m.4 格 彼を	「目的語」
in meine Arme イン・マイネ・アルメ adv.(Arm の[複]) 両腕で	「副詞句」
und ウント conj. そして	
machte mich マハテ・ミヒ 1 単過(sich-4 machen)	
v.pr (方向を示す語句と) ~に向かった	「動詞句」
wieder ヴァーダー adv. また、ふたたび	「副詞」
auf den Weg. アウフ・デーン・ヴェーク adv. 道に	「副詞句」
sich-4 auf den Weg machen 「出発する」	

XXIV

僕は感動した。僕にとっては、壊れやすい宝物を運ぶようなものだった。

Ich war bewegt. Mir war, als trüge ich ein zerbrechliches Kleinod.

「主語」「動詞」「補語」 | 「間接目的語」「動詞」「補語」

Ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 war ヲアール 1 単過(sein)v.i ~ だった 「動詞」
 bewegt. ベウエクト adj. 感動した 「補語」
 Mir ミア pron 僕にとって 「間接目的語」
 war, ヲアール 1 単過(sein)v.i ~ だった 「動詞」
 als アルス conj. ~のような 「補語」
 trüge トルゲ 接 II・1 単現・推量(tragen)v.t 運んでいる 「動詞」
 ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 ein zerbrechliches Kleinod. アイン・ツェアブレヒヒェス・クラインオット
 n.n.4 格 壊れやすい宝物を 「目的語」

それは、僕にとっては、地球上でこれ以上壊れやすいものは何もないだろうとさえ思われる
 ほど輝いていた。

Es schien mir sogar, als gäbe es nichts Zerbrechlicheres auf der Erde.

「主語」「動詞」「間接目的語」「補語」

Es エス pron それは 「主語」
 schien シーン 3 単過(scheinen)v.i 輝いていた 「動詞」
 mir ミア pron 僕にとって 「間接目的語」
 sogar, ゴガール adv. ~すら、さえ 「副詞」
 als アルス conj. ~のような 「補語」
 gäbe es ゲーベ・エス 非人称・接 II・3 単現・推量(es geben et-4 何-4 が)
 v.h 存在するだろう 「動詞句」
 nichts ニヒツ pron.4 格 何も~なに 「主語」
 Zerbrechlicheres ツェアブレヒヒェレス adj. (比較) もっと壊れやすい 「形容詞」
 auf der Erde. アウフ・デア・エアーデ adv. 地球上で 「副詞」

僕は、月明りの下で、彼の青白い額や、閉じられた目や、風になびいている髪の毛を見つめて、心の中で思った：

Ich betrachtete im Mondlicht diese blasse Stirn, diese geschlossenen Augen, diese im Winde zitternde Haarsträhne, und ich sagte mir:

「主語」「動詞」「副詞句」「目的語」,und「主語」「動詞句」

Ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 betrachtete ベトラハテテ 1 単過(betrachten)v.t じっと見つめた、観察した 「動詞」

XXIV

im Mondlicht イム・モントリヒト adv. (方法・手段) 月明りで 「副詞句」
 diese blasse Stirn, ディーセ・ブラッセ・シュティアン n.f.4 格 その青白い額を 「目的語」
 blasse ブラッセ adj.f.4 格(blass) 青白い Stirn シュティアン n.f 額
 diese geschlossenen Augen, ディーセ・ゲシュロッセネ・アウゲン pl.n.n.4 格 閉じた目を 「目的語」
 geschlossenen ゲシュロッセネ adj.pl.4 格(geschlossen) 閉じた Augen アウゲン pl.n.n(Auge) 目
 diese ディーセ adj. あの 「形容詞」
 im Winde イム・ウインデ adv. 風の中で 「副詞句」
 zitternde ツィテルンデ 現在分詞・同時(zittern)adj. 震えている、ゆらめく 「形容詞」
 Haarsträhne, ハー・シュトレーネ n.f 髪の毛を 「目的語」
 und ウント conj. そして
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 sagte mir: サークテ・ミーア 1 単過(sich-3 sagen)v.pr 心の中でも思った 「動詞句」

《僕がそこに見ているものは、みてくれに過ぎない。本当の姿は目には見えないんだ》

Was ich da sehe, ist nur eine Hülle. Das Eigentliche ist unsichtbar...

“「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞」「補語」”

Was ウァス pron (先行詞なしで) ～するものは 「主語」
 ich イヒ pron 僕が 「主語」
 da ダー adv. そこに 「副詞」
 sehe, セーエ 1 単現(sehen)v.t 見ている 「動詞」
 ist イスト 3 単現(sein)v.i ～である 「動詞」
 nur ヌーア adv. ～にすぎない 「副詞」
 eine Hülle. アイネ・ヒュレ n.f カバー、覆い、上っ面 「補語」
 Das Eigentliche ダス・アイゲントリッヒエ n.n.1 格 本当の姿は 「主語」
 eigentlich アイゲントリヒ adj. 本来の、真の → Eigentliche n.n.1 格 本当の姿
 ist イスト 3 単現(sein)v.i ～である 「動詞」
 unsichtbar... ウンスィヒトバー adj. 目に見えない 「補語」

彼の半開きの唇が、微笑んでいるように見えたので、僕はまた心の中で思った：

Da seine halbgeöffneten Lippen ein halbes Lächeln andeuteten, sagte ich mir auch:

「副詞節」, 「動詞句」「主語」「動詞句」「副詞句」:

Da ダー conj. ～なので 「副詞節」
 seine halbgeöffneten Lippen サ イネ・ハルプ・ケ・オフネン・リッペン
 pl.n.f.1 格 彼の半開きの唇が 「主語」
 geöffnete ゲオフネ過去分詞・受動(öffnen)adj. 開かれた → seine geöffneten (adj.f.pl)
 → halb- ハルプ (名刺や形容詞の前につけて)「半分…」 Lippen リッペン pl.n.f(Lippe) 唇

XXIV

ein halbes	アイン・ハルベス	adj.n.4 格 半ばの	「形容詞句」
Lächeln	レヒェルン	n.n.4 格(動詞の名詞化) 笑いを	「目的語」
andeuteten,	アント・イテン	3 複過(an deuten)v.t 暗示していた	「動詞句」
sagte ...mir	サー・ケ...ミーア	1 単過(sich-3 sagen)v.pr 心のなかで思った	「動詞句」
ich	イヒ	pron 僕は	「主語」
auch:	アウ	adv. また	「副詞」

この眠っている王子様のことで、僕が一番感動することは、一輪の花に対する彼の誠実さだ。
それは、彼が眠っている時でさえ、ランプの炎のように彼を照らし続けているバラの姿だ。

Was mich an diesem kleinen eingeschlafenen Prinzen so sehr rührt, ist seine Treue zu einer Blume, ist das Bild einer Rose, das ihn durchstrahlt wie eine Flamme einer Lampe, selbst wenn er schläft...

Was	ヴァス	pron (主語) (先行詞なしで) ~するものは	「主語」
mich	ミヒ	pron 僕を	「目的語」
an diesem kleinen eingeschlafenen Prinzen	アン・デ・イー・ゼム・クライン・アインゲ・シュラーフェン・プリンツェン	adv. (対象) この眠っている王子様のことで	「副詞句」
einschlafen	アインシュラーフェン	v.i 眠り込む (過去分詞 eingeschlafen)	
so sehr	ゾー・セーア	adv. 非常に	「副詞句」
rührt,	ルーアト	3 単現(rühren)v.t 感動させる	「動詞」
ist	イスト	3 単現(sein)v.i ~である	「動詞」
seine Treue	ザ・イネ・トロエ	n.f.1 格 彼の誠実さ	「補語」
zu einer Blume,	ツェー・アイネ・ブルーメ	adv. 一輪の花に対する	「副詞句」
ist	イスト	3 単現(sein)v.i ~である	「動詞」
das Bild	ダス・ビルト	n.n.1 格 映像、光景	「補語」
einer Rose,	アイネ・ローゼ	n.f.2 格 バラの花の	「形容詞句」
das	ダス	pron (関係) ~する	「形容詞節」
ihn	イン	pron.m.4 格 彼を	「目的語」
durchstrahlt	トゥルヒ・シュトラールト	3 単現(durch- + strahlen)	
v.t		照らし続ける	「動詞句」
durch-	トゥルヒ	前つづり「全期間」	
strahlen	シュトラレン	v.t 放射する v.i 光り輝く	
wie eine Flamme	ヴィー・アイネ・フラメ	adv. 炎のように	「副詞句」
einer Lampe,	アイネ・ラムペ	n.f.2 格 ランプの	「形容詞句」
selbst wenn	ゼルフ・スト・ヴェン	conj. ~する時でさえ	「副詞節」
er	エア	pron 彼が	「主語」
schläft...	シュレフト	3 単現(schlafen)v.i 眠っている	「動詞」

XXIV

そして、僕には、彼が今まで以上に壊れやすいものを感じられた。

Und er kam mir noch zerbrechlicher vor als bisher. Und 「主語」「動詞句」「補語」

Und ウント conj. そして

er エ pron 彼は 「主語」

kam mir カム・ミーア 3 単過(kommen)v.i(j-3 人-3 に) 僕の心に思い浮かんだ 「動詞句」

j-3 +副詞 kommen 「人-3 にとって～と感じられる」

noch zerbrechlicher ノッホ・ツェアブレヒリッヒャー adv. (比較級) さらに壊れやすい 「補語」

vor als bisher. フォーア・アルス・ビズハーアー adv. これまでよりさらに 「副詞句」

ランプは注意深く保護されなければならない。

Man muss die Lampe sorgsam schützen: 「主語」「動詞句」「目的語」「副詞」「動詞句」

Man マン pron 人は 「主語」

「目的語」を主語とした能動文に翻訳する

muss ...schützen: ムス...シュツェン 3 単現・必要(müssen+不定詞 schützen)

v.t 保護しなければならない 「動詞句」

die Lampe デー・ラムペ n.f.4 格 ランプを 「目的語」

sorgsam ソアクザーム adv. 注意深く、慎重に 「副詞」

突風が、ランプの灯を消してしまうかもしれないのだ。

Ein Windstoß kann sie zum Verlöschen bringen... 「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」

Ein Windstoß アイン・ヴァントシュトース n.m 突風が 「主語」

kann ...bringen... カン...ブリンゲン 3 単現・可能性(können+不定詞 bringen)

v.t ～をもたらすかもしれない 「動詞句」

sie シー pron.4 格(Lampe) ランプに 「目的語」

zum Verlöschen ツーム・フェアロッシェン adv. 消灯へと 「副詞句」

そして、このように進んでいるうちに、僕は明け方にその井戸を見つけた。

Und während ich so weiterging, entdeckte ich bei Tagesanbruch den Brunnen.

Und 「副詞節」, 「動詞」「主語」「副詞句」「目的語」

Und ウント conj. そして

während ヴァーレント conj. ～しているうちに 「副詞節」

ich イヒ pron 僕が 「主語」

so ソー adv. このように 「副詞」

weiterging, ヴァイターギング 1 単過(weiter|gehen)v.i 進んで行った 「動詞句」

entdeckte エントデクテ 1 単過(entdecken)v.t 見つけた 「動詞」

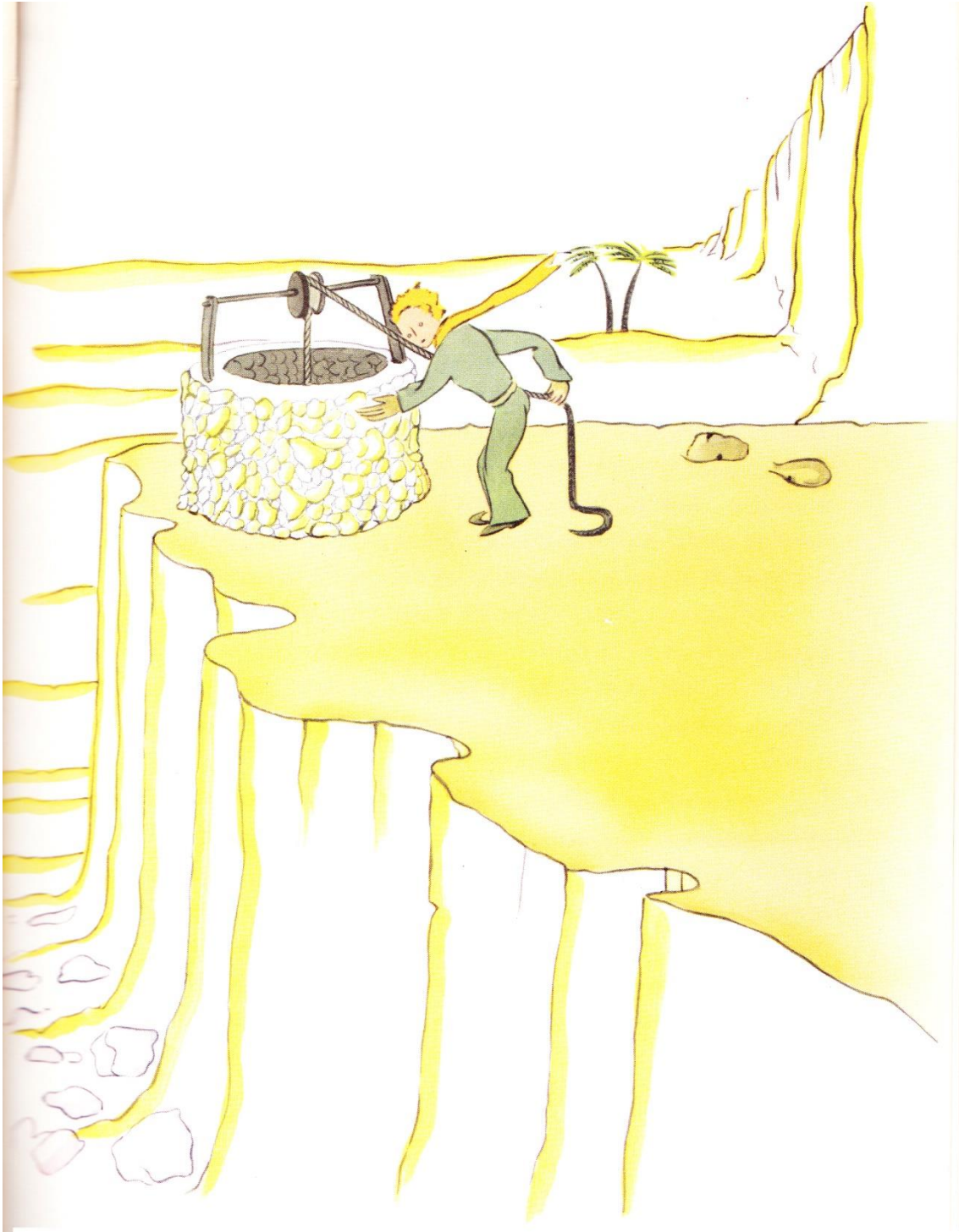
ich イヒ pron 僕は 「主語」

XXIV

bei Tagesanbruch ターゲスアンブルフ adv. 明け方に
den Brunnen. デン・ブルネン n.m.4 格 その井戸を

「副詞句」

「目的語」



XXV

XXV

「人々は」と、王子様は言った。「他の人を押し分けて、無理やり急行列車に乗り込むけれど、自分たちがどこへ行こうとしているのか全く何も分かっていないんだ」

»Die Leute«, sagte der kleine Prinz, »schieben sich in die Schnellzüge, aber sie wissen gar nicht, wohin sie fahren wollen.

《「主語」》, 「動詞」「主語」, 《「動詞句」「間接目的語」, aber 「主語」「動詞句」「目的語」》
 »Die Leute«, デーイー・ロイ pl.n 人々は 「主語」
 sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 der kleine Prinz, デア・クライネ・プリンツ n.m 王子さまは 「主語」
 »schieben sich シーベン・スィット 3 複現(sich-4 schieben)
 v.pr(in に) 押し分けて乗り込む 「動詞句」
 in die Schnellzüge, イン・デーイー・シュネルツェーゲ adv. 急行列車に 「間接目的語」
 aber アーバー conj. しかし
 sie ジー pron.pl 彼らは 「主語」
 wissen ヴァッセン 3 複現 v.t 知っている 「動詞句」
 gar nicht, ガール・ニヒト adv. 全く何も～ない 「副詞句」
 wohin ヴォーヒン adv. どこへ～するかということ 「目的語」
 sie ジー pron.pl 彼らが 「主語」
 fahren wollen. ファーレン・ヴォレン 3 複現・願望(wollen+不定詞)
 v.i 行こうとしている 「動詞句」

「それで、動き回ったり、堂々巡りをするんだ...」

Nachher regen sie sich auf und drehen sich im Kreis..«

《「副詞」「動詞句」「主語」「動詞句」 und 「動詞句」》

Nachher ナハーア adv. それで 「副詞」
 regen ...sich auf レーゲン...スィット・アフ 3 複現(sich-4 auf|regen)v.pr 動き始める 「動詞句」
 auf|regen アフ・レーゲン v.pr(sich-4) 動き始める auf 前つづり 「始める」
 sie ジー pron.pl 彼らは 「主語」
 und ウント conj. そして
 drehen sich ドレーエン・スィット 3 複現(sich-4 drehen)v.pr 回転する 「動詞句」
 im Kreis..« イム・クライス adv. (空間) 円の中を 「副詞句」
 sich-4 im Kreis drehen スィット・イム・クライス・ドレーエン v.pr 堂々巡りをする

XXV

それから、付け加えた。

Und er fügte hinzu:

Und 「主語」 「動詞句」:

Und ウント conj. そして

er エア pron 彼は

「主語」

fügte hinzu: フュクテ・ヒンツァ 3 単過(hinzu|fügen)v.t 付け加えた

「動詞句」

「それは骨折り甲斐がない...」

»Das ist nicht der Mühe wert...«

《「主語」 「動詞」 「補語」》

»Das ダス pron (動き回ったりすること) それは

「主語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である

「動詞」

nicht der Mühe wert...« ニヒト・デア・ミュエ・ヴァルト adj. 骨を折る価値のない

「補語」

骨折り甲斐がない :

骨折り → 苦勞すること。精を出して働くこと。努力。

甲斐 → したことの結果としての効果。するだけの値打ち。

骨折り甲斐がない → 苦勞するだけの価値がない。する必要がない。

僕たちが辿り着いたその井戸は、サハラ砂漠にある井戸とは似ていなかった。

Der Brunnen, den wir erreicht hatten, glich nicht den Brunnen der Sahara.

「主語」 「動詞句」 「間接目的語」

Der Brunnen, デア・ブルネン n.m.1 格 その井戸は

「主語」

den デン pron (目的語) ~する

「形容詞節」

wir ヴィアー pron.pl 僕たちが

「主語」

erreicht hatten, エライヒト・ハッテン 1 複過・完了形(erreichen)

v.t たどり着いた

「動詞句」

glich nicht グリヒ・ニヒト 3 単過・否定(gleichen)v.i(et-3 に) 似ていなかった

「動詞句」

den Brunnen デン・ブルネン pl.n.3 格 井戸に

「間接目的語」

der Sahara. デア・サハラ n.f.2 格 サハラ砂漠の

「形容詞句」

サハラ砂漠にある井戸は、砂地に掘られた簡素な穴にすぎないのだ。

Die Brunnen der Sahara sind einfache, in den Sand gegrabene Löcher.

「主語」 「動詞」 「補語」

Die Brunnen ディー・ブルネン pl.n.1 格 井戸は

「主語」

der Sahara デア・サハラ n.f.2 格 サハラ砂漠の

「形容詞句」

sind ジント 3 複現(sein)v.i ~である

「動詞」

einfache, アインファヘ adj.pl.1 格(einfach) 単純な

「形容詞」

in den Sand イン・デンザント adv. 砂の中に

「副詞句」

骨折り甲斐がない :

XXV

gegrabene ゲグラヘネ 過去分詞・受動(graben)adj.pl.1 格 掘られた 「形容詞」
 Löcher. レッヒャー pl.n.n.1 格 穴 「補語」

そこにある井戸は村の井戸に似ていた。

Dieser da glich einem Dorfbrunnen. 「主語」「動詞」「間接目的語」
 Dieser da デーザー・ダー pron そこにある井戸は 「主語」
 glich グリヒ 3 単過(gleichen)v.i(et-3 に) 似ていた 「動詞」
 einem Dorfbrunnen. アイネム・トーフ・ブルネン n.m.3 格 村の井戸に 「間接目的語」
 Dorfbrunnen → Dorf トーフ n.n 村 + Brunnen ブルネン n.m 井戸

しかしその辺りには、いかなる村もなかった。それで、僕は夢を見ていると思った。

Aber es war keinerlei Dorf da, und ich glaubte zu träumen.
 Aber 「動詞」「主語」「副詞」,und 「主語」「動詞」「目的語」
 Aber アーバー conj. しかし
 es エス pron 仮の主語 (真の主語は keinerlei Dorf)
 war ヴァール 3 単過・存在(sein)v.i 〜があった 「動詞」
keinerlei Dorf カイナライ・トーフ n.n.1 格 どんな村も〜ない 「主語」
keinerlei カイナライ adj. どんな種類のものも〜ない
 da, ダー adv. そこには 「副詞」
 und ウント conj. それで
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 glaubte グラウプテ 1 単過(glauben)v.t(zu 不定詞 〜していると) 思った 「動詞」
 zu träumen. ツー・トロイメン zu 不定詞 n. 夢を見ているということを 「目的語」

「これは奇妙だ！」と、僕は王子様に言った。「何もかもが揃っている：滑車と手桶とロープがすべて揃っている」

»Das ist merkwürdig«, sagte ich zum kleinen Prinzen, »alles ist bereit: die Winde, der Kübel und das Seil...«
 《「主語」「動詞」「補語」》, 「動詞」「主語」「間接目的語」,
 《「主語」「動詞」「補語」: 「主語」, 「主語」 und 「主語」》
 »Das ダス pron これは 「主語」
 ist イスト 3 単現(sein)v.i 〜である 「動詞」
 merkwürdig«, マークヴュルディヒ adj. 奇妙な、不思議な 「補語」
 sagte サークテ 1 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 zum kleinen Prinzen, ツム・クライン・プリンツェン adv. (目標) 王子様に向かって 「間接目的語」
 »alles アレス pron すべてが 「主語」

XXV

ist	イスト	3 単現(sein)v.i	～である	「動詞」
bereit:	ベライト	adj.	準備のできた、整った	「補語」
die Winde,	デー・ウ・インデ	n.f	巻き上げ機が、滑車が	「主語」
der Kübel	デア・キューベル	n.m	桶が	「主語」
und	ウント	conj.	そして	
das Seil...«	ダス・ザイル	n.n	綱が	「主語」

彼は笑い、綱に触れ、滑車を動かした。

Er lachte, berührte das Seil, ließ die Rolle spielen.

				「主語」「動詞」, 「動詞」「目的語」, 「動詞句」「目的語」
Er	エア	pron	彼は	「主語」
lachte,	ラハテ	3 単過(lachen)v.i	笑った	「動詞」
berührte	ベリユーアテ	3 単過(berühren)v.t	触れた	「動詞」
das Seil,	ダス・ザイル	n.n.4 格	綱に	「目的語」
ließ ...spielen.	リース...シュビ・ーレン	3 単過・使役(lassen+不定詞 spielen)		
	v.t	～を動かした		「動詞句」
	spielen	シュビ・ーレン v.i	(あちこちと) 動く	
die Rolle	デー・ローレ	n.f.4 格	滑車を	「目的語」

すると、長い間風が眠っていた時に古い風見鶏がきしむように、滑車はぎしぎし音を立てた。

Und die Rolle knarrte wie ein altes Windrad, wenn der Wind lange geschlafen hat.

Und 「主語」「動詞」「副詞句」

Und	ウント	conj.	すると	
die Rolle	デー・ローレ	n.f	滑車は	「主語」
knarrte	クナルテ	3 単過(knarren)v.i	ぎしぎしと音を立てた	「動詞」
wie	ウィー	conj.	～のように	「副詞句」
ein altes Windrad,	アイン・アルテス・ウ・イントラート	n.n.1 格	古い風見鶏	「目的語」
	Wind	ウ・イント n.m	風	
	Rad	ラート n.n	車輪	
	Wetterhahn	ウ・ェッター・ハーン n.m	風見鶏	
wenn	ウ・エン	conj.	～するときに	「副詞節」
der Wind	デア・ウ・イント	n.m	風が	「主語」
lange	ランゲ	adv.	長い間	「副詞」
geschlafen hat.	ゲ・シュラーフェン・ハット	3 単現・完了形(schlafen)v.i	眠っていた	「動詞句」

XXV

「ほら、聞こえるだろう」と、王子さまは言った。「僕たちが目覚めさせたから、この井戸が歌っているんだよ...」

»Du hörst«, sagte der kleine Prinz, »wir wecken diesen Brunnen auf, und er singt...«

《「主語」「動詞」》, 「動詞」「主語」,

《「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」, und 「主語」「動詞」》

»Du トゥ pron 君は 「主語」
hörst, ヘスト 2 単現(hören)v.t 聞こえる 「動詞」
sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
der kleine Prinz, デア・クライネ・プリンツ n.m 王子さまは 「主語」
»wir ヴィア pron 僕たちが 「主語」
wecken ...auf, ウェッケン...アウフ 1 複現・近接過去(auf|wecken)v.t 目を覚まさせた 「動詞句」
diesen Brunnen デイゼン・ブルネン n.m この井戸を 「目的語」
und ウント conj. それで
er エア pron それが 「主語」
singt...« シンクト 3 単現(singen)v.i 歌っている 「動詞」

僕は彼に苦勞をさせたくなかった：

Ich wollte nicht, dass er sich abmühte: 「主語」「動詞句」「目的語」:
Ich イヒ pron 僕は 「主語」
wollte nicht, ヴォルテ・ニヒト 1 単過・否定(wollen)v.t 望まなかった 「動詞句」
dass ダス conj. ～ということを 「目的語」
er エア pron 彼が 「主語」
sich abmühte: スィヒ・アッブ・ミュテ 3 単過・時制の一致(sich-4 ab|mühen)
v.pr ひどく苦勞する 「動詞句」

「それは僕にやらせてくれないか？」と、僕は彼に言った。「それは君には重すぎるよ」

»Lass mich das machen«, sagte ich zu ihm, »das ist zu schwer für dich.«

《「動詞句」「間接目的語」「直接目的語」「動詞句」》,

「動詞」「主語」「間接目的語」, 《「主語」「動詞」「補語」》

»Lass ...machen«, ラス...マヘン 命・2 単現・使役・依頼(lassen+不定詞)

v.t ～をやらせてくれないか? 「動詞句」
mich ミヒ pron 僕に 「間接目的語」
das ダス pron それを 「直接目的語」
sagte サークテ 1 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
ich イヒ pron 僕は 「主語」
zu ihm, ツー・イム adv. 彼に 「間接目的語」

XXV

»das ダス pron それは	「主語」
ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である	「動詞」
zu schwer ツー・シュヴァーア adj. 重すぎる	「補語」
für dich.« フュア・ディヒ adv. 君には	「副詞句」

僕は、ゆっくりと桶を井戸の縁まで引き上げた。

Langsam hob ich den Kübel bis zum Brunnenrand.

	「副詞」「動詞」「主語」「目的語」「副詞句」
Langsam ラングザーム adv. ゆっくりと	「副詞」
hob ホブ 1 単過(heben)v.t 引き上げた	「動詞」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
den Kübel デン・キューベル n.m.4 格 桶を	「目的語」
bis zum Brunnenrand. ビス・ツーム・ブルネン・ラント adv. 井戸の縁まで	「副詞句」

僕はそこに桶をしっかりと据えた。

Ich stellte ihn dort schön aufrecht.

	「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」
Ich イヒ pron 僕は	「主語」
stellte シュテルテ 1 単過(stellen)v.t 置いた、据えた	「動詞」
ihn イン pron.m.4 格 桶を	「目的語」
dort ドアト adv. そこに	「副詞」
schön aufrecht. シェーン・アウフレヒト adv. 非常にしっかりと	「副詞句」
schön シェーン adv. (強調) とても aufrecht アウフレヒト adj. 断固たる、まっすぐに	

僕の耳の中では、いまだに滑車の歌が聞こえていた。そしてまだ揺れている桶の水の中には、太陽が揺れているのが見えた。

In meinen Ohren war noch immer der Gesang der Zugwinde, und im Wasser, das noch zitterte, sah ich die Sonne zittern.

	「副詞句」, 「動詞」「副詞句」「主語」, und 「副詞句」, 「動詞」「主語」「目的語」「補語」
In イン prep (3 格または 4 格と) ~のなかで	「副詞句」
meinen Ohren マイネン・オーレン pl.n.n.3 格 僕の耳	「目的語」
war ヲアール 3 単過・存在(sein)v.i ~があった	「動詞」
noch immer ノッホ・イマー adv. いまだに、まだ、依然として	「副詞句」
der Gesang デア・ゲザング n.m.1 格 歌が	「主語」
der Zugwinde, デア・ツクヴィンデ pl.n.m.2 格 すきま風の	「形容詞句」
滑車の回る音を、古い風見鶏が時折吹き抜ける隙間風でたてる音にたとえている	
フランス語版では、le chant de la poulie 滑車の歌	

XXV

und ウント conj. そして

im Wasser, イム・ヴァッサー adv. 水の中では

「副詞句」

das ダス pron (主語) ～する

「形容詞節」

noch ノッホ adv. まだ

「副詞」

zitterte, チッターテ 3 単過・時制の一致(zittern)v.i 震えている

「動詞」

汲み上げた桶の中の水がまだ震えている

sah ザー 1 単過・知覚動詞(sehen)v.t(SVO+不定詞 O が～するのが) 見えた

「動詞」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

die Sonne デイ・ゾネ n.f.4 格 太陽を

「目的語」

zittern. ツィターン 不定詞・Sonne の動作 v.i 震えている

「補語」

「僕は、この水を飲みたい」と、王子さまは言った。「飲ませて...」

»Ich habe Durst nach diesem Wasser«, sagte der kleine Prinz, »gib mir zu trinken...«

《「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」》, 「動詞」「主語」, 《「動詞句」「間接目的語」「動詞句」》

»Ich イヒ pron 僕は

「主語」

habe ハーベ 1 単現(haben)v.t (心身状態) ～である

「動詞」

Durst ドゥルスト n.m.4 格(nach et-3 何-3 を) (のどの) 渇き、飲みたい気持ち

「目的語」

nach diesem Wasser«, ナーハ・デューセム・ヴァッサー adv. この水を

「副詞句」

sagte ザーケ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

der kleine Prinz, デア・クライン・プリンツ n.m 王子さまは

「主語」

»gib ...zu trinken...« キープ ...ツー・トリンケン 命・2 単現・使役(geben+zu 不定詞)

v.t 飲ませてください

「動詞句」

mir ミーア pron 僕に

「間接目的語」

これで僕はやっと、彼が何を求めているかが分かった。僕は桶を彼の唇まで持ち上げた。

Und ich verstand, was er gesucht hatte. Ich hob den Kübel an seine Lippen.

Und 「主語」「動詞」「目的語」 | 「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」

Und ウント conj. それで

ich イヒ pron 僕は

「主語」

verstand, フェアシュタント 1 単過(verstehen)v.t 分かった

「動詞」

was ヴァス pron (目的語) ～する物を

「目的語」

er エア pron 彼は

「主語」

gesucht hatte. ゲスツト・ハッテ 3 単過・完了形(suchen)v.t 求めていた

「動詞句」

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

hob ホープ 1 単過(heben)v.t 持ち上げた

「動詞」

den Kübel デン・キューベル n.m.4 格 桶を

「目的語」

XXV

an seine Lippen. アン・ザ・イネ・リップェン adv. (位置) 彼の唇まで 「副詞句」

彼は目を閉じて飲んだ。それは祭りのように楽しい光景だった。

Er trank mit geschlossenen Augen. Das war süß wie ein Fest.

「主語」「動詞」「副詞句」 | 「主語」「動詞」「補語」

Er エア pron 彼は 「主語」

trank トランク 3 単過(trinken)v.i 飲んだ 「動詞」

mit ミット prep (3 格と) (様態) ~の状態 「副詞句」

geschlossen ゲシュロッセネン adj.pl(geschlossen) 閉じた 「形容詞」

Augen. アウゲン pl.n.n(Auge).3 格 目 「目的語」

Das ダス pron それは 「主語」

war ヲアール 3 単過(sein)v.i ~ だった 「動詞」

süß シュース adj. 魅力のある、心地よい、楽しい 「補語」

wie ein Fest. ヲィー・アイン・フェスト adv. 祭りのように 「副詞句」

この水は、飲み物とは全く異なるものだった。

Dieses Wasser war etwas ganz anderes als ein Trunk.

「主語」「動詞」「補語」

Dieses Wasser ディーゼス・ヲアッシャー n.n この水は 「主語」

war ヲアール 3 単過(sein)v.i ~ だった 「動詞」

etwas エトヲアス pron.n 何かあるもの 「補語」

ganz anderes ガンツ・アンデレス adj.n(ander).1 格 全く異なる 「形容詞句」

als ein Trunk. アルス・アイン・トルンク adv. (比較) 飲み物とは 「副詞句」

その水は、星の下の行進や、滑車の歌や、僕の腕の労力によって湧き出たものだ。

Es war entsprungen aus dem Marsch unter den Sternen, aus dem Gesang der Rolle, aus der Mühe meiner Arme.

「主語」「動詞句」「副詞句」

Es エス pron それは 「主語」

war entsprungen ヲアール・エントシュプ ルンゲン 3 単過・完了形(entspringen)v.i 湧き出た 「動詞句」

aus dem Marsch アウス・デーム・マーシュ adv. 行進から 「副詞句」

unter den Sternen, ウンター・テン・シュテアネン adv. 星の下の 「副詞句」

aus dem Gesang アウス・デーム・ゲザンク adv. 歌から 「副詞句」

der Rolle, デア・ロレ n.f.2 格 滑車の 「形容詞句」

aus der Mühe アウス・デア・ミュエ adv. 骨折りから 「副詞句」

meiner Arme. マイナー・アルメ pl.n.m(Arm).2 格 僕の腕の 「形容詞句」

XXV

その水は、贈り物のように、心に優しくかった。

Es war gut fürs Herz, wie ein Geschenk.

「主語」「動詞」「補語」

Es エス pron それは

「主語」

war ヲァール 3 単過(sein)v.i ~ だった

「動詞」

gut グート adj. 良い

「補語」

fürs Herz, フェアス・ヘアツ adv. (für das Herz) 心にとって

「副詞句」

wie ein Geschenk. ヲイー・アイン・ゲシェンク adv. 贈り物のように

「副詞句」

僕が子供だった時に、クリスマスツリーの明かりや、深夜ミサの音楽や、優しい微笑みが、
ちょうど同じように、僕がもらったプレゼントの本来の輝きを構成していたのだった。

Genauso machten, als ich ein Junge war, die Lichter des Christbaums, die Musik der
Weihnachtsmette, die Sanftmut des Lächelns den eigentlichen Glanz der Geschenke aus,
die ich erhielt.

「副詞」「動詞句」「副詞節」「主語」「目的語」「動詞句」「目的語」

Genauso ゲナウゾー adv. ちょうど同じように

「副詞」

machten, ...aus, マヘン...アウス 3 複過(aus | machen)v.t 構成していた

「動詞句」

als アルス conj. ~するとき

「副詞節」

ich イヒ pron 僕が

「主語」

ein Junge アイン・ユンゲ n.m 男の子

「補語」

war, ヲァール 1 単過(sein)v.i ~ だった

「動詞」

die Lichter デイー・リヒター pl.n.n(Licht).1 格 明かりが

「主語」

des Christbaums, デス・クリストバウム n.m.2 格 クリスマスツリーの

「形容詞句」

die Musik デイー・ムジーク n.f.1 格 音楽が

「主語」

der Weihnachtsmette, デア・ヴァイナハツ・メッテ

n.f.(Weihnachts+Mette).2 格 クリスマスの深夜ミサの

「形容詞句」

die Sanftmut デイー・サンフトムート n.f.1 格 優しさが

「主語」

des Lächelns デス・レツヒェルン n.n(lächeln の中性名詞化).2 格 微笑みの

「形容詞句」

den eigentlichen デン・アイゲントリヒェン adj.m.4 格 本来の

「形容詞句」

Glanz グランツ n.m.4 格 輝きを

「目的語」

der Geschenke デア・ゲシェンケ pl.n.n(Geschenk).2 格 プレゼントの

「形容詞句」

die デイー pron (目的語) ~する

「形容詞節」

ich イヒ pron 僕が

「主語」

erhielt. エアヒルト 1 単過(erhalten)v.t もらった

「動詞」

XXV

「君のところの人たちは」と、王子さまは言った。「1つの同じ庭園で 5000本のバラの花を栽培しているけれど...そこでは自分たちが求めているものが見つからないんだね...」

»Die Menschen bei dir zu Hause«, sagte der kleine Prinz, »züchten fünftausend Rosen in ein und demselben Garten... und doch finden sie dort nicht, was sie suchen...«

《「主語」》, 「動詞」「主語」,

《「動詞」「目的語」「副詞句」...und「副詞」「動詞」「主語」「副詞句」「目的語」》

»Die Menschen デー・メンシェン pl.n.m 人たちは 「主語」
 bei dir zu Hause«, バイ・デア・ツウ・ハウゼ adv. 君のところの 「副詞句」
 sagte サーゲ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 der kleine Prinz, デア・クライン・プリンツ n.m 王子さまは 「主語」
 »züchten チュヒテン 3 複現 v.t (植物を) 栽培している 「動詞」
 fünftausend Rosen フェンフトAUSENT・ローゼン pl.n.f.4 格 5000本のバラの花を 「目的語」
 in ein und demselben Garten... イン・アイン・ウント・デー・ムセルベン・ガルテン
 adv. 1つの同じ庭園で 「副詞句」
 und ウント conj. そして
 doch ドツッ adv. それでも、しかし 「副詞」
 finden フィンデン 3 複現 v.t 見つける 「動詞」
 sie シー pron.pl 彼らは 「主語」
 dort nicht, ドアト・ニヒト adv. そこで〜ない 「副詞句」
 was ヴァス pron (目的語) 〜するものを 「目的語」
 sie シー pron.pl 彼らが 「主語」
 suchen...« スーヘン 3 複現 v.t 探し求めている 「動詞」

「見つからないんだね」と、僕は答えた。

»Sie finden es nicht«, antwortete ich...

《「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」》, 「動詞」「主語」

»Sie シー pron.pl 彼らは 「主語」
 finden ...nicht«, フィンデン...ニヒト 3 複現・否定 v.t 見つからない 「動詞句」
 es エス pron それを 「目的語」
 antwortete アントヴァーテ 1 単過(antworten)v.i 答えた 「動詞」
 ich... イヒ pron 僕は 「主語」

「でも求めているものは、たった1本のバラの中や、わずかな水の中に見つけられる」

»Und dabei kann man das, was sie suchen, in einer einzigen Rose oder in einem bisschen Wasser finden...«

《Und「副詞」「動詞句」「主語」「目的語」「副詞句」》

»Und ウント conj. そして

XXV

dabei ダバイ adv. それなのに、そのうえ 「副詞」
 kann ...finden...« カン...フィンデン 3 単現・可能(können+不定詞)v.t 見つけられる 「動詞句」
 man マン pron 人は 「主語」
 das, ダス pron それを 「目的語」
 was ヴァス pron (目的語) ～するものを 「目的語」
 sie シー pron.pl 彼らが 「主語」
 suchen, スーヘン 3 複現 v.t 求めている 「動詞」
 in einer einzigen Rose イン・アイナー・アインツィゲン・ローゼ adv. たった 1 本のバラの中に 「副詞句」
 oder オーダー conj. それとも
 in einem bisschen Wasser イン・アイネム・ヒッシェン・ヴァッサー adv. わずかな水の中に 「副詞句」

「まったくその通りだね」と、僕は答えた。

»Ganz gewiß«, antwortete ich. 《「応答」》, 「動詞」「主語」
 »Ganz ガンツ adv. まったく 「副詞」
 gewiß, ゲウイス adj. 確かな 「応答」
 antwortete アントヴァアテ 1 単過(antworten)v.i 答えた 「動詞」
 ich. イッヒ pron 僕は 「主語」

すると、王子さまは付け加えた：

Und der kleine Prinz fügte hinzu: Und 「主語」「動詞句」
 Und ウント conj. そして
 der kleine Prinz デア・クライン・プリンツ n.m 王子さまは 「主語」
 fügte hinzu: フェークテ・ヒンツ 3 単過(hinzu|fügen)v.t 付け加えた 「動詞句」

「だけど、目というものは何も見えていないんだ。心で探し求めなければいけないんだよ」

»Aber die Augen sind blind. Man muss mit dem Herzen suchen.«
 《Aber 「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」》
 »Aber アーバー conj. しかし
 die Augen デー・アウゲン pl.n.n.1 格 目というものは 「主語」
 sind シント 3 複現(sein)v.i ～である 「動詞」
 blind. ブリント adj. 盲目の 「補語」
 Man マン pron 人は 「主語」
 muss ...suchen.« ムス...スーヘン 3 単現・必要(müssen+不定詞)
 v.i 探し求めなければならない 「動詞句」
 mit dem Herzen ミット・デー・ム・ヘアツェン adv. (手段) 心で 「副詞句」

XXV

僕は水を飲んだ。それは良い香りを放っていた。

Ich hatte getrunken. Es atmete sich wieder gut.

「主語」「動詞句」 | 「主語」「動詞句」「副詞句」

Ich イッヒ pron 私は

「主語」

hatte getrunken. ハッテ・ゲトゥルンケン 1 単過・完了形(trinken)v.i 飲んだ

「動詞句」

Es エス pron その水は

「主語」

atmete sich アトメ・ズィッヒ 3 単過(sich atmen)v.pr 香りを放っていた

「動詞句」

wieder gut. ヴィーダー・グート adv. 再びよい

「副詞句」

フランス語の原文では：

Je respirais bien. 私はほっとしていた。（「僕は良いにおいがした」という翻訳も可能）

砂は夜明けには蜂蜜の色をしている。

Der Sand hat bei Tagesanbruch die Farbe des Honigs.

「主語」「動詞」「副詞句」「目的語」

Der Sand デア・ザント n.m 砂は

「主語」

hat ハット 3 単現(haben)v.t (特徴を) している

「動詞」

bei Tagesanbruch バイ・ターゲスアンブルフ adv. (時間) 夜明けには

「副詞句」

die Farbe ディー・ファルベ n.f.4 格 色を

「目的語」

des Honigs. デス・ホーニヒス n.m.2 格 蜂蜜の

「形容詞句」

この蜂蜜の色によっても、僕は幸せだった。心配する必要などないのだ...

Auch über diese Honigfarbe war ich glücklich. Warum sollte ich mir Sorgen machen...

「副詞句」, 「動詞」「主語」「補語」

「動詞句」「主語」「間接目的語」「直接目的語」「動詞句」

Auch über アウフ・ユーバー prep (3 格または 4 格) (理由) ~によっても

「副詞句」

diese Honigfarbe ディーゼ・ホーニヒ・ファルベ n.f.4 格 この蜂蜜の色

「目的語」

war ヴァール 1 単過(sein)v.i ~ だった

「動詞」

ich イッヒ pron 私は

「主語」

glücklich. グリュックリヒ adj. 幸せな

「補語」

Warum ヴァアルム adv. (反語) なぜ、どうして

「副詞」

sollte ...machen... ソルテ ...マヘン 1 単過・必要・時制の一致(sollen+不定詞)

v.t しなければならない

「動詞句」

ich イッヒ pron 私は

「主語」

mir ミー pron 自分の

「間接目的語」

Sorgen ゾアゲン n.n.4 格 心配を

「直接目的語」

フランス語の原文では：

XXV

「君は約束を守らなくちゃいけないよ」と、王子さまは物静かに言った。彼はまた僕の近くに腰を下ろしていた。

»Du mußt dein Versprechen halten«, sagte sanft der kleine Prinz, der sich wieder zu mir gesetzt hatte.

《「主語」「動詞句」「目的語」》, 「動詞」「副詞」「主語」, 「主語」「動詞句」「副詞句」
 »Du トゥ pron 君は 「主語」
 mußt ...halten«, ムスト...ハルテン 2 単現・義務(müssen+不定詞)
 v.t (約束を) 守らなくてはならない 「動詞句」
 dein Versprechen デイン・フェアシュプレヒェン n.n.4 格 約束を 「目的語」
 sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 sanft サンフト adv. 物静かに 「副詞」
 der kleine Prinz, デア・クライン・プリンツ n.m 王子さまは 「主語」
 der デア pron 彼は 「主語」
 sich ...gesetzt hatte. スィットヒ...ゲゼット・ハッテ 3 単過・完了形(sich-4 setzen)
 v.pr 腰を下ろしていた 「動詞句」
 wieder zu mir ウィーダー・ツー・ミーア adv. また僕の近くに 「副詞句」

「何の約束？」

»Welches Versprechen?« 「主語」
 »Welches ヲエルヒェス pron(疑問代名詞).n.1 格 どの 「形容詞」
 Versprechen?« フェアシュプレヒェン n.n.1 格 約束 「主語」

「ほら、僕の羊用の口輪だよ... 僕はあの花に責任があるんだ！」

»Du weißt, einen Maulkorb für mein Schaf... Ich bin verantwortlich für diese Blume!«
 《「主語」「動詞」, 「主語」 | 「主語」「動詞」「補語」》
 »Du トゥー pron 君は 「主語」
 weißt, ヲァイスト 2 単現(wissen)v.t 知っている 「動詞」
 → 注意喚起 「ほら、分かるだろう」
 einen Maulkorb アイネン・マウルコルプ n.m 口輪 「主語」
 für mein Schaf... フューア・マイン・シャーフ adj. 僕の羊用の 「形容詞句」
 Ich イット pron 僕は 「主語」
 bin ビン 1 単現(sein)v.i 〜である 「動詞」
 verantwortlich フェアアントヴァーオトリヒ adj. 責任のある 「補語」
 für diese Blume!« フューア・デューゼ・ブルメ adv. あの花に対して 「副詞句」

XXV

僕はポケットからスケッチを取り出した。王子さまはそれらを見て、笑いながら言った：

Ich nahm meine Skizzen aus der Tasche. Der kleine Prinz sah sie und sagte lachend:

「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」 | 「主語」「動詞」「目的語」 und 「動詞」「副詞」
 Ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 nahm ナム 1 単過(nehmen)v.t 取り出した 「動詞」
 meine Skizzen マイネ・スキツェン pl.n.f(Skizze).4 格 スケッチを 「目的語」
 aus der Tasche. アウス・デア・タッシェ adv. ポケットから 「副詞句」
 Der kleine Prinz デア・クライネ・プリンツ n.m 王子さまは 「主語」
 sah サー 3 単過(sehen)v.t 見た 「動詞」
 sie シー pl.f.pron それらを 「目的語」
 und ウント conj. そして
 sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 lachend: ラッヘント 現在分詞・同時(lachen)v.i 笑いながら 「副詞」

「君のバオバブの木は、ちょっとキャベツみたいだね...」

»Deine Affenbrotbäume schauen ein bißchen wie Kohlköpfe aus...«

《「主語」「動詞句」「補語」「動詞句」》

»Deine Affenbrotbäume タイネ・アッフェンブロートホーイメ pl.n.m.1 格 君のバオバブの木は 「主語」
 Affen アッフェン n.m サル、ばか Brotbäume ブロート・ホーイメ pl.n.m(Brotbaum) パンの木
 schauen ...aus...« シャウエン...アウス 3 複現(aus|schauen)v.i ~のように見える 「動詞句」
 ein bißchen wie アイン・ビッッシェン・ヴァー adv. ちょっと~のように 「副詞句」
 Kohlköpfe コールケプフェ pl.n.m(Kohlkopf) キャベツ 「補語」

「ああ、なんということだ」僕はバオバブの絵についてはすごく自信があったのに。

»Oh!« Und ich war auf die Affenbrotbäume so stolz gewesen!

《「感嘆」》 Und 「主語」「動詞句」「副詞句」「補語」「動詞句」

»Oh!« オー int. ああ、なんということだ！ 「感嘆」
 Und ウント conj. (譲歩) そして
 ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 war ...gewesen! ヴァール...ゲウエゼン 1 単現・完了形(sein)v.i ~ だった 「動詞句」
 auf die Affenbrotbäume アウフ・デア・アッフェンブロートホーイメ adv. バオバブについては 「副詞句」
 so stolz ソー・ショトルツ adj. とても誇らしげな、非常に自信のある 「補語」

「君のキツネは... 耳が... 少し角みたいだね。長すぎるんだよ！」

»Dein Fuchs... seine Ohren... sie schauen ein wenig wie Hörner aus... sie sind viel zu lang!« 《「主語」...「主語」...「主語」「動詞句」「補語」「動詞句」 | 「主語」「動詞」「補語」》

XXV

»Dein Fuchs... ダ`イン・フクス n.m 君のキツネは	「主語」
seine Ohren... サ`イネ・オーレン pl.n.n 耳が	「主語」
sie ジー pl.pron それらが	「主語」
schauen ...aus... シャウエン...アウス 3 複現(aus schauen)v.i 〜のように見える	「動詞句」
ein wenig wie Hörner アイン・ウ`ェーニヒ・ウ`ィー・ヘアー pl.n.n 少し角みみたいな	「補語」
sie ジー pl.pron 耳が	「主語」
sind シント 3 複現(sein)v.i 〜である	「動詞」
viel zu lang!« フィール・ツー・ラング` adj. 長すぎる	「補語」

そう言って、彼はまた笑った。

Und <u>er</u> <u>lachte</u> <u>wieder</u> .	Und 「主語」「動詞」「副詞」
Und ウント conj. そして	
er エア pron 彼は	「主語」
lachte ラハテ 3 単過(lachen)v.i 笑った	「動詞」
wieder. ウ`ィーダー adv. また	「副詞」

「坊や、君は公正じゃないよ。僕は、中の見えない大蛇と中の見える大蛇のほかは、何も描くことが出来ないのだから」

»Du bist ungerecht, kleiner Mann, ich konnte nichts zeichnen als geschlossene und offene Riesenschlangen!«

《「主語」「動詞」「補語」, 「呼びかけ」「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」「副詞句」》	
»Du トゥ pron 君は	「主語」
bist ビスト 2 単現(sein)v.i 〜である	「動詞」
ungerecht, ウンゲレヒト adj. 不公正な、不公平な	「補語」
kleiner Mann, クライマー・マン n.m 坊や	「呼びかけ」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
konnte ...zeichnen コンテ...ツァイネン 1 単現・可能(können+不定詞)	
v.t デッサンできる	「動詞句」
nichts ニヒツ pron 何も〜ない	「目的語」
als アルス conj.(nichts...als) 〜以外は何も〜ない	「副詞句」
geschlossene und offene ゲシュロッセネ・ウント・オフフェネ	
adj. 閉じたそして開いた	「形容詞句」
Riesenschlangen!« リーゼ`ンシュラング` n.f 大蛇	「目的語」

XXV

「へえ！でも大丈夫だよ」と、彼は言った。「子供たちは知っているよ」

»Oh! Es wird schon gehen«, sagte er, »die Kinder wissen ja Bescheid.«

《「間投」「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」》, 「動詞」「主語」,

《「主語」「動詞」「副詞」「目的語」》

»Oh! オー int. へえ！

「間投」

Es エス pron それは

「主語」

wird ...gehen«, ウィルト...ゲーエン 3 単未・推量(werden+不定詞)v.i 進行するだろう 「動詞句」

schon ショーン adv. きっと

「副詞」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

er, エア pron 彼は

「主語」

»die Kinder ディー・キンダー pl.n.n 子供たちは

「主語」

wissen ヴィッセン 3 複現 v.t 知っている

「動詞」

ja ヤー adv. きっと

「副詞」

Bescheid.« ベシヤイト n.m 情報を、報告を

「目的語」

それで僕は口輪を殴り描きした。

Ich kritzelte also einen Maulkorb hin. 「主語」「動詞句」「副詞」「目的語」「動詞句」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

kritzelte ...hin. クリツェルテ...ヒン 1 単過(hin | kritzeln)v.t 殴り描きした

「動詞」

分離前つづり hin- ヒン は、消滅の「片づけて」を意味する

also アルゾー adv. それで

「副詞」

einen Maulkorb アイネン・マウルコルプ n.m 口輪を

「目的語」

フランス語の原文では :

Je crayonnai donc une muselière. そこで、ぼくは口輪を鉛筆で描いた。

そしてそのデッサンを王子様にあげる時、僕は胸が締め付けられる思いがした。

Und das Herz krampfte sich mir zusammen, als ich ihn dem kleinen Prinzen gab:

Und 「主語」「動詞句」「間接目的語」「副詞」, 「副詞節」

Und ウント conj. そして

das Herz ダース・ヘアツ n.n 心臓が

「主語」

krampfte sich クランプ・フテ・スィッヒ 3 単過(sich-4 krampfen)v.pr 痙攣した

「動詞句」

mir ミーア pron 僕にとって

「間接目的語」

zusammen, ツァメン adv. 一緒に、まとめて

「副詞」

als アルス conj. (時間的同时) ~したとき

「副詞節」

ich イッヒ pron 僕が

「主語」

ihn イン pron それを

「直接目的語」

フランス語の原文では :

XXV

dem kleinen Prinzen テーム・クライネン・プリンツェン n.m.3 格 王子さまに 「間接目的語」
gab: ガーフ 1 単過(geben)v.t あげた 「動詞」

「僕の知らない計画があるんだね?…」

»Du hast Pläne.. von denen ich nichts weiß...« 《「主語」「動詞」「目的語」...》
»Du トゥ pron 君は 「主語」
hast ハスト 2 単現(haben)v.t ある、持っている 「動詞」
Pläne, プレーネ pl.n.m.4 格 計画を 「目的語」
adj. (同格) ～する 「形容詞節」
von フォン prep (対象) ～について 「間接目的語」
denen テーネ pron.pl.3 格 それらに (計画) 「目的語」
ich イヒ pron 僕が 「主語」
nichts ニヒツ pron 何も～ない 「直接目的語」
weiß...« ヲァイス 1 単現(wissen)v.t (否定文で) 知らない 「動詞」

しかし、それには答えずに、言った：

Aber er antwortete nicht. Er sagte: Aber 「主語」「動詞句」 | 「主語」「動詞」:
Aber アーバー conj. しかし
er エア pron 彼は 「主語」
antwortete nicht. アントウ・ォアテ・ニヒト 3 単過・否定(antworten)v.i 答えなかった 「動詞句」
Er エア pron 彼は 「主語」
sagte: サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」

「あのね... 僕が地上に降りて... 明日で 1 年になるんだ...」

»Du weißt, mein Sturz auf die Erde... Morgen wird es ein Jahr sein...«
《「呼びかけ」「主語」...「副詞」「動詞句」「主語」「補語」》
»Du weißt, トゥ・ウァイスト adv. (注意喚起・呼びかけ) あのね、いいかい 「呼びかけ」
mein Sturz マイン・シュトルツ n.m 僕の転落は 「主語」
auf die Erde... アウフ・デア・エーアデ adv. 地上への 「副詞句」
Morgen モアゲン adv. 明日は 「副詞」
wird ...sein...« ヲァイト...ザイン 3 単末(werden+不定詞)v.i ～になるだろう 「動詞句」
es エス pron それは 「主語」
ein Jahr アイン・ヤール n.n.1 格 1 年 「補語」

XXV

それから、少し黙ってから、さらに言った：

Dann, nach einem Schweigen, sagte er noch: 「副詞句」, 「動詞」 「主語」 「副詞」
 Dann, ダン adv. それから 「副詞」
 nach ナハ prep. (3格と) (時間) ~の後で 「副詞句」
 einem Schweigen, アイネム・シュヴァイゲン n.n.3格 いくらかの沈黙 「目的語」
 sagte サークテ 3単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 er エア pron 彼は 「主語」
 noch: ノッホ adv. (追加) さらに、まだ 「副詞」

「このすぐ近くに、僕は降りたんだ…」そして、彼は顔を赤らめた。

»Ich war ganz in der Nähe heruntergefallen...« Und er errötete.
 《「主語」 「動詞句」 「副詞句」 「動詞句」》, Und 「主語」 「動詞」
 »Ich イヒ pron 僕は 「主語」
 war ...heruntergefallen...« ヲアール...ハアルンター・ゲ・ファレン 1単過・完了形(herunter|fallen)
 v.i 降りてきた、墜落した 「動詞句」
 ganz in der Nähe ガンツ・イン・デア・ネーエ adv. このすぐ近くに 「副詞句」
 Und ウント conj. そして
 er エア pron 彼は 「主語」
 errötete. エレーテテ 3単過(erröten)v.i 顔を赤らめた、赤面した 「動詞」

なぜか分からないが、また奇妙な心配事を感じた。その一方、僕に1つの問いが浮かんた。

Wieder fühlte ich einen merkwürdigen Kummer, ohne zu wissen warum. Indessen kam mir eine Frage:

「副詞」 「主語」 「動詞」 「目的語」 「副詞句」 | 「副詞」 「動詞」 「間接目的語」 「主語」
 Wieder ヲィーダー adv. またもや、再び 「副詞」
 fühlte フュールテ 1単過(fühlen)v.t 感じた 「動詞」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 einen merkwürdigen Kummer, アイネン・メアクワールテ・イゲン・クマー n.m 奇妙な心配事を 「目的語」
 merkwürdigen メアクワールテ・イゲン adj(merkwürdig).m.4格 奇妙な Kummer n.m 心配事
 ohne zu wissen オーネ・ツウ・ウィッセン ohne zu 不定句 adv. (譲歩) 分からないけれど 「副詞句」
 warum. ヲアールム adv. なぜか 「副詞」
 Indessen インデッセン adv. しかし、一方では 「副詞」
 kam カム 3単過(kommen)v.i (考えが) 浮かんた 「動詞」
 mir ミーア pron 僕に 「間接目的語」
 eine Frage: アイネ・フラーゲ n.f 1つの問いが 「主語」

XXV

「それじゃあ、1週間前に君と知り合ったあの朝に、すべての人の住む地域から 1000 マイルも離れたところであのように一人ぼっちで散歩していたのは、偶然ではなかったんだ！」

»Dann ist es kein Zufall, dass du am Morgen, da ich dich kennenlernte, vor acht Tagen, so ganz allein, tausend Meilen von allen bewohnten Gegenden entfernt, spazieren gingst?

《「副詞」「動詞」「補語」「主語」》

»Dann ダン adv. それでは

「副詞」

ist イスト 3 単現・疑問文(sein)v.i. ～なのか?

「動詞」

es エス pron 仮の主語 (真の主語は dass 以降)

kein Zufall, カイン・ツーフアル n.m.1 格 偶然～でない

「補語」

dass ダス conj. ～ということは

「主語」

du トゥ pron 君が

「主語」

am Morgen, アム・モアゲン adv. あの朝に

「副詞句」

da ダー adv. (時間) ～する時に

「副詞節」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

dich デイヒ pron.4 格 君と

「目的語」

kennenlernte, ケネン・レアンテ 1 単過(kennen | lernen)

v.t(j-4 と) 知り合った

「動詞句」

vor acht Tagen, フォア・アハト・ターゲン adv. 1週間前に

「副詞句」

so ganz allein, ザー・ガンツ・アライン adv. あのようにたった一人ぼっちで

「副詞句」

tausend Meilen タゼント・マイル adv. 1000 マイルのところで

「副詞句」

von allen bewohnten Gegenden フォン・アレン・ベヴァー・オンテン・ゲーゲンテン

adv. すべての人の住む地域から

「副詞句」

entfernt, エントフェアント adj. 離れた

「形容詞」

spazieren gingst? シュパ ツィーレン・ギングスト 2 単過(gehen+不定詞 spazieren)

v.i 散歩していた

「動詞句」

「君は、不時着した場所に戻ろうとしていたんだね？」

Du kehrtest zu dem Punkt zurück, wohin du gefallen warst?«

《「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」「副詞節」》

Du トゥ pron 君は

「主語」

kehrtest ...zurück, ケアテスト...ツリュック 2 単過(zurück | kehren)v.i 戻ってきた

「動詞句」

zu dem Punkt ツー・デーム・プンクト adv. (位置) その場所に、地点に

「副詞句」

wohin ウォヒン adv. ～するところへ

「副詞節」

du トゥ pron 君が

「主語」

gefallen warst?« ケファレン・ヴァールスト 2 単過・完了形(fallen)

v.i 不時着した

「動詞句」

XXV

王子さまは、先ほどよりもっと顔を赤らめた。

Der kleine Prinz errötete noch mehr.

「主語」「動詞」「副詞句」

Der kleine Prinz デア・クライネ・プリンツ n.m 王子さまは

「主語」

errötete エレーテ 3 単過(erröten)v.i 顔を赤らめた、赤面した

「動詞」

noch mehr. ノッホ・メヤ adv. 先ほどよりも

「副詞句」

noch ノッホ adv. さらに mehr メヤ adv. より以上に、もっと

それで僕はためらいながら付け加えた：「もしかすると、記念日だったから？」

Und ich fügte zögernd hinzu: »Vielleicht war es der Jahrestag?...«

Und 「主語」「動詞句」「副詞」「動詞句」：《「副詞」「動詞」「主語」「補語」》

Und ウント conj. そして

ich イヒ pron 僕は

「主語」

fügte ...hinzu: フュクテ...ヒンツ 1 単過(hinzu|fügen)v.t 付け加えた

「動詞句」

zögernd ツェーゲアント 現在分詞・同時(zögern)adv. ためらいながら

「副詞」

»Vielleicht フライヒト adv. もしかしたら

「副詞」

war ヲアール 3 単過(sein)v.i ~ だった

「動詞」

es エス pron それは

「主語」

der Jahrestag?...« デア・ヤーレスターク n.m.1 格 記念日

「補語」

もう一度、王子さまは顔を赤らめた。

Von Neuem errötete der kleine Prinz.

「副詞句」「動詞」「主語」

Von Neuem フォン・ノイム adv. 改めて、もう一度

「副詞句」

errötete エレーテ 3 単過(erröten)v.i 顔を赤らめた、赤面した

「動詞」

der kleine Prinz. デア・クライネ・プリンツ n.m 王子さまは

「主語」

彼は質問には決して答えないけれど、赤面する時は、“はい” という事なんだよね？

Er antwortete nie auf die Fragen, aber wenn man errötet, so bedeutet das 'ja', nicht wahr?

「主語」「動詞句」「間接目的語」, aber 「副詞節」, 「動詞句」「目的語」「念押し」

Er エア pron 彼は

「主語」

antwortete nie アントヴァアテ・ニー 3 単過・否定(antworten)v.i 決して答えなかった「動詞句」

auf die Fragen, アウフ・デー・フラーゲン adv. (対応) 質問に対して

「間接目的語」

aber アーバー conj. しかし

wenn ヲエン conj. ~するときは

「副詞節」

man マン pron 王子様が

「主語」

errötet, エレーテット 3 単現(erröten)v.i 赤面する

「動詞」

XXV

so bedeutet ソー・ベドゥー イット 3 単現(bedeutен)v.t (そのように) 意味する 「動詞句」
 das 'ja', ダス・ヤー adv.(so...das...) “はい” と 「目的語」
 nicht wahr? ニヒト・ヴァール adv. (念押し) ね、そうでしょう? 「念押し」

「ああ！」と、僕は言った。「僕は心配だよ！」

»Ach«, sagte ich, »ich habe Angst!« 《「感嘆」》, 「動詞」「主語」, 《「主語」「動詞」「目的語」》
 »Ach«, アッハ int. ああ! 「感嘆」
 sagte サークテ 1 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 ich, イヒ pron 僕は 「主語」
 »ich イヒ pron 僕は 「主語」
 habe ハーベ 1 単現(haben)v.t 〜がある 「動詞」
 Angst!« アングスト n.f 不安、心配 「目的語」

しかし彼は答えた：

Aber er antwortete: Aber 「主語」「動詞」
 Aber アーバー conj. しかし
 er エア pron 彼は 「主語」
 antwortete: アントゥェアテ 3 単過(antworten)v.i 答えた 「動詞」

「君は今から仕事をしなくちゃいけないよ。また君の飛行機のところに戻らなくちゃいけないよ」

»Du musst jetzt arbeiten. Du musst wieder zu deiner Maschine zurückkehren.
 《「主語」「動詞句」「副詞」 | 「主語」「動詞句」「副詞句」》
 »Du ドゥ pron 君は 「主語」
 musst ...arbeiten. ムスト...アルハ イェン 2 単現・必要(müssen+不定詞)
 v.i 仕事をしなければならない 「動詞句」
 jetzt イェツト adv. 今から 「副詞」
 Du ドゥ pron 君は 「主語」
 musst ...zurückkehren. ムスト...ツリュックケーレン 2 単現・必要(müssen+不定詞)
 v.i 戻らなければならない 「動詞句」
 wieder ヴァーダー adv. また 「副詞」
 zu deiner Maschine ツー・ダ イー・マシーネ adv. 君の飛行機のところへ 「副詞句」

「僕はここで君を待っているよ。明日の夕方、また戻ってきてよ...」

Ich erwarte dich hier. Komm morgen abend wieder...
 《「主語」「動詞」「目的語」「副詞」 | 「動詞」「副詞句」》

XXV

Ich	イッヒ	pron	僕は	「主語」
erwarte	エアヴァルテ	1 単現(erwarten)	v.t 待っている	「動詞」
dich	ディッヒ	pron.4 格	君を	「目的語」
hier.	ヒア	adv.	ここで	「副詞」
Komm	コム	命・2 単現(kommen)	v.i 帰ってきなさい	「動詞」
morgen abend	モアゲン・アーベント	adv.	明日の夕方	「副詞句」
wieder...«	ヴィーダー	adv.	また、再び	「副詞」

しかし、僕は不安だった。僕はキツネのことを思い出していた。

Aber ich war beunruhigt. Ich erinnerte mich an den Fuchs.

Aber 「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞句」「間接目的語」

Aber アーバー conj. しかし

ich	イッヒ	pron	僕は	「主語」
war	ヴァール	1 単過(sein)	v.i ~ だった	「動詞」
beunruhigt.	ベウンルーヒト	過去分詞(beunruhigen)	adj. 不安な、心配な	「補語」
Ich	イッヒ	pron	僕は	「主語」
erinnerte mich	エアイネアテ・ミッヒ	1 単過(sich-4 erinnern)		
	v.pr(an et-4 何-4 のことを)		思い出していた	「動詞句」
an den Fuchs.	アン・テン・フクス	adv.	キツネのことを	「間接目的語」

飼いならされると、人は少し涙もろくなるものだ。

Man läuft Gefahr, ein bisschen zu weinen, wenn man sich hat zähmen lassen...

「主語」「動詞」「補語」, 「副詞節」

Man	マン	pron	人は	「主語」
läuft	レーフト	3 単現(laufen)	v.i ~に陥る癖がある、~へ行く癖がある	「動詞」
Gefahr,	ゲファール	n.f	危険	「補語」
adj.	(同格)		~するという	「形容詞句」
ein bisschen zu weinen,	アイン・ビッッシェン・ツウ・グアイネン			
	v.i		少し泣き出す	「動詞句」
wenn	ヴェン	conj.	(条件) ~すると、~するときは	「副詞節」
man	マン	pron	人は	「主語」
sich hat zähmen lassen...	ズィッヒ・ハット・ツェーメン・ラッセン	3 単現・完了形・使役・再帰・受動		
	(lassen+不定詞 sich-4 zähmen)	v.pr	飼いならされた	「動詞句」

XXVI

XXVI

井戸の横に、古い石壁の残骸があった。

Neben dem Brunnen stand die Ruine einer alten Steinmauer. 「副詞句」「動詞」「主語」

Neben ネーベン prep (3 格または 4 格と) ~の横に 「副詞句」

dem Brunnen デーム・ブルネン n.m.3 格 井戸の 「目的語」

stand シュタント 3 単過(stehen)v.i あった 「動詞」

die Ruine テーイー・ルーネ n.f.1 格 廃墟、残骸 「主語」

einer alten Steinmauer. アイナー・アルテン・シュタインマウアー n.f.2 格 古い石壁の 「形容詞句」

alten アルテン adj.f(alt).2 格 古い Steinmauer = Stein n.m 石 + Mauer n.f 壁

翌日の夕方、僕が仕事から戻ると、王子様がその石壁の上で両足を垂らして座っているのが遠くから見えた。

Als ich am nächsten Abend von meiner Arbeit zurückkam, sah ich von weitem meinen kleinen Prinzen da oben sitzen, mit herabhängenden Beinen.

「副詞節」, 「動詞」「主語」「副詞句」「目的語」「補語」

Als アルス conj. ~したとき 「副詞節」

ich イヒ pron 僕が 「主語」

am nächsten Abend アム・ネーヒステン・アーベント adv. (時点) 翌日の夕方に 「副詞句」

von meiner Arbeit フォン・マイナー・アルバイト adv. 仕事から 「副詞句」

zurückkam, ツュック・カム 1 単過(zurück|kommen)v.i 戻った 「動詞句」

sah サー 1 単過・知覚動詞(sehen)v.t(SVO+不定詞 O が~するのが) 見えた 「動詞」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

von weitem フォン・ヴァイテム adv. 遠くから 「副詞句」

meinen kleinen Prinzen マイネム・クライネン・プリンツェン n.m 王子様が 「目的語」

da oben ダー・オーベン adv. その(石壁の) 上に 「副詞句」

sitzen, シッツェン 不定詞・Prinzen の動作 v.i 座っている 「補語」

mit herabhängenden Beinen. ミット・ヘアラープ・ヘンゲンテン・ハイン

adv. (様態) 両足を垂らして 「副詞句」

herabhängenden ヘアラープ・ヘンゲンテン現在分詞 adj.n.pl(herabhängen).3 格 ~を垂らした

Beinen ハイン pl.n.n(Bein).3 格 足

さらに、彼が話している声が聞こえた：

Und hörte ihn sprechen:

Und 「動詞」「目的語」「補語」

Und ウント conj. そして

hörte ヘアテ 1 単過・知覚動詞(hören)v.t(SVO+不定詞 O が~するのが) 聞こえた 「動詞」

XXVI

ihn イン pron.4 格 彼が 「目的語」
 sprechen: シュプ^レヒェン 不定詞・ihn の動作 v.i 話す 「補語」

「じゃあ、もう覚えていないんだね？」と、彼は言った。「場所は、全くここじゃないよ！」

»Du erinnerst dich also nicht mehr?« sagte er. »Es ist nicht ganz genau hier!«
 《「主語」「動詞句」「副詞句」》, 「動詞」「主語」, 《「主語」「動詞」「補語」》
 »Du トゥ pron 君は 「主語」
erinnerst dich エリナースト・ディヒ 2 単現(sich-4 erinnern)v.pr 覚えている 「動詞句」
also アルゾー adv. それでは、それじゃあ 「副詞」
nicht mehr?« ニヒト・メア adv. もはや〜ない 「副詞句」
sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
er. エア pron 彼は 「主語」
 »Es エス pron それは (場所は) 「主語」
ist イスト 3 単現・否定(sein)v.i 〜である 「動詞」
nicht ganz genau hier!« ニヒト・ガント・ゲナウ・ヒア adv. 全くちょうどここ〜でない 「補語」
genau ゲナウ adv. まさに nicht ganz genau は hier を強く否定する

明らかに別の声が彼に答えた。それで彼は言い返した：

Zweifellos antwortete ihm eine andere Stimme, da er erwiderte:
 「副詞」「動詞」「間接目的語」「主語」, 「副詞」「主語」「動詞」
 Zweifellos ツヴァイフェロース adv. 間違いなく、明らかに 「副詞」
antwortete アントヴァアテテ 3 単過(antworten)v.i 答えた 「動詞」
ihm イム pron.3 格 彼に 「間接目的語」
eine andere Stimme, アイネ・アンデレ・シュティム n.f.1 格 別の声が 「主語」
da ダー adv. それで 「副詞」
er エア pron 彼は 「主語」
erwiderte: エアウイデアテ 3 単過(erwidern)v.t 言い返した 「動詞」

「だって！確かに日にちは合っているけど、場所は正確じゃない！」

»Doch! Doch! Es ist wohl der Tag, aber nicht genau der Ort...«
 《「応答」 | 「補語」「動詞」「主語」, aber 「補語」「主語」》
 »Doch! Doch! ドツホ・ドツホ adv. (反論の気持ちを表して) だって！ 「応答」
Es エス pron.1 格 それ 「補語」
ist イスト 3 単現(sein)v.i 〜である 「動詞」
wohl ウォール adv. (wohl...aber) たしかに 「副詞」
der Tag, デア・タク n.m.1 格 日にちは 「主語」

XXVI

aber アーバー conj. しかし

nicht genau ニヒト・ゲナウ adj. 正確でない

「補語」

der Ort...« デア・オト n.m.1 格 場所は

「主語」

僕は壁に向かって進み続けた。よく見て、耳を澄ましたが誰もいなかった。

Ich setzte meinen Weg zur Mauer fort. Ich sah und hörte niemanden.

「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」「動詞句」 | 「主語」「動詞句」「目的語」

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

setzte ...fort. セッツテ...フォート 1 単過(fort|setzen)v.t 続けた、継続した

「動詞句」

meinen Weg マイネン・ヴェーク n.m 僕の道筋を

「目的語」

zur Mauer ツーア・マウアー adv. 壁のほうへ

「副詞句」

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

sah サー 1 単過(sehen)v.t 見た

「動詞」

und ウント conj. そして

hörte ヘアテ 1 単過(hören)v.t 聞いた

「動詞」

niemanden. ニーマンデーン pron.4 格 誰も～ない

「目的語」

それでも王子さまはまた返事した：

Dennoch erwiderte der kleine Prinz von neuem:

「副詞」「動詞」「主語」「副詞句」

Dennoch デノッホ adv. それでも

「副詞」

erwiderte エウヴェアテ 3 単過(erwidern)v.t 返事した

「動詞」

der kleine Prinz デア・クライン・プリンツ n.m 王子さまは

「主語」

von neuem: フォン・ノイム adv. また、もう一度

「副詞句」

「そうだよ。君は砂の中のどこから僕の足跡が始まるかが分るよ。君はそこで僕を待ちさえすればいい。僕は今夜そこへ行くから」

»Gewiss. Du wirst sehen, wo meine Spur im Sand beginnt. Du brauchst mich nur dort zu erwarten. Ich werde heute nacht dort sein.«

《「応答」 | 「主語」「動詞句」「目的語」

「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」 | 「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」》

»Gewiss. ゲウイス adj. 確かな、確実な

「応答」

Du ドゥー pron 君は

「主語」

wirst sehen, ウィルスト・ゼーエン 2 単末・推量(werden+不定詞)v.t 分かるだろう

「動詞句」

wo ウー conj. どこで～するかということ

「目的語」

meine Spur マイネ・シュプアー n.f 僕の足跡が

「主語」

im Sand イム・ザント adv. 砂の中で

「副詞句」

XXVI

beginnt. ベギント 3 単現(beginnen)v.i 始まる	「動詞」
Du トゥー pron 君は	「主語」
brauchst ...nur dort zu erwarten. ブラウフスト...ヌーア・ト・アト・ツー・エアヴァルテン	
2 単現・制限(brauchen nur zu+不定詞)v.t そこで待ちさえすればよい	「動詞句」
dort ト・アト adv. そこで erwarten エアヴァルテン v.t 待つ	
mich ミヒ pron 僕を	「目的語」
Ich イヒ pron 僕は	「主語」
werde ...sein.« ヲアデ...ザイン 1 単未・予定(werden+不定詞)v.i いるだろう	「動詞句」
heute nacht dort ホテ・ナハト・ト・アト adv. 今晚そこに	「副詞句」

僕は壁から 20 メートル離れたところにいた、それでも相変わらず、何も見えなかった。

Ich war zwanzig Meter von der Mauer entfernt und sah immer noch nichts.

	「主語」「動詞」「副詞句」 und 「動詞」「副詞句」「目的語」
Ich イヒ pron 僕は	「主語」
war ヲアル 1 単過・存在(sein)v.i (副詞と) ~の場所にいた	「動詞」
zwanzig Meter ツヴァンツィヒ・メーター adv. 20 メートルのところに	「副詞句」
von der Mauer entfernt フォン・デア・マウアー・エントフェント adv. 壁から離れた	「副詞句」
und ウント conj. そして	
sah ザー 1 単過(sehen)v.t 見えた	「動詞」
immer noch イマー・ノッホ adv. 相変わらず、やはり	「副詞句」
nichts. ニヒツ pron 何も~ない	「目的語」

王子さまは少し黙り込んでから、さらに言った：

Der kleine Prinz sagte noch, nach einem kurzen Schweigen:

	「主語」「動詞句」「副詞句」「目的語」
Der kleine Prinz デア・クライネ・プリンツェン n.m 王子さまは	「主語」
sagte ザーケ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
noch, ノッホ adv. さらに	「副詞」
nach ナハ prep (3 格と) (時間) ~の後で	「副詞句」
einem kurzen アイネム・クルツェン adj.(kurz).n.3 格 短い	「形容詞句」
Schweigen: シュヴァイゲン n.n.3 格 沈黙の	「目的語」

「君は良い毒を持っているんだよね？僕をあまり長く苦しめないって、確かだよね？」

»Du hast gutes Gift? Bist du sicher, dass du mich nicht lange leiden lässt?«

	《「主語」「動詞」「目的語」 「動詞」「主語」「補語」「副詞節」
»Du トゥー pron 君は	「主語」

XXVI

hast	ハスト	2 単現・疑問文・確認(haben)v.t	持っているんだよね?	「動詞」
gutes	グーテス	adj.(gut).n.4 格	良い	「形容詞」
Gift?	ギフト	n.n.4 格	毒を、毒薬を	「目的語」
Bist	ビスト	2 単現・疑問文(sein)v.i	～でしょう?	「動詞」
du	トゥ	pron	君は	「主語」
sicher,	ズィチャー	adj.	確実な	「補語」
dass	ダス	conj.	～ということについては	「副詞節」
du	トゥ	pron	君は	「主語」
mich	ミヒ	pron	僕を	「目的語」
nicht lange leiden lässt?	ニヒ・ランゲ・ライデン・レスト	2 単現・使役・否定(lassen+不定詞+lange)		
v.t			あまり長く苦しめない	「動詞句」

僕は立ち止まり、胸が締め付けられる思いがしたが、やはり何も分からなかった。

Ich blieb stehen, und das Herz presste sich mir zusammen, aber ich verstand noch immer nicht.
「主語」「動詞句」,und「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」,
aber「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」

Ich	イヒ	pron	僕は	「主語」
blieb stehen,	ブリーフ・シュテーエン	1 単過・継続(bleiben+不定詞)		
v.i			立ち止まった、立ったままでいた	「動詞句」
und	ウント	conj.	そして	
das Herz	ダス・ハーツ	n.n	心臓が	「主語」
presste sich ...zusammen,	プレステ・ズィヒヒ...ツァメン	3 単過・再帰受動		
(sich-4 zusammen pressen)v.pr			締め付けられた	「動詞句」
mir	ミーア	pron	僕にとって	「間接目的語」
aber	アーバー	conj.	しかし	
ich	イヒ	pron	僕は	「主語」
verstand ...nicht.	フェアシュタント...ニヒト	1 単過・否定(verstehen)v.t	分からなかった	「動詞句」
noch immer	ノッホ・イマー	adv.(= immer noch)	依然として、やはり	「副詞句」

「さあ、あっちに行つて!」と、彼は言った。「僕は飛び降りたいんだ!」

»Jetzt geh weg«,	sagte er,	»ich will hinunterspringen!«		
			《「呼びかけ」「動詞句」》,「動詞」「主語」,《「主語」「動詞句」》	
»Jetzt	エッツト	adv.	さあ、今すぐ	「呼びかけ」
geh weg«,	ゲー・グェク	命・2 単現(weg gehen)v.i	あっちに行きなさい	「動詞句」
sagte	ザーケ	3 単過(sagen)v.t	言った	「動詞」
er,	エア	pron	彼は	「主語」

XXVI

»ich イヒ pron 僕は 「主語」
 will hinunterspringen!« ウィル・ヒンター・シュプリングェン 1 単現・願望(wollen+不定詞)
 v.i 飛び降りたい 「動詞句」
 hinunter- (分離前つづり 下へ) springen シュプリングェン v.i 跳ぶ、飛ぶ

それで、僕自身は視線を壁の下の方へ向けてみて、飛び上がってしまった！

Da richtete ich selbst den Blick auf den Fuß der Mauer, und ich machte einen Satz!
 「副詞」「動詞」「主語」「目的語」「副詞句」,und 「主語」「動詞」「目的語」
 Da ダー adv. その時に 「副詞」
 richtete リヒテ 1 単過(richten)v.t (方向に) 向けた 「動詞」
 ich selbst イヒ・ゼルフスト pron 僕自身は 「主語」
 den Blick デン・ブリック n.m.4 格 視線を 「目的語」
 auf アウフ prep ~の上に 「副詞句」
 den Fuß デン・フース n.m.4 格 下部に 「目的語」
 der Mauer, デア・マウアー n.f.2 格 壁の 「形容詞句」
 und ウント conj. そして
 イヒ pron 僕は 「主語」
 machte マハテ 1 単過(machen)v.t (行動を) した 「動詞」
 einen Satz! アイネン・ザッツ n.m.4 格 跳躍を 「目的語」

そこにいたのだ。30 秒で人々を殺すあの黄色い蛇が 1 匹、王子様の方へ首をもたげて...

Da war, zum kleinen Prinzen emporgereckt, eine dieser gelben Schlangen, die euch in dreißig Sekunden erledigen...
 「副詞」「動詞」「副詞句」「主語」
 Da ダー adv. そこに 「副詞」
 war, ヴァール 3 単過・存在(sein)v.i ~がいた 「動詞」
 zum kleinen Prinzen ツム・クライネン・プリンツェン adv. 王子様の方へ 「副詞句」
 emporgereckt, エムポル・ゲレクト 過去分詞(empor+sich-4+rechen)
 v.pr 体を上に伸ばして 「動詞句」
 eine アイネ pron 1 匹が 「主語」
 dieser gelben Schlangen, ディーザー・ゲルベン・シュランゲン
 pl.n.f.2 格 黄色い蛇の 「形容詞句」
 die ディー pron.pl (主語) ~する 「形容詞節」
 euch オヒ pron.4 格 君たちを 「目的語」
 in dreißig Sekunden イン・ドライスイヒ・セクンデス adv. 30 秒で 「副詞句」
 erledigen... エアレーディゲン 3 複現 v.t 処理する、片付ける 「動詞」

XXVI

僕はピストルをさがしてポケットの中を引っ掻き回し、駆け出した。しかし僕が立てた物音で、蛇は、止まった噴水の水が砂の中に吸い込まれるようにゆっくりと滑り込んで行き、あまり急ぐ様子もなく、金属製の軽い音をたてて石の間をすりと潜り抜けていった。

Ich wühlte in meiner Tasche nach meinem Revolver und begann zu laufen, aber der Lärm, den ich machte, ließ die Schlange sachte in den Sand gleiten, wie ein Wasserstrahl, der stirbt, und ohne allzu große Eile schlüpfte sie mit einem leichten metallenen Klirren zwischen die Steine.

「主語」「動詞」「副詞句」「間接目的語」 und 「動詞句」,
 aber 「主語」「動詞」「目的語」「補語」, und 「副詞句」「動詞」「主語」「副詞句」
 Ich イット pron 僕は 「主語」
 wühlte ヴェールテ 1 単過(wühlen)v.i さぐった、引っ掻き回した 「動詞」
 in meiner Tasche イン・マイナー・タッシェ adv. ポケットの中を 「副詞句」
 nach meinem Revolver ナーハ・マイネム・レヴァー adv. ピストルを 「間接目的語」
 nach ナーハ prep (欲求の対象を示して) ～を求めて、～を目指して
 und ウント conj. そして
 begann zu laufen, ベガーン・ツウ・ラウフェン 1 単過・開始(beginnen zu+不定詞)
 v.i 駆け出した 「動詞句」
 aber アーバー conj. しかし
 der Lärm, デア・レアム n.m 騒音が 「主語」
 den ich machte, デン・イット・マハテ adj. 僕がたてた 「形容詞節」
 ließ リース 3 単過・使役(lassen)v.t (SVO+不定詞) O に～させた 「動詞」
 die Schlange ディー・シュランゲ n.f.4 格 蛇に 「目的語」
 sachte サハテ adv. ゆっくりと 「副詞」
 in den Sand イン・デン・ザント adv. 砂の中へ 「副詞句」
 gleiten, グライテン 不定詞・Schlange の動作 v.i 滑るように動く 「補語」
 wie ヴィー conj. ～のように 「副詞節」
 ein Wasserstrahl, アイン・ヴァッサー・シュトラール n.m 噴水が 「主語」
 der stirbt, デア・シュティアプト adj. 死んだ、止まった 「形容詞」
 und ウント conj. そして
 ohne オーネ prep ～なしに、～せずに 「副詞句」
 allzu große Eile アルツウ・グロセ・アイレ n.f 大急ぎ 「目的語」
 schlüpfte シュルプフテ 3 単過(schlüpfen)v.i すりりとくぐり抜けた 「動詞」
 sie ジー pron (Schlange の代用) 蛇は 「主語」
 mit ミット prep (様態・音) ～をたてて 「副詞句」
 einem leichten metallenen Klirren アイネム・ライヒテン・メタレネン・クリレン
 n.n.3 格 金属製の軽い音 「目的語」

XXVI

zwischen die Steine. ツァ イッシェン・デア・イー・シュタイネ adv. 石の間へ

「副詞句」

僕が壁に着いたとき、本当にぎりぎりで、王子様を両腕で受け止めることができた。彼は雪のように真っ青だった。

Gerade rechtzeitig kam ich zur Mauer, um meinen kleinen Burschen von einem Prinzen in meinen Armen aufzufangen; er war bleich wie der Schnee.

「副詞句」「動詞」「主語」「間接目的語」「副詞句」; 「主語」「動詞」「補語」

Gerade rechtzeitig ゲラーテ・レヒツァイツィヒ adv. まさにギリギリで

「副詞句」

gerade ゲラーテ adv. まさに～こそ rechtzeitig レヒツァイツィヒ adv. 時間に遅れずに

Ich kam gerade noch rechtzeitig. 私はぎりぎり間に合った。

kam カム 1 単過(kommen)v.i 着いた、やって来た

「動詞」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

zur Mauer, ツー・マウアー adv. 壁に

「間接目的語」

um zu 不定句 adv. (目的・結果) ～するために、そして～する

「副詞句」

um ...aufzufangen; ウム...アウフ・ツー・ファンゲン um+zu 不定詞(auf|fangen)

v.t 受け止める

「動詞句」

meinen kleinen Burschen マイネン・クライネン・ブルシェン n.m.4 格 少年を

「目的語」

Bursche ブルシェ n.m 若者、少年

von einem Prinzen フォン・アイネム・プリンツェン

adj. (付加語的 2 格名詞・同格) 王子である

「形容詞句」

in meinen Armen イン・マイネム・アルメン adv. 両手で

「副詞句」

er エア pron 彼は

「主語」

war ヴァール 3 単過(sein)v.i ～ だった

「動詞」

bleich ブラヒ adj. 青白い、蒼白な

「補語」

wie der Schnee. ヴィー・デア・シュネー adv. 雪のように

「副詞句」

「これはどういうことなんだい？今度は蛇と話しをするなんて！」

»Was sind das für Geschichten! Du sprichst jetzt mit Schlangen?!«

《「補語」「動詞」「主語」「補語」 | 「主語」「動詞」「副詞」「間接目的語」》

»Was ヴァス pron.pl どんなこと

「補語」

sind シント 3 単現(sein)v.i ～である

「動詞」

das ダス pron これは

「主語」

für Geschichten! フュア・ゲシヒテン adj. 話の、出来事の

「形容詞句」

Was für Geschichten sind das!

Du トゥー pron 君は

「主語」

sprichst シュプリヒト 2 単現(sprechen)v.i 話す

「動詞」

XXVI

jetzt イェツト adv. 今度は

「副詞」

mit Schlangen?!« ミット・シュランゲン adv. 蛇と

「間接目的語」

僕は王子様がいつも巻いている黄色のマフラーをほどいてあげた。

Ich hatte ihm sein ewiges gelbes Halstuch abgenommen.

「主語」「動詞句」「間接目的語」「直接目的語」

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

hatte ...abgenommen. ハッテ...アッブ・ゲ・ノメン 1 単過・完了形(ab|nehmen)

v.t 取り去った

「動詞句」

ihm イム pron 彼の

「間接目的語」

sein ewiges gelbes ザイン・エーウイゲス・ゲルベス

adj.n.4 格 彼のいつもの黄色の

「形容詞句」

Halstuch ハルストーフ n.n.4 格 マフラーを

「直接目的語」

僕は彼のこめかみを水で濡らしてから、水を飲ませた。

Ich hatte ihm die Schläfen genetzt und ihm zu trinken gegeben.

「主語」「動詞句」「間接目的語」「直接目的語」und「間接目的語」「動詞句」

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

hatte ...genetzt ハッテ...ゲネット 1 単過・完了形(netzen)v.t 湿らした

「動詞句」

ihm イム pron 彼の

「間接目的語」

die Schläfen テー・イー・シュレーフェン pl.n.f(Schläfe) こめかみを

「直接目的語」

und ウント conj. そして

ihm イム pron 彼に

「間接目的語」

zu trinken gegeben. ツー・トリンケン・ゲゲーベン 1 単過・完了形(zu 不定詞+geben)

v.t 飲ませた

「動詞句」

そして今となつては、これ以上彼に尋ねることはできなかった。

Und jetzt wagte ich nicht, ihn weiter zu fragen.

Und「副詞」「動詞句」「主語」「動詞句」

Und ウント conj. そして

jetzt イェツト adv. (過去時制の文で) 今は、今となつては

「副詞」

wagte ...nicht, ヴァークテ...ニヒト 1 単過・否定(wagen+zu 不定詞)

v. あえて～しなかった

「動詞句」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

zu 不定句 v. ～する

「動詞句」

ihn イン pron 彼に

「目的語」

XXVI

weiter ヲァイター adv. これ以上

「副詞」

zu fragen. ツー・フラーゲン zu 不定詞 v.t 尋ねる

「動詞句」

彼は深刻そうに僕を見つめて、両腕を僕の首の周りに巻き付けた。

Er schaute mich ernsthaft an und legte seine Arme um meinen Hals.

「主語」「動詞句」「目的語」「副詞」 und 「動詞」「目的語」「副詞句」

Er エア pron 彼は

「主語」

schaute ...an シャウテ...アン 3 単過(an|schauen)v.t 見つめた

「動詞句」

mich ミッヒ pron 僕を

「目的語」

ernsthaft エアンシュトハフト adv. 真剣に、深刻そうに

「副詞」

und ウント conj. そして

legte レーケ 3 単過(legen)v.t 置いた、あてがった

「動詞」

seine Arme サ イネ・アルメ pl.n.m 両腕を

「目的語」

um meinen Hals. ウム・マイネン・ハルス adv. 首の周りに

「副詞句」

僕は、猟銃で撃たれて死んでいく小鳥のように、彼の心臓の鼓動が乱れているのを感じた。

彼は僕に言った：

Ich fühlte sein Herz klopfen wie das eines sterbenden Vogels, den man mit der Flinte geschossen hat. Er sagte zu mir:

「主語」「動詞」「目的語」「補語」 | 「主語」「動詞」「間接目的語」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

fühlte フュールテ 1 単過・知覚動詞(fühlen)v.t(SVO+不定詞) (O が～するのを) 感じた「動詞」

sein Herz サ イン・ヘアツ n.n 彼の心臓が

「目的語」

klopfen クロップフェン 不定詞 v.t (心臓が) 鼓動する

「補語」

wie ヲイー conj. ～のように

「副詞句」

das ダス pron (Herz の代用) それ

「目的語」

eines sterbenden Vogels, アイネス・シュエアベンデン・フォーゲルス

n.n.2 格(Vogel) 死んでいく小鳥の

「形容詞句」

sterbend シュエアベント現在分詞(sterben)v.i 死んでいく

den テン pron (目的語) ～する

「形容詞節」

man マン pron 人が

「主語」

mit der Flinte ミット・デア・フリンテ

adv. 猟銃で

「副詞句」

geschossen hat. ゲショッセン・ハット 3 単現・完了形(schießen)

v.t 撃った

「動詞句」

Er エア pron 彼は

「主語」

XXVI

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

zu mir ツー・ミーア adv. 僕に

「間接目的語」

「僕は、君の機械のどこが悪いのかが分かって嬉しいよ。君は家に帰れるようになるんだね」

»Ich bin froh, dass du gefunden hast, was an deiner Maschine fehlte. Du wirst nach Hause zurückkehren können...«

《「主語」「動詞」「補語」, 「副詞節」 | 「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」》

»Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

bin ビン 1 単現(sein)v.i ~である

「動詞」

froh, フロー adj. 嬉しい

「補語」

dass ダス conj. ~なので

「副詞節」

du トゥー pron 君が

「主語」

gefunden hast, ゲフンデן・ハスト 2 単現・完了形(finden)v.t 見つけた

「動詞句」

was ヴァス pron 何が~するかということ

「目的語」

an deiner Maschine アン・ダ イナー・マシーネ adv. 君の機械で

「副詞句」

fehlte. フェールテ 3 単過(fehlen)v.i 悪い

「補語」

Du トゥー pron 君は

「主語」

wirst ...zurückkehren können...« ヴィルスト...ツリュック・ケーレン・ケネン 2 単未・可能(werden+不定詞)
v.i 帰れるようになる

「動詞句」

nach Hause ナーハ・ハウゼ adv. 家に

「間接目的語」

「どうして、それが分かったの？」

»Woher weißt du das?«

《「副詞」「動詞」「主語」「目的語」》

»Woher ヴォヘーア adv. どうして

「副詞」

weißt ヴァイスト 2 単現(wissen)v.t 知っている

「動詞」

du トゥー pron 君は

「主語」

das?« ダス pron それを

「目的語」

僕のあらゆる期待を裏切ってきた仕事がついにうまくいったことを、僕はちょうど彼に伝えるところだったのだ。

Ich hatte ihm gerade erzählen wollen, dass mir gegen alle Erwartungen meine Arbeit geglückt sei!

「主語」「動詞句」「間接目的語」「副詞」「直接目的語」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

hatte ... erzählen wollen, ハッテ...エアツェレン・ヴィョレン 1 単現・完了形・意思(wollen+不定詞)

v.t 伝えるところだった

「動詞句」

ihm イム pron.3 格 彼に

「間接目的語」

XXVI

gerade	ゲラーテ	adv.	まさに、ちょうど	「副詞」
dass	ダス	conj.	～ということを	「直接目的語」
mir	ミーア	pron	僕にとって	「間接目的語」
gegen	ゲーゲン	prep	(4 格と) ～に逆らった	「形容詞句」
alle Erwartungen	ゲーゲン・アレ・エアバルトウゲン			
pl.n.f	あらゆる期待		「目的語」	
meine Arbeit	マイネ・アルハイト	n.f	僕の仕事が	「主語」
geglückt sei!	ゲグリュクト・ザイ	接・3 単現・完了形・(glücken)		
v.i	うまくいった		「動詞句」	

彼は僕の問いかけには答えずに、話し続けた：

Er antwortete nicht auf meine Frage, fuhr aber fort:

「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」, 「動詞句」 aber 「動詞句」:

Er	エア	pron	彼は	「主語」
antwortete nicht	アントウ・ォアテ・ニヒト	3 単過・否定(antworten)v.i	答えなかった	「動詞句」
auf meine Frage,	アウフ・マイネ・フラーゲ	adv.	僕の質問に対して	「間接目的語」
fuhr ...fort:	フーア...フォルト	3 単過(fort fahren)v.i	話を続けた	「動詞句」
aber	アーバー	conj.	しかし	

「ぼくも今日、僕の所へ戻るんだよ...」

»Auch ich werde heute nach Hause zurückkehren...«

《「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」》

»Auch	アウフ	adv.	～も	「副詞」
ich	イチ	pron	僕は	「主語」
werde ...zurückkehren...	ウァ・エアテ ...ツリュック・ケーレン	1 単未(werden+不定詞)		
v.i	戻るよていだ		「動詞句」	
heute nach Hause	ホテ・ナーハ・ハウゼ	adv.	今日僕のところへ	「副詞句」

それから落ち込んだ様子で：

<u>Dann schwermütig:</u>				「副詞句」
Dann	ダン	adv.	それから	「副詞」
schwermütig:	シュウ・エアミュティヒ	adv.	落ち込んだ様子で	「副詞句」

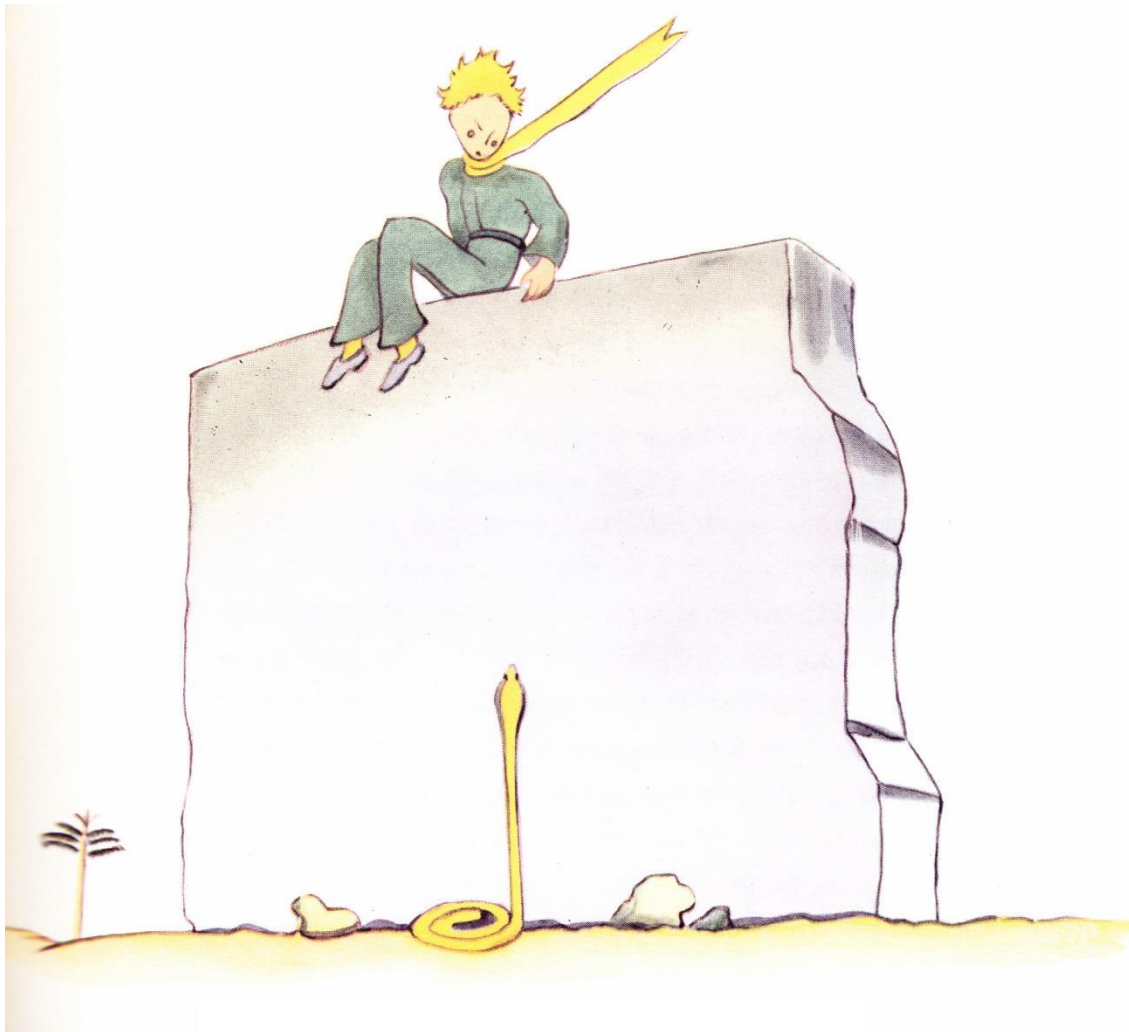
「君に比べたら、はるかに遠くて、はるかに困難なんだよ...」

»Das ist viel weiter... Das ist viel schwieriger...«

《「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞」「補語」》

XXVI

»Das ダス pron それは	「主語」
ist イスト 3 単現(sein)v.i 〜である	「動詞」
viel weiter... フィール・ヴァイター adj. はるかに遠い	「補語」
viel フィール adv. (比較級と) はるかに、ずっと weiter ヴァイター adj. (比較級) 遠い	
Das ダス pron それは	「主語」
ist イスト 3 単現(sein)v.i 〜である	「動詞」
viel schwieriger...« フィール・シュヴァーリガー adj. はるかに困難な	「補語」



僕は、何か只ならぬことが起こっていることがよく分かった。

<u>Ich fühlte wohl, dass etwas Außergewöhnliches vorging.</u>	「主語」「動詞句」「目的語」
Ich イッヒ pron 僕は	「主語」
fühlte wohl, フェールテ・ヴォール 1 単過(fühlen+ wohl)v.t よく分かった	「動詞句」
wohl ヴォール adv. 十分に、しっかり、よく	
dass ダス conj. 〜ということを	「目的語」
etwas Außergewöhnliches エトヴァス・アウサーゲヴァーンリヒエス	

XXVI

n.n.1 格 何か尋常でないことが

「主語」

Außergewöhnliches アウサーゲワェーンリヒェス adj.n.1 格 異常なこと

vorging. フォアギング 3 単過・時制の一致(vor|gehen)v.i 起こっている

「動詞句」

僕は彼を幼児のように両腕で抱きしめた。しかし、僕が彼を引き止めることができないままに、彼が真っ逆さまに深淵の中に落下して行くように思われた。

Ich schloß ihn fest in die Arme wie ein kleines Kind, und doch schien es mir, als stürzte er senkrecht in einen Abgrund, ohne dass ich imstande war, ihn zurückzuhalten...

「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」 und doch 「動詞句」「間接目的語」「副詞節」

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

schloß シュロース 1 単過(schließen)v.t 閉じ込めた

「動詞」

j-4 in die Arme schließen 「人-4 を抱きしめる」

ihn イン pron.4 格 彼を

「目的語」

fest フェスト adv. しっかりと

「副詞」

in die Arme イン・デー・アルメ adv. 両腕で

「副詞句」

wie ヱー conj. どのように

「副詞句」

ein kleines Kind, イン・クライネス・キント n.n.1 格 幼児

「目的語」

und ウント conj. そして

doch ドッホ conj. しかし

schien es シーン・エス 非人称・3 単過(es scheinen)

v.i (zu 不定句と) (～であるように) 思われた

「動詞句」

mir, ミア pron.3 格 僕には

「間接目的語」

als アルス conj. どのように

「副詞節」

stürzte シュトルツテ 3 単過・時制の一致(stürzen)v.i 落下する

「動詞」

er エア pron 彼が

「主語」

senkrecht センクレヒト adv. 垂直に、真っ逆さまに

「副詞」

in einen Abgrund, イン・アイネン・アプ グルント adv. 深淵の中に

「副詞句」

ohne オーネ prep (欠如) ～なしに

「副詞句」

dass ダス conj. ～ということ

「目的語」

ich イヒ pron 僕が

「主語」

imstande イムシュタンデ

adj. (zu 不定句) (～することが) できない

「補語」

war, ヴァール 1 単過・時制の一致(sein)v.i ～である

「動詞」

ihn zurückzuhalten... イン・ツリュック・ツェ・ハルテン zu 不定句(zurück|halten+ihn)

v.t 彼を引き止める

「動詞句」

XXVI

彼は真剣なまなざしで、ずっと遠方を見つめていた：

Sein Blick war ernst; er verlor sich in weiter Ferne:

「主語」「動詞」「補語」；「主語」「動詞句」「副詞句」

Sein Blick ザイン・ブリック n.m 彼の視線は

「主語」

war ヲアル 3 単過(sein)v.i ~ だった

「動詞」

ernst; エンスト adj. 真剣な、まじめな

「補語」

er エア pron それは

「主語」

verlor sich フェローア・ズィヒ 3 単過(sich-4 verlieren)

v.pr (in et-3 の中に) 消えてなくなっていた

「動詞句」

in weiter Ferne: イン・ヴァイター・フェネ adv. さらに遠方で

「副詞句」

weiter ヲヴァイター adj. これ以上の Ferne フェネ n.f 遠方

「君の羊を持っているよ。それに羊用の箱も持っている。そして口輪も持ってる…」

»Ich habe dein Schaf. Und ich habe die Kiste für das Schaf. Und ich habe den Maulkorb...«

《「主語」「動詞」「目的語」

Und 「主語」「動詞」「目的語」 | Und 「主語」「動詞」「目的語」》

»Ich イヒ pron 僕は

「主語」

habe ハーベ 1 単現(haben)v.t 持っている

「動詞」

dein Schaf. ダイン・シャフ n.n.4 格 君の羊を

「目的語」

Und ウント conj. そして

ich イヒ pron 僕は

「主語」

habe ハーベ 1 単現(haben)v.t 持っている

「動詞」

die Kiste ディー・キステ n.f.4 格 箱を

「目的語」

für das Schaf. フェア・ダス・シャフ adv. (目的) その羊用の

「副詞句」

Und ウント conj. そして

ich イヒ pron 僕は

「主語」

habe ハーベ 1 単現(haben)v.t 持っている

「動詞」

den Maulkorb...« デン・マウルコルプ n.m.4 格 口輪を

「目的語」

そう言って、彼は憂鬱そうに微笑んだ。

Und er lächelte schwermütig.

Und 「主語」「動詞」「副詞」

Und ウント conj. そして

er エア pron 彼は

「主語」

lächelte レヒェルテ 3 単過(lächeln)v.i 微笑んだ

「動詞」

schwermütig. シュヴァエミュティヒ adv. 憂鬱そうに

「副詞」

XXVI

僕は長い間待った。彼が少しずつ回復していると感じた。

Ich wartete lange. Ich fühlte, dass er sich mehr und mehr erwärmte:

「主語」「動詞」「副詞」 | 「主語」「動詞」「目的語」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

wartete ワアルテテ 1 単過(warten)v.i 待った

「動詞」

lange. ランゲ adv. 長く、長い間

「副詞」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

fühlte, フュールテ 1 単過(fühlen)v.t 感じた

「動詞」

dass ダス conj. ～ということを

「目的語」

er エア pron 彼が

「主語」

sich ...erwärmte: スィッヒ...エルヴエームテ 3 単過・時制の一致(sich-4 erwärmen)

v.pr 回復している、暖まっている

「動詞句」

mehr und mehr メア・ウント・メア adv. 少しずつ、しだいに、だんだんと

「副詞句」

「坊や！君は怖かったんだね...」

»Kleiner Bursche, du hast Angst gehabt...«

《「呼びかけ」, 「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」》

»Kleiner Bursche, クライナー・ブルシェ n.m 坊や、小さい少年

「呼びかけ」

du トゥ pron 君は

「主語」

hast ...gehabt...« ハスト...ゲハプト 2 単現・完了形・推測(haben)

v.t (心身の状態) ～だった

「動詞句」

Angst アングスト n.f.4 格 おそれ、不安、心配

「目的語」

もちろん、彼は怖かった！けれども、静かに笑った。

Er hatte Angst gehabt, ganz gewiss! Aber er lachte sanft:

「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」 | Aber 「主語」「動詞」「副詞」

Er エア pron 彼は

「主語」

hatte ...gehabt, ハッテ...ゲハプト 3 単過・完了形(haben)

v.t (心身の状態) ～だった

「動詞句」

Angst アングスト n.f.4 格 おそれ、不安、心配

「目的語」

ganz gewiss! ガンツ・ゲヴィス adv. もちろん

「副詞句」

Aber アーバー conj. しかし

er エア pron 彼は

「主語」

lachte ラハテ 3 単過(lachen)v.i 笑った

「動詞」

sanft: ザンフト adv. 静かに

「副詞」

XXVI

「今夜は、もっとずっと恐ろしいだろうな...」

»Ich werde heute abend noch viel mehr Angst haben...«

《「主語」「動詞句」「副詞句」「目的語」「動詞句」》

»Ich イヒ pron 僕は

「主語」

werde ...haben...« ウェアデ...ハーベン 1 単末(werden+不定詞 haben)

v.t (心身状態に) なるだろう

「動詞句」

heute abend ホテ・アーベント adv. 今夜は

「副詞句」

noch viel mehr ノッホ・フィール・メア adj. さらにずっと多くの

「形容詞句」

Angst アングスト n.f 恐れ、不安、心配

「目的語」

再び僕の背中に氷のような寒気が襲ってきて、僕にはもう避けられないのだと感じた。

Wieder lief es mir eisig über den Rücken bei dem Gefühl des Unabwendbaren.

「副詞」「動詞」「主語」「間接目的語」「副詞句」

Wieder ウィーダー adv. 再び、またもや

「副詞」

lief リーフ 3 単過(laufen)v.i やって来た

「動詞」

es エス pron それは

「主語」

mir ミア pron 僕に

「間接目的語」

eisig アイズィヒ adv. 氷のように冷たく

「副詞」

über ユーバー prep (3 格または 4 格と) ~の上に

「副詞句」

den Rücken デン・リュッケン n.m.4 格 背中

「目的語」

bei dem Gefühl バイ・デーム・ゲフュール adv. (不随・結果) 感情を伴って

「副詞句」

des Unabwendbaren. デス・ウンアップ・ウェントバーレン adj. 不可抗力の

「形容詞句」

unabwendabr ウンアップ・ウェントバーレン adj. 避けられない → 中性名詞化 → 2 格

この笑い声を二度と聞くことができないということ——それは、そう考えることさえ僕には耐えられないことなのだと思います。

Diese Lachen nie mehr zu hören - ich begriff, dass ich den Gedanken nicht ertrug.

「主語」 --- 「主語」「動詞」「目的語」

Diese Lachen デーイーゼ・ラーヘン n.n.4 格 (目的語) この笑い声を~すること

「主語」

nie mehr ニー・メヤ adv. もう二度と~ない

「副詞句」

zu hören ツーヘーレン zu 不定詞 v.t 聞く

「動詞句」

- ich イヒ pron 僕は

「主語」

begriff, ベグリフ 1 単過(begreifen)v.t 分かった、理解する

「動詞」

dass ダス conj. ~ということ

「目的語」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

den Gedanken デン・ゲダンケン n.m.4 格 その考えを

「目的語」

XXVI

nicht ertrug. ニヒト・ニヒト・エアトゥルク 1 単過・否定・時制の一致(ertragen)

v.t 耐えられない

「動詞句」

あの笑い声は、僕にとっては、砂漠の中の井戸みたいなものだったんだ。

Es war für mich wie ein Brunnen in der Wüste. 「主語」「動詞」「間接目的語」「補語」

Es エス pron それは 「主語」

war ヲアール 3 単過(sein)v.i ~ だった 「動詞」

für mich フューア・ミヒ adv. 僕にとって 「間接目的語」

wie ヲイー conj. ~のような 「補語」

ein Brunnen アイン・ブルネン n.m 井戸 「目的語」

in der Wüste. イン・デア・ウエステ adv. 砂漠の中の 「副詞句」

「坊や、僕は君が笑う声をもっと聞きたいよ...」

»Kleiner Bursche, ich will dich noch lachen hören...«

《「呼びかけ」, 「主語」「動詞句」「目的語」「副詞」「補語」「動詞句」》

»Kleiner Bursche, クライナー・ブルシェ n.m 小さい少年、坊や 「呼びかけ」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

will ...hören...« ヲイル...ヘレン 1 単現・願望・知覚動詞(wollen+不定詞 hören)

v.t 聞きたい 「動詞句」

dich デイヒ pron 君が 「目的語」

noch ノッホ adv. (追加) さらに、もっと 「副詞」

lachen ラッヘン 不定詞・dich の動作 v.i 笑う 「補語」

しかし、彼は僕に言った：

Aber er sagte zu mir:

Aber 「主語」「動詞」「間接目的語」

Aber アーバー conj. しかし

er エア pron 彼は 「主語」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」

zu mir: ツー・ミーア adv. 僕に 「間接目的語」

「今夜で、1 年になる...」

»Diese Nacht wird es ein Jahr.

《「副詞句」, 「動詞」「主語」「補語」》

»Diese Nacht デイゼ・ナハト n.f 今夜 「副詞句」

wird ヲイルト 3 単現・変化(werden)v.i ~になる 「動詞」

es エス pron 時間が 「主語」

ein Jahr. アイン・ヤール n.n.1 格 1 年 「補語」

XXVI

「僕の星は、僕が去年降り立った場所のちょうど真上に来るだろう...」

Mein Stern wird sich gerade über dem Ort befinden, wo ich letztes Jahr gelandet bin...«

《「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」,「形容詞節」》

Mein Stern マイン・シュテルン n.m 僕の星は

「主語」

wird sich ...befinden, ヴィルト・ズィット...ベフィンデン 3 単未・再帰動詞(werden+不定詞)

v.pr (～の場所に) あるだろう

「動詞句」

gerade ゲラーデ adv. ちょうど

「副詞」

über dem Ort ユーバー・デー・オルト adv. 場所の上に

「副詞句」

wo ヴォ adv. そこに～する

「形容詞節」

ich イヒ pron 僕が

「主語」

letztes Jahr レッツテ・ヤール adv. 去年

「副詞句」

gelandet bin...« ゲランデット・ビン 1 単現・完了形(landen)

v.i 着陸した

「動詞句」

「坊や、蛇や、待ち合わせ場所や、星などという話はただの悪い夢だと、言って欲しい！」

»Kleiner Mann, sag mir, dass sie nur ein böser Traum ist, diese Geschichte mit der Schlange und dem Treffpunkt und dem Stern...«

《「呼びかけ」,「動詞」「間接目的語」「直接目的語」》

»Kleiner Mann, クライナー・マン n.m 坊や

「呼びかけ」

sag サーク 命・2 単現(sagen)v.t 言ってくれ

「動詞」

mir, ミア pron 僕に

「間接目的語」

dass ダス conj. ～ということ

「直接目的語」

sie シー pron 仮の主語 (真の主語は diese Geschichte 以降)

nur ヌーア adv. ～でしかない

「副詞」

ein böser Traum アイン・ベーザー・トラウム n.m.1 格 悪い夢

「補語」

ist, イスト 3 単現(sein)v.i ～である

「動詞」

diese Geschichte デーゼ・ゲシヒテ n.f この話は

「主語」

mit ミット prep (関連) ～に関する、～を含んだ

「副詞句」

der Schlange デア・シュランゲ n.f.3 格 蛇に

「目的語」

und ウント conj. そして

dem Treffpunkt デーム・トレフ・ンクト

n.m.3 格 待ち合わせ場所に

「目的語」

und ウント conj. そして

dem Stern...« デーム・シュテルン n.m.3 格 星に

「目的語」

XXVI

しかし彼は僕の質問に答えず、言った：

Aber er antwortete nicht auf meine Frage. Er sagte:

Aber 「主語」「動詞句」「間接目的語」 | 「主語」「動詞」

Aber アーバー conj. しかし

er エア pron 彼は 「主語」

antwortete nicht アントワァアテ・ニヒト 3 単過・否定(antworten)v.i 答えなかった 「動詞句」

auf meine Frage. アウフ・マイン・フラーゲ adv. 僕の質問に 「間接目的語」

Er エア pron 彼は 「主語」

sagte: サーケ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」

「大切なことは、人には見えないんだよ」「その通りだね...」

»Was wichtig ist, sieht man nicht...« »Gewiss...«

《「主語」「動詞」「補語」》 | 《「応答」》

»Was wichtig ヴァス・ワヒティヒ pron 大切なことは 「主語」

ist, イスト 3 単現(sein)v.i ~である 「動詞」

sieht ...nicht...« シート...ニヒト 3 単現・否定 n. 見えないということ 「補語」

man マン pron 人は 「主語」

»Gewiss...« ゲヴィス adv. その通り 「応答」

「それはあの花についてと同じだね」

»Das ist wie mit der Blume.

《「主語」「動詞」「補語」》

»Das ダス pron それは 「主語」

ist イスト (sein)v.i ~である 「動詞」

wie mit der Blume. ヴァー・ミット・デア・ブルーメ adv. あの花についてと同様の 「補語」

「君がどこかの星にある花が好きになったら、夜に空を眺めることが喜びになる。」

Wenn du eine Blume liebst, die auf einem Stern wohnt, so ist es süß, bei Nacht den Himmel zu betrachten.

《「副詞節」,so「動詞」「補語」「主語」》

Wenn ヴェン conj. ~するとき、~すると 「副詞節」

du トゥ pron 君が 「主語」

eine Blume アイネ・ブルーメ n.f ある花を 「目的語」

liebst, リーブスト 2 単現(lieben)v.t 愛する、好きになる 「動詞」

die デー pron (主語) ~する 「形容詞節」

auf einem Stern アウフ・アイネム・シュテアン adv. ある星に 「副詞句」

wohnt, ヴォント 3 単現(wohnen)v.i 住んでいる 「動詞」

so ザー conj. そうすると

XXVI

ist イスト 3 単現(sein)v.i	～である	「動詞」
es エス pron	仮の主語 (真の主語は bei Nacht 以降)	
süß, シュース adj.	甘い、甘美な	「補語」
zu 不定詞 n.	～することは	「主語」
bei Nacht バイ・ナハト adv.	夜に	「副詞句」
den Himmel デン・ヒメル n.m.4 格	空を	「目的語」
zu betrachten. ツー・ベトラハテン 不定詞 v.t	眺める	「動詞句」

「すべての星が花盛りになる」

<u>Alle Sterne sind voll Blumen.</u> «	《「主語」「動詞」「補語」》	
Alle Sterne アレ・シュテアーネ pl.n.m	すべての星が	「主語」
sind ジント 3 複現・変化(sein)v.i	～になる	「動詞」
voll Blumen.« フォル・ブルメン adj.	花でいっぱいの	「補語」

「そうだね」

»Gewiss...«	「応答」
»Gewiss...« ゲウイス adv. その通り	「応答」

「それはあの水についてと同じだね」

» <u>Das ist wie mit dem Wasser.</u>	《「主語」「動詞」「補語」》
»Das ダス pron それは	「主語」
ist イスト (sein)v.i ～である	「動詞」
wie mit dem Wasser. ヱー・ミット・デー・ム・ヴァッサー adv. あの水についてと同様の	「補語」

「君が僕に飲ませてくれた水は、音楽のようだった。あの風や綱を覚えているね... あの水は美味しかった」

<u>Was du mir zu trinken gabst, war wie Musik, die Winde und das Seil... du erinnerst dich... es war gut.</u> «	《「主語」「動詞」「補語」, 「目的語」「主語」「動詞句」 「主語」「動詞」「補語」》
Was ヴァス pron (直接目的語) ～するものは	「主語」
du トゥ pron 君が	「主語」
mir ミー pron 僕に	「間接目的語」
zu trinken gabst, ツー・トリンケン・ガーブスト 2 単過・使役(geben+zu 不定詞)	
v.t 飲ませた	「動詞句」
zu 不定詞+geben 「～させる」	
war ヴァール 3 単過(sein)v.i ～ だった	「動詞」

XXVI

wie Musik, ヲィー・ムジーク	adv. 音楽のような	「補語」
die Winde ティー・ヴァインデ	pl.n.m.4 格 滑車を、巻き上げ機	「目的語」
und ウント conj.	そして	
das Seil... ダス・ザイル	n.n.4 格 綱を	「目的語」
du トゥ pron	君は	「主語」
erinnerst dich... エイアースト・ディヒ	2 単現(sich-4 erinnern)v.pr 覚えている	「動詞句」
es エス pron	あれは	「主語」
war ヲァール	3 単過(sein)v.i ~ だった	「動詞」
gut.« グート	adj. 美味しい	「補語」

フランス語の原文では：

ぼくが飲ませてもらったあの水は、滑車の綱のおかげで音楽のようなものだった。... ほら、覚えているね... あの水は美味しかった。

Celle que tu m'as donnée à boire était comme **une musique, à cause de la poulie et de la corde ... tu te rappelles ... elle était bonne.**

音楽の原因として滑車と綱を挙げており、「覚えているね」は「水のうまさ」につながる。

ドイツ語の翻訳は、滑車と綱から音楽を連想させ、「水のうまさ」は「詠嘆」している。

「そうだね」

»Gewiss...«	「応答」
»Gewiss...« ゲウイス adj. 確かな、adv. その通り	「応答」

「夜には、星を見つめて欲しい」

»Du wirst in der Nacht die Sterne anschauen.

《「主語」「動詞句」「副詞句」「目的語」「動詞句」》

»Du トゥ pron	君は	「主語」
wirst ...anschauen.	ヴァイルスト...アンシャウエン 2 単現・話者の要請(werden+不定詞)	
v.t	見つめて欲しい	「動詞句」
in der Nacht	イン・デア・ナハト adv.	「副詞句」
die Sterne	ティー・シュテアネ pl.n.m(Stern)	「目的語」

「僕の星は、小さ過ぎてどこにあるかを君に教えられない」

Mein Zuhause ist zu klein, um dir zeigen zu können, wo es sich befindet.

《「主語」「動詞」「補語」》

Mein Zuhause	マイン・ツァーハゥゼ	n.n	僕の故郷は、我が家は	「主語」
ist	イスト	3 単現(sein)v.i	~である	「動詞」
zu klein,	ツァー・クライン	adj.	小さすぎる	「補語」

フランス語の原文では：

XXVI

um ...zeigen zu können, ウム...ツァイゲン・ツウ・ケネ um zu 不定詞

adv. (目的) 教えることができるするために

「副詞句」

dir デイア pron 君に

「間接目的語」

wo ヲー adv. どこに～するかということ

「直接目的語」

es エス pron それが

「主語」

sich befindet. スィヒ・ベフィンドゥット 3 単現(sich-4 befinden)

v.pr (場所に) ある

「動詞句」

「そのほうがいいんだ。僕の星は、たくさんの星の中の一つになるだろうから」

Es ist besser so. Mein Stern wird für dich einer der Sterne sein.

《「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞句」「補語」》

Es エス pron それは

「主語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i ～である

「動詞」

besser ベッサー adj. よりよい

「補語」

so. ゴー adv. そのようなことは

「副詞」

Mein Stern マイン・シュテアン n.m 僕の星は

「主語」

wird ...sein. ヲィルト...ザイン 3 単半・変化(werden+不定詞)v.i ～になるだろう

「動詞句」

für dich フュア・デイヒ adv. 君にとって

「副詞句」

einer der Sterne アイナ・デア・シュテアネ pron 星々のうちのひとつ

「補語」

「そうすれば、君は喜んですべての星を眺めるだろう...」

Dann wirst du alle Sterne gern anschauen...

《「副詞」「動詞句」「主語」「目的語」「副詞」「動詞句」》

Dann ダン adv. そうすれば

「副詞」

wirst ...anschauen... ヲィルスト...アンシャウエン 2 単末(werden+不定詞)

v.t 見つめるだろう

「動詞句」

du トゥ pron 君は

「主語」

alle Sterne アル・シュテアネ pl.n.m すべての星を

「目的語」

gern ゲアン adv. 喜んで

「副詞」

et-4 gern tun 喜んで～をする

「星たちが皆、君の友達になるだろう。それから、君にプレゼントをあげるよ...」

Alle werden sie deine Freunde sein. Und dann werde ich dir ein Geschenk machen...

《「主語」「動詞句」「主語」「補語」「動詞句」

「副詞句」「動詞句」「主語」「間接目的語」「直接目的語」「動詞句」》

Alle アル pron すべての

「形容詞」

XXVI

werden ...sein. ヲヱアテン...ザイン 3 複未・推量・変化 v.i	～になるだろう	「動詞句」
sie シー pron.pl	星たちが	「主語」
deine Freunde ダイネ・フロインデ pl.n.m.1 格	君の友達	「補語」
Und dann ウント・ダン adv.	それから	「副詞句」
werde ...machen...« ヲヱアテ...マヘン 1 単現・意思(werden+不定詞)		
v.t (行動を) するつもりだ		「動詞句」
ich イヒ pron	僕は	「主語」
dir ディア pron	君に	「間接目的語」
ein Geschenk アイン・ゲシェンク n.n.4 格	贈り物を、プレゼントを	「直接目的語」

彼はまた笑った。

<u>Er lachte wieder.</u>	「主語」「動詞」「副詞」
Er エア pron 彼は	「主語」
lachte ラハテ 3 単過(lachen)v.i 笑った	「動詞」
wieder. ヲヱーダー adv. また、再び	「副詞」

「ああ！坊や！坊や！僕はその笑い声を聞くのが大好きなんだ！」

»Ach! Kleiner Bursche, kleiner Bursche! Ich höre diese Lachen so gern!«	《「感嘆」 「呼びかけ」 「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」》
»Ach! アッハ int. ああ	「感嘆」
Kleiner Bursche, クライナー・ブルシェ n.m.1 格 坊や	「呼びかけ」
kleiner Bursche! クライナー・ブルシェ n.m.1 格 坊や	「呼びかけ」
Ich イヒ pron 僕は	「主語」
höre ...so gern!« ヘレ...ゾー・ゲアン 1 単現・好み(hören)v.t 聞くのが大好きだ	「動詞句」
gern ゲアン adv. (好み) 好んで、喜んで et-4 gern tun 喜んで何-4 をする	
diese Lachen デイゼ・ラッヘン pl.n.n4 格 その笑い声を	「目的語」

「まさに僕の笑い声が、僕のプレゼントになるだろう... あの水みたいになるだろう...」

» <u>Gerade das wird mein Geschenk sein... Es wird sein wie mit dem Wasser...</u> «	《「主語」「動詞句」「補語」 「主語」「動詞句」「補語」》
»Gerade ゲラーデ adv. (das を強調) まさに	「副詞」
das ダス pron この笑い声が	「主語」
wird ...sein... ヲイルト...ザイン 3 単未・変化(werden+不定詞)v.i ~になるだろう	「動詞句」
mein Geschenk マイン・ゲシェンク n.n.1 格 僕のプレゼント	「補語」
Es エス pron それは	「主語」
wird sein ヲイルト・ザイン 3 単未・変化(werden+不定詞)v.i ~になるだろう	「動詞句」

XXVI

wie mit dem Wasser...« ヴァー・ミット・デー・ム・ヴァッサー adv. あの水みたいに 「補語」

「どういう意味なの？」

»Was willst du sagen?« 《「目的語」「動詞句」「主語」「動詞句」》

»Was ヴァス pron 何を 「目的語」

willst ...sagen?« ヴィルスト...ザーゲン 2 単現・意欲(wollen+不定詞)

v.t 言いたい 「動詞句」

du トゥ pron 君は 「主語」

「人々はいくつもの星を持っているけど、それは同じものではない」

»Die Leute haben Sterne, aber es sind nicht die gleichen.

《「主語」「動詞」「目的語」, aber 「主語」「動詞句」「補語」》

»Die Leute デー・ローテ pl.n 人々は 「主語」

haben ハーベン 3 複現 v.t 持っている 「動詞」

Sterne, シュテアネ pl.n.m(Stern) いくつもの星を 「目的語」

aber アーバー conj. しかし

es エス pron (性・数に関わらず前出の名詞を受けて) それは 「主語」

sind nicht シント・ニヒト 3 複現・否定(sein)v.i ~でない 「動詞句」

die gleichen. デー・グライヘン adj.pl.1 格(gleich) 同じもの 「補語」

「ある旅行者にとっては、星はガイドだ。」

Für die einen, die reisen, sind die Sterne Führer.

《「副詞句」, 「動詞」「主語」「補語」》

Für フュー prep (4 格と) (関連) ~にとっては 「副詞句」

die einen, die reisen, デー・アイネン・デー・ライゼン n.n.4 格 ある旅行者 「目的語」

sind シント 3 複現(sein)v.i ~である 「動詞」

die Sterne デー・シュテアネ pl.n.m(Stern) 星は 「主語」

Führer. フューラー pl.n.m.1 格 ガイド、道案内 「補語」

「他の人たちにとっては、星は小さな光でしかない」

Für andere sind sie nichts als kleine Lichter. 《「副詞句」, 「動詞」「主語」「補語」》

Für andere フュー・アンデレ adv. 他の人たちにとっては 「副詞句」

ander アンダー adj. その他の → andere アンデレ pl.pron 他の人たち

sind シント 3 複現(sein)v.i ~である 「動詞」

sie ジー pron.pl それらは 「主語」

nichts als kleine Lichter. ニヒツ・アルス・クライン・リヒター pl.n.n.1 格 小さな光に過ぎない 「補語」

XXVI

nichts als ... ～以外の何物でもない、～でしかない

「一方、別の学者たちにとっては、星は難題である」

Für wieder andere, die Gelehrten, sind es Probleme.

《「副詞句」、「動詞」「主語」「補語」》

Für wieder andere, die Gelehrten, フューア・ウィーダー・アンデレ・デー・ゲレーアテン

adv.(Gelehrte) 一方、別の学者たちにとっては

「副詞句」

sind シント 3 複現(sein)v.i ～である

「動詞」

es エス pron (性・数に関わらず前出の名詞を受けて) それは

「主語」

Probleme. プロブレメ pl.n.n.1 格 難題、課題

「補語」

「あの実業家にとっては、星は黄金だった」

Für meinen Geschäftsmann waren sie Gold.

《「副詞句」、「動詞」「主語」「補語」》

Für meinen Geschäftsmann フューア・マイネン・ゲシェフツマン adv. あの实業家にとっては「副詞句」

waren ヲアレ 3 複過(sein)v.i ～ だった

「動詞」

sie ジー pron.pl それらは

「主語」

Gold. ゴルト pl.n.n.1 格 金

「補語」

「だけど、これらの星はどれも口をきかないんだ。だから、君、君は誰も持っていない星を持つことになんるんだよ...」

Aber alle diese Sterne schweigen. Du, du wirst Sterne haben, wie sie niemand hat...«

《Aber「主語」「動詞」 | 「呼びかけ」「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」, 「形容詞節」》

Aber アーバー conj. しかし

alle diese Sterne アレ・デーゼ・ステアーネ pl.n.m これらの星はどれも

「主語」

schweigen. シュヴァイゲン 3 複現 v.i 黙っている、口を利かない、話をしない

「動詞」

Du, トゥ pron 君

「呼びかけ」

du トゥ pron 君は

「主語」

wirst ...haben, ヴィルスト...ハーベン 2 単末(wwerden+不定詞)v.t 持つだろう

「動詞句」

Sterne シュテアーネ pl.n.m(Stern) 星を

「目的語」

wie ヴィー conj. ～のような

「形容詞節」

sie ジー pron.pl それらを、星を

「目的語」

niemand ニーマント pron 誰も～ない

「主語」

hat...« ハット 3 単現(haben)v.t 持つ

「動詞」

XXVI

「どういう意味なの？」

»Was willst du sagen?« 《「目的語」「動詞句」「主語」「動詞句」》
 »Was ヲァス pron 何を 「目的語」
 willst ...sagen?« ヲァイルスト...ザーゲン 2 単現・意思・疑問文(wollen+不定詞)
 v.t 言うつもりなのか? 「動詞句」
 du トゥ pron 君は 「主語」

「もし君が夜に空を見つめたら、君にとっては、まるであらゆる星が笑っているみたいになるだろうな。だって、僕は空の星たちのどれかに住むのだから。だって、僕は空の星たちのどれかで笑うのだから」

»Wenn du bei Nacht den Himmel anschaust, wird es dir sein, als lachten alle Sterne, weil ich auf einem von ihnen wohne, weil ich auf einem von ihnen lache.
 《「副詞節」, 「動詞句」「主語」「間接目的語」「補語」, 「副詞節」》
 »Wenn ヲェン conj. (条件) もしも～ならば 「副詞節」
 du トゥ pron 君が 「主語」
 bei Nacht バイ・ナハト adv. 夜に 「副詞句」
 den Himmel デン・ヒメル n.m.4 格 空を 「目的語」
 anschaust, アン・シャウスト 2 単現(an|schauen)v.t 見つめる 「動詞句」
 wird... sein, ヲァイト...ザイン 3 単未・変化(werden+不定詞)
 v.i ～になるだろう 「動詞句」
 es エス pron それは 「主語」
 dir ディア pron 君にとって 「間接目的語」
 als アルス conj. あたかも～のように 「補語」
 lachten ラハテン 3 複過・時制の一致(lachen)v.i 笑っている 「動詞」
 alle Sterne, アル・シュテアーネ pl.n.m.1 格 すべての星が 「主語」
 weil ヲァイル conj. ～なので、というのは～ 「副詞節」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 auf einem von ihnen アウフ・アイネム・フォン・イーネン adv. それらの一つに 「副詞句」
 wohne, ヲォーネ 1 単現(wohnen)v.i 住む 「動詞」
 weil ヲァイル conj. ～なので、というのは～ 「副詞節」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 auf einem von ihnen アウフ・アイネム・フォン・イーネン adv. それらの1つで 「副詞句」
 lache. ラッハ 1 単現(lachen)v.i 笑う 「動詞」

XXVI

「君だけが、笑うことのできる星をもつことになるんだよ！」

Du allein wirst Sterne haben, die lachen können!«

《「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」,「形容詞節」》

Du allein ドゥ・アイン pron 君だけが

「主語」

allein アイン adv. ただ～だけ

Er allein ist meine Hilfe. 彼だけが私の頼りだ。

wirst ...haben, ヴィルスト...ハベン 2 単未・推量(werden+不定詞)

v.t 持つことになるだろう

「動詞句」

Sterne シュテアネ pl.n.m.4 格 星を

「目的語」

die デー pron.pl (主語) ～する

「形容詞節」

lachen können!« ラッヘン・ケネン 3 複現・可能(können+不定詞)

v.i 笑うことができる

「動詞句」

そう言って、彼はまた笑った。

Und er lachte wieder.

Und 「主語」「動詞」「副詞」

Und ウント conj. そして

er エア pron 彼は

「主語」

lachte ラフテ 3 単過(lachen)v.i 笑った

「動詞」

wieder. ヴィーダー adv. 再び、また

「副詞」

「それから、君が元気を取り戻したら（人はいつでも自分を元気づけるものだから）、君は僕と知り合いになったことを嬉しく思うだろう」

»Und wenn du dich getröstet hast (man tröstet sich immer), wirst du froh sein, mich gekannt zu haben.

《Und 「副詞節」(「主語」「動詞句」「副詞」),

「動詞句」「主語」「補語」「動詞句」,「副詞句」》

»Und ウント conj. そして

wenn ヴェン conj. ～するとき

「副詞節」

du ドゥ pron 君が

「主語」

dich getröstet hast ディッヒ・ゲトレスト・アスト 2 単現・完了形(sich-4 trösten)

v.pr 元気を取り戻した、自らを元気づける

「動詞句」

(man マン pron 人は

「主語」

tröstet sich トレスト・ズィッヒ v.pr 自らを元気づける

「動詞句」

immer), イマー adv. いつでも

「副詞」

wirst ...sein, ヴィルスト...ザイン 2 単未・変化(sein)v.i ～になるだろう

「動詞句」

du ドゥ pron 君は

「主語」

froh フロー adj. 嬉しい

「補語」

XXVI

adv. (理由) ～して 「副詞句」

mich ミッヒ pron 僕と 「目的語」

gekannt zu haben. ゲカント・ツァー・ハーベン zu 不定句・完了形(kennen)

v.t 知りあいになった 「動詞句」

「君は、これからずっと僕の友達だよ」

Du wirst immer mein Freund sein. 《「主語」「動詞句」「副詞」「補語」「動詞句」》

Du ドゥ pron 君は 「主語」

wirst ...sein. ヴィルスト...ザイン 2 単末・変化(sein)v.i ～になるだろう 「動詞句」

immer イマー adv. ずっと、いつでも 「副詞」

mein Freund マイン・フロイント n.m.1 格 僕の友達 「補語」

「君は僕と一緒に笑いたくなるよ」

Du wirst Lust haben, mit mir zu lachen.

《「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」, 「副詞句」》

Du ドゥ pron 君は 「主語」

wirst ...haben, ヴィルスト...ハーベン 2 単末(werden+不定詞)v.t ～を持つだろう 「動詞句」

Lust ルスト n.f.4 格 (～したい) 気持ちを 「目的語」

zu 不定句 adv. ～したい 「副詞句」

mit mir ミット・ミーア adv. 僕と一緒に 「副詞句」

zu lachen. ツァー・ラッヘン zu 不定詞 v.i 笑う 「動詞句」

「そして、時にはこんな風に、気晴らしに君の部屋の窓を開けてちょうだい...」

Und du wirst manchmal dein Fenster öffnen, gerade so, zum Vergnügen...

《Und 「主語」「動詞句」「副詞」「目的語」「動詞句」, 「副詞句」》

Und ウント conj. そして

du ドゥ pron 君は 「主語」

wirst ...öffnen, ヴィルスト...エフネン 2 単末・要請(werden+不定詞)v.t ～を開けてくれ 「動詞句」

manchmal マンヒマル adv. 時には 「副詞」

dein Fenster タイン・フェンスター n.n.4 格 君の部屋の窓を 「目的語」

gerade so, ゲラーデ・ゾー adv. まさにこんな風に 「副詞句」

gerade ゲラーデ adv. ちょうど、まさに so ゾー adv. そのように、そんな風に

zum Vergnügen... ツム・フェアグニューゲン adv. (目的) 楽しみのために 「副詞句」

XXVI

「すると君の友人たちは、君が空を見つめて笑うのを見て、とても驚くだろうな」

Und deine Freunde werden sehr erstaunt sein, wenn sie sehen, dass du den Himmel anblickst und lachst. 《Und 「主語」「動詞句」「補語」「動詞句」, 「副詞節」》

Und ウント conj. すると

deine Freunde ダイ・エイ・フロインデ pl.n.m(Freund) 君の友人たちは 「主語」

werden ...sein, ヴェア・ゼン...ザイン 3 複未・変化(werden+不定詞)v.i ~になるだろう 「動詞句」

sehr erstaunt セーア・エアシュタウト adj. とても驚いた 「補語」

wenn ヴェン conj. ~すると 「副詞節」

sie シー pron.pl 彼らが 「主語」

sehen, セーエン 3 複現 v.t 見る 「動詞」

dass ダス conj. ~ということ 「目的語」

du トゥ pron 君が 「主語」

den Himmel デン・ヒメル n.m.4 格 空を 「目的語」

anblickst アン・ブリクスト 2 単現(an|blicken)v.t 見つめる 「動詞句」

und ウント conj. そして

lachst. ラクスト 2 単現(lachen)v.i 笑う 「動詞」

「その時は、彼らにこう言えがいいよ：〈そうなんだ、僕は星を見るといつも笑いたくなるんだよ！〉」

Dann wirst du ihnen sagen: 'Ja, die Sterne, die bringen mich immer zum Lachen!'

《「副詞」「動詞句」「主語」「間接目的語」「動詞句」:

‘「応答」, 「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」’》

Dann ダン adv. それから、そうしたら、その時に 「副詞」

wirst ...sagen: ヴィルスト...ザーゲン 2 単未・要請(werden+不定詞)

v.t (〜と) 言えがいいよ 「動詞句」

du トゥ pron 君は 「主語」

ihnen イネン pron.pl.3 格 彼らに 「間接目的語」

'Ja, ヤー adv. (肯定) そうなんだ 「応答」

die Sterne, デー・シュテアネ pl.n.m(Stern) 星たちは 「主語」

die デー pron.pl 彼らは 「主語」

bringen ブリンゲン 3 複現 v.t(zu に) 連れていく 「動詞」

mich ミッヒ pron 僕を 「目的語」

immer イマー adv. いつも 「副詞」

zum Lachen! ツム・ラッヘン adv. 笑うことへ 「副詞句」

XXVI

「そうしたら、君の友達は君が気が狂ったと思うだろうな。」

Und sie werden dich für verrückt halten.

《Und 「主語」「動詞句」「目的語」「補語」「動詞句」》

Und ウント conj. そして

sie シー pron.pl 彼らは、友人たちは

「主語」

werden ...halten. ヴェアデェン...ハルテン 3 複未・推量(werden+不定詞 halten)

v.t 思うだろう

「動詞句」

dich ディヒ pron.4 格 君を

「目的語」

für verrückt フュア・フェアリュクト adv. (判断) 気が狂ったと

「補語」

「僕は君にひどい悪ふざけをしたことになるかもしれないね...」

Ich werde dir einen hübschen Streich gespielt haben...«

《「主語」「動詞句」「間接目的語」「直接目的語」「動詞句」》

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

werde ...gespielt haben...« ヴェアデェ...ゲシュピールト・ハーベェン 1 単未・完了形・推測

(werden+不定詞・完了形 spielen)v.t (ゲームを) したことになるかもしれない「動詞句」

dir ディア pron 君に

「間接目的語」

einen hübschen Streich アイン・ヒュブシェン・シュトラヒ n.m.4 格 ひどい悪ふざけを「直接目的語」

hübschen ヒュブシェン adj.m.4 格(hübsch) 相当の、かなりの、大変な

そう言って、彼はまた笑った。

Und er lachte wieder.

Und 「主語」「動詞」「副詞」

Und ウント conj. そして

er エア pron 彼は

「主語」

lachte ラハテ 3 単過(lachen)v.i 笑った

「動詞」

wieder. ヴィーダー adv. また

「副詞」

「そうすると、僕は君に、星の代わりに、笑うことのできる小さな鈴をたくさんプレゼントしたことになるだろうね...」

»Es wird sein, als hätte ich dir statt der Sterne eine Menge kleiner Glocken geschenkt, die lachen können...«

《「主語」「動詞」「副詞節」》

»Es エス pron それは

「主語」

wird sein, ヴィルト・ザイン 3 単未・推量・変化(sein)v.i ~になるだろう

「動詞」

als アルス conj. あたかも~であるかのように

「副詞節」

hätte ...geschenkt, ハッテ...ゲシェンクト 接・1 単現・完了形・推量(schenken)

v.t 贈った

「動詞句」

XXVI

ich イヒ pron 僕は	「主語」
dir ディア pron 君に	「間接目的語」
statt der Sterne シュタット・デア・シュテアネ adv. 星の代わりに	「副詞句」
eine Menge kleiner Glocken アイネ・メンゲ・クライトー・グロッケン n.f.4 格 たくさんの小さな鈴を	「直接目的語」
eine Menge アイネ・メンゲ n.f.4 格 多数を	
kleiner Glocken クライトー・グロッケン pl.n.f.2 格(Glocke) 小さな鈴の	
die ディー pron.pl (主語) (Glocken の代用) ～する	「形容詞節」
lachen können...« ラッヘン・ケネン 3 複現・可能(können+不定詞)	
v.i 笑うことができる	「動詞句」

そう言って、彼はさらに笑った。それから、彼はまた真顔に戻った。

Und er lachte noch immer. Dann wurde er wieder ernst:

Und 「主語」「動詞」「副詞句」 | 「副詞」「動詞」「主語」「補語」

Und ウント conj. そして

er エア pron 彼は	「主語」
lachte ラハテ 3 単過(lachen)v.i 笑った	「動詞」
noch immer. ノッホ・イマー adv. さらにまた	「副詞句」
Dann ダン adv. それから	「副詞」
wurde ウルテ 3 単過・変化(werden)v.i ～になった	「動詞」
er エア pron 彼は	「主語」
wieder ernst: ヴィーダー・エアンスト adj. またまじめな	「補語」

「今夜は... ねえ... 来ないでね!...」

» <u>Diese Nacht... weißt du... komm nicht!</u> «	《「副詞句」, 「呼びかけ」, 「動詞句」》
»Diese Nacht... ディーゼ・ナハト n.f 今夜は	「副詞句」
weißst du... ヴァイスト・ドゥ 2 単現・確認(wissen)v.t 君は分かるだろうね	「呼びかけ」
komm nicht!« コム・ニヒト 命・2 単現・否定・依頼(kommen)v.i 来ないでね!	「動詞句」

「僕は君から離れないよ」

» <u>Ich werde dich nicht verlassen</u> .«	《「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」》
»Ich イヒ pron 僕は	「主語」
werde ...nicht verlassen.« ヴェアデ ...ニヒト・フェアラッセン 1 単未・意思・否定(werden+不定詞)	
v.t (j-4 人-4 から) 離れない	「動詞句」
dich ディヒ pron.4 格 君から	「目的語」

XXVI

「僕は病気になったみたいに見えよ... 少し死にそうに見えるよ、こんな風に。見に来ないでね、来る必要はないよ」

»Es wird so aussehen, als wäre ich krank... ein bisschen, als stürbe ich. Das ist so. Komm nicht das anschauen, es ist nicht der Mühe...«

《「主語」「動詞句」「補語」「動詞句」, 「副詞節」

「主語」「動詞」「補語」 | 「動詞句」「動詞句」「目的語」, 「主語」「動詞」「補語」》

»Es エス pron 物事は 「主語」

wird ...aussehen, ヴェルト...アウス・ゼーエン 3 単未・予測(werden+不定詞 aussehen)

v.i 〜のように見えるだろう 「動詞句」

so ザー adv. そのように 「補語」

als アルス conj. まるで〜のように 「副詞節」

wäre ヴェーレ 接 II・1 単現・仮定・変化(sein)v.i 〜になった 「動詞」

ich イヒ pron 僕が 「主語」

krank... クランク adj. 病気の 「補語」

ein bisschen, アイン・ビッシェン adv. 少し 「副詞句」

als アルス conj. まるで〜のように 「副詞節」

stürbe シュテルヘ 接 II・1 単現・推測(sterben)v.i 死ぬ、死にそうな 「動詞」

ich. イヒ pron 僕が 「主語」

Das ダス pron それは 「主語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i 〜である 「動詞」

so. ザー adv. こんなふうに 「補語」

Komm nicht ...anschauen, コム・ニヒト...アンシャウエン 命・2 単現・否定・しに来る(kommen+不定詞)

v.i 見に来ないでね 「動詞句」

das ダス pron それを 「目的語」

es エス pron それは 「主語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i 〜である 「動詞」

nicht der Mühe...« ニヒト・デア・ミューデ n.f.2 格 骨折りの〜でない 「補語」

Das ist nicht der Mühe. それはやる必要がない

「僕は君から離れないよ」

»Ich werde dich nicht verlassen.« 《「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」》

»Ich イヒ pron 僕は 「主語」

werde ...nicht verlassen.« ヴェアデ...ニヒト・フェアラッセン 1 単未・意思・否定(werden+不定詞)

v.t (j-4 人-4 から) 離れない 「動詞句」

dich デイヒ pron.4 格 君から 「目的語」

XXVI

しかし彼は心配でたまらなかった。

Aber er war voll Sorge.

Aber 「主語」「動詞」「補語」

Aber アーバー conj. しかし

er エア pron 彼は

「主語」

war ヴァール 3 単過(sein)v.i ~ だった

「動詞」

voll Sorge. フォル・ゾアゲ n.f いっぱいの心配

「補語」

「僕は君に言っておくよ... あのへびのことがあるからね」

»Ich sage dir das... auch wegen der Schlange.

《「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」...「副詞句」》

»Ich イヒ pron 僕は

「主語」

sage サーゲ 1 単現(sagen)v.t 言う

「動詞」

dir ディア pron 君に

「間接目的語」

das... ダス pron これを

「直接目的語」

auch アウフ adv. ~もまた

「副詞」

wegen ヴェーゲン prep (2 格と) (理由) ~のために

「副詞句」

der Schlange. テア・シュランゲ n.f.2 格 ヘビ

「目的語」

「へびが君を噛むといけないからね。へびというのは、たちが悪いんだよ」

Sie darf dich nicht beißen... Die Schlangen sind böse.

《「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」 | 「主語」「動詞」「補語」》

Sie ジー pron.f ヘビが

「主語」

darf ...nicht beißen... ダルフ...ニヒト・バイエン 3 単現・許可・否定(dürfen+不定詞)

v.t 噛むといけない

「動詞句」

dich ディヒト pron 君を

「目的語」

Die Schlangen ティー・シュランゲン pl.n.f ヘビは

「主語」

sind シント 3 複現(sein)v.i ~である

「動詞」

böse. ベーゼ adj. (性質が) 悪い

「補語」

「彼らは面白半分に噛むかもしれないんだ」

Sie können zum Vergnügen beißen...«

《「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」》

Sie ジー pron.pl 彼らは

「主語」

können ...beißen...« ケン...バイエン 3 複現・推量(können+不定詞)

v.t 噛むかもしれない

「動詞句」

zum Vergnügen ツーム・フェアグニューゲン adv. 自分の楽しみのために

「副詞句」

XXVI

「僕は君から離れないよ」

»Ich werde dich nicht verlassen.«

《「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」》

»Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

werde ...nicht verlassen.« ウェアデ ...ニヒト・フェアッセン 1 単未・意思・否定(werden+不定詞)

v.t (j-4 人-4 から) 離れない

「動詞句」

dich ディッヒ pron.4 格 君から

「目的語」

しかし、何かが彼を落ち着かせた：

Aber etwas beruhigte ihn:

Aber 「主語」「動詞」「目的語」

Aber アーバー conj. しかし

etwas エトヴァス pron 何かが

「主語」

beruhigte ベルイクテ 3 単過(beruhigen)v.t 落ち着かせた

「動詞」

ihn: イン pron.4 格 彼を

「目的語」

「それは本当なんだ。ヘビは 2 回目に噛むときにはもう毒が無いんだ」

»Es ist wahr, sie haben für den zweiten Biss kein Gift mehr...«

《「主語」「動詞」「補語」, 「主語」「動詞」「副詞句」「目的語」》

»Es エス pron それは

「主語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である

「動詞」

wahr, ヴァール adj. 本当の

「補語」

sie ジー pron.f.pl ヘビたちは

「主語」

haben ハーベン 3 複現 v.t ~がある

「動詞」

für den zweiten Biss フェア・テン・ツヴァイトン・ビス adv. (時点) 2 回目に噛むときには「副詞句」

kein Gift カイン・ギフト n.n.4 格 毒が~ない

「目的語」

mehr...« メー adv. (否定文で) もはや

「副詞」

僕は、彼がその夜出かけて行く様子を見なかった。

Ich habe es nicht gesehen, wie er sich in der Nacht auf den Weg machte.

「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

habe ...nicht gesehen, ハーベ ...ニヒト・ゲゼーエン 1 単現・完了形・否定(sehen)

v.t 見なかった

「動詞句」

es エス pron 仮の目的語 (真の目的語は wie 以降)

wie ヴァー conj. ~の様子を

「目的語」

er エア pron 彼が

「主語」

sich ...auf den Weg ...machte. スィッヒ...アウフ・テン・ヴァーク...マハテ 3 単過

XXVI

(sich-4 auf den Weg machen)v.pr 出かけた、出発した 「動詞句」
 in der Nacht イン・デア・ナハト adv. その夜に 「副詞句」

彼は、音もなくそっと抜け出していたのだった。僕が彼に追いつくことが出来た時、彼は決然とした速い足取りで向こうに歩いていた。

Er war lautlos entwischt. Als es mir gelang, ihn einzuholen, marschierte er mit raschem, entschlossenem Schritt dahin.

「主語」「動詞句」「副詞」「動詞句」 | 「副詞節」, 「動詞」「主語」「副詞句」
 Er エア pron 彼は 「主語」
 war ...entwischt. ヲァール...ェントウヰント 3 単過・完了形(entwischen)
 v.i (するりと) 抜け出た 「動詞句」
 lautlos ラウトロース adv. 音もなく、物静かに 「副詞」
 Als アルス conj. (過去のある時点で) ~した時 「副詞節」
 es エス pron 仮の主語 (真の主語は ihn einzuholen)
 mir ミーア pron 僕にとって 「間接目的語」
 gelang, ゲラング 3 単過(gelingen)v.i 成功した 「動詞」
 zu 不定句 ~することが 「主語」
 ihn イン pron.4 格 彼に 「目的語」
 einzuholen, イン・ツァー・ホルン zu 不定詞(ein | holen)v.t 追いつく 「動詞句」
 marschierte マルシーアテ 3 単過(marschieren)v.i (早い歩調で) 歩いていた 「動詞」
 er エア pron 彼は 「主語」
 mit ミット prep (3 格と) (手段) ~によって 「副詞句」
 raschem, ラッシェム adj.m.3 格 速い 「形容詞」
 entschlossenem エントシュロッセム adj.m.3 格 決然たる 「形容詞」
 Schritt シュリット n.m.3 格 歩み 「目的語」
 dahin. ダヒン adv. そちらに 「副詞」

彼は、「ああ、ここまで来たの？」とだけ言った。

Er sagte nur: »Ah, du bist da...«

「主語」「動詞」「副詞」: 《「間投」「主語」「動詞」「副詞」》
 Er エア pron 彼は 「主語」
 sagte サーケ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 nur: ヌーア adv. ただ 「副詞」
 »Ah, アー int. ああ 「間投」
 du トゥ pron 君は 「主語」
 bist ビスト 2 単現・移動(sein)v.i 来た 「動詞」

XXVI

da...« ダー adv. ここに

「副詞」

そして王子さまは僕の手を取った。しかし、また苦しんだ。

Und er nahm mich bei der Hand. Aber er quälte sich noch:

Und 「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」 | Aber 「主語」「動詞句」「副詞」

Und ウント conj. そして

er エア pron 彼は

「主語」

nahm ナム 3 単過(nehmen)v.t つかんだ

「動詞」

mich ミッヒ pron 僕を

「目的語」

bei der Hand. バイ・デア・ハント adv. (接触点・部分) 手を

「副詞句」

Aber アーバー conj. しかし

er エア pron 彼は

「主語」

quälte sich クワェルテ・ズィッヒ 3 単過(sich-4 quälen)v.pr 苦しんだ

「動詞句」

noch: ノッホ adv. また、さらに、まだ

「副詞」



XXVI

「君は間違えたことをしたね。辛い思いをすることになるよ」

»Du hast nicht recht getan. Es wird dir Schmerz bereiten.

《「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」

「主語」「動詞句」「間接目的語」「直接目的語」「動詞句」》

»Du トゥ pron 君は 「主語」
 hast ...getan. ハスト...ゲタン 2 単現・完了形(tun)v.t (動作を) した 「動詞句」
 nicht recht ニヒト・レヒト adv. 間違えて 「副詞句」
 Es エス pron それは 「主語」
 wird ...bereiten. ヴィルト...ベライテン 3 単未・推測(werden+不定詞)v.t もたらすだろう 「動詞句」
 dir ディア pron 君に 「間接目的語」
 Schmerz シュメルツ n.m (精神的な) 苦痛を、苦悩 「直接目的語」

「僕は、まるで死んだようになるよ。だけど、それは本当じゃないんだよ」

Es wird aussehen, als wäre ich tot, und das wird nicht wahr sein...«

《「主語」「動詞句」「副詞節」,und「主語」「動詞句」「補語」》

Es エス pron それは 「主語」
 wird aussehen, ヴィアト・アウス・ゼーエン 3 単未・推測(werden+不定詞)
 v.i 〜のように見えるだろう 「動詞句」
 als +接続法 アルス conj. あたかも〜かのように 「副詞節」
 wäre ヴェーレ 接 II・1 単現(sein)v.i 〜である 「動詞」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 tot, トート adj. 死んだ 「補語」
 und ウント conj. そして
 das ダス pron それは 「主語」
 wird ...sein...« ヴィルト...ザイン 3 単未・推測(werden+不定詞)v.i 〜だろう 「動詞句」
 nicht wahr ニヒト・ヴァール adj. 本当の〜ない 「補語」

僕は黙っていた。

Ich schwieg. 「主語」「動詞」

Ich イヒ pron 僕は 「主語」

schwieg. シュヴァイク 1 単過(schweigen)v.i 黙っていた 「動詞」

「分かるね。遠すぎるんだ。この体をそこまで持って行けないんだ。重すぎるんだ」

»Du verstehst. Es ist zu weit. Ich kann diesen Leib da nicht mitnehmen. Er ist zu schwer.«

《「主語」「動詞」 | 「主語」「動詞」「補語」

「主語」「動詞句」「目的語」「副詞」「動詞句」 | 「主語」「動詞」「補語」》

XXVI

»Du トゥ pron 君は	「主語」
verstehst. フェアシュテースト 2 単現(verstehen)v.t 分かる、理解する	「動詞」
Es エス pron それは	「主語」
ist イスト 3 単現(sein)v.i 〜である	「動詞」
zu weit. ツー・ヴァイト adj. あまりに遠い、遠すぎる	「補語」
zu ツー adv. あまりに〜すぎる	
Ich イット pron 僕は	「主語」
kann ...nicht mitnehmen. カン...ニヒト・ミットネーメン 1 単現・可能・否定(können+不定詞)	
v.t 持っていくことができない	「動詞句」
diesen Leib ディーゼン・ライプ n.m この体を	「目的語」
da ダー adv. そこまで	「副詞」
Er エア pron (Leib の代用) それは	「主語」
ist イスト 3 単現(sein)v.i 〜である	「動詞」
zu schwer.« ツー・シュウ・ェア adj. 重すぎる	「補語」

僕は黙っていた。

<u>Ich schwieg.</u>	「主語」 「動詞」
Ich イット pron 僕は	「主語」
schwieg. シュウ・イク 1 単過(schweigen)v.i 黙っていた	「動詞」

「だけど、この体はやがて古い見捨てられた皮みたいに横たわるだろう。誰もそんな古い皮のことで悲しむことはないよ」

»Aber er wird daliegen wie eine alte verlassene Hülle. Man soll nicht traurig sein um solche alten Hüllen...«

《Abe 「主語」 「動詞句」 「副詞句」 | 「主語」 「動詞句」 「補語」 「動詞句」 「副詞句」》

»Aber アーバー conj. しかし

er エア pron (Leib の代用) この体は 「主語」

wird daliegen ヲィルト・ダー・リーゲン 3 単未・変化・推測(werden+不定詞)

v.i 横たわるだろう 「動詞句」

wie ヲィー conj. 〜のように 「副詞句」

eine alte verlassene Hülle. アイネ・アルテ・フェアラッセネ・フュレ

n.f.1 格 古い見捨てられた皮 「目的語」

alte アルテ adj(alt).f.1 格 古い verlassene フェアラッセネ adj(verlassen).f.1 格 見捨てられた

Hülle フュレ n.f.1 格 覆い、カバー、包み

Man マン pron 人は 「主語」

soll nicht ...sein ザル・ニヒト...ザイン 3 単現・意志・否定(sollen+不定詞)

XXVI

v.i ~でなくてよい 「動詞句」
 traurig トラウリヒ adj. 悲しい 「補語」
 um solche alten Hüllen...« ウム・ゾルヒェ・アルテン・フェレン
 adv. (関連) そんな古い皮のことで 「副詞句」

僕は黙っていた。

Ich schwieg. 「主語」「動詞」
 Ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 schwieg. シュヱイク 1 単過(schweigen)v.i 黙っていた 「動詞」

彼は少し気力が萎えてきていた。それでも何とか気持ちを奮い立てようとしていた：

Er verlor ein bisschen den Mut. Aber er gab sich noch Mühe:
 「主語」「動詞」「目的語」 | Aber 「主語」「動詞句」
 Er エア pron 彼は 「主語」
 verlor フェアロア 3 単過(verlieren)v.t 失った 「動詞」
 ein bisschen アイン・ビッシェン adj. 少しの 「形容詞句」
 den Mut. デン・ムート n.m.4 格 勇気を、気力を 「目的語」
 Aber アーバー conj. しかし
 er エア pron 彼は 「主語」
 gab sich noch Mühe: ガーフ・スィヒ・ノッホ・ミュエ 3 単過・努力(sich+3 Mühe gehben+noch)
 v.pr まだ努力していた 「動詞句」

「ねえ、とても素敵なことになるだろうね」

»Weißt du, es wird allerliebste sein. 《「呼びかけ」, 「主語」「動詞句」「補語」「動詞句」》
 »Weißt du, ヴァイスト・ドゥ adv. (話題転換) あのね、いいかい 「呼びかけ」
 es エス pron 状況は 「主語」
 wird ...sein. ヴァイルト...ザイン 3 単未・推測・変化(werden+不定詞 sein)
 v.i ~になるだろう 「動詞句」
 allerliebste アラープスト adj. 素敵な、こよなく愛らしい 「補語」

「僕も星を見つめる」

Auch ich werde die Sterne anschauen. 《「主語」「動詞句」「目的語」》
 Auch ich アウフ・イッヒ pron 僕も 「主語」
 werde ...anschauen. ヴァエテ...アンシャウエン 1 単未・意思(werden+不定詞 an|schauen)
 v.t 見つめる 「動詞句」

XXVI

die Sterne デー・イー・シュテアネ pl.n.m.4 格 星を

「目的語」

「すべての星が、巻き上げ機の付いた井戸になるだろう」

Alle Sterne werden Brunnen sein mit einer verrosteten Winde.

《「主語」「動詞句」「補語」「動詞句」「補語」》

Alle Sterne アレ・シュテアネ pl.n.m 全ての星が

「主語」

werden ...sein ウェアデーン...ザイン 3 複未・変化・推量(werden+不定詞 sein)

v.i ーになるだろう

「動詞句」

Brunnen ブルネン n.m.1 格 井戸に

「補語」

mit ミット prep (3 格と) (付属・様態) ーの付いた

「副詞句」

einer verrosteten Winde. アイアー・フェアロシュテテーン・ウインデ

n.n.3 格 錆びついた巻き上げ機

「目的語」

verrosteten フェアロシュテテーン 過去分詞(verrosten) adj(verrostet).f.3 格 錆びついた

Winde ウインデ n.f 巻き上げ機、ウィンチ、井戸の滑車

「すべての星が、僕に水を飲ませてくれるだろう」

Alle Sterne werden mir zu trinken geben...«

《「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」》

Alle Sterne アレ・シュテアネ pl.n.m 全ての星が

「主語」

werden ...zu trinken geben...« ウェアデーン...ツー・トリンケン・ゲーベン 3 複未・推量

(werden+不定詞)v.t 飲ませるだろう

「動詞句」

zu 不定詞+geben ーさせる

mir ミーア pron 僕に

「間接目的語」

僕は黙っていた。

Ich schwieg.

「主語」「動詞」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

schwieg. シュウエイク 1 単過(schweigen)v.i 黙っていた

「動詞」

「すごく面白いことになるだろうね。君は 5 億の鈴を持つことになり、僕は 5 億の泉を持つことになるんだ」

»Das wird so lustig sein! Du wirst fünfhundert Millionen Glocken haben, ich werde fünfhundert Millionen Brunnen haben...«

《「主語」「動詞句」「補語」「動詞句」

「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」, 「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」》

»Das ダス pron それは

「主語」

XXVI

wird ...sein! ヴァイルト...ザイン 3 単未・変化・推量(werden+不定詞 sein)

v.i ~になるだろう

「動詞句」

so lustig ソー・ルスティヒ adj. とても面白い

「補語」

Du ドゥ pron 君は

「主語」

wirst ...haben, ヴァイルスト...ハーベン 2 単未・推量(werden+不定詞 haben)

v.t 持つことになるだろう

「動詞句」

fünfhundert Millionen Glocken フェンフンダート・ミリオネン・グロッケン

pl.n.f.4 格 5 億の鈴を

「目的語」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

werde ...haben...« ヴェアデ...ハーベン 1 単未・推量(werden+不定詞 haben)

v.t 持つことになるだろう

「動詞句」

fünfhundert Millionen Brunnen フェンフンダート・ミリオネン・ブルネン

pl.n.m.4 格 5 億の泉を

「目的語」

そう言って、彼も黙り込んだ。それというのは、泣いていたから...

Und auch er schwie, weil er weinte...

Und 「主語」「動詞」, 「副詞節」

Und ウント conj. そして

auch er アウフ・エア pron 彼も

「主語」

schwie, シュヴァイク 3 単過(schweigen)v.i 黙った

「動詞」

weil ヴァイル conj. ~なので

「副詞節」

er エア pron 彼は

「主語」

weinte... ヴェインテ 3 単過(weinen)v.i 泣いていた

「動詞」

「ここだ。一人だけで、僕に一步を踏ませてね」、そう言ったけれども、彼は座り込んだ。
なぜなら、恐ろしかったから。

»Da ist es. Lass mich einen Schritt ganz allein tun.« Und er setzte sich, weil er Angst hatte.

《「補語」「動詞」「主語」 | 「動詞」「目的語」「補語」》, Und 「主語」「動詞句」, 「副詞節」

»Da ダー adv. そこ、ここ

「補語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である

「動詞」

es. エス pron それは

「主語」

Lass ラス 命・2 複現・使役(lassen)v.t ~させなさい

「動詞」

mich ミヒ pron 僕に

「目的語」

tun.« トゥン 不定詞・mich の動作 v.t する

「補語」

einen Schritt アイン・シュリット n.m 一步を

「目的語」

ganz allein ガンツ・アライン adv. 一人だけで

「副詞句」

XXVI

Und ウント conj. そして、(譲歩) ところが

er エア pron 彼は

「主語」

setzte sich, ゼッツテ・ズィット 3 単過(sich-4 setzen)v.pr 腰を下ろした

「動詞句」

weil ヲァイル conj. ～なので

「副詞節」

er エア pron 彼は

「主語」

Angst アングスト n.f.4 格 おそれ

「目的語」

hatte. ハッテ 3 単過(haben)v.t ～があった

「動詞」

彼はさらに言った：

Er sagte noch:

「主語」「動詞」「副詞」

Er エア pron 彼は

「主語」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

noch: ノッホ adv. さらに

「副詞」

「ねえ... 僕の花... 僕は、あの花に責任があるんだ！」

»Du weißt...meine Blume...ich bin für sie verantwortlich!

《「呼びかけ」 | 「目的語」 | 「主語」「動詞」「補語」》

»Du weißt... ドゥ・ウァイルスト adv. ねえ、知っているよね

「呼びかけ」

meine Blume... マイネ・ブルーメ n.f.4 格 僕の花を

「目的語」

ich イット pron 僕は

「主語」

bin ビン 1 単現(sein)v.i ～である

「動詞」

für sie フェア・ツジャー adv. (目標) あの花のために

「副詞句」

verantwortlich! フェア・アント・ウァオトリット adj. 責任のある

「補語」

「そしてあの花はまったく弱いんだ！その上、まったく純真なんだ！」

Und sie ist so schwach! Und sie ist so kindlich.

《Und 「主語」「動詞」「補語」 | Und 「主語」「動詞」「補語」》

Und ウント conj. そして

sie ジー pron あの花は

「主語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i ～である

「動詞」

so schwach! ザー・シュヴァッハ adj. まったく弱い

「補語」

Und ウント conj. そして

sie ジー pron あの花は

「主語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i ～である

「動詞」

so kindlich. ザー・キントリット adj. まったく純真な

「補語」

XXVI

「彼女には、世間から身を守るには役に立たない、4本のとげがあるだけだ」

Sie hat vier Dornen, die nicht taugen, sie gegen die Welt zu schützen...«

《「主語」「動詞」「目的語」》

Sie ジー pron あの花は

「主語」

hat ハット 3 単現(haben)v.t 〜がある、持っている

「動詞」

vier Dornen, フィア・ド・アネン pl.n.m..4 格 4本のとげを

「目的語」

die デー pron.pl (主語) 〜する

「形容詞節」

nicht taugen, ニヒト・タゲン 3 複現・否定 v.i 役に立たない

「動詞句」

zu 不定句・目的 adv. 〜するために

「副詞句」

sie ジー pron 彼女を

「目的語」

gegen ゲーゲン prep (対抗) 〜に反対して

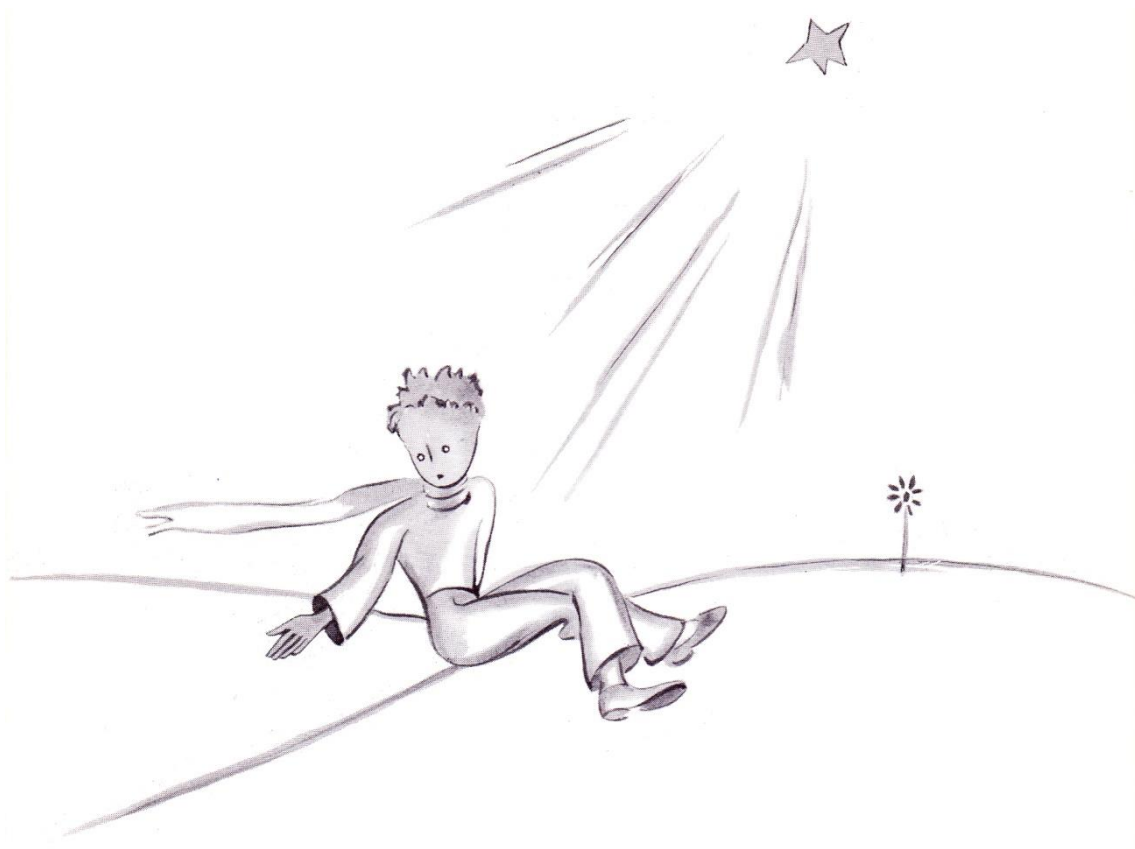
「副詞句」

die Welt デー・ヴェルト n.f.4 格 世間

「目的語」

zu schützen...« ツー・シュッツェン zu 不定詞 v.t 守る

「動詞句」



僕は腰を下ろした。これ以上、真っすぐに立っていられなかったから。

Ich setzte mich, weil ich mich nicht mehr aufrecht halten konnte.

「主語」「動詞句」「副詞節」

Ich イッヒ pron 私は

「主語」

setzte mich, ゼッツテ・ミッヒ 1 単過(sich+4 setzen)v.pr 腰を下ろした、座った

「動詞句」

XXVI

weil ウェイル conj. 〜だから 「副詞節」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 mich ...halten konnte. ミヒ...ハルテン・コンテ 1 単過・可能(können+不定詞 sich-4 halten)
 v.pr 立っていることができなかった 「動詞句」
 nicht mehr aufrecht ニヒト・メア・アフレヒト adv. もうまっすぐに〜ない 「副詞句」

彼は言った：

Er sagte: 「主語」「動詞」
 Er エア pron 彼は 「主語」
 sagte: サーケ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」

「さあ... これがすべてだ」

»Hier... Das ist alles...« 《「副詞」 | 「主語」「動詞」「補語」》
 »Hier... ヒア adv. さあ、ここに 「副詞」
 Das ダス pron これが 「主語」
 ist イスト 3 単現(sein)v.i 〜である 「動詞」
 alles...« アレス pron すべての 「補語」

彼はまた少しためらった。それから彼は立ち上がった。

Er zögerte noch ein bisschen, dann erhob er sich.
 「主語」「動詞」「副詞句」, 「副詞」「動詞句」「主語」「動詞句」
 Er エア pron 彼は 「主語」
 zögerte ツェーゲアテ 3 単過(zögern)v.i ためらった 「動詞」
 noch ノッホ adv. まだ 「副詞」
 ein bisschen, アイン・ビスヒェン pron 少し 「副詞句」
 dann ダン adv. それから 「副詞」
 erhob ...sich. エアホプ ...ズィヒ 3 単過(sich-4 erheben)v.pr 立ち上がった 「動詞句」
 er エア pron 彼は 「主語」

彼は1歩を踏み出した。僕は、身動きできなかった。

Er tat einen Schritt. Ich konnte mich nicht rühren.
 「主語」「動詞」「目的語」 | 「主語」「動詞句」
 Er エア pron 彼は 「主語」
 tat タート 3 単過(tun)v.t (動作を) した 「動詞」
 einen Schritt. アイネン・シュリット n.m.4 格 1 歩を 「目的語」
 Ich イヒ pron 僕は 「主語」

XXVI

konnte mich nicht rühren. コンテ・ミッヒ・ニヒト・リュレン 1 単過・可能・否定(sich-4 rühren)

v.pr 身動きできなかった

「動詞句」

彼のくるぶし付近で黄色い閃光が見えただけだった。

Es war nichts als ein gelber Blitz bei seinem Knöchel.

「主語」「動詞」「補語」

Es エス pron それは

「主語」

war ヲアール 3 単過(sein)v.i ~ だった

「動詞」

nichts als ニヒツ・アルス pron ただ〜だけ

「補語」

ein gelber Blitz アイン・ゲルバー・フリッツ n.m 黄色い閃光

「目的語」

bei seinem Knöchel. バイ・ザイネム・クノヒェル adv. 彼のくるぶし付近で

「副詞句」

彼は一瞬、身動きしないでいた。

Er blieb einen Augenblick reglos.

「主語」「動詞」「補語」

Er エア pron 彼は

「主語」

blieb ブリープ 3 単過(bleiben)v.i ~のままでいた

「動詞」

einen Augenblick アイネン・アウゲンブリック adv. 一瞬

「副詞句」

reglos. レークロス adj. 身動きしない

「補語」

彼は大声を出さなかった。彼は木の葉が落ちるように、静かに倒れた。

Er schrie nicht. Er fiel sachte, wie ein Blatt fällt.

「主語」「動詞句」 | 「主語」「動詞」「副詞句」

Er エア pron 彼は

「主語」

schrie nicht. シュリー・ニヒト 3 単過・否定(schreien)v.i 大声を出さなかった

「動詞句」

Er エア pron 彼は

「主語」

fiel フィール 3 単過(fallen)v.i 倒れた

「動詞」

sachte, ザハテ adv. 静かに

「副詞」

wie ヲイー conj. ~のように

「副詞節」

ein Blatt アイン・ブラット n.n 木の葉が

「主語」

fällt. フェルト 3 単現(fallen)v.i 落ちる

「動詞」

フランス語の原文では木の葉ではなく一本の樹

彼は一本の樹が倒れるように静かに倒れた。

Il tomba doucement comme tombe un arbre.

かすかな音もたてずに、彼は砂の中に倒れた。

Ohne das leiseste Geräusch fiel er in den Sand.

「副詞句」「動詞」「主語」「副詞句」

Ohne オネ prep (4 格と) (欠如) ~なしで

「副詞句」

フランス語の原文では木の葉ではなく一本の樹

XXVII

das leiseste Geräusch ダス・ライェステ・ゲロイシュ

n.n.4 格 どんな小さな物音も〜ない

「目的語」

leiseste ライェステ adj.(leise) (最高級) 最も小さい、かすかな

fiel フィール 3 単過(fallen)v.i 倒れた、落ちた

「動詞」

er エア pron 彼は

「主語」

in den Sand. イン・テン・ザント adv. 砂の中に

「副詞句」

XXVII

そして、今ではそれはもう 6 年前のことだ...

Und jetzt sind es gewiss schon wieder sechs Jahre her...

Und 「副詞」「動詞」「主語」「補語」

Und ウント conj. そして

jetzt イェツト adv. 今では

「副詞」

sind シント 3 複現(sein)v.i 〜である

「動詞」

es エス pron それは

「主語」

gewiss ゲワイス adv. きつと、多分

「副詞」

schon ...her... ショーン...ヘア adv. もう〜前に

「副詞句」

wieder ヲィダー adv. 同様に、再び、またもや

「副詞」

sechs Jahre ゼックス・ヤレ pl.n.n.1 格 6 年

「補語」

僕はこの話をまだ一度も語って聞かせたことがない。

Ich habe diese Geschichte noch nie erzählt.

「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」

Ich イット pron 僕は

「主語」

habe ...noch nie erzählt. ハーベ...ノッホ・ニー・エアツェールト 1 単現・完了形・否定(erzählen)

v.t まだ一度も語って聞かせたことがない

「動詞句」

noch ノッホ adv. まだ、いまだに nie ニー adv. 一度も〜ない、決して〜ない

diese Geschichte ディーゼ・ゲシヒテ n.f.4 格 この話を

「目的語」

僕に再会した同僚たちは、僕が生きているのを再び見て、喜んだ。

Die Kameraden, die mich wiedergesehen haben, waren froh, mich lebend wiederzusehen.

「主語」「動詞」「補語」「副詞句」

Die Kameraden, ディー・カメーデーン pl.n.m 同僚たちは

「主語」

die ディー pron.pl (主語) 〜する

「形容詞節」

mich ミット pron.4 格 僕に

「目的語」

widergesehen haben, ヲィダー・ゲ・ゼーエン・ハーベン 3 複現・完了形(wieder | sehen)

XXVII

v.t(j-4 に) 再会した	「動詞句」
waren ヲァーレン 3 複過(sein)v.i ~ だった	「動詞」
froh, フロー adj. 喜ばしい、うれしい	「補語」
zu 不定句・理由 adv. ~して	「副詞句」
mich ミッヒ pron.4 格 僕を	「目的語」
lebend レーベント adj. 生きている	「形容詞」
wiederzusehen. ヲィーダー・ツァー・ゼーエン zu 不定詞(wieder sehen)	
v.t 再び見る	「動詞句」

僕は悲しかったけれども、彼らに言っていた：まだ疲れているんだ...

Ich war traurig, aber ich sagte zu ihnen: Das ist die Erschöpfung...

「主語」「動詞」「補語」, aber 「主語」「動詞」「間接目的語」: 「主語」「動詞」「補語」	
Ich イッヒ pron 僕は	「主語」
war ヲァール 1 単過(sein)v.i ~ だった	「動詞」
traurig, トラウリヒ adj. 悲しげな	「補語」
aber アーバー conj. しかし	
ich イッヒ pron 僕は	「主語」
sagte サークテ 1 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
zu ihnen: ツァー・イーネン adv. 彼らに	「間接目的語」
Das ダス pron これは	「主語」
ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である	「動詞」
die Erschöpfung... ディー・エアシェプ・フンク n.f 疲労	「補語」

今では、いづらか元気になった。

<u>Jetzt habe ich mich ein bisschen getröstet.</u>	「副詞」「動詞句」「主語」「動詞句」
Jetzt イェツト adv. 今では	「副詞」
habe ...mich ein bisschen getröstet. ハーベ ...ミッヒ・アイン・ビッッセン・ゲトレスト	
1 単現・完了形(sich-4 trösten)v.pr いづらか元気になった	「動詞句」
sich-4 trösten スィッヒ・トレストン v.pr みずからを慰める、元気づける	
ein bisschen アイン・ビッッセン adv. 少しだけ、わずかに	
ich イッヒ pron 僕は	「主語」

XXVII

それは、まだ完全に元気ではないということだ。けれど、彼が自分の惑星に帰ったということとはよく知っている。なぜなら、夜が明けたとき、僕は彼の身体を見つけられなかったから。

Das heißt... nicht ganz. Aber ich weiß gut, er ist auf seinen Planeten zurückgekehrt, denn bei Tagesanbruch habe ich seinen Körper nicht wiedergefunden.

「主語」「動詞」「補語」 | Aber 「主語」「動詞」「副詞」「目的語」,
denn 「副詞句」「動詞句」「主語」「目的語」「動詞句」

Das ダス pron それは 「主語」
heißt... ハイスト 3 単現(heißen)v.i ~ という意味である 「動詞」
nicht ganz. ニヒト・ガンツ adj. 完全な～ない 「補語」
Aber アーバー conj. しかし
ich イヒ pron 僕は 「主語」
weiß ヴァイス 1 単現(wissen)v.t 知っている 「動詞」
gut, ゲート adv. よく 「副詞」
n. ~ということ を 「目的語」
er エア pron 彼は 「主語」
ist ...zurückgekehrt, イスト...ツリュック・ゲ・ケーアト 3 単現・完了形(zurück | kehren)
v.i (本来の場所に) 帰った 「動詞句」
auf seinen Planeten アウフ・ザイネン・プラネーテン adv. 彼の惑星に 「間接目的語」
denn テン conj. なぜならば、というのは～だから
bei Tagesanbruch ベイ・ターゲ・スアンブルフ adv. 明け方に、夜明けに 「副詞句」
habe ...nicht wiedergefunden. ハーベ...ニヒト・ヴァー・ゲ・フンデテン
1 単現・完了形・否定(wieder | finden)v.t また見つけられなかった 「動詞句」
ich イヒ pron 僕は 「主語」
seinen Körper ザイネン・ケルパー n.m 彼の身体を 「目的語」

彼の身体は、そんなに重くなかったのだ。それで僕は夜に、星たちの声を聴くのが好きだ。
星たちは、まるで 5 億の鈴みたいだ。

Es war kein so schwerer Körper... Und ich liebe es, des Nachts den Sternen zuzuhören. Sie sind wie fünfhundert Millionen Glöckchen...

「主語」「動詞」「補語」 | Und 「主語」「動詞」「目的語」 | 「主語」「動詞」「補語」
Es エス pron それは 「主語」
war ヴァール (sein)v.i ~ だった 「動詞」
kein so schwerer Körper... カイン・ゾー・シュヴァー・ケールパー
n.m.1 格 (否定) それ程重い身体～ない 「補語」
schwerer シュヴァー adj(schwer).m.1 格 重い、重量のある
Und ウント conj. そして

XXVII

ich イヒ pron 僕は	「主語」
liebe リーベ 1 単現(lieben)v.t 好む、愛する	「動詞」
es, エス pron それを (後続の zu 不定句)	「目的語」
des Nachts デス・ナツ n.m.2 格 夜に	「副詞句」
den Sternen デン・シュテアレン pl.n.m.3 格 星を	「間接目的語」
zuzuhören. ツー・ツーホーレン zu 不定詞(zu hören)v.i(et-3) 聴く	「動詞句」
Sie シー pron.pl 星たちは	「主語」
sind シント 3 複現(sein)v.i 〜である	「動詞」
wie ヴィー conj. 〜のような	「補語」
fünfhundert Millionen Glöckchen... フェンフフンダート・ミリオーネン・グレクシェン pl.n.n.1 格 5 億の鈴	「目的語」
Nacht の副詞的用法 → 男性名詞 2 格として扱う	
des Nachts n.m.2 格 夜に「副詞句」	

ところが今度は、大変なことが起こっていた。

Aber <u>nun geschieht etwas Außergewöhnliches.</u>	Aber 「副詞」「動詞」「主語」
Aber アーバー conj. しかし	
nun ヌン adv. さて今度は	「副詞」
geschieht ゲシット 3 単現(geschehen)v.i (事態が) 起こっている	「動詞」
etwas Außergewöhnliches. エトワ ^{アス} ・アウサーゲ ^ウ ォーニヒエス n.n.1 格 何か異常な事が	「主語」
außergewöhnliches アウサーゲ ^ウ ォーニヒエス adj.n.1 格 異常な、普通でない	

僕は、王子様のために描いたあの口輪に、革バンドを描くのを忘れていたのだ！

<u>Ich habe vergessen, an den Maulkorb, den ich für den kleinen Prinzen gezeichnet habe, einen Lederriemen zu machen!</u>	「主語」「動詞句」「間接目的語」「直接目的語」
Ich イヒ pron 僕は	「主語」
habe vergessen, ハーベ・フェアゲ ^ッ セン 1 単現・完了形(vergessen)v.i 忘れていた	「動詞句」
an den Maulkorb, アン・デン・マウルコ ^ル プ adv. 口輪のことを	「間接目的語」
den デン pron (目的語) 〜する	「形容詞節」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
für den kleinen Prinzen フューア・デン・クライネン・プ ^リ ンツェン adv. 王子様のために	「副詞句」
gezeichnet habe, ゲ ^ツ ァイヒネット・ハーベ 1 単現・完了形(zeichnen) v.t 描いた	「動詞句」
zu 不定句 n. 〜することを	「直接目的語」
einen Lederriemen アイネン・レーダー・リーメン n.m.4 格 革バンドを	「目的語」

Nacht の副詞的用法 → 男性名詞 2 格として扱う

XXVII

zu machen! ツー・マヘン zu 不定詞 v.t 描く

「動詞句」

王子様が羊に口輪をつけることは絶対に出来なかっただろう。

Es wird ihm nie gelungen sein, ihm dem Schaf anzulegen.

「動詞句」「間接目的語」「動詞句」, 「主語」

Es エス pron 仮の主語 (真の主語は ihm 以降)

wird ...nie gelungen sein, ヴァルト...ニエ・ゲルゲン・ザイン 3 単未・推量・否定

(werden+不定詞・完了形)v.i 決して成功しなかっただろう

「動詞句」

ihm イム pron 彼には

「間接目的語」

zu 不定詞 n. ～することは

「主語」

ihn イン pron.m.4 格 (Maulkorb の代用) それを、口輪を

「直接目的語」

dem Schaf デーム・シャーフ n.n.3 格 羊に

「間接目的語」

anzulegen. アン・ツァー・レーゲン zu 不定詞(an|legen)v.t つける

「動詞句」

そこで僕は心の中で思う: 王子様の惑星で、一体なにが起こったのだろうか? ひょっとしたら、あの羊があの花を食べてしまったのだろうか...

So frage ich mich: Was hat sich auf dem Planeten wohl ereignet? Vielleicht hat das Schaf doch die Blume gefressen...

「副詞」「動詞句」「主語」「動詞句」: 「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」

「副詞」「動詞句」「主語」「副詞」「目的語」「動詞句」

So ヴァー adv. そこで、さて

「副詞」

frage ...mich: フラーゲ...ミッヒ 1 単現(sich-4 fragen)v.pr 心の中で思う

「動詞句」

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

Was ヴァス pron 何が

「主語」

hat sich ...ereignet? ハット・ズィッヒ...エアイク・ネット 3 単現・完了形(sich-4 ereignen)

v.pr 起こった

「動詞句」

auf dem Planeten アウフ・デーム・プラーネーテン adv. 王子様の惑星で

「副詞句」

wohl ヴォール adv. 一体

「副詞」

Vielleicht ファイライヒト adv. ひょっとしたら

「副詞」

hat ...gefressen... ハット...ゲフレッセン 3 単現・完了形(fressen)v.t 食べた

「動詞句」

das Schaf ダス・シャーフ n.n あの花が

「主語」

doch ドツッホ adv. それでも

「副詞」

die Blume ディー・ブルーメ n.f.4 格 あの花を

「目的語」

XXVII

ある時は、自分の心に思い描く：

Das eine Mal sage ich mir: 「副詞句」「動詞句」「主語」「動詞句」
 Das eine Mal ダス・アイネ・マル n.n.4 格 ある時は 「副詞句」
 sage... mir: サーゲ ...ミーア 1 単現(sich-3 sagen)v.pr 心に思い描く 「動詞句」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」

“絶対そんなことはない！王子さまは、毎晩自分の花にガラスの覆いをかけて、自分の羊をよく注意して見ている”

Bestimmt nicht! Der kleine Prinz deckt seine Blume jede Nacht mit seiner Glasglocke zu, und er gibt auf sein Schaf gut acht.

“「間投」 | 「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」「動詞句」,
 und 「主語」「動詞句」「間接目的語」「副詞句」「動詞句」”

Bestimmt nicht! ベストムト・ニヒト adv. 絶対そんなことはない！ 「間投」
 Bestimmt ベストムト adv. 断固として nicht ニヒト adv. ～でない
 Der kleine Prinz デア・クライン・プリンツ n.m 王子さまは 「主語」
 deckt ...zu, テクト...ツー 3 単現(zu|decken)v.t 覆いをかける 「動詞句」
 seine Blume サイネ・ブルーメ n.m 自分の花を 「目的語」
 jede Nacht イェデ・ナハト n.f.4 格 毎晩 「副詞句」
 mit seiner Glasglocke ミット・ザイネー・グラスグロッケ adv. (手段) ガラスの覆いで 「副詞句」
 und ウント conj. そして
 er エア pron 彼は 「主語」
 gibt ...acht. キープト...アハト 3 単現(acht|geben)v.t(auf に) 注意している 「動詞句」
 auf sein Schaf アウフ・ザイン・シャーフ adv. 自分の羊に 「間接目的語」
 gut ゲート adv. よく 「副詞」

そう思うと、僕は幸せな気持ちになる。そしてすべての星が静かに笑う。

Dann bin ich glücklich. Und alle Sterne lachen leise.

「副詞」「動詞」「主語」「補語」 | Und 「主語」「動詞」「副詞」

Dann ダン adv. そうすれば 「副詞」
 bin ビン 1 単現・変化(sein)v.i ～になる 「動詞」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 glücklich. グリュックリヒ adj. 幸せな 「補語」
 Und ウント conj. そして
 alle Sterne アレ・シュテアネ pl.n.m すべての星が 「主語」
 lachen ラッヘン 3 複現 v.i 笑う 「動詞」
 leise. ライゼ adv. 静かに、かすかに 「副詞」

XXVII

それからまた、僕は思う：

Dann wieder sage ich mir:

「副詞句」「動詞句」「主語」「動詞句」

Dann ダン adv. それから

「副詞」

wieder ヴァーダー adv. また

「副詞」

sage ...mir: サーゲ ...ミー 1 単現(sich-3 sagen)v.pr 思う

「動詞句」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

“人は、1 度や 2 度はうっかりするものだ。しかし、それで十分なのだ！”

Man ist das eine oder das andere Mal zerstreut, und das genügt!

“「主語」「動詞」「補語」,und「主語」「補語」”

Man マン pron 人は

「主語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である

「動詞」

das eine oder das andere Mal ダス・アイネ・オーダー・ダス・アンデレ・マル

adv. 1 度や 2 度は

「副詞句」

Mal マル n.n 度、回

zerstreut, ツェアシュトロイト adj. うっかりした、ぼんやりした

「補語」

und ウント conj. そして

das ダス pron それは

「主語」

genügt! ゲニユクト 過去分詞(genügen)adj. 十分な

「補語」

“王子さまは、ある晩、ガラスの覆いをかけ忘れたかもしれない、または、あの羊がある
夜に、音もなく抜け出してしまったかも...”Er hat eines Abends die Glasglocke vergessen, oder das Schaf ist eines Nachts lautlos
entwichen...

“「主語」「動詞句」「副詞句」「目的語」「動詞句」,

oder「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」”

Er エア pron 彼は

「主語」

hat ...vergessen, ハット...フェアゲッセン 3 単現・完了形(vergessen)v.t 忘れた

「動詞句」

eines Abends アイネス・アーベンツ n.m.2 格 ある晩

「副詞句」

die Glasglocke デー・グラスグロッケ n.f.4 格 ガラスの覆いを

「目的語」

oder オーダー conj. それとも

das Schaf ダス・シャーフ n.n あの羊が

「主語」

ist ...entwichen... イスト...エントウィッセン 3 単現・完了形(entweichen)v.i 抜け出した

「動詞句」

eines Nachts アイネス・ナツ n.m.2 格 ある夜に

「副詞句」

lautlos ラウトロース adv. 音もなく、静かに

「副詞」

XXVII

そう考えると、すべての鈴が涙に変わってしまう...

Dann verwandeln sich die Glocken alle in Tränen!...

「副詞」「動詞句」「主語」「間接目的語」

Dann ダン adv. そうすると

「副詞」

verwandeln sich フェアウ^ンアンデルン・スィヒ 3 複現(sich-4 verwandeln)

v.pr(in et-4 に) 変わる

「動詞句」

die Glocken alle デーイー・グロッケン・アレ pl.n.f(Glocke) すべての鈴が

「主語」

in Tränen!... イン・トレーネン adv.(Träne) 涙に

「間接目的語」

それは本当に大きな神秘だ。

Das ist ein sehr großes Geheimnis.

「主語」「動詞」「補語」

Das ダス pron. それは

「主語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i. ~である

「動詞」

ein sehr großes Geheimnis. アイン・セアー・グロース・ゲハ임ニス n.n.1 格 非常に大きな神秘「補語」

王子様を愛する君たちにとって、僕にとってと同様に、この宇宙では影響を受けずにはいられる物は何もない。どこか分からないところで、僕たちの知らない羊がひょっとしてあのバラの花を食べてしまったのか、それともひょっとして食べなかったのかの結果次第だ...

Für euch, die ihr den kleinen Prinzen auch liebt, wie für mich, kann nichts auf der Welt unberührt bleiben, wenn irgendwo, man weiß nicht wo, ein Schaf, das wir nicht kennen, eine Rose vielleicht gefressen hat oder vielleicht nicht gefressen hat...

「副詞句」, 「動詞句」「主語」「副詞句」「補語」「動詞句」, 「副詞節」

Für euch, フェア^ン・オイェ adv. (関連) 君たちにとって

「副詞句」

die デーイー pron.pl (主語) ~する

「形容詞節」

ihr イアー pron.pl 君たちが

「主語」

den kleinen Prinzen デン・クライネン・プリンツェン n.m.4 格 王子様を「目的語」

auch アウフ adv. ~も、~もまた

「副詞」

liebt, リーフト 2 複現(lieben)v.t. 愛する

「動詞」

wie für mich, ヴァー・フアー・ミヒ adv. 僕にとってと同様に

「副詞句」

kann ...bleiben, カン...ブライベン 3 単現・可能・否定文(können+不定詞)

v.i. ~のままで居られない

「動詞句」

nichts ニヒツ pron. 何も~ない

「主語」

auf der Welt アウフ・デア・ヴェルト adv. この宇宙では

「副詞句」

unberührt アンバーリュート adj. 手つかずの、そのままの

「補語」

wenn ヴェン conj. ~するとき

「副詞節」

irgendwo, イルゲントヴァー adv. どこかで

「副詞」

XXVII

man マン pron 人が～する	「形容詞節」
weiß nicht ヲァイス・ニヒト 3 単現・否定(wissen)v.t 知らない	「動詞句」
wo, ヲォー adv. どこ	「副詞」
ein Schaf, アイン・シャーフ n.n ある羊が	「主語」
das ダス pron (目的語) ～する	「形容詞節」
wir ヲィーア pron 僕たちが	「主語」
nicht kennen, ニヒト・ケネン 1 複現・否定 v.t 知らない	「動詞句」
eine Rose アイン・ローゼ n.f.4 格 あのバラの花を	「目的語」
vielleicht フライヒト adv. ひょっとして	「副詞」
gefressen hat ゲフレッセン・ハット 3 単現・完了形(fressen)v.t 食べた	「動詞句」
oder オーダー conj. それとも	
vielleicht フライヒト adv. ひょっとして	「副詞」
nicht gefressen hat... ニヒト・ゲフレッセン・ハット 3 単現・完了形・否定(fressen)	
v.t 食べなかった	「動詞句」

空を見て、自分に問いかけてください：《あの羊は、あの花を食べてしまったのだろうか、それとも食べなかったのだろうか？どちらなのだろうか？》そうすれば、すべてがどれほど変わってしまうかということを、君たちは分かるだろう。

Schaut den Himmel an. Fragt euch: Hat das Schaf die Blume gefressen oder nicht? Ja oder nein? Und ihr werdet sehen, wie sich alles verwandelt...

「動詞句」「目的語」「動詞句」 | 「動詞句」:

“「動詞句」「主語」「目的語」「動詞句」「副詞句」 | 「副詞句」”

Und 「主語」「動詞句」「目的語」

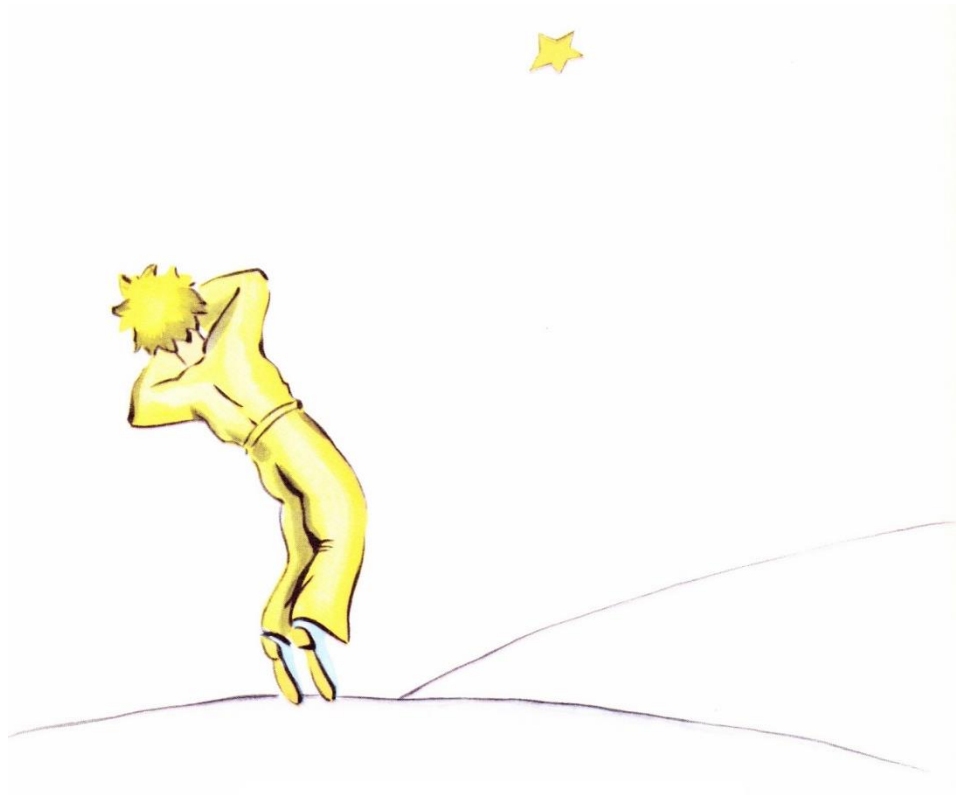
Schaut ...an. シャウト...アン 命・2 複現・依頼(an schauen)v.t 見てください	「動詞句」
den Himmel デン・ヒメル n.m.4 格 空を	「目的語」
Fragt euch: フラークト・オイヒ 命・2 複現・依頼(sich-4 fragen)v.pr 自問してください	「動詞句」
Hat ...gefressen ハット...ゲフレッセン 3 単現・完了形(fressen)v.t (動物が) 食べた	「動詞句」
das Schaf ダス・シャーフ n.n あの羊が	「主語」
die Blume ディー・ブルーメ n.f.4 格 あの花を	「目的語」
oder nicht? オーダー・ニヒト adv. それとも食べなかった	「副詞句」
Ja oder nein? ヤー・オーダー・ナイン adv. そうなのか、それとも違うのか?	「副詞句」
Und ウント conj. そして	
ihr イーア pron.pl (二人称複数親称) 君たちは	「主語」
werdet sehen, ヲェアデット・ゼーエン 2 複現・推量(werden+不定詞)v.t 分かるだろう	「動詞句」
wie ヲィー adv. どれほど～するかということ	「目的語」
sich ...verwandelt... スィットヒ...フェアヴァンデルト 3 単現(sich-4 verwandeln)	

XXVII

v.pr (すっかり) 変わる
 alles アレス pron (中性単数扱い) すべてが

「動詞句」

「主語」



しかし大人は誰も、それがこれほど重要なことだということが絶対に分からないだろう！

Aber keiner von den großen Leuten wird jemals verstehen, dass das eine so große Bedeutung hat!

Aber 「主語」「動詞句」「副詞」「動詞句」「目的語」

Aber アーバー conj. しかし

keiner カイナー pron.m.1 格 誰も～ない

「主語」

von den großen Leuten フォン・デーン・グロセン・ロイテン

adj. (所属) 大人の人たちの

「形容詞句」

wird ...verstehen, ヴィルト...フェアシュテェン 3 単未・推測(werden+不定詞)

v.t 分からないだろう

「動詞句」

jemals イェマルス adv. いつか

「副詞」

主語が否定語なので、「いつか」は「永久に～ない」の意味に変化する

dass ダス conj. ～ということを

「目的語」

das ダス pron それが

「主語」

eine so große Bedeutung アイン・ゾー・グロセ・ベドイユング

n.f.4 格 それほどの重要性を

「目的語」

hat! ハット 3 単現(haben)v.t 持っている

「動詞」

XXVII

これは僕にとって、この世で最も美しい、そして最も悲しい景色です。

Das ist für mich die schönste und traurigste Landschaft der Welt.

「主語」「動詞」「補語」

Das ダス pron これは

「主語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である

「動詞」

für mich フェア・ミッヒ adv. 僕にとって

「副詞句」

die schönste und traurigste デー・シェーンステ・ウント・トラウリヒステ

adj (最上級) .f.1 格 最も美しくて、最も悲しい

「形容詞句」

Landschaft ラントシャフト n.f.1 格 景色、風景

「補語」

der Welt. デア・ヴェルト adv. この世で

「副詞句」



これは前のページと同じ景色ですが、君たちにはっきり示すためにもう一度描きました。

Es ist die gleiche Landschaft wie auf der vorletzten Seite, aber ich habe sie nochmals hergezeichnet, um sie euch ganz deutlich zu machen.

「主語」「動詞」「補語」, aber 「主語」「動詞句」「目的語」「副詞」「動詞句」, 「副詞句」

Es エス pron それは

「主語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である

「動詞」

die gleiche デー・グラ化エ adj.f.1 格 同じ

「形容詞句」

Landschaft ラントシャフト n.f.1 格 景色、風景

「補語」

wie ヴァー conj. (比較) ~のような

「副詞句」

auf der vorletzten Seite, アウフ・デア・フォアレツテン・ツァイテ

XXVII

adv. 前のページにある	「副詞句」
vorletzt フォアレツト adj. 終わりから 2 番目の、前の前の	
aber アーバー conj. しかし	
ich イヒ pron 僕は	「主語」
habe ...hergezeichnet, ハーベ ...ヘア・ゲ・ツァイネット 1 単現・完了形(her zeichnen)	
v.t スケッチした	「動詞句」
sie シー pron (Landschaft の代用) 景色を	「目的語」
nochmals ノッホマルス adv. もう一度	「副詞」
um ...zu machen. ウム...ツァー・マヘン zu 不定句・目的 adv. ～にするために	「副詞句」
sie シー pron 景色を	「直接目的語」
euch オイェ pron 君たちに	「間接目的語」
ganz deutlich ガンツ・ドイトリヒ adj. はっきりとした	「補語」

この場所で、王子さまは地上に現れ、それから消えたのです。

Hier ist der kleine Prinz auf der Erde erschienen und wieder verschwunden.

「副詞」「動詞句」「主語」「副詞句」「動詞句」

Hier ヒア adv. ここで 「副詞」

ist ...erschienen und wieder verschwunden. イスト...エアシーネン・ウント・ウァー・ダー・フェアシュヴァンデ
3 単現・完了形(erscheinen / verschwinden+ wieder)

v.i 現れて、それから消えた 「動詞句」

der kleine Prinz デア・クライネ・プリンツ n.m 王子様が 「主語」

auf der Erde アウフ・デア・エアデ adv. 地上に 「副詞句」

この景色をしっかりと目に焼き付けてください。いつか君たちがアフリカの砂漠を旅行する時に、確かにここだと分かるためです。

Schaut diese Landschaft genau an, damit ihr sie sicher wiedererkennt, wenn ihr eines Tages durch die afrikanische Wüste reist.

「動詞句」「目的語」「副詞」「動詞句」, 「副詞節」

Schaut ...an, シャウト...アン 命・3 単現(an | schauen)v.t じっと見てください 「動詞句」

diese Landschaft ディーゼ・ラントシャフト n.f.4 格 この景色を 「目的語」

genau ゲナウ adv. しっかりと、厳密に 「副詞」

damit ダミット conj. ～するために 「副詞節」

ihr イア pron.pl.1 格 (二人称親称) 君たちが 「主語」

sie シー pron.f.4 格 その景色が 「目的語」

sicher スィットヒャー adv. 確かに 「副詞」

wiedererkennt, ウァー・ダー・エアケント 2 複現(wieder | erkennen)

XXVII

v.t それだと分かる	「動詞句」
wenn ウェン conj. ～する時に	「副詞節」
ihr イア pron.pl.1 格 (二人称親称) 君たちが	「主語」
eines Tages アイネス・ターゲス n.m.2 格 いつか、ある日に	「副詞句」
durch ドゥルヒ prep (4 格と) (空間的) ～を通して	「副詞句」
die afrikanische Wüste デーイー・アフリカーニッシェ・ヴェーステ	
n.f.4 格 アフリカの砂漠を	「目的語」
reist. ライスト 2 複現(reisen)v.i 旅行する	「動詞」

そして、たまたま君たちがここを通りかかったら、ぜひ君たちにお願いします:《少しだけ、この星の真下で待ってください!》

Und wenn ihr zufällig da vorbeikommt, eilt nicht weiter, ich flehe euch an - wartet ein bisschen, gerade unter dem Stern!

Und 「副詞節」, 「動詞句」 「副詞」, 「主語」 「動詞句」 「間接目的語」 「動詞句」
 《「動詞」 「副詞句」》

Und ウント conj. そして	
wenn ウェン conj. ～する時に	「副詞節」
ihr イア pron.pl.1 格 (二人称親称) 君たちが	「主語」
zufällig ツーフェリッヒ adv. 偶然、たまたま	「副詞」
da ダー adv. そこを	「副詞」
vorbeikommt, フォアバイ・コムト 2 複現(vorbei kommen)	
v.i(an et・3 の傍らを) 通りかかる	「動詞句」
eilt nicht アイルト・ニヒト 命・3 単現・否定(eilen)v.i 急がないでください	「動詞句」
weiter, ヴァイター adv. これ以上	「副詞」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
flehe ...an フレーエ...アン 1 単現(an flehen)v.t 懇願する	「動詞句」
euch オヒ pron.3 格 君たちに	「間接目的語」
- wartet ヴァアルテット 命・3 単現(warten)v.i 待ってください	「動詞」
ein bisschen, アイン・ビッシェン adv. 少しだけ	「副詞句」
gerade ゲラーテ adv. ちょうど	「副詞」
unter ウンター prep (3 格と) (空間的) ～の下で	「副詞句」
dem Stern! テーム・シュェアン n.m.3 格 この星の	「目的語」

XXVII

もしその時、1 人の子供が君たちのほうへ近づいて来て、笑っていたり、金髪だったり、質問をしても答えなかったりしたら、その時は、君たちは彼が誰か分かるだろう。

Wenn dann ein Kind auf euch zukommt, wenn es lacht, wenn es goldenes Haar hat, wenn es nicht antwortet, so man es fragt, dann werdet ihr wohl erraten, wer es ist.

「副詞節」, 「副詞」 「動詞句」 「主語」 「副詞」 「目的語」

Wenn ウェン conj. もしも～ならば 「副詞節」

dann ダン adv. その時に 「副詞」

ein Kind アイン・キント n.n 1 人の子供が 「主語」

auf euch アウフ・オイヒ adv. 君たちのほうへ 「副詞句」

zukommt, ツー・コムト 3 単現(zu | kommen)v.i 近寄って来る 「動詞句」

wenn ウェン conj. もしも～ならば 「副詞節」

es エス pron 彼が 「主語」

lacht, ラハト 3 単現(lachen)v.i 笑っている 「動詞」

wenn ウェン conj. もしも～ならば 「副詞節」

es エス pron 彼が 「主語」

goldenes Haar ゴルデネス・ハール n.n.4 格 金髪を 「目的語」

hat, ハット 3 単現(haben)v.t (身体的特徴) ～をしている 「動詞」

wenn ウェン conj. もしも～ならば 「副詞節」

es エス pron 彼が 「主語」

nicht antwortet, ニヒト・アントワグ わテット 3 単現・否定(antworten)v.i 答えない 「動詞句」

soゾー conj. もし～するときに 「副詞節」

man マン pron 人が 「主語」

es エス pron 彼に 「間接目的語」

fragt, フラークト 3 単現(fragen)v.t 尋ねる 「動詞」

dann ダン adv. その時には 「副詞」

werdet ...erraten, ウェアデト...エアーテン 2 複現・推量(werden+不定詞)

v.t 言い当てられるだろう、分かるだろう 「動詞句」

ihr イア pron.pl 君たちは 「主語」

wohl ウォール adv. 確かに 「副詞」

wer es ist. ウェア・エス・イスト n. 彼が誰であるかということを 「目的語」

XXVII

その時は、親切にしてください。そして僕をこれ以上悲しませないでください：すぐ僕に手紙を書いてください。もし彼がそこに戻ったのなら...

Dann seid so gut und lasst mich nicht weiter so traurig sein: schreibt mir schnell, wenn er wieder da ist...

「副詞」「動詞」「補語」 und 「動詞」「目的語」「補語」:
「動詞」「間接目的語」「副詞」, 「副詞節」

Dann ダン adv. その時は 「副詞」
 seid ザイト 命・3 単現(sein)v.i ~でいてください 「動詞」
 so gut ザー・グート adj. とても親切な 「補語」
 und ウント conj. そして
 lasst ラスト 命・3 単現・使役(lassen)v.t ~させてください 「動詞」
 mich ミット pron 僕を 「目的語」
 nicht weiter so traurig ニヒト・ヴァイター・ゾー・トラウリヒ
 adj. もうこれ以上悲しい~ない 「補語」
 sein: ザイン 不定詞・mich の動作 v.i ~でいる 「補語」
 schreibt シュライプト 命・3 単現(schreiben)v.t 書いてください 「動詞」
 mir ミーア pron 僕に 「間接目的語」
 schnell, シュネル adv. すぐに 「副詞」
 wenn ヲエン conj. (条件) もし~ならば 「副詞節」
 er エア pron 彼が 「主語」
 wieder da ヲィーダー・ダー adv. またそこに 「副詞句」
 ist... イスト 3 単現(sein)v.i (存在) ~がいる 「動詞」

ドイツ語 星の王子様

Der kleine Prinz

Antoine de Saint-Exupéry

終わり

終わり